



ユーザーガイド

AWS 請求



Version 2.0

Copyright © 2026 Amazon Web Services, Inc. and/or its affiliates. All rights reserved.

AWS 請求: ユーザーガイド

Copyright © 2026 Amazon Web Services, Inc. and/or its affiliates. All rights reserved.

Amazon の商標とトレードドレスは、Amazon 以外の製品またはサービスとの関連において、顧客に混乱を招いたり、Amazon の名誉または信用を毀損するような方法で使用することはできません。Amazon が所有していないその他のすべての商標は Amazon との提携、関連、支援関係の有無にかかわらず、それら該当する所有者の資産です。

Table of Contents

とは AWS Billing and Cost Management	1
の機能 AWS Billing and Cost Management	1
請求と支払い	1
コスト分析	2
コストの整理	2
予算編成と計画	3
コスト削減とコミットメント	3
関連サービス	3
AWS Billing Conductor	3
IAM	4
AWS Organizations	5
請求転送	5
AWS 料金表 API	5
Billing の設定	7
請求機能の詳細	11
次のステップ	12
AWS コスト管理機能を使用して支出を最適化する	12
請求情報とコスト管理 API を使用する	12
詳細情報	12
ヘルプの表示	12
税金情報の設定	12
納税者番号の更新と削除	13
税設定の継承をオンにする	14
米国の免税を管理する	15
Tax Settings API を使用するように Amazon S3 を設定する	16
Billing 設定のカスタマイズ	20
請求書の送付設定	21
アラートの設定	22
調達ポータル設定	23
クレジット共有の設定	25
Savings Plans とリザーブドインスタンスの割引共有設定	26
請求明細レポート (従来)	30
AWS 支払い設定のカスタマイズ	31
支払い方法の表示	32

デフォルトの支払い方法を指定する	32
支払い方法の削除	33
請求の支払い通貨の変更	33
追加の請求連絡先 E メールアドレスの設定	34
インドでの請求について設定する	34
AWS インドにサインアップする	35
AWS India アカウントの管理	35
AWS インドとの間で登録販売者を変更する	37
登録販売者の検索	39
現在の SOR	40
関連リソース	42
毎月の請求のベストプラクティスを確認する	42
発注書の残高と有効期限を確認する	43
税金の設定を確認する	44
税金設定の継承を有効にする	44
請求連絡先情報を更新する	45
支払い通貨を確認する	46
請求書と支払いに関するサポートを受ける	47
AWS ナレッジセンター	47
へのお問い合わせ サポート	47
請求対象の使用状況の確認	48
無料利用枠の使用量のモニタリング	49
の閉鎖 AWS アカウント	49
コンソールのホームページを使用する	50
Billing and Cost Management ウィジェットの管理	50
コスト概要	51
コストモニター	52
コストの内訳	53
推奨されるアクション	53
コスト配分カバレッジ	54
コスト削減の機会	55
トップトレンド	56
請求ダッシュボードを理解する	57
Billing および Cost Explorer データの違いを知る	59
請求データ	60
Cost Explorer データ	60

償却コスト	60
AWS のサービス グループ化	61
当月の推定請求額	61
Rounding	61
割引、クレジット、返金、税金の表示	61
請求について	63
月額料金を表示する	63
[請求] ページで月額料金と請求書の内容を確認する	64
請求書の PDF をダウンロードする	67
月別レポートをダウンロードする	69
AWS 請求書の表示と修正	70
予期しない請求について	71
使用量が を超えています AWS 無料利用枠	73
アカウント閉鎖後に受け取った請求	73
でリソースがオフになっている AWS リージョン 場合に発生する料金	74
他のサービスによって起動されたサービスによって発生する料金	75
Amazon EC2 インスタンスによって発生する料金	75
Amazon Elastic Block Store ボリュームとスナップショットによって発生する料金	76
Elastic IP アドレスによって発生する料金	78
ストレージサービスによって発生する料金	78
請求転送を使用する AWS Organizations に対して発生する料金	78
へのお問い合わせ サポート	78
支払いの管理	79
タグを使用して支払いアクセスを管理する	80
支払い	81
部分的な支払い	83
バックアップの支払い方法の使用	85
残りの請求書、未適用の資金、支払い履歴を表示する	86
支払い検証の管理	88
検証のベストプラクティス	89
支払いの検証	89
支払いの検証のトラブルシューティング	90
AWS Organizations	90
サブスクリプションの購入	90
クレジットカードと ACH 口座振替の管理	91
クレジットカードの追加	91

クレジットカードを更新する	92
未確認のクレジットカードのトラブルシューティング	92
クレジットカードを削除する	93
ACH 銀行引き落としによる支払い方法を管理する	93
事前支払いの使用	96
事前支払いを登録する	97
事前支払いへ資金を追加する	97
中国人民元での支払い	99
新しい中国銀行リダイレクト支払いの利用	99
中国人民元クレジットカードの使用	102
PIX を使用した支払い (ブラジル)	105
インドでの支払いの管理	106
サポートされている支払い方法	107
クレジットカードまたはデビットカードを使って支払う	107
クレジットカードまたはデビットカードの詳細情報を保存する	108
支払い時にカードの詳細情報を追加する	108
クレジットカードまたはデビットカードを削除する	109
ネットバンキングアカウントの追加	109
ネットバンキング口座を使って支払う	110
ネットバンキングアカウントの削除	111
Unified Payments Interface (UPI) を使用して支払いを行う	111
Unified Payments Interface (UPI) を使用した自動支払いを設定する	113
クレジットカードまたはデビットカードで自動支払いを設定する	114
自動支払いについて	116
AWS Marketplace または AWS サブスクリプションの支払い	116
クレジットカード/デビットカードまたは Unified Payments Interface (UPI) の自動支払いを キャンセルする	116
AWS インド以外の請求書の支払い	118
India AWS 請求書の対象となるクレジットカードまたはデビットカードの表示	119
AWS 欧州での支払いの管理	120
AWS 欧州のクレジットカード支払い方法の管理	121
AWS 欧州のクレジットカード支払い検証の管理	122
SEPA 口座振替の支払い方法の管理	124
Bacs 口座振替支払い方法の管理	128
AWS Financing を使用して分割払いで請求書を支払う	131
融資の開始	131

AWS 金融への申請	132
AWS 金融による支払い	133
財務と使用状況の監視	134
支払いプロファイルの使用	134
支払いプロファイルの作成	135
支払いプロファイルの編集	139
支払いプロファイルの削除	139
AWS クレジットの適用	141
ステップ 1: 適用するクレジットを選択する	142
ステップ 2: クレジット適用先を選択する	143
ステップ 3: 複数のアカウントに AWS クレジットを適用する	144
ステップ 4: AWS クレジットを共有する	145
クレジット共有設定	145
請求書設定のカスタマイズ	147
重要ポイント	148
IAM アクセス許可	148
クォータ	148
請求ユニットの作成	149
トラブルシューティング	151
請求ユニットの更新	152
トラブルシューティング	153
請求ユニットの削除	153
トラブルシューティング	154
請求ユニットの表示	154
スナップショット履歴の表示	155
他のサービスでの請求書設定の使用	155
請求ユニットへの発注書の関連付け	155
AWS Cost Explorerでのコストの視覚化	156
発注書を管理する	157
発注書設定をセットアップする	159
発注書を追加する	161
発注書を編集する	163
発注書を削除する	166
発注書を表示する	166
発注書の詳細ページを読む	167
発注所の通知を有効にする	169

タグを使用して発注書へのアクセスを管理する	169
AWS のサービス で を試す AWS 無料利用枠	172
の開始方法 AWS 無料利用枠	173
その他の AWS 無料利用枠 リソース	173
AWS 無料利用枠 プランの選択	173
追加クレジットの獲得	175
Amazon EC2 を使用してインスタンスを起動する	176
Amazon Bedrock プレイグラウンドで基盤モデルを使用する	176
を使用してコスト予算を設定する AWS Budgets	177
を使用してウェブアプリを作成する AWS Lambda	177
Amazon RDS データベースを作成する	177
使用状況を追跡	178
AWS 無料利用枠 使用状況アラートの使用	179
無料利用枠の推奨アクション	181
追跡可能な AWS 無料利用枠 サービス	181
を使用してサービスを試す AWS 無料利用枠 (2025 年 7 月 15 日より前)	216
の使用資格の確認 AWS 無料利用枠	217
無料利用枠後の予期しない請求額の回避	218
無料利用枠 API を使用する	219
カーボンフットプリントの表示	222
Customer Carbon Footprint Tool (CCFT) の使用を開始する	222
IAM ポリシー	223
AWS Organizations ユーザー	223
CCFT を理解する	223
炭素排出量データのダウンロード	225
エネルギー使用量の計算	226
炭素排出量の推定の理解	227
リージョン、使用状況、および請求データの考慮要素	228
Customer Carbon Footprint Tool と Amazon のカーボンフットプリントレポート	229
システム境界	229
入力データ	230
配分アプローチ	233
コスト AWS Cost Categoriesの整理	235
サポートされているディメンション	238
サポートされているオペレーション	239
サポートされているルールの種類	240

デフォルトの値	240
ステータス	241
クォータ	241
用語の比較	241
コストカテゴリを作成する	242
コストプレビューパネルについて	246
コストカテゴリのタグ付け	247
コストカテゴリを表示する	247
コストカテゴリの詳細ページへ移動する	248
コストカテゴリの詳細ページを理解する	248
コストカテゴリの過去 1 か月の分類	248
コストタイプを変更する	248
コストカテゴリ値のダウンロード	249
コストカテゴリを編集する	250
コストカテゴリを削除する	250
コストカテゴリ内で料金を分割する	251
前提条件	251
分割料金のベストプラクティスを理解する	252
他の サービスでのコストカテゴリの使用	253
リソースの関連付けの設定	253
リソース関連のコストカテゴリの管理	253
関連するコストカテゴリの作成と編集	253
関連するコストカテゴリの表示	253
関連するコストカテゴリの削除	254
コスト配分タグを使用した AWS コストの整理と追跡	255
AWS生成されたタグの使用	257
AWS Marketplace ベンダー提供のタグ	262
AWS生成されたタグのコスト配分タグの制限	263
AWS生成されたタグのコスト配分タグのアクティブ化	263
AWS生成されたタグのコスト配分タグの無効化	264
ユーザー定義のコスト配分タグの使用	264
ユーザー定義のコスト配分タグの適用	265
ユーザー定義タグの制限	266
ユーザー定義のコスト配分タグのアクティブ化	267
コスト配分にユーザー属性を使用する	268
概要:	268

ユーザーベースのコスト配分の仕組み	268
主な利点	268
前提条件	268
コスト配分用のユーザー属性の設定	269
コストと使用状況レポートでのユーザー属性の表示	270
コスト配分にアカウントタグを使用する	270
概要:	270
アカウントベースのコスト配分の仕組み	270
主な利点	270
前提条件	271
コスト配分用のアカウントタグの設定	271
コストと使用状況レポートでのアカウントタグの表示	272
バックフィルコスト配分タグ	272
バックフィルによる AWS コスト管理サービスの更新	273
毎月のコスト配分レポートの使用	273
月別コスト配分レポートの設定	274
時間別コスト配分レポートの取得	275
コスト配分レポートの表示	276
コスト配分タグの日付を理解する	277
を使用して AWS のサービス と を呼び出す AWS の料金表	279
概要:	279
の開始方法 AWS の料金表	281
IAM アクセス許可	281
エンドポイント	281
クォータ	282
サービスおよび製品の検索	282
料金表ファイルの取得	288
料金表ファイルの取得	288
料金表ファイルの手動取得	293
料金表ファイルの読み取り	298
サービス料金表ファイルでの料金の確認	322
料金更新通知の設定	326
Amazon SNS 通知の設定	327
の通知構造 AWS のサービス	328
Savings Plans の通知の構造	330
請求転送	333

用語と概念	333
考慮事項	334
重要な影響	335
仕組み	337
2 レベルの請求転送	339
関連サービス	341
主な利点	343
この新規ユーザーに招待を送信しますか。	343
考慮事項	343
この新規ユーザーに招待を送信しますか。	343
招待を表示する	346
ステータス	346
招待を表示する	347
招待をキャンセルする	349
招待をキャンセルする	349
招待に応答する	351
考慮事項	351
招待に応答する	351
転送を表示する	353
ステータス	353
転送を表示する	353
転送を更新する	355
転送を更新する	355
転送の取り消し	357
考慮事項	357
転送の取り消し	357
請求情報とコスト管理データの表示	360
クォータ	362
最大値	362
ベストプラクティス	363
請求転送前に請求データをバックアップする	364
前提条件	364
請求転送の取り消し	371
の請求の統合 AWS Organizations	373
一括請求 (コンソリデेटッドビルディング) の処理	374
EMEA AWS での一括請求	375

統合期間	376
対象サービス	376
通貨と外国為替レート	376
への変更 AWS Cost and Usage Report	377
一括請求機能の無効化	377
India での一括請求 (コンソリデेटィッドビルング)	377
India アカウントのマルチ SOR AWS 組織の有効化	377
リンクされた AWS India アカウントの SOR への影響を理解する	378
請求発効日、アカウントアクティビティ、数量割引	378
請求およびアカウントアクティビティ	378
従量制割引	378
リザーブドインスタンス	380
特定のサービスの請求例	380
リザーブドインスタンスと Savings Plans の割引共有	383
一括請求について	387
一括請求の計算方法	388
料金階層	388
リザーブドインスタンス	393
積立プラン	394
ブレンドレートとコスト	395
短いバージョンの PDF 請求書のリクエスト	398
組織のサポート料金	400
セキュリティ	401
データ保護	402
Identity and Access Management	403
ユーザータイプと請求に対するアクセス許可	403
アクセス管理の概要	405
オーディエンス	403
アイデンティティを使用した認証	408
ポリシーを使用したアクセスの管理	410
Billing と IAM の AWS 連携方法	411
請求を含むアイデンティティベースのポリシー	417
AWS 請求ポリシーの例	434
アクセス制御を移行します	461
AWS マネージドポリシー	533
トラブルシューティング	547

サービスにリンクされたロールの使用	550
のサービスにリンクされたロールのアクセス許可 AWS Billing	551
のサービスにリンクされたロールの作成 AWS Billing	551
のサービスにリンクされたロールの編集 AWS Billing	552
のサービスにリンクされたロールの削除 AWS Billing	552
AWS Billing サービスにリンクされたロールでサポートされているリージョン	552
ログ記録とモニタリング	552
AWS コストと使用状況レポート	552
AWS CloudTrail	553
CloudTrail による API コールのログ記録	553
コンプライアンス検証	572
耐障害性	573
インフラストラクチャセキュリティ	573
AWS PrivateLink	574
クォータと制限	577
コストカテゴリ	577
発注書	578
事前支払い	579
コスト配分タグ	579
AWS の料金表	580
一括ポリシーマイグレーター	581
支払い方法	581
AWS 請求書設定	582
ドキュメント履歴	583
.....	dciii

とは AWS Billing and Cost Management

AWS 請求ユーザーガイドへようこそ。

AWS Billing and Cost Management には、請求の設定、請求書の取得と支払い、コストの分析、整理、計画、最適化に役立つ一連の機能が用意されています。

使用を開始するには、要件に合った請求を設定します。個人または小規模な組織の場合、AWS は提供されたクレジットカードに自動的に請求します。

大規模な組織では、AWS Organizations を使用して複数の の料金を統合できます AWS アカウント。その後、請求書、税金、発注書、支払い方法を組織の調達プロセスに合わせて設定できます。

複数の がある場合は AWS Organizations、請求転送を使用して、単一のアカウントからすべての組織を一元管理して支払います。

コストカテゴリまたはコスト配分タグを使用するか、AWS Cost Explorerを使用して、チーム、アプリケーション、または環境にコストを割り当てることができます。また、お好みのデータウェアハウスやビジネスインテリジェンスツールにデータをエクスポートすることもできます。

クラウドの予算管理に役立つ機能の概要について説明します。

の機能 AWS Billing and Cost Management

トピック

- [請求と支払い](#)
- [コスト分析](#)
- [コストの整理](#)
- [予算編成と計画](#)
- [コスト削減とコミットメント](#)

請求と支払い

毎月の料金の把握、請求書の表示と支払い、請求、請求書、税金、支払いの設定を管理できます。

- [請求] ページ — 請求書のダウンロードや、詳細な月次請求データの確認により、請求額の計算方法を把握できます。

- [発注書] — 組織独自の調達プロセスに準拠する発注書を作成および管理します。
- [支払い] — 未払いまたは支払期日を過ぎた支払い残高と支払い履歴を把握できます。
- 支払いプロファイル — さまざまな AWS のサービス プロバイダーまたは組織の一部に複数の支払い方法を設定します。
- [クレジット] — クレジット残高を確認し、クレジットの適用先を選択します。
- [請求設定] — 電子メールによる請求書の配信と、クレジット共有、アラート、割引共有の設定を有効にします。
- 請求転送 — 請求と財務管理をセキュリティとガバナンスの管理から分離します。これにより、1 つの AWS 組織が複数の AWS 組織でコストデータと AWS 請求書に一元的にアクセスできます。

コスト分析

コストを分析し、詳細なコストと使用状況データをエクスポートして、支出を予測します。

- AWS Cost Explorer — コストと使用状況のデータを、ビジュアル、フィルタリング、グループ化で分析できます。コストを予測し、カスタムレポートを作成できます。
- [データエクスポート] — Billing and Cost Management データセットからカスタムデータエクスポートを作成します。
- コスト異常検出 — がコスト異常 AWS を検出したときに自動アラートを設定し、予期しないコストを削減します。
- AWS 無料利用枠 — 無料利用枠サービスの現在の使用状況と予測使用状況を監視して、予期しないコストが発生しないようにします。
- [コスト配分データの分割] — 共有の Amazon Elastic Container Service (Amazon ECS) リソースの詳細なコストと使用状況データを有効にします。
- [コスト管理設定] — メンバーアカウントが表示できるデータの管理、アカウントデータの粒度の変更、コスト最適化設定の構成を行います。

コストの整理

チーム、アプリケーション、エンドカスタマー全体のコストを整理できます。

- [コストカテゴリ] — チーム、アプリケーション、または環境にコストをマッピングし、Cost Explorer とデータエクスポートでこれらのディメンションに沿ってコストを表示します。共有コストを配分する分割料金ルールを定義します。

- [コスト配分タグ] — リソースタグを使用してコストを整理し、Cost Explorer とデータエクスポートでコスト配分タグごとに表示します。

予算編成と計画

計画されたワークロードのコストを見積もり、コストを追跡および管理するための予算を作成します。

- [予算] — コストと使用量のカスタム予算を設定して組織全体のコストを管理します。また、コストが定義したしきい値を超えるとアラートを受信します。
- [コンソール内の料金見積りツール] — この機能を使用して、割引や購入契約を用いた計画クラウドコストの見積もりを行います。
- パブリック料金計算ツールウェブサイト — オンデマンド料金で AWS のサービスを使用するためのコスト見積もりを作成します。

コスト削減とコミットメント

リソースの使用量を最適化し、柔軟な価格設定モデルを使用して請求額を削減します。

- AWS Cost Optimization Hub - 未使用リソースの削除、サイズの適正化、Savings Plans、予約など、カスタマイズされた推奨事項に基づいて節約の機会を特定します。
- [Savings Plans] — 柔軟な価格設定モデルにより、オンデマンド料金に比べて請求額を削減できます。Savings Plans 在庫を管理し、購入推奨事項を確認して、購入分析や、Savings Plans の利用状況とカバレッジの分析を行います。
- [予約] — Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2)、Amazon Relational Database Service (Amazon RDS)、Amazon Redshift、Amazon DynamoDB などのキャパシティを、割引を適用して予約します。

関連サービス

AWS Billing Conductor

Billing Conductor は、クラウドサービスを直接購入する AWS パートナーの再販 AWS のサービス、ソリューション、および AWS 顧客のショーバックおよびチャージバックワークフローをサポートするカスタム請求サービスです AWS。毎月の請求データの代替バージョンをカスタマイズできます。このサービスは、お客様とその顧客またはビジネスユニット間の請求関係をモデル化します。

Billing Conductor は、AWS 毎月の請求方法を変更しません。代わりに、このサービスを使用して、特定の請求期間における特定の顧客に対する料金を設定、生成、表示できます。また、これを使用して、グループに適用するレートと、同じアカウントの実際のレートとの差異を分析できます AWS。

Billing Conductor の設定の結果として、管理アカウントは[AWS Billing and Cost Management コンソール](#)の請求詳細ページに適用されるカスタムレートを確認することもできます。管理アカウントは、請求グループごとに AWS コストと使用状況レポートを設定することもできます。

請求転送ユーザーが請求転送アカウントにサインインすると、Billing Conductor は、請求を転送する AWS 組織の管理アカウント (請求ソースアカウント) が、請求転送アカウントの料金で設定された使用量のみを表示できるようにします。

Billing Conductor の詳細については、「[AWS Billing Conductor ユーザーガイド](#)」を参照してください。請求転送の詳細については、「[外部アカウントへの請求管理の転送](#)」を参照してください。

IAM

AWS Identity and Access Management (IAM) を使用して、アカウントまたは組織の誰が請求情報とコスト管理コンソールの特定のページにアクセスできるかを制御できます。例えば、請求書や、料金、アカウントアクティビティ、予算、支払い方法、クレジットに関する詳細情報へのアクセスを制御できます。IAM は の機能です AWS アカウント。IAM へのサインアップに必要な作業はありません。また、使用しても料金は発生しません。

アカウントを作成するときは、アカウント内のすべての AWS のサービス およびリソースへの完全なアクセス権を持つ 1 つのサインインアイデンティティから始めます。この ID は と呼ばれ AWS アカウントのルートユーザー、アカウントの作成に使用した E メールアドレスとパスワードでサインインすることでアクセスできます。日常的なタスクには、ルートユーザーを使用しないことを強くお勧めします。ルートユーザー資格情報は保護し、ルートユーザーでしか実行できないタスクを実行するときに使用します。

ルートユーザーとしてサインインする必要があるタスクの完全なリストについては、「IAM ユーザーガイド」の「[ルートユーザー認証情報が必要なタスク](#)」を参照してください。

デフォルトでは、アカウント内の IAM ユーザーおよびロールは、Billing and Cost Management コンソールにアクセスできません。アクセスを許可するには、[IAM アクセスをアクティブ化] 設定を有効にします。詳細については、「[About IAM Access](#)」を参照してください。

AWS アカウント 組織に複数の がある場合は、コスト管理の設定ページを使用して、Cost Explorer データへのリンクされたアカウントアクセスを管理できます。詳細については、「[Cost Explorer へのアクセスの管理](#)」を参照してください。

IAM の詳細については、「[IAM ユーザーガイド](#)」を参照してください。

AWS Organizations

組織の一括請求機能を使用して、複数の AWS アカウントの請求と支払いを統合できます。組織ごとに、すべてのメンバーアカウントの使用料金を支払う管理アカウントがあります。

一括請求には次の利点があります。

- 1 つの請求書 – 複数のアカウントに対して 1 つの請求書を受け取るだけで済みます。
- 簡単な追跡 – 複数のアカウントでの料金を追跡し、コストと使用状況の統合データをダウンロードできます。
- 使用状況の結合 – 組織内のアカウントすべての使用量を結合し、料金のボリューム割引、リザーブドインスタンスの割引、および Savings Plans を共有できます。その結果、会社、部門、またはプロジェクトでの料金が個々のスタンドアロンアカウントと比較して低くなります。詳細については、「[従量制割引](#)」を参照してください。
- [追加料金なし] – 一括請求は追加コストなしで提供されます。

組織の詳細については、[AWS Organizations ユーザーガイド](#)を参照してください。

請求転送

請求転送を使用すると、1 つのアカウント AWS Organizations から複数の を一元管理して支払うことができます。

請求転送により、管理アカウントは、一括請求を管理および支払う外部管理アカウントを指定できます。これにより、セキュリティ管理の自律性を維持しながら、請求が一元化されます。請求転送を設定するには、外部アカウント (請求転送アカウント) が管理アカウント (請求ソースアカウント) に請求転送の招待を送信します。招待が承諾されると、外部アカウントが請求書転送アカウントになります。その後、請求書転送アカウントは、招待で指定された日付から、請求書ソースアカウントの一括請求書を管理して支払います。

詳細については、「[外部アカウントへの請求管理の移管](#)」を参照してください。

AWS 料金表 API

AWS Price List API は、AWS サービス、製品、料金情報をプログラムでクエリできる一元化されたカタログです。一括 API を使用して、JSON 形式と CSV 形式の両方で利用可能な up-to-date AWS サービス情報を一括で取得できます。

詳細については、[AWS「料金表 API とは」](#)を参照してください。

Billing の設定

このセクションを使用して、AWS Billing and Cost Management コンソールの使用を開始します。前提条件には AWS、へのサインアップ、IAM ユーザーの設定、AWS 請求書の確認が含まれます。

トピック

- [請求機能の詳細](#)
- [次のステップ](#)
- [税金情報の設定](#)
- [Billing 設定のカスタマイズ](#)
- [AWS 支払い設定のカスタマイズ](#)
- [インドでの請求について設定する](#)
- [登録販売者の検索](#)
- [毎月の請求のベストプラクティスを確認する](#)

ステップ 1: (前提条件) にサインアップ AWS して IAM ユーザーを作成する

を初めて使用する場合は AWS、AWS アカウントを作成します。詳細については、[「の開始方法 AWS」](#) を参照してください。

にサインアップする AWS アカウント

がない場合は AWS アカウント、次の手順を実行して作成します。

にサインアップするには AWS アカウント

1. <https://portal.aws.amazon.com/billing/signup> を開きます。
2. オンラインの手順に従います。

サインアップ手順の一環として、電話またはテキストメッセージを受け取り、電話キーパッドで検証コードを入力します。

にサインアップすると AWS アカウント、AWS アカウントのルートユーザー が作成されます。ルートユーザーには、アカウントのすべての AWS のサービス とリソースへのアクセス権があります。セキュリティベストプラクティスとして、ユーザーに管理アクセス権を割り当て、[ルー](#)

トユーザーアクセスが必要なタスクの実行にはルートユーザーのみを使用するようにしてください。

AWS サインアッププロセスが完了すると、 から確認メールが送信されます。<https://aws.amazon.com/> の [マイアカウント] をクリックして、いつでもアカウントの現在のアクティビティを表示し、アカウントを管理することができます。

管理アクセスを持つユーザーを作成する

にサインアップしたら AWS アカウント、日常的なタスクにルートユーザーを使用しないように AWS アカウントのルートユーザー、 を保護し AWS IAM アイデンティティセンター、 を有効にして管理ユーザーを作成します。

を保護する AWS アカウントのルートユーザー

1. ルートユーザーを選択し、AWS アカウント E メールアドレスを入力して、アカウント所有者[AWS マネジメントコンソール](#)として にサインインします。次のページでパスワードを入力します。

ルートユーザーを使用してサインインする方法については、「AWS サインイン ユーザーガイド」の「[ルートユーザーとしてサインインする](#)」を参照してください。

2. ルートユーザーの多要素認証 (MFA) を有効にします。

手順については、IAM [ユーザーガイドの AWS アカウント 「ルートユーザー \(コンソール\) の仮想 MFA デバイス](#)を有効にする」を参照してください。

管理アクセスを持つユーザーを作成する

1. IAM アイデンティティセンターを有効にします。

手順については、「AWS IAM アイデンティティセンター ユーザーガイド」の「[AWS IAM アイデンティティセンターの有効化](#)」を参照してください。

2. IAM アイデンティティセンターで、ユーザーに管理アクセスを付与します。

を ID ソース IAM アイデンティティセンターディレクトリ として使用する方法のチュートリアルについては、AWS IAM アイデンティティセンター「ユーザーガイド」の「[デフォルトを使用してユーザーアクセスを設定する IAM アイデンティティセンターディレクトリ](#)」を参照してください。

管理アクセス権を持つユーザーとしてサインインする

- IAM アイデンティティセンターのユーザーとしてサインインするには、IAM アイデンティティセンターのユーザーの作成時に E メールアドレスに送信されたサインイン URL を使用します。

IAM Identity Center ユーザーを使用してサインインする方法については、AWS サインイン「[ユーザーガイド](#)」の [AWS「アクセスポータルにサインインする」](#) を参照してください。

追加のユーザーにアクセス権を割り当てる

1. IAM アイデンティティセンターで、最小特権のアクセス許可を適用するというベストプラクティスに従ったアクセス許可セットを作成します。

手順については、「AWS IAM アイデンティティセンター ユーザーガイド」の「[アクセス許可セットを作成する](#)」を参照してください。

2. グループにユーザーを割り当て、そのグループにシングルサインオンアクセス権を割り当てます。

手順については、「AWS IAM アイデンティティセンター ユーザーガイド」の「[グループを追加する](#)」を参照してください。

AWS Billing and Cost Management コンソールへの IAM アクセスのアクティブ化

デフォルトでは、内の IAM ロール AWS アカウント は Billing and Cost Management コンソールにアクセスできません。これは、IAM ユーザーまたはロールに、特定の請求機能へのアクセス権を付与する IAM ポリシーがある場合でも当てはまります。ルートユーザーは、[IAM アクセスをアクティブ化] 設定を使用して、IAM ユーザーおよびロールに、Billing and Cost Management コンソールへのアクセスを許可できます。

Billing and Cost Management コンソールへのアクセスを提供する

1. [アカウント] ページにサインインして請求情報とコスト管理コンソール (<https://console.aws.amazon.com/billing/home?#/account>) を開きます。
2. [IAM ユーザーとロールの請求情報へのアクセス] の横にある、[編集] を選択します。
3. [IAM アクセス許可をアクティブ化] を選択します。
4. [更新] を選択します。

この機能の詳細については、「[請求情報とコスト管理コンソールへのアクセスをアクティベートする](#)」を参照してください。

ステップ 2: 請求情報と使用状況を確認する

Billing and Cost Management コンソールの機能を使用して、現在の AWS 料金と AWS 使用状況を表示します。

Billing and Cost Management コンソールを開いて使用量と料金を表示するには

1. にサインイン AWS マネジメントコンソール し、<https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. [Bills (請求書)] を選択して、現在の料金の詳細を参照します。
3. [支払い] を選択して、支払履歴を参照します。
4. [AWS Cost and Usage Reports] をクリックして、コストの詳細レポートを表示します。

AWS コストと使用状況レポートの設定と使用の詳細については、[AWS 「コストと使用状況レポートユーザーガイド」](#)を参照してください。

ステップ 3: 請求書をダウンロードまたは印刷する

AWS 請求は、毎月最終日の午前 0 時に請求期間を終了し、請求書を計算します。ほとんどの請求書は、月の 7 会計日目までにダウンロードできるようになります。

請求書をダウンロードまたは印刷するには

1. にサインイン AWS マネジメントコンソール し、<https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Bills] を選択します。
3. [Date] で、該当する請求書の月を選択します。
4. [Download CSV (CSV のダウンロード)] を選択してカンマ区切りの可変ファイルをダウンロードします。または [Print (印刷)] を選択します。

代替連絡先の追加または更新

代替連絡先を使用すると AWS、利用できない場合でも、はアカウントの問題について別のユーザーに連絡できます。代替の連絡先は、特定の人物である必要はありません。請求、運用、およびセ

セキュリティ関連の問題を管理するチームがある場合は、代わりに E メール配布リストを追加できません。

代替連絡先の例

AWS は、次のシナリオで各問い合わせタイプに連絡します。

- [請求] - 月次請求書が入手可能になったとき、または支払い方法を更新する必要がある場合。[E メールで PDF 版請求書を受け取る] が [請求設定] で有効になっている場合、代替の請求先も PDF 請求書を受け取ります。通知は AWS のサービス チームから送信できます。
- [オペレーション] - サービスが複数の AWS リージョン で一時的に利用できない場合、または利用できなくなる場合。また、連絡先は操作に関する通知も受信します。AWS のサービス チームから通知が届く場合があります
- セキュリティ - セキュリティ、AWS 信頼、安全、または AWS のサービス チームからの AWS 通知がある場合。これらの通知には、セキュリティ上の問題や、AWS アカウント での潜在的な不正使用または不正行為が含まれることがあります。AWS アカウント の使用状況に関するセキュリティ関連のトピックについて、AWS のサービス チームから通知が届く場合があります。件名または氏名フィールドに機密情報を含めないでください。これは、E メールによる通信に使用される可能性があるためです。

代替アカウント連絡先の管理の詳細については、「AWS アカウント管理 リファレンスガイド」の「[Alternate account contacts](#)」を参照してください。

請求機能の詳細

Billing and Cost Management コンソールで利用できる機能について理解します。

- AWS 無料利用枠: [を使用してサービスを試す AWS 無料利用枠 \(2025 年 7 月 15 日より前\)](#)
- 支払い: [Managing Your Payments](#)
- 請求を表示する: [請求について](#)
- AWS Cost Categories: [コスト AWS Cost Categoriesの整理](#)
- コスト配分タグ: [コスト配分タグを使用した AWS コストの整理と追跡](#)
- AWS 発注書: [Managing your purchase orders](#)
- AWS コストと使用状況レポート: [AWS コストと使用状況レポート](#)の使用
- の使用 AWS CloudTrail: [を使用した Billing and Cost Management API コールのログ記録 AWS CloudTrail](#)

- 一括請求 (コンソリデेटッドビルリング): [の請求の統合 AWS Organizations](#)

次のステップ

AWS 請求書を表示して支払う準備ができたので、利用可能な機能を使用する準備が整いました。このガイドの残りの部分は、コンソールを使用してジャーニーをナビゲートするのに役立ちます。

AWS コスト管理機能を使用して支出を最適化する

AWS コスト管理機能を使用してコストの予算と予測を行い、AWS 支出を最適化して全体的な AWS 請求額を削減できます。請求情報とコスト管理コンソールリソースを組み合わせるを使用して支払いを管理し、AWS コスト管理機能を使用して将来のコストを最適化します。

AWS コスト管理機能の詳細については、[AWS 「コスト管理ユーザーガイド」](#)を参照してください。

請求情報とコスト管理 API を使用する

[AWS Billing and Cost Management API リファレンス](#)を使用して、いくつかの AWS コスト管理機能をプログラムで使用します。

詳細情報

プレゼンテーション、仮想ワークショップ、ブログ投稿などの請求機能の詳細については、[「Cloud Financial Management with AWS」](#)のマーケティングページを参照してください。

仮想ワークショップは、[サービス] ドロップダウンリストを選択して目的の機能を選択することによって見つけることができます。

ヘルプの表示

請求機能について質問がある場合は、利用可能なリソースが多数あります。詳細については[請求書と支払いに関するサポートを受ける](#)を参照してください。

税金情報の設定

AWS Billing and Cost Management コンソールの左側のナビゲーションの「設定」と「設定」の「税設定」ページを使用できます。このページを使用して、税登録番号を管理し、税金設定継承を有効

にして、税登録情報が Organizations アカウント間で調整されるようにし、免税を管理します。このページでは、Amazon S3 バケットを設定して Tax Settings API を使用する方法も示します。

請求転送を使用する場合、請求転送アカウントは、請求を転送する AWS Organizations (管理アカウントと連結アカウント) の税設定を制御します。請求書を転送する AWS 組織の管理アカウント (請求元アカウント) は、AWS 組織の税設定を引き続き設定できます。ただし、請求転送がアクティブな間は、これらの設定は適用されません。

納税者番号の更新と削除

1 つ以上の税登録番号を更新または削除するには、次の手順に従います。

Note

国が [税金設定] ページのドロップダウンに表示されていない場合、AWS は現時点ではその国の税登録を収集しません。

税登録番号を更新するには

1. にサインイン AWS マネジメントコンソール し、<https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [課税設定] を選択します。
3. [納税登録] で、編集する番号を選択します。
4. [納税登録の管理] で、[編集] を選択します。
5. 更新した情報を入力し、[更新] を選択します。

税登録番号は、1 つまたは複数削除できます。

税登録番号を削除するには

1. にサインイン AWS マネジメントコンソール し、<https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [課税設定] を選択します。
3. [納税登録] で、削除する納税登録番号を選択します。
4. [納税登録の管理] で、[TRN の削除] を選択します。
5. [Delete tax registration (税登録の削除)] ダイアログボックスで、[Delete (削除)] を選択します。

税設定の継承をオンにする

[税金設定の継承] を有効にすると、メンバーアカウントで納税登録情報を使用できます。有効にすると、税登録情報が他の AWS Organizations アカウントに追加されるため、冗長な情報を登録する手間が省けます。税金請求書は一貫した税金情報を使用して処理され、メンバーアカウントからの使用状況が 1 つの税金請求書にまとめられます。

注意事項

- 税設定の継承は、メンバーアカウントが追加された後のアカウントでのみ使用できます。
- 税の継承をオフにすると、メンバーアカウントはアカウントの元の TRN 設定に戻ります。アカウントに TRN が設定されていなかった場合、TRN は割り当てられません。
- 請求転送を使用する場合、税金の継承は複数の AWS Organizations で機能します。デフォルトでは、請求書移管アカウントの税情報は、請求書を移管 AWS Organizations するの請求書に適用されます。請求書転送アカウントは、請求書設定機能を使用して、請求書を転送する AWS Organizations に異なる税金設定を割り当てることができます。

税登録情報には、次の情報が含まれます。

- 法人の名称
- 課税住所
- 税登録番号
- 特別免除

税設定の継承を有効にするには

1. にサインイン AWS マネジメントコンソール し、<https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [課税設定] を選択します。
3. [納税登録] で、[税金設定の継承を有効化] を選択します。
4. ダイアログボックスで、[有効化] を選択します。

米国の免税を管理する

お住まいの州が条件を満たしていれば、[税金設定] ページで米国での免税を管理できます。免除のためにアップロードしたドキュメントは、24 時間以内に サポート で確認されます。

Note

Billing and Cost Management コンソールの [課税設定] ページにある [免税] タブを表示する IAM 許可が付与されている必要があります。

IAM ポリシーの例については、「[IAM ユーザーに米国の免税の表示と サポート ケースの作成を許可する](#)」を参照してください。

米国の免税をアップロードまたは追加するには

1. にサインイン AWS マネジメントコンソール し、<https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [課税設定] を選択します。
3. [免税] を選択します。
4. すべてのアカウントを選択して免税を追加します。[免税の管理] を選択し、[免税の追加] を選択します。
 - a. 連結アカウントとしてログインしている場合は、連結アカウントにのみ免税を追加できます。
 - b. 支払者アカウントとしてログインしている場合は、支払者アカウントと連結アカウントの両方に免税を追加できます。
 - c. 請求転送を使用し、請求転送アカウントとしてログインしている場合は、請求転送アカウントに免除を追加することで、請求を転送するすべての AWS Organizations に適用される免税を追加できます。請求書に移管 AWS Organizations する一部の にのみ免税を適用するには、請求書設定を使用して、請求書移管アカウントのリンクされたアカウントを請求書受信者として割り当てます。次に、そのリンクされたアカウントに免税を追加します。
5. 免税タイプと税務管轄区を指定します。
6. 証明書ドキュメントをアップロードします。
7. 情報を確認し、[Submit] (送信) を選択します。

 Note

請求転送は現在、請求を転送 AWS Organizations している の個々の連結アカウントの免税をサポートしていません。特定の連結アカウントの免税を追加するには、請求元アカウントの所有者が AWS 組織からアカウントを削除し、そのアカウントで別の AWS 組織を作成する必要があります。新しい AWS 組織を作成したら、所有者は標準の請求転送プロセスを使用して請求転送を設定し、免税を追加できます。

24 時間以内に、追加情報が必要な場合、またはいずれかのドキュメントが有効でなかった場合、サポート はサポートケースを通じて通知します。

免除が承認されると、その免税は、[免税] タブに、[アクティブ] (アクティブ) の有効期間とともに表示できます。

免税が拒否された場合には、サポートケースを通じて通知があります。

Tax Settings API を使用するように Amazon S3 を設定する

Amazon S3 バケットに税文書を送信するアクセス許可が [Tax Settings API](#) に付与されるように、この手順に従います。請求転送を使用する場合は、請求書転送アカウントで税設定 API を使用して、請求書 AWS Organizations を転送する Amazon S3 バケットに税ドキュメントを送信できます。その後、Amazon S3 バケットから税文書をダウンロードできます。この手順は、税登録文書を必要とする以下の国でのみ実行する必要があります。

- BD: バングラデシュ
- KE: ケニア
- KR: 韓国
- ES: スペイン

他のすべての国では、税登録文書を指定する必要はありません。Tax Settings API を呼び出し、リクエストに税登録文書を指定すると、API は ValidationException エラーメッセージを返します。

次の Tax Settings API オペレーションでは、Amazon S3 バケットへのアクセスが必要です。

- BatchPutTaxRegistration: Amazon S3 バケットを読み取るためのアクセスが必要です
- PutTaxRegistration: Amazon S3 バケットを読み取るためのアクセスが必要です

- **GetTaxRegistrationDocument**: Amazon S3 バケットに書き込むためのアクセスが必要です

Amazon S3 バケットへのリソースポリシーの追加

Tax Settings API が Amazon S3 バケット内のオブジェクトにアクセスできるようにするには、Amazon S3 バケットに次のリソースポリシーを追加します。

Example **BatchPutTaxRegistration** および **PutTaxRegistration** の場合

DOC-EXAMPLE-BUCKET1 をお使いのバケットの名前に置き換えます。

JSON

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Sid": "Allow the Tax Settings API to access objects",
      "Effect": "Allow",
      "Principal": {
        "Service": "tax.amazonaws.com"
      },
      "Action": [
        "s3:GetObject"
      ],
      "Resource": "arn:aws:s3:::amzn-s3-demo-bucket1/*",
      "Condition": {
        "StringEquals": {
          "aws:SourceArn": "arn:aws:tax:us-east-1:${AccountId}:",
          "aws:SourceAccount": "${AccountId}"
        }
      }
    }
  ]
}
```

Example **GetTaxRegistrationDocument** 用

amzn-s3-demo-bucket1 をバケットの名前に置き換えます。

JSON

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Sid": "Allow the Tax Settings API to access objects",
      "Effect": "Allow",
      "Principal": {
        "Service": "tax.amazonaws.com"
      },
      "Action": [
        "s3:PutObject"
      ],
      "Resource": "arn:aws:s3:::amzn-s3-demo-bucket1/*",
      "Condition": {
        "StringEquals": {
          "aws:SourceArn": "arn:aws:tax:us-east-1:${AccountId}:",
          "aws:SourceAccount": "${AccountId}"
        }
      }
    }
  ]
}
```

 Note

classic AWS リージョン (aws パーティション) の場合、は次のaws:SourceArnようになります。
arn:aws:tax:us-east-1:{YOUR_ACCOUNT_ID}:*
中国リージョン (aws-cn パーティション) の場合、aws:SourceArn は次のようになります:
arn:aws-cn:tax:cn-northwest-1:{YOUR_ACCOUNT_ID}:*

Tax Settings API に S3 バケットへのアクセスを許可するには

1. [Amazon S3 コンソール](#)に移動してサインインします。
2. 左側のナビゲーションで [バケット] を選択し、リストからバケットを選択します。

3. [Permissions] (アクセス許可) タブをクリックし、[Bucket policy] (バケットポリシー) をクリックして、[Edit] (編集) をクリックします。
4. [ポリシー] セクションで、バケットにポリシーを追加します。
5. [Save changes] (変更の保存) を選択して、バケットにアタッチされるポリシーを保存します。

Tax Settings がアクセスする必要がある S3 バケットを暗号化するバケットごとに繰り返します。

AWS KMS マネージドキーポリシー

S3 バケットが AWS KMS マネージドキー (SSE-KMS) で暗号化されている場合は、KMS キーに次のアクセス許可を追加します。このアクセス許可は、次の API オペレーションに必要です。

- BatchPutTaxRegistration
- PutTaxRegistration
- GetTaxRegistrationDocument

JSON

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Id": "key-consolepolicy-3",
  "Statement": [
    {
      "Sid": "Allow the Tax Settings API to access objects",
      "Effect": "Allow",
      "Principal": {
        "Service": "tax.amazonaws.com"
      },
      "Action": [
        "kms:Decrypt",
        "kms:GenerateDataKey*"
      ],
      "Resource": "*",
      "Condition": {
        "StringEquals": {
          "aws:SourceArn": "arn:aws:tax:us-east-1:
${YOUR_ACCOUNT_ID}:",
          "aws:SourceAccount": "${YOUR_ACCOUNT_ID}"
        }
      }
    }
  ]
}
```



```
}  
}  
}  
]  
}
```

SSE-KMS で暗号化された S3 バケット AWS KMS の へのアクセス権を税設定に付与するには

1. [Amazon S3 コンソール](#)に移動してサインインします。
2. 左側のナビゲーションで [カスタマーマネージドキー] を選択し、リストからバケットの暗号化に使用するキーを選択します。
3. [Switch to policy view] (ポリシービューへの切り替え) を選択し、[Edit] (編集) をクリック」します。
4. ポリシーセクションで、AWS KMS ポリシーステートメントを追加します。
5. [Save changes] (変更の保存) を選択して、キーにアタッチされるポリシーを保存します。

Tax Settings がアクセスする必要がある S3 バケットを暗号化するキーごとに繰り返します。

Billing 設定のカスタマイズ

[AWS 請求設定]ページを使用して、請求書の配信、アラート、クレジットの共有、リザーブドインスタンス (RI) と Savings Plans の共有、および請求の詳細 (レガシー) レポートを管理できます。一部のセクションでは、支払いアカウントのみが更新できます。請求転送を使用する場合、請求転送アカウントで設定された設定は、請求を転送するすべての AWS Organizations に適用されます。

請求設定ページを表示するためのユーザーアクセス許可を割り当てることができます。詳細については、「[きめ細かな AWS Billing アクションの使用](#)」を参照してください。

請求設定ページには、次のセクションが含まれています。

目次

- [請求書の送付設定](#)
 - [追加の請求書メール](#)
- [アラートの設定](#)
- [調達ポータル設定](#)
 - [次の手順](#)

- [クレジット共有の設定](#)
- [Savings Plans とリザーブドインスタンスの割引共有設定](#)
 - [共有オプションについて](#)
 - [基本的な割引共有の管理](#)
 - [グループ共有の設定](#)
 - [既存のグループの変更](#)
- [請求明細レポート \(従来\)](#)

請求書の送付設定

毎月の請求書の PDF コピーを E メールで受け取ることができます。毎月の請求書は、として登録された E メール AWS アカウントのルートユーザー と代替請求連絡先に送信されます。これらの E メールアドレスの更新については、「[税金情報の設定](#)」を参照してください。

毎月の PDF 請求書を E メールで受け取ることをオプトインまたはオプトアウトするには

1. <https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、[請求設定] を選択します。
3. [請求書送付設定] セクションで、[編集] を選択します。
4. [PDF 請求書の E メールによる配信] を選択または選択解除します。
5. [更新] を選択します。

購入に応じて、は次の連絡先に毎月または毎日請求書 AWS を送信します。

- AWS アカウントのルートユーザー「◆◆」
- [支払い設定] ページの請求連絡先
- [アカウント] ページの代替請求連絡先

追加の請求書メール

PDF 請求書 E メールに加えて、は毎月または毎日、請求書の詳細を含む E メールを前のセクションの[連絡先リスト](#) AWS に送信します。

 Note

[支払い設定] ページで請求先を指定した場合、ルートユーザーには PDF 形式請求書や追加請求書がメールで届きません。

アラートの設定

AWS のサービス 使用量が使用 AWS 無料利用枠 制限に近づいているか、制限を超えたときに E メールアラートを受け取ることができます。

AWS 無料利用枠 使用状況アラートの受信をオプトインまたはオプトアウトするには

1. <https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、[請求設定] を選択します。
3. [アラート設定] セクションで、[編集] を選択します。
4. AWS 無料利用枠 使用状況アラートの受信を選択またはクリアします。
5. (オプション) [アラートを受信する追加 E メールアドレス] に、ルートユーザーまたは代替請求連絡先としてまだ登録されていない E メールアドレスを入力します。
6. [更新] を選択します。

また、Amazon CloudWatch 請求アラートを使用して、請求額が指定のしきい値に達したときに E メール通知を受け取るようにすることもできます。

CloudWatch の請求アラートを受け取るには

1. <https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、[請求設定] を選択します。
3. [アラート設定] セクションで、[編集] を選択します。
4. [CloudWatch 請求アラートを受け取る] を選択します。

 Important

この設定は後で選択解除できません。

5. [更新] を選択します。

CloudWatch 請求アラートを管理するには、「[CloudWatch ダッシュボード](#)」を確認するか、[\[AWS 予算\]](#)を確認してください。詳細については、Amazon CloudWatch [ユーザーガイド](#)の「[推定 AWS 請求額をモニタリングするための請求アラームを作成する](#)」を参照してください。

調達ポータル設定

AWS 電子請求書配信を使用すると、SAP Business Network と Coupa ポータルを使用しているお客様は、SAP Business Network と Coupa ポータルから発注書 (PO) を自動的に取得できます。これにより、配信された請求書に関連付けられた正確な POs が可能になります。AWS e-invoice はオプションでオプトインされた請求機能であり、AWS 請求書が生成されたのと同じ日に自動的に調達ポータルに送信されます。この機能は、SAP Business Network および Coupa 調達ポータルと統合されています。

利点

顧客の手動タスクを排除

AWS 請求書の受信、発注書との照合、調達ポータルへのアップロードを自動化できます。これにより、手動処理が不要になります。

当日の請求書の配信

調達ポータルで AWS 請求書を生成するのと同じ日に請求書を受け取ります。

処理エラーの削減

請求書の配信プロセスを自動化することで、手動処理で発生する可能性のあるエラーを減らすことができます。

可視性の向上

調達ポータルで、配信ステータスや承認を含むすべての請求書アクティビティを直接追跡およびモニタリングします。

PDF 請求書のサポート

調達ポータルで PDF 請求書と電子請求書の両方にアクセスします。

サポートされているプラットフォーム

次のプラットフォームは、e-invoice AWS 配信機能と統合されています。

- SAP ビジネスネットワーク
- Coupa

AWS E 請求書を受け取るには

1. <https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、[請求設定] を選択します。
3. ポータル接続の「調達ポータル設定」セクションで、「接続の追加」を選択します。
4. 機能のアクティブ化をリクエストページで、E 請求書配信を選択し、次へを選択します。
5. 「調達ポータルの選択」セクションで、調達ポータルを選択します。
6. 調達ポータルの接続の詳細を入力し、次へを選択します。
7. e-invoice 配信設定を完了し、次へを選択します。
8. テストオプションを選択します。
 - 本番環境: 調達システムへのライブ請求書の配信。ポータルまたはコンソールでテキスト請求書と発注書を確認することで、手動でテストできます。
 - テスト環境: 別のテスト環境を使用してすべての機能をテストします。これにより、ライブトランザクションに影響を与えずに請求書の配信が検証されます。
9. 任意の連絡先名と E メールアドレスを入力します。この情報は、調達ポータルをセットアップし、テストとサポート中に連絡するために使用されます。
10. チェックボックスをオンにして、セットアップのために AWS 連絡することに同意してください。
11. [次へ] を選択します。
12. 情報を確認し、[送信] を選択します。

次の手順

1. AWS は 24 時間以内に に連絡してアカウントを確認します。
2. 検証が完了したら、調達ポータルへの接続を確立し、テストを開始します。
3. テストが成功すると、アカウントで e-invoice AWS 配信が有効になります。

クレジット共有の設定

このセクションで、請求ファミリーのメンバーアカウント間でクレジット共有を有効にできます。特定のアカウントを選択することも、すべてのアカウントで共有を有効にすることもできます。

Note

- このセクションは、の一部として管理アカウント (支払者アカウント) でのみ使用できます AWS Organizations。
- 請求転送を使用する場合、請求元アカウント (請求転送アカウントではなく) がクレジット共有の設定を制御します。

メンバーアカウントのクレジット共有を管理するには

1. <https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、[請求設定] を選択します。
3. [クレジットの共有設定] セクションで、[編集] を選択します。
4. 特定のアカウントのクレジット共有を有効または無効にするには、表からアカウントを選択し、[有効化] または [無効化] を選択します。
5. すべてのアカウントのクレジット共有を有効または無効にするには、[アクション] を選択し、[すべて有効化] または [すべて無効化] を選択します。
6. [更新] を選択します。

Tip

- 組織に加入する新しいアカウントのクレジット共有を有効にするには、[新しく作成したメンバーアカウントのデフォルト共有] を選択します。
- クレジット共有設定の履歴をダウンロードするには、[設定履歴 (CSV) をダウンロード] を選択します。

 Important

AWS 組織内のリザーブドインスタンスと Savings Plans の共有設定を変更すると、AWS 請求書に影響します。これは、Billing Conductor または請求転送をオプトインした顧客にも適用されます。

Savings Plans とリザーブドインスタンスの割引共有設定

リザーブドインスタンス (RI) と (SP) の割引共有を使用すると、コミットメントベースの割引をのアカウント間で分散する方法を制御できます AWS Organizations。この機能は、コスト削減を組織構造やビジネス要件に合わせるのに役立ちます。

 Note

このセクションは、の管理アカウント (支払者アカウント) でのみ使用できます AWS Organizations。
請求転送を使用する場合、管理アカウント (請求転送アカウントではなく) がクレジット共有の設定を制御します。

共有オプションについて

3 つの共有設定オプションから選択できます。

共有タイプ	説明	ユースケース
オープン共有	割引は、組織内のすべての共有がアクティブ化されたアカウントで利用できます (デフォルト)	組織全体のコスト最適化
優先順位付けされたグループ共有	割引は、最初に購入アカウント、次に定義されたグループ、次に組織内の残りの共有がアクティブ化されたアカウントに適用されます。	グループコントロールと組織全体の最適化のバランス

共有タイプ	説明	ユースケース
制限付きグループ共有	割引は定義されたグループ内でのみ共有されます	ビジネスユニットまたは部門別の厳格なコスト配分

基本的な割引共有の管理

アカウントの割引共有を有効または無効にするには:

1. <https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、請求設定を選択します。
3. 「リザーブドインスタンスと Savings Plans の割引共有設定」セクションで、「編集」を選択します。
4. テーブルからアカウントを選択し、アクティブ化または非アクティブ化を選択します。
5. [Update] (更新) を選択する

Tip

- 新しく作成されたメンバーアカウントのデフォルト共有: 組織に参加する新しいアカウントの共有を自動的にアクティブ化します
- ダウンロード設定履歴 (CSV): 共有設定の変更履歴をエクスポートする

グループ共有の設定

グループ共有では、Cost Categories を作成して共有グループを定義する必要があります。

ステップ 1: 共有設定を構成する

1. <https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、請求設定を選択します。
3. 「リザーブドインスタンスと Savings Plans の割引共有設定」セクションで、「編集」を選択します。

4. 次のいずれかを選択します。

- 優先順位付けされたグループ共有 (まずグループ内で、次にグループ内で)
- 制限付きグループ共有 (グループ内のみ)

ステップ 2: グループを共有するための Cost Categories を作成する

1. Cost Category で、既存のカテゴリを選択するか、Create Cost Categories を選択します。

2. 新しいコストカテゴリを作成する場合:

1. コストカテゴリ名 (「ビジネスユニット」、「地理的リージョン」など) を入力します。
2. 共有グループごとに、ルールを追加します。

1. このグループのリンクされたアカウントを選択する

2. フィールドに SP/RI グループ共有名 (「研究と開発」、「EMEA オペレーション」など) を入力します。

3. [Create Rule] (ルールの作成) を選択します。

3. 追加のグループに新しいルールを追加するを使用する

4. 変更を加えずに、残りのステップで次へを選択します。

5. [コストカテゴリの作成] を選択します。

3. 請求設定に戻り、コストカテゴリを選択する

4. 影響警告を確認し、続行を選択します。

5. 実装設定を選択します。

- 見積りを作成して後で更新する: 適用する前に影響をシミュレートする
- 後で見積りを更新して作成する: 変更をすぐに適用する

6. [Update] (更新) を選択する

重要な考慮事項

グループ設定ルール

- 各アカウントは 1 つの共有グループにしか属しません
- 管理アカウントは共有グループに属しません

- グループは相互に排他的で、重複するアカウントがない必要があります

請求への影響

- 最適化のトレードオフ: グループ共有は、最大の節約よりもグループ配分を優先するため、全体的な割引の最適化を減らす可能性があります
- タイミング: いつでも設定を変更できます。各請求見積りは、最後の設定のセットを使用して計算されます。月の最終請求額は、月の最終日の午後 11 時 59 分 59 秒 (UTC 時) に指定されている設定に基づいて計算されます。
- Savings Plans の要件: Savings Plans 所有者アカウントは、割引共有設定でアクティブである必要があります

ベストプラクティス

- 料金計算ツールの統合を使用して、実装前の請求への影響をシミュレートする
- オープン共有から始めてコスト削減を最大化し、組織の要件で必要な場合はグループ共有に移行します
- 組織の進化に合わせてグループを定期的に見直して調整する

既存のグループの変更

1. <https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Cost Categories] を選択します。
3. 変更するコストカテゴリを選択します。
4. [編集] を選択します。
5. 上記の同じプロセスに従って、グループメンバーシップを更新するか、新しいグループを作成します。

請求明細レポート (従来)

AWS コストと使用状況レポートコンソールページ以外で提供されるレガシー請求レポートを受け取ることができます。ただし、最も包括的な請求情報が提供されるため、代わりに AWS コストと使用状況レポートを使用することを強くお勧めします。また、これらの従来のレポート方法は後日サポートされなくなります。

詳細な請求レポートに関する追加情報については、「AWS Cost and Usage Reports User Guide」の「[Detailed Billing Reports](#)」を参照してください。

レポートを AWS コストと使用状況レポートに転送する方法の詳細については、「[請求明細レポートから AWS コストと使用状況レポートへの移行](#)」を参照してください。

注意事項

- このセクションは、AWS Organizationsを使用する場合にのみ表示されます。
- 請求書ページから CSV をダウンロードするには、まず月次レポートを有効にします。
- 請求転送を使用する場合、詳細な請求レポート (レガシー) は、その請求書の AWS Organizations 転送や請求書転送アカウントでは使用できません。
- 請求転送を使用する場合、詳細な請求レポート (レガシー) は、その請求書の AWS Organizations 転送や請求書転送アカウントでは使用できません。

請求詳細レポート (従来) 設定を編集するには

1. <https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、[請求設定] を選択します。
3. [請求詳細レポート (従来)] セクションで、[編集] を選択します。
4. Amazon S3 バケットをレポート配信用に設定するには、[Amazon S3 への従来レポート配信] を選択し、[設定] を選択します。
5. Amazon S3 バケットの設定セクションで、既存の Amazon S3 バケットを選択して AWS コストと使用状況レポートを受け取るか、新しいバケットを作成します。
6. [更新] を選択します。
7. AWS 使用状況を表示するようにレポートの詳細度を設定するには、アクティブ化するレポートを選択します。

8. [レポートの有効化] セクションで、[有効化] を選択します。

AWS 支払い設定のカスタマイズ

AWS Billing and Cost Management コンソールの [Payment preferences](#) ページを使用して、すべての支払いタイプに対して次のタスクを実行できます。

トピック

- [支払い方法の表示](#)
- [デフォルトの支払い方法を指定する](#)
- [支払い方法の削除](#)
- [請求の支払い通貨の変更](#)
- [追加の請求連絡先 E メールアドレスの設定](#)

AWS のサービス プロバイダー (「SOR」、「登録販売者」) によって整理された承認された支払い方法のリストについては、「ナレッジセンター」の [「What payment methods does AWS accept?」](#) を参照してください。

サポートされている通貨の完全なリストについては、[AWS 「現在サポートされている通貨は何ですか?」](#) を参照してください。

注意事項

- IAM ユーザーは、請求コンソールの一部のページにアクセスするために明示的なアクセス許可が必要です。詳細については、「[アクセス許可の管理の概要](#)」を参照してください。
- [お支払いの詳細設定] ページを使用して、クレジットカードや銀行デビット口座を管理することもできます。詳細については、「[クレジットカードと ACH 口座振替の管理](#)」および「[ACH 銀行引き落としによる支払い方法を管理する](#)」を参照してください。
- 請求転送を使用する場合、請求書転送アカウントは、請求書 AWS Organizations を転送するの請求書の支払い設定を制御します。請求元アカウントは、既存の支払い設定を設定および変更できます。ただし、これらの設定は、請求転送がアクティブな間は有効になりません。

支払い方法の表示

アカウントに関連付けられた支払い方法を表示するには、コンソールを使用できます。

に関連付けられている支払い方法を表示するには AWS アカウント

1. にサインイン AWS マネジメントコンソール し、<https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [\[Payment preferences\]](#) (お支払いの詳細設定) を選択します。

に関連付けられている支払い方法は AWS アカウント、「支払い方法」セクションに記載されています。

デフォルトの支払い方法を指定する

コンソールを使用して、AWS アカウントのデフォルトの支払い方法を指定できます。

複数の AWS サービスプロバイダー (登録販売者または SOR) から請求書を受け取った場合は、支払いプロファイルを使用して、それぞれに一意の支払い方法を割り当てることができます。詳細については、「[支払いプロファイルの使用](#)」を参照してください。

デフォルトの支払い方法を指定するには

1. <https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [\[Payment preferences\]](#) (お支払いの詳細設定) を選択します。

に関連付けられている支払い方法は AWS アカウント、「支払い方法」セクションに記載されています。

3. デフォルトで使用する支払い方法の横にある、[Set as default] (デフォルトとして設定) を選択します。

Note

支払い方法によっては、さらなる情報やアクションが必要になる場合があります。さらなるアクションには、税登録情報の入力や、対応する支払い通貨の選択などがあります。

支払い方法の削除

コンソールを使用して、アカウントから支払い方法を削除できます。

から支払い方法を削除するには AWS アカウント

1. <https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Payment preferences] (お支払いの詳細設定) を選択します。
3. アカウントにそのほかのお支払い方法がデフォルトとして設定されていることを確認します。
4. 削除する支払い方法を選択し、[Delete] (削除) を選択します。
5. [Delete payment method] (支払方法を削除) ダイアログボックスで [Delete] (削除) を選択します。

請求の支払い通貨の変更

請求のお支払いに使用する通貨を変更 (たとえば、デンマーククローネから南アフリカランドへ) するには、以下の手順を実行します。でサポートされている通貨の完全なリストについては AWS、AWS ナレッジセンターの[AWS 「現在サポートされている通貨は何ですか？」](#)を参照してください。

アカウントに関連付けられた現地通貨を変更するには

1. にサインイン AWS マネジメントコンソール し、<https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. 右上隅のナビゲーションバーで、アカウント名 (またはエイリアス) を選択し、アカウント を選択します。
3. ナビゲーションペインで [Payment preferences] (お支払いの詳細設定) を選択します。
4. [Default payment preferences] (デフォルトの支払いの詳細設定) セクションで、[Edit] (編集) を選択します。
5. [Payment currency] (支払い通貨) セクションで、支払い通貨を選択します。
6. [Save changes] (変更の保存) をクリックします。

複数の AWS のサービス プロバイダー (「SOR」、「レコード販売者」) から請求書を受け取った場合は、使用する各通貨を指定する支払いプロファイルを AWS のサービス プロバイダーごとに作成できます。詳細については、「[支払いプロファイルの使用](#)」を参照してください。

追加の請求連絡先 E メールアドレスの設定

AWS アカウントに影響する請求関連の項目について別の担当者に問い合わせるには、追加の請求連絡先を利用します。追加の請求連絡先は、ルートアカウント連絡先および代替の請求連絡先と共に、請求イベントに関する連絡を受けます。

注意事項

- 支払い方法としてクレジットカードまたはデビットカードを使用する場合は、「[代替連絡先の追加または更新](#)」を参照してください。
- 支払い方法として請求書払いの場合は、次の手順でメールを受信する請求連絡先を追加できます。

アカウントに追加の請求連絡先を設定するには

1. <https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Payment preferences] (お支払いの詳細設定) を選択します。
3. [Default payment preferences] (デフォルトの支払いの詳細設定) セクションで、[Edit] (編集) を選択します。
4. 請求連絡先 E メールには、請求関連の E メール通知 AWS を送信する追加の請求連絡先 E メールメッセージを入力します。
5. [Save changes] (変更の保存) をクリックします。

インドでの請求について設定する

新しいアカウントにサインアップし、連絡先と請求先住所にインドを選択した場合、ユーザー契約はインドの現地 AWS 販売者である Amazon Web Services India Private Limited (AWS インド) と締結されます。AWS インドは請求を管理し、請求書の合計はドルではなくルピーで表示されます。

目次

- [AWS インドにサインアップする](#)
- [AWS India アカウントの管理](#)
 - [Permanent Account Number を追加または編集する](#)

- [複数の Permanent Account Number を編集する](#)
- [複数の Goods and Service Tax 番号を編集する](#)
- [税金請求書を表示する](#)
- [AWS インドとの間で登録販売者を変更する](#)

AWS インドにサインアップする

AWS India は、インドの の現地販売 AWS 者です。India アカウントにサインアップするには、AWS 「AWS アカウント管理 リファレンスガイド」の「[Manage accounts in India](#)」を参照してください。

AWS India アカウントの管理

[\[アカウント設定\]](#) ページを使用して、次のタスクを実行します。

- カスタマー検証の作成と編集
- 顧客確認の管理
- ユーザー名、パスワード、または E メールアドレスを編集する
- 代替の連絡先を追加、更新、または削除する
- 連絡先情報を編集する

これらのタスクの詳細については、AWS アカウント管理 リファレンスガイドの[AWS 「インドアカウントの管理」](#)を参照してください。

Billing and Cost Management コンソールの [\[税金設定\]](#) ページを使用して、次のタスクを実行します。

- [Permanent Account Number を追加または編集する](#)
- [複数の Permanent Account Number を編集する](#)
- [複数の Goods and Service Tax 番号を編集する](#)
- [税金請求書を表示する](#)

Permanent Account Number を追加または編集する

Permanent Account Number (PAN) をアカウントに追加して編集できます。

PAN を追加または編集するには

1. にサインイン AWS マネジメントコンソール し、<https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Tax Settings] を選択します。
3. [Tax Settings] ナビゲーションバーで、[Edit] を選択します。
4. [Permanent Account Number (PAN)] に PAN を入力し、[Update] を選択します。

複数の Permanent Account Number を編集する

アカウントで、複数の Permanent Account Number (PAN) を編集することができます。

複数の PAN 番号を編集するには

1. にサインイン AWS マネジメントコンソール し、<https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Tax Settings] を選択します。
3. [Manage Tax Registration Numbers (税登録番号の管理)] で、編集する PAN 番号を選択します。
4. [Manage Tax Registration (税登録の管理)] で、[Edit (編集)] を選択します。
5. 変更するフィールドを更新し、[Update (更新)] を選択します。

複数の Goods and Service Tax 番号を編集する

アカウントで、複数の Goods and Service Tax 番号 (GST) を編集することができます。

複数の GST 番号を編集するには

1. にサインイン AWS マネジメントコンソール し、<https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Tax Settings] を選択します。
3. [Manage Tax Registration Numbers (税登録番号の管理)] で、編集する GST 番号、または [Edit all (すべて編集)] を選択します。
4. [Manage Tax Registration (税登録の管理)] で、[Edit (編集)] を選択します。
5. 変更するフィールドを更新し、[Update (更新)] を選択します。

税金請求書を表示する

コンソールで税金請求書を表示することができます。

税金請求書を表示するには

1. にサインイン AWS マネジメントコンソール し、<https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Bills] を選択します。
3. 下にスクロールし、[請求書] タブを選択します。
4. [税金請求書] セクションで、[ドキュメント ID] に記載されている請求書のリンクを選択します。

Note

[税金請求書] セクションは、利用可能な税金請求書がある場合にのみ表示されます。

AWS インドとの間で登録販売者を変更する

の出 AWS アカウント 品者 (SOR) AWS アカウント を別の SOR に変更するには、請求情報または税金情報を更新します。これは、機能が利用できないレガシーモデルで AWS India アカウントが運用されている場合には適用されません。AWS アカウント 請求または税金の詳細で国または地域を編集すると、新しい場所のサービスプロバイダーが現在の場所と異なる場合、アカウントの SOR が自動的に変更されます。

アカウントを AWS インドとの間で変更する場合、請求書または送金に設定されている場合、デフォルトの支払い方法を更新する必要はありません。デフォルトの支払い方法がクレジットカードまたはデビットカードの場合は、デフォルトの支払いカードの詳細を再確認する必要があります。これは、支払い方法が AWS インド以外のトランザクションとは別に保存されるようにするためです。詳細については、「[India AWS 請求書の対象となるクレジットカードまたはデビットカードの表示](#)」を参照してください。

Note

デフォルトの支払い方法としてクレジットカードまたはデビットカードを使用する AWS India アカウントがあり、自動支払い用に e-mandate を設定している場合は、デフォルトの支払い設定を編集する前に e-mandate を無効にする必要があります。

の SOR を変更するには AWS アカウント、次のオプションを使用してこの情報を編集します。

To change the SOR using billing information

1. にサインイン AWS マネジメントコンソール し、<https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [支払いの詳細] を選択します。
3. [Default payment preferences] (デフォルトの支払いの詳細設定) セクションで、[Edit] (編集) を選択します。
4. 新しい請求先住所を入力します。
5. [支払い通貨] セクションで、新しい SOR で使用できる通貨のリストからデフォルトの通貨を選択します。
6. (デフォルトの支払い方法がクレジットカードまたはデビットカードの場合) [支払い方法の確認] セクションで、デフォルトの支払いカードの詳細を再入力して、新しいサービスプロバイダーでの使用を確認します。

新しい SOR でデフォルトのカードを変更するには、後ほどカードを追加し、デフォルトの支払い方法設定を変更します。

7. [Save changes] (変更の保存) をクリックします。

数分後、更新された SOR を含めた変更が [お支払いの詳細設定] ページに表示されます。

To change the SOR using billing and tax information

アカウントを別の SOR に移動するには、アカウントに関連付けられた納税登録番号 (TRN) を更新し、新しい有効な TRN を入力する必要があります。アカウントに関連付けられている TRN を削除することもできます。アカウントの新しい SOR は、可用性順位と優先順位に従って、新しい課税住所の国と現在の請求先住所に基づいて自動的に解決されます。アカウントの SOR が変更されると、アカウントが AWS インドに出入りしていることが通知されます。

1. にサインイン AWS マネジメントコンソール し、<https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Tax Settings] を選択します。
3. アカウントを選択し、[納税登録の管理] を選択してから、[編集]、[すべて編集]、または [TRN の削除] を選択します。
4. (デフォルトの支払い方法がクレジットカードまたはデビットカードの場合) ナビゲーションペインで [支払い設定] を選択します。

5. [支払い方法を追加] を選択して、デフォルトの支払いカードの詳細を再入力するか、新しい支払いカードを追加します。
6. カードを保存したら、[デフォルトとして設定] を選択します。

[デフォルトの支払いの詳細設定] セクションに、新しい SOR では以前のデフォルトの支払い方法を使用できないというアラートが表示されます。支払いカードの追加後にページを更新すると、アラートが非表示になります。

前述の手順を使用しても SOR を変更できない場合は、この機能を利用できないレガシーモデルでアカウントが運用されている可能性があります。現在、AWS インドのアカウントをレガシーモデルから、この機能が利用可能な新しいモデルに移行しています。移行は 2025 年 12 月に完了する予定です。

登録販売者の検索

AWS は、顧客をサポートするために事業構造を定期的に見直します。は、再販する管轄区域 (国) 内に設立されたローカル事業体である登録販売者 (SOR) AWS を作成します AWS のサービス。現地の SOR は、現地の法律および規制の対象となります。SOR は現地のお客様との契約当事者となるため、お客様は現地の事業体から請求を受け、支払いを送金することができます。にサインアップすると AWS アカウント、請求情報と連絡先情報に基づいて SOR が自動的にアカウントに割り当てられます。

アカウントの SOR をを見つけるには

1. にサインイン AWS マネジメントコンソール し、<https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. [支払い設定] を選択し、デフォルトのお支払い方法の下にある [サービスプロバイダー] の下の名前を確認します。
3. この情報は、[税金設定] ページの [販売者] 列でも確認できます。

「[アカウント](#)」ページと「[支払い設定](#)」ページで、連絡先情報、郵送先住所、請求先住所が最新であることを確認することをお勧めします。

ビジネスアカウントをお持ちの場合は、支払者アカウントとメンバー (連結) アカウントの [\[税金設定\]](#) ページで税務情報が正しいことを確認します。

AWS はこの情報を使用して、希望する支払い通貨、税設定、会社の正式名称や住所などの適切なヘッダー情報を含む請求書を準備して発行します。詳細については、「[毎月の請求のベストプラクティスを確認する](#)」を参照してください。

 Note

請求転送を使用して外部管理アカウント (請求転送アカウント) に請求を送信する場合、請求料金の SOR 情報は請求転送アカウントで利用できます。これは、請求料金を支払う責任があるためです。

現在の SOR

この表を使用して、以下の国の SOR を検索してください。

アカウントの国/地域	AWS SOR	郵送先住所
オーストラリア	Amazon Web Services オーストラリア株式会社 (ABN: 63 605 345 891)	レベル 37、2-26 パークストリート、ニューサウスウェールズ州シドニー、2000、オーストラリア
ブラジル	Amazon AWS Serviços Brasil Ltda。	A. プレジデnte・ジュセリーノ・クビシェック、2.041、トーレ E-18 階と 19 階、ヴィラ・ノバ・コンセイサオ、サンパウロ、ブラジル
カナダ	Amazon Web Services カナダ株式会社	120 Bremner Blvd、26 階、オンタリオ州トロント、M5J 0A8、カナダ
インド	Amazon Web Services インディアプライベートリミテッド (旧アマゾンインターネットサービスプライベートリミテッド)	Unit Nos. 1,401 to 1,421 International Trade Tower, Nehru Place, Delhi 110,019, India

アカウントの国/地域	AWS SOR	郵送先住所
インドネシア	PT Amazon Web Services Indonesia	16th Floor, Sinar Mas Land Plaza, Jl. Jend. Sudirman Kav. 21, RT 12/RW 01, Karet, Setiabudi, Jakarta Selatan, 12,920, Indonesia
日本	Amazon Web Services 日本合同会社	〒141-0021東京都品川区上大崎三丁目1-1
マレーシア	Amazon Web Services マレーシア Sdn Bhd. (登録番号 201501028710 (1154031-W))	26階と35階、ザ・ガーデンズ・ノースタワー、リンカラ・サイド・プトラ、ミッドバレーシティ、クアラルンプール、59200、マレーシア
ニュージーランド	Amazon Web Services ニュージーランド有限公司	レベル 5、18 ヴァイアダクト・ハーバー・アベニュー、オークランド、1010、ニュージーランド
シンガポール	Amazon Web Services Singapore Private Limited	23 チャーチストリート、#10-01、シンガポール 049481
南アフリカ	Amazon Web Services South Africa Proprietary Limited	ウェンブリー・スクエア 2、134 ソラン・ロード、ガーデンズ、ケープタウン、8001、南アフリカ
韓国	Amazon Web Services Korea LLC	〒06142大韓民国ソウル市江南区テヘラン路 231 イーストタワー L12
韓国電気通信会社	AMCS Korea LLC	〒06142大韓民国ソウル市江南区テヘラン路 231 イーストタワー L12

アカウントの国/地域	AWS SOR	郵送先住所
トルコ	Amazon Web Services Turkey Pazarlama, Teknoloji ve Danışmanlık Hizmetleri Limited Şirketi	Esentepe Mahallesi Bahar Sk. Özdilek/River Plaza/Wyndham Grand Hotel Apt. No: 13/52 Şişli/İstanbul, Turkey
EMEA — ヨーロッパ、中東、 またはアフリカ内のあらゆる 国 (南アフリカとトルコを除 く)	Amazon Web Services EMEA SARL	38 アベニュー・ジョン・F・ ケネディ、L-1855、ルクセン ブルク
この表に記載されていないそ の他すべての国	Amazon Web Services, Inc.	米国ワシントン州シアトルテ リーアベニューノース 410番 地 98109-5210

関連リソース

がアカウントの場所 AWS を決定する方法の詳細については、[「がアカウントの場所 AWS を決定する方法」を参照してください。](#)

SOR について質問がある場合は、アカウントと請求に関する[サポートケース](#)を作成し、「その他の請求に関する質問」オプションを指定します。

税務ヘルプの詳細については、「[Amazonウェブ サービス税務ヘルプ](#)」を参照してください。

AWS カスタマーアグリーメントの詳細については、[AWS 「カスタマーアグリーメント」](#)を参照してください。

毎月の請求のベストプラクティスを確認する

AWS は、AWS Billing and Cost Management コンソールで指定した情報を使用して、希望する支払い通貨、税設定、会社の正式名称や住所などの適切なヘッダー情報を含む請求書を準備して発行します。

この情報がないか、不正確である場合、使用または処理できない不正確な請求書を発行 AWS する可能性があります。

1 か月の請求期間が終了するときは、事前にこちらのチェックリストを使って請求書を確認し、AWS アカウントの情報が最新のものであることを確認します (所要時間 10 分)。

目次

- [発注書の残高と有効期限を確認する](#)
- [税金の設定を確認する](#)
- [税金設定の継承を有効にする](#)
- [請求連絡先情報を更新する](#)
- [支払い通貨を確認する](#)

発注書の残高と有効期限を確認する

調達から支払いまでのプロセスの一環として、発注書を使って AWS のサービスを調達し、支払いの請求書を承認することが可能です。請求や支払いの問題が発生することを避けるため、発注書の有効期限が切れていないか、あるいは残高が不足していないかを確認します。

発注書の残高と有効期限を確認するには

1. AWS Billing and Cost Management コンソールの[発注書](#)ページに移動します。発注書のダッシュボードには、発注書のステータスが表示されています。
2. 発注書を選択して、[購入の詳細] ページを参照します。
3. 発注書の [残高] と [有効期限] のフィールドを確認します。

Tip

- E メール通知を設定しておくことで、発注書の有効期限が切れたり残高が不足したりすることに前もって対応できます。詳細については、「[発注所の通知を有効にする](#)」を参照してください。
- 発注書を追加して請求書で使用方法については、「[発注書を追加する](#)」を参照してください。

税金の設定を確認する

税務上の目的でアカウントの場所を決定するために、は、アカウントに関連付けられた税登録番号 (TRN) と会社の法定住所 AWS を使用します。TRN は、付加価値税 (VAT) 番号、VAT ID、VAT 登録番号、事業者登録番号とも呼ばれます。

税金の設定を確認するには

1. Billing and Cost Management コンソールの [\[課税設定\]](#) のページに進みます。
2. [\[納税登録\]](#) タブの下で、編集するアカウント ID を選択します。
3. [\[納税登録の管理\]](#) で [\[編集\]](#) を選択します。
4. 更新した情報を入力し、[\[更新\]](#) を選択します。

Note

請求転送を使用する場合、請求書転送アカウントは、請求書を転送する AWS Organizations の税金設定を制御します。

詳細については、「[納税者番号の更新と削除](#)」を参照してください。

税金設定の継承を有効にする

の一部である管理アカウントとメンバーアカウントは、異なる TRNs または同じ TRN を持つ AWS Organizations ことができます。組織でメンバーアカウントに異なる TRN を使用する必要がある場合を除き、税金設定の継承は有効にしておくことが推奨されます。

管理アカウントからこの設定を有効にすると、税登録情報は組織内のメンバーアカウントに追加されます。これにより、個々のアカウントにこの情報を入力する手間を省くことができます。税金請求書は一貫した税金情報を使用して処理され、メンバーアカウントによる使用は、1 つの税金請求書に統合されます。

税金設定の継承を有効にするには

1. Billing and Cost Management コンソールの [\[課税設定\]](#) のページに進みます。
2. [\[納税登録\]](#) で、[\[税金設定の継承を有効化\]](#) を選択します。
3. ダイアログボックスで、[\[有効化\]](#) を選択します。

Note

請求転送を使用する場合、その請求書 AWS Organizations はデフォルトで請求書転送アカウントの税設定を継承します。請求転送による税設定と税継承の管理については、「」を参照してください[税金情報の設定](#)。

米国での税控除に必要な、書類の管理方法については、「[米国の免税を管理する](#)」を参照してください。

請求連絡先情報を更新する

請求連絡先情報が正しいことを確認します。は、これらの連絡先 AWS を使用して、請求または支払いに関連する通信についてお客様に連絡します。請求連絡先は、次の 2 つのページから追加できます。

- [お支払いの詳細設定] のページ
- [アカウント] のページ

お支払いの詳細設定のページから請求連絡先を追加するには

1. Billing and Cost Management コンソールの [\[お支払いの詳細設定\]](#) のページに進みます。
2. 「デフォルトの支払い設定」セクションの「請求連絡先の E メール」フィールドを確認してください。はこの連絡先を請求または支払い関連の通信 AWS に使用します。
3. [編集] を選択します。
4. 請求連絡先 E メール - オプションフィールドに、請求関連の E メール通知、支払いリマインダー、支払いサポート通知 AWS を送信する E メールアドレスを入力します。メールアドレスは 15 件まで追加できます。
5. [Save changes] (変更の保存) をクリックします。

代替連絡先を追加して、連絡先 AWS が AWS アカウントのルートユーザー 利用できない場合でも、がアカウントの問題について連絡するための代替 E メールアドレスを持つようにすることができます。代替連絡先には、請求書を受け取るメールアドレスを指定できます。代替連絡先には、請求、請求書、および支払いの問題 AWS について と通信する権限が与えられます。

代替の連絡先は、特定の人物である必要はありません。例えば、組織内に請求、オペレーション、セキュリティ関連問題を管理するチームがいる場合は E メール配布リストを追加できます。

Note

請求転送を使用すると、請求書を転送 AWS Organizations して請求連絡先を更新できます。ただし、請求転送がアクティブな間は、請求の連絡先情報を使用して請求書が請求書転送アカウントに送信されるため、この情報は使用されません。

アカウントページから代替連絡先情報を更新するには

1. Billing and Cost Management コンソールの [\[アカウント\]](#) ページに進み、下の [代替連絡先] セクションまでスクロールします。
2. [請求] フィールドで連絡先情報を確認し、請求書を受け取るメールアドレスを確認します。

代替連絡先の使い方については、「[代替連絡先の追加または更新](#)」を参照してください。

支払い通貨を確認する

支払い通貨とは、デフォルトの支払い方法に適用される通貨のことです。デフォルトのサービスプロバイダーの請求書に表示される通貨もこの支払い通貨です。組織によっては間違った通貨で発行された請求書は処理できないため、支払い通貨が正確であるか確認しておくことは重要です。

支払い通貨を確認するには

1. Billing and Cost Management コンソールの [\[お支払いの詳細設定\]](#) に進みます。
2. [Default payment preferences] (デフォルトの支払いの詳細設定) セクションで、[Edit] (編集) を選択します。
3. [支払い通貨] のセクションで、[デフォルトの支払い通貨] が正しい通貨であることを確認します。

支払い方法の詳細については、「[クレジットカードと ACH 口座振替の管理](#)」を参照してください。

請求書と支払いに関するサポートを受ける

AWS Billing and Cost Management コンソールのツール、料金、お支払い方法についてご質問がある場合は、さまざまなリソースを利用できます。AWS 請求書に関する問い合わせや要請がある場合は、アソシエイトが直接サポート サポート できるように、でケースを開くことをお勧めします。

トピック

- [AWS ナレッジセンター](#)
- [へのお問い合わせ サポート](#)
- [請求対象の使用状況の確認](#)
- [無料利用枠の使用量のモニタリング](#)
- [の閉鎖 AWS アカウント](#)

AWS ナレッジセンター

すべての AWS アカウント所有者は、アカウントと請求のサポートに無料でアクセスできます。AWS ナレッジセンターにアクセスして、質問に対する回答をすばやく見つけることができます。

質問またはリクエストを検索するには

1. [AWS ナレッジセンター](#)を開きます。
2. [Billing Management] を選択します。
3. トピックのリストをスキャンして、類似する質問を見つけます。

へのお問い合わせ サポート

へのお問い合わせ サポート は、AWS 質問についてアソシエイトと通信するための最も迅速かつ直接的な方法です。は、サポート担当者に連絡するための直接電話番号を発行 サポート しません。次のプロセスを使用して、アソシエイトに電子メールまたは電話で連絡をしてもらうことができます。

個別の技術サポートのみがサポートプランを必要とします。詳細については、「[サポート](#)」を参照してください。

About: Account and Billing Support を指定する サポート ケースを開くには、ルートアカウントの所有者 AWS としてサインインするか、サポートケースを開くための IAM アクセス許可が必要です。詳細については、「サポート User Guide」の「[Accessing サポート](#)」を参照してください。

AWS アカウントを閉鎖した場合でも、[サインイン サポート](#) して過去の請求書を表示できます。

AWS 組織外の管理アカウント (請求移管アカウント) に請求を移管した場合は、まず請求移管アカウントの所有者にお問い合わせください。そのアカウントは、アカウントで利用可能なコストデータを制御し、使用状況を反映した AWS 請求書を受け取ります。請求書転送アカウント情報を確認するには、請求転送ページ、アウトバウンド請求タブに移動します。

に問い合わせるには サポート

1. サインインして [サポート センター](#) に移動します。プロンプトが表示されたら、ご利用のアカウントのメールアドレスとパスワードを入力します。
2. [ケースを作成] を選択します。
3. [Open case (ケースを開く)] ページで、[Account and Billing Support (アカウントと請求のサポート)] を選択し、フォームの必須フィールドに入力します。
4. フォームを完了したら、問い合わせオプションで、Eメールの応答にウェブを選択するか、電話を選択して サポート 担当者からの電話をリクエストします。インスタントメッセージは、請求に関するお問い合わせにはご利用いただけません。

にサインインできない場合に に連絡する サポート には AWS

1. パスワードを回復するか、[\[AWS アカウント サポート\]](#) でフォームを送信します。。
2. [リクエスト情報] セクションで照会タイプを選択します。
3. [お問い合わせ内容をご記入ください。] セクションに入力してください。
4. [Submit] を選択してください。

請求対象の使用状況の確認

請求金額に対する使用状況を確認する場合は、Cost Explorer を有効にして自分で使用状況を確認することができます。このツールを使用すると、事前に作成されたレポートとグラフが提供されて、コストを詳細に分析できます。

Cost Explorer は、この機能を有効にしてから 24 時間使用できます。

Cost Explorer の詳細については、[AWS Cost Explorer を使用したコストの分析](#) を参照してください。

が請求転送 AWS Organizations を使用する場合、請求転送アカウントは Cost Explorer に表示されるコストデータを制御します。

無料利用枠の使用量のモニタリング

AWS 無料利用枠の使用状況を追跡して、無料利用枠の制限を維持できます。無料利用枠の制限がしきい値に達したときに AWS アカウントにアラートを設定し、請求情報とコスト管理コンソールを使用して使用状況をモニタリングできます。

これらの機能の使用の詳細については、「[を使用してサービスを試す AWS 無料利用枠 \(2025 年 7 月 15 日より前\)](#)」を参照してください。

無料利用枠の制限を超えて請求された使用状況の詳細については、「[請求対象の使用状況の確認](#)」セクションを参照してください。

Note

AWS 組織が請求転送を使用している場合は、無料利用枠ページで無料利用枠の使用状況を追跡できます。ただし、請求書転送アカウントがこのアクセスを有効にしていない限り、Cost Explorer、AWS Cost and Usage Report (CUR)、または請求書ページで無料利用枠クレジットを表示することはできません。無料利用枠ページは見積りデータを処理しないため、不一致が発生する可能性があります。たとえば、このページには、見積り請求から削除された無料利用枠の対象となる使用状況が表示される場合があります。

の閉鎖 AWS アカウント

の閉鎖の詳細については AWS アカウント、「AWS アカウント管理 リファレンスガイド」の「[アカウントを閉じる](#)」を参照してください。

AWS Billing and Cost Management ホームページの使用

請求情報とコスト管理のホームページを使用して、AWS クラウド財務管理データの概要を確認し、より迅速かつ情報に基づいた意思決定を行うことができます。コストの大まかな傾向と要因を理解し、注意が必要な異常値や予算超過を迅速に特定し、推奨アクションを検討し、コスト配分範囲を把握し、節約の機会を特定します。

このページのデータは から取得されます AWS Cost Explorer。以前に Cost Explorer を使用したことがない場合、このページにアクセスすると自動的に有効になります。このページに新しいデータが表示されるまでに最大 24 時間かかります。データは、利用可能な場合 24 時間ごとに一度以上更新されます。ホームページの Cost Explorer データは、分析目的に合わせて調整されています。つまり、データの AWS のサービスへのグループ分け方法、割引、クレジット、返金、税金の表示方法の違い、当月における推定請求額のタイミングの違い、四捨五入により、データが請求書や [請求] ページと異なる場合があります。

詳細については、「[Billing および Cost Explorer データの違いを知る](#)」を参照してください。

AWS クラウド 財務管理の詳細については、AWS Billing and Cost Management コンソールの「[開始方法](#)」ページを参照してください。トピックを選択してから、特定のコンソールページまたはドキュメントのリンクを使用することができます。

Billing and Cost Management ウィジェットの管理

ウィジェットを移動またはサイズ変更することで、ウィジェットの表示方法をカスタマイズできます。

Billing and Cost Management ウィジェットを管理する

1. <https://console.aws.amazon.com/costmanagement> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. (オプション) Billing and Cost Management ホームページをカスタマイズするには、ウィジェットをドラッグアンドドロップで移動するか、ウィジェットのサイズを変更します。
3. 各推奨事項に基づいてアクションを実行したり、詳細を確認したりするには、ウィジェット内のデータを確認し、ウィジェット内のリンク先に移動します。
4. レイアウトをリセットするには、[レイアウトをリセット] を選択し、[リセット] を選択します。

以下のウィジェットを使用できます。

- [コスト概要](#)
- [コストモニター](#)
- [コストの内訳](#)
- [推奨されるアクション](#)
- [コスト削減の機会](#)
- [トップトレンド](#)

コスト概要

コスト概要ウィジェットでは、前月の支出と比較した現在のコスト傾向を簡単に確認できます。

[請求] ページで当月の推定請求額を表示するには、[請求書を表示] を選択します。

コスト概要ウィジェットに表示されるすべての指標には、クレジットと返金は含まれていません。つまり、ホームページには、[請求] ページや請求書とは異なる数値が表示される場合があります。ウィジェットには以下の指標が表示され、Cost Explorer で表示するように選択できます。

- [今月の初めから今日までのコスト] — 当月の推定コストです。このトレンド指標は、当月のコストを同じ期間の前月のコストと比較します。
- [同期間の前月のコスト] — 同じ期間の前月のコストです。例えば、今日が 2 月 15 日の場合、ウィジェットには 1 月 1～15 日までの前月のコストも表示されます。

Note

トレンドの計算は、各月の日数によって影響を受ける場合があります。例えば、7 月 31 日のトレンド指標は 7 月 1～31 日までのコストを調べ、6 月 1～30 日のコストと比較します。

- [当月の予測コストの合計] — 当月の推定総コストの予測です。
- [前月のコストの合計] — 前月の総コストです。詳細については、各指標を選択して Cost Explorer でコストを表示するか、[請求書を表示] を選択して、[請求] ページで当月の推定請求額を確認してください。

 Note

このウィジェットの指標には、クレジットと返金は含まれていません。ここに表示されるコストは、[請求] ページや請求書に記載されているコストと異なる場合があります。

Cost Explorer へのアクセスの詳細については、「[Cost Explorer で予測する](#)」を参照してください。

コストモニター

このウィジェットは、コストと使用状況の予算、および が AWS 検出したコスト異常をすばやく表示し、修正できるようにします。

- [予算状況] — コストと使用量の予算のいずれかが超過した場合に警告します。

ステータスは以下ようになります。

- [OK] — コストと使用量の予算を超えていません。
- [予算超過] — コストと使用量の予算を超えています。実際のコストが 100% より大きくなっています。超過した予算の数と警告アイコンが表示されます。
- [セットアップが必要です] — コストと使用量の予算をまだ作成していません。

ステータスインジケーターを選択して [予算] ページに移動し、各予算の詳細を確認するか、予算を作成します。予算ステータスインジケーターには、コストと使用予算に関する情報のみが表示されます。カバレッジ、Savings Plans の利用状況、予約状況を追跡するために作成した予算は、このウィジェットには表示されません。コスト異常ステータスは、現在の月の最初の日以降に がコストの異常 AWS を検出した場合に警告します。ステータスは以下ようになります。

- [OK] — 当月のコスト異常は検出されていません。
- [異常検出] — コスト異常が検出されました。検出された異常の数と警告アイコンが表示されます。
- [セットアップが必要です] — 異常検出モニターはまだ作成されていません。

ステータスインジケーターを選択して [コスト異常検出] ページに移動し、検出された各異常の詳細を確認するか、異常検出モニターを作成します。コスト異常ステータスインジケーターには、当月に

検出されたコスト異常に関する情報のみが表示されます。すべての異常履歴を表示するには、[コスト異常検出] ページにアクセスしてください。

予算の詳細については、「[でコストを管理する AWS Budgets](#)」を参照してください。

異常検出モニターの詳細については、「[AWS 異常検出で異常な使用料を検出する](#)」を参照してください。

コストの内訳

このウィジェットでは過去 6 か月間のコストの内訳が表示されるため、コストの傾向と要因を把握できます。コストの内訳については、ドロップダウンリストからオプションを選択してください。

- サービス
- AWS リージョン
- メンバーアカウント (AWS Organizations 管理アカウント用)
- コスト配分タグ
- コストカテゴリ

コストカテゴリまたはコスト配分タグキーを選択した場合は、グラフにカーソルを合わせると値が表示されます。

コストと使用状況を詳しく調べるには、[Cost Explorer でコストを分析] を選択します。Cost Explorer を使用すると、アベイラビリティゾーン、インスタンスタイプ、データベースエンジンなどのディメンションを追加して、コストと使用状況を視覚化、グループ化、フィルタリングできます。

Cost Explorer の詳細については、「[Cost Explorer を使用してデータを探索する](#)」を参照してください。

推奨されるアクション

このウィジェットは、AWS クラウド財務管理のベストプラクティスを実装し、コストを最適化するのに役立ちます。これには、推奨されるアクションが優先度順に表示されます。重要なアラートが最上部に表示され、その後にアドバイザリ警告と情報提供的な推奨アクションが続きます。

ベストプラクティスとして、重大アラートを毎日監視し、支払い問題や予算超過といった即時的アクションに焦点を当てることをお勧めします。勧告的警告は週 1 回の頻度で確認します。

推奨されるアクションウィジェットを使用する

1. それぞれの推奨事項については、リンクをクリックしてアカウントに対するアクションを実行してください。デフォルトでは、ウィジェットには最大 4 つの推奨アクションが表示されます。
2. その他の推奨アクションを読み込むには、[その他のアクションを読み込む] を選択します。
3. 重要ではない推奨アクションを非表示にするには、右上隅の [X] アイコンを選択します。重大なアラートは、対処されるまで表示され続けます。非表示にされた重要でない推奨アクションは、7 日後に再び表示されます。

Note

推奨されるアクションを表示するには、AWS サービスへの IAM アクセス許可が必要です。例えば、`budgets:DescribeBudgets` を除くすべての Billing and Cost Management アクションに対するアクセス権があれば、ページ上で予算以外のすべての推奨事項を確認できます。不足している IAM アクションをポリシーに追加することについてのエラーメッセージを参照してください。

すべての推奨アクションを表示するには、新しい IAM 許可である `bcm-recommended-actions:ListRecommendedActions` が必要になります。詳細については、

「[Understanding recommended action types](#)」を参照してください。

さまざまな推奨アクションタイプと、対応する IAM ポリシー許可 (推奨アクションを表示するために必要なもの) の完全なリストについては、「[Billing and Cost Management recommended actions policies](#)」を参照してください。

推奨アクションの分類の詳細については、「[Understanding recommended action types](#)」を参照してください。

コスト配分カバレッジ

組織内でコストを可視化し、説明責任を果たすには、チーム、アプリケーション、環境、またはその他の面にコストを配分することが重要です。このウィジェットには、コストカテゴリとコスト配分タグに未割り当てのコストが表示されるため、コストを整理するためのアクションを取るべき部分がわかります。

コスト配分カバレッジは、作成したコストカテゴリまたはコスト配分タグキーに値が割り当てられていないコストの割合として定義されます。

Example例

- 今月の支出額は 100 USD で、コストを個々のチームごとに整理するためのコストカテゴリ (Team という名前) を作成しました。
- チーム A のコストカテゴリの値は 40 USD、チーム B のコストカテゴリの値は 35 USD です。また未割り当ての 25 USD があります。
- この場合、コスト配分カバレッジは $25/100 = 25\%$ です。

未配分コスト指標が低いということは、コストは組織にとって重要な側面に沿って適切に配分されているということです。詳細については、「リソースのタグ付けのベストプラクティス」ホワイトペーパーの「[コスト配分戦略の構築](#)」を参照してください。 AWS

このウィジェットは、当月の直近の未割り当てコスト率を前月のすべての未割り当てコスト率と比較します。このウィジェットには、最大 5 つのコスト配分タグキーまたは 5 つのコストカテゴリが表示されます。コスト配分タグキーまたはコストカテゴリのいずれかが 5 つを超える場合は、ウィジェットの設定を使用して必要なものを指定してください。

Cost Explorer を使用して未割り当てのコストをより詳細に分析するには、コストカテゴリまたはコスト配分名を選択します。

コストカテゴリまたはコスト配分タグのコスト配分カバレッジを向上させるには、AWS タグエディタを使用してコストカテゴリルールを編集したり、リソースのタグ付けを改善したりできます。

詳細については、以下の各トピックを参照してください。

- [コストカテゴリによる AWS コストの管理](#)
- [AWS コスト配分タグの使用](#)
- [Using Tag Editor](#)

コスト削減の機会

このウィジェットには、コストと AWS の請求額の削減に役立つ Cost Optimization Hub からの推奨事項が表示されます。これには次が含まれる場合があります。

- 未使用のリソースを削除する
- 過剰にプロビジョニングされたリソースを適切なサイズに調整する
- Savings Plans を購入または予約する

削減の機会ごとに、ウィジェットには毎月の推定削減額が表示されます。推定削減額は重複せず、推奨される削減機会ごとに自動的に調整されます。

Example例

- ##### A と ##### B の 2 つの Amazon EC2 インスタンスがあるとします。
- Savings Plans を購入した場合、##### A のコストを 20 USD、##### B のコストを 10 USD 削減できるため、合計 30 USD の削減になります。
- ただし、##### B がアイドル状態の場合、ウィジェットは Savings Plans を購入する代わりにこのインスタンスを終了するように勧める場合があります。削減の機会があれば、アイドル状態の ##### B を終了することでどれだけ削減できるかがわかります。

このウィジェットで節約できる機会を確認するには、Cost Optimization Hub ページにアクセスするか、[コスト管理設定ページ](#)を使用してオプトインできます。

請求転送を使用する場合、節約の機会はオンデマンドコスト (交渉割引、AWS Partner Network プログラム割引、リザーブドインスタンスおよび Savings Plans 割引のないコスト) に基づいて計算されます。請求転送がアクティブな間のコスト最適化のベストプラクティスについては、[「外部アカウントへの請求管理の転送」](#)を参照してください。

トップトレンド

このウィジェットには、過去 2 か月間で最も顕著なコスト変化の概要が簡単に表示されます。

- コスト変動の上位 10 件を絶対金額差でソートして表示します
- パーセンテージと絶対値の両方の変化を表示します
- 変化が発生した特定のサービス、アカウント、またはリージョンを強調表示します
- 任意のトレンドを選択して、Cost Explorer の [比較] ビューで詳しく分析できます

コストの傾向をさらに詳しく調べるには、[コストエクスプローラーでコストトレンドを表示] を選択します。

コストの比較に関する詳細については、「[Comparing your costs between time periods](#)」を参照してください。

請求ダッシュボードを理解する

Note

ナビゲーションペインの [レガシーページ] セクションから、以前のバージョンの [Billing] ホームページにアクセスできます。

請求ダッシュボード (旧コンソール) を理解する

AWS 請求コンソールのダッシュボードページを使用して、AWS 支出の一般的なビューを取得できます。また、最もコストの高いサービスまたはリージョンを特定したり、過去数か月間の使用料金の傾向を表示したりするために使用することもできます。ダッシュボードページを使用して、AWS 使用状況のさまざまな内訳を表示できます。これは、無料利用枠のユーザーである場合に特に便利です。AWS のコストおよび請求書に関する詳細を表示する場合は、左側のナビゲーションペインにある [Billing details] (請求の詳細) を選択します。ダッシュボードレイアウトは、ページ上部にある歯車アイコンをクリックすることで、ユースケースに合わせていつでもカスタマイズできます。

AWS 請求コンソールダッシュボードで AWS コストを表示しても、Cost Explorer を有効にする必要はありません。Cost Explorer をオンにしてコストと使用状況データの追加のビューにアクセスするには、「[Enabling AWS Cost Explorer](#)」を参照してください。

AWS 請求コンソールとダッシュボードを開くには

- にサインイン AWS マネジメントコンソール し、<https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。

デフォルトでは、コンソールに AWS [Billing Dashboard] (請求ダッシュボード) ページが表示されます。

ダッシュボードページについて

AWS 請求コンソールダッシュボードには、以下のセクションが含まれています。希望するレイアウトを作成するには、[Dashboard] (ダッシュボード) ページのセクションをドラッグアンドドロップします。表示されるセクションとレイアウトをカスタマイズする場合は、ページ上部にある歯車アイコンをクリックします。これらの設定は、[Dashboard] (ダッシュボード) ページへの継続的なアクセス用に保存されます。ビューからセクションを一時的に削除するには、各セクションの x アイコンを選択します。すべてのセクションを表示するには、ページ上部にある [Refresh] (更新) を選択します。

AWS 概要

このセクションでは、すべてのアカウント、サービスプロバイダー AWS リージョン、サービス、およびその他の KPI の AWS コストの概要を示します。KPIs 前期間と比較した合計には、直近の解約月の合計 AWS コストが表示されます。また、当月の予測コストの合計との比較も行います。カードの歯車アイコンをクリックして、表示する KPI を決定します。

最も高いコストと使用量の詳細

このセクションには、過去 1 か月 (MTD) の推定支出ごとの上位サービス、アカウント、または AWS リージョンが表示されます。表示する項目を選択するには、右上の歯車アイコンをクリックします。

上位 5 つのサービスごとのコスト傾向

このセクションでは、直近 3~6 回分の請求期間における上位 5 つのサービスのコスト傾向を確認できます。

セクションの上部で、グラフの種類と期間のいずれかを選択できます。歯車アイコンを使用して追加設定を調整できます。

行には以下の情報が示されます。

- 平均: 直近 3 か月間の平均コスト。
- 合計: 直近の請求での合計。
- 傾向: [Total] (合計) 列を [Average] (平均) 列と比較する。

アカウントのコスト傾向

このセクションには、直近 3~6 回分の請求期間におけるアカウントのコスト傾向が表示されます。の管理アカウントの場合 AWS Organizations、上位 5 つのセクションのコスト傾向には、直近 3 つから 6 つの終了した請求期間の上位 5 つの AWS アカウントが表示されます。請求書がまだ発行されていない場合、このセクションにはデータが表示されません。

セクションの上部で、グラフの種類と期間のいずれかを選択できます。歯車アイコンを使用して追加設定を調整します。

行には以下の情報が示されます。

- 平均: 直近 3 か月間の平均コスト。
- 合計: 直近の請求での合計。
- 傾向: [Total] (合計) 列を [Average] (平均) 列と比較する。

ダッシュボードでは、次のグラフを表示できます。

- 支出の概要
- サービスごとの過去 1 か月の支出
- 支出ごとの過去 1 か月の上位サービス

支出の概要

[支出の概要] グラフには、先月に支出した金額、過去 1 か月の AWS 使用量、および今月どの程度支出する可能性があるかの予測を表示します。予測は、過去の AWS コストに基づく見積りです。したがって、実際の月次コストが予測と一致しない場合があります。

サービスごとの過去 1 か月の支出

[Month-to-Date Spend by Service] (サービスごとの過去 1 か月の支出) グラフには、最も頻繁に使用する上位のサービスと、そのサービスがコストに占める割合が表示されます。[サービスごとの過去 1 か月の支出] グラフには予測は含まれません。

支出ごとの過去 1 か月の上位サービス

[支出ごとの過去 1 か月の上位サービス] グラフには、最も頻繁に使用するサービスと、過去 1 か月に発生したコストが表示されます。[支出ごとの過去 1 か月の上位サービス] グラフには予測は含まれません。

Note

請求情報とコスト管理コンソールの更新時間は、請求データを反映するために約 24 時間です。

Billing および Cost Explorer データの違いを知る

Billing and Cost Management コンソールにアクティブなデータがある場合、Cost Explorer データと比較して、[Billing] ページと [支払い] ページに表示される際に注意すべき重要な違いがあります。このセクションでは、各データセットの使用方法和各データセットの利点について詳しく説明します。

 Note

請求元アカウントを使用して Billing and Cost Management コンソールにサインインすると、請求転送アカウントがコストデータを制御している場合でも、Billing and Cost Explorer データに同じ違いが表示されます。

請求データ

請求データは、AWS Billing and Cost Management コンソールの請求書と支払いページ、および AWS 発行する請求書に表示されます。請求データは、前月の請求期間における実際の請求額と、その月のサービス利用状況に基づき現在の請求期間に発生した推定請求額を把握するのに役立ちます。請求書は、支払うべき金額を表します AWS。

Cost Explorer データ

Cost Explorer データは次の場所に表示されます。

- Billing and Cost Management ホームページ
- Cost Explorer、Budgets、コスト異常検出のページ
- カバレッジと使用状況に関するレポート

Cost Explorer は詳細な分析をサポートしているため、節約の機会を特定できます。Cost Explorer データは、より詳細なディメンション (アベイラビリティゾーンやオペレーティングシステムなど) を提供します。また、請求データと比較すると違いが見られる可能性のある特徴が含まれています。[Cost Management] 設定ページでは、連結アカウントへのアクセスや、履歴データおよび詳細なデータの設定など、Cost Explorer データの設定を管理できます。詳細については、「[Cost Explorer へのアクセスの管理](#)」を参照してください。

償却コスト

請求データは、常に現金ベースで表示されます。これは、が毎月 AWS 請求する金額を表します。例えば、9 月に全額前払いの 1 年間の Savings Plan s を購入すると、AWS は 9 月の請求期間中にその Savings Plan s の全額を請求します。その際、請求データには、Savings Plans の 9 月の全費用が含まれます。これにより、AWS 請求書の理解、検証、支払いを時間どおりに行うことができます。

一方、Cost Explorer データを使用して、償却されたコストを表示することもできます。コストが償却されると、前払い料金がその契約期間全体に分配、つまり償却されます。前の例では、Cost

Explorer を使用して Savings Plans の償却ビューを表示できます。1 年分全額前払いの Savings Plans 購入は、契約対象の 12 か月間に均等に分散されます。償却コストを参考に、予約ポートフォリオや Savings Plans に関連する 1 日の実効コストを把握できます。

AWS のサービス グループ化

請求データでは、AWS 請求は請求書 AWS のサービスの にグループ化されます。詳細な分析に役立つように、Cost Explorer では一部のコストを異なる方法でグループ化します。

例えば、Amazon Elastic Compute Cloud のコンピューティングコストを、Amazon Elastic Block Store ボリュームや NAT ゲートウェイなどの付随的なコストとの比較で把握するとします。Cost Explorer は、Amazon EC2 のコストを単一のグループに分類する代わりに、コストを [EC2 - インスタンス] と [EC2 - その他] にグループ化します。

別の例として、データ転送コストの分析に役立つように、Cost Explorer は転送コストをサービスごとにグループ化します。請求データでは、データ転送コストは [データ転送] という名前の 1 つのサービスにグループ化されます。

当月の推定請求額

請求データと Cost Explorer データは、1 日に 1 回以上更新されます。更新される頻度は異なる場合があります。その結果、月次の推定料金に差異が発生することがあります。

Rounding

請求データと Cost Explorer データは、別の精度で処理されます。例えば Cost Explorer のデータは、時間単位およびリソースレベルの精度で利用できます。請求データは月単位で、リソースレベルの詳細は提供されません。その結果として、四捨五入によって請求データと Cost Explorer データに差異が発生する場合があります。これらのデータソースが異なる場合は、請求書に記載されている金額が最終的な AWS への未払い金額になります。

割引、クレジット、返金、税金の表示

[請求] ページ (例えば、[サービス別料金] タブ) の請求データには返金が含まれませんが、Cost Explorer データには含まれます。返金が行われると、他の請求タイプとの差異が発生する場合があります。

例えば、税金の一部が返金されたとします。[請求] ページの [サービス別税金] タブには、引き続き税額の全額が表示されます。Cost Explorer データには、返金後の税額が表示されます。

請求転送を使用して請求元アカウントで Billing and Cost Management コンソールにサインインする場合、請求ページ、Cost Explorer、または でクレジット、返金、または税金を表示することはできません AWS Cost and Usage Report。」

請求について

AWS 請求書に関する質問や料金の請求については、[に連絡してお問い合わせ サポート にすぐに対応してください](#)。サポートが必要な場合は、「[請求書と支払いに関するサポートを受ける](#)」を参照してください。請求書ページの内容を理解するには、「[\[請求\] ページを使って月額料金と請求書を理解する](#)」を参照してください。

Note

AWS 組織で請求転送を使用する場合は、まず請求転送アカウントの所有者に連絡してください。アカウント所有者がコストデータを管理して AWS 請求書を受け取るためです。請求書転送アカウント情報を確認するには、請求転送ページのアウトバウンド請求タブに移動します。

使用料と定期的な料金の AWS 請求書が毎月届きます。1 回限りの料金、例えば一括前払いのリザーブドインスタンスの購入費などは、ただちに請求されます。

今月の予定請求金額と過去の月の最終料金は、いつでも確認できます。このトピックでは、毎月の請求と過去の請求の確認方法、請求レポートの受け取りと内容の確認方法、請求書のダウンロード方法について説明します。支払いを行うには、「[支払い](#)」を参照してください。

トピック

- [月額料金を表示する](#)
- [\[請求\] ページを使って月額料金と請求書を理解する](#)
- [請求書の PDF をダウンロードする](#)
- [月別レポートをダウンロードする](#)
- [AWS 請求書の表示と修正](#)
- [予期しない請求について](#)

月額料金を表示する

Billing and Cost Management コンソールで月額料金を表示するときはこちらの手順に従います。

月額料金を表示するには

1. にサインイン AWS マネジメントコンソール し、<https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [請求] を選択します。
3. [請求期間] (例: 2023 年 8 月) を選択します。
4. AWS 請求書の概要を表示します。

月額料金を表示する (古いコンソール)

月額料金を表示するには

1. にサインイン AWS マネジメントコンソール し、<https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [\[請求\]](#) を選択します。
3. [請求期間] で、月を選択します。

[Summary] セクションには、その月の料金の概要と明細が表示されます。

Note

要約は、その月のアクティビティが完了して最終的な料金が AWS で計算されない限り、請求書ではありません。

で一括請求機能を使用する場合 AWS Organizations、請求ページには、アカウントごとの請求タブのすべてのアカウントの合計が一覧表示されます。組織のアカウントごとにアクティビティを表示するには、アカウント ID を選択します。一括請求の詳細については、「[の請求の統合 AWS Organizations](#)」を参照してください。

[請求] ページを使って月額料金と請求書を理解する

毎月の請求期間の終了時、または 1 回限りの料金が発生すると、 は PDF ファイルとして請求書 AWS を発行します。クレジットカードで支払う場合、 は現時点で登録されているクレジットカード AWS にも請求します。

請求書をダウンロードして月額料金の詳細を表示するには、AWS Billing and Cost Management コンソールの請求書ページを使用できます。

請求転送を使用し、請求書ソースアカウントまたはそのリンクされたアカウントを使用して請求書ページにサインインする場合、請求書転送アカウントはコストデータを制御します。請求書ページには、請求書ソースアカウントまたはそのリンクされたアカウントの請求書は表示されません。これらは請求書転送アカウントに送られるためです。請求書転送アカウントでは、請求書ページに請求書ソースアカウントごとに個別の請求書が表示されます。

Note

Billing and Cost Management コンソールのページには、IAM ユーザーが使用するときは明示的なアクセス許可が必要になるページがあります。詳細については、「[アクセス許可の管理の概要](#)」を参照してください。

請求ページ

請求書ページを使用して、毎月の請求対象コストと、AWS のサービス および での購入の詳細を確認できます AWS Marketplace。請求書は、毎月の請求期間が終了したとき (請求ステータスが [発行済み] になっている)、もしくは、サブスクリプションがあるときか 1 回限りの購入が行われたときに生成されます。毎月の請求期間が終了していない (請求ステータスが保留中と表示される) AWS のサービス 場合、このページには、現在までに計測された最新の推定請求額が表示されます。

の管理アカウントとしてサインインしている場合は AWS Organizations、メンバーアカウントの一括料金を確認できます。アカウントレベルの詳細は、[アカウント別料金] から確認できます。

を使用する管理アカウントとしてサインインすると AWS Billing Conductor、請求ビューモードをアクティブ化し、請求グループビューを選択することで、請求グループの見積りコストを表示できます。請求転送を使用し、請求転送アカウントとしてサインインする場合、請求ビューモードを有効にして請求転送ショーバックまたはチャージバックビューを選択することで、その請求をアカウントに移管 AWS Organizations するための見積りコストを表示できます。請求書ソースアカウントとしてサインインすると、請求書転送アカウントは請求書ページに表示されるコストデータを制御します。

見積りデータの詳細については、AWS Billing Conductor 「ユーザーガイド」の「[見積り請求データとは](#)」を参照してください。

表示されるセクションをカスタマイズする場合は、ページ上部にある歯車アイコンを選択します。これらの設定は、[請求書] ページの今後の利用のために保存されます。

AWS 請求の概要

AWS 請求の概要セクションには、月額料金の概要が表示されます。こちらの情報は、すでに終了した請求期間 (請求ステータスが [発行済み] になっている) の請求書の合計金額です。

終了していない請求期間は、ステータスに [保留中] と表示されます。合計には、AWS のサービス従量制料金に基づく最新の推定料金が表示されます。合計は米ドル (USD) で表示されます。請求書が別の通貨で発行された場合、他の通貨での合計も表示されます。

支払い情報

支払い情報セクションには、支払い AWS を受け取った選択した請求期間の請求書が一覧表示されます。サービスプロバイダー、請求タイプ、ドキュメントタイプ、請求書 IDs、支払いステータス、支払い AWS 受領日、合計金額を USD で確認できます。請求書が別の通貨で発行された場合、他の通貨での合計も表示されます。詳細については、「[Managing Your Payments](#)」を参照してください。

サービスプロバイダーごとの最も高いコスト

サービスプロバイダー別の最高コストセクションでは、アカウントのサービスと請求期間の AWS リージョン 最高コストを特定し、それぞれのmonth-over-monthの傾向を表示します。保留中の請求期間の場合、月比トレンドは、現在の請求期間の月累計支出と前の請求期間の同等の部分を比較します。

サービス別の料金

サービス別の料金タブには、それぞれの支出が表示されます AWS のサービス。こちらは、サービス名または USD の金額で並べ替えたり、サービス名およびリージョンでフィルタリングしたりすることができます。各サービスの横にある + アイコンをクリックすると、そのサービスの料金がリージョン別に表示されます。リージョンを選択して、料金の詳細を表示します。

アカウント別の料金

AWS Organizations を使用して管理アカウントにサインインすると、アカウント別の料金タブに各メンバーアカウントの支出が表示されます。アカウント ID、アカウント名、または米ドルでの金額で並べ替えたり、アカウント ID またはアカウント名でフィルタリングしたりできます。各アカウントの横にある + アイコンを選択すると、サービスプロバイダ別のアカウントの料金が表示されます。各明細項目の横にある + アイコンを選択すると、そのサービスおよびリージョン別に料金が表示されます。リージョンを選択して、料金の詳細を表示します。

請求書

[請求書] のタブには、選択した請求期間中にトランザクションが発生した各サービスプロバイダーの、請求書が一覧で表示されます。ここには、請求タイプ、請求書の日付、合計金額 (USD) などの詳細が記載されています。請求書が別の通貨で発行された場合、他の通貨での合計も表示されます。各請求書の PDF を表示したり、ダウンロードしたりするときは、[請求書 ID] を選択します。

請求書転送アカウントとしてサインインすると、請求書を転送 AWS Organizations した の請求書を表示できます。組織ごとに 1 つの請求書を受け取ります。請求書ソースアカウントとしてサインインすると、請求書転送アカウントは請求書ページに表示されるコストデータを制御します。請求転送がアクティブな間は AWS、請求書は届きません。

削減量

[削減額] のタブには、Savings Plans、クレジット、その他割引プログラムの結果として、請求期間中の削減額がまとめられています。これらの削減額は、[サービス別料金]、[アカウント別料金]、[請求書] の各タブにも反映されています。各節約タイプを選択して、サービス別の詳細を表示します。

サービス別の税金

[サービス別税金] のタブには、税金が課されたサービスの税引き前料金、税金、税引き後料金が表示されています。サービス名、税引き後の料金、税引き前の料金、または米ドルでの税金で並べ替えたり、サービス名でフィルタリングしたりできます。

税金請求書と補足文書

[税金請求書と補足文書] のセクションには、選択した請求期間の税金請求書とその他補足文書が一覧表示されています。すべてのサービスプロバイダーが納税請求書を発行するわけではありません。[請求書 ID] 列には、税金請求書に関連付けられているコマーシャルインボイスが表示されています。各請求書の PDF を表示したり、ダウンロードしたりするときは、[ドキュメント ID] を選択します。

請求書の PDF をダウンロードする

毎月の請求書の PDF をダウンロードするには、以下の手順に従ってください。

料金のコピーを PDF ドキュメントとしてダウンロードするには

1. <https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。

2. [請求] ページで、[請求期間] の [月] を選択します。
3. [AWS 請求の概要] セクションで、[請求ステータス] が [発行済み] になっていることを確認します。
4. [請求書] タブを選択します。
5. ダウンロードするドキュメントの [請求書 ID] を選択します。
6. (EMEA SARL AWS 以外のサービスプロバイダーの場合) 特定の税金請求書のコピーをダウンロードするには、「税金請求書と補足ドキュメント」セクションで、ドキュメント ID を選択します。
7. (AWS EMEA SARL の場合) 特定の税金請求書のコピーをダウンロードするには、AWS EMEA SARL 料金セクションで、ドキュメント ID を選択します。

料金のコピーを PDF としてダウンロード (古いコンソール)

料金のコピーを PDF ドキュメントとしてダウンロードするには

1. <https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. [請求書] ページで、[日付] リストから、すべてのアクティビティが閉じている月を選択します。
3. [合計] の下で、[Amazon Web Services, Inc. - サービス料金] を選択します。
4. [請求書 <invoiceID>] を選択します。
5. (EMEA SARL AWS 以外のエンティティの場合) 特定の税金請求書のコピーをダウンロードするには、税金請求書セクションで請求書 <invoiceID> を選択します。
6. (AWS EMEA SARL の場合) 特定の税金請求書のコピーをダウンロードするには、Amazon Web Services EMEA SARL – サービス料金セクションの請求書 <invoiceID> を選択します。

請求書転送アカウントとしてサインインする場合:

- 請求書をお客様に転送 AWS Organizations する の請求書をダウンロードできます。組織ごとに 1 つの請求書を受け取ります。
- 請求転送請求書をダウンロードするには、請求ビューモードを無効にし、請求書ページに移動して、請求書タブを選択します。
- 各請求書 ID には、料金を生成した請求書ソースアカウント ID が含まれます。

請求書ソースアカウントとしてサインインする場合:

- 請求書は、請求書の支払いを担当する請求書転送アカウントに送信されます。
- 請求転送がアクティブな間は AWS、請求書は届きません。
- 請求転送がアクティブになる前の期間、引き続き請求書を受け取ります。
- 請求転送が有効になった後に請求書を受け取った場合でも、請求転送が有効になる前に発生した料金を支払う責任があります。
- 請求書転送アカウントは、請求転送がアクティブになる前または取り消された後の料金については責任を負いません。

請求転送請求書には、2 つの追加のメタデータフィールドが含まれます。

- 請求元アカウント ID
- 請求転送名

これらのフィールドは、請求を生成 AWS Organizations した に請求書に関連付けるのに役立ちます。

月別レポートをダウンロードする

将来の請求の CSV ファイルは、月別レポートを有効にした後でダウンロードできます。この機能を使うと、レポートが Amazon S3 バケットに配信されます。

Note

[請求] ページの [すべてを CSV にダウンロード] ボタンは、2025 年 11 月 1 日をもって使用できなくなります。以前に eCSV レポートの配信を設定した場合は、設定時に指定した Amazon S3 バケットからこのレポートを取得できます。追加のレポートを設定するには、[\[データエクスポート\]](#) コンソールページにアクセスしてください。

月別レポート用の CSV ファイルをダウンロードするには

1. <https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、[請求設定] を選択します。
3. [請求明細レポート (レガシー)] で [編集] を選択し、次に [S3 へのレガシーレポート配信] を選択します。

4. [S3 バケットをアクティブ化する] を選択し、レポートの配信先を指定します。
5. [S3 バケットの設定] ダイアログボックスで、次のいずれかを選択します。
 - 既存の S3 バケットを使用するときは、[既存の S3 バケットを使用] を選択して、S3 バケットを選択します。
 - 新しい S3 バケットを作成するときは、[新しい S3 バケットを作成] を選択し、[S3 バケット名] に名前を入力して、[リージョン] を選択します。
6. [次へ] を選択します。
7. デフォルトの IAM ポリシーを読み、[このポリシーが正しいことを確認しました] を選択します。
8. [保存] を選択します。
9. [請求] ページで、[すべてを CSV にダウンロード] を選択します。

AWS 請求書の表示と修正

Billing and Cost Management コンソールで AWS 請求書を表示できます。請求書の会社名、住所、発注書などの AWS 請求書情報を修正することもできます。

AWS 請求書を表示するには

1. <https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Bills] を選択します。
3. 請求期間の請求ページで、AWS 請求の概要を表示する期間を選択します。
4. [請求書] タブを選択します。

ここから、選択した請求期間の AWS 請求書のリストを表示できます。

5. (オプション) 請求書をダウンロードして詳細を確認するには、請求書の横にある縦並びの 3 点リーダーアイコン

() を選択し、[請求書をダウンロード] を選択します。

AWS 請求書を修正するには

1. <https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。

2. ナビゲーションペインで [Bills] を選択します。
3. 請求期間の請求ページで、AWS 請求の概要を表示する期間を選択します。
4. [請求書] タブを選択します。
5. 編集する請求書の横にある縦並びの 3 点リーダーアイコン
() を選択します。
6. 次のいずれかを行います。
 - [アカウントの会社名と住所を更新] を選択します。
 - 会社名または住所の情報を更新します。
 - [発注書を更新] を選択します。
 - a. 請求書に関連付ける既存の発注書を選択します。
 - b. (オプション) この時点で新しい発注書を作成し、請求書に関連付けることができます。
7. [更新および再処理] を選択して、請求書を更新します。
8. 請求書更新のステータスを確認するには、[請求書] タブの [更新ステータス] 列を参照してください。

Note

他の請求書属性を変更するには、[にお問い合わせください サポート](#)。詳細については、[「へのお問い合わせ サポート」](#)を参照してください。

予期しない請求について

AWS 請求書に関する質問や料金の請求については、[お問い合わせ サポート](#) にすぐに対応してください。サポートが必要な場合は、「[請求書と支払いに関するサポートを受ける](#)」を参照してください。請求書ページの内容を理解するには、「[\[請求\] ページを使って月額料金と請求書を理解する](#)」を参照してください。

Note

AWS 組織で請求転送を使用する場合は、まず請求転送アカウントの所有者に連絡してください。アカウント所有者がコストデータを管理して AWS 請求書を受け取るためです。請求書転送アカウント情報を確認するには、請求転送ページのアウトバウンド請求タブに移動します。

以下の例は、予想外の料金が請求されないようにするために役立ちます。このページには、特にサービスのサブスクリプションを解除したり、アカウントを閉鎖したりすると、予期しない料金が発生する AWS 可能性がある の個々のサービス内の特定の機能や動作が一覧表示されます。

Note

これは網羅的なリストではありません。具体的なユースケースに関する質問は、「[請求書と支払いに関するサポートを受ける](#)」のプロセスに従って サポート までお問い合わせください。

アカウントを閉鎖するか、サービスからサブスクリプションを解除する場合は、AWS リソースを割り当て AWS リージョン たすべての に対して適切な手順を実行してください。

トピック

- [使用量がを超えています AWS 無料利用枠](#)
- [アカウント閉鎖後に受け取った請求](#)
- [でリソースがオフになっている AWS リージョン 場合に発生する料金](#)
- [他のサービスによって起動されたサービスによって発生する料金](#)
- [Amazon EC2 インスタンスによって発生する料金](#)
- [Amazon Elastic Block Store ボリュームとスナップショットによって発生する料金](#)
- [Elastic IP アドレスによって発生する料金](#)
- [ストレージサービスによって発生する料金](#)
- [請求転送を使用する AWS Organizations に対して発生する料金](#)
- [へのお問い合わせ サポート](#)

使用量が を超えています AWS 無料利用枠

サービスの無料利用枠の利用期限が切れていないか確認します。の有料プランを選択した場合 AWS 無料利用枠、6 か月の終了後、またはクレジットが完全に使用された後に従量pay-as-youを使用して課金されます。アカウントは閉鎖されていないため、AWS リソースをシームレスかつ継続的に使用できます。詳細については、「[を使用してサービスを試す AWS 無料利用枠 \(2025 年 7 月 15 日より前\)](#)」を参照してください。

料金が発生しているリソースを特定したら、引き続きリソースを使用して請求を管理したり、未使用のリソースを終了したり、AWS アカウントを終了したりできます。

- 請求の管理については、「[とは AWS Billing and Cost Management](#)」および「[Billing の設定](#)」を参照してください。
- リソースの終了については、そのサービスのリソースドキュメントを参照してください。例えば、未使用の Amazon Elastic Compute Cloud インスタンスがある場合は、「[インスタンスの終了](#)」を参照してください。
- の閉鎖の詳細については AWS アカウント、「AWS アカウント管理 リファレンスガイド」の「[アカウントを閉じる](#)」を参照してください。

Note

請求転送を使用する場合、Cost Explorer、請求書ページ、または請求書転送アカウントがこのアクセスを有効に AWS Cost and Usage Report していない限り、無料利用枠の特典を表示することはできません。無料利用枠の特典に関するご質問は、請求書転送アカウントの所有者にお問い合わせください。

アカウント閉鎖後に受け取った請求

次のいずれかの理由により、アカウントを閉鎖した後に請求書が届く場合があります。

アカウントを閉鎖する前の 1 か月に発生した料金

月の初めからアカウントを閉鎖した日付までに発生した使用量に対して、最終的な請求書が届きます。例えば、1 月 15 日にアカウントを閉鎖した場合、1 月 1 日から 15 日の間に発生した使用に対する請求書が 2 月初旬に届きます。

アカウントにアクティブなリザーブドインスタンスがある

Amazon EC2 リザーブドインスタンス、Amazon Relational Database Service (Amazon RDS) リザーブドインスタンス、Amazon Redshift リザーブドインスタンス、または Amazon ElastiCache リザーブドキャッシュノードをプロビジョニングした可能性があります。予約期間が終了するまで、これらのリソースの請求書が引き続き届きます。詳細については、「Amazon EC2 ユーザーガイド」の「[リザーブドインスタンス](#)」を参照してください。

Savings Plans にサインアップした

プラン期間が完了するまで、Savings Plans でカバーされるコンピューティング使用量に対する請求書が引き続き届きます。Savings Plans の詳細については、[Savings Plans ユーザーガイド](#)を参照してください。

アクティブな AWS Marketplace サブスクリプションがある

AWS Marketplace サブスクリプションは、アカウント閉鎖時に自動的にキャンセルされません。まず、サブスクリプション内の[ソフトウェアのすべてのインスタンスを終了します](#)。次に、AWS Marketplace コンソールのサブスクリプションの[管理ページでサブスクリプション](#)をキャンセルします。

Important

アカウントを閉鎖してから 90 日以内に、アカウントへのサインイン、アクティブなリソースの表示、過去の請求の表示、AWS 請求書の支払いを行うことができます。詳細については、「AWS アカウント管理 リファレンスガイド」の「[Close your account](#)」を参照してください。

未払いの AWS 請求書の支払いについては、「」を参照してください [支払い](#)。

でリソースがオフになっている AWS リージョン 場合に発生する料金

AWS リージョン まだリソースがある をオフに (無効に) すると、それらのリソースに対して引き続き料金が発生します。ただし、無効なリージョンのリソースにはアクセスできません。

これらのリソースから料金が発生しないようにするには、リージョンを有効にし、そのリージョン内のすべてのリソースを終了してから、リージョンを無効にします。

アカウントのリージョンの管理の詳細については、「AWS アカウント管理 リファレンスガイド」の[AWS リージョン「アカウントで利用できる を指定する」](#)を参照してください。

他のサービスによって起動されたサービスによって発生する料金

多数の AWS のサービス がリソースを起動できるので、使用した任意のサービスを通じて起動した可能性のあるものをチェックしてください。

によって作成されたリソースから発生する料金 AWS Elastic Beanstalk

Elastic Beanstalk は、ユーザーが必要とするすべてのリソースが実行されるように設計されています。つまり、ユーザーが停止したすべてのサービスが自動的に再起動されます。これを回避するには、Elastic Beanstalk が作成したリソースを終了する前に Elastic Beanstalk 環境を終了する必要があります。詳細については、AWS Elastic Beanstalk デベロッパーガイドの「[環境を終了する](#)」を参照してください。

Elastic Load Balancing (ELB) ロードバランサーから発生する料金

Elastic Beanstalk 環境と同様に、ELB ロードバランサーは最小数の Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) インスタンスの実行を維持するように設計されています。ロードバランサーに登録された Amazon EC2 インスタンスを削除する前に、ロードバランサーを終了する必要があります。詳細については、Elastic Load Balancing ユーザーガイドの「[ロードバランサーの削除](#)」を参照してください。

で開始されたサービスによって発生する料金 OpsWorks

OpsWorks 環境を使用して AWS リソースを作成する場合は、OpsWorks を使用してそれらのリソースを終了するか、OpsWorks 再起動する必要があります。例えば、OpsWorks を使用して Amazon EC2 インスタンスを作成し、Amazon EC2 コンソールを使用してインスタンスを終了する場合、OpsWorks 自動ヒーリング機能はインスタンスを失敗として分類し、再起動します。詳細については、「[AWS OpsWorks ユーザーガイド](#)」を参照してください。

Amazon EC2 インスタンスによって発生する料金

ロードバランサーと Elastic Load Balancing 環境を削除した後、Amazon EC2 インスタンスを停止または終了できます。インスタンスを停止しても後で再起動できますが、ストレージ料金が請求されることがあります。インスタンスを終了すると、インスタンスは完全に削除されます。詳細については、「Amazon EC2 ユーザーガイド」の「[インスタンスのライフサイクル](#)」、特に「[インスタンスの停止と起動](#)」と「[インスタンスの削除](#)」を参照してください。

注意事項

- Amazon EC2 インスタンスは複数の AWS のサービスの基盤として機能します。これらのインスタンスは他のサービスによって起動された場合でも、Amazon EC2 コンソールのインスタンスリストに表示される場合があります。例えば、Amazon RDS インスタンスは、Amazon EC2 インスタンスで実行されます。
- 基盤となる Amazon EC2 インスタンスを終了すると、それを起動したサービスが終了をエラーと解釈し、インスタンスを再起動することがあります。たとえば、には、障害を検出したときにリソースを再起動する自動ヒーリングと呼ばれる機能 OpsWorks があります。通常、リソースを削除するためのベストプラクティスは、それを起動したサービスを通して実行することです。

さらに、インスタンスストアを使用する Amazon Machine Image (AMI) から Amazon EC2 インスタンスを作成する場合は、Amazon S3 で関連するバンドルを確認します。AMI の登録を解除しても、バンドルは削除されません。詳細については、「Amazon EC2 ユーザーガイド」の「[AMI の登録を解除する](#)」を参照してください。

Amazon Elastic Block Store ボリリュームとスナップショットによって発生する料金

ほとんどの Amazon EC2 インスタンスは、関連付けられた Amazon EBS ボリリュームがその終了時に削除されるように構成されますが、ボリリュームとデータは保持するように設定できます。Amazon EC2 コンソールの [Volumes] ペインで、不要になったボリリュームを確認します。詳細については、「Amazon EC2 ユーザーガイド」の「[Amazon EBS ボリリュームを削除する](#)」を参照してください。

Amazon EBS ボリリュームのスナップショットを保存したが、不要になった場合は、それらも同様に削除します。ボリリュームを削除しても、関連付けられたスナップショットが自動的に削除されることはありません。

スナップショットの削除の詳細については、「Amazon EC2 ユーザーガイド」の「[Deleting an Amazon EBS snapshot](#)」を参照してください。

スナップショットを削除しても、組織のデータストレージコストが減少しない場合があります。他のスナップショットはそのスナップショットのデータを参照する場合があります。参照されたデータは常に保持されます。

Example例: スナップショットの削除

例えば、最初にデータボリュームが 10 GiB のスナップショット (*snap-A*) を取得した場合は、スナップショットのサイズも 10 GiB になります。スナップショットは増分バックアップであるため、2 回目に同じボリュームのスナップショットを取得した場合は、最初のスナップショットを取得後に変更したデータブロックのみ含まれます。

2 回目のスナップショット (*snap-B*) で、最初のスナップショットのデータを参照することもできます。つまり、4 GiB のデータを変更し、2 回目のスナップショットを取得した場合、2 番目のスナップショットのサイズは 4 GiB になります。また、2 番目のスナップショットでは、最初に取得した、変更していない 6 GiB のスナップショットを参照できます。詳細については、「Amazon EC2 ユーザーガイド」の「[How snapshots work](#)」を参照してください。

この例では、毎日の AWS コストと使用状況レポート (AWS CUR) に 2 つのエントリが表示されます。AWS CUR は、1 日のスナップショット使用量をキャプチャします。この例で、*snap-A* の使用量は 0.33 GiB (10 GiB/30 日)、*snap-B* の使用量は 0.1333 GiB (4 GiB/30 日) です。月額 0.05 USD/GB のレートを使用すると、*snap-A* のコストは $0.33 \text{ GiB} \times 0.05 \text{ USD} = 0.0165 \text{ USD}$ になります。*snap-B* のコストは $0.133 \text{ GiB} \times 0.05 \text{ USD} = 0.0066 \text{ USD}$ となり、両方のスナップショットに対して 1 日あたり合計 0.0231 USD となります。詳細については、「[AWS Data Exports ユーザーガイド](#)」を参照してください。

lineItem/ Operation	lineItem/ ResourceId	lineItem/ UsageAmount	lineItem/ UnblendedCost	resourceTags/ user:usage
CreateSnapshot	arn:aws:ec2:us-east-1:123:snapshot/snap-A	0.33	0.0165	dev
CreateSnapshot	arn:aws:ec2:us-east-1:123:snapshot/snap-B	0.133	0.0066	dev

最初のスナップショット (前の表の最初の行の *snap-A*) を削除すると、2 番目のスナップショット (前の表の 2 番目の行の *snap-B*) で参照されるデータはすべて保持されます。2 番目のスナップショットには 4 GiB の増分データが含まれており、最初のスナップショットの 6 GiB を参照しています。*snap-A* を削除すると、*snap-B* のサイズは 10 GiB (*snap-B* からの変更済みの 4 GiB および *snap-A* からの未変更の 6 GiB) になります。

次の表では、毎日の CUR AWS の *snap-B* の使用量は 0.33 GiB (10 GiB/30 日) で、1 日あたり 0.0165 USD で請求されます。スナップショットを削除すると、残りのスナップショットの料金は毎日再計算されるため、各スナップショットのコストも毎日変わる可能性があります。

lineItem/ Operation	lineItem/ ResourceId	lineItem/ UsageAmount	lineItem/ UnblendedCost	resourceTags/ user:usage
CreateSnapshot	arn:aws:ec2:us-east-1:123:snapshot/snap-B	0.33	0.0165	dev

スナップショットの詳細については、ブログ記事「[Cost Allocation for EBS Snapshots](#)」を参照してください。

Elastic IP アドレスによって発生する料金

終了したインスタンスにアタッチされたすべての Elastic IP アドレスはアタッチを解除されますが、割り当ては続行されます。その IP アドレスが不要になった場合は、追加料金が発生しないように解放してください。詳細については、「Amazon EC2 ユーザーガイド」の「[Elastic IP アドレスをリリース](#)」を参照してください。

ストレージサービスによって発生する料金

AWS リソースのコストを最小限に抑える場合は、Amazon RDS や Amazon S3 などの多くのサービスでストレージコストが発生する可能性があることに注意してください。ストレージの料金の詳細については、「[Amazon S3 料金](#)」および「[Amazon RDS の料金](#)」を参照してください。

請求転送を使用する AWS Organizations に対して発生する料金

請求書移管アカウントとしてサインインすると、その請求書を移管 AWS Organizations する料金を支払う責任があります。

へのお問い合わせ サポート

上記は、に予期しない料金が表示される理由をすべて網羅したリストではありません AWS アカウント。このページに記載されている理由のいずれにもよらない料金が発生した場合は、「[へのお問い合わせ サポート](#)」を参照してください。

AWS 支払いの管理

を開くには AWS アカウント、有効な支払い方法が登録されている必要があります。支払い方法の追加、更新、削除、および支払いを行うには、この章の手順を使用します。

AWS Billing and Cost Management コンソール [の Payment preferences](#) ページを使用して、AWS 支払い方法を管理できます。

Note

IAM ユーザーは、請求コンソールの一部のページにアクセスするために明示的なアクセス許可が必要です。詳細については、「[アクセス許可の管理の概要](#)」を参照してください。

支払いまたは支払い方法の詳細については、「[請求書と支払いに関するサポートを受ける](#)」を参照してください。

トピック

- [タグを使用して支払い方法へのアクセスを管理する](#)
- [支払い](#)
- [残りの請求書、未適用の資金、支払い履歴を表示する](#)
- [支払い検証の管理](#)
- [クレジットカードと ACH 口座振替の管理](#)
- [事前支払いの使用](#)
- [中国人民元での支払い](#)
- [PIX を使用した支払い \(ブラジル\)](#)
- [インドでの支払いの管理](#)
- [AWS 欧州での支払いの管理](#)
- [AWS Financing を使用して分割払いで請求書を支払う](#)
- [支払いプロファイルの使用](#)

タグを使用して支払い方法へのアクセスを管理する

属性ベースのアクセス制御 (ABAC) を使用して、支払い方法へのアクセスを管理できます。支払い方法を作成する際、キーと値のペアでタグ付けできます。その後、IAM ポリシーを作成し、タグを指定できます。例えば、project キーを追加してそのキーに test という値を割り当てると、IAM ポリシーによってこのタグの付いた支払い方法へのアクセスを明示的に許可または拒否できます。

新しい支払い方法にタグを追加したり、既存の支払い方法を更新したりするには、「[クレジットカードと ACH 口座振替の管理](#)」を参照してください。

Example タグを使用してアクセスを許可する

次のポリシーでは、IAM エンティティが visa の creditcard キーと値を持つ支払い方法にアクセスすることを許可します。

JSON

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [{
    "Effect": "Allow",
    "Action": [
      "payments:ListPaymentInstruments",
      "payments:GetPaymentInstrument",
      "payments:ListTagsForResource"
    ],
    "Resource": "arn:aws:payments::123456789012:payment-instrument/*",
    "Condition": {
      "StringEquals": {
        "aws:ResourceTag/creditcard": "visa"
      }
    }
  }]
}
```

Example タグを使用してアクセスを拒否する

次のポリシーでは、creditcard キーと値が visa である支払い方法に対して IAM エンティティが支払いアクションを完了することを拒否します。

JSON

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [{
    "Effect": "Allow",
    "Action": "payments:*",
    "Resource": "*"
  },
  {
    "Effect": "Deny",
    "Action": "payments:GetPaymentInstrument",
    "Resource": "arn:aws:payments::123456789012:payment-instrument:*",
    "Condition": {
      "StringEquals": {
        "aws:ResourceTag/creditcard": "visa"
      }
    }
  }
  ]
}
```

詳細については、IAM ユーザーガイドにある下記のトピックを参照してください。

- [ABAC とは AWS](#)
- [タグを使用した AWS リソースへのアクセスの制御](#)

支払い

このセクションのプロセスを使用して AWS 請求書の支払いを行うには、AWS Billing and Cost Management コンソールの支払いページを使用できます。

AWS は、毎月初めにデフォルトの支払い方法を自動的に請求します。その料金が正常に処理されない場合は、コンソールを使用して支払い方法を更新し、支払いを行うことができます。

請求書転送アカウントとしてサインインする場合:

- お客様は、請求書をお客様に転送 AWS Organizations する料金を支払う責任があります。
- これらの料金は、標準の支払いプロセスを使用して支払うことができます。

- 請求転送がアクティブになった前または取り消された後の からの請求については責任を負いません。

請求書のソースアカウントとしてサインインする場合:

- 請求転送がアクティブになる前に発生した使用量に対する支払いが発生する場合があります。
- アクティベーション後に請求書を受け取った場合でも、請求転送がアクティブになる前からのすべての料金はお客様の負担となります。

たとえば、11 月 15 日に請求転送の招待を受け入れると、請求転送は 12 月 1 日に有効になります。12 月初旬には、11 月 30 日までの使用に関する請求書が届きます。未払いの 11 月の請求書がある場合、請求転送がアクティブであっても、12 月以降も支払いリクエストを引き続き受け取ります。

 Note

ACH 銀行デビットで支払う場合、は請求書 AWS を提供し、月初から 10 日以内に支払い方法への請求を開始します。支払いが処理されるまで 3~5 日ほどかかる場合があります。詳細については、「[ACH 銀行引き落としによる支払い方法を管理する](#)」を参照してください。

支払いを行う前に、今後自動的に請求される支払い方法がデフォルトの支払い方法として設定されていることを確認します。クレジットカードを使用している場合は、カードが有効期限内であることを確認してください。詳細については、「[デフォルトの支払い方法を指定する](#)」および「[クレジットカードと ACH 口座振替の管理](#)」を参照してください。

支払いを行うには

1. <https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [支払い] を選択します。

[支払い期限] テーブルには、未処理の請求書がすべて一覧表示されます。請求書が一覧表示されていない場合は、この時点で必要なアクションはありません。

3. 未処理の請求書がある場合は、支払う請求書を [支払い期限] テーブルで選択してから、[支払いを完了する] を選択します。

4. [支払いを完了する] ページで、請求書の支払いに使用できる場合は、デフォルトの支払い方法が選択されます。別の支払い方法を使用する場合、または対象の支払い方法を選択する場合は、[変更] を選択します。
5. 概要が支払う金額と一致していることを確認し、[確認と支払い] を選択します。

銀行で支払いが処理されると、[支払い] ページにリダイレクトされます。

ACH 銀行デビットで支払い、AWS が銀行口座に請求できず、再試行する AWS 旨の E メールメッセージが から送信されたとします。銀行に連絡して問題を確認してください。

銀行口座への最後の請求に AWS 失敗したという E メールが届いた場合は、支払い期日表で支払う請求書を選択します。次に [支払いを完了する] を選択して請求書の支払いを行います。銀行口座への請求や、未払い金の支払いに関してご質問がある場合は、[サポートセンター](#)でケースを作成します。

海外送金で支払うが、使用料の支払期限が超過している場合は、[サポートセンター](#)でケースを作成します。

部分的な支払い

AWS Billing and Cost Management コンソールの支払いページを使用して、部分的な支払い方法を使用して AWS 請求書を支払います。このセクションでは、コンソールの手順と、支払いが失敗した場合のシナリオのトラブルシューティング方法について説明します。

部分的な支払いを行うには

1. <https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [支払い] を選択します。

[支払い期限] テーブルには、未処理の請求書がすべて一覧表示されます。請求書が一覧表示されていない場合は、この時点で必要なアクションはありません。

3. 未処理の請求書がある場合は、支払う請求書を [支払い期限] テーブルで選択してから、[支払いを完了する] を選択します。
4. [支払いを完了] ページでは、デフォルトの支払い方法が選択されます。
 - a. デフォルトの支払い方法続けるには、次のステップに進みます。

- b. 別の支払い方法を使用する場合、または現在の選択が部分的な支払いの対象ではない場合は、[変更] を選択します。
 - c. 新しい支払い方法の追加するには、「[クレジットカードと ACH 口座振替の管理](#)」を参照してください。
5. [支払い期限] テーブルで、支払う請求書を選択します。
 6. [支払い金額] 列に、各請求書に対して支払う部分的な支払い金額を入力します。
 7. [Verify and pay] (確認して支払う) を選択します。

銀行で支払いが処理されると、[支払い] ページにリダイレクトされます。

Note

- 部分的な支払いに中国人民元 (CNY) 中国銀聯クレジットカードを使用することはできません。
- サブスクリプション請求書と AWS Marketplace 請求書は、部分的な支払いの対象外です。
- 各支払いは、合計請求書金額の少なくとも 10% です。
- 残高が元の請求書金額の 10% 未満になる場合は、全額を支払う必要があります。
- 支払い金額は、請求書通貨で少なくとも 300 ユニットです (300 USD、300 円など)。

部分的な支払いのトラブルシューティング

支払いカードで前回の請求試行に AWS 失敗したという E メール通知を受け取った場合は、次のトラブルシューティングプロセスを試してください。

部分的な支払い請求の失敗をトラブルシューティングするには

1. <https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [支払い] を選択します。
3. [支払い期限] テーブルで、支払う請求書を選択します。
4. 支払う金額を選択します。
5. [Complete payment (支払いを完了)] を選択します。

トランザクションが引き続き失敗する場合は、銀行に連絡して、トランザクションが拒否される理由を確認してください。または、別の対象カードで支払うこともできます。

バックアップの支払い方法の使用

バックアップ支払い方法機能を使用すると、AWS 請求書の支払いの遅延を回避できます。

バックアップ支払い方法の設定は、AWS Billing and Cost Management コンソールの Payment Preferences ページで更新できます。

対象となる支払い方法

バックアップの支払い方法は、クレジットカードと SEPA 銀行口座のみをサポートします。他の支払い方法をバックアップの支払い方法として使用することはできません。

バックアップの支払い方法を有効にする

1. <https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [支払い設定] を選択します。
3. [Default payment preferences] (デフォルトの支払いの詳細設定) セクションで、[Edit] (編集) を選択します。
4. [バックアップの支払い方法] を有効にします。
5. [Save changes] (変更の保存) をクリックします。

現在のバックアップの支払い方法を表示する

1. <https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [支払い設定] を選択します。

バックアップの支払い方法が正常に有効化されていると、支払い方法に [バックアップの支払い方法] が Enabled というステータスとともに表示されます。

バックアップの支払い方法を削除する

1. <https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。

2. ナビゲーションペインで [支払い設定] を選択します。
3. [Default payment preferences] (デフォルトの支払いの詳細設定) セクションで、[Edit] (編集) を選択します。
4. [バックアップの支払い方法] を無効にします。
5. [Save changes] (変更の保存) をクリックします。

残りの請求書、未適用の資金、支払い履歴を表示する

Billing and Cost Management コンソールの Payments account summary ページを使用して、AWS アカウントの財務ステータスを確認できます。このセクションでは、コンソールの各コンポーネントが表す事柄の概要を説明します。

転送請求を使用し、請求書転送アカウントとしてサインインすると、請求書を転送 AWS Organizations した からの料金の支払いが表示されます。請求書ソースアカウントとしてサインインすると、請求転送がアクティブになる前に発生した使用量に対する支払いが表示されます。

支払いアカウントの概要

このページには、AWS アカウントの財務ステータスの統合ビューが表示されます。これには、支払い対象 AWS と使用可能な資金が含まれます。このビューは、支払い義務を理解し、利用可能な残高を管理するための簡素化されたビューです。

合計未払い残高

支払い期限が過ぎた請求金額を含めた、現在の未払い額が表示されます。支払いを行うには、[「支払い」](#)を参照してください。

未適用資金合計

これは、AWS アカウントで現在利用可能な未使用の資金の合計額です。これには、[未適用現金]、[クレジットメモ]、または [前払い] 残高が含まれる場合があります。前払い残高は、請求書の支払いに自動的に使用されます。詳細については、[「事前支払いの使用」](#)を参照してください。

アカウントには、過去の過払い、送金通知書の欠落、請求額の調整などのさまざまな理由による未適用資金やクレジットメモが存在する可能性があります。請求書の支払いに未適用の資金またはクレジットメモを使用するか、この金額を返金するには、請求書の E メールアドレスを使用して AWS 送金指示を送信します。サポート「」の手順に従って に連絡することもできます [への](#)

[お問い合わせ サポート](#)。未適用資金の使用をリクエストした後は、未適用資金の金額を差し引いた合計未払い残高を支払うことができます。

 Note

未適用資金の合計には AWS クレジットは含まれません。詳細については、「[AWS クレジットの適用](#)」を参照してください。

[支払い期限]、[未適用の資金]、および [支払い履歴] テーブルは、次の手順で説明されているように、検索およびフィルタリングできます。歯車アイコンを選択して、デフォルトの列を変更し、その他のテーブル設定をカスタマイズします。適切な ID を選択して項目を個別にダウンロードするか、[ダウンロード] を選択してから、[CSV のダウンロード] を選択して、レポートの目的でテーブルの CSV ファイルをダウンロードします。

残りの請求書支払いを確認するには

1. <https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [支払い] を選択します。
3. [支払い期限] タブを選択して、[支払い期限] テーブルを表示します。

[お支払い期限] テーブルには、残りの請求書支払いがすべて一覧表示されます。テーブルには、請求書の合計金額と残高が表示されます。

このテーブルには、以下のステータスが含まれます。

- [期限] — 支払い期日が近づいている未処理の請求書。
- [期限経過] — 支払い期日までに支払いが行われていない未処理の請求書。
- [予定] — 今後の支払い予定がある請求書。
- [処理中] — 現在支払いが予定されている請求書。

未適用の資金を表示するには

1. <https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Payment] を選択します。

3. [未適用の資金] タブを選択して、[未適用の資金] テーブルを表示します。

[未適用資金] テーブルには、未適用のすべてのクレジットメモが一覧表示されます。テーブルには、請求書の合計金額と残高が表示されます。

ステータスが [未適用] の場合は、請求書に適用可能なクレジットメモが存在します。

ステータスが [部分的に適用] の場合は、以前の請求書に金額の一部が適用されたクレジットメモが存在します。

支払い履歴を表示するには

1. <https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Payment] を選択します。
3. [トランザクション] タブを選択して、[トランザクション] テーブルを表示します。

トランザクションテーブルには、完了したすべてのトランザクションが一覧表示されます AWS。

支払い検証の管理

クレジットカードを使用して AWS オンラインで支払う、クレジットカードを追加または更新する、または新しい を登録するたびに、銀行から追加の検証を求められる場合があります AWS アカウント。

銀行が追加の認証を必要とする場合、銀行の Web サイトにリダイレクトされます。銀行の手順に従って、検証プロセスを完了します。検証を完了させるために、銀行から次のことを求められる場合があります。

- 1 回限りの SMS コードを入力する
- 銀行のモバイルアプリケーションを使用してクレジットカードを検証する
- 生体認証やその他の認証方法を使う

目次

- [検証のベストプラクティス](#)
- [支払いの検証](#)

- [支払いの検証のトラブルシューティング](#)
- [AWS Organizations](#)
- [サブスクリプションの購入](#)

検証のベストプラクティス

- デフォルトの支払い方法が検証済みであることを確認します。「[未確認のクレジットカードのトラブルシューティング](#)」を参照してください。
- 銀行のクレジットカード情報が最新であることを確認します。銀行は登録されたカード所有者にのみ検証コードを送信します。
- 最新のコードを入力します。認証ポータルを閉じた場合や新しいコードをリクエストした場合は、最新のコードの受信が遅れることがあります。
- 指示に従ってコードを入力します。コードの送信元の電話番号を入力しないでください。

支払いの検証

AWS 請求コンソールを使用して、支払いを検証する必要があることを確認するか、失敗した支払いを再試行できます。

AWS 銀行で支払いを確認する必要がある場合は、 から E メールが送信されます。

支払いを検証するには

1. にサインイン AWS マネジメントコンソール し、<https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [支払い] を選択します。
3. [Payments due (支払い期限)] で支払う請求書を見つけ、[Verify and pay (検証して支払い)] を選択します。
4. [\[Payment preferences\]](#) (お支払いの詳細設定) ページで、使用する支払い方法を選択します。
5. [Complete payment (支払いを完了)] を選択します。
6. 支払いを検証する必要がある場合は、銀行のウェブサイトのリダイレクトされます。検証を完了するには、表示される指示に従ってください。

銀行で支払いが処理されると、[支払い] ページにリダイレクトされます。

 Note

- 銀行で支払い処理が完了するまで、請求書は [支払い処理中] というステータスで表示されます。
- 検証プロセスが完了すると、AWS 日本のお客様の支払いカードが優先設定ページに表示されます。

支払いの検証のトラブルシューティング

検証が正しく完了しなかった場合は、次のいずれかのアクションを取ることをお勧めします。

- AWS 請求コンソールの支払い[設定](#)ページに移動し、クレジットカードが検証されていることを確認します。「[未確認のクレジットカードのトラブルシューティング](#)」を参照してください。
- AWS 請求コンソールの支払い[設定](#)ページに移動し、請求連絡先情報を更新します。
- 銀行に連絡して、自分の連絡先情報が最新であることを確認します。
- 銀行に連絡して、検証が失敗した理由の詳細を確認します。
- キャッシュと cookie を消去するか、別のブラウザを使用します。

AWS Organizations

のメンバーアカウントの場合 AWS Organizations、前払いを必要とする購入したサービスは、管理アカウントユーザーが支払いを検証するまでアクティブ化されない場合があります。検証が必要な場合、は管理アカウントの請求連絡先に E メールで AWS 通知します。

管理アカウントとメンバーアカウント間の連絡プロセスを確立してください。

サブスクリプションの購入

複数のサブスクリプションを一度に (一括で) 購入し、銀行から確認を求められたとします。その後、銀行から個々の購入の確認を求められる場合があります。

サブスクリプションには、リザーブドインスタンス、ビジネスサポートプラン、Route 53 ドメインなどの即時購入が含まれる場合があります。サブスクリプションには AWS Marketplace 料金は含まれません。

すべての購入について検証を完了させる必要があります。

クレジットカードと ACH 口座振替の管理

AWS Billing and Cost Management コンソール [の支払い設定](#) ページを使用して、クレジットカードと ACH 銀行デビット支払い方法を管理できます。

トピック

- [クレジットカードの追加](#)
- [クレジットカードを更新する](#)
- [未確認のクレジットカードのトラブルシューティング](#)
- [クレジットカードを削除する](#)
- [ACH 銀行引き落としによる支払い方法を管理する](#)

Note

人民元決済のクレジットカードをご使用になる場合は、「[中国人民元クレジットカードの使用](#)」を参照してください。

クレジットカードの追加

アカウントへのクレジットカードの追加は、Billing and Cost Management コンソールから行えます。

にクレジットカードを追加するには AWS アカウント

1. にサインイン AWS マネジメントコンソール し、<https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Payment preferences] (お支払いの詳細設定) を選択します。
3. [Add payment method] (支払い方法を追加) を選択します。
4. クレジットカード情報を入力します。
5. (オプション) [デフォルトの支払い方法として設定] で、このクレジットカードをデフォルトの支払い方法にするかどうか選択します。
6. カードの請求先住所を入力します。
7. (オプション) タグキーと値を入力します。最大 50 個のタグを追加できます。タグの詳細については、「[Managing Your Payments using tags](#)」を参照してください。

8. 内容を確認して問題がなければ、[支払い方法を追加] を選択します。

クレジットカードを更新する

クレジットカードに関連付けられている有効期限、氏名、住所、電話番号は更新することができます。

Note

クレジットカードを追加または更新すると、は前月の未払いの請求書を新しいカードに AWS 請求します。

クレジットカードを更新するには

1. <https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Payment preferences] (お支払いの詳細設定) を選択します。

に関連付けられた支払い方法は、「支払い方法」セクション AWS アカウント に表示されます。
3. 編集するクレジットカードを選択し、[編集] を選択します。
4. 変更する情報を更新します。
5. 変更を確認し、問題がなければ [変更の保存] を選択します。

未確認のクレジットカードのトラブルシューティング

支払いを行うには、期限切れでない有効なクレジットカードが登録されている必要があります。

クレジットカード情報が最新であることを確認するには

1. <https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Payment preferences] (お支払いの詳細設定) を選択します。
3. お支払い方法を確認します。クレジットカードが未検証の場合は、[検証] を選択し、画面の指示に従います。

4. それでもこのクレジットカードを検証できない場合は、以下の手順に従います。
 - a. 支払い方法を選択して、[削除] を選択します。
 - b. [支払い方法を追加] を選択し、クレジットカード情報をもう一度入力します。
 - c. プロンプトに従ってクレジットカード情報を確認します。

 Note

銀行によっては、追加の検証を求められる場合があります。銀行の Web サイトにリダイレクトされます。詳細については、「[支払い検証の管理](#)」を参照してください。

クレジットカードを削除する

クレジットカードを削除する前に、AWS アカウント に別の有効な支払い方法がデフォルトとして設定されていることを確認してください。

デフォルトに設定されている支払い方法は削除できません。

クレジットカードを削除するには

1. <https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Payment preferences] (お支払いの詳細設定) を選択します。に関連付けられた支払い方法は、「支払い方法」セクション AWS アカウント に表示されます。
3. 削除する支払い方法を選択して、[削除] を選択します。
4. [この支払い方法を削除しますか] のダイアログボックスで、[削除] を選択します。

ACH 銀行引き落としによる支払い方法を管理する

資格要件を満たしている場合は、ACH 銀行デビット支払い方法として米国の銀行口座を支払い方法に追加できます。

その場合、Amazon Web Services のお客様であること、および以下の要件が満たされていることが必要です。

- AWS アカウント 少なくとも 60 日前に を作成している

- 過去 12 か月間で 1 件以上の請求が発生し、全額支払い済みである。
- 過去 12 か月間で累計 100 USD 以上を支払っている。
- 支払い通貨を USD に設定している。

ACH 銀行デビットで支払う場合、は請求書 AWS を提供し、月初から 10 日以内に支払い方法への請求を開始します。AWS Billing and Cost Management コンソールの支払い欄に [成功] と表示されている場合でも、支払いが完了するまでに最大 20 日間かかります。

銀行引き落とし口座の追加または更新は、Billing and Cost Management コンソールから行えます。

目次

- [銀行引き落とし口座を追加する](#)
- [銀行引き落とし口座を更新する](#)

銀行引き落とし口座を追加する

AWS Billing and Cost Management コンソールを使用して、AWS 支払い方法に口座振替口座を追加できます。個人用口座またはビジネス用口座のいずれも使用できます。ただし、口座が米国内の支店にある場合に限りです。

ACH 銀行引き落とし口座を追加するときは、次の情報をお手元に用意しておきます。

- 米国の銀行口座番号
- 米国の銀行口座の支店コード
- 銀行を口座と関連付けるアドレス
- (個人用銀行口座の場合) 米国の運転免許証番号またはその他の州発行の ID 番号
- (ビジネス用銀行口座の場合) 納税者番号 (Tax ID)

口座振替口座を に追加するには AWS アカウント

1. にサインイン AWS マネジメントコンソール し、<https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Payment preferences] (お支払いの詳細設定) を選択します。
3. [Add payment method] (支払い方法を追加) を選択します。
4. [Bank account (ACH)] (銀行口座 (ACH)) を選択します。

5. [口座のタイプ] で、[個人用] または [事業用] を選択します。
6. [Name on account] (口座の名前) で、主要口座名義人の名前を入力します。
7. [銀行支店番号] に 9 桁の支店番号を入力します。

支店コードは常に 9 桁です。銀行によっては、小切手の最初にルーティングナンバーが記載されていることがあります。他の銀行では口座番号が最初に記載されていることがあります。

8. [銀行支店番号を再入力] に、もう一度 9 桁の支店番号を入力します。
9. [当座預金口座の番号] に当座預金口座の番号を入力します。

口座番号は 17 桁まで入力できます。この口座は、米国にある銀行の ACH が有効な当座預金口座である必要があります。

10. [当座金口座の番号を再入力] に、もう一度、当座預金口座の番号を入力します。
11. 個人用の銀行口座の場合
 - a. [運転免許証番号その他都道府県が発行した ID] に、プライマリアカウントの所有者の、有効な運転免許証の番号か、その他都道府県が発行した身分証明書の番号を入力します。
 - b. [発行された ID の都道府県] に、都道府県名を入力します。
12. 事業用口座の場合は、[納税 ID] に、事業用連邦納税 ID を入力します。
13. [デフォルトの支払い方法として設定] で、この銀行引き落とし口座をデフォルトの支払い方法として設定するかどうかを選択します。
14. [請求連絡先情報] に、プライマリアカウントの所有者の、有効な米国の請求連絡先を入力します。
15. (オプション) タグキーと値を入力します。最大 50 個のタグを追加できます。タグの詳細については、「[Managing Your Payments using tags](#)」を参照してください。
16. [銀行口座を追加] を選択し、[利用規約] に同意して、銀行引き落とし口座を追加します。

銀行引き落とし口座を更新する

銀行デビット口座に関連付けられた名前、住所、または電話番号は更新することができます。

銀行引き落とし口座を更新するには

1. <https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Payment preferences] (お支払いの詳細設定) を選択します。

に関連付けられている支払い方法は AWS アカウント、「支払い方法」セクションに記載されています。

3. 編集する銀行引き落とし口座を選択し、[編集] を選択します。
4. 変更する情報を更新します。
5. 変更を確認し、問題がなければ [変更の保存] を選択します。

事前支払いの使用

Note

前払いは のパブリックプレビューであり AWS Billing and Cost Management、変更される可能性があります。この機能は、選択した顧客グループで使用できます。事前支払いの使用には、[AWS サービス規約](#) (セクション 2) のベータおよびプレビュー参加条件が適用されます。

請求転送を使用する場合、請求元アカウントからの前払い資金は、請求転送アカウントの支払いには適用されません。請求転送がアクティブな間は、に事前支払いに関するヘルプサポート を依頼してください。

前払いを使用して使用量を AWS 事前に支払います。は、支払い期日に請求書の支払いを自動的に行うために資金 AWS を使用します。前払い残高がない場合は、デフォルトの支払い方法が使用されます。

AWS Billing and Cost Management コンソールで事前支払いに登録できます。電子資金振替を使用して、事前支払いに資金を追加できます。AWS Inc. のお客様は、米国の支店がある個人または法人の銀行口座を使用して資金を追加できます。欧州で前払いを使用するには、アカウントで AWS 欧州請求書が必要です。

注意事項

- 登録販売者 (SOR) が AWS Inc. の場合は、前払いを使用できます。(USD のみ) または AWS 欧州 (USD、EUR、または GBP)。[前払い] タブが表示されない場合は、次のいずれかの理由が考えられます。
- AWS アカウントに別の SOR がある。ご利用の SOR を確認するには、[支払い設定] ページに移動し、デフォルトのお支払い方法の下にある [サービスプロバイダー] の下の

名前を確認してください。この情報は、[税金設定] ページの [販売者] 列でも確認できます。

- 組織に属するメンバーアカウントの場合、前払いを利用できるのは管理アカウント (支払いアカウントとも呼ばれます) だけです。
- 前払いは AWS GovCloud (US)ではご利用いただけません。
- 前払いに関するサービス制限の詳細なリストについては、「[事前支払い](#)」をご覧ください。

トピック

- [事前支払いを登録する](#)
- [事前支払いへ資金を追加する](#)

事前支払いを登録する

AWS Billing and Cost Management コンソールを使用して、前払いに登録できます。

事前支払いに登録するには

1. にサインイン AWS マネジメントコンソール し、<https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [支払い] を選択します。
3. [事前支払い] タブを選択します。
4. [事前支払いの利用規約] を承諾します。
5. [登録] を選択します。

事前支払いへ資金を追加する

電子資金振替または個人またはビジネス用銀行口座を使用して、事前支払いに資金を追加できます。

電子資金振替を使用して事前支払いに資金を追加するには

1. <https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [支払い] を選択します。

3. [事前支払い] タブを選択します。
4. [資金の追加] を選択します。
5. [金額] の下で、追加する基金の金額を入力します。

金額は US ドル建ての入力が必要です。

6. [支払い方法] の下で、[支払い方法の選択] を選択します。
7. [電子送金] を選択します。
8. [この支払い方法を使用する] を選択します。
9. 支払いの詳細を確認し、[検証] を選択します。
10. 電子資金振込を完了するには、[支払いの概要] セクションの手順を使用します。

資金の概要ドキュメントは、[前払いの概要] ページからダウンロードできます。

銀行口座を使用して事前支払いに資金を追加するには

銀行口座を使用して前払いに資金を追加するには、ACH 口座振替支払い方法として米国の銀行口座を追加するための資格要件を満たす必要があります。詳細については、「[ACH 銀行引き落としによる支払い方法を管理する](#)」を参照してください。

1. <https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [支払い] を選択します。
3. [事前支払い] タブを選択します。
4. [資金の追加] を選択します。
5. [金額] の下で、追加する基金の金額を入力します。

金額は US ドル建ての入力が必要です。

6. [支払い方法] の下で、[支払い方法の選択] を選択します。
7. [銀行口座] を選択します。
8. [この支払い方法を使用する] を選択します。
9. 支払いの詳細を確認し、[資金の追加] を選択します。

入力した資金の金額が銀行口座に請求されます。

資金の概要ドキュメントは、[前払いの概要] ページからダウンロードできます。

中国人民幣での支払い

AWS Inc. のお客様は、人民幣通貨を使用して支払いを行うことができます。

新しい中国銀行リダイレクト支払いの利用

中国を拠点とするお客様は、中国の銀行のリダイレクト支払い方法を使用してお支払いを完了できます。これを行うには、人民幣による支払いを有効にして、優先通貨として設定する必要があります。中国の銀行のリダイレクト方式を使用すると、AWS Inc. について人民幣で支払うことができます。

トピック

- [中国の銀行のリダイレクト支払いを利用するための要件](#)
- [中国の銀行のリダイレクト支払いの設定](#)
- [中国銀行リダイレクトによる支払い](#)
- [中国の銀行のリダイレクトから請求書による支払いへの切り替え](#)

中国の銀行のリダイレクト支払いを利用するための要件

支払い方法として中国銀行リダイレクトを使用するには、Amazon Web Services, Inc. のお客様であること、および以下の要件が満たされていることが必要です。

- 人民幣による支払いを有効にする必要があります。
- 優先通貨として人民幣を設定する必要があります。

中国の銀行のリダイレクト支払いの設定

中国銀行リダイレクトを支払い方法として使用するには、AWS Billing and Cost Management コンソールで人民幣の支払いを有効にします。

人民幣の支払いを有効にするには、本人確認のための情報を提供します。個人アカウントの場合、確認のために国民識別番号が必要です。ビジネスアカウントの場合、次の情報が必要です。

- Unified Social Credit Code または組織コード
- 営業許可証の画像

必要な情報を収集したら、次の手順に従います。この手順では、優先通貨を人民元に設定し、中国銀行リダイレクト支払いをセットアップします。

人民元の支払いを有効にし、中国の銀行のリダイレクト支払い方法を設定するには

1. にサインイン AWS マネジメントコンソール し、<https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Payment Methods (支払い方法)] を選択します。
3. [Pay with Chinese yuan] (人民元での支払い) のセクションで、[Get started] (今すぐ始める) または [Pay in Chinese yuan] (人民元で支払う) を選択します。
4. 「Terms and Conditions for Chinese Yuan Payments」(人民元でのお支払いに関する規約) を確認します。その後、[I have read and agree to the Terms and Conditions for Chinese Yuan Payments] (私は、人民元のお支払いに関する規約を読み、同意します) を選択します。
5. [次へ] を選択します。
6. 個人アカウントの場合、以下を実行します。
 - [Full name] (フルネーム) で、フルネームを中国語で入力します。
 - [Identity card number] (身分証明書番号) で、国民識別番号を入力します。

ビジネスアカウントを使用している場合は、以下を実行します。

- [Company name] (会社名) は中国語で入力してください。
- [Contact name] (連絡先の名前) で、連絡先の名前を中国語で入力します。
- [Contact phone number] (連絡先の電話番号) で、会社の連絡先の電話番号を入力します。
- [Uniform social credit code or organization code] (Unified Social Credit Code または組織コード) で、会社のコードを入力します。
- [Company business license] (会社の営業許可証) で、会社の営業許可証の画像をアップロードします。

 Note

アカウントによっては、中国銀聯クレジットカードの追加が必要になる場合があります。詳細については、「[中国人民元クレジットカードの使用](#)」を参照してください。

7. [Next] (次へ) を選択します。

8. 入力した本人確認のための情報が正しいことを確認します。その後で、[送信] を選択します。

本人情報の確認には 1~3 営業日かかる場合があります。情報の確認 AWS 後、 から E メールが届きます。

中国銀行リダイレクトによる支払い

支払い方法を設定した後、中国銀行のリダイレクトを使用して、請求書の支払いを行うことができます。

Note

ビジネスアカウントを使用している場合は、中国銀行リダイレクト支払い方法に選択する銀行口座名が、人民元での支払い設定時に送信した会社の正式名称と同一である必要があります。[前の手順](#)のステップ 6 を参照してください。

中国銀行のリダイレクトを使用して請求書を支払うには

1. <https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [支払い] を選択します。
3. 支払いを希望する請求書を選択し、[Complete payment] (支払いを完了) を選択します。
4. [Select payment option (支払いオプションの選択)] で、[中国銀行のリダイレクト] を選択します。
5. 50,000 USD を超える支払いについては、適用される税および源泉徴収の義務を履行したことを確認してください。そのためには、[I confirm that I fulfilled the Chinese tax and surcharge withholding obligations according to Chinese tax laws and regulations] (私は、中国の税法および規制に従って、中国の税および追加料金の源泉徴収義務を履行したことを確認します) を選択します。
6. [Verify and pay] (確認して支払う) を選択します。
7. リダイレクトを続行するには、[OK] を選択します。

リダイレクトされたら、ドロップダウンメニューから銀行を選択し、銀行のウェブサイトでお支払いを完了します。トランザクションリクエストの処理には最大 24 時間かかる場合があります。

中国の銀行のリダイレクトから請求書による支払いへの切り替え

デフォルトの支払い方法を請求書による支払いに変更するには、次の手順に従います。

請求書による支払いの方法に切り替えるには

1. <https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Payment Methods (支払い方法)] を選択します。
3. [Pay by invoice] (請求書による支払い) セクションで、使用するデフォルトの支払い方法の横にある [Make default] (デフォルトにする) を選択します。
4. [Change your payment method and currency] (支払い方法と通貨を変更) ダイアログボックスで、[Yes, I want to proceed] (はい、続行します) を選択します。

お支払い方法を変更すると、優先通貨はデフォルトで USD に設定されます。優先通貨を人民元に戻すには、中国の銀行のリダイレクト支払い方法の横にある Make default デフォルトにする を選択します。優先通貨をサポートされている別の通貨に変更するには、「[請求の支払い通貨の変更](#)」を参照してください。

中国人民幣クレジットカードの使用

Note

現在、中国人民幣のデビットカードはサポートされていません。

AWS Inc. のアカウントをお持ちで、米ドルで請求され、中国を拠点としている場合は、以下のセクションを使用してアカウントに人民幣 (CNY) クレジットカードを追加できます。

次のタスクを実行するには、AWS Billing and Cost Management コンソールの [支払い方法] ページを使用します。

- [the section called “中国人民幣クレジットカードの設定”](#)
- [the section called “中国人民幣クレジットカードから国際クレジットカードへの切り替え”](#)
- [the section called “別の中国人民幣クレジットカードの追加”](#)

中国人民元クレジットカードの設定

使用する通貨を CNY に変更し、クレジットカードを追加するには、次の情報が必要です。

- 国民 ID 番号
- ビジネスライセンス (該当する場合)
- ビジネスライセンスの画像 (該当する場合)

必要な情報を入力したら、次の手順に従って指定通貨を変更し、最初の中国人民元クレジットカードを追加します。

最初の中国人民元クレジットカードを追加するには

1. にサインイン AWS マネジメントコンソール し、<https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Payment Methods (支払い方法)] を選択します。
3. [Pay with Chinese yuan] を選択します。
4. [Setting up Chinese yuan payment] ダイアログボックスで、[Terms and Conditions for Chinese yuan payments (中国人民元でのお支払いに関する規約)] をお読みの上、[I've already read and agree to the above terms and conditions] を選択し、[Next] を選択します。
5. [Verify customer identity] に、次の情報を入力します。
 - 国民 ID の名前
 - 連絡先の番号
 - (法人のみ) 会社名
 - 国民 ID 番号
 - (法人のみ) Business License number (ビジネスライセンス番号)
 - (法人のみ) Business License image (ビジネスライセンスの画像)

必要な情報を入力したら、[次へ] を選択します。

6. [中国銀聯クレジットカードを追加] にカードと銀行の情報を入力します。
7. [Get Code (コードの取得)] を選択し、指定されたコードを入力して、[Next (次へ)] を選択します。

8. 情報を確認し、[I have confirmed that the provided information is accurate and valid (表示された情報は性格で有効なものであることを確認しました)] を選択して、[Submit (送信)] を選択します。

お客様の情報の確認に 1 営業日かかる場合があります。情報の確認が完了すると、AWS より E メールが送信されます。

中国人民元クレジットカードからインターナショナルクレジットカードへの切り替え

中国人民元クレジットカードからインターナショナルクレジットカードに切り替えるには、優先通貨を変更します。次の手順に従って、デフォルトの支払い方法と指定の通貨を一度に変更することができます。

デフォルトの支払い方法と通貨を変更するには

1. <https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Payment Methods (支払い方法)] を選択します。
3. デフォルトの支払い方法として使用するインターナショナルクレジットカードの横にある、[Make Default] を選択します。
4. ダイアログボックスの [Select payment currency (支払い通貨の選択)] で、使用する通貨を選択します。次に、[はい、続行します] を選択します。

別の中国人民元クレジットカードの追加

別の中国人民元クレジットカードを追加するには、次の手順に従います。

別の中国のクレジットカードを追加するには

1. <https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Payment Methods (支払い方法)] を選択します。
3. [Add a Chinese yuan credit card (中国人民元クレジットカードの追加)] を選択します。
4. クレジットカードのボックスに、カードおよび銀行に関する情報を入力します。
5. [コードの取得] を選択し、指定されたコードを入力して、[Continue (続行)] を選択します。

PIX を使用した支払い (ブラジル)

要件が満たされている場合、PIX 機能を有効にした状態でモバイルバンキングアプリを使用できます。この機能を使用して、AWS 生成された QR コードをスキャンしての支払いを行うことができます AWS アカウント。

PIX を使用するには、Amazon Web Services Brazil のお客様であり、が次の要件を満たした AWS アカウントしている必要があります。

- 請求書はブラジルレアル (BRL) で生成され、BRL が優先通貨として設定されている。
- クレジットカードがデフォルトのお支払いとして設定されている。

クレジットカードの登録は必須です。ただし、クレジットカードが有効な支払いオプションである場合、PIX はご利用いただけません。クレジットカードでの支払いが失敗した場合は、PIX を支払い方法として選択できます。

PIX を使用して取引を完了するには

1. にサインイン AWS マネジメントコンソール し、<https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [支払い] を選択します。
3. [支払期限] セクションで、[期限切れ] ステータスの請求書を選択します。
4. [Complete payment (支払いを完了)] を選択します。
5. [支払い方法を変更] または [PIX を使用] を選択します。
6. [QR コードを生成] を選択します。

Note

PIX の QR コードは 30 分間有効です。取引時間が 30 分を超える場合は、これらの手順をもう一度実行して新しい QR コードを生成してください。

7. モバイルバンキングアプリで、PIX オプションを開き、AWS 生成された QR コードをスキャンしてトランザクションの詳細を確認します。AWS 支払いを完了ページで PIX コードをコピーを選択して、コードを銀行ページに貼り付けることもできます。
8. バンキングアプリから必要な追加の手順をすべて完了してください。
9. 完了した取引を [支払い] ページで確認します。

Note

銀行から支払いの確認を受け取るまでに最大 2 分かかります。情報が届き次第、[支払い] ページに変更内容が反映されます。

PIX のお支払いに関する質問については、[サポート](#)にお問合せください。

インドでの支払いの管理

アカウントが AWS India にある場合は、このトピックの手順に従って支払い方法を管理し、支払いを行います。アカウントが AWS か AWS India かの詳細については、「」を参照してください[登録販売者の検索](#)。

Note

支払い方法に関して質問がある場合は、「[請求書と支払いに関するサポートを受ける](#)」を参照してください。

目次

- [サポートされている支払い方法](#)
- [クレジットカードまたはデビットカードを使って支払う](#)
- [クレジットカードまたはデビットカードの詳細情報を保存する](#)
- [支払い時にカードの詳細情報を追加する](#)
- [クレジットカードまたはデビットカードを削除する](#)
- [ネットバンキングアカウントの追加](#)
- [ネットバンキング口座を使って支払う](#)
- [ネットバンキングアカウントの削除](#)
- [Unified Payments Interface \(UPI\) を使用して支払いを行う](#)
- [Unified Payments Interface \(UPI\) を使用した自動支払いを設定する](#)
- [クレジットカードまたはデビットカードで自動支払いを設定する](#)
- [自動支払いについて](#)

- [AWS Marketplace または AWS サブスクリプションの支払い](#)
- [クレジットカード/デビットカードまたは Unified Payments Interface \(UPI\) の自動支払いをキャンセルする](#)
- [AWS インド以外の請求書の支払い](#)
- [India AWS 請求書の対象となるクレジットカードまたはデビットカードの表示](#)
 - [対象外の支払い方法アラートのトラブルシューティング](#)

サポートされている支払い方法

AWS は、AWS インドのアカウントの Visa、Mastercard、American Express、RuPay のクレジットカードとデビットカードをサポートしています。さらに、インターネットバンキング (ネットバンキング) アカウントと Unified Payments Interface (UPI) を使用して、AWS インドの AWS 請求書を支払うことができます。また、対象となるクレジットカードまたはデビットカードの自動支払い (e-mandates) を設定して、支払い期日に AWS 請求書を自動的に支払うこともできます。e-mandates は、15,000 INR 以下の料金にのみ使用できます。

クレジットカードまたはデビットカードを使って支払う

Billing and Cost Management コンソールを使用して、AWS インドの請求書を支払うことができます。クレジットカードまたはデビットカードを使って支払う場合は、次の手順に従います。

クレジットカードまたはデビットカードを使って支払うには

1. <https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [支払い] を選択します。

[支払い期限] テーブルには、未処理の AWS 請求書がすべて一覧表示されます。請求書が表示されない場合、必要な操作はありません。

3. [支払い期限] テーブルで、支払う請求書を選択します。
4. [Complete payment (支払いを完了)] を選択します。
5. このカードで自動定期的な支払いを有効にするには、[今後の支払いでこの支払い方法に自動的に請求する] の横にあるチェックボックスをオンにします。
6. [Verify and pay] (確認して支払う) を選択します。
7. 支払い方法が Visa、American Express、Mastercard、および RuPay の場合は、支払いを認証するためにお使いの銀行にリダイレクトされます。

支払いが確認されると、[Payments] (支払い) ページにリダイレクトされます。銀行が支払いを処理するまで、AWS 請求書は支払い期日テーブルに残ります。

クレジットカードまたはデビットカードの詳細情報を保存する

カードネットワークのクレジットカードまたはデビットカードの詳細を に保存して AWS、インド準備銀行 (RBI) のガイドラインに従って後続の AWS 請求書の支払いを行うことができます。

デビットカードまたはクレジットカードの詳細情報を保存する

1. <https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Payment preferences] (お支払いの詳細設定) を選択します。
3. [Add payment method] (支払い方法を追加) を選択します。
4. [クレジットカード/デビットカード] を選択します。
5. カード番号、有効期限、セキュリティコード (CVV)、およびカード所有者の名前を入力します。
6. [今後の支払いのためにカード情報を保存する] に同意します。
7. [請求先住所情報] のセクションに、ご自身の名前、請求先住所、電話番号を入力します。
8. カード情報を確認してから、[お支払い方法を追加] を選択します。

クレジットカードを認証するために銀行のウェブサイトのリダイレクトされ、2 インドルピー (INR) が課金されます。この料金は、5~7 営業日以内にカードに返金されます。

カードが正常に認証されると、カードの詳細情報が AWS アカウントに保存されます。

支払い時にカードの詳細情報を追加する

AWS 請求書の支払い時に、クレジットカードまたはデビットカードの詳細を追加することもできます。支払い方法としてカードを追加すると、この手順を繰り返す必要がなくなります。

支払い時にカードの詳細情報を追加する

1. <https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [支払い] を選択します。

[支払い期限] テーブルには、未処理の AWS 請求書がすべて一覧表示されます。請求書が表示されない場合、必要な操作はありません。

3. [支払い期限] テーブルで、支払い対象の請求書を選択します。
4. [支払う] を選択します。
5. [支払い方法を追加する] を選択してから、[クレジット/デビットカード] を選択します。
6. カード番号、有効期限、セキュリティコード (CVV)、およびカード所有者の名前を入力します。
7. [今後の支払いのためにカード情報を保存する] に同意します。
8. [請求先住所情報] のセクションに、ご自身の名前、請求先住所、電話番号を入力します。
9. カード情報を確認してから、[お支払い方法を追加] を選択します。

請求書の支払い概要にリダイレクトされ、その画面で支払いを行うように求められます。

支払いが正常に完了すると、カードの詳細情報が AWS アカウントに保存されます。

クレジットカードまたはデビットカードを削除する

クレジットカードまたはデビットカードを削除する前に、AWS アカウント に別の有効な支払い方法がデフォルトとして設定されていることを確認してください。

クレジットカードまたはデビットカードを削除する

1. <https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Payment preferences] (お支払いの詳細設定) を選択します。に関連付けられた支払い方法は、支払い方法セクション AWS アカウント に表示されます。
3. 削除する支払い方法を選択して、[削除] を選択します。
4. [この支払い方法を削除しますか] のダイアログボックスで、[削除] を選択します。

ネットバンキングアカウントの追加

支払い方法へのインターネットバンキング (ネットバンキング) 口座の追加は、Billing and Cost Management コンソールから行えます。この支払いオプションは、AWS インドのすべてのお客様にご利用いただけます。

ネットバンキングの口座を追加するには

1. <https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Payment preferences] (お支払いの詳細設定) を選択します。
3. [Add payment method] (支払い方法を追加) を選択します。
4. [Net Banking] (ネットバンキング) を選択します。
5. [ネットバンキングに関する情報] で銀行名を選択します。
6. [請求先住所情報] のセクションに、ご自身の名前、請求先住所、電話番号を入力します。
7. [支払い方法を追加] を選択します。

ネットバンキング口座を使って支払う

Billing and Cost Management コンソールを使用して、AWS インドの請求書を支払うことができます。ネットバンキングで支払いを行うときは、次の手順に従います。

Note

現在の AWS インドの規制により、AWS 支払いごとに請求を承認するように銀行にリダイレクトされます。ネットバンキングは、自動支払いには使用できません。

ネットバンキングを使って支払いを行うには

1. <https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [支払い] を選択します。

[支払い期限] テーブルには、未処理の AWS 請求書がすべて一覧表示されます。請求書が表示されない場合、必要な操作はありません。
3. [支払い期限] テーブルで、支払う請求書を選択します。
4. [Complete payment (支払いを完了)] を選択します。
5. [お支払いの完了] ページで、保存したネットバンキング口座がデフォルトで選択されます。別のネットバンキングアカウントを使用するには、[支払い方法を追加]、[ネットバンキング] の順に選択します。
6. 要約を確認し、[確認して支払う] を選択します。

7. 支払いを検証するために、銀行のウェブサイトのリダイレクトされます。銀行のアカウントにサインインして、画面の指示に従って支払を承認します。

支払いが確認されると、[Payments] (支払い) ページにリダイレクトされます。処理が正常に完了したことを示すメッセージがページの上部に表示されます。

ネットバンキングアカウントの削除

AWS アカウントからネットバンキングの口座を削除する場合、Billing and Cost Management コンソールから行います。

ネットバンキング口座を削除するには

1. <https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Payment preferences] (お支払いの詳細設定) を選択します。に関連付けられている支払い方法は AWS アカウント、「支払い方法」セクションに記載されています。
3. AWS アカウント に別の有効な支払い方法がデフォルトとして設定されていることを確認します。
4. 削除する支払い方法を選択し、[削除] を選択します。
5. [Delete payment method] (支払方法を削除) ダイアログボックスで [Delete] (削除) を選択します。

Unified Payments Interface (UPI) を使用して支払いを行う

請求コンソールを使用して、AWS インドの請求書を支払うことができます。Unified Payments Interface (UPI) で支払いを行うには、次の手順に従います。

Note

UPI トランザクションを承認するために、有効な UPI ID と請求先住所を入力すると、AWS India は指定した UPI ID に関連付けられた UPI アプリケーション (アプリ) にリクエストを送信します。支払いを完了するには、UPI アプリを開き、10 分以内にトランザクションを承認します。トランザクションが 10 分以内に承認されない場合、リクエストは期限切れになり、Billing コンソールから支払いを再試行する必要があります。

UPI を使用して支払いを行うには

1. <https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [支払い] を選択します。

[支払い期限] テーブルには、未処理の AWS 請求書がすべて一覧表示されます。請求書が表示されない場合、必要な操作はありません。

3. [支払い期限] テーブルで、支払う請求書を選択します。
4. [Complete payment (支払いを完了)] を選択します。
5. [支払いを完了] ページで次のいずれかを実行します。
 - [UPI の使用] ボタンを選択します。
 - [支払い方法の追加] を選択し、メニューから [Unified Payments Interface (UPI)] を選択します。
6. UPI ID を入力し、[検証] を選択します。
7. 成功したら、請求先住所を入力するか、既存の住所を使用することを選択します。
8. [支払い方法を追加] を選択します。
9. [支払い] ページにリダイレクトしたら、概要を確認してから、[確認して支払う] を選択します。

支払いを承認するために必要な手順を示す中間ページにリダイレクトされます。支払いが確認されると、[支払い] ページにリダイレクトされ、ページの上部に成功メッセージが表示されます。

 Note

この機能はプレビューリリース中であり、変更される可能性があります。

請求コンソールを使用して、AWS インドの請求書を支払うことができます。Unified Payments Interface (UPI) スキャンと支払いで支払いを行うには、次の手順に従います。

 Note

UPI トランザクションを承認するために、AWS India は UPI アプリを使用してスキャンして支払いを完了できる QR コードを表示します。10 分以内にトランザクションを承認する必要

があります。承認しないと、リクエストの有効期限が切れ、請求コンソールから支払いを再試行する必要があります。

UPI を使用して支払いを行うには

1. <https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [支払い] を選択します。

[支払い期限] テーブルには、未処理の AWS 請求書がすべて一覧表示されます。請求書が表示されない場合、必要な操作はありません。

3. [支払い期限] テーブルで、支払う請求書を選択します。
4. [Complete payment (支払いを完了)] を選択します。
5. 次に、UPI スキャンと支払いの使用を選択します。
6. [Verify and pay] (確認して支払う) を選択します。

画面に表示される QR コードと支払い承認手順を表示する中間ページにリダイレクトされます。UPI アプリを開き、QR コードをスキャンしてトランザクションを承認します。支払いが確認されると、支払いページにリダイレクトされ、成功メッセージが表示されます。

Unified Payments Interface (UPI) を使用した自動支払いを設定する

Unified Payments Interface (UPI) を使用して、AWS インドの請求書に対して定期的な自動支払いを行うことができます。UPI AutoPay は、今後の AWS 請求書の支払いに使用できます。

UPI を使用して自動支払いを設定するには

1. <https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Payment preferences] (お支払いの詳細設定) を選択します。
3. [Add payment method] (支払い方法を追加) を選択します。
4. [UPI AutoPay] を選択します。
5. UPI ID を入力して選択します。
6. 請求先住所を入力するか、既存の住所の使用を選択します。

7. [支払い方法を追加] を選択します。
8. [お支払いの詳細設定] ページにリダイレクトされたら、[デフォルトの支払いの詳細設定] セクションを確認します。

UPI AutoPay が選択されており、その下に [AutoPay が有効] メッセージが表示されています。

 Note

この機能はプレビューリリース中であり、変更される可能性があります。

UPI スキャンと支払いを使用して自動支払いを設定するには

1. <https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Payment preferences] (お支払いの詳細設定) を選択します。
3. [Add payment method] (支払い方法を追加) を選択します。
4. [UPI AutoPay] を選択します。
5. 請求先住所を入力するか、既存の住所の使用を選択します。
6. [支払い方法を追加] を選択します。
7. 確認を選択します。
8. 画面に表示される QR コードと支払い承認手順を表示する中間ページにリダイレクトされます。UPI アプリを開き、QR コードをスキャンしてトランザクションを承認します。支払いが確認されると、支払いページにリダイレクトされ、成功メッセージが表示されます。
9. [お支払いの詳細設定] ページにリダイレクトされたら、[デフォルトの支払いの詳細設定] セクションを確認します。

UPI AutoPay が選択されており、その下に [AutoPay が有効] メッセージが表示されています。

クレジットカードまたはデビットカードで自動支払いを設定する

次の手順を使用して、AWS インドの請求書に対してクレジットカードまたはデビットカードの自動定期支払いを有効にできます。現在、請求ごとに最大 15,000 INR の自動支払いをサポートしています。15,000 INR を超える請求には、手動支払いを行う必要があります。カードで定期的な支払いを有効にするには、カードに e-mandate を設定する必要があります。

e-mandate を設定するには

1. <https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [支払い] を選択します。

[支払い期限] テーブルには、未処理の AWS 請求書がすべて一覧表示されます。請求書が表示されない場合、必要な操作はありません。

3. [支払い期限] テーブルで、支払う請求書を選択します。
4. [Complete payment (支払いを完了)] を選択します。
5. [支払いの概要] セクションで、[今後の支払いでこの支払い方法に自動的に請求する] の横にあるチェックボックスをオンにします。
6. [Verify and pay] (確認して支払う) を選択します。

Note

- クレジットカードまたはデビットカードがサポートされていない場合、またはデフォルトの支払い方法として設定されていない場合、チェックボックスを選択して e-mandate を設定することはできません。e-mandate のサポートの詳細については、銀行にお問い合わせください。デフォルトの支払い方法を変更するには、「[デフォルトの支払い方法を指定する](#)」を参照してください。
- カードのアクティブな e-mandate をキャンセルしないと、デフォルトの支払い方法を変更または編集することはできません。これは、デフォルトの支払い手段に対してのみ自動的に請求されるようにするためです。e-mandate をキャンセルするには、「[クレジットカード/デビットカードまたは Unified Payments Interface \(UPI\) の自動支払いをキャンセルする](#)」を参照してください。e-mandate がキャンセルされたら、デフォルトのカードを編集または変更できます。

次のステップとして、銀行は支払いと e-mandate の設定を確認するようにリダイレクトします。e-mandate が正常に設定されると、[支払いの設定] ページでデフォルトの支払い方法のステータスが AutoPay enabled と表示されます。

15,000 INR までの将来の AWS 請求は、次の請求サイクルから毎月クレジットカードまたはデビットカードに自動的に請求されます。

自動支払いについて

定期的な支払いの設定が完了すると、AWS インドは毎月 15,000 INR まで自動的に請求されます。

自動支払いの設定に成功したら、次の点に注意してください。

- [支払いの設定] ページでは、デフォルトの支払いのステータスが AutoPay enabled と表示されます。
- AWS 請求書が生成されると、料金の 24 時間前に SMS または銀行からの E メールを通じて、事前デビットリマインダーが届きます。
- 手動支払いは、がカードに自動的に請求 AWS している間、最大 96 時間まで一時的に無効になります。

自動支払いが失敗した場合、次の点に注意してください。

- 自動請求は、残高不足やその他の理由で失敗する可能性があります。
- カードへの請求が複数回試行され、そのたびにメールアラートが送信されます。
- 15,000 INR を超える請求には、手動支払いを行う必要があります。

AWS Marketplace または AWS サブスクリプションの支払い

India AWS アカウントから AWS Marketplace の購入またはサブスクリプションに対して支払いを行う場合、e-mandate は自動支払いには使用できません。その代わりに、[支払い] ページから支払いを完了する必要があります。

サブスクリプションについては、1 時間以内に支払いを完了してサブスクリプションをアクティブ化する必要があります。1 時間以内にトランザクションを完了できなかった場合、サブスクリプションの購入と請求書は無効になります。続行するには、サブスクリプションを再購入して支払いを完了してください。

クレジットカード/デビットカードまたは Unified Payments Interface (UPI) の自動支払いをキャンセルする

e-mandate をキャンセルすることで、定期的な AWS 請求に対してクレジットカード/デビットカードまたは Unified Payments Interface (UPI) 自動支払いを無効にすることができます。

AWS コンソールを使用して e-mandate をキャンセルするには

1. <https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [支払いの詳細設定] ページを選択します。
3. [デフォルトの支払い設定] セクションで、AutoPay が現在アクティブの場合、ステータスが AutoPay enabled と表示されます。
4. [AutoPay を無効にする] を選択します。
5. [自動支払いを無効にする] モーダルで、[無効にする] を選択します。

銀行ポータルまたは SiHub を介して e-mandate をキャンセルするには

1. 銀行のウェブサイトโดยตรงアクセスするか、引き落とし前の SMS またはメール通知で銀行から送信されたリンクからアクセスします。
 - アクティブな e-mandate を表示するには、支払いカードの詳細の入力が必要になる場合があります。
2. アクティブな e-mandate リストから [Amazon Web Services] を検索し、[キャンセル] を選択します。
 - 銀行は、ワンタイムパスワードを送信したり、キャンセルリクエストを完了するために追加の認証を必要とする場合があります。

AWS が e-mandate がキャンセルされたことを確認すると、デフォルトの支払い方法に変更が反映されます。自動支払いステータスは、Billing and Cost Management コンソールの [支払いの設定] ページで確認できます。Billing and Cost Management コンソールでこれ以上のアクションは必要ありません。保留中の請求と今後の請求に対して、手動で支払いを行う必要があります。

e-mandate のキャンセルが失敗した場合、[支払いの設定] ページでデフォルトの支払い方法のステータスが AutoPay enabled と表示されます。支払いカードへのさらなる請求を防ぐために、キャンセルプロセスを再度試みます。

AWS インド以外の請求書の支払い

Note

India 以外の SORs の請求書の支払いを行うためにアカウントに支払いカードを保存できない場合 AWS、アカウントは、この機能が利用できないレガシーモデルで運用されている可能性があります。現在、AWS インドのアカウントをレガシーモデルから、この機能が利用可能な新しいモデルに移行しています。移行は 2025 年 12 月に完了する予定です。

India AWS アカウントはあるが、AWS インドの登録販売者 (SOR) 以外の請求書に対して AWS 支払いを行う必要があるシナリオが発生する場合があります。

例

- Inc AWS . から AWS Marketplace 請求書を受け取りました。
- アカウントを AWS India に移行する前に、 から AWS India 以外の SOR からの未払いの請求書がある。
- アカウントは、AWS インドにないメンバーアカウントを持つ組織の管理アカウントです。

Note

India AWS アカウントから AWS India SOR にない請求書に AutoPay を使用することはできません。支払いコンソールページから AWS インド以外のすべての請求書を決済する必要があります。詳細については、「[支払い](#)」を参照してください。

デフォルトの支払い方法がクレジットカードまたはデビットカードである AWS インドのアカウントで、AWS インド以外の請求書の支払いを行う場合は、それらの SORs の支払いの対象となる支払いカードを使用する必要があります。Payment preferences を使用して AWS India アカウントに支払いカードを追加する場合、その支払い方法は RBI ガイドラインに従って AWS India 請求書への支払いにのみ使用できます。支払い対象カードが保存されていない場合は、新しい支払い方法を追加する必要があります。

AWS インド以外の請求書の支払いを完了するには

1. <https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。

2. ナビゲーションペインで [支払い] を選択します。
3. AWS インド以外の請求書の未払いの請求書を選択します。
4. [Complete payment (支払いを完了)] を選択します。
5. [お支払いを完了] ページで、次のいずれかを実行します。
 - (対象となるカードがファイルに保存されている場合) AWS インド以外の請求書の支払いを完了するために、カードが自動的に選択されます。

ファイルに保存されている別の対象支払いカードを使用するには、[支払い方法を変更] を選択します。
 - (対象となるカードがファイルに保存されていない場合) 支払い方法を追加を選択し、AWS インド国外での支払いの対象となるクレジットカードまたはデビットカードを入力します。このカードは、AWS インド以外の請求書に対する将来の支払いのために保存されます。

Note

アカウントに支払いカードを保存できない場合は、サポート に連絡して、アカウントで機能が有効になっていることを確認してください。

India AWS 請求書の対象となるクレジットカードまたはデビットカードの表示

アカウントに保存されるすべての支払いカードは、[お支払いの詳細設定] コンソールページの [支払い方法] セクションで確認できます。

インド準備銀行 (RBI) のガイドラインでは、AWS インドカードは Payment Aggregators and Payment Gateway (") の規制に従って保存する必要があります。つまり、カードは AWS インド国外での取引に使用される支払いカードとは別に保存されます。AWS インドに移行する前に別のサービスプロバイダーと取引したアカウント、または複数のサービスプロバイダーのメンバーアカウントに対して支払う AWS インドの管理アカウントの場合、同じカードが支払い方法の下に 2 回表示される場合があります。1 回は RBI ガイドラインに従って AWS India で を使用し、もう 1 回は AWS India 以外のトランザクションに使用します。

AWS India アカウントから支払い方法を表示すると、RBI ガイドラインに従って保存され、AWS インドの請求書の対象となる支払いカードが表示されます。すべての支払いカードを表示するには、[対象外のお支払い方法を表示] を有効にします。これにより、AWS インドの請求

書 Ineligible でマークされているものを含め、登録されているすべての支払いカードが表示されますが、他の SORs でも使用できます。同じ支払いカードが 2 つある場合、1 つのカードは AWS インドの RBI 規制に従ってのみ保存され、もう 1 つのカードは他の SOR 請求書用に保存されている可能性があります。

対象外の支払い方法アラートのトラブルシューティング

最近 SOR を AWS インドとの間で変更した場合、支払い設定ページにアラートが表示されることがあります。アラートは、現在のサービスプロバイダーではデフォルトの支払い方法を使用できないという内容になります。これは、RBI ガイドラインで、に使用される支払いカードは AWS インドの請求書にのみ使用できることが要求されているためです。このアラートバナーは、デフォルトの支払いカードを更新することで解決できます。

対象支払いカードを登録する

1. <https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Payment preferences] (お支払いの詳細設定) を選択します。
3. (新しい SOR 向けの対象カードがファイルに保存されている場合) カードを選択し、[デフォルトとして設定] を選択します。
4. (対象となるカードがファイルに保存されていない場合) 支払い方法を追加を選択し、AWS インド国外での支払いの対象となるクレジットカードまたはデビットカードを入力します。保存したら、[デフォルトとして設定] を選択します。

AWS 欧州での支払いの管理

アカウントが AWS 欧州にある場合は、このセクションの手順に従って支払い方法と支払いを管理します。

トピック

- [AWS 欧州のクレジットカード支払い方法の管理](#)
- [AWS 欧州のクレジットカード支払い検証の管理](#)
- [SEPA 口座振替の支払い方法の管理](#)
- [Bacs 口座振替支払い方法の管理](#)

AWS 欧州のクレジットカード支払い方法の管理

AWS Billing and Cost Management コンソール [の支払い設定](#) ページを使用して、次のクレジットカードタスクを実行できます。

- [Add a credit card to your AWS Europe account](#)
- [Update your credit card](#)
- [Confirm that your credit card is up to date](#)

AWS 欧州アカウントにクレジットカードを追加するには

コンソールを使用して、アカウントにクレジットカードを追加できます。

1. にサインイン AWS マネジメントコンソール し、<https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Payment preferences] (お支払いの詳細設定) を選択します。
3. [Add payment method] (支払い方法を追加) を選択します。
4. クレジットカードフィールドに情報を入力し、[Continue (続行)] を選択します。
5. クレジットカード情報フィールドに、カードの請求連絡先を入力します。
6. [続行] をクリックしてください。

クレジットカードを更新するには

クレジットカードに関連付けられた名前、住所、電話番号は更新できます。

1. にサインイン AWS マネジメントコンソール し、<https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Payment preferences] (お支払いの詳細設定) を選択します。
3. 編集するクレジットカードの横にある [編集] を選択します。
4. 変更するフィールドを更新します。
5. ページの最下部にある [更新] を選択します。

クレジットカードが最新であることを確認するには

支払いを行うには、期限切れでない有効なクレジットカードが登録されている必要があります。

1. にサインイン AWS マネジメントコンソール し、<https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Payment preferences] (お支払いの詳細設定) を選択します。
3. カードの有効期限日が将来の日付であることを確認します。カードが期限切れの場合は、新しいカードを追加するか、現在のカードを更新します。

AWS 欧州のクレジットカード支払い検証の管理

最近の EU 規制に準拠するために、クレジットカードを使用して AWS オンラインで支払う、クレジットカードを追加または更新する、または新しい を登録するたびに、銀行から確認を求められる場合があります AWS アカウント。銀行は通常、オンライン購入が完了する前に、一意のセキュリティコードをクレジットカード所有者にオンラインで送信します。銀行で支払いを確認する必要がある場合は、 から E メールが送信されます AWS。検証後、AWS ウェブサイトにリダイレクトされます。

支払いの検証を行いたくない場合は、支払い方法として銀行口座を登録してください。銀行デビット支払いの利用資格に関する詳細については、「 」を参照してください。

EU の規制に関する詳細については、[欧州委員会のウェブサイト](#) (英語) を参照してください。

-
-
-
-
-

検証のベストプラクティス

- クレジットカード情報が最新であることを確認します。銀行は登録されたカード所有者にのみ検証コードを送信します。
- 最新のコードを入力します。認証ポータルを閉じた場合や新しいコードをリクエストした場合は、最新のコードの受信が遅れることがあります。
- 指示に従ってコードを入力します。コードの送信元の電話番号を入力しないでください。

支払いの検証

AWS Billing and Cost Management コンソールを使用して、支払いを検証する必要があることを確認するか、失敗した支払いを再試行できます。

支払いを検証するには

1. にサインイン AWS マネジメントコンソール し、<https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Orders and invoices (注文と請求書)] を選択します。
3. [Payments due (支払い期限)] で支払う請求書を見つけ、[Verify and pay (検証して支払い)] を選択します。
4. [\[Payment preferences\]](#) (お支払いの詳細設定) ページで、使用する支払い方法を選択します。
5. [Complete payment (支払いを完了)] を選択します。
6. 支払いを検証する必要がある場合は、銀行のウェブサイトへリダイレクトされます。検証を完了するには、表示される指示に従ってください。

銀行での支払いが処理されると、[注文と請求書] ページへリダイレクトされます。

Note

銀行で支払い処理が完了するまで、請求書は [支払い処理中] というステータスで表示されます。

支払いの検証のトラブルシューティング

検証が正しく完了しなかった場合は、次のいずれかのアクションを取ることをお勧めします。

- 銀行に連絡して、自分の連絡先情報が最新であることを確認します。
- 銀行に連絡して、検証が失敗した理由の詳細を確認します。
- キャッシュと cookie を消去するか、別のブラウザを使用します。
- AWS Billing and Cost Management コンソール [の支払い設定](#) ページに移動し、請求連絡先情報を更新します。

AWS Organizations

のメンバーアカウントの場合 AWS Organizations、前払いを必要とする購入したサービスは、管理アカウントユーザーが支払いを検証するまでアクティブ化されない場合があります。検証が必要な場合、は管理アカウントの請求連絡先に E メールで AWS 通知します。

管理アカウントとメンバーアカウント間の連絡プロセスを確立してください。支払い方法を変更するには、「」を参照してください。

サブスクリプションの購入

複数のサブスクリプションを一度に (一括で) 購入し、銀行から確認を求められたとします。その後、銀行から個々の購入の確認を求められる場合があります。

サブスクリプションには、リザーブドインスタンス、ビジネスサポートプラン、Route 53 ドメインなどの即時購入が含まれる場合があります。サブスクリプションには AWS Marketplace 料金は含まれません。

すべての購入について検証を完了させるか、支払い方法として銀行口座を登録してください。銀行デビット支払いの利用資格に関する詳細については、「」を参照してください。

SEPA 口座振替の支払い方法の管理

AWS 欧州のお客様は、SEPA 銀行デビット支払いを許可する銀行口座を追加できます。個人用口座またはビジネス用口座のいずれも使用できます。ただし、SEPA がサポートされている国の支店に口座があり、ユーロでのお支払いの場合に限ります。

SEPA 銀行デビットで支払う場合、は請求書 AWS を提供し、翌日または請求書の期日のいずれか遅い方に支払い方法への請求を開始します。AWS Billing コンソールの支払い欄に [Succeeded] (成功) と表示されている場合でも、支払いが完了するまでに最大 5 営業日かかります。

AWS 請求コンソール [の支払い設定](#) ページを使用して、次の SEPA 銀行デビットタスクを実行できます。

目次

- [銀行口座を確認して AWS 欧州の支払い方法にリンクする](#)
- [AWS 欧州の支払い方法に口座振替口座を手動で追加する](#)
- [振替口座情報を更新する](#)

銀行口座を確認して AWS 欧州の支払い方法にリンクする

Note

この機能を使用するには、ドイツ、オランダ、スペイン、英国、フランス、イタリア、フィンランド、アイルランド、オーストリア、またはベルギーの請求先住所が必要です。請求先住所を変更するには、「[振替口座情報を更新する](#)」を参照してください。

銀行口座にサインイン AWS アカウント することで、SEPA 銀行デビット口座を確認して にリンクできます。本人確認と銀行口座名義を確認を行うために、銀行口座へのサインインをお願いしています。

AWS は TrueLayer と連携して銀行に接続し、銀行口座の所有権を安全に検証します。この 1 回限りの認証プロセスの間、お客様の情報は暗号化されたエンドツーエンド接続で保護されます。個人データは、接続された銀行口座の名義人であることを確認する目的以外に共有されることや使用されることはありません。

銀行口座のサインイン認証情報にアクセスできない場合は、銀行口座名義人用の IAM エンティティ (ユーザーやロールなど) を作成して、請求コンソールへのアクセスを許可することができます。その後、AWS アカウント 支払い方法を更新できます。口座のユーザー名、パスワード、支払い方法などの機密情報は共有しないことをお勧めします。詳細については、以下の各トピックを参照してください。

- [アクセス許可の管理の概要](#)
- 「AWS アカウント管理 リファレンスガイド」の [アカウントのルートユーザーを保護するためのベストプラクティス](#)

銀行口座の確認とリンクを行うには

1. にサインイン AWS マネジメントコンソール し、<https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Payment preferences] (お支払いの詳細設定) を選択します。
3. [Add payment method] (支払い方法を追加) を選択します。
4. [銀行口座] を選択します。
5. [銀行にサインイン] を選択します。
6. [銀行口座をリンク] を選択します。

7. 銀行名を選択します。
8. [許可] を選択します。共有した情報は、銀行口座名義の確認と詐欺防止にのみ使用されます。
9. 銀行口座にサインインします。銀行口座の認証情報を使用します (AWS アカウントの認証情報ではありません)。接続は暗号化され、認証情報は保護されます。AWS はオンラインバンキング認証情報にアクセスまたは保存しません。

 Note

銀行では、多要素認証 (MFA) による口座へのサインインが要求される場合があります。

10. [請求先住所情報] に主要口座名義人の請求連絡先を入力します。
11. [銀行口座を追加] を選択し、[利用規約] に同意して、銀行引き落とし口座を追加します。これで、銀行口座が検証され、AWS 欧州の支払い方法に追加されました。

 Note

AWS は、オンラインバンキングの認証情報にアクセスまたは保存しません。AWS は、明示的な同意を求め、銀行に以下の情報のみをリクエストします。

- 口座名義人の名前
- アカウント番号

銀行によっては、追加情報の共有についてお客様の同意が求められる場合があります。ただし、追加情報はと共有されません AWS。は、銀行口座の所有権を確認し、この情報を最初に収集した後に銀行口座に請求 AWS できます。この情報 AWS へのアクセスは、現地の規制と銀行のポリシーに基づいて期限切れになります。

口座振替による支払いを削除するには、「[支払い方法の削除](#)」を参照してください。銀行情報への AWS データアクセスを削除するには、[TrueLayerドキュメント](#)を参照してください。

AWS 欧州の支払い方法に口座振替口座を手動で追加する

振替口座を手動で追加するには、次の要件が満たされている必要があります。

- 過去 12 か月間に 1 件以上の請求書を全額支払っている

- 過去 2 か月間に少なくとも累計 100 USD または 100 EUR を支払った。

支払い方法を追加する前に、次の情報が必要です。

- Bank Identifier Code (BIC)
- 銀行口座の支店コード (IBAN)
- 銀行を口座と関連付けるアドレス

SEPA 振替口座を手動で追加するには

1. にサインイン AWS マネジメントコンソール し、<https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Payment preferences] (お支払いの詳細設定) を選択します。
3. [Add payment method] (支払い方法を追加) を選択します。
4. [銀行口座] を選択します。
5. [Account Holder Name (口座名義)] に、プリンシパルアカウントの名義を入力します。
6. [BIC (SWIFT code)] (BIC (SWIFT コード)) に、8 桁または 11 桁の番号を入力します。ルーティング番号は、8 桁または 11 桁です。
7. [Confirm BIC (Swift コード) (BIC (Swift コード) の確認)] に、BIC を再入力します。コピーアンドペーストしないでください。
8. [IBAN] に、IBAN の数字を入力します。
9. [Reenter IBAN] (IBAN を再入力) で、IBAN の数字を再入力します。コピーアンドペーストしないでください。
10. [Make Default (支払い方法に設定する)] で、この銀行デビット口座をデフォルトの支払い方法にするかどうかを選択します。
11. [Billing Address information] (請求先住所情報) に、主要口座名義人の請求連絡先を入力します。
12. [Add bank account] (銀行口座を追加) を選択し、[Terms and Conditions] (利用規約) に同意して、銀行デビット口座を追加します。

振替口座情報を更新する

銀行デビット口座に関連付けられた名前、住所、または電話番号は更新することができます。

振替口座情報を更新するには

1. にサインイン AWS マネジメントコンソール し、<https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Payment preferences] (お支払いの詳細設定) を選択します。

に関連付けられている支払い方法は AWS アカウント、「支払い方法」セクションに記載されています。

3. 編集する銀行デビット口座を選択し [Edit] (編集) を選択します。
4. 変更するフィールドを更新します。
5. ダイアログボックスの最下部で [Save changes] (変更の保存) を選択します。

Bacs 口座振替支払い方法の管理

AWS 欧州のお客様は、銀行口座を追加して、Bacs の口座振替支払いを許可できます。任意の個人用銀行口座または事業用銀行口座を使用できますが、口座が英国内にあり、支払いが英国ポンド (GBP) で行われることが条件となります。

UK 銀行デビットで支払う場合、は請求書 AWS を提供し、3 営業日以内に支払い方法への請求を開始します。AWS Billing コンソールの支払い欄に [成功しました] と表示されている場合でも、支払いが正常に完了するまで最大 6 営業日かかる可能性があります。

AWS 請求コンソール[の支払い設定](#)ページを使用して、次の英国の口座振替タスクを実行できます。

目次

- [銀行口座を確認して AWS 欧州の支払い方法にリンクする](#)
- [振替口座情報を更新する](#)
- [Bacs 口座振替保証](#)

銀行口座を確認して AWS 欧州の支払い方法にリンクする

Bacs 銀行デビット口座を確認して にリンクするには、銀行口座に AWS アカウント サインインし、ペニー料金を承認します。銀行口座にサインインして、銀行口座の所有権を確認する必要があります。

AWS は TrueLayer と連携して銀行に接続し、銀行口座の所有権を安全に検証します。この 1 回限りの認証プロセスの間、お客様の情報は暗号化されたエンドツーエンド接続で保護されます。個人デー

タは、接続された銀行口座の名義人であることを確認する目的以外に共有されることや使用されることはありません。

銀行口座のサインイン認証情報にアクセスできない場合は、銀行口座名義人用の IAM エンティティ (ユーザーやロールなど) を作成して、請求コンソールへのアクセスを許可することができます。その後、AWS アカウント 支払い方法を更新できます。口座のユーザー名、パスワード、支払い方法などの機密情報は共有しないことをお勧めします。詳細については、以下の各トピックを参照してください。

- [アクセス許可の管理の概要](#)
- 「AWS アカウント管理 リファレンスガイド」の [アカウントのルートユーザーを保護するためのベストプラクティス](#)

銀行口座の確認とリンクを行うには

1. にサインイン AWS マネジメントコンソール し、<https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Payment preferences] (お支払いの詳細設定) を選択します。
3. [Add payment method] (支払い方法を追加) を選択します。
4. [Bacs 口座振替]、[銀行を選択] の順に選択します。
5. 提供されたオプションから銀行を選択します。
6. 銀行口座にサインインして、1 ペニーの引き落としを承認します。銀行口座の認証情報を使用します (AWS アカウントの認証情報ではありません)。接続は暗号化され、認証情報は保護されます。AWS はオンラインバンキング認証情報にアクセスまたは保存しません。
7. [支払いを確認] を選択します。共有した情報は、銀行口座名義の確認と詐欺防止にのみ使用されます。引き落とし額は即座に払い戻されます。
8. [請求先住所情報] に主要口座名義人の請求連絡先を入力します。
9. [銀行口座を追加] を選択し、[利用規約] に同意して、銀行引き落とし口座を追加します。これで、銀行口座が検証され、AWS 欧州の支払い方法に追加されました。

Note

AWS は、オンラインバンキングの認証情報にアクセスまたは保存しません。AWS は、明示的な同意を求め、銀行に以下の情報のみをリクエストします。

- 口座名義人の名前

- アカウント番号
- 委任 ID

銀行によっては、追加情報の共有についてお客様の同意が求められる場合があります。ただし、追加情報はと共有されません AWS。は、銀行口座の所有権を確認し、この情報を最初に収集した後に銀行口座に請求 AWS できます。この情報 AWS へのアクセスは、現地の規制と銀行のポリシーに基づいて期限切れになります。

口座振替による支払いを削除するには、「[支払い方法の削除](#)」を参照してください。銀行情報への AWS データアクセスを削除するには、[TrueLayer ドキュメント](#)を参照してください。

振替口座情報を更新する

Bacs 口座振替の口座に関連付けられた名前、住所、または電話番号を更新できます。

Bacs 口座振替の口座情報を更新する

1. にサインイン AWS マネジメントコンソール し、<https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Payment preferences] (お支払いの詳細設定) を選択します。

に関連付けられている支払い方法は AWS アカウント、「支払い方法」セクションに記載されています。

3. 編集する銀行デビット口座を選択し [Edit] (編集) を選択します。
4. 変更するフィールドを更新します。
5. ダイアログボックスの最下部で [Save changes] (変更の保存) を選択します。

Bacs 口座振替保証

この保証は、口座振替による支払いの指示を受け付けるすべての銀行と住宅金融組合によって提供されるものです。

- 口座デビットの金額、日付、または頻度に変更があった場合、AWS 欧州は、口座がデビットされる 2 営業日前、または別途合意されているとおりに通知します。

- AWS 欧州に支払いの回収をリクエストすると、リクエスト時の金額と日付の確認が提供されます。
- AWS 欧州、銀行、または建物協会による口座デビットの支払いにエラーが発生した場合、銀行または建物協会から支払われた金額の完全かつ即時の返金を受けることができます。
- 使用権限のない返金を受け取った場合は、AWS 欧州から要求されたときに返金する必要があります。
- 口座振替は、銀行または住宅金融組合に連絡することでいつでもキャンセルできます。書面による確認が必要になる場合があります。また、に通知する必要があります AWS。

支払い方法に関して質問がある場合は、「[請求書と支払いに関するサポートを受ける](#)」を参照してください。

AWS Financing を使用して分割払いで請求書を支払う

Financing を使用して、選択した AWS Marketplace 購入額を最大 48 か月の分割払いで支払うことができます。AWS Billing and Cost Management コンソールから申請すると、アプリケーションは当社のパートナーレンダーによってレビューされます。申請が承認されたら、Billing and Cost Management コンソールの [支払い] ページで融資を使用して、所定の AWS Marketplace 請求書の支払いを即時に行うことができます。すべての融資決定は、提携融資者独自の裁量によって行われます。

Note

- 現在、事業法人住所が米国外にある、または米国のネバダ州、ノースカロライナ州、ノースダコタ州、テネシー州、バーモント州内にある場合、融資は利用できません。
- AWS Marketplace 購入の資金調達に関心がある場合は、[AWS Financing Marketing](#) ページにあるインタレストフォームに入力します。

融資の開始

IAM アクセス許可

AWS Identity and Access Management (IAM) ユーザーまたはロールには、金融機能を使用するためのアクセス許可が必要です。これらの許可へのアクセス権を付与するには、管理者にお問い合わせ

ください。必要な IAM アクセス許可の詳細については、「サービス認可リファレンス」の「[Billing: AWS Billing コンソールアクションを含むアイデンティティベースのポリシー](#)」および [AWS 「支払いのアクション、リソース、および条件キー」](#) を参照してください。

次の手順

開始するには、AWS Billing and Cost Management コンソールから金融を申請します。手順については、「[AWS 金融への申請](#)」を参照してください。

AWS 金融への申請

融資の使用を開始する前に、申請を送信する必要があります。申請への署名に必要な IAM 許可があることを確認してください。

融資を申請する

1. <https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [支払い] を選択します。
3. [ファイナンス] タブを選択します。
4. [ファイナンスに移動] を選択します。
5. [利用可能な融資オプション] で [申請を開始] を選択します。
6. [申請の概要] ページで情報を確認し、[次へ] を選択します。
7. [事業に関する情報] で [法人名] を入力します。
8. (オプション) 代替法人名がある場合は、[事業の DBA 名] フィールドに代替名を入力します。

DBA (Doing Business As) 名を使用しない場合は、[私のビジネスでは DBA 名を使用していません] の横にあるチェックボックスをオンにします。

9. [事業所所在地] に会社の事業法人住所を入力します。
10. [追加情報] に事業の詳細情報を入力します。

- 事業の法律上の形態: ドロップダウンリストから事業形態を選択します。
- 設立日: 個人事業主またはパートナーシップである場合は会社の設立日。

設立日: 法人である場合は会社の登録日。

- 事業年数: 現在の所有者のもとで事業が運営されてきた年数。

- 年間事業収益: 前年の事業連結収益。これには、共通の所有者の傘下にある子会社および関連会社が含まれます。年間事業収益は、直近の法人税申告書で報告されているのが一般的です。
- 納税者識別番号 (TIN): 9 桁の納税者識別番号。

11. [次へ] を選択します。
12. [連絡先担当者の情報] に、主要連絡先情報を入力します。この情報は、申請手続き中にお客様に連絡する必要が生じた場合に資金提供者が使用します。
13. [保証人に関する情報] には、会社の 26% 以上を所有している人物の詳細情報を入力します。保証人を追加するには、[保証人をさらに追加] を選択します。
14. [次へ] を選択します。
15. [確認して送信] ページで入力した情報を確認します。変更が必要な場合は、[編集] を選択します。
16. [ローン申請に関する開示事項] セクションで、[ローンに関する開示事項を表示] を選択します。
17. [次へ] を選択します。
18. 申請が承認されたら、[融資] ページで [確認して署名] を選択します。
19. [申請の詳細を確認] ページで、概要と実質年率 (APR) オプションを確認します。[次へ] を選択します。
20. 銀行口座情報を入力して、[次へ] を選択します。
21. [文書に署名] ページで、リストされている各文書に電子署名を行います。[署名者情報] で署名者の情報を入力し、[次へ] を選択します。
22. [確認して送信] ページで入力した情報を確認します。変更が必要な場合は、[編集] を選択します。
23. [Submit] を選択してください。

申請手続き中に提供された情報と、署名済みの文書が融資者と共有されます。融資者は、申請が承認され、必要な文書がすべて受領されたことを確認した後で融資をアクティブ化します。追加情報が必要な場合は、申請時に入力した E メールアドレスに融資者からの連絡が届くことがあります。

AWS 金融による支払い

承認された融資額を使用して、所定の請求書の支払いを行うことができます。承認された融資額を使用するには、その金額が支払い対象の請求書残高よりも多く、アクティブである必要があります。承認された融資額は 90 日間有効です。この期間後は、申請を再度行う必要があります。

融資を使用して所定の請求書の支払いを行う

1. <https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [支払い] を選択します。
3. [お支払い期限] テーブルで、支払い対象の請求書を選択します。
4. [Complete payment (支払いを完了)] を選択します。
5. [お支払い方法] で [毎月の分割払いで支払う] を選択します。
6. [返済条件を選択] で、提供されたオプションから返済期間とローン期間を選択します。
7. [オファ어의概要を確認 - 分割払いに関する開示事項] を開き、法的開示文書を確認します。
8. [Verify and pay] (確認して支払う) を選択します。

財務と使用状況の監視

Billing and Cost Management コンソールで、承認された融資の金額、用途、および引出しを追跡できます。また、署名済みのローン文書、融資額に対して行われた返済、利用可能な残高を確認することもできます。

融資と使用状況を監視する

1. <https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [支払い] を選択します。
3. [ファイナンス] タブを選択します。
4. [ファイナンスに移動] を選択します。
5. 詳細を表示する融資枠を選択します。
6. 出金に関する追加の詳細情報を表示するには、リストされている [引出し ID] 名を選択します。

支払いプロファイルの使用

支払いプロファイルを使用すると、複数の AWS のサービス プロバイダー (「SOR」、「登録販売者」) から請求書を受け取るときに支払い方法を管理できます。使用する通貨と優先支払い方法を指定して、各 AWS のサービス プロバイダーに設定された支払いプロファイルを作成できます。

サービスプロバイダーの支払いプロファイルを作成すると、支払いプロファイルが指定された通貨と支払い方法を使用して、AWS 請求書の支払いを自動的に行います。

支払いプロファイルは必須ではありません。支払いプロファイルを作成しない場合は、AWS アカウントへのサインアップ時に作成されたデフォルトの支払い設定が使用されます。

支払いプロファイルは、有効なデフォルトの支払い方法があるにもかかわらず発生してしまう支払い漏れ、サブスクリプション購入の失敗、未処理の契約更新などを回避するのに役立ちます。支払いプロファイルを使用すると、次のことを実行できます。

- プロバイダーごとに異なる通貨を使用する AWS のサービス
- AWS のサービス プロバイダーごとに異なる支払い方法を使用する
- 有効な支払い方法により一貫して請求の自動支払いを行う
- サービスの中断や残高不足を回避する

Note

国や技術上の制限により、すべての支払い方法をすべてのプロバイダーに適用できるわけではありません。デフォルトの支払い方法がサービスプロバイダーに対して有効でない場合は、そのサービスプロバイダーに適用できる支払い方法を使用して支払いプロファイルを作成してください。詳細については、「[支払いプロファイルの作成](#)」を参照してください。請求転送を使用して請求書転送アカウントとしてサインインする場合、請求書設定を使用して請求書に異なる税プロファイルを割り当てると、支払いプロファイルを使用して請求書ソースアカウントから請求書を支払うことができます。詳細については、「[請求書設定を使用した AWS 請求書設定のカスタマイズ](#)」を参照してください。

トピック

- [支払いプロファイルの作成](#)
- [支払いプロファイルの編集](#)
- [支払いプロファイルの削除](#)

支払いプロファイルの作成

請求情報とコスト管理コンソールから次の手順によって、新しいカスタムプロファイルを作成できます。

支払いプロファイルを作成するには

1. にサインイン AWS マネジメントコンソール し、 <https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインの [Preferences (設定)] の下で、[支払い方法] を選択します。
3. [Payment profiles] (支払いプロファイル) セクションの下で、[Visit payment profiles] (支払いプロファイルの表示) を選択します。
4. [Payment profiles] (支払いプロファイル) セクションの下で、[Create payment profiles] (支払いプロファイルの作成) を選択します。
5. 請求を受けるサービスプロバイダーを選択します。
6. 支払い通貨を選択します。
7. (オプション) 支払いプロファイルの名前を入力します。
8. [Payment method] (支払い方法) セクションの下で、指定したサービスプロバイダーに対して対応する通貨で支払いを行う支払い方法を選択します。
 - 新しい支払い方法の追加
 - a. [Add a new payment method] (新しい支払い方法の追加) を選択し、新しいタブを開きます。
 - b. アカウントに新しい支払い方法を追加します。詳しくは、「[Managing Your Payments](#)」を参照してください。
 - c. Create payment profile (支払いプロファイルの作成) タブに戻ります。
 - d. [Payment method] (支払い方法) セクションの下で、更新アイコンを選択します。
 - e. 作成した新しい支払い方法を選択します。
9. [Create payment profile] (支払いプロファイルの作成) を選択します。

Note

支払いプロファイルを作成すると、指定された AWS のサービス プロバイダーによって発行された新しい請求書の通貨と支払い方法が更新されます。

例: AWS Inc. 請求書の支払いプロファイルの作成

このセクションでは、AWS Inc. サービスプロバイダーから受け取った請求書の支払いプロファイルを作成する方法の例を示します。この例では、AWS Organizations 管理アカウントは AWS 欧州に

あります (サービスプロバイダーとしてAWS 「EMEA SARL」と表示)。デフォルトの支払い通貨はユーロ (EUR) です。

有効なデフォルトの支払い方法が登録されている場合は、AWS 欧州の請求書を自動的に支払うことができます。有効な支払い方法の例として、クレジットカードおよび SEPA 銀行デビット口座があります。詳細については、「[AWS 欧州での支払いの管理](#)」を参照してください。

AWS Inc. の請求書では、別の通貨 (USD など) と別の支払い方法 (クレジットカードなど) を使用して支払う支払いプロファイルを作成できます。

この AWS Inc. の例の支払いプロファイルを作成するには

1. <https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインの [Preferences (設定)] の下で、[支払い方法] を選択します。
3. [Payment profiles] (支払いプロファイル) セクションの下で、[Visit payment profiles] (支払いプロファイルの表示) を選択します。
4. [支払いプロファイルの作成] を選択します。
5. [Service provider] (サービスプロバイダー) で、AWS Inc を選択します。
6. [Currency] (通貨) で、USD - US dollar を選択します。
7. (オプション) 支払いプロファイルの名前を入力します (例: My AWS Inc. payment profile)。
8. [Payment method] (支払い方法) セクションの下で、指定したサービスプロバイダーに対して対応する通貨で支払いを行う支払い方法を選択します。
9. [Create payment profile] (支払いプロファイルの作成) を選択します。

この支払いプロファイルが作成されると、AWS Inc. の請求書は、USD 通貨と指定した支払い方法を使用して自動的に支払われます。

例: AWS 欧州請求書の支払いプロファイルの作成

このセクションでは、AWS 欧州 (AWS 「EMEA SARL」) サービスプロバイダーから受け取った請求書の支払いプロファイルを作成する方法の例を示します。この例では、AWS Organizations 管理アカウントは AWS Inc. にあります。デフォルトの支払い通貨は US USD (USD) です。

有効なデフォルトの支払い方法が登録されている場合は、AWS Inc. からの請求は自動的に支払い処理されます。有効な支払い方法の例として、クレジットカードおよび ACH 銀行デビットとしての米国銀行口座があります。詳細については、「[Managing Your Payments](#)」を参照してください。

AWS 欧州の請求書では、別の通貨 (USD など) と別の支払い方法 (クレジットカードなど) を使用して支払う支払いプロファイルを作成できます。

この AWS 欧州の例の支払いプロファイルを作成するには

1. <https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインの [Preferences (設定)] の下で、[支払い方法] を選択します。
3. [Payment profiles] (支払いプロファイル) セクションの下で、[Visit payment profiles] (支払いプロファイルの表示) を選択します。
4. [支払いプロファイルの作成] を選択します。
5. [Service provider] (サービスプロバイダー) で、AWS EMEA SARL を選択します。
6. [Currency] (通貨) で、EUR - Euro を選択します。
7. (オプション) 支払いプロファイルの名前を入力します (例: My AWS Europe payment profile)。
8. [Payment method] (支払い方法) セクションの下で、指定したサービスプロバイダーに対して対応する通貨で支払いを行う支払い方法を選択します。
9. [Create payment profile] (支払いプロファイルの作成) を選択します。

例: AWS ブラジルの請求書の支払いプロファイルの作成

このセクションでは、AWS ブラジル (「Amazon Web Services」 /> Serviços Brasil Ltda) サービスプロバイダーから受け取った請求書の支払いプロファイルを作成する方法の例を示します。この例では、管理 AWS Organizations アカウントは AWS Inc. にあります。デフォルトの支払い通貨は US USD (USD) です。

有効なデフォルトの支払い方法が登録されている場合は、AWS Inc. からの請求は自動的に支払い処理されます。有効な支払い方法の例として、クレジットカードおよび ACH 銀行デビットとしての米国銀行口座があります。詳細については、「[Managing Your Payments](#)」を参照してください。

AWS ブラジルの請求書については、ブラジルの対象となる AWS ブラジルリアル (BRL) 通貨クレジットカードを使用して支払う支払いプロファイルを作成できます。

この AWS ブラジルの例の支払いプロファイルを作成するには

1. <https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。

2. ナビゲーションペインの [Preferences (設定)] の下で、[支払い方法] を選択します。
3. [Payment profiles] (支払いプロファイル) セクションの下で、[Visit payment profiles] (支払いプロファイルの表示) を選択します。
4. [支払いプロファイルの作成] を選択します。
5. [Service provider] (サービスプロバイダー) で、Amazon Web Services"/> Serviços Brasil Ltda を選択します。
6. [Currency] (通貨) で、BRL - Brazilian real を選択します。
7. (オプション) 支払いプロファイルの名前を入力します (例: My AWS Brazil payment profile)。
8. [Payment method] (支払い方法) セクションの下で、指定したサービスプロバイダーに対して対応する通貨で支払いを行う支払い方法を選択します。
9. [Create payment profile] (支払いプロファイルの作成) を選択します。

支払いプロファイルの編集

支払いプロファイルを作成した後は、請求情報とコスト管理コンソールを使用していつでも詳細を編集できます。

支払いプロファイルを編集するには

1. <https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインの [設定] の下で、[支払い方法] を選択します。
3. [Payment profiles] (支払いプロファイル) セクションの下で、支払いプロファイルを選択し、[Edit] (編集) を選択します。
4. 支払いプロファイルを更新して、[Save changes] (変更の保存) を選択します。

支払いプロファイルの削除

支払いプロファイルは、請求情報とコスト管理コンソールを使用していつでも削除できます。

支払いプロファイルを削除するには

1. <https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。

2. ナビゲーションペインの [設定] の下で、[支払い方法] を選択します。
3. [Payment profiles] (支払いプロファイル) セクションの下で、[Visit payment profiles] (支払いプロファイルの表示) を選択します。
4. 支払いプロファイルを選択し、[削除] を選択します。

AWS クレジットの適用

AWS クレジットは、対象となるサービスに関連するコストをカバーできるように、請求書に自動的に適用されます。対象となるサービスの詳細については、[AWS「プロモーションクレジットの引き換え」](#)を参照してください。クレジットは、使い果たされるか期限切れになるまで適用されます。

AWS クレジット全般、または既に有効期限が切れているクレジットについては、[お問い合わせ](#)ください サポート。への連絡方法の詳細については [サポート、「」を参照してください](#) [請求書と支払いに関するサポートを受ける](#)。

AWS クレジットの表示

- 前回の請求日以降のクレジット残高を表示するには、[請求] コンソールの [クレジット] ページに移動します。クレジット残高は [残高] 列で確認できます。クレジット残高は、現在の請求サイクルの終了時に毎月更新されます。たとえば、今月の請求書に既にクレジットを適用している場合、[残高] 列はその請求サイクルの終了時に更新されます。
- 当月の推定クレジット残高を表示するには、[請求] コンソールの [請求書] ページに移動し、[削減額] タブを選択します。このクレジット残高は 24 時間ごとに更新され、最新の推定クレジット残高が表示されます。

請求転送ユーザーの AWS クレジットの表示

- 請求書ソースアカウントとしてサインインすると、クレジットは AWS 請求書転送アカウントに送信される標準請求書に適用されます。これらのクレジットは、請求転送アカウントが見積りドメインでクレジットを有効にしない限り、見積り請求アーティファクト (請求ページ、Cost Explorer、または AWS Cost and Usage Report) に表示されません。クレジットページにクレジット残高が表示されなくなりました。このページには、すべてのクレジットが引き換えられるまで、静的な値として引き換えられたクレジットの合計金額が表示されます。
- 請求書転送アカウントとしてサインインすると、Cost Explorer の請求表示機能と請求ページを使用して AWS Cost and Usage Report、請求書 AWS Organizations を転送する各のクレジットアプリケーションを表示できます。クレジットページは請求ビュー機能をサポートしていません。独自の交換されたクレジット AWS Organizations と請求元組織からのクレジットは、それらの組織に IAM ロールがある場合にのみ表示できます。

トピック

- [ステップ 1: 適用するクレジットの選択](#)

- [ステップ 2: クレジット適用先の選択](#)
- [ステップ 3: 単一および複数のアカウントに AWS クレジットを適用する](#)
- [ステップ 4: AWS クレジットの共有](#)

ステップ 1: 適用するクレジットの選択

このセクションでは、単一またはスタンドアロンので AWS クレジットがどのように適用されるかについて説明します AWS アカウント。に複数のクレジット AWS アカウント がある場合、使用可能なクレジットは次の順序で適用されます。

AWS アカウント に複数のクレジットがある場合のクレジットの適用順序

1. 全体の中で残りの有効期限が最も短いクレジット
2. 対象サービスの数が最も少ないクレジット
3. 全体の中で最も古いクレジット

たとえば、ジョージが 2 つのクレジットを使用できる場合を考えます。クレジット 1 は、2019 年 1 月期限の 10 USD 相当で、Amazon S3 にも Amazon EC2 にも利用できます。クレジット 2 は、2019 年 12 月期限の 5 USD 相当で、Amazon EC2 のみで利用できます。Jorge には、すべてのクレジットを適用するのに十分な AWS 料金がかかります。は、クレジット 2 より早く期限切れになるため、最初にアプリケーションにクレジット 1 AWS を選択します。

Note

- クレジットを消費した後も有効な使用量が残っている場合は、クレジットがすべて消費されるか、使用量が満たされるまで、このプロセスが繰り返されます。
- クレジットは、最も高額なサービス料金 (例えば、Amazon EC2、Amazon S3 など) に適用されます。その後、クレジットは、料金が高いサービスから低いサービスに向け順に消費されます。
- クレジットは、請求プロセス中にお客様が選択する必要はありません。AWS は、対象となるクレジットを該当するサービスに自動的に適用します。

ステップ 2: クレジット適用先の選択

このセクションでは、AWS クレジット共有がオンになっている AWS Organizations 場合に でクレジットがどのように適用されるかを示します。

クレジット共有がアクティブ化された AWS Organizations ときに でクレジットがどのように適用されるかの順序

1. クレジットを所有するアカウントでは、サービスの利用料金が補償されます。
2. クレジットは、支出が最も多い AWS アカウント に適用されます。
3. 連結アカウントでは、請求は特定のフィールドごとにグループ化され、クレジットは請求額が最も高いグループに適用されます。
4. このグループ内で、クレジットが最も高い料金に最初に適用されます

このプロセスは、クレジットがすべて消費されるか、お客様のために補償すべき支出がなくなるまで続きます。

AWS は、すべての対象登録販売者に対して利用可能な最大料金にクレジットを適用します。つまり AWS 、 は有効期限が切れる前にクレジットを適用しようとします。したがって、特定のサービスに対して一般的なクレジットを使用する可能性があります。

たとえば、ジョージが 2 つのクレジットを使用できる場合を考えます。クレジット 1 は、2019 年 1 月期限の 10 USD 相当で、Amazon S3 にも Amazon EC2 にも利用できます。クレジット 2 は、2019 年 12 月期限の 5 USD 相当で、Amazon EC2 のみで使用できます。Jorge には、Amazon EC2 に 100 USD、Amazon S3 に 50 USD の 2 つの AWS 料金があります。 は、1 月に期限切れになる Amazon EC2 料金に AWS クレジット 1 を適用します。これにより、Jorge は 90 ドルの Amazon EC2 料金と 50 ドルの Amazon S3 料金にクレジット Amazon EC2 AWS を適用します。Jorge は Amazon EC2 に 85 USD、Amazon S3 に 50 USD を支払う必要があります。彼は今、自分のクレジットのすべてを使用しました。

Note

請求書ソースアカウントとしてサインインする場合、 のアカウントのクレジット共有を管理する責任があります AWS Organizations。請求書転送アカウントは、これらの設定を変更するための組織間ルールを指定しない限り、クレジット共有を制御できません。

ステップ 3: 単一および複数のアカウントに AWS クレジットを適用する

次のルール AWS では、 がクレジットを 1 つのアカウントおよび組織の請求にデフォルトで適用する方法を指定します (クレジット共有が有効)。

- 請求サイクルは毎月の初日に始まります。
- AWS アカウント が組織に含まれていない個人によってその月の最初の日に関連付けられているとします。同じ月の後半に、この個人のアカウントが組織に追加されたとします。この場合、 は、その月の使用量に対する個々の請求に対する個人のクレジット AWS を適用します。つまり、個人が組織に加わった日までのクレジット AWS を適用します。

Note

個人のアカウントのクレジットは、その個人が組織に追加された日から同月末までの、アカウントでの使用をカバーしません。この期間は、個人のアカウントのクレジットは請求に適用されません。ただし、翌月から、 は個人のアカウントクレジットを組織 AWS に適用します。

- アカウントが組織によってその月の最初の日時点で所有されている場合、AWS は、そのアカウントが同じ月に組織を離れた場合でも、支払人アカウントまたはリンクされたアカウントが償還したクレジットを組織の請求書に適用します。月の始まりは 0:00 UTC+0 の 1 秒後に始まります。例えば、あるアカウントが 8 月 1 日に組織を離れるとします。このアカウントはその暦月中は組織に属していたため、組織の請求に、アカウントが償還した 8 月のクレジットが AWS により適用されます。
- その月に個人が組織を離れた場合、 は翌月の初日に個人のアカウントにクレジットを適用 AWS し始めます。
- クレジットは、該当月の任意の時点で組織に加入するすべてのアカウントと共有されます。ただし、組織の共有クレジットプールは、月の最初の日から組織の一員となっているアカウントからのクレジットのみで構成されます。

例えば、スーザンが月の最初の日に関連付けられているアカウントを所有していて、その月に組織に加わるとします。また、彼女が組織に加わった翌日にクレジットを引き換えると仮定します。 は、その月の 1 日から組織に加わった日までの使用量に対して、自分のアカウントにクレジット AWS を適用します。ただし、次の月の最初の日以降は、組織の請求にクレジットが AWS により適用されます。スーザンが組織を離れた場合、スーザンが請求したクレジットは、離脱の翌月 1 日まで組織の請求書に適用

されます。彼女が離れた後の月から開始し、組織の請求の代わりに彼女の請求にスーザンのクレジットが AWS により適用されます。

別の例では、スーザンは 1 月 1 日に単一のアカウントを所有していて、1 月 11 日に組織に加わったとします。スーザンが 1 月 18 日に 100 USD のクレジットを引き換えた場合、は 1 月に発生した使用量をアカウント AWS に適用します。2 月 1 日以降から、スーザンのクレジットは組織の一括請求に適用されます。スーザンのクレジットが 50 USD で 4 月 16 日に組織を離れた場合は、スーザンのクレジットは組織の 4 月度の一括請求に適用されます。5 月から、スーザンのクレジットは自身のアカウントに適用されます。

ステップ 4: AWS クレジットの共有

Billing and Cost Management コンソールの [請求設定] ページで、クレジット共有を無効化できます。次のルールでは、クレジット共有を無効化した場合の、単一のアカウントおよび組織の請求へのクレジットの適用方法を指定します。

- 請求サイクルは毎月の初日に始まります。
- クレジットは、クレジットを受け取ったアカウントのみに適用されます。
- 請求書は、月の最終日にアクティブになっているクレジット共有設定を使用して計算されます。
- 組織内では、支払者アカウントのみがクレジット共有の有効化または無効化を切り替えることができます。支払いアカウントのユーザーは、クレジットを共有できるアカウントを選択することもできます。

クレジット共有設定

このセクションで、請求ファミリーのメンバーアカウント間でクレジット共有を有効にできます。特定のアカウントを選択することも、すべてのアカウントで共有を有効にすることもできます。

Note

このセクションは、の一部として管理アカウント (支払者アカウント) でのみ使用できます AWS Organizations。

請求転送を使用して請求書転送アカウントとしてサインインする場合、内のアカウントに対してのみ共有設定を制御できます AWS Organizations。各請求ソースアカウントは、アカウント独自の設定の共有を制御します AWS Organizations。

メンバーアカウントのクレジット共有を管理するには

1. <https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、[請求設定] を選択します。
3. [クレジットの共有設定] セクションで、[編集] を選択します。
4. 特定のアカウントのクレジット共有を有効または無効にするには、表からアカウントを選択し、[有効化] または [無効化] を選択します。
5. すべてのアカウントのクレジット共有を有効または無効にするには、[アクション] を選択し、[すべて有効化] または [すべて無効化] を選択します。
6. [更新] を選択します。

Tip

- 組織に加入する新しいアカウントのクレジット共有を有効にするには、[新しく作成したメンバーアカウントのデフォルト共有] を選択します。
- クレジット共有設定の履歴をダウンロードするには、[設定履歴 (CSV) をダウンロード] を選択します。

請求書設定を使用した AWS 請求書設定のカスタマイズ

AWS 請求書設定を使用して、AWS 組織内の特定のメンバーアカウントが、そのメンバーアカウントまたは他のメンバーアカウントの料金に対応する請求書を受け取るように、請求書設定を設定できます。

Billing Transfers を使用する場合は、請求書設定を使用して、請求書を転送する各組織の複数の税設定と記録システム (SOR) をサポートできます。

標準請求書設定のユースケースの場合

請求書設定を使用して、請求書を受け取るメンバーアカウントが組織のビジネスモデルを正確に表すようにすることができます。請求書設定は、事業体に対するチャージバックでの手作業によるオーバーヘッドにかかる時間の節約につながります。事業体に対する AWS コストに合わせたアカウントグループを作成し、事業体間における請求関係をモデル化することで、AWS のサービスの調達をさらに合理化できます。請求ユニットを作成し、請求ユニットにアカウントをいつでも追加または削除する柔軟性があります。これらの変更は 1 か月のどの時点でも実行でき、変更は翌月の初めに受け取る請求書に反映されます。サイクル外請求書 (OCB) とサブスクリプション購入請求書も、それぞれの請求書受取人アカウントに請求されます。請求書単位の一部ではないアカウントは、AWS 請求書設定を使用して、以前と同じ方法で請求書を受信し続けます。

日次請求書統合にオプトインした場合は、統合された日次請求書を受け取ります。この請求書には、1 日の終わりにアクティブな請求ユニット設定が反映されます。

請求ユニットは、支払者アカウントの支払い方法と条件を継承します。管理アカウントとメンバーアカウントは、参加中にメンバーアカウントによって発生したすべての料金について、連帯して責任を負います AWS Organizations。

支払者アカウントと請求書受取人アカウントが請求書を表示するには、Billing and Cost Management コンソールの [請求] ページから請求書をダウンロードできます。請求書は、ユーザーが請求ユニットで設定する請求連絡先にも E メールで送信されます。返金またはクレジットメモの発行は、請求書の発行先である元のアカウントに対して行われます。

Billing Transfer 請求書設定のユースケースの場合

請求書設定を使用して、請求転送で複数の税金設定と登録販売者 (SOR) をサポートするには、請求書転送アカウントにメンバーアカウントを作成します。次に、1 つ以上の移管組織 (請求書ソースアカウントとすべてのメンバーアカウントを含む) を請求書移管アカウントのメンバーアカウントにマッピングします。

重要ポイント

請求書設定は、以下の特定の機能のために使用できます。

請求ユニットを作成する

事業体に対応する請求ユニット (相互排他的なアカウントのセット) を作成できます。請求ユニットは、所定の受取人アカウントと、受取人に発行される請求書に使用料金がまとめられる一連のアカウントで構成されています。請求書ユニットを使用して AWS コストを分離し、今後各事業体の請求書を設定できます。

請求書受取人を割り当てる

請求ユニットそれぞれに受取人を割り当てることができます。事業体の請求書の受け取りには、支払者アカウントまたは別のメンバーアカウントを選択するオプションがあります。

発注書を各事業体に関連付ける

各請求ユニットに [発注書](#) を関連付けて、事業体全体での Procure-to-Pay (調達から支払いまで) プロセスを管理できます。

コストの視覚化と分析を行って理解する

Cost Explorer と [請求書単位 AWS Cost and Usage Report](#) ごとに使用して、AWS コストをさらに分析できます。

IAM アクセス許可のセットアップ

ユーザーやロールなどの AWS Identity and Access Management (IAM) ID には、請求書設定を使用するためのアクセス許可が必要です。アクセスを許可するには、「[請求コンソールで AWS 請求書設定へのアクセスを許可する](#)」を参照してください。

クォータ

請求書設定には、いくつかのクォータと制限が適用されます。詳細については、「クォータと制限」ページの「[AWS 請求書設定](#)」を参照してください。

Service Quotas の詳細については、「AWS 全般のリファレンス」の「[AWS のサービス quotas](#)」を参照してください。

請求書設定を使用した AWS 請求書単位の作成

請求書単位は、作成する単一の AWS Organization 内の相互に排他的なメンバーアカウントのグループです。これらの請求ユニットは、事業体に対応するように作成できます。請求書ユニットを使用して AWS コストを分離し、今後各請求書ユニットの請求書を受け取るメンバーアカウントを設定できます。

現在、請求ユニットの作成にはいくつかの制限があります。

- 請求ユニットの作成後に請求書受取人や請求ユニット名を変更することはできません。は、一度に 1 つの請求書単位のルールの一部にしか AWS アカウント できません。ただし、特定のアカウントを複数の請求ユニットの受取人にすることは可能です。
- 両請求ユニットの請求書受取人である場合を除き、1 つのアカウントが請求ユニットのメンバーと別の請求ユニットの受取人を兼任することはできません。
- 請求ユニットは、単一の支払者アカウントまたは組織内のみで作成できます。
- AWS 請求書設定では、請求書単位に新しいアカウントが自動的に追加されることはありません。新しいアカウントが作成されたら、そのアカウントを請求ユニットに手動で追加するか、[AWS Invoicing API](#) を使用する必要があります。
- 請求書を統合できるのは支払者アカウントレベルのみで、請求ユニットレベルでは統合できません。

支払者アカウントごとに作成できる請求ユニットの数、または請求ユニット名の文字制限の詳細については、「[AWS 請求書設定](#)」を参照してください。

Note

前提条件: 請求書の受取人を追加するには、「[追加の請求連絡先 E メールアドレスの設定](#)」を参照してください。

管理アカウント内に請求書単位を作成するには (標準請求書設定)

1. <https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [請求書設定] を選択します。
3. [請求ユニット] セクションで、[請求ユニットを作成] を選択します。

4. [請求ユニット名] には、AWS アカウント内で特有の一意の名前を入力します。使用できる文字の詳細については、「[AWS 請求書設定](#)」を参照してください。
5. (オプション) [請求ユニットの説明] に、説明の要約を入力します。
6. [請求書の受取人] セクションで、この請求ユニットに関連する請求書を受け取るアカウントを選択します。請求書の受取人として、支払者アカウントまたはメンバーアカウントを選択します。

 Note

デフォルトで、請求書の受取人は請求ユニットのメンバーではありません。請求ユニットメンバーとして支払者アカウントを選択する場合は、その支払者アカウントが請求ユニットの請求書受取人である必要があります。

7. アカウントを選択するときに自動的に入力される、請求書の受取人に関する詳細を確認します。請求書にはこれらの詳細情報が表示されます。
8. 請求書の発行者が Amazon Web Services, Inc. である場合は、[請求ユニットのすべてのアカウントに税金設定を適用する] チェックボックスをオンにして、請求書受取人の税金設定を継承するように選択できます。

税金設定が支払者アカウントの代わりに請求ユニットから継承されるようになったことを確認するには、[税金設定] ページを参照してください。

- 税金の継承で支払者アカウントが有効になっている場合、請求ユニットメンバーは支払者アカウントの税金設定を継承します。
- 請求書の発行者が Amazon Web Services, Inc. ではない場合、請求ユニットメンバーは請求書受取人の税金設定を自動的に継承します。

9. [アカウント] セクションで、請求ユニットに追加するアカウントを選択します。
10. [請求ユニットを作成] を選択します。

設定は、請求ユニットを作成すると同時に有効になります。

外部管理アカウント間で請求書単位を作成するには (請求転送)

1. <https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [請求書設定] を選択します。
3. [請求ユニット] セクションで、[請求ユニットを作成] を選択します。

4. [請求ユニット名] には、AWS アカウント内で特有の一意の名前を入力します。使用できる文字の詳細については、「[AWS 請求書設定](#)」を参照してください。
5. [請求書の受取人] セクションで、この請求ユニットに関連する請求書を受け取るアカウントを選択します。請求書の受取人として、支払者アカウントまたはメンバーアカウントを選択します。
6. 請求書単位のコンテンツテーブルで、コンテンツの追加を選択します。

これによりパネルが開き、アカウントと請求転送の両方が表示されます。

7. 請求転送タイルを選択し、請求書単位に含める転送を選択します。

コンテンツテーブルから項目を個別または一括で削除できます。

8. [請求ユニットを作成] を選択します。

新しい請求書単位は、請求書設定ページで確認できます。ユニット名を選択して詳細を表示するか、編集を選択して変更します。請求書設定ページには、特定の日付範囲の各請求書単位内の請求転送を示すスナップショット履歴が含まれています。Billing Transfers タブには、すべての転送と関連する請求書ユニットが表示されます。

請求ユニットの作成に関するトラブルシューティング

以下のセクションでは、請求ユニットを作成するときの一般的な問題を解決する方法に関する情報が提供されています。

請求書受取人の事業情報を更新したい

解決策

請求書受取人の事業名と住所は、入力から次の順序で取得されます。該当するコンソールページで最新情報を更新してください。

1. [税金設定] を使用して情報を更新する

1. にサインイン AWS マネジメントコンソール し、<https://console.aws.amazon.com/billing/> で請求コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [課税設定] を選択します。
3. アカウント名の横にあるチェックボックスをオンにします。
4. [納税登録の管理] で [編集] を選択します。
 - 事業法人名を更新する場合

- [事業法人名] フィールドに更新された名前を入力します。
 - 事業法人住所を更新する場合
 - [事業法人住所] フィールドに更新された住所を入力します。
5. [次へ] を選択します。
 6. 入力した住所か提案された住所を選択し、[確認] を選択します。
 7. [更新] を選択します。

2. 支払いの詳細設定を使用して情報を更新する

1. にサインイン AWS マネジメントコンソール し、<https://console.aws.amazon.com/billing/> で請求コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Payment preferences] (お支払いの詳細設定) を選択します。
3. [デフォルトの支払いの詳細設定] セクションで [編集] を選択します。
 - 事業名を更新する場合
 - [請求先住所] で、[氏名] または [会社] フィールドを更新します。
 - 事業住所を更新する場合
 - [請求先住所] で [住所] フィールドを更新します。
4. [Save changes] (変更の保存) をクリックします。

3. Account Management を使用して情報を更新する

1. アカウントページへのアクセス方法の詳細については、AWS アカウント管理「ユーザーガイド」の[AWS アカウント「連絡先情報の更新」](#)を参照してください。
2. 事業名を変更するには、[連絡先情報] にある [氏名] を更新します。
3. 事業住所を変更するには、[連絡先住所] または [代替連絡先住所] を更新します。

請求書設定を使用した AWS 請求書単位の更新

請求書単位の設定を更新でき AWS、月末に最新の設定が使用されます。請求ユニット内のアカウントを追加または削除することはできますが、請求書の受取人または請求ユニット名を変更することはできません。

請求ユニットを更新する

1. <https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [請求書設定] を選択します。
3. [請求ユニット] セクションで [請求ユニット] を選択します。
4. [アクション] で [編集] を選択します。
5. [Save changes] (変更の保存) をクリックします。

請求ユニットの更新に関するトラブルシューティング

このページの情報を使用して、お客様が請求ユニットを更新するときに発生する一般的な問題を解決できます。

請求書受取人の E メールアドレスを更新したい

解決策

請求書受取人の E メールアドレスは、次の方法で更新できます。

Account Management を使用して法的情報を更新する

- [アカウント] ページの [代替連絡先住所] を更新します。詳細な手順については、AWS アカウント管理「ユーザーガイド」の[AWS アカウント「連絡先情報の更新」](#)を参照してください。

請求書設定を使用した AWS 請求書単位の削除

請求ユニットを削除すると、アクションを元に戻すことはできません。請求ユニットを削除する前に生成された請求書には引き続きアクセスできます。

請求ユニットを削除する

1. <https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [請求書設定] を選択します。
3. [請求ユニット] セクションで [請求ユニット] を選択します。
4. [アクション]、[削除] の順に選択します。

5. [請求ユニットを削除] を選択します。

請求ユニットの削除に関するトラブルシューティングトピック

このページの情報を使用して、請求ユニットまたはアカウントを削除するときの一般的な問題を解決できます。

請求書受取人アカウントが削除された場合、または から移動した場合の請求書単位への影響 AWS Organizations

解決策

請求書受取人アカウントを閉鎖する、または Organizations から削除すると、請求ユニット全体が削除されます。

メンバーアカウントが削除された、または一括請求 (コンソリデेटッドビルリング) ファミリー外に移動した場合の影響

解決策

メンバーアカウントが閉鎖された場合、 から移動された場合 AWS Organizations、または一括請求ファミリーから移動された場合、アカウントが属していた請求書単位に対応する請求書は、問題のアカウントを自動的に省略します。

請求書設定を使用した AWS 請求書単位の表示

請求ユニットを作成したら、複数の異なる方法で請求ユニットの詳細を表示できます。

請求ユニットの詳細を表示する

1. <https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [請求書設定] を選択します。
3. 次のいずれかを行います。
 - [請求ユニット] セクションで [請求ユニット] を選択します。
 - [アカウント] タブで、請求ユニットに割り当てられたアカウントを選択します。[アカウント] タブには、請求ユニットに割り当てられていないアカウントも一覧表示されています。

AWS 請求書設定スナップショット履歴の表示

請求ユニット設定の履歴は、スナップショット履歴機能を使用していつでも表示できます。

請求書設定スナップショット履歴を表示する

1. <https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [請求書設定] を選択します。
3. [設定スナップショットの履歴の表示] を選択します。
4. 表示する設定の日時を入力します。
5. リストされている各請求ユニットの詳細を表示するには、[請求ユニット名] を選択します。

他の サービスでの AWS 請求書設定の使用

請求書単位を作成したら、他の請求情報とコスト管理サービスで AWS 請求書設定を使用できます。

請求ユニットへの発注書の関連付け

発注書を 1 つ、または複数の請求ユニットに関連付けるオプションがあります。

発注書に関連付ける

1. <https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、[発注書] を選択します。
3. 次の手順を実行して、請求ユニットを追加します。
 - 新しい発注書を作成する場合
 - a. [発注書を追加] を選択して発注書を作成します。
 - b. [請求ユニット] フィールドに、1 つ、または複数の請求ユニットを追加します。
 - c. 他のフィールドに入力して発注書を作成します。詳細については、「[発注書を追加する](#)」を参照してください。
 - 既存の発注書に請求書を追加する場合
 - a. 編集する [発注書 ID] を選択します。

- b. 発注書の詳細ページで [発注書を編集] を選択します。
- c. [請求ユニット] フィールドに、1 つ、または複数の請求ユニットを追加します。
- d. 発注書の編集を完了します。詳細については、「[発注書を編集する](#)」を参照してください。

 Note

請求ユニットを削除するときは、対応する発注書の関連付けも削除する必要があります。

AWS Cost Explorerでのコストの視覚化

請求書単位のコストは、AWS Cost Explorer サービスで確認できます。Cost Explorer の詳細については、「Cost AWS Management User Guide」の「[Analyzing your cost and usage with AWS Cost Explorer](#)」を参照してください。

Cost Explorer でコストを視覚化する

1. <https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、[Cost Explorer] を選択します。
3. [日付範囲] に期間を入力します。
4. [グループ化の条件] で Cost categories を選択します。
5. [コストカテゴリ] には aws:invoice:invoiceUnitName を選択します。
6. コストを表示する請求ユニットを選択します。

 Note

Cost Explorer が請求ユニット情報を表示するには、最大 24 時間かかる場合があります。

発注書を管理する

請求情報とコスト管理コンソールを使用して、発注書を管理し、発注書が請求書を反映するように設定できます。複数の明細項目がある複数の発注書を追加することもできます。設定に基づいて、請求書と最も一致する発注書が選択されます。通常のアカунトまたは管理 AWS アカウントを使用している場合は、発注書 AWS Organizations を管理できます。機能へのアクセスの詳細については、「[アクセス許可の管理の概要](#)」を参照してください。

各発注書には複数の明細項目があり、すべての明細項目が請求書との照合に使用されます。次のタイプの明細項目を使用できます。

- [すべて] — AWS アカウントでのすべての料金。
- AWS 月別使用量 – AWS 毎月の請求書の料金。
- AWS サブスクリプション購入 – サブスクリプション請求書の料金。たとえば、リザーブドインスタンス (RI) の前払い料金や サポート 料金などです。
- AWS Marketplace トランザクション – AWS Marketplace トランザクションからの請求書料金の発注書明細項目。これは、Amazon Web Services Inc.、Amazon Web Services Australia Pty Ltd、Amazon Web Services EMEA SARL、Amazon Web Services Korea LLC、Amazon Web Services Japan G.K. のすべての AWS Marketplace 請求書がこれらのレコードの販売者から生成されるため、次のエンティティでのみ使用できます。一括請求を使用し、承認された連結アカウントが AWS Marketplace トランザクションの発注書を提供する場合、は支払者アカウントに対応する発注書リソース AWS Marketplace を作成します。この発注書は、その取引に関連付けられた請求書に関連付けられます。UpdatePurchaseOrders 許可を持つ購入者アカウントは、支払者アカウントに表示される発注書を作成できます。
- AWS Marketplace 一括使用 – AWS Marketplace 請求書料金のデフォルトの発注書。これは、すべての AWS Marketplace 請求書がレコードの販売者から生成されるため、次のエンティティでのみ使用できます。AWS Inc.、AWS EMEA SARL、AWS オーストラリア、AWS ニュージーランド。AWS Marketplace サブスクリプションを含むすべての請求書には、サブスクリプションにトランザクション固有の発注書がない限り、AWS Marketplace 一括使用明細項目が含まれます。サブスクリプションにトランザクション固有の発注書がある場合、代わりに請求書にはAWS Marketplace トランザクション明細項目があります。
- AWS プロフェッショナルサービスとトレーニングの購入 – AWS プロフェッショナルサービスとトレーニングからの請求書料金のデフォルトの発注書の明細項目。これは、すべてのコンサルティング、対面、またはデジタルトレーニングサービスに適用され、AWS Inc. エンティティでのみ使用できます。この項目は、通常の毎月の請求期間外の請求のみをサポートしています。

請求書の最適な発注書を決定するために、多くの条件とパラメータが使用されます。通常のアカウントまたは AWS Organizations 管理アカウントごとに最大 100 個のアクティブな発注書を作成し、最大 100 個の明細項目を作成できます。

請求書が生成されると、管理アカウントに追加されたすべての発注書が関連付けの対象とみなされます。その後、有効期限切れまたは一時停止された発注書は除外され、アクティブな発注書のみが残されます。請求書の請求エンティティは、発注書の「請求元」エンティティと照合され、一致しないものは除外されます。たとえば、AWS Inc. エンティティ (PO_1) に発注書を追加し、EMEA SARL AWS エンティティ (PO_2) に発注書を追加した場合です。リザーブドインスタンスを AWS 欧州から購入した場合、PO_2 のみが請求書の関連付けの対象となります。

次に、明細項目設定を評価して、請求書に最適な判断を行います。明細項目と照合するには、請求書の請求期間が明細項目の開始月から終了月内であり、かつ明細項目のタイプとも一致している必要があります。複数の明細項目が一致する場合は、最も具体的なタイプの明細項目が請求書の関連付けに使用されます。たとえば、RI 請求書がある場合、両方が設定されている場合は、ALL ではなくサブスクリプション明細項目が使用されます。

最後に、請求書金額をカバーするのに十分な残高がある明細項目が、残高不足明細項目の上に選択されます。複数の発注書に属する明細項目がすべての基準に正確に一致する場合は、最後に更新された発注書が請求書と一致するように使用されます。

Note

請求転送を使用し、請求書転送アカウントとしてサインインする場合、請求書を転送している組織からのすべての AWS 請求書に 1 つの発注書番号を割り当てることができます。

トピック

- [発注書設定をセットアップする](#)
- [発注書を追加する](#)
- [発注書を編集する](#)
- [発注書を削除する](#)
- [発注書を表示する](#)
- [発注書の詳細ページを読む](#)
- [発注所の通知を有効にする](#)
- [タグを使用して発注書へのアクセスを管理する](#)

発注書設定をセットアップする

発注書とその明細項目属性を使用して、ニーズに最適な設定を柔軟に定義できます。以下に、使用できる発注書の設定シナリオの例を示します。

異なる有効月と有効期限月を選択することで、異なる期間で個別の発注書を設定できます。

Note

明細項目と照合するには、請求書の請求期間が明細項目の開始月から終了月内であり、かつ明細項目のタイプとも一致している必要があります。

Example例 1

月別の発注書を使用する場合、各発注書に対して同じ有効月と有効期限月を選択することで、月別に1つの発注書を定義できます。発注書は、請求書の請求期間にのみ適用されます。

このセットアップで利用できる発注書設定を次に示します。

- P0 #M1_2021 では、有効月を 2021 年 1 月、有効期限月を 2021 年 1 月に設定しています。
- P0 #M2_2021 では、有効月を 2021 年 2 月、有効期限月を 2021 年 2 月に設定しています。
- P0 #M3_2021 では、有効月を 2021 年 3 月、有効期限月を 2021 年 3 月に設定しています。

次に、特定の四半期、半年、または年全体の発注を定義する方法の例を示します。

- P0 #Q4_2021 では、有効月を 2021 年 4 月、有効期限月を 2021 年 6 月に設定しています。
- P0 #2H_2021 では、有効月を 2021 年 7 月、有効期限月を 2021 年 12 月に設定しています。
- P0 #2022Y では、有効月を 2022 年 1 月、有効期限月を 2022 年 12 月に設定しています。

Example例 2

明細項目設定を使用して、異なるタイプの請求書に対して個別の発注書を設定できます。

- P0 #Anniversary_Q4_2021 では、有効月を 2021 年 4 月に、有効期限月を 2021 年 6 月、Line item type = AWS monthly usage に設定しています。
- P0 #Subscriptions_Q4_2021 では、有効月を 2021 年 4 月に、有効期限月を 2021 年 6 月、Line item type = AWS Subscription Purchase に設定しています。

- P0 #Marketplace_Q4_2021 では、発効月を 2021 年 4 月に、有効期限月を 2021 年 6 月、Line item type = AWS Marketplace Purchase に設定しています。

明細項目の開始月と終了月を細かく設定することで、異なる期間の特定の発注書の残高を追跡できます。

Example例 3

発効月が 2021 年 4 月で有効期限月が 2021 年 6 月の例 1 から P0 #Q4_2021 を検討します。次の明細項目をセットアップすることで、この発注書の残高を月単位で追跡できます。

- Line item #1 では、開始月 2021 年 4 月、終了月 2021 年 4 月、Line item type = ALL です。
- Line item #2 では、開始月 2021 年 5 月、終了月 2021 年 5 月、Line item type = ALL です。
- Line item #3 では、開始月 2021 年 6 月、終了月 2021 年 6 月、Line item type = ALL です。

または、同じ発注書と期間について、各明細項目タイプの残高を個別に追跡することもできます。

Example例 4

例 1 からの同じ P0 #Q4_2021 は、次の設定を使用して、異なる明細項目タイプの残高を個別に追跡するようにセットアップできます。

- Line item #1 では、開始月 2021 年 4 月、終了月 2021 年 6 月、Line item type = AWS monthly usage です。
- Line item #1.2 では、開始月 2021 年 4 月、終了月 2021 年 6 月、Line item type = AWS Subscription Purchase です。
- Line item #1.3 では、開始月 2021 年 4 月、終了月 2021 年 6 月、Line item type = AWS Marketplace Purchase です。

5 月と 6 月にこの設定を続行します。

Example例 5

また、前の 2 つの設定を組み合わせ、異なる期間と明細項目タイプの残高を個別に追跡することもできます。

- Line item #1.1 では、開始月 2021 年 4 月、終了月 2021 年 4 月、Line item type = AWS monthly usage です。
- Line item #1.2 では、開始月 2021 年 4 月、終了月 2021 年 4 月、Line item type = AWS Subscription Purchase です。
- Line item #1.3 では、開始月 2021 年 4 月、終了月 2021 年 4 月、Line item type = AWS Marketplace Purchase です。

5 月と 6 月にこの設定を続行します。

発注書を追加する

請求情報とコスト管理コンソールを使用して、請求書で使用する発注書を追加できます。発注書の追加は、発注書と明細項目の設定を含む 2 段階のプロセスです。まず、発注書の詳細 (発注書 ID、配送先住所、有効期間および有効期限月など) を入力します。次に、発注書を請求書と照合するために使用される発注書明細項目の設定を定義します。複数の発注書を追加すると、生成される請求書と最も一致する明細項目がある発注書が使用されます。

発注書を追加するには

1. にサインイン AWS マネジメントコンソール し、<https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。

請求転送を使用する場合は、請求書転送アカウントにサインインして、請求書に発注書番号を追加します。請求書を移管する組織からのすべての AWS 請求書に 1 つの発注書番号を割り当てることができます。

2. ナビゲーションペインで、[発注書] を選択します。
3. [発注書の追加] を選択します。
4. [発注書 ID] では、発注書 ID の一意の ID を入力します。発注書 ID はアカウント内で一意でなければなりません。購入 ID の文字制限の詳細については、「[発注書](#)」を参照してください。
5. (オプション) [説明] で、参照用のメモを含め、発注書を記述します。
6. 請求元 で、請求元の AWS 請求エンティティを選択します。

Note

[請求元] の場所ごとに、送金の詳細は各々異なります [請求元] を選択していることを確認してください。請求元の法人に対して支払いを行う必要があります。発注書で複数の [請求元] の場所を設定することはお勧めしません。

7. (オプション) 発注書が [Amazon Web Services EMEA SARL] 請求エンティティから請求されている場合: [税登録番号] で、発注書に関連付ける税登録番号を選択します。発注書は、選択した税登録番号に対して生成された請求書のみに関連付けられます。

Note

[税登録番号] の選択は、[Amazon Web Services EMEA SARL] 請求エンティティでのみ利用できます。税登録番号の設定の詳細については、「[税金情報の設定](#)」を参照してください。

8. [配送先] では、配送先住所を入力します。

(オプション) [請求先住所をコピー] を選択して、[請求先] フィールドから入力された住所をコピーして編集します。

9. [発効月] では、発注を開始する請求期間を選択します。発注書は、指定した請求期間以降の使用に関連する請求書の対象となります。
10. [有効期限月] では、発注を終了する請求期間を選択します。発注書は、指定された請求期間の終了時に失効します。請求期間を過ぎた使用に関連する請求書には使用されません。
11. (オプション) [発注書の連絡先] では、連絡先名、E メールアドレス、および電話番号を入力します。連絡先は最大 20 件まで追加できます。
12. (オプション) タグキーと値を入力します。最大 50 個のタグを追加できます。
13. [明細項目の設定] を選択します。
14. [明細項目番号] では、明細項目番号の一意の ID を入力します。
15. (オプション) [説明] では、明細項目の説明を入力します。
16. [明細項目タイプ] では、使用する明細項目タイプを選択します。各明細項目タイプの詳細な説明については、「[Managing your purchase orders](#)」を参照してください。
17. [開始月] では、明細項目を開始する月を選択します。この日付は発注書の [発効月] より前の日付にすることはできません。

18. [終了月] では、明細項目の終了月を選択します。この日付は発注書の [有効期限月] より後の日付にすることはできません。
19. (オプション) [残高追跡を有効にする] を選択して、明細項目の残高を追跡します。
20. [金額] では、発注書の明細項目の合計金額を入力します。
21. [数量] では、数量を入力します。
22. (オプション) [税金] では、税金の額を入力します。明細項目の金額の絶対値または割合 (%) を指定します。

[税金タイプ] では、[金額の %] を選択してパーセンテージを入力するか、[USD での金額] を選択して絶対税額を入力します。
23. 他の明細項目を追加するには、[新しい明細項目の追加] を選択します。最大 100 個の明細項目を追加できます。
24. [発注書を送信] を選択します。

一部のフィールドは自動的に入力され、編集できません。以下に、自動フィールドが参照されている場所のリストを示します。

- [請求先] — 請求書の [請求先] 住所 このフィールドは、発注書の請求連絡先が請求書の請求連絡先と一致する必要があるため、参照として含まれます。
- [支払い条件] — 交渉された支払い条件。
- [通貨] — 希望する請求書の通貨。

発注書を編集する

請求情報とコスト管理コンソールを使用して、発注書、明細項目情報、およびステータスを編集できます。このプロセスでは、発注書 ID は変更できません。

発注書を編集するには

1. <https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、[発注書] を選択します。
3. 編集する発注書を選択します。
4. [発注書の編集] を選択します。

5. 任意のパラメータを変更します。発注書 ID は変更できません。
6. [明細項目の設定] を選択します。
7. [発注書を送信] を選択します。

連絡先を更新するには

1. <https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、[発注書] を選択します。
3. 編集する発注書を選択します。
4. [連絡先の管理] を選択します。
5. 必要に応じて、連絡先情報を変更します。
6. [Save changes] (変更の保存) をクリックします。

発注書のステータスを変更するには

1. <https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、[発注書] を選択します。
3. 編集する発注書を選択します。
4. [ステータスの変更] を選択します。
5. ステータスを選択します。
 - [一時停止] — 発注書は、請求書の関連付けに使用されなくなります。
 - [アクティブ] — 発注書は請求書の関連付けに使用されます。
6. [ステータスの変更] を選択します。

Note

一時停止の発注書は、有効期限を過ぎて、[一時停止-期限切れ] ステータスに設定されている場合、請求書の関連付けのために使用できません。そのためには、ステータスを [期限切れ] に変更し、有効期限月を更新して [アクティブ] にします。明細項目の終了月を適宜更新してください。

明細項目を追加するには

1. <https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、[発注書] を選択します。
3. 編集する発注書を選択します。
4. [明細項目] セクションで、[明細項目の追加] を選択します。
5. 必要に応じて情報を変更します。
6. [明細項目の保存] を選択します。

明細項目を編集するには

1. <https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、[発注書] を選択します。
3. 編集する発注書を選択します。
4. [明細項目] セクションで、[編集] を選択します。
5. 必要に応じて、明細項目の情報を変更します。
6. [明細項目の保存] を選択します。

明細項目を削除するには

1. <https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、[発注書] を選択します。
3. 編集する発注書を選択します。
4. 削除するすべての明細項目を [明細項目] セクションで選択します。
5. [削除] を選択します。
6. [確認] を選択します。

発注書のタグを更新するには

1. <https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。

2. ナビゲーションペインで、[発注書] を選択します。
3. 編集する発注書を選択します。
4. [Manage tags (タグの管理)] を選択します。
5. 必要に応じてタグ情報を変更します。
6. [Save changes] (変更の保存) をクリックします。

発注書設定から納税登録番号 (TRN) を削除する

1. <https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、[発注書] を選択します。
3. 編集する発注書を選択します。
4. [発注書の編集] を選択します。
5. TRN 値を削除します。
6. [保存] を選択します。

発注書を削除する

請求情報とコスト管理コンソールを使用して、発注書とそのすべての通知および関連する連絡先とともに、いつでも削除できます。削除された発注書は復元できません。

発注書を削除するには

1. <https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、[発注書] を選択します。
3. 削除する発注書をすべて選択します。
4. [発注書を削除] を選択します。
5. [確認] を選択します。

発注書を表示する

請求情報とコスト管理コンソールの発注書ダッシュボードには、発注書のステータスの概要が表示されます。発注書は以下の情報とともにダッシュボードに一覧表示されます。

- [発注書 ID] — 発注書の一意の識別子。
- [値] — 発注書の金額。これは、すべての明細項目金額の合計。
- [残高] — 明細項目残高の合計。この合計は、請求書が関連付けられるときはいつでも更新されます。
- [発効] および [有効期限] — 発注書 ID の開始と終了。
- [ステータス] — 発注書の現在のステータス。
- [更新日] — 発注書を更新した最新の日付。

発注書を表示するには

1. <https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、[発注書] を選択します。
3. 発注書を選択して、[購入の詳細] ページを参照します。

発注書の詳細ページを読む

個々の発注書のコンテンツは、最急情報とコスト管理コンソールの [購入の詳細] ページで確認できます。

発注書または明細項目を変更するには、「[発注書を編集する](#)」を参照してください。

- [請求先] — 請求書に反映される住所。請求連絡先を変更するには、[支払い方法](#) からの情報を更新します。
- [配送先] — 発注書の配送先住所。
- 請求元 – 請求元の AWS 法人。
- [税登録番号] — 発注書に対して選択した税登録番号。発注書は、これらの税登録番号に対して生成された請求書に関連付けられています。

Note

[税登録番号] の選択は、[Amazon Web Services EMEA SARL] 請求エンティティでのみ利用できます。税登録番号の設定の詳細については、「[税金情報の設定](#)」を参照してください。

- 支払い条件 – 交渉済みの AWS 支払い条件。
- [通貨] — 希望する請求書の支払い通貨。
- [発効月] — 発注書が有効になった時点以降の請求期間。発注書は、指定した請求期間以降の使用に関連する請求書の対象となります。
- [有効期限月] — 発注書が失効する請求期間。発注書は現在の請求期間の請求書にのみ使用されます。指定された請求期間を過ぎた使用に関連する請求書には使用されません。
- [連絡先] — この発注書のすべての連絡先のリスト。[連絡先の管理] を選択して、すべてのリストを表示します。
- [ステータス] — 発注書の現在のステータス。
 - [アクティブ] — 請求書の関連付けの対象となります。
 - [一時停止] — 請求書の関連付けの対象外です。アクティブな発注書または期限切れの発注書を一時停止できます。
 - [期限切れ] — 有効期限を過ぎて、請求書の関連付けの対象になっていない発注書。
 - [一時停止-期限切れ] — 有効期限も過ぎている一時停止された発注書。
- [残高金額] — 発注書で残っている残高。これは、発注書で設定されているすべての明細項目の合計残高です。
- [合計金額] — 発注書で設定されているすべての明細項目の合計値の合計。
- [明細項目] — 発注書を追加するときに使用した明細項目の詳細。
 - [数] — 明細項目の一意の識別子。
 - [タイプ] — 明細項目のタイプ。
 - [開始月] — 項目が発効する月。明細項目は、この月からの請求書の関連付けの対象となります。
 - [終了月] — 明細項目の有効期限が切れる月。この明細項目は、今月末には請求書の関連付けの対象になりません。
 - [金額] — 単位の金額。
 - [数量] — 単位の数。
 - [税金] — 税金の額。
 - [合計値] — 特定の明細項目の金額の合計値。
 - [現在の残高] — この明細項目と照合されたすべての請求書の合計金額を差し引いた後の残りの残高。この明細項目に一致するすべての請求書の詳細を表示するには、請求書のテーブルを参照してください。
- [請求書] — 発注書に関連付けられているすべての請求書。

- [発行日] — 請求書が発行された日付。
- [タイプ] — 請求書のタイプ。たとえば、請求書とクレジットメモ。
- [ID] — 請求書の一意な識別子。
- [明細項目番号] — 請求書に関連付けられている発注書の明細項目番号。
- [金額] — 請求書の金額。
- [支払期日] — 請求書の支払期限日。

発注所の通知を有効にする

請求情報とコスト管理コンソールで E メール通知を有効にするには、発注書に連絡先を追加します。通知を受信するには、少なくとも 1 つの発注書連絡先が追加されている必要があります。

通知は、有効期限切れ、または残高不足の発注書に対して積極的にアクションを取るのに役立ちます。これにより、遅滞なく支払いを行うことができます。連絡先情報を更新するには、「[発注書を編集する](#)」を参照してください。

発注書の通知は、次のシナリオで連絡先に送信されます。

- 残高の追跡 — 発注書の明細項目の残高が 75% のしきい値を下回ったとき。発注書の残高は明細項目レベルで追跡され、各レベルで有効にする必要があります。
- 有効期限の追跡 — 発注書の有効期限が近づいているとき。連絡先は、有効期限に到達するまで通知を受け取ります。発注書の有効期限が 1 か月未満の場合、通知は 1 週間前と有効期限日に送信されます。有効期限が 1~3 か月先の場合は、有効期限の 1 か月前に通知が送信されます。有効期限が 3 か月より先の場合は、有効期限の 2 か月前に通知が送信されます。

タグを使用して発注書へのアクセスを管理する

属性ベースのアクセス制御 (ABAC) を使用して、発注書へのアクセスを管理できます。発注書を作成する際、キーと値のペアでタグ付けできます。その後、IAM ポリシーを作成し、タグを指定できます。たとえば、project キーを追加してそのキーに test という値を割り当てると、IAM ポリシーによってこのタグの付いた発注書へのアクセスを明示的に許可または拒否できます。

新しい発注書にタグを追加したり、既存の注文を更新したりするには、「[発注書を追加する](#)」と「[発注書を編集する](#)」を参照してください。

Example例: タグを使用してアクセスを許可する

以下のポリシーにより、IAM エンティティは、project キーと test の値を持つ発注書を追加、変更、またはタグ付けできます。

JSON

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [{
    "Effect": "Allow",
    "Action": [
      "purchase-orders:AddPurchaseOrder",
      "purchase-orders:TagResource",
      "purchase-orders:ModifyPurchaseOrders"
    ],
    "Resource": "arn:aws:purchase-orders::*:purchase-order/*",
    "Condition": {
      "StringEquals": {
        "aws:RequestTag/project": "test"
      },
      "ForAllValues:StringEquals": {
        "aws:TagKeys": "project"
      }
    }
  }]
}
```

Example例: タグを使用してアクセスを拒否する

次のポリシーでは、project キーと値が test である発注書に対して IAM エンティティが発注アクションを完了することを拒否します。

JSON

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [{
    "Effect": "Deny",
    "Action": "purchase-orders:*",
```

```
    "Resource": "arn:aws:purchase-orders::*:purchase-order/*"  
  }]  
}
```

詳細については、IAM ユーザーガイドにある下記のトピックを参照してください。

- [ABAC とは AWS](#)
- [タグを使用した AWS リソースへのアクセスの制御](#)

AWS のサービスでを試す AWS 無料利用枠

Note

このセクションは、2025 年 7 月 15 AWS アカウント 日以降に を作成した新規 AWS のお客様にのみ適用されます。2025 年 7 月 15 日より前にアカウントを作成した場合は、「[を使用してサービスを試す AWS 無料利用枠 \(2025 年 7 月 15 日より前\)](#)」を参照してください。

を使用して AWS 無料利用枠、コストコミットメントなしで AWS のサービスを調べることができます。にサインアップするときは AWS アカウント、無料アカウントプランまたは有料アカウントプランから選択できます。を初めて使用する場合は AWS、アカウントプランに関係なく、アカウントの作成後に 100 USD のクレジットを受け取ります。アクティビティを完了することで、最大 100 USD の追加クレジットを獲得することもできます。追加クレジットの獲得に関する詳細については、「[追加クレジットの獲得](#)」を参照してください。さらに、毎月の無料使用制限 AWS のサービスを提供する 30 を超える常時無料にアクセスできます。

[無料アカウントプラン] は、最大 6 か月間無料で AWS のサービスを用いた実験を行い、概念実証を構築するお客様に最適です。有料アカウントプランにアップグレードするまでは、この期間中に料金が発生することはありません。無料アカウントプランは、6 か月後、またはクレジットを全額使用したときのいずれか早い時点で終了します。さらに、無料アカウントプランでは、AWS 無料利用枠クレジット額全体やハードウェアの購入を迅速に消費 AWS のサービス する特定の にアクセスすることはできません。無料アカウントプランの対象となるサービスのリストについては、「[AWS 無料利用枠に関するよくある質問](#)」を参照してください。

[有料アカウントプラン] は、初回クレジット額を超えてスケールする本番環境アプリケーションの構築に最適です。使用量がクレジット残高を超えると、またはクレジットが適用されないサービスを使用するときは、標準の従量制料金を支払います。各プランの詳細については、「[AWS 無料利用枠プランの選択](#)」を参照してください。

Note

請求転送を使用していて、請求元アカウントまたはそのリンクされたアカウントとしてサインインした場合、無料利用枠クレジットは、請求転送アカウントに送信された請求対象請求に適用されます。これらのクレジットは、および 請求ページを除き AWS Cost and Usage Report、見積り請求アーティファクト (請求ページ、Cost Explorer、または AWS Cost and Usage Report) には表示されません。クレジットページは請求ビュー機能をサポートしてい

ません。自分の AWS 組織で交換されたクレジットのみを表示できます。請求元組織のクレジットを表示するには、それらの組織で IAM ロールが必要です。

の開始方法 AWS 無料利用枠

で開始するには AWS 無料利用枠

1. [AWS 無料利用枠](#) ウェブサイトに移動します。
2. [無料アカウントを作成する] を選択します。
3. サインアッププロセスに従います。これには、無料アカウント AWS アカウント プランまたは有料アカウントプランの選択が含まれます。

サインアッププロセスの詳細については、「[AWS アカウント Management](#)」ガイドを参照してください。

その他の AWS 無料利用枠 リソース

詳細については、以下のリソースを参照してください AWS 無料利用枠。

- [AWS 無料利用枠](#)
- [AWS 無料利用枠 のよくある質問](#)
- [AWS 無料利用枠 API リファレンス](#)

AWS 無料利用枠 プランの選択

にサインアップすると AWS アカウント、無料プランまたは有料アカウントプランのいずれかを選択できます。を初めて使用する場合は AWS、アカウントプランに関係なく、アカウントを作成した後に 100 USD のクレジットを受け取ります。アクティビティを完了することで、最大 100 USD の追加クレジットを獲得することもできます。さらに、毎月の無料使用制限 AWS のサービス を提供する 30 を超える にアクセスできます。

無料アカウントプラン

無料アカウントプランは、アプリケーションの探索 AWS のサービス と構築中に料金が発生しないようにします。無料アカウントプランは、6 か月後、またはクレジットを全額使用したときのいずれか早い時点で終了します。クレジット残高と無料アカウントプラン情報は、[AWS Billing](#)

[and Cost Management コンソールホーム](#)で監視できます。無料アカウントプラン使用状況の監視に関する詳細については、「[AWS 無料利用枠 使用状況の追跡](#)」を参照してください。

無料アカウントプランの有効期限が切れると、アカウントは自動的に閉鎖され、リソースとデータにアクセスできなくなります。は、アカウントと関連するすべてのリソースを完全に削除する前に、コンテンツを AWS 90 日間保持します。アカウントアクセスを維持するには、90 日以内に従量制料金を使用する [有料アカウントプラン] にアップグレードできます。無料アカウントプランの残りのクレジットは、将来の AWS 請求に自動的に適用されます。

Note

- 無料アカウントプランには、クレジットを枯渇させる可能性のある AWS のサービスや機能、またはハードウェア購入へのアクセスは含まれません。サービスの例としては、Savings Plans、リザーブドインスタンス、および料金が発生する可能性のある特定の AWS Marketplace オファーなどがあります。これらのサービスには、[有料アカウントプラン] にアップグレードすることでアクセスできます。無料アカウントプランの対象サービスのリストについては、「[AWS 無料利用枠](#)」を参照してください。
- 無料アカウントプランは、他のプロモーションクレジットや割引の対象になりません。
- 無料アカウントプランは AWS Organizations、参加、AWS Control Tower ランディングゾーンの設定、AWS パートナーネットワークへの参加、プロフェッショナルサービス契約の作成、とのエンタープライズ契約への登録 AWS、Skill Builder Team サブスクリプションの購入 AWS、または を AWS アカウント HIPAA または SEC 準拠として指定すると、自動的に有料プランにアップグレードされます。詳細については、「[利用規約](#)」を参照してください。

無料プランをアップグレードする

1. [AWS マネジメントコンソール](#)にサインインします。
2. [\[プランをアップグレード\]](#) を選択します。
3. 取得する機能を確認してから、[\[アカウントをアップグレード\]](#) を選択します。

有料アカウントプラン

[有料アカウントプラン] を使用すると、すべての AWS のサービス と機能にすぐさまアクセスできます。有料アカウントプランは、無料利用枠のクレジット額を超えてスケールする本番環境アプリケーションの構築準備が整っているお客様を対象としています。無料利用枠のクレジット残

高を超える使用量、またはクレジットが適用されない AWS のサービスを使用する場合、従pay-as-youが課金されます。詳細については、[AWS「プロモーションクレジットの引き換え」](#)を参照してください。

有料アカウントプランには、一部の AWS のサービスの短期トライアルへのアクセスも含まれています。トライアルには、指定された期間における毎月の無料利用枠の使用が含まれます。短期トライアルが利用できるサービスの詳細については、「[AWS 無料利用枠](#)」を参照してください。

無料利用枠アカウントプランの比較表

無料プラン	有料プラン
100 USD のサインアップクレジットを受け取り、最大 100 USD の追加クレジットを獲得	100 USD のサインアップクレジットを受け取り、最大 100 USD の追加クレジットを獲得
常時無料 サービスへのアクセス	常時無料 サービスと短期トライアルオファーへのアクセス
AWS のサービス および 機能を選択するためのアクセス	すべての AWS のサービス および 機能へのアクセス
使用中に発生する料金なし	クレジット残高を超える料金を支払う
クレジット全額を消費したとき、またはプラン期間が終了したときにアカウントが閉鎖される	クレジット全額を消費してもアカウントは閉鎖されない
その他のプロモーションクレジットや割引の対象外	その他のプロモーションクレジットや割引の対象

追加クレジットの獲得

新規の AWS お客様は、アクティビティを完了することで、アカウントプランに関係なく 100 USD のクレジットを追加で獲得できます。これらのアクティビティは、学習に役立ちます AWS のサービス。アクティビティは、[AWS Console Home ダッシュボード](#)の [AWSを詳しく知る] ウィジェットにリストされています。

トピック

- [Amazon EC2 を使用してインスタンスを起動する](#)
- [Amazon Bedrock プレイグラウンドで基盤モデルを使用する](#)
- [を使用してコスト予算を設定する AWS Budgets](#)
- [を使用してウェブアプリを作成する AWS Lambda](#)
- [Amazon RDS データベースを作成する](#)

Amazon EC2 を使用してインスタンスを起動する

Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) を使用して、AWS クラウドで実行される仮想マシン、つまりインスタンスを作成します。このアクティビティでは、インスタンスをサーバーで起動して使用をすばやく開始する方法を学びます。また、インスタンスをクリーンアップする方法も学びます。

Amazon EC2 の詳細については、「[Amazon Elastic Compute Cloud ドキュメント](#)」を参照してください。

Note

このアクティビティでは、AWS 無料利用枠 クレジットから差し引かれた AWS のサービス料金が発生します。発生する可能性のあるコストを確認するには、「[Amazon EC2 オンデマンド料金](#)」のサービス料金ページを参照してください。

Amazon Bedrock プレイグラウンドで基盤モデルを使用する

Amazon Bedrock を使用して、主要 AI 企業からの幅広い基盤モデルにアクセスします。統合 API を使用することで、テキスト、画像、動画、埋め込み出力を含めたさまざまなタイプの出力を生成できます。このアクティビティでは、Amazon Bedrock プレイグラウンドでモデルを選択し、プロンプトを送信して応答を生成します。

Amazon Bedrock の詳細については、「[Amazon Bedrock Documentation](#)」を参照してください。

Note

このアクティビティでは、AWS 無料利用枠 クレジットから差し引かれた AWS のサービス料金が発生します。発生する可能性のあるコストを確認するには、「[Amazon Bedrock 料金](#)」のサービス料金ページを参照してください。

を使用してコスト予算を設定する AWS Budgets

AWS Budgets を使用して、予算コストまたは使用量を超えたとき、または超えると予測されるときに警告する予算を設定します。このアクティビティでは、コストと使用状況をモニタリングするための AWS コスト予算を作成します。

詳細については AWS Budgets、[AWS Budgets ドキュメント](#)を参照してください。

を使用してウェブアプリを作成する AWS Lambda

を使用して AWS Lambda、サーバーのプロビジョニングや管理を行わずにコードを実行します。このアクティビティでは、関数 URL が設定された Lambda 関数で構成されるシンプルなウェブアプリケーションを構築する方法を学びます。

Note

このアクティビティでは、AWS 無料利用枠 クレジットから差し引かれた AWS のサービス料金が発生します。発生する可能性のあるコストを確認するには、「[AWS Lambda 料金](#)」のサービス料金ページを参照してください。

詳細については AWS Lambda、[AWS Lambda 「ドキュメント」](#)を参照してください。

Amazon RDS データベースを作成する

Amazon Relational Database Service (Amazon RDS) は、クラウドでのリレーショナルデータベースの設定、運用、スケーリングを簡素化するフルマネージド型のデータベースサービスです。このアクティビティでは、Amazon RDS または Aurora データベースを起動し、基本的な設定オプションを検証します。データベースを設定して管理するために必要不可欠な設定を学びます。

Amazon RDS の詳細については、「[Amazon Relational Database Service ドキュメント](#)」を参照してください。

Note

このアクティビティでは、AWS 無料利用枠 クレジットから差し引かれた AWS のサービス料金が発生します。発生する可能性のあるコストを確認するには、「[Amazon RDS の料金](#)」のサービス料金ページを参照してください。

AWS 無料利用枠 使用状況の追跡

AWS 無料利用枠 使用状況は、次の方法で追跡できます。

AWS アカウント 2025 年 7 月 15 日以降に作成

無料アカウントプラン情報のモニタリング: 無料アカウントプランの有効期限、クレジット残高、残り日数は、AWS Cost and Usage Report ウィジェット、AWS マネジメントコンソールホーム、または AWS SDK と CLI を通じて [プログラムで](#)無料でモニタリングできます。また、クレジット残高に関する E メールアラートや、無料アカウントプラン期間の終了が近づいたときの E メールアラートも定期的送信されます。

有料アカウントプラン情報の監視: [AWS Billing and Cost Management コンソール](#)のクレジットページで、クレジット残高と有効期限日を監視できます。また、[Free Tier API](#) や [AWS Billing and Cost Management コンソール](#)の [無料利用枠] を使用して、実際の使用状況を短期トライアルや常時無料の利用枠に照らして追跡することも可能です。これは、いつ無料枠を超え、毎月の従量制料金に切り替わるのかを表示します。

Note

請求転送を使用していて、管理アカウントまたは請求書の AWS Organizations 転送にリンクされたアカウント (請求元アカウント) としてサインインしている場合、見積り、AWS マネジメントコンソールホーム、または AWS SDK と CLI を通じて無料利用枠クレジットアプリケーションを追跡することはできません。

請求を管理する請求書転送アカウントは、有料、AWS マネジメントコンソールホーム、AWS SDK および CLI を通じて無料利用枠アプリケーションを追跡できます。

AWS アカウント 2025 年 7 月 15 日より前に作成

無料利用枠を追跡するには、[請求の詳細設定] で無料利用枠使用状況アラートを有効にします。デフォルトでは、各サービスの無料利用枠制限の 85% を超えると、AWS 無料利用枠 使用状況アラートが E メールで自動的に通知されます。支出 AWS 予算をゼロに設定することで、使用量を無料利用枠の上限の 100% まで追跡するように Budgets を設定することもできます。

請求情報とコスト管理コンソールの無料利用枠ページを使用して AWS 無料利用枠 使用状況を確認します。

 Note

請求転送を使用し、請求転送の使用中に請求ソースアカウントまたはそのリンクされたアカウントとしてサインインする場合は、請求情報とコスト管理コンソールの無料利用枠ページで無料利用枠の使用状況を追跡できます。各サービスの無料利用枠の上限の 85% を超えると、E メール通知が引き続き届きます。

トピック

- [AWS 無料利用枠 使用状況アラートの使用](#)
- [無料利用枠の推奨アクション](#)
- [追跡可能な AWS 無料利用枠 サービス](#)

AWS 無料利用枠 使用状況アラートの使用

AWS 無料利用枠 使用状況アラートを使用して、コストと使用状況を追跡し、アクションを実行できます。この機能の詳細については、[AWS 「Budgets によるコストの管理」](#)を参照してください。

AWS 無料利用枠 使用量アラートは、各サービスの無料利用枠制限の 85% を超えると、E メールで自動的に通知します。追加の追跡のために、テンプレート zero spend budget を使用して を設定することで、使用量を無料利用枠の上限の 100% まで追跡 AWS Budgets するように を設定できます。予算をフィルタリングして個々のサービスを追跡することも可能です。

例えば、Amazon Elastic Block Store の無料利用枠の上限の 100% を超えることが予測されたときに、アラートを送信する予算を設定できます。使用量予算の設定方法については、「[予算の作成](#)」を参照してください。

AWS 無料利用枠 使用状況アラートは、最初の 25 GB の Amazon DynamoDB ストレージや最初の 10 のカスタム Amazon CloudWatch メトリクスなど、当月のアクティブな無料利用枠サービス AWS のサービス でカバーされます。

AWS アカウント 2025 年 7 月 15 日より前に作成

2025 年 7 月 15 日より AWS アカウント 前に を作成した場合、最初の 12 か月以内に 12 Months Free、Free Trials の 3 種類の AWS 無料利用枠 サービスがアクティブになる可能性があります Always Free。

AWS アカウント 2025 年 7 月 15 日以降に作成

2025 年 7 月 15 AWS アカウント 日以降に を作成した場合、AWS 無料利用枠 サービスはプランタイプによって異なります。[有料プラン] アカウントでは、Free TrialとAlways Freeのオファーがアクティブになっている可能性があります。[無料アカウントプラン] アカウントでは、Always Freeオファーのみがアクティブになります。

サービスの無料利用枠の制限を超えると、 はアカウントの作成に使用した E メールアドレス () に E AWS メールを送信します AWS アカウントのルートユーザー。AWS 無料利用枠 使用状況アラートの E メールアドレスを変更するには、次の手順を参照してください。

AWS 無料利用枠 使用状況アラートの E メールアドレスを変更するには

1. にサインイン AWS マネジメントコンソール し、<https://console.aws.amazon.com/billing/> で請求コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインの [設定] で、[請求設定] を選択します。
3. [アラート設定] で [編集] を選択します。
4. 使用状況アラートを受信するメールアドレスを入力します。
5. [更新] を選択します。

AWS 無料利用枠制限の 85% の予算使用状況アラートは、 の管理アカウントではなく AWS アカウント、すべての個人に対して自動的にアクティブ化されます AWS Organizations。管理アカウントを所有している場合は、オプトインして AWS 無料利用枠 使用状況アラートを取得する必要があります。次の手順を使用して、無料利用枠使用状況アラートをオプトインまたはオプトアウトします。

AWS 無料利用枠 使用状況アラートをオプトインまたはオプトアウトするには

1. にサインイン AWS マネジメントコンソール し、<https://console.aws.amazon.com/billing/> で請求コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインの [設定] で、[請求設定] を選択します。
3. [アラート設定] で [編集] を選択します。
4. AWS 無料利用枠 アラートを受信を選択して、無料利用枠使用状況アラートにオプトインします。オプトアウトするには、[AWS 無料利用枠 アラートを受信する] のチェックボックスをクリアします。
5. [更新] を選択します。

無料利用枠の推奨アクション

の資格 AWS 無料利用枠 があり、無料利用枠を利用している場合は、請求情報とコスト管理ホームページの推奨アクションウィジェットを使用して使用状況を追跡できます。このウィジェットには、使用量がいずれかのサービスに設定された無料利用枠使用制限の 85% を超えた場合の推奨事項が表示されます。

以下の条件は、AWS 無料利用枠 データを表示するかどうかを制限する場合があります。

- 無料利用枠を提供し AWS のサービス ない を使用する
- 無料利用枠の資格が終了している場合
- AWS Organizations メンバーアカウント AWS を通じて にアクセスする
- AWS GovCloud (米国西部) または AWS GovCloud (米国東部) リージョン AWS のサービス で を使用する

詳細については、「[推奨されるアクション](#)」を参照してください。

追跡可能な AWS 無料利用枠 サービス

を使用すると AWS、AWS 無料利用枠 サービスの使用量と使用したサービスの使用タイプを追跡できます。使用タイプは、 が AWS 追跡する特定の使用タイプです。例えば、使用タイプ `BoxUsage:freetier.micro` とは、ユーザーが Amazon EC2 マイクロインスタンスを使用したという意味です。

AWS 無料利用枠 使用状況アラートと使用状況別上位 AWS 無料利用枠 サービス表には、有効期限が切れるオフリングと有効期限が切れないオフリング AWS 無料利用枠 の両方が記載されています。以下のサービスや使用タイプを追跡できます。

Note

12 か月間無料は、2025 年 7 月 15 日より AWS 前に にサインアップしたお客様にのみ適用されます。

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
AWS Amplify	BuildDuration	12 か月間無料

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
	DataStorage DataTransferOut HostingComputeRequestCount HostingComputeRequestDuration	
AWS AppSync	ConnectionDuration GraphQLInvocation GraphQLNotification ResponseData	12 か月間無料
AWS Audit Manager	Resource-Assessment-Collected	無料トライアル
AWS Budgets	ActionEnabledBudgetsUsage	常に無料
CloudFormation	Resource-Invocation-Count-FreeTier	常に無料
AWS CodeArtifact	Requests TimedStorage-ByteHrs	常に無料
AWS CodeCommit	User-Month	常に無料
AWS CodePipeline	actionExecutionMinute activePipeline	常に無料

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
AWS Data Pipeline	AWS-Activities-infreq	12 か月間無料
	AWS-Preconditions-infreq	
AWS Data Transfer	DataTransfer-Out-Bytes	常に無料
	DataTransfer-Regional-Bytes	
AWS Database Migration Service	InstanceUsg:dms.t2.micro	常に無料
	InstanceUsg:dms.t3.micro	
AWS DeepRacer	ServiceUse-Train-Evaluate-Job	無料トライアル
	TimedStorage-GigabyteHrs	
AWS Directory Service	MicrosoftAD-DC-Usage	無料トライアル
	Small-Directory-Usage	
AWS Elemental MediaConnect	DataTransfer-Out-Bytes	常に無料
AWS Glue	Catalog-Request	常に無料
	Catalog-Storage	
AWS IoT Greengrass	ActiveGGC-Devices	12 か月間無料

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
AWS HealthImaging	API-Requests-Core	12 か月間無料
	EarlyDelete-ActiveByteHrs	
	TimedStorage-ActiveByteHrs	
	TimedStorage-ArchiveByteHrs	
AWS IoT	ActionsExecuted	12 か月間無料
	ConnectionMinutes	
	LoRaWAN-FUOTA	
	Messages	
	RegistryAndShadowOperations	
	RulesTriggered	
	Solved-Positions	
AWS IoT Analytics	DataProcessing-Bytes	12 か月間無料
	DataScanned-TB	
	ProcessedStorage-ByteHrs	
	RawStorage-ByteHrs	
AWS IoT Device Defender	Detect	無料トライアル
AWS IoT Device Management	JobExecutions	12 か月間無料

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
AWS IoT Events	Messages	12 か月間無料
AWS IoT TwinMaker	IoTTwinMaker-BaseTier1-Queries	12 か月間無料
	IoTTwinMaker-BaseTier1-UnifiedDataAccess	
	IoTTwinMaker-BaseTier2-Queries	
	IoTTwinMaker-BaseTier2-UnifiedDataAccess	
	IoTTwinMaker-BaseTier3-Queries	
	IoTTwinMaker-BaseTier3-UnifiedDataAccess	
	IoTTwinMaker-BaseTier4-Queries	
	IoTTwinMaker-BaseTier4-UnifiedDataAccess	
AWS IoT TwinMaker	IoTTwinMaker-UnifiedDataAccess	12 か月間無料
AWS Key Management Service	KMS-Requests	常に無料

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
AWS Lambda	Lambda-GB-Second	常に無料
	Lambda-Streaming-Response-Processed-Bytes	
	Request	
AWS Migration Hub Refactor Spaces	API-Request EnvironmentHours	常に無料
OpsWorks	OpsWorks-Chef-Automate	12 か月間無料
	OpsWorks-Puppet-Enterprise	
AWS RoboMaker	SimulationUnitHour	無料トライアル
AWS Security Hub CSPM	OtherProduct:PaidFindingsIngestion	常に無料
	RuleEvaluation	
AWS Service Catalog	SC-API-Calls	常に無料
AWS Step Functions	StateTransition	常に無料
AWS Storage Gateway	Uploaded-Bytes	常に無料
AWS Supply Chain	ADPSiteProductCount	無料トライアル
	SiteProductCount	
	StorageSize	

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
AWS Systems Manager	AWS-Auto-ScriptDuration-Tier3 AWS-Auto-Steps-Tier1 IM-Notifications-Tier1	常に無料
Amazon Virtual Private Cloud	PublicIPv4:InUseAddress	12 か月間無料
AWS WAF	AMR-BotControl-Request AMR-BotControl-Targeted-Request AMR-FraudControl-Request ShieldProtected-AMR-BotControl-Request ShieldProtected-AMR-BotControl-Targeted-Request ShieldProtected-AMR-FraudControl-Request	常に無料
AWS X-Ray	XRay-TracesAccessed XRay-TracesStored	常に無料

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
Amazon API Gateway	ApiGatewayHttpRequest	12 か月間無料
	ApiGatewayMessage	
	ApiGatewayMinute	
	ApiGatewayRequest	
Amazon AppStream	stream-hrs:720p:g2	無料トライアル
	stream.standard.large-ib	
Amazon Augmented AI	A2ICustom-Objects	12 か月間無料
	A2IRek-Objects	
	A2ITextract-Objects	
Amazon Braket	Simulators-Task	無料トライアル
Amazon Cloud Directory	Requests-Tier1	12 か月間無料
	Requests-Tier2	
	TimedStorage-ByteHrs	
Amazon CloudFront	DataTransfer-Out-Bytes	常に無料
	Executions-CloudFrontFunctions	
	Invalidations	
	Requests-Tier1	

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
Amazon CloudSearch	DocumentBatchUpload	無料トライアル
	IndexDocuments	
	SearchInstance:m1.large	
	SearchInstance:m1.small	
	SearchInstance:m2.2xlarge	
	SearchInstance:m2.xlarge	
	SearchInstance:m3.2xlarge	
	SearchInstance:m3.large	
	SearchInstance:m3.medium	
	SearchInstance:m3.xlarge	
	SearchInstance:m4.2xlarge	
	SearchInstance:m4.large	
	SearchInstance:m4.xlarge	
	SearchInstance:search.2xlarge	

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
	SearchInstance:search.large	
	SearchInstance:search.medium	
	SearchInstance:search.previousgeneration.2xlarge	
	SearchInstance:search.previousgeneration.large	
	SearchInstance:search.previousgeneration.small	
	SearchInstance:search.previousgeneration.xlarge	
	SearchInstance:search.small	
	SearchInstance:search.xlarge	
Amazon Cognito	CognitoEnterpriseMAU	常に無料
	CognitoUserPoolMAU	
Amazon Cognito Sync	CognitoSyncOperation	常に無料
	TimedStorage-ByteHrs	

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
Amazon Comprehend	Comprehend-DC-Custom	12 か月間無料
	Comprehend-DE-Custom	
	Comprehend-EA	
	Comprehend-KP	
	Comprehend-LD	
	Comprehend-SA	
	Comprehend-Syntax	
	ContainsPiiEntities	
	DetectEvents	
	DetectPiiEntities	
	DetectTgtSentiment	
	DetectTopics	
	DocClassification-INSURANCE	
	DocClassification-MORTGAGE	
	DocClassification-PromptSafety	
Amazon Connect	chat-message	12 か月間無料
	end-customer-mins	
	tasks	

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
Amazon Connect Customer Profiles	MonthlyConnectBaseProfiles MonthlyProfiles	12 か月間無料
Amazon Connect Voice ID	Authentication Enrollment FraudDetection	12 か月間無料
Amazon DataZone	DataZoneCompute DataZoneRequests DataZoneStorage DataZoneUsers	無料トライアル
Amazon DevOps Guru	DevOpsGuru-APICalls ResourceGroup-A-us agehours ResourceGroup-B-us agehours	無料トライアル
Amazon DocumentDB (MongoDB 互換性)	BackupUsage InstanceUsage:db.t 3.medium StorageIOUsage StorageUsage	無料トライアル

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
Amazon DynamoDB	ReadCapacityUnit-Hrs ReplWriteCapacityUnit-Hrs Streams-Requests TimedStorage-ByteHrs WriteCapacityUnit-Hrs	常に無料
Amazon Elastic Container Registry	TimedStorage-ByteHrs	12 か月間無料
Amazon ElastiCache	NodeUsage:cache.t1.micro	12 か月間無料

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
Amazon Elastic Compute Cloud	BoxUsage:freetier.micro	12 か月間無料
	BoxUsage:freetrial	
	CW:AlarmMonitorUsage	
	CW:MetricMonitorUsage	
	CW:Requests	
	CarrierIP:IdleAddress	
	CarrierIP:Remap	
	DataProcessing-Bytes	
	DataTransfer-Out-Bytes	
	DataTransfer-Regional-Bytes	
	EBS:SnapshotUsage	
	EBS:VolumeIOUsage	
	EBS:VolumeUsage	
	ElasticIP:IdleAddress	
	ElasticIP:Remap	
	LCUUsage	
	LoadBalancerUsage	

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
Amazon Elastic Container Registry Public	Internet-ECRPublic-Out-Bytes TimedStorage-ByteHrs	12 か月間無料
Amazon Elastic Container Service	ECS-Anywhere-Instance-hours-WithFree	無料トライアル
Amazon Elastic File System	TimedStorage-ByteHrs	12 か月間無料
Amazon Elastic Transcoder	ets-audio-success ets-hd-success ets-sd-success	12 か月間無料
Amazon Forecast	DataInjection ForecastDataPoints TrainingHours	無料トライアル

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
Amazon Fraud Detector	FraudPrediction-AccountTakeoverInsights	無料トライアル
	FraudPrediction-OnlineFraudInsights	
	FraudPrediction-RulesOnly	
	FraudPrediction-TransactionFraudInsights	
	HostingHrs	
	StoredDataset	
	TrainingHrs	
Amazon GameLift Servers	BoxUsage:c3.large	12 か月間無料
	DailyActiveUser	
	FlexMatchMatchmakingHrs	
	FlexMatchPlayerPackages	
	GLAGameSessionsPlaced	
	GLAServerProcessConnMin	

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
AWS HealthLake	FHIRDataStorage	常に無料
	FHIRQueries	
Amazon IVS Chat	Messaging-Deliveries	12 か月間無料
	Messaging-Requests	
Amazon Interactive Video Service	Input-Basic-Hours	12 か月間無料
	Output-SD-Hours	
	Real-Time-Encode-Hours	
	Real-Time-Hours	
	Stages-Participant-Hours	
Amazon Kendra	KendraDeveloperEdition	無料トライアル
	KendraIntelligentRanking-BaseCapacity	
Amazon Keyspaces (Apache Cassandra 向け)	ReadRequestUnits	無料トライアル
	TimedStorage-ByteHrs	
	WriteRequestUnits	
Amazon Lex	Speech-Requests	12 か月間無料
	Text-Requests	
	botdesign	

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
Amazon Lightsail	BundleUsage:0.5GB	無料トライアル
	BundleUsage:0.5GB_win	
	BundleUsage:1GB	
	BundleUsage:1GB_win	
	BundleUsage:2GB	
	BundleUsage:2GB_win	
	ContainerSvcUsage:Micro-0.25CPU-1GB-Free	
	DNS-Queries	
	DatabaseUsage:1GB	
	UnusedStaticIP	

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
Amazon Location Service	DeviceDelete	無料トライアル
	Geocode	
	GeofenceCreateRead UpdateDelete	
	GeofenceList	
	MapTile	
	PositionEvaluation	
	PositionRead	
	PositionWrite	
	ResourceCreateRead UpdateDelete	
	ReverseGeocode	
	Route	
	Suggest	
Amazon Lookout for Equipment	Inference-Hours-L4E	無料トライアル
	Ingestion-GB-L4E	
	Training-Hours-L4E	
Amazon Lookout for Metrics	ANOMALY_DETECTION	無料トライアル

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
Amazon Lookout for Vision	EdgeInference	無料トライアル
	Free-Inference	
	Free-Training	
	Inference	
	Training	
Amazon MQ	InstanceUsage:mq.t2.micro	12 か月間無料
	MQ:RabbitStorageUsage	
	MQ:StorageUsage	
Amazon Macie	EventsProcessing	無料トライアル
	S3ContentClassification	
	SensitiveDataDiscovery	
Amazon Managed Service for Prometheus	AMP:MetricSampleCount	常に無料
	AMP:MetricStorageByteHrs	
	AMP:QuerySamplesProcessed	
Amazon MemoryDB	DataWritten	無料トライアル
	NodeUsage:db.t4g.small	

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
Amazon Mobile Analytics	EventsRecorded	12 か月間無料
Amazon Neptune	BackupUsage	無料トライアル
	DataTransfer-Out-Bytes	
	InstanceUsage:db.t3.medium	
	StorageIOUsage	
	StorageUsage	

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
AWS HealthOmics	<code>AnalyticsType:Annotation-Bytes-hour</code>	無料トライアル
	<code>AnalyticsType:Variant-Bytes-hour</code>	
	<code>StorageClass:Active-Gigabase-hour</code>	
	<code>StorageClass:Archive-Gigabase-hour</code>	
	<code>WorkflowType:Private-RunStorage-GB-hour</code>	
	<code>WorkflowType:Private-omics.c.12xlarge-hours</code>	
	<code>WorkflowType:Private-omics.c.16xlarge-hours</code>	
	<code>WorkflowType:Private-omics.c.24xlarge-hours</code>	
	<code>WorkflowType:Private-omics.c.2xlarge-hours</code>	
	<code>WorkflowType:Private-omics.c.4xlarge-hours</code>	

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
	WorkflowType:Private-omics.c.8xlarge-hours	
	WorkflowType:Private-omics.c.large-hours	
	WorkflowType:Private-omics.c.xlarge-hours	
	WorkflowType:Private-omics.m.12xlarge-hours	
	WorkflowType:Private-omics.m.16xlarge-hours	
	WorkflowType:Private-omics.m.24xlarge-hours	
	WorkflowType:Private-omics.m.2xlarge-hours	
	WorkflowType:Private-omics.m.4xlarge-hours	
	WorkflowType:Private-omics.m.8xlarge-hours	

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
	WorkflowType:Private-omics.m.large-hours	
	WorkflowType:Private-omics.m.xlarge-hours	
	WorkflowType:Private-omics.r.12xlarge-hours	
	WorkflowType:Private-omics.r.16xlarge-hours	
	WorkflowType:Private-omics.r.24xlarge-hours	
	WorkflowType:Private-omics.r.2xlarge-hours	
	WorkflowType:Private-omics.r.4xlarge-hours	
	WorkflowType:Private-omics.r.8xlarge-hours	
	WorkflowType:Private-omics.r.large-hours	

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
	WorkflowType:Private-omics.r.xlarge-hours	
Amazon OpenSearch Service	ES:freetier-Storage ES:freetier-gp3-Storage ESInstance:freetier.micro ESInstance:t3.small	12 か月間無料
Amazon Personalize	DataIngestion TPS-hours TrainingHour	無料トライアル
Amazon Pinpoint	Domain-Inboxplacement EventsRecorded InAppMessageRequests MonthlyTargetedAudience Pinpoint_DeliveryAttempts Pinpoint_MonthlyTargetedAudience Predictive-Tests	12 か月間無料

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
Amazon Polly	SynthesizeSpeech-Characters SynthesizeSpeechLongForm-Characters SynthesizeSpeechNeural-Characters	12 か月間無料
Quick	QS-ENT-Alerts-Free Trial	無料トライアル
Amazon Redshift	Node:dc2.large Node:dw2.large	無料トライアル
Amazon Rekognition	FaceVectorsStored Group1-ImagesProcessed Group2-ImagesProcessed ImagesProcessed MinsOfLiveVideoProcessed MinutesOfVideoProcessed UserVectorsStored inferenceminutes minutestrained	12 か月間無料

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
Amazon Relational Database Service	InstanceUsage:db.t1.micro	12 か月間無料
	PI_API	
	RDS:StorageIOUsage	
	RDS:StorageUsage	
Amazon Route 53	Cidr-Blocks	常に無料
	Health-Check-AWS	

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
Amazon SageMaker ランタイム	A2ICustom-Objects	無料トライアル
	A2IRek-Objects	
	A2ITextract-Objects	
	AsyncInf:ml.m.xlarge-AsyncInfParent	
	Autopilot-RedshiftML:CreateModelRequest-Tier0-Parent	
	Canvas:CreateModelRequest-Tier0-Parent	
	Canvas:Session-Hrs-Parent	
	DataWrangler:ml.m.xlarge-Parent	
	FeatureStore:ReadRequestUnitsParent	
	FeatureStore:TimedAndPITRStorageParent	
	FeatureStore:WriteRequestUnitsParent	
	FreeMonitorParent	
	FreeServerlessParent	
	Geospatial:NotebookCompute	

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
	Geospatial:TimedStorage	
	Host:ml.m.xlarge-HostingParent	
	LabeledObject	
	Notebk:ml.t.medium-NotebookParent	
	RStudio:RSessionGateway-ml.t3.medium-RSessionGatewayParent	
	Rstudio:Rsession-ml.t3.medium-RSessionParent	
	Train:ml.m.xlarge-TrainingParent	
Amazon Simple Email Service	Message	常に無料
	MessageUnits	
	Recipients-EC2	
	Recipients-MailboxSim-EC2	
	VirtDelivMgr	

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
Amazon Simple Notification Service	DeliveryAttempts-H TTP	常に無料
	DeliveryAttempts-SMS	
	DeliveryAttempts-S MTP	
	Notifications-Mobile	
	Requests-Tier1	
	SMS-Price-US	
Amazon Simple Queue Service	Requests	常に無料
Amazon Simple Storage Service	Requests-Tier1	12 か月間無料
	Requests-Tier2	
	TimedStorage-ByteHrs	
Amazon Simple Workflow Service	AggregateInitiated Actions	常に無料
	AggregateInitiated Workflows	
	AggregateWorkflowD ays	
Amazon SimpleDB	BoxUsage	常に無料
	TimedStorage-ByteHrs	

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
Amazon Textract	PagesForLayout	無料トライアル
	PagesForSignatures	
	PagesforAnalyzeDocForms	
	PagesforAnalyzeDocQueries	
	PagesforAnalyzeDocTables	
	PagesforAnalyzeExpense	
	PagesforAnalyzeLending	
	PagesforDocumentText	
	SyncExpensePagesProcessed	
	SyncIDPagesProcessed	
Amazon Timestream	DataIngestion-Bytes	無料トライアル
	DataScanned-Bytes	
	MagneticStore-ByteHrs	
	MemoryStore-ByteHrs	

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
Amazon Transcribe	CallAnalyticsStreamingAudio	12 か月間無料
	CallAnalyticsTranscribeAudio	
	HealthScribeBatch	
	MedicalStreamingAudio	
	MedicalTranscribeAudio	
	StreamingAudio	
	TranscribeAudio	
Amazon Translate	ActiveCustomTranslationJob	12 か月間無料
	TranslateText	
Amazon WorkSpaces	AW-HW-1-AutoStop-Usage	無料トライアル
	AW-HW-1-AutoStop-User	
	AW-HWU-3-AutoStop-Usage	
	AW-HWU-3-AutoStop-User	

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
Amazon CloudWatch	CW:AlarmMonitorUsage	常に無料
	CW:Canary-runs	
	CW:ContributorInsightEvents	
	CW:ContributorInsightRules	
	CW:InternetMonitor-CityNetwork	
	CW:MetricMonitorUsage	
	CW:Requests	
	DashboardsUsageHour-Basic	
	DataDelivery-Bytes	
	DataProcessing-Bytes	
	DataScanned-Bytes	
	Logs-LiveTail	
	TimedStorage-ByteHrs	
CloudWatch Events	Event-8K-Chunks	常に無料
	ScheduledInvocation	
CodeBuild	Build-Min:Linux:g1.small	常に無料
	Build-Sec:Lambda.1GB	

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
CodeCatalyst	Compute	常に無料
	DevEnvironment-Compute	
	DevEnvironment-Storage	
	Package-Storage	
	Repo-Storage	
CodeGuru	Profiler-Lambda-Sampling-Hour	無料トライアル
Amazon Comprehend Medical	ComprehendMedical-Batching	無料トライアル
	DetectEntities	
	DetectPHI	
	InferICD10CM	
	InferRxNorm	
	InferSNOMEDCT	

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
Contact Center Telecommunications (service sold by AMCS, LLC)	did-inbound-mins did-numbers outbound-mins tollfree-inbound-mins tollfree-numbers tollfree-numbers-STD	12 か月間無料
Contact Center Telecommunications Korea	did-inbound-mins did-numbers	12 か月間無料
Contact Center Telecommunications South Africa	did-inbound-mins did-numbers	12 か月間無料
Contact Lens for Amazon Connect	ChatAnalytics VoiceAnalytics	12 か月間無料
Elastic Load Balancing	DataProcessing-Bytes LCUUsage LoadBalancerUsage	12 か月間無料

を使用してサービスを試す AWS 無料利用枠 (2025 年 7 月 15 日より前)

Note

このセクションは、2025 年 7 月 15 日より AWS アカウント 前に を作成した新規 AWS のお客様にのみ適用されます。2025 年 7 月 15 日以降にアカウントを作成した場合は、「[AWS のサービス で を試す AWS 無料利用枠](#)」を参照してください。

を作成すると AWS アカウント、特定の使用制限内で一部の AWS サービスを無料で試すことができます。

[AWS 無料利用枠](#)には以下の 3 種類があります。

常に無料

この無料利用枠は有効期限がなく、すべての AWS のお客様がご利用可能です。

12 か月間無料

AWSに初めてサインアップした日から 12 か月間、ご利用が可能です。

短期トライアル

無料利用枠の上限までを毎月、12 か月以内にご利用可能です。ほとんどの短期無料トライアルは、特定のサービスをアクティブ化した日から開始します。

AWS 無料利用枠 利点、タイプ、使用制限を提供するサービスを見つけるには

1. 「[AWS 無料利用枠](#)」ページに移動します。
2. 「[無料利用枠の詳細](#)」セクションで、フィルターを選択して利用枠タイプと製品カテゴリを検索します。

たとえば、Always Free を選択し、Compute を選択して AWS Lambda 、(Lambda) で利用可能な無料リクエストの数を確認できます。

AWS 無料利用枠 および対象期間中に料金を回避する方法の詳細については、以下のトピックを参照してください。

トピック

- [の使用資格の確認 AWS 無料利用枠](#)
- [無料利用枠後の予期しない請求額の回避](#)
- [無料利用枠 API を使用する](#)

の使用資格の確認 AWS 無料利用枠

Note

このセクションは、2025 年 7 月 15 日より AWS アカウント 前に を作成した新規 AWS のお客様にのみ適用されます。2025 年 7 月 15 日以降にアカウントを作成した場合は、「[AWS のサービス でを試す AWS 無料利用枠](#)」を参照してください。

これらの条件がすべて満たされた場合、AWS 使用量は AWS 無料利用枠 制限内にとどまります。

- AWS 無料利用枠 オファターのアクティブなトライアル期間内です。例えば、Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) などのサービスの 12 か月間無料プログラムを利用している最中だとします。
- を使用するの AWS のサービス は、AWS 無料利用枠 利点を提供する のみです。
- 使用量は、これらのサービス AWS 無料利用枠 の制限内にとどまります。

これらの条件を 1 つ以上 AWS のサービス 超えて を使用すると、無料利用枠の制限を超える使用量に対して標準の AWS 請求レートで課金されます。

AWS 無料利用枠 制限の詳細については、「」を参照してください[AWS 無料利用枠](#)。

Note

の場合 AWS Organizations、すべてのメンバーアカウントの AWS 無料利用枠 資格は、管理アカウントが作成された日に開始されます。詳細については、「[AWS Organizations ユーザーガイド](#)」を参照してください。

無料利用枠後の予期しない請求額の回避

Note

このセクションは、2025 年 7 月 15 日より AWS アカウント 前に を作成した新規 AWS のお客様にのみ適用されます。2025 年 7 月 15 日以降にアカウントを作成した場合は、「[AWS のサービス でを試す AWS 無料利用枠](#)」を参照してください。

12 か月間の無料サービスの利用資格は、 を初めてアクティブ化してから 12 か月後に AWS 無料利用枠 失効します AWS アカウント。この期間以降は、無料利用枠の資格を延長することはできません。

Note

AWS 無料利用枠 資格の有効期限が切れた後でも、Always Free オファーを引き続き使用できます。利用可能な「常に無料」オファーの詳細については、「[AWS 無料利用枠](#)」を参照してください。

AWS 無料利用枠 資格の有効期限が近づいたら、不要なリソースをシャットダウンまたは削除します。資格の有効期限が切れると、標準の AWS 請求レートで課金されます。

短期トライアルの場合、サービスの有効期限が通知されることはありません。無料利用枠のアラートが通知されるのは、トライアル期間中のみです。短期トライアルで予期せぬ費用が発生しないよう、トライアル期間が終了する前に、これらのリソースをオフにします。

アカウントに定期的なログインをしていなくても、アクティブなリソースが実行されている可能性があります。次の手順で、アカウントのアクティブなリソースを確認します。

Note

GetFreeTierUsage API オペレーションを使用して無料利用枠を使用することもできます。無料利用枠 API に関する詳細については、「[AWS Billing and Cost Management API Reference](#)」を参照してください。

AWS Billing を使用してアクティブなリソースを特定するには

1. にサインイン AWS マネジメントコンソール し、<https://console.aws.amazon.com/billing/> で請求コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Bills] を選択します。
3. [サービス別料金] タブで、[すべて展開] を選択します。
4. アクティブなリソースのあるサービスと AWS リージョン別のサービス、および各リソースの料金をリストで確認します。

AWS Cost Explorer を使用してアクティブなリソースを特定するには

1. にサインイン AWS マネジメントコンソール し、<https://console.aws.amazon.com/costmanagement/home> で AWS コスト管理を開きます。
2. ナビゲーションペインで、[Cost Explorer] を選択します。
3. [コストと使用量のグラフ] で、不要なリソースのあるサービスと AWS リージョン をメモします。これらのリソースをシャットダウンまたは削除する方法の手順については、当該サービスのドキュメントを参照してください。

例えば、Amazon EC2 Linux インスタンスを終了するには、「[Amazon EC2 ユーザーガイド](#)」を参照してください。

Tip

を閉じることもできます AWS アカウント。詳細情報と重要な考慮事項については、「AWS アカウント管理 Reference Guide」の「[Close your account](#)」を参照してください。

無料利用枠 API を使用する

[AWS 無料利用枠](#) では、AWS のサービス と製品を毎月無料で使用できます。無料利用枠 API を使用すると、無料利用枠の使用状況をプログラムで月間使用量の上限と照らし合わせて追跡できます。

API を使用して、毎月の無料利用から従量制料金のシステムに変更されるタイミングを確認します。これにより、その月における各サービスの予測使用量と無料利用枠の上限を比較できるため、意図しない課金を回避できます。例えば、使用量が の無料オファーの上限をいつ超えるかを知るには AWS Glue、API を使用して使用量を追跡できます AWS アカウント 。その後、無料利用枠の制限が終了する前に、サービスを維持するか、変更を加えるかを決定できます。

API を使用してビジュアライゼーションを作成したり、API レスポンスに基づいて AWS リソースの変更を自動化するスクリプトを記述したりすることもできます。

Example例: の無料利用枠オファーを検索する AWS Glue

次の AWS Command Line Interface (AWS CLI) コマンドは GetFreeTierUsage API オペレーションを使用して、無料利用枠の使用状況でフィルタリングします AWS Glue。

リクエスト

```
aws freetier get-free-tier-usage --filter '{"Dimensions": {"Key": "SERVICE", "Values": ["Glue"], "MatchOptions": ["CONTAINS"]}}'
```

レスポンス

次のレスポンスは、 から 2 つの Always Free オファーを返します AWS Glue。

```
{
  "freeTierUsages": [
    {
      "actualUsageAmount": 287.0,
      "description": "1000000.0 Request are always free per month as part of AWS Free Usage Tier (Global-Catalog-Request)",
      "forecastedUsageAmount": 2224.25,
      "freeTierType": "Always Free",
      "limit": 1000000.0,
      "operation": "Request",
      "region": "global",
      "service": "AWS Glue",
      "unit": "Request",
      "usageType": "Catalog-Request"
    },
    {
      "actualUsageAmount": 176.36827958,
      "description": "1000000.0 Obj-Month are always free per month as part of AWS Free Usage Tier (Global-Catalog-Storage)",
      "forecastedUsageAmount": 1366.8541667450002,
      "freeTierType": "Always Free",
      "limit": 1000000.0,
      "operation": "Storage",
      "region": "global",
      "service": "AWS Glue",
      "unit": "Obj-Month",

```

```
        "usageType": "Catalog-Storage"
    }
  ]
}
```

関連リソース

AWS CLI および AWS Software Development Kit (SDKs)には、無料利用枠 API のサポートが含まれています。無料利用枠 API をサポートする言語のリストについては、オペレーション名を選択し、[次も参照してください:] セクションで目的の言語を選択します。

無料利用枠 API に関する詳細については、「[AWS Billing and Cost Management API Reference](#)」を参照してください。

AWS Billing and Cost Management コンソールを使用して E メールアラートの受信など、無料利用枠の使用状況を追跡するには、「」を参照してください[AWS 無料利用枠 使用状況の追跡](#)。

Amazon EC2 での無料利用枠の詳細については、「Amazon EC2 ユーザーガイド」の「[チュートリアル: Amazon EC2 Linux インスタンスの開始方法](#)」を参照してください。

AWS コストの予算を作成し、予算がコストと使用量を超えたとき、または超えると予測されるときに通知とアラートを設定することもできます。詳細については、「AWS Cost Management User Guide」の「[Managing your costs with AWS Budgets](#)」を参照してください。

カーボンフットプリントの表示

CCFT 非推奨通知

CCFT は 2026 年 6 月 30 日に廃止され、追加の機能を提供し、請求コンソールのアクセス許可を必要としない新しい AWS 持続可能性サービスが優先されます。[AWS 持続可能性ユーザーガイド](#)

Customer Carbon Footprint Tool (CCFT) を使用して、AWS 製品やサービスに関連する炭素排出量の見積もりを表示できます。

Note

次のシナリオで請求転送を使用する場合、CCFT はサポートされていません。
請求書に移管する管理アカウント (請求元アカウント) または請求元アカウントのリンクされたアカウントとしてサインインした場合、CCFT にアクセスすることはできません。さらに、請求書転送アカウントとしてサインインすると、請求書ソースアカウントからの排出量を反映する CCFT データを表示することはできません。

トピック

- [Customer Carbon Footprint Tool \(CCFT\) の使用を開始する](#)
- [Customer Carbon Footprint Tool \(CCFT\) を理解する](#)
- [エネルギー使用量の計算](#)
- [炭素排出量の推定の理解](#)

Customer Carbon Footprint Tool (CCFT) の使用を開始する

Customer Carbon Footprint Tool はすべてのアカウントで使用できます。データは毎月更新されます。

Note

アカウントに利用できるレポートがない場合は、アカウントが最近新しく作成されたばかりでデータを表示できないか、レポート対象の月におけるカーボンフットプリントが

0.5 kgCO₂e を下回っていることが考えられます。詳細については、「[Customer Carbon Footprint Tool \(CCFT\) を理解する](#)」を参照してください。

Customer Carbon Footprint Tool を使用する

1. にサインイン AWS マネジメントコンソール し、<https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、[コストと使用状況の分析] にある [Customer Carbon Footprint Tool] を選択します。
3. [Customer Carbon Footprint Tool] で、[開始月] と [終了月] を選択します。

IAM ポリシー

Customer Carbon Footprint Tool とデータにアクセスするには、IAM 許可 `sustainability:GetCarbonFootprintSummary` が必要です。IAM 許可の詳細については、「[AWS 請求用の Identity and Access Management](#)」を参照してください。

AWS Organizations ユーザー

の管理アカウントとしてサインインしている場合 AWS Organizations、Customer Carbon Footprint Tool ダッシュボードとスプレッドシートのダウンロードでは、それらのメンバーアカウントが組織の一部であった期間、統合されたメンバーアカウントデータがレポートされます。

メンバーアカウントの場合、Customer Carbon Footprint Tool はすべての期間の排出データを報告します。これは、組織内のアカウントに関連付けられたメンバーシップに発生した可能性のある変更とは関係ありません。

Customer Carbon Footprint Tool (CCFT) を理解する

CCFT 非推奨通知

CCFT は 2026 年 6 月 30 日に廃止され、追加の機能を提供し、請求コンソールのアクセス許可を必要としない新しい AWS 持続可能性サービスが優先されます。[AWS 持続可能性ユーザーガイド](#)

提供された情報の詳細な理解が可能となるように、このページでは、コンソールの各セクションについて説明しています。

炭素排出量の測定単位は、業界標準の測定値である二酸化炭素換算トン (MTCO₂e) です。この測定では、二酸化炭素、メタン、亜酸化窒素を含む複数の温室効果ガスを考慮します。すべての温室効果ガス排出は、気候変動に関する政府間パネル (IPCC) で定義されているそれぞれの地球温暖化係数 (GWP) 値を使用して MTCO₂e に変換されます。この標準化されたアプローチにより、組織はさまざまな温室効果ガスが気候に及ぼす影響を単一の比較可能な単位で表現できます。

過去 38 か月間の炭素排出量データを利用できます。これは、過去 3 年間の年次比較を行うためのシンプルなプロセスを実現するためのものです。新しいデータは通常、使用が発生した月の 15 日から 21 日の間に公開されます。Customer Carbon Footprint Tool は、0.001 MTCO₂e (1 kgCO₂e) の分解能でカーボンフットプリントを表示します。報告対象の月の排出量が 0.0005 MTCO₂e (0.5 kgCO₂e) 未満の場合は、0 と表示されます。二酸化炭素排出量を 0.000001 MTCO₂e (1 グラム) の分解能で表示するには、「[Data Exports](#)」を参照してください。

CCFT のロケーション基準の排出量データを使用してエネルギー使用量を計算するには、「[エネルギー使用量の計算](#)」を参照してください。

機能、手法、その他の情報に対する変更履歴の詳細については、「[Customer Carbon Footprint Tool Release Notes](#)」を参照してください。

炭素排出量の概要

このセクションでは、推定 AWS 排出量と推定排出量削減額を示します。デフォルトで、このツールはマーケット基準手法 (MBM) を使用して計算されたスコープ 2 とスコープ 3 の排出量を表示します。ダッシュボードの [計算方法] フィルターで [LBM] を選択すると、LBM (ロケーション基準手法) を使用して計算された排出量が表示されます。排出削減量は、ロケーション基準手法 (LBM) とマーケット基準手法 (MBM) を使用して計算された二酸化炭素排出量の差です。LBM と MBM の詳細については、「[入力データ](#)」を参照してください。

AWS 炭素排出量

このセクションでは、時間の経過に伴う炭素排出量の傾向を、上位に分類して示します AWS リージョン。デフォルトで上位 5 リージョンが表示され、他のリージョンは [その他] に分類されます。すべてのリージョンの排出量を表示するには、[AWS リージョン別の排出量] を選択します。

サービス別の排出量

このセクションには、Amazon Elastic Compute Cloud (EC2)、Amazon Simple Storage Service (S3)、および Amazon CloudFront (CloudFront) の使用に起因する炭素排出量が表示されます。その他の AWS 製品やサービスは、「その他」の下にグループ化されます。

による排出量 AWS リージョン

このセクションには、該当する各 AWS リージョンに関連付けられた炭素排出量が表示されます。例えば、US East (Ohio) や Europe (London) などです。Amazon CloudFront などのグローバルサービスからの排出量は、[グローバル] に報告されます。

スコープ別の排出量 (スコープ 1、2、3) を確認するには、[AWS 「データエクスポートとは」を参照してください。](#)

炭素排出量データのダウンロード

Customer Carbon Footprint Tool コンソールページの右上にある 2 つのオプションのいずれかを使用することで、炭素排出量データに一括でアクセスできます。

CSV をダウンロードする

このオプションを選択して、最大 38 か月分の履歴データが含まれる CSV ファイルをダウンロードします。このファイルには、月、サービス、およびごとのデータが含まれます AWS リージョン。このファイルのデータは、常に最新の手法バージョンを使用して計算されています。

CSV をダウンロード (旧モデル)

このオプションを使用するには、[CSV をダウンロード] の横にあるドロップダウンを選択します。このオプションは、新しい手法バージョンのリリース後に一時的に提供されているものです。この CSV には、以前の手法で計算された炭素推定量が含まれています。これを使用して、さまざまな手法バージョン間のデータを比較できます。例えば、手法バージョン 2 は 2025 年 4 月にリリースされたもので、[CSV をダウンロード] (旧モデル) には、バージョン 1 で計算されたデータが含まれます。

新しい手法がリリースされた後で以前の手法を使用した履歴データにアクセスするには、[データエクスポート] が設定されていることを確認してください。以前の手法を使用して計算されたデータが Amazon S3 バケットにエクスポートされている場合、そのデータは上書きされません。

カスタムデータエクスポートの作成

これを選択して [データエクスポート] に移動します。次に、基本的な SQL を使用して炭素排出量データエクスポートを作成し、Quick と統合してデータを視覚化できます。カスタムデータエクスポートを使用すると、所定の組織内にあるすべてのアカウントのアカウントレベルの詳細にアクセスできます。

エネルギー使用量の計算

CCFT 非推奨通知

CCFT は 2026 年 6 月 30 日に廃止され、追加の機能を提供し、請求コンソールのアクセス許可を必要としない新しい AWS 持続可能性サービスが優先されます。[AWS 持続可能性ユーザーガイド](#)

Note

- この手法を使用して計算されたエネルギーデータは、情報提供のみを目的とするものです。この情報を最適化に使用しないでください。
- この手法は、特有の電力インフラストラクチャが存在するカナダ (中部) リージョンとアフリカ (ケープタウン) リージョンではサポートされていません。

Customer Carbon Footprint Tool (CCFT) は、クラウドカーボンフットプリントのエネルギー使用量を計算するためのデータを提供します。Scope 2 ロケーションベースの排出量メソッド (LBM) データと公開されているグリッド排出量係数を組み合わせることで、AWS ワークロードの推定エネルギーフットプリントを判断できます。Amazon で使用されるエネルギー排出係数の詳細については、「[Amazon Carbon Methodology Document](#)」を参照してください。

Note

CCFT で提供される合計 LBM 排出量を使用してエネルギー使用量を計算しないでください。代わりに、[データエクスポート](#) のスコープ 2 LBM (列:) を使用してくださいtotal_scope_2_lbm_emissions_value。合計 LBM 数には、エネルギー計算に含まれ

ていないスコープ 1 とスコープ 3 が含まれており、このデータを使用すると、エネルギーの数値が過大評価されます。

クラウドカーボンフットプリントの背後にある推定エネルギー消費量を判断するには、ロケーション基準の排出量を対応するグリッド排出係数で除算します。必要に応じて単位変換を適用するようにしてください。

$$\text{Energy consumption} = \text{Location-based emissions} / \text{Grid emissions factor}$$

Example例

グリッド排出係数が 500 kg CO₂e/MWh で、2025 年に米国西部 (オレゴン) リージョンでのクラウド使用から発生した LBM 排出量が 100 MTCO₂e である場合は、次のようにエネルギー使用量を計算します。

1. 100 MTCO₂e を 1,000 で乗算し、メートルトンキログラムに変換してエネルギー使用量を計算します。
2. その結果を米国西部 (オレゴン) リージョンのグリッド排出係数 500 kgCO₂e で除算します。

$$(100 \text{ MTCO}_2\text{e} * 1000) / 500 \text{ kgCO}_2\text{e/MWh} = 200 \text{ MWh}$$

炭素排出量の推定の理解

CCFT 非推奨通知

CCFT は 2026 年 6 月 30 日に廃止され、追加の機能を提供し、請求コンソールのアクセス許可を必要としない新しい AWS 持続可能性サービスが優先されます。[AWS 持続可能性ユーザーガイド](#)

Customer Carbon Footprint Tool は、AWS クラウドサービスの使用に関連する顧客固有の温室効果ガス (GHG) 排出量を定量化します。このツールは、すべてのクラウド製品を対象としています。

Customer Carbon Footprint Tool で採用されている手法は、以下の規格で概説されているデータソースと配分手法に基づいています。

- [GHG プロトコル](#)とその基盤である [ISO 14064](#) 規格

- [GHG Protocol Product Life Cycle Accounting and Reporting Standard](#) および関連する [Information and Communication Technology \(ICT\) セクターガイダンス](#)。
- ライフサイクルアセスメント (LCA) に関する [ISO 14040](#) および [ISO 14044](#)

Customer Carbon Footprint Tool の手法は、これらの規格からの要素を使用して[システム境界](#)、[入力データ](#)、[配分アプローチ](#)を定義しており、進化するデータや気候科学などに基づいて徐々に更新されます。現行の手法バージョンに関する完全な手法ドキュメントと第三者検証書を確認するには、「Amazon Sustainability」ページの「[Reports](#)」をご覧ください。が新しいバージョンの方法論を AWS リリースすると、履歴データは更新されたバージョンを使用して再計算され、時間の経過とともに正確な比較が保証されます。

Note

スコープ 2 およびスコープ 3 の FERA 市場ベースの排出量 (MBM) は、予想されるエネルギー属性証明書 (EACs) の購入に基づく見積もりであり、変更される可能性があります。軽減のため、AWS は翌年の H1 での実際の EAC 購入を使用して、前年の排出量を再計算します。たとえば、2025 データは、最新かつ最大の入力を使用して 2026 年 6 月までに再公開されます。

リージョン、使用状況、および請求データの考慮要素

世界のさまざまな地域の電力グリッドでは、さまざまな電力源が使用されています。炭素に強烈な燃料 (石炭など) を使用するものもあれば、主に低炭素水素やその他の再生可能エネルギーを使用するものもあります。Amazon の再生可能エネルギープロジェクトの場所もこの一役を担っています。これらのプロジェクトによって生成されるエネルギーは、同じグリッド上のリージョンからの排出量を相殺するためです。その結果、すべてが同じ炭素強度 AWS リージョンを持つわけではありません。

使用量が多くても排出量は比較的少ないという結果になるリージョンもあれば、使用量が少なくても排出量が多いという結果になるリージョンもあります。例えば、ヨーロッパでの使用量による排出量は、グリッドにより多くの再生可能エネルギーがあるため、使用量の多い地域であっても、総排出量の少ない割合を表す AWS リージョン ことがよくあります。アジアパシフィック AWS リージョンでは、一部のアジアパシフィックリージョンでは低炭素エネルギーの可用性が低いため、これらのリージョンでの顧客の使用量が小さい場合でも、総排出量の大きい割合を表すことができます。炭素の見積りは使用量のみに基づいており、前払いでの Savings Plan の購入などの 1 回限りの料金は、同様の炭素排出量の増加を発生させるものではありません。

Customer Carbon Footprint Tool と Amazon のカーボンフットプリントレポート

Amazon のカーボンフットプリントレポートは、当社の年次サステナビリティレポートの一部です。これは、Amazon Web Services を含むすべての Amazon オペレーションにおけるスコープ 1~3 の排出量をカバーします。顧客のカーボンフットプリントレポートには、お客様自身の AWS 使用量に起因する排出量が表示されます。詳細については、「[Amazon Sustainability](#)」(Amazon のサステナビリティ) を参照してください。

トピック

- [システム境界](#)
- [入力データ](#)
- [配分アプローチ](#)

システム境界

CCFT 非推奨通知

CCFT は 2026 年 6 月 30 日に廃止され、追加の機能を提供し、請求コンソールのアクセス許可を必要としない新しい AWS 持続可能性サービスが優先されます。[AWS 持続可能性ユーザーガイド](#)

システム境界は、CCFT 計算で考慮される活動と関連する排出を定義します。CCFT は、企業による排出を 3 つのscopesに分割する GHG プロトコルの排出分類から情報を得ています。

- スコープ 1: 所有または管理するソースからの直接的な排出の排出量です。
- スコープ 2: 購入したエネルギーの生産からの間接的な排出の排出量です。
- スコープ 3: 報告元企業のバリューチェーン内で発生するすべての間接的な排出 (スコープ 2 の排出に含まれないもの) の排出量で、上流と下流両方の排出が含まれます (ハードウェアの製造、寿命期間終了時の排出など)。

スコープ 1

CCFT には、非常用予備発電装置での燃料燃焼による排出量と、AWSが所有、または管理する施設での冷媒使用や天然ガス消費による排出量が含まれています。これには、AWS がクラウド

サービスをサポートするサーバーラック (「colo」データセンターなど) をデプロイして運用管理している場所が含まれます。このモデルには、特定のエッジサイトからの排出量も含まれます (CloudFront 排出量が含まれます)。

スコープ 2

CCFT は、マーケット基準手法 (MBM) とロケーション基準手法 (LBM) 両方の計算を使用して、クラウドサービスをサポートする AWS 所有または管理の施設、および特定のエッジサイト (例えば、CloudFront の排出量が含まれます) からのスコープ 2 排出量を報告します。

スコープ 3

CCFT は以下を考慮します。

- 燃料およびエネルギー関連の活動からの排出量 (GHG プロトコルの FERA)。これには、システム境界内にある施設に関する購入された燃料と電力からの上流排出量に加えて、伝送損失と配電損失からの排出量も含まれます。
- IT ハードウェアに具体化された炭素 - AWS 所有または運用のデータセンター施設にデプロイされたサーバーラックからの製造排出量。
- データセンタービルの具体化炭素 - AWS 所有または運用のデータセンタービルからの製造排出量。
- 非 IT 機器に炭素が組み込まれている - AWS 所有または運用のデータセンター施設にデプロイされた非 IT 機器からの製造排出量。

Customer Carbon Footprint Tool は、AWS 倉庫、製造施設、オフィスに関連する排出量を除外します。これらの排出量は、クラウドサービスの提供に起因するものではありません。お客様の施設 (Amazon Cloud Extension、Embedded Points of Presence、AWS Outposts サイトなど) で実行されたサイトから発生する排出量は、現時点では Customer Carbon Footprint Tool の対象外です。詳細については、「[CCFT Methodology Document](#)」を参照してください。

入力データ

CCFT 非推奨通知

CCFT は 2026 年 6 月 30 日に廃止され、追加の機能を提供し、請求コンソールのアクセス許可を必要としない新しい AWS 持続可能性サービスが優先されます。[AWS 持続可能性ユーザーガイド](#)

このセクションでは、データのソースと、Customer Carbon Footprint Tool の上流で行われる変換の概要を説明して、各 AWS クラスターのスコープ 1、スコープ 2、スコープ 3 炭素排出量を定義します。完全な手法を理解するには、「[CCFT Methodology Document](#)」を参照してください。

スコープ 1

Amazon は、年次フットプリントのためのスコープ 1 活動データを毎年生成して保証します。Amazon の年次レポートと CCFT の月次ケイデンスの間のギャップを埋めるために、は保証されていないプライマリスコープ 1 アクティビティデータ AWS を使用して、当月の毎月の排出量を決定します。活動データには月次レポートの公開時に利用できないものもあるため、スコープ 1 排出量が過小評価される結果になります。推定値は再キャスト時に更新し、CCFT で報告されたスコープ 1 排出量を保証済みデータと一致させます。

スコープ 2

スコープ 1 と同様に、CCFT 手法は Amazon のフットプリント手法に密接に従っています。Amazon のアプローチを踏まえて、CCFT では公開時におけるデータの正確性を優先しており、データのプライマリソース (実際のエネルギー消費量など) の合理的な入手が不可能である場合にのみ、他のソース (推定エネルギー消費量など) にフォールバックします。

AWS は、エネルギー消費 (MWh) を推定してクラスターレベルと月レベルのロケーションベース (LBM) 排出量を推定し、LBM 排出量係数を乗算します。

Note

ロケーション基準手法 (LBM) は、スコープ 2 の温室効果ガス排出量算定において使用される GHG プロトコル手法で、エネルギー消費が発生するグリッドの平均排出強度を反映します。

LBM の後、は、エネルギー属性証明書 (EACs)、電力購入契約 (PPA) などの市場ベースの契約手段 AWS を検討して、カーボンフリーエネルギープロジェクトを反映し、市場ベースの (MBM) 排出量を計算します。これは、GHG プロトコルスコープ 2 ガイダンスで概説されている品質基準と一致するものです。

Note

マーケット基準手法 (MBM) は、スコープ 2 の温室効果ガス排出量算定で使用される GHG プロトコル手法であり、エネルギー属性証明書 (EAC) を考慮した供給者固有の排出強度を反映します。例えば、企業による再生可能エネルギーの購入などです。

LBM と MBM の違いに関する詳細については、「[GHG Protocol Scope 2 Guidance](#)」を参照してください。

スコープ 3

燃料およびエネルギー関連のアクティビティ: 購入した燃料からのアップストリーム排出量について、AWS は燃料アクティビティデータを収集し、燃料の抽出、生産、輸送に放出係数を適用します。ロケーションベースの排出量 (LBM) を使用して購入した電力と送受信 (T&D) 損失のアップストリーム排出量については、は推定エネルギー消費量 (MWh) を関連する放出係数で AWS 乗算します。市場ベースの排出量 (MBM) の場合、はエネルギー属性証明書 (EAC) AWS も考慮します。EACs

IT ハードウェア: 包括的なcradle-to-gateアプローチ AWS を使用して、原材料の抽出から製造、AWS データセンターへの輸送までの排出量を追跡します。この方法論は、エンジニアリング属性、外挿、代表的なカテゴリ平均 LCA、経済的入出力 LCA を含むプロセスベースのライフサイクル評価 (LCA) の 4 つの計算経路を採用しています。は、全体的な排出量に大きく寄与するコンポーネントの最も詳細で正確な方法を AWS 優先します。

建物と機器: AWS は、建設、使用、end-of-lifeフェーズからの排出量を考慮して、建物のライフサイクル評価 (wbLCA) 基準全体を確立しました。この分析は、データセンターの外郭構造、部屋、およびエアハンドリングユニットや発電機などの長納期機器を対象としています。この手法では、包括的なカバレッジを確保するために、プロセスベースのライフサイクルアセスメントモデルと産業連関分析法の両方を使用します。

スコープ 3 排出量はその後、お客様に配分できる毎月の排出量を計算するために、資産の耐用年数 (IT ハードウェアの場合は 6 年、建物の場合は 50 年) で均等償却されます。この償却により、早期廃止や延長使用などのシナリオを考慮しながら、各資産の総エンボディドカーボンが稼働寿命全体に公平に分配されることが確実になります。

データ品質の確保には、Composite Quality Score (CQS) システムを使用して、計算プロセスの全体を通じて複数の検証チェックを実施しています。この体系的なアプローチは、詳細かつ検証可能な

カーボンフットプリントデータをお客様に提供しながら、計算と仮定に関する透明性を維持することを可能にします。

配分アプローチ

CCFT 非推奨通知

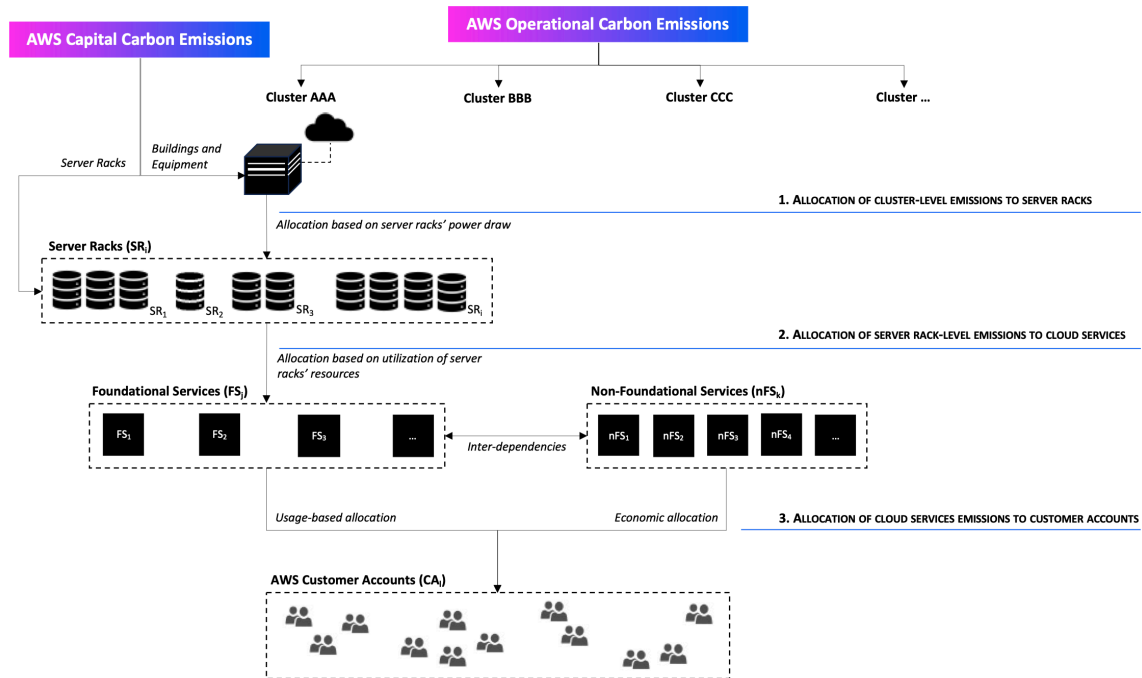
CCFT は 2026 年 6 月 30 日に廃止され、追加の機能を提供し、請求コンソールのアクセス許可を必要としない新しい AWS 持続可能性サービスが優先されます。[AWS 持続可能性ユーザーガイド](#)

炭素配分モデルは、トップダウンアプローチを使用して AWS、クラウドサービスの使用に関連する顧客のカーボンフットプリントを計算します。は physical allocation (使用量ベースの配分とも呼ばれる) を AWS 優先し、セカンダリオプション economic allocation として を考慮します。

このモデルは、各 AWS クラスターに関連する運用排出量と資本排出量を取得し、一連の変換を実行して、このような排出量を複数の論理セグメントに分割します。概念的に、このモデルは次の論理変換ワークフローを使用することで機能します。

1. サーバーラックの消費電力を使用して、クラスターレベルの排出量 (運用炭素排出量や、建物および機器の償却済みエンボデイドカーボンなど) をクラスター内のサーバーラックに配分します。所定のクラスター内にある各ラックに関連付けられた、サーバーラックの償却済みエンボデイドカーボンを追加します。
2. サーバーラックリソースの使用率に基づいて、サーバーラックに関連する炭素排出量を AWS クラウドサービスに割り当て、相互依存関係を考慮します。専有サーバーラックを使用するサービスには物理的配分を使用し、その他のサービスには経済的配分を使用します。
3. 各クラウドサービスに関連付けられた炭素排出量を個々のお客様アカウントに配分します。専有サーバーラックを使用するサービスには物理的配分を使用し、その他のサービスには経済的配分を使用します。

Figure 1 – Conceptual workflow for the allocation of carbon emissions in the customer carbon footprint model



コスト AWS Cost Categoriesの整理

コスト配分は、組織内で誰がどのくらいの費用を費やしているのかを特定するのに役立ちます。コストカテゴリは、コストを独自の内部ビジネス構造にマッピングするのに役立つ AWS コスト配分サービスです。

Cost Categories では、コストを意味のあるカテゴリにグループ化するルールを作成できます。

Exampleシナリオ例 1

ビジネスが *Team1*、*Team2* などの複数のチームに分かれているとします。チームはビジネス AWS アカウントで 10 を使用します。AWS コストをグループ化するルールを定義して、これらのチーム間で割り当てることができます。

1. ビジネス用に *Team* という名前のコストカテゴリを作成しました。
2. このコストカテゴリでは、ルールを次のように定義しました。
 - アカウント 1 から 3 のすべてのコストは、*Team : Team1* に分類されます。
 - アカウント 4 と 5 のすべてのコストは、*Team : Team2* に分類されます。
 - 他のすべてのアカウントについては、すべてのコストが *Team : Team3* に分類されます。
3. このルールを使用すると、アカウント 6 のすべてのコスト明細項目がコストカテゴリ値 *Team3* で分類されます。これらの分類は、次の例のように AWS Cost and Usage Report (AWS CUR) に列として表示されます。このルールに基づいて、アカウント 3 のコストは *Team1* に分類され、アカウント 6 のコストは *Team3* に割り当てられます。

リソース ID	AccountID	LineItemType	UsageType	非ブレン ドコスト	NetUnblen ded Cost	ResourceT ag/Projec t	costCateg ory/Team
i-11223	3	使用方法	BoxUsage: c1.xlarge	3.36	3.36	Beta	<i>Team1</i>
i-12345	6	SavingsPlanCovered Usage	BoxUsage: m5.xl	150	140	Alpha	<i>Team3</i>

これらのカテゴリは、AWS Billing and Cost Management コンソールの複数の製品でも使用できます。これには、AWS Cost Explorer、AWS Budgets、AWS CUR、および AWS Cost Anomaly Detection が含まれます。例えば、フィルター value = Team 1 を Team という名前のコストカテゴリに適用することで、Cost Explorer の **Team1** に割り当てられたコストをフィルタリングできます。

また、コストカテゴリ間に複数レベルの階層関係を作成して、組織構造を複製できます。

Exampleシナリオ例 2

1. 例えば、複数のチームのグループ分けが含まれている **BusinessUnit** という名前のコストカテゴリを作成できます。
2. 次に、**BU1** という名前のコストカテゴリ値を定義します。このコストカテゴリ値では、**Team** コストカテゴリから **Team 1** と **Team 2** を選択します。
3. 次に、**BU2** という名前のコストカテゴリ値を定義します。このコストカテゴリ値では、**Team** コストカテゴリから **Team 3** と **Team 4** を選択します。

この例は、次に示すように、コストと使用状況レポートに表示されます。

リソース ID	AccountID	LineItemType	UsageType	非ブランドコスト	NetUnblended Cost	Resource Tag/Project	costCategory/Team	costCategory/BusinessUnit
i-11223	3	使用方法	BoxUsage c1.xlarge	3.36	3.36	Beta	Team1	BU1
i-12345	6	SavingsPlanCovered Usage	BoxUsage m5.xl	150	140	Alpha	Team3	BU2

コストカテゴリを作成すると、Cost Explorer、AWS Budgets、AWS CUR、および Cost Anomaly Detection に表示されます。Cost Explorer と AWS Budgets では、コストカテゴリが追加の請求次元として表示されます。これを使用して、特定のコストカテゴリ値でフィルタリングしたり、コストカテゴリ別にグループ化したりできます。AWS CUR では、コストカテゴリは、各行にコストカテゴリ値を含む新しい列として表示されます。コスト異常検出では、コストカテゴリをモニタータイプとして使用して、指定したコストカテゴリ値での合計コストをモニタリングできます。

注意事項

- AWS リソースに適用されるキーと値のペアであるリソースタグと同様に、コストカテゴリはすべてのコスト明細項目に適用されるキーと値のペアです。キーはコストカテゴリ名です。値はコストカテゴリ値です。前の例では、これはコストカテゴリ名 *Team* がキーであることを意味します。*Team1*、*Team2*、および *Team3* はコストカテゴリ値です。
- Cost Categories は、当月の初めから有効になります。コストカテゴリを月中旬に作成または更新すると、変更が月初からコストと使用量に自動的に適用されます。例えば、10 月 15 日にコストカテゴリのルールを更新した場合、10 月 1 日以降のコストと使用量は更新されたルールを使用します。
- コストカテゴリを作成および管理できるのは、の管理アカウント AWS Organizations または個々のアカウントのみです。
- 請求転送を使用し、請求ソースアカウントとしてサインインする場合は、のコストカテゴリを管理します AWS Organizations。コストカテゴリメタデータは、見積り Cost Explorer および で表示できます AWS Cost and Usage Report。請求書転送アカウントは、使用状況 AWS Cost and Usage Report を反映した でコストカテゴリメタデータを表示できます。請求書転送アカウントとしてサインインすると、独自のコストを分類するためにのみコストカテゴリを設定できます AWS Organizations。

トピック

- [サポートされているディメンション](#)
- [サポートされているオペレーション](#)
- [サポートされているルールの種類](#)
- [デフォルトの値](#)
- [ステータス](#)
- [クォータ](#)
- [用語の比較](#)
- [コストカテゴリを作成する](#)
- [コストカテゴリのタグ付け](#)
- [コストカテゴリを表示する](#)
- [コストカテゴリ値のダウンロード](#)
- [コストカテゴリを編集する](#)

- [コストカテゴリを削除する](#)
- [コストカテゴリ内で料金を分割する](#)
- [他のコスト管理および最適化サービスでのコストカテゴリの使用](#)

サポートされているディメンション

請求ディメンションのリストから選択して、コストカテゴリルールを作成できます。これらの請求ディメンションは、データをグループ化するために使用されます。たとえば、アカウントセットをグループ化してチームを形成するとします。アカウント請求ディメンションを選択し、チームに含めるアカウントのリストを選択する必要があります。

Note

リソースをコストカテゴリに関連付けると、一部のディメンションのサポートが制限される場合があります。詳細については、「[他のコスト管理および最適化サービスでのコストカテゴリの使用](#)」を参照してください。

次の請求ディメンションがサポートされています。

アカウント

オペレーションに応じて、AWS アカウント名またはアカウント ID を指定できます。完全一致オペレーション (is または is not) を使用している場合、アカウントはそのアカウント ID を参照します。部分一致オペレーション (starts with、ends with、または contains) を使用している場合、アカウントはアカウント名を参照します。

Charge Type (料金タイプ)

明細項目の詳細に基づく料金のタイプ。また、Cost Explorer API では RECORD_TYPE と言います。詳細については、「[用語の比較](#)」を参照してください。

コストカテゴリ

別のコストカテゴリのディメンション。コストカテゴリをディメンションとして使用すると、カテゴリのレベルを分類できます。

リージョン

がリソースを AWS ホストする地理的領域。

サービス

Amazon EC2、Amazon RDS、Amazon S3 などのAWS のサービス。

タグキー

リソースで指定されているコスト配分タグキー。詳細については、「[コスト配分タグを使用した AWS コストの整理と追跡](#)」を参照してください。

使用タイプ

使用タイプは、各サービスが特定タイプのリソースの使用量を測定するために使用する単位です。例えば、BoxUsage:t2.micro(Hrs) 使用タイプは Amazon EC2 t2.micro インスタンスの実行時間に基づいてフィルタリングします。

請求エンティティ

請求エンティティは、請求書または取引が他のサービスの購入用 AWS Marketplace であるか、他の AWS サービスの購入用であるかを識別する単位です。たとえば、AWS Marketplace 請求エンティティは、請求書またはトランザクションで購入をフィルタリングします AWS Marketplace。

サポートされているオペレーション

これらのオペレーションを使用して、コストカテゴリルールを作成するときにフィルター式を作成できます。

以下のオペレーションがサポートされています。

Is

指定されている正確な値をフィルタリングするために使用される完全一致オペレーション。

Is not

指定されていない正確な値をフィルタリングするために使用される完全一致オペレーション。

Is absent

この値に一致するタグキーを除外するために使用される完全一致オペレーション。

Contains

この値を含むテキスト文字列をフィルタリングするために使用される部分一致。この値では、大文字と小文字が区別されます。

Starts with (で始まる)

この値で始まるテキスト文字列をフィルタリングするために使用される部分一致。この値では、大文字と小文字が区別されます。

Ends with

この値で終わるテキスト文字列をフィルタリングするために使用される部分一致。この値では、大文字と小文字が区別されます。

サポートされているルールの種類

コストの分類に使用するコストカテゴリ値を定義するには、ルールタイプを使用します。

以下のルールタイプがサポートされています。

通常ルール

このルールタイプは、定義されたディメンションルールに基づいてディメンションを分類する静的に定義されたコストカテゴリ値を追加します。

継承された値

このルールタイプは、定義されたディメンション値からコストカテゴリ値を動的に継承するルールを定義する柔軟性を追加します。たとえば、特定のタグキーの値に基づいてコストを動的にグループ化するとします。継承された値のルールタイプを選択してから、Tag ディメンションを選択し、使用するタグキーを指定する必要があります。オプションで、タグキー teams を使用して、リソースにタグ付けできます。それらは、alpha、beta、および gamma のような値でタグ付けできます。次に、継承された値ルールを用いて、Tag をディメンションとして選択し、teams をタグキーとして使用することができます。これにより、alpha、beta、および gamma の動的コストカテゴリ値が生成されます。

デフォルトの値

オプションで、コストカテゴリに一致するルールがない場合は、この値を代わりに使用するよう定義できます。

ステータス

コンソールを使用して、コストカテゴリがコストおよび使用状況情報の処理を完了したかどうかのステータスを確認できます。コストカテゴリを作成または編集した後、Cost and AWS Usage Report、Cost Explorer、およびその他のコスト管理製品でコストと使用状況情報を分類するまでに最大 24 時間かかることがあります。

ステータス状態は 2 つあります。

申請済み

コストカテゴリの処理が完了し、AWS コストと使用状況レポート、Cost Explorer、およびその他のコスト管理製品の情報が新しいルールで最新の状態になっています。

Processing

コストカテゴリの更新はまだ進行中です。

クォータ

コストカテゴリクォータの詳細については、「[クォータと制限](#)」を参照してください。

用語の比較

CHARGE_TYPE は、コストカテゴリの式でサポートされているディメンションです。それは、Cost Explorer API にある RECORD_TYPE 値です。このディメンションでは、コンソールを使用しているか、API/JSON エディタを使用しているかによって、異なる用語を使用します。両方のシナリオで使用する用語の比較表を次に示します。

用語の比較

API または JSON エディタの値	コンソールで使用される名前
クレジット	クレジット
DiscountedUsage	予約が適用される使用
Fee	Fee
返金	返金

API または JSON エディタの値	コンソールで使用する名前
RIFee	定期的な予約料金
SavingsPlanCoveredUsage	Savings Plan の対象となる使用
SavingsPlanNegation	Savings Plan の否定
SavingsPlanRecurringFee	Savings Plan 定期料金
SavingsPlanUpfrontFee	Savings Plan 前払い料金
税金	税金
Usage	使用方法

コストカテゴリを作成する

コスト配分は、組織内の適切なグループに AWS クラウド コストをマッピングして割り当てるのに役立ちます。これらのコストを割り当てるには、コストカテゴリを作成します。コストカテゴリは、の管理アカウントでのみ使用できます AWS Organizations。請求転送を使用する場合、各管理アカウント (請求転送および請求ソース) は、独自のアカウントに対してのみコストカテゴリを設定できます AWS Organizations。コストカテゴリはルールで構成されます。

ルールには次の 2 つのタイプがあります。

1. コストをグループ化するルール
2. コストを分割するルール

コストをグループ化するルール

次の 1 つ以上のディメンションを使用して、コストをグループ化するルールを定義します。

- アカウント
- コスト配分タグ
- Charge Type (クレジットや返金など)
- サービス
- リージョン

- Usage Type (BoxUsage:t2.micro など)
- AWS や などの請求エンティティ AWS Marketplace

ルールは、定義された順序で評価されます。

Example例: コストをグループ化するルール

エンジニアリング部門にはプロジェクト *Alpha* とプロジェクト *Beta* があり、マーケティング部門にはプロジェクト *Gamma* があります。

すべてのリソースには、*Project:Alpha*、*Project:Beta*、*Project:Gamma* など、使用されているプロジェクト名でタグ付けされます。

Department という名前のコストカテゴリを作成して、*Marketing* 部門と *Engineering* 部門にコストを割り当てます。*Department* コストカテゴリでは、ルールを次のように定義します。

- ルール 1: コストに *Project:Alpha* または *Project:Beta* のコスト配分タグがある場合は、コストを *Department:Engineering* に割り当てます。
- ルール 2: コストに *Project:Gamma* のコスト配分タグがある場合は、そのコストを *Department:Marketing* に割り当てます。

分類されていないコストのデフォルト名を指定することもできます。この例では、タグ付けされていないリソースに関連するコストを *IT* 部門に割り当てる必要があります。

- ルール 1: コストに *Project:Alpha* または *Project:Beta* のコスト配分タグがある場合は、コストを *Department:Engineering* に割り当てます。
- ルール 2: コストに *Project:Gamma* のコスト配分タグがある場合は、そのコストを *Department:Marketing* に割り当てます。
- その他のすべてのコストについては、*Department:IT* に割り当てます。

この例では、コストカテゴリ名は *Department* です。コストカテゴリの値は、*Engineering*、*Marketing*、および *IT* です。

コストを分割するルール

1 つのコストカテゴリ値に割り当てられたコストは、他のコストカテゴリ値間で分割できます。この例では、*IT* コストを *Engineering* 部門と *Marketing* 部門の間で 70:30 の比率で分割する必要がある場合、その配分を実行する分割請求ルールを定義できます。

コストカテゴリを作成するときに、次のような追加の詳細を指定できます。

- [有効日] – コストカテゴリの開始日を設定します。デフォルトでは、この日付は現在の月に設定されます。前月を選択した場合、コストカテゴリルールはその日付から遡及的に適用されます。
- [タグ] – このコストカテゴリを編集できるユーザーへのアクセスを制御するには、コストカテゴリにタグを追加します。次に、IAM ポリシーを更新して、そのコストカテゴリへのアクセスを許可または拒否します。例えば、コストカテゴリに *Role:Administrator* タグを追加し、IAM ポリシーを更新して、そのタグを持つコストカテゴリへの特定のロールのアクセスを明示的に許可できます。

デフォルトでは、通常のアカунと の管理アカウンには、コストカテゴリを作成するためのアクセス権 AWS Organizations があります。

 Tip

コストと使用状況レポートで AWS コストデータのバックフィルをリクエストするには、サポートケースを作成します。サポートケースでは、バックフィルするレポート名と請求期間を指定します。詳細については、「[へのお問い合わせ サポート](#)」を参照してください。

以下の手順に従ってコストカテゴリを作成します。コストカテゴリを作成した後、使用状況レコードのコストカテゴリの値が更新されるまで最大 24 時間かかります。

コストカテゴリを作成するには

1. にサインイン AWS マネジメントコンソール し、<https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Cost Categories] を選択します。
3. [コストカテゴリの作成] を選択します。ルールを更新するときに、コストプレビューパネルを参照として使用できます。
4. [コストをグループ化] の横に、コストカテゴリの名前を入力します。コストカテゴリ名はアカウント内で一意にする必要があります。
5. [ルールビルダー] または [JSON エディタ] を使用して、コストカテゴリを定義します。

JSON リクエスト構文の詳細については、「AWS Billing and Cost Management API Reference」の「[Cost category](#)」セクションを参照してください。

6. [ルールビルダー] で、[ルールを追加] を選択します。

7. [ルールタイプ] を選択し、[コストをグループ化する方法を手動で定義] (通常ルール) または [コストをアカウントまたはタグごとに自動的にグループ化] (継承ルール) を選択します。
8. 通常のルールでは、コストが条件の [すべて] または [いずれか] を満たしているかどうかを選択します。
9. リストから請求の [ディメンション] を選択します。
 - a. 通常のルールタイプでは、[アカウント]、[サービス]、[料金タイプ] (##### など)、[タグキー]、[リージョン]、[使用タイプ]、[コストカテゴリ] または [請求エンティティ] を選択できます。([Cost Category] を選択して、コストカテゴリ間の階層関係を作成できます)。
 - b. 継承された値のルールタイプでは、[アカウント] または [タグキー] (コスト配分タグキー) を選択できます。
10. 通常のルールタイプでは、ドロップダウンリストから [演算子] を選択します。オプションは、[Is]、[Contains]、[Starts with]、および [Ends with] です。

 Note

[Contains]、[Starts with]、および [Ends with] は、アカウントとタグのディメンションでのみサポートされています。これらの演算子をアカウントで使用すると、エンジンはアカウント ID ではなくアカウント名と照合して評価を行います。

11. 属性セクターで、[ディメンション] のフィルタリングされた値を選択するか、独自の値を入力します。

 Note

[アカウント] ディメンションでは、継承されたコストカテゴリ値のアカウント ID ではなく、アカウント名を使用します。

12. 必要に応じて [条件を追加] を選択し、ステップ 9 から 11 を繰り返します。
13. [コストをグループ化する] に、コストカテゴリ値を入力します。
14. [ルールを作成] を選択します。
15. (オプション) デフォルト値を追加します。これは、すべての一致しないコストをこの値に分類します。
16. (オプション) ルールの順序を変更するには、矢印を使用するか、各ルールの右上にある番号を変更します。

ルールは順番に処理されます。明細項目に一致するルールが複数ある場合、照合する最初のルールを使用して、コストカテゴリ値が決定されます。

17. (オプション) ルールを削除するには、ルールを選択し、[削除] を選択します。
18. [次へ] を選択します。
19. (オプション) コストを分割するには、[分割請求を追加] を選択します。分割料金ルールの詳細については、「[コストカテゴリ内で料金を分割する](#)」を参照してください。
 - a. [分割料金の追加] を選択します。
 - b. [ソース値] の下で、コストカテゴリ値を選択します。
 - c. [ターゲット値] の下で、分割料金を配分する 1 つ以上のコストカテゴリ値を選択します。
 - d. [料金配分方法] の下で、コストを配分する方法を選択します。選択肢は、[比例]、[固定]、および [等分] です。
 - e. [固定] 料金配分では、各ターゲットコストカテゴリ値を配分するパーセント額を入力します。
 - f. 必要に応じてステップ 19 を繰り返します。
20. [次へ] を選択します。
21. (オプション) コストカテゴリルールのルックバック期間を追加するには、ルールを遡及適用する月を選択します。
22. (オプション) タグを追加するには、[Add new resource tag] (新しいリソースタグを追加) を選択し、キーと値を入力します。
23. [コストカテゴリの作成] を選択します。

コストプレビューパネルについて

コストプレビューパネルには、コストカテゴリルールを作成または更新するときに、コストがどのようにグループ化または分割されるかがリアルタイムで表示されます。コストプレビューパネルに表示される結果は、過去 1 か月の正味償却コストに基づく見積りです。

コストプレビューパネルを使用する際に留意すべき点をいくつか示します。

- ルールの条件が複雑な場合、コストプレビューの結果は正確ではない可能性があります。例えば、Contains、Starts With、Ends With 演算子で一致する値が多すぎる場合などです。

より正確な結果を得るには、ルールを保存し、コストカテゴリの詳細ページを確認してください。

- ルールが複雑すぎたり、リアルタイムで計算するのに時間がかかりすぎる場合、プレビューにはコスト内訳は表示されません。

コストカテゴリのタグ付け

コストカテゴリへのタグ付けは、コストカテゴリへのアクセスを制御するのに便利です。詳細については、IAM ユーザーガイドの「[タグを使用した AWS リソースへのアクセスの制御](#)」を参照してください。

次の手順を使用して、既存のコストカテゴリにタグを付けられます。

コストカテゴリにタグ付けするには

1. にサインイン AWS マネジメントコンソール し、<https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Cost Categories] を選択します。
3. タグ付けするコストカテゴリを選択します。
4. [Resource tags] (リソースタグ) セクションに移動します。
5. [Manage resource tags] (リソースタグを管理) を選択します。
6. [Add new resource tag] (新しいリソースタグを追加) を選択します。
7. [Key] (キー) と [Value] (値) を入力します。
8. タグを設定したら、[Save changes] (変更の保存) を選択します。

コストカテゴリを表示する

のコストカテゴリダッシュボードから AWS Billing and Cost Management、詳細ページを使用してカテゴリの詳細と値に関する包括的な情報を表示できます。このセクションでは、詳細ページに移動し、表示される値を理解し、ビューをカスタマイズしてさまざまなコストタイプを表示する方法について説明します。

トピック

- [コストカテゴリの詳細ページへ移動する](#)
- [コストカテゴリの詳細ページを理解する](#)
- [コストカテゴリの過去 1 か月の分類](#)
- [コストタイプを変更する](#)

コストカテゴリの詳細ページへ移動する

請求情報とコスト管理コンソールで任意のコストカテゴリ名を選択して、詳細ページを開くことができます。詳細ページは、コストカテゴリを追加または編集するときにも表示されます。

コストカテゴリの詳細ページを表示するには

1. にサインイン AWS マネジメントコンソール し、<https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、[コストカテゴリ] を選択します。
3. [コストカテゴリ] 列の下で、コストカテゴリ名を選択します。

コストカテゴリの詳細ページを理解する

コストカテゴリの詳細ページでは、[カテゴリの詳細] および [カテゴリ値] セクションを使用して、過去 1 か月のコスト配分の内容を示します。

- ページの右上にある [月セレクト] を使用して、表示している月を変更します。コストカテゴリ内のコストカテゴリ値コスト配分の詳細な内容を表示できます。
- [カテゴリの詳細] セクションの下で、現在の [ステータス]、[デフォルト値]、値カウント、および過去 1 か月の正味償却コストの合計を表示できます。
- [分類されたコスト] の下のグラフは、月額支出のコストカテゴリ値の配分を示します。未分類のコストは [未分類] として表示されます。

コストカテゴリの過去 1 か月の分類

[カテゴリ値] セクションでは、設定済みの各コストカテゴリ値の過去 1 か月の支出を確認できます。表示される額は、正味償却コストです。

コストをさらに調べるには、[AWS Cost Explorerで表示] を選択して Cost Explorer を開きます。

コストタイプを変更する

コストカテゴリは、さまざまなコストタイプを使用して表示することができます。以下のオプションを選択できます。

- 非ブレンドコスト

- 償却コスト
- ブレンドコスト
- 非ブレンド純コスト
- 償却純コスト

これらのコストタイプの詳細については、「AWS Cost Management User Guide」の「[Exploring your data using Cost Explorer](#)」を参照してください。

コストカテゴリのタイプを変更する

1. <https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、[コストカテゴリ] を選択します。
3. [コストカテゴリ] 列の下で、コストカテゴリ名を選択します。現在、コストカテゴリのコストタイプは一度に 1 つしか変更できません。
4. ページの右上隅にある設定アイコン
)
を選択します。
5. [コストカテゴリ設定] ダイアログボックスで、コストの集計方法を選択します。
6. [確認] を選択します。新しいコストタイプを用いてページが更新されます。

コストカテゴリ値のダウンロード

コストカテゴリダッシュボードの詳細ページから、過去 1 か月のコストカテゴリ支出のオフラインコピーをダウンロードできます。詳細ページは、コストカテゴリを作成または編集した後に表示されます。

コストカテゴリの詳細ページをダウンロードするには

1. <https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、[コストカテゴリ] を選択します。
3. [コストカテゴリ] 列の下で、コストカテゴリ名を選択します。
4. [CSVをダウンロード] を選択して、カンマ区切り値のファイルをダウンロードします。

コストカテゴリを編集する

次の手順を使用して、コストカテゴリを編集できます。コストカテゴリ名は編集できません。分割料金を使用している場合は、現時点のソース値として[未分類] コストを選択します。

コストカテゴリを編集するには

1. にサインイン AWS マネジメントコンソール し、<https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、[コストカテゴリ] を選択します。
3. 編集するコストカテゴリを選択します。
4. [Edit cost category (コストカテゴリを編集する)] を選択します。
5. 変更を前の日付から遡って適用したい場合は、パラメータの変更を適用する月を選択します。
6. パラメータを変更し、[Confirm cost category (コストカテゴリを確認する)] を選択します。

コストカテゴリを削除する

次の手順を使用して、コストカテゴリを削除できます。

コストカテゴリを削除するには

1. にサインイン AWS マネジメントコンソール し、<https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、[コストカテゴリ] を選択します。
3. 削除するコストカテゴリを選択します。
4. [Delete cost category (コストカテゴリを削除する)] を選択します。

Note

コストカテゴリの削除は、現在の請求月から有効になります。例えば、9 月 15 日に CostCategoryA を削除した場合、CostCategoryA は 9 月以降に生成されたレポートに表示されなくなります。ただし、9 月より前の期間の AWS Cost Explorer レポートに表示されます。

コストカテゴリ内で料金を分割する

分割料金ルールを使用して、コストカテゴリ値の間で料金を配分できます。分割料金は、1 人の所有者に直接帰属されていないコストがある場合に便利です。したがって、コストを 1 つのコストカテゴリ値に分類することはできません。たとえば、データ転送コスト、エンタープライズサポート、および運用コストが発生する、複数のチーム、事業部門、財務所有者が共有する一連のコストがあります。コストカテゴリを作成または編集するときに、分割料金ルールを定義できます。これらのプロセスの詳細については、「[コストカテゴリを作成する](#)」および「[コストカテゴリを編集する](#)」を参照してください。

これは、分割料金を設定するときに表示される用語のリストです。

ソース

分割する共有コストのグループ。ソースには、既存のコストカテゴリ値のいずれかを指定できます。

ターゲット

ソースによって定義された、全体でコストを分割するコストカテゴリ値。

配分方法

ソースコストをターゲット間で分割する方法。以下の方法から選択できます。

[比例] - 各ターゲットの比例加重コストに基づいて、ターゲット全体にコストを配分します。

[固定] - 定義された配分率に基づいて、ターゲット全体にコストを配分します。

[等分] - すべてのターゲット全体に等分にコストを配分します。

Note

転送請求を使用し、請求書のソースアカウントとしてサインインした場合、分割請求機能は利用できません。

前提条件

分割料金ルールを定義する前に、コストを適切なコストカテゴリ値に分類する必要があります。

Example例

値 engineering、marketing、および FinOps を用いた Business unit コストカテゴリを使用して、組織の事業部門ビューを定義します。組織は、エンジニアリングおよびマーケティングビジネスユニットをサポートする共有インフラストラクチャプラットフォームも運用しています。

この共有インフラストラクチャプラットフォームのコストをターゲットの事業部門に配分するには、適切な [\[ディメンション\]](#) を使用して、そのコストを新しいコストカテゴリ値 Infrastructure Platform に分類します。

共有コストを含むコストカテゴリ値をルールリストのトップに移動することをお勧めします。コストカテゴリルールはトップダウン順に評価されるため、共有コストは個々の事業部門が分類される前に分類されます。これらの共有コストを分類した後、各事業部門全体に分割することができます。

分割料金のベストプラクティスを理解する

分割料金を設定する手順については、「[コストカテゴリを作成する](#) ステップ 15」を参照してください。分割料金ルールを定義した後、コンソールの [\[コストカテゴリの詳細\]](#) ページで、分割および配分されたコストを表示できます。詳細ページには、各コストカテゴリ値のコストの概要が表示されます。これには、分割料金を計算する前後のコストが含まれます。詳細ページから CSV レポートをダウンロードすることもできます。

分割料金を設定する場合は、次のシナリオに注意してください。

- コストカテゴリ値は、すべての分割料金ルール全体で 1 回だけソースとして使用できます。これは、値がソースとして使用されている場合、ターゲットとして使用することはできないことを意味します。値がターゲットとして使用されている場合、ソースとして使用することはできません。値は、複数の分割料金ルールでターゲットとして使用できます。
- コストカテゴリ値が [\[継承された値\]](#) ルールから作成された際に、その値をソースまたは分割料金ターゲットとして使用する場合は、[\[コストカテゴリステータス\]](#) が [\[適用済み\]](#) に変わるまで待つ必要があります。
- 分割料金ルールと合計配分コストは、[\[コストカテゴリの詳細\]](#) ページでのみ提示されます。これらのコストは表示されず、AWS コストと使用状況レポート、Cost Explorer、その他の AWS コスト管理ツールにも影響しません。
- 1 つのコストカテゴリに対して最大 10 個の分割料金ルールを定義できます。

コストカテゴリクォータの詳細については、「[コストカテゴリ](#)」を参照してください。

他のコスト管理および最適化サービスでのコストカテゴリの使用

AWS Cost Categoriesを使用して、コストカテゴリを特定のリソースに関連付けることができます。これにより、他のコスト管理および最適化製品のグループ化メカニズムとしてコストカテゴリを使用できます。リソースを に関連付けると、双方向の関係が作成されます。つまり、 は関連するリソースによってグループ化メカニズムとして使用され、ルールが更新されると、その変更は関連するリソースおよび対応するコスト管理最適化サービスに反映されます。

リソースの関連付けの設定

リソースの関連付けは、サポートするコスト管理および最適化製品コンソールを使用して設定する必要があります。関連付けは、コストカテゴリルールで使用されるディメンションがコスト管理および最適化製品でサポートされている場合にのみ行うことができます。

リソース関連のコストカテゴリの管理

リソース関連のコストカテゴリの管理は、通常のコストカテゴリの管理と同様に機能します。ただし、関連付けられたリソースによるサポートがないため、一部の機能は制限される場合があります。

関連するコストカテゴリの作成と編集

サポートされているディメンションを使用してルールを作成することで、関連するコストカテゴリを作成または編集します。

関連するコストカテゴリの表示

に関連付けられているすべてのリソースを表示できます。請求情報とコスト管理コンソールで、サービス間のグループ化メカニズムとしてコストカテゴリがどこでどのように使用されているかを可視化できます。

コストカテゴリに関連付けられたリソースを表示するには

1. にサインイン AWS マネジメントコンソール し、<https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、[コストカテゴリ] を選択します。
3. テーブルで、関連機能タブを選択します。

関連するコストカテゴリの削除

関連付けられたリソースを持つコストカテゴリを直接削除することはできません。コストカテゴリを削除する前に、関連付けを削除する必要があります。

コスト配分タグを使用した AWS コストの整理と追跡

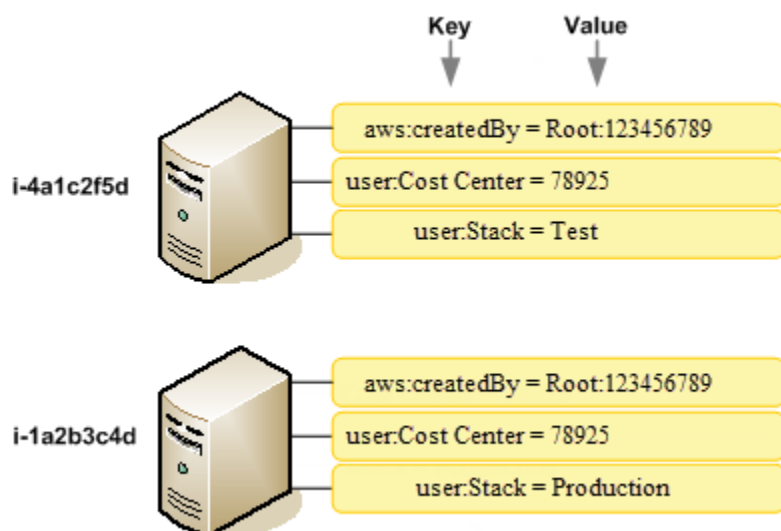
AWS 請求書に関する質問や料金の請求については、[に連絡して問い合わせ サポート にすぐに対応してください](#)。サポートが必要な場合は、「[請求書と支払いに関するサポートを受ける](#)」を参照してください。請求書ページの内容を理解するには、「[\[請求\] ページを使って月額料金と請求書を理解する](#)」を参照してください。

タグは、AWS リソース AWS に割り当てるラベルです。各タグは、キー と 値 から構成されます。タグキーはリソースごとにそれぞれ一意である必要があります。また、各タグキーに設定できる値は1つのみです。タグを使用してリソースを整理し、コスト配分タグを使用して AWS コストを詳細レベルで追跡できます。コスト配分タグを有効にすると、[はコスト配分タグ AWS を使用してコスト配分レポートのリソースコストを整理し、コストの分類と追跡を容易にします AWS](#)。

AWS には、AWSで生成されたタグとユーザー定義タグの2種類のコスト配分タグが用意されています。

AWS、または AWS Marketplace ISV は、AWS生成されたタグを定義、作成、適用し、ユーザー定義タグを定義、作成、適用します。Cost Explorer またはコスト配分レポートで使用するには、事前に両方のタイプのタグを別々にアクティブ化しておく必要があります。

以下の図に、そのコンセプトを示します。この例では、2つの Amazon EC2 インスタンスにタグ (Cost Center と Stack) を割り当ててアクティブ化しています。各タグには値が関連付けられています。これらのリソースを作成するcreatedBy前に、AWS生成されたタグもアクティブ化しました。createdBy タグは、リソースの作成者を追跡します。ユーザー定義タグは userプレフィックスを使用し、AWS生成されたタグは aws:プレフィックスを使用します。



または、AWS リソース (Amazon EC2 インスタンスや Amazon S3 バケットなど) にタグ AWS を適用し、請求情報とコスト管理コンソールでタグをアクティブ化すると、は、使用量とコストをアクティブなタグ別にグループ化したカンマ区切り値 (CSV ファイル) としてコスト配分レポート AWS を生成します。自社のカテゴリ、たとえばコストセンター、アプリケーション名、所有者を表すタグを適用すると、複数のサービスにわたってコストを分類することができます。

コスト配分レポートには、各請求期間のすべての AWS コストが含まれます。タグ付きとタグなしのどちらのリソースもこのレポートに出力されるので、リソース別の請求額を明確に分類できます。たとえば、リソースにアプリケーション名のタグを付けると、1つのアプリケーションが実行されているすべてのリソースのコスト総額がわかります。次に示すスクリーンショットは、各タグの列が表示されているレポートの一部です。

Total Cost ▾	user:Owner ▾	user:Stack ▾	user:Cost Center ▾	user:Application ▾
0.95	DbAdmin	Test	80432	Widget2
0.01	DbAdmin	Test	80432	Widget2
3.84	DbAdmin	Prod	80432	Widget2
6.00	DbAdmin	Test	78925	Widget1
234.63	SysEng	Prod	78925	Widget1
0.73	DbAdmin	Test	78925	Widget1
0.00	DbAdmin	Prod	80432	Portal
2.47	DbAdmin	Prod	78925	Portal

請求サイクルの終了時点では、コスト配分タグのある請求レポートの請求額合計 (タグ付きとタグなし) は、[\[請求書\]](#) ページの請求額の合計と同じ期間のその他の請求レポートの請求額の合計に等しくなります。

タグは、Cost Explorer の表示をフィルタリングするために使用することもできます。Cost Explorer の詳細については、「[AWS Cost Explorer によるコストの分析](#)」を参照してください。

生成されたタグのアクティブ化の詳細については、AWS「」を参照してください。[AWS生成されたタグのコスト配分タグのアクティブ化](#)。ユーザー定義タグの適用とアクティブ化については、「[ユーザー定義のコスト配分タグの使用](#)」を参照してください。すべてのタグが請求情報とコスト管理コンソールに表示されるまでに最大 24 時間かかる場合があります。

注意事項

- ベストプラクティスとして、タグには秘密情報を保存しないでください。
- 請求コンソールの [cost allocation tags] マネージャーにアクセスできるのは、組織の管理アカウントおよび組織のメンバーではない単一のアカウントのみです。
- 請求転送を使用し、請求ソースアカウントとしてサインインする場合は、 のコスト配分タグを管理します AWS Organizations。でコスト配分タグを表示できます AWS Cost and Usage Report。請求書転送アカウントは、請求書を AWS Organizations 転送 AWS Cost and Usage Report した の使用状況を示すコスト配分タグを で確認することもできます。
- タグを作成および更新するには、AWS タグエディタを使用します。Tag Editor の詳細については、「AWS リソースユーザーガイドのタグ付け」の「[Tag Editor の使用](#)」をご覧ください。

トピック

- [AWS生成されたタグの使用](#)
- [ユーザー定義のコスト配分タグの使用](#)
- [コスト配分にユーザー属性を使用する](#)
- [コスト配分にアカウントタグを使用する](#)
- [バックフィルコスト配分タグ](#)
- [毎月のコスト配分レポートの使用](#)
- [コスト配分タグの日付を理解する](#)

AWS生成されたタグの使用

AWS生成されたタグcreatedByは、コスト配分の目的でサポートされている AWS リソース AWS を定義して適用するタグです。AWS生成されたタグを使用するには、管理アカウントの所有者が

Billing and Cost Management コンソールでアクティブ化する必要があります。管理アカウントの所有者がタグをアクティブ化すると、タグはすべてのメンバーアカウントに対しても有効になります。タグがアクティブ化されると、は、AWSによって生成されたタグがアクティブ化された後に作成されたリソースへのタグの適用 AWS を開始します。AWS生成されたタグは、請求情報とコスト管理コンソールとレポートでのみ使用でき、AWS タグエディタを含む AWS コンソールの他の場所には表示されません。createdBy タグは、リソースクォータあたりのタグ数には影響しません。

aws:createdBy タグは、以下の場合にのみ入力されます AWS リージョン。

- ap-northeast-1
- ap-northeast-2
- ap-south-1
- ap-southeast-1
- ap-southeast-2
- cn-north-1
- eu-central-1
- eu-west-1
- sa-east-1
- us-east-1
- us-east-2
- us-gov-west-1
- us-west-1
- us-west-2

これらの外部で作成されたリソース AWS リージョン には、このタグが自動的に入力されません。

createdBy タグでは、次のキー値定義が使用されます。

```
key = aws:createdBy
```

```
value = account-type:account-ID or access-key:user-name or role session name
```

すべての値に、すべての値パラメーターが含まれるわけではありません。例えば、ルートアカウント用の AWS生成のタグの値には、ユーザー名がないこともあります。

account-type の有効値は、Root、IAMUser、AssumedRole、FederatedUser です。

タグに account-ID がある場合、**account-id** はリソースを作成したルートアカウントまたはフェデレーテッドユーザーのアカウント番号を追跡します。タグにアクセスキーがある場合、**access-key** は使用された IAM アクセスキーを追跡します。該当する場合はセッションロール名も追跡されます。

user-name は、ユーザー名です (使用可能な場合)。

タグ値の例を次に示します。

```
Root:1234567890
Root: 111122223333 :exampleUser
IAMUser: AIDACKCEVSQ6C2EXAMPLE :exampleUser
AssumedRole: AKIAIOSFODNN7EXAMPLE :exampleRole
FederatedUser:1234567890:exampleUser
```

IAM ユーザー、ロール、およびフェデレーションの詳細については、「[IAM ユーザーガイド](#)」を参照してください。

AWS が生成したコスト配分タグは、ベストエフォートベースで適用されます。CloudTrail など、AWS 生成されたタグが依存するサービスの問題により、タグ付けにギャップが生じる可能性があります。

createdBy タグは次のイベントの後、次のサービスおよびリソースにのみ適用されます。

AWS 製品	API イベントまたはコンソール イベント	リソースタイプ
AWS CloudFormation (CloudFormation)	CreateStack	スタック
AWS Data Pipeline (AWS Data Pipeline)	CreatePipeline	パイプライン
Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2)	CreateCustomerGateway	カスタマーゲートウェイ
	CreateDhcpOptions	DHCP オプション
	CreateImage	Image

AWS 製品	API イベントまたはコンソール イベント	リソースタイプ
	CreateInternetGateway	インターネットゲートウェイ
	CreateNetworkAcl	ネットワーク ACL
	CreateNetworkInterface	ネットワークインターフェイス
	CreateRouteTable	ルートテーブル
	CreateSecurityGroup	セキュリティグループ
	CreateSnapshot	Snapshot
	CreateSubnet	サブネット
	CreateVolume	Volume
	CreateVpc	VPC
	CreateVpcPeeringConnection	VPC ピアリング接続
	CreateVpnConnection	VPN 接続
	CreateVpnGateway	VPN ゲートウェイ
	PurchaseReservedInstancesOffering	リザーブドインスタンス
	RequestSpotInstances	スポットインスタンスのリクエスト
	RunInstances	インスタンス
Amazon ElastiCache (ElastiCache)	CreateSnapshot	Snapshot

AWS 製品	API イベントまたはコンソール イベント	リソースタイプ
AWS Elastic Beanstalk (Elastic Beanstalk)	CreateCacheCluster	クラスター
	CreateEnvironment	環境
	CreateApplication	アプリケーション
Elastic Load Balancing (Elastic Load Balancing)	CreateLoadBalancer	ロードバランサー
Amazon Glacier (Amazon Glacier)	CreateVault	ボールド
Amazon Kinesis (Kinesis)	CreateStream	ストリーム
Amazon Relational Database Service (Amazon RDS)	CreateDBInstanceReadReplica	データベース
	CreateDBParameterGroup	ParameterGroup
	CreateDBSnapshot	Snapshot
	CreateDBSubnetGroup	SubnetGroup
	CreateEventSubscription	EventSubscription
	CreateOptionGroup	OptionGroup
	PurchaseReservedDBInstancesOffering	ReservedDBInstance
	CreateDBInstance	データベース
Amazon Redshift (Amazon Redshift)	CreateClusterParameterGroup	ParameterGroup

AWS 製品	API イベントまたはコンソール イベント	リソースタイプ
	CreateClusterSnapshot	Snapshot
	CreateClusterSubnetGroup	SubnetGroup
	CreateCluster	クラスター
Amazon Route 53 (Route 53)	CreateHealthCheck	HealthCheck
	CreatedHostedZone	HostedZone
Amazon Simple Storage Service (Amazon S3)	CreateBucket	バケット
AWS Storage Gateway (Storage Gateway)	ActivateGateway	ゲートウェイ

Note

CreateDBSnapshot タグは、スナップショットのバックアップストレージには適用されません。

AWS Marketplace ベンダー提供のタグ

特定の AWS Marketplace ベンダーはタグを作成し、ソフトウェアの使用に関連付けることができます。これらのタグには、プレフィックス `aws:marketplace:isv:` があります。タグを使用するには、管理アカウントの所有者が請求情報とコスト管理コンソールでタグをアクティブ化する必要があります。管理アカウントの所有者がタグをアクティブ化すると、タグはすべてのメンバーアカウントに対しても有効になります。aws:createdBy タグと同様に、これらのタグは請求情報とコスト管理コンソールにのみ表示され、リソースクォータあたりのタグ数には影響しません。製品に適用されるタグキーは、[AWS Marketplace](#) 製品ページにあります。

AWS生成されたタグのコスト配分タグの制限

AWS生成されたタグには、次の制限が適用されます。

- AWS生成されたタグをアクティブ化できるのは管理アカウントのみです。
- AWS生成されたタグを更新、編集、または削除することはできません。
- 請求情報とコスト管理レポートのアクティブなタグキーの最大数は 500 個です。
- AWS生成のタグは CloudTrail ログを使用して作成されます。CloudTrail は、特定のサイズをログに記録する AWSと、生成されたタグの作成が失敗します。
- 予約済みのプレフィックスは aws: です。

AWSが生成したタグ名と値には、割り当てることができないaws:プレフィックスが自動的に割り当てられます。AWSが生成したタグ名は、ユーザー定義のリソースタグクォータである 50 にはカウントされません。ユーザー定義タグの名前は、user: というプレフィックスを付けてコスト配分レポートに表示されます。

- タグ値が null の場合、Cost Explorer と AWS Budgets には表示されません。null でもあるタグ値が 1 つだけの場合、タグキーは Cost Explorer または AWS Budgets にも表示されません。

AWS生成されたタグのコスト配分タグのアクティブ化

管理アカウントの所有者は、請求情報とコスト管理コンソールで AWS生成されたタグをアクティブ化できます。管理アカウントの所有者がタグをアクティブ化すると、タグはすべてのメンバーアカウントに対しても有効になります。このタグは、請求情報とコスト管理コンソールとレポートにのみ表示されます。

Note

createdBy タグは、請求情報とコスト管理コンソールでアクティブ化できます。このタグは特定の で使用できます AWS リージョン。詳細については、「[AWS生成されたタグの使用](#)」を参照してください。

AWS生成されたタグをアクティブ化するには

1. にサインイン AWS マネジメントコンソール し、<https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。

2. ナビゲーションペインで、[Cost Allocation Tags] (コスト配分タグ) を選択します。
3. [AWS-generated cost allocation tags] で、createdBy タグを選択します。
4. [アクティブ化] を選択します。タグが有効になるまでに最大 24 時間かかることがあります。

AWS生成されたタグのコスト配分タグの無効化

管理アカウントの所有者は、請求情報とコスト管理コンソールで AWS生成されたタグを非アクティブ化できます。管理アカウントの所有者がタグを非アクティブ化すると、タグはすべてのメンバーアカウントに対しても非アクティブ化されます。AWS生成されたタグを無効にすると、は新しいリソースにタグを適用 AWS しなくなります。それまでにタグ付けされたリソースのタグは、そのまま残ります。

AWS生成されたタグを無効にするには

1. にサインイン AWS マネジメントコンソール し、<https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、[Cost Allocation Tags] (コスト配分タグ) を選択します。
3. [AWS-generated cost allocation tags] で、[Deactivate] を選択します。

タグが非アクティブになるまでに最大 24 時間かかることがあります。

ユーザー定義のコスト配分タグの使用

ユーザー定義タグは、リソースを定義、作成、適用するタグです。ユーザー定義タグを作成して適用すると、請求情報とコスト管理コンソールを使用してコスト配分の追跡をアクティブ化できます。コスト配分タグは、Cost Explorer、Budgets、AWS コストと使用状況レポート、または従来のレポートを有効にした後、コンソールに表示されます。AWS のサービスをアクティブ化すると、コスト配分レポートに表示されます。その後、コスト配分レポートのタグを使用して AWS コストを追跡できます。タグは、そのタグが作成される前に作成されたリソースには適用されません。

Note

- ベストプラクティスとして、組織を移動するときにコスト配分タグを再度アクティブ化します。アカウントがメンバーとして別の組織に移動すると、そのアカウントの以前にアクティブ化されたコスト配分タグは「アクティブ」状態を失い、新しい管理アカウントによって再度アクティブ化する必要があります。

- ベストプラクティスとして、タグには秘密情報を保存しないでください。
- 請求情報とコスト管理コンソールの [cost allocation tags] マネージャーにアクセスできるのは、組織の管理アカウントおよび組織のメンバーではない単一のアカウントのみです。

ユーザー定義のコスト配分タグの適用

使いやすさと最良の結果を得るには、AWS タグエディタを使用してユーザー定義タグを作成して適用します。Tag Editor では、統一された方法で一元的にユーザー定義タグを作成および管理できます。詳細については、「[AWS リソースのタグ付け](#)」および「[タグエディタ](#)ユーザーガイド」を参照してください。

サポートされるサービスでは、API または AWS マネジメントコンソールを使用してリソースにタグを適用できます。各 AWS サービスにはタグの独自の実装があります。これらの実装を個々に使用するか、タグエディターを使用してこのプロセスを簡素化することができます。タグをサポートするサービスの完全リストについては、「[タグベースのグループでサポートされているリソース](#)」および「[リソースグループのタグ付け API リファレンス](#)」を参照してください。

Note

コスト配分タグの動作は、AWS サービスによって異なります。サポートされているサービスのコスト配分タグの動作の詳細については、サービスのドキュメントを参照してください。たとえば、Amazon ECS でのコスト配分タグの使用の詳細については、Amazon Elastic Container Service デベロッパーガイドの「[Amazon ECS リソースのタグ付け](#)」を参照してください。

作成および適用したユーザー定義タグは、コスト配分用に[アクティブ化](#)できます。コスト配分用にタグをアクティブ化する場合は、コストの整理方法に応じた一連のタグキーを設定するようお勧めします。コスト配分レポートにタグキーが列として追加され、各行の該当する値が表示されるため、タグキーのセットを一貫して使用すると、コスト追跡が容易になります。

一部のサービスは、Amazon EMR が EC2 インスタンスを起動するなど、サービスが使用する他の AWS リソースを起動します。補足サービス (EC2) でタグ付けがサポートされている場合、補足リソース (関連する Amazon EC2 インスタンスなど) にレポート用のタグを付けることができます。タグを付けることができるリソースの詳細なリストについては、Tag Editor を使用して検索してください。Tag Editor を使用してリソースを検索する方法の詳細については、「[タグ付けするリソースの検索](#)」を参照してください。

注意事項

- AWS Marketplace 明細項目は、関連付けられた Amazon EC2 インスタンスタグでタグ付けされます。
- awsApplication タグは、AWS Service Catalog AppRegistryで設定されるアプリケーションに関連付けられるすべてのリソースに自動的に追加されます。このタグはコスト配分タグとして自動的に有効化されます。自動的に有効化されたタグは、コスト配分タグのクォータにはカウントされません。詳細については、「[クォータと制限](#)」を参照してください。

ユーザー定義タグの制限

基本的なタグの制限については、Amazon EC2 ユーザーガイドの「[タグの制限](#)」を参照してください。

コスト配分のユーザー定義タグに適用されるタグは次のとおりです。

- 予約済みのプレフィックスは aws: です。

AWS生成のタグの名前と値には aws: プレフィックスが自動的に割り当てられますが、これをユーザーが割り当てることはできません。ユーザー定義タグの名前は、user: というプレフィックスを付けてコスト配分レポートに表示されます。

- 各キーは、各リソースに対して 1 回だけ使用してください。同じキーを同じリソースに対して 2 回使用しようとする、リクエストが却下されます。
- 一部のサービスでは、作成時にリソースにタグ付けすることができます。詳細については、リソースにタグ付けするサービスに関するドキュメントを参照してください。
- 「[タグの制限](#)」に一覧表示されている文字以外の文字が必要な場合は、タグに標準 Base-64 エンコーディングを適用できます。請求情報とコスト管理では自動的にタグがエンコードまたはデコードされません。
- 非従量制サービスのユーザー定義のタグを有効にできます (アカウントのタグ付けなど)。ただし、それらのサービスは従量制ではないため、これらのタグはコスト管理スイートでは設定されません。

ユーザー定義のコスト配分タグのアクティブ化

請求レポートにタグを表示するには、タグをアクティブ化する必要があります。ユーザー定義のコスト配分タグはタグキーを表し、請求情報とコスト管理コンソールで有効にします。タグキーをアクティブ化または非アクティブ化すると、同じタグキーを共有するすべてのタグ値に影響します。タグキーには複数のタグ値を設定できます。UpdateCostAllocationTagsStatus API オペレーションを使用しても、タグを設定できます。詳細については、「[APIリファレンスAWS Billing and Cost Management](#)」を参照してください。

タグキーをアクティブ化するには

1. にサインイン AWS マネジメントコンソール し、<https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、[Cost Allocation Tags] (コスト配分タグ) を選択します。
3. アクティブ化するタグキーを選択します。
4. [アクティブ化] を選択します。

ユーザー定義のタグを作成してリソースに適用した後、アクティブ化のためにタグキーがコスト配分タグページに表示されるまでに最大で 24 時間かかる場合があります。タグキーがアクティブ化されるまでに最大 24 時間かかることがあります。

コスト配分タグのある請求レポートでのタグキーの表示例については、「[コスト配分レポートの表示](#)」を参照してください。

awsApplication タグについて

awsApplication タグは、 がセットアップされているアプリケーションに関連付けられているすべてのリソースに自動的に追加されます AWS Service Catalog AppRegistry。このタグはコスト配分タグとして自動的に有効化されます。このタグを使用して、アプリケーションとそのリソースのコスト傾向を分析します。

awsApplication タグは無効化できますが、アプリケーションのコストレポートに影響します。タグを非アクティブ化した場合、再び自動的にアクティブ化されることはありません。タグを手動で有効化するには、請求コンソールまたは [UpdateCostAllocationTagsStatus](#) API オペレーションを使用します。

awsApplication タグは、コスト配分タグのクォータにはカウントされません。コスト配分タグのクォータと制限の詳細については、[クォータと制限](#) を参照してください。AppRegistry について詳しくは、「[AWS Service Catalog AppRegistry 管理者ガイド](#)」を参照してください。

コスト配分にユーザー属性を使用する

概要:

AWS は、Amazon Q Business、Amazon Q Developer、Amazon QuickSight のユーザー属性に基づくコスト配分をサポートします。この機能を使用すると、組織はコストセンター、部門、組織、部門などの既存のワークフォースユーザー属性を使用して、内部組織構造に従ってコストを自動的に追跡して割り当てることができます。

ユーザーベースのコスト配分の仕組み

コスト配分のためにユーザー属性を有効にすると、従業員がユーザーごとに課金する AWS アプリケーションを使用すると、その使用状況と関連するコストが組織の属性に自動的に記録されます。これにより、手動のコスト配分プロセスが不要になり、さまざまなチームや部門が AWS コストをどのように推進しているかを正確に把握できます。

主な利点

コスト配分のためにユーザー属性を有効にすると、使用状況を内部組織構造にマッピングできます。ユーザー属性を使用して、どのチーム、部門、またはコストセンターが AWS サービスをどのくらいの割合で消費しているかを確認し、リソースの割り当て、予算計画、最適化の機会に関するデータ駆動型の意思決定を行うことができます。これには、サブスクリプションベースの料金と機能固有の超過料金が含まれます。これにより、組織は AWS アプリケーションのコストと使用状況を完全に把握できます。Cost Explorer や AWS Cost and Usage Reports (CUR2.0 および FOCUS) などの既存のコスト管理ツールで動作し、コスト分析のためにこの新しいディメンションにアクセスできます。

前提条件

コスト配分にユーザー属性を使用する前に、以下があることを確認してください。

- AWS Organizations 一括請求を使用する管理アカウント
- IAM Identity Center: AWS アプリケーションへのワークフォースアクセスの設定と管理
- ID プロバイダー (IdP) の統合: Microsoft Entra ID、Okta、またはサポートされている別の IdP への接続

- ユーザー属性: ID システムのコストセンター、部門、組織、または部門の属性
- アクセス許可: IAM Identity Center および Billing and Cost Management コンソールへのアクセス

コスト配分用のユーザー属性の設定

ステップ 1: IAM Identity Center でユーザー属性をインポートする

1. ID プロバイダーとの次回の同期中に、これらの属性をインポートします。属性は、新規ユーザーと既存のユーザーの両方にインポートされます。インポートプロセスは通常 24 時間以内に完了します。ユーザー属性のマッピングの詳細については、[「IAM アイデンティティセンターと外部 ID プロバイダーディレクトリ間の属性マッピング」](#) および [「自動プロビジョニングを有効にする」](#) を参照してください。

Note

ユーザーベースのコスト配分を有効にすると、IAM Identity Center AWS に保存されているユーザー属性は、Cost and Usage Report 2.0 や Cost Explorer などの AWS コスト管理製品のユーザー属性コスト配分タグとして含まれます。このようなタグはコンテンツを構成するものではないため、機密情報、機密情報、個人を特定できる情報は含めないことをお勧めします。

ステップ 2: コスト配分のユーザー属性を選択する

1. <https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS マネジメントコンソールを開きます。
2. 左側のパネルの「設定」と「設定」で、「コスト管理の設定」を選択します。
3. コスト管理設定ページで、コスト配分セクションのユーザー属性を見つけます。
4. 使用可能なオプションから最大 4 つの属性を選択します。コストセンター、部門、組織、部門です。
5. [Save changes] (変更の保存) をクリックします。これらの属性は、コスト配分タグとして自動的にアクティブ化されます。

ステップ 3: セットアップを確認する

1. IAM Identity Center 設定に戻り、選択した属性が「Imported」と表示されることを確認します。ユーザーの属性データが入力されていることを確認します。
2. Billing and Cost Management コンソールの Cost Organization で、Cost Allocation Tags を選択します。タグが「アクティブ」と表示されることを確認します。

コストと使用状況レポートでのユーザー属性の表示

セットアップが完了すると、ユーザー属性は、他のコスト配分タグとともにコストと使用状況レポート 2.0 (CUR 2.0) に表示されます。CUR 2.0 でコストデータを表示する場合、異なるソース (リソース、ユーザー属性、アカウント、コストカテゴリ) からのタグはプレフィックスで区別され、複数のコンテキストで同じタグキーを使用する場合の競合を防ぎます。タグプレフィックスの仕組みと重複するタグキーの例の詳細については、[CUR 2.0 Tags Column ドキュメント](#)を参照してください。

コスト配分にアカウントタグを使用する

概要:

AWS は、AWS Organizations のアカウントタグに基づくコスト配分をサポートします。この機能を使用すると、組織はビジネスユニット、コストセンター、プロジェクト、環境などのアカウントレベルのタグを使用して、内部組織構造に従ってコストを自動的に追跡して割り当てることができます。アカウントタグはアカウントレベルで動作し、タグ付けされたアカウント内のすべての従量制使用量に自動的に適用されます。コスト配分を有効にすると、これらのタグは組織全体のコストを可視化し、リソースレベルのタグと連携して包括的なコスト配分戦略を実現します。

アカウントベースのコスト配分の仕組み

組織内の AWS アカウントにタグを適用すると、それらのタグはそのアカウントの使用量と関連コストで自動的に記録されます。タグ付けされたアカウント内のすべてのリソースと使用状況は、アカウントレベルのタグを継承し、アカウントレベルでの手動コスト配分プロセスを緩和します。

主な利点

コスト配分マップの使用に関するアカウントタグは、アカウントレベルで内部組織構造にマッピングされます。どのビジネスユニット、プロジェクト、または環境が AWS サービスと関連コストを消費しているかを確認できます。これにより、リソースの割り当て、予算計画、最適化の機会に関する

データ主導型の意思決定が可能になります。アカウントタグを使用すると、リソースレベルでタグ付けできない返金、クレジット、特定のサービス料金など、タグ付け不可能なリソースとアカウント内のコストのコスト配分が可能になります。アカウントタグにより、これらのコストが組織構造に適切に配分され、コストレポートのコスト配分カバレッジが向上します。アカウントタグは AWS、Cost Explorer やコストと使用状況レポート (CUR2.0 および FOCUS) などの既存のコスト管理ツールと統合され、コスト分析のためにこの新しいディメンションにアクセスできます。アカウントタグを有効にすると、リソースタグの機能と同様に、AWS 予算、Cost Categories、コスト異常検出などのコスト AWS 管理製品でも機能し、コスト管理ワークフロー全体で一貫したコスト追跡と分析が可能になります。

前提条件

コスト配分にアカウントタグを使用する前に、以下があることを確認してください。

- AWS Organizations 一括請求を使用する管理アカウント
- アカウントタグ: AWS Organizations のアカウントに適用されるタグ
- アクセス許可: AWS Organizations および Billing and Cost Management コンソールへのアクセス

コスト配分用のアカウントタグの設定

ステップ 1: AWS Organizations でアカウントタグを適用する

Note

ベストプラクティスとして、タグキーに「accountTag」キーワードを使用しないでください。このプレフィックスは、コスト配分レポートのアカウントタグ AWS に対して によって自動的に追加されるためです。

1. AWS Organizations コンソールに移動する
2. タグを付けるアカウントを選択する
3. 組織構造を表すタグを適用する (ビジネスユニット、コストセンター、プロジェクト、環境など)

ステップ 2: コスト配分のアカウントタグをアクティブ化し、セットアップを検証する

1. <https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で Billing and Cost Management コンソールを開きます。

2. 左側のナビゲーションペインの Cost Organization で、Cost Allocation Tags を選択します。
3. アカウントタグのフィルタリング
4. アクティブ化するアカウントタグを検索して選択する
5. [Activate] を選択してください。
6. タグが「アクティブ」と表示されることを確認する
7. タグのアクティベーションステータスが「アクティブ」に変わるまでに最大 24 時間かかる場合があります。

コストと使用状況レポートでのアカウントタグの表示

セットアップが完了すると、アカウントタグは、他のコスト配分タグとともにコストと使用状況レポート 2.0 (CUR 2.0) に表示されます。CUR 2.0 でコストデータを表示する場合、異なるソース (リソース、ユーザー属性、アカウント、コストカテゴリ) からのタグはプレフィックスで区別され、複数のコンテキストで同じタグキーを使用する場合の競合を防ぎます。タグプレフィックスの仕組みと重複するタグキーの例の詳細については、[CUR 2.0 Tags Column ドキュメント](#)を参照してください。

バックフィルコスト配分タグ

管理アカウントのユーザーは、最大 12 か月間、コスト配分タグのバックフィルをリクエストできます。バックフィルをリクエストすると、タグの現在のアクティベーションステータスは、選択した期間にわたってバックフィルされます。

例えば、Project タグは 2023 年 6 月に AWS リソースに関連付けられ、2023 年 11 月にアクティブ化されました。2023 年 12 月、2023 年 1 月からタグのバックフィルをリクエストします。その結果、Project タグは 2023 年 1 月から 12 月までの過去の月にさかのぼってアクティブ化されます。Project タグに関連付けられたタグ値は、2023 年 6 月から 2023 年 12 月までのコストデータで使用できます。ただし、2023 年 1 月から 2023 年 5 月の間は、タグが AWS リソースに存在しなかったため、Project タグ値は関連付けられません。

バックフィルを使用して、アライメントのためにタグを非アクティブ化することもできます。例えば、過去の月に Team タグがアクティブでしたが、現在は inactive ステータスに設定されているとします。バックフィルすると、Team タグは非アクティブ化され、過去の月のコストデータから削除されます。

 Note

- リソースタグは、バックフィルされたコストデータを利用できるように AWS、リソースに履歴的に割り当てる必要があります。
- バックフィルが進行中の場合は、新しいバックフィルリクエストを送信できません。
- 新しいバックフィルリクエストは 24 時間に 1 回のみ送信できます。

コスト配分タグのバックフィルをリクエストするには

1. にサインイン AWS マネジメントコンソール し、<https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、[Cost Allocation Tags] (コスト配分タグ) を選択します。
3. ページの右上で、[バックフィルタグ] を選択します。
4. [バックフィルタグ] ダイアログボックスで、バックフィルを開始する月を選択します。
5. [確認] を選択します。

バックフィルによる AWS コスト管理サービスの更新

バックフィルは Cost Explorer、データエクスポート、および AWS Cost and Usage Report を自動的に更新します。これらのサービスは 24 時間に 1 回データを更新するため、バックフィルは成功してもすぐには更新されません。詳細については、対応するガイドの次のリソースを参照してください。

- 「AWS Cost Management ユーザーガイド」の「[Analyzing your costs with Cost Explorer](#)」
- 「AWS Data Exports ユーザーガイド」の「[What is Data Exports?](#)」

毎月のコスト配分レポートの使用

月別コスト配分レポートには、製品カテゴリ別および連結アカウントユーザー別のアカウントの AWS 使用状況が一覧表示されます。このレポートには、詳細な [AWS Cost and Usage Report](#) と同じ明細項目、およびタグキーの追加列が含まれます。AWS Cost and Usage Report 代わりにを使用することをお勧めします。

月次配分レポートの詳細については、次のトピックを参照してください。

トピック

- [月別コスト配分レポートの設定](#)
- [時間別コスト配分レポートの取得](#)
- [コスト配分レポートの表示](#)

月別コスト配分レポートの設定

デフォルトでは、API または を使用して追加した新しいタグキー AWS マネジメントコンソール は、コスト配分レポートから自動的に除外されます。このトピックに記載されている手順を使用してこれらを追加できます。

タグキーをコスト配分レポートに表示することを選ぶと、キーごとに 1 列追加され、対応する明細項目の値が表示されます。コスト配分レポートの元来の目的以外で他のタグを利用する可能性があるため (セキュリティまたは運用上の理由から追加するタグなど)、タグキーは個別にレポートに含めたり除外したりすることができます。このため、コストの整理に役立つ意味のある請求書情報が表示されるようになります。少数のタグキーを一貫して使用すると、コストの追跡がより容易になります。詳細については、「[コスト配分レポートの表示](#)」を参照してください。

Note

AWS は、作成して所有する Amazon S3 バケットに請求レポートを保存します。これらのレポートは、Amazon S3 API、Amazon S3 AWS マネジメントコンソール 用 Amazon S3 を使用してバケットから取得できます AWS Command Line Interface。コスト配分レポートは、請求情報とコスト管理コンソールの [[アカウントアクティビティ](#)] ページからはダウンロードできません。

コスト配分レポートを設定し、タグをアクティブ化するには

1. にサインイン AWS マネジメントコンソール し、<https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. [請求明細レポート (レガシー)] で [編集] を選択し、次に [S3 へのレガシーレポート配信] を選択します。
3. [S3 バケットをアクティブ化する] を選択し、レポートの配信先を指定します。
4. [S3 バケットの設定] ダイアログボックスで、次のいずれかを選択します。
 - 既存の S3 バケットを使用するときは、[既存の S3 バケットを使用] を選択して、S3 バケットを選択します。

- 新しい S3 バケットを作成するときは、[新しい S3 バケットを作成] を選択し、[S3 バケット名] に名前を入力して、[リージョン] を選択します。
5. [次へ] を選択します。
 6. デフォルトの IAM ポリシーを読み、[このポリシーが正しいことを確認しました] を選択します。
 7. [保存] を選択します。
 8. [レポート] リストで、[コスト割り当てレポート] のチェックボックスを選択して [有効化] を選択します。
 9. [レポートタグの管理] を選択します。

このページには、API または該当する AWS のサービスのコンソールを使用して作成したタグのリストが表示されます。現在レポートに表示されているタグキーが選択されています。除外されているタグキーは選択されていません。

10. ドロップダウンリストで [非アクティブ] のタグをフィルタリングして、レポートで有効にするタグを選択できます。
11. [アクティブ化] を選択します。

組織内で管理アカウントを所有している場合、コスト配分レポートには、メンバーアカウントのすべての使用量、コスト、タグが含まれます。デフォルトでは、メンバーアカウントで登録されたすべてのキーが表示され、レポートに表示するか除外するかを指定できます。リソースとタグを含む請求明細レポートには、前のステップを使用して選択するコスト配分タグキーも含まれます。

時間別コスト配分レポートの取得

コスト配分レポートは、1 日に数回 Amazon AWS S3 バケットに発行するいくつかのレポートの 1 つです。Amazon S3

Note

現在の請求期間中 (毎月)、は推定コスト配分レポート AWS を生成します。その月のファイルは、請求期間が終了するまでの間、繰り返し上書きされ、請求期間終了時に最終的なレポートが生成されます。その後で、次の請求期間の新しいファイルが作成されます。過去の月のレポートは、指定された Amazon S3 バケットに残ります。

コスト配分レポートの表示

次の例は、さまざまなコストセンターとアプリケーションの請求額を追跡するためのものです。リソース (Amazon EC2 インスタンスや Amazon S3 バケットなど) には、"Cost Center"="78925" や "Application"="Widget1" のようなタグが割り当てられています。コスト配分レポートでは、ユーザー定義のタグキーにはプレフィックスがありuser、たとえば user:Cost Center. user:Application AWSで生成されたタグキーにはプレフィックスがありますaws。キーは列見出しとして表示され、その下にタグ付きの明細項目の値 (たとえば 78925) が表示されます。

Total Cost ▾	user:Owner ▾	user:Stack ▾	user:Cost Center ▾	user:Application ▾
0.95	DbAdmin	Test	80432	Widget2
0.01	DbAdmin	Test	80432	Widget2
3.84	DbAdmin	Prod	80432	Widget2
6.00	DbAdmin	Test	78925	Widget1
234.63	SysEng	Prod	78925	Widget1
0.73	DbAdmin	Test	78925	Widget1
0.00	DbAdmin	Prod	80432	Portal
2.47	DbAdmin	Prod	78925	Portal

キーを選択するときは、値の階層が統一されるように注意して選択してください。そのようになっていない場合は、レポートのコストが効果的にグループ化されず、多数の明細項目が出力されます。

Note

請求期間の途中でリソースのタグを追加または変更した場合は、コストが分割され、2つの明細項目としてコスト配分レポートに表示されます。1行目は更新前のコストを示し、2行目は更新後のコストを示します。

レポート内の未配分リソース

コスト配分レポートの中に、タグでグループ化できない請求額がある場合は、デフォルトでは標準の請求額集計方法が適用され (アカウント/製品/明細項目で分類)、レポートに表示されます。未配分のコストが発生する状況としては、次のようなものがあります。

- 月の途中でコスト配分レポートにサインアップした。
- 一部のリソースに、請求期間の一時期または全体にわたってタグが付けられていなかった。
- 使用しているサービスが現時点ではタグをサポートしていない。
- AWS サポート や AWS Marketplace 月額料金などのサブスクリプションベースの料金は配分できません。

- 1 回だけ支払う料金 (たとえば Amazon EC2 リザーブドインスタンスの前払い料金) は配分できません。

タグ付けされたリソースに関連する想定外のコスト

コスト配分タグを使用して、使用量およびコストの割合が高いリソースを確認できますが、リソースを削除または非アクティブ化すれば、必ずしもコストが削減できるとは限りません。予想外のコストの削減に関する詳細については、「[予期しない請求について](#)」を参照してください。

コスト配分タグの日付を理解する

前提条件

AWS Billing and Cost Management コンソールの [コスト配分タグ] のページでこれらの日付を確認するには、`ce:ListCostAllocationTags` のアクセス許可が必要です。AWS Identity and Access Management (IAM) ポリシーの更新の詳細については、「」を参照してください [アクセス許可の管理](#)。

コスト配分タグを使用する場合、次のメタデータフィールドを使用して、タグが最後に使用された日または最後に更新された日を確認できます。

- [最終更新日] — コスト配分のためにタグキーがアクティブ化または非アクティブ化された最後の日付。

例えば、タグキー `lambda:createdby` が 2023 年 7 月 1 日に非アクティブからアクティブに変更されたとします。この場合、[最終更新日] の列には 2023 年 7 月 1 日が表示されます。

- 最終使用月 – AWS リソースでタグキーが使用された最後の月。

例えば、タグキー `lambda:createdby` が最後に使用されたのが 2023 年 4 月であるとして。この場合、[最終使用月] の列には 2023 年 4 月が表示されます。これは、その日付以降、タグキーはどのリソースにも関連付けされていないことを意味します。

注意事項

- [最終更新日] の列には、新しく作成されたタグキーがアクティブ化されていない場合、何も表示されません。

- 最後に使用された月の列には、現在どのリソースにも関連付けられていないタグキーの - が表示されます。

を使用して AWS のサービス と を呼び出す AWS の料金表

に関するフィードバックを提供するには AWS の料金表、この[簡単なアンケート](#)に回答してください。回答者は匿名になります。注: このアンケートは英語にのみ対応しています。

AWS の料金表 は、購入 AWS のサービス できる の製品と価格のカタログを提供します AWS。

このカタログには、からの永続的な無料オファーが含まれています AWS 無料利用枠。これには、定期的に更新され、恒久的に利用できる使用量ベースの無料利用枠オファーが含まれます。このカタログには、アカウントがアクティブであった期間に基づいて有効期限が切れる、期限付きの無料利用枠オファーは含まれていません。無料利用枠の詳細については、「[を使用してサービスを試す AWS 無料利用枠 \(2025 年 7 月 15 日より前\)](#)」を参照してください。また、このカタログには、Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) スポットインスタンスは含まれていません。Amazon EC2 スポットインスタンスの詳細については、「[Amazon EC2 スポットインスタンス](#)」を参照してください。

詳細については、以下の各トピックを参照してください。

- [AWS Billing and Cost Management API リファレンス](#)
- [言語固有の AWS SDKs](#)
- [Amazon Web Services のツール](#)

概要:

の使用に役立つ主な概念 AWS の料金表は次のとおりです。

サービス

例えば AWS のサービス、Amazon EC2や Savings Plans などの : Amazon EC2 の Savings Plansは AWSComputeSavingsPlanであるか、限定された AWS Marketplace サービスを表すサービスです。例えば、ですAmazonBedrockFoundationModels。

製品

AWS のサービスが販売するエンティティ。料金表ファイルでは、製品は固有の在庫保持単位 (SKU) によってインデックス付けされます。

属性

製品に関連するプロパティ。このプロパティは `AttributeName` と `AttributeValue` から構成されます。製品には複数の属性があります。各属性には `AttributeName` が 1 つと該当する `AttributeValues` のリストがあります。

次の AWS の料金表 APIs を使用できます。

[AWS Price List クエリ API](#)

この API は、プログラムで AWS のサービス、製品、および料金情報のクエリを一元的に便利に行うことができます。

Price List Service API は、製品属性を使用して、SKU レベルの料金を取得できます。この API を使用して、コスト管理ツールとシナリオ計画ツールの構築、請求データの照合、予算編成のための将来の支出の予測、内部ワークロードと を比較する費用対効果分析を提供します AWS。

Note

Price List Query API は Savings Plans の料金をサポートしていません。

[AWS Price List Bulk API](#)

この API は、料金表ファイルを使用して、現在の AWS のサービス と製品の up-to-date 料金情報をプログラムで一括で取得する方法を提供します。料金表ファイルは JSON 形式と CSV 形式で提供されています。料金表ファイルは、AWS のサービス と AWS リージョンで構成されています。

Note

Price List Query API および Price List Bulk API で取得された料金詳細情報は、情報提供のみを目的としています。料金表ファイルとサービス料金ページの間に不一致がある場合、AWS はサービス料金ページに表示されている料金を請求します。

AWS のサービス 料金の詳細については、[AWS 「料金表」](#) を参照してください。

AWS の料金表 APIs を呼び出すには、任意のプログラミング言語をサポートする AWS SDK を使用することをお勧めします。AWS SDKs を使用すると、時間を節約し、リクエストの署名プロセスを

簡素化できます。AWS SDKs を開発環境と統合し、関連するコマンドにアクセスすることもできます。

の開始方法 AWS の料金表

IAM アクセス許可

ユーザーやロールなどの AWS Identity and Access Management (IAM) ID には、Price List Query API または Price List Bulk API を使用するためのアクセス許可が必要です。アクセスを許可するには、「[製品と価格の検索](#)」を参照してください。

エンドポイント

Price List Query API および Price List Bulk API には、次のエンドポイントが用意されています。

- <https://api.pricing.us-east-1.amazonaws.com>
- <https://api.pricing.eu-central-1.amazonaws.com>
- <https://api.pricing.ap-south-1.amazonaws.com>

AWS リージョン は Price List Query API の API エンドポイントです。エンドポイントは製品やサービスの属性とは関係ありません。

Price List Query API または Price List Bulk API を呼び出す場合は、以下の例を参照してください。

Java

次の例では、*region_name* を指定し、それを使用して PricingClient を作成します。

```
public class Main {
    public static void main(String[] args) {

        // Create pricing client
        PricingClient client = PricingClient.builder()
            .region(Region.US_EAST_1)// or Region.AP_SOUTH_1
            .credentialsProvider(DefaultCredentialsProvider.builder().build())
            .build();

    }
}
```

AWS Command Line Interface

次のコマンドでリージョンを指定します。

```
aws pricing describe-services --region us-east-1
```

クォータ

「クォータと制限」ページの「[AWS の料金表](#)」を参照してください。

Service Quotas の詳細については、「AWS 全般のリファレンス」の「[AWS のサービス quotas](#)」を参照してください。

AWS Price List Query API を使用したサービスと製品の検索

に関するフィードバックを提供するには AWS の料金表、この[簡単なアンケート](#)に回答してください。回答者は匿名になります。注: このアンケートは英語にのみ対応しています。

次のような場合は、Price List Query API を使用することをお勧めします。

- 製品の料金情報を検索する。
- フィルタに一致する製品と料金を検索する。
- フロントエンド環境など、リソースが限られているアプリケーションを開発している場合に必要な製品および料金を迅速に見つける。

製品 AWS のサービス、製品の属性と料金を確認するには、次のステップを参照してください。

ステップ 1: 利用可能な検出結果 AWS のサービス

サービスを見つけたら、DescribeServices API オペレーションを使用してその属性を取得できます。サービスコードがわかっている場合は、AWS Price List Query API を使用してサービスの属性を取得することもできます。次に、サービス属性を使用して、属性値に基づいて要件を満たす製品を検索できます。

例: サービスの検索

次の AWS Command Line Interface (AWS CLI) コマンドは、 サービスを検索する方法を示しています。

Example例: すべてのサービスの検索

```
aws pricing describe-services --region us-east-1
```

レスポンス

```
{
  "FormatVersion": "aws_v1",
  "NextToken": "abcdefg123",
  "Services": [
    {
      "AttributeNames": [
        "volumeType",
        "maxIopsvolume",
        "instanceCapacity10xlarge",
        "locationType",
        "operation"
      ],
      "ServiceCode": "AmazonEC2"
    },
    {
      "AttributeNames": [
        "productFamily",
        "volumeType",
        "engineCode",
        "memory"
      ],
      "ServiceCode": "AmazonRDS"
    },
    {...}
  ]
}
```

Example例: Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) のサービスメタデータの検索

次のコマンドは、 Amazon EC2 のサービスメタデータを検索する方法を示しています。

```
aws pricing describe-services --region us-east-1 --service-code AmazonEC2
```

レスポンス

```
{
  "FormatVersion": "aws_v1",
  "NextToken": "abcdefg123",
  "Services": [
    {
      "AttributeNames": [
        "productFamily",
        "volumeType",
        "engineCode",
        "memory"
      ],
      "ServiceCode": "AmazonEC2"
    }
  ]
}
```

AWS リージョン は Price List Query API の API エンドポイントです。エンドポイントは製品やサービスの属性とは関係ありません。

詳細については、「AWS Billing and Cost Management API リファレンス」の「[DescribeServices](#)」を参照してください。

ステップ 2: 属性に使用可能な値の検索

[ステップ 1](#) では、AWS のサービスの属性リストを取得しました。このステップでは、これらの属性を使用して製品を検索します。ステップ 3 では、これらの属性に使用可能な値が必要です。

属性の値を見つけるには、GetAttributeValues API オペレーションを使用します。API を呼び出すには、AttributeName および ServiceCode パラメータを指定します。

例: 属性値の取得

次の AWS Command Line Interface (AWS CLI) コマンドは、 の属性値を取得する方法を示しています AWS のサービス。

Example例: Amazon Relational Database Service (Amazon RDS) の属性値の検索

```
aws pricing get-attribute-values --service-code AmazonRDS --attribute-name operation --region us-east-1
```

レスポンス

```
{
  "AttributeValues": [
    {
      "Value": "CreateDBInstance:0002"
    },
    {
      "Value": "CreateDBInstance:0003"
    },
    {
      "Value": "CreateDBInstance:0004"
    },
    {
      "Value": "CreateDBInstance:0005"
    }
  ],
  "NextToken": "abcdefg123"
}
```

AWS リージョン は Price List Query API の API エンドポイントです。エンドポイントは製品やサービスの属性とは関係ありません。

詳細については、AWS Billing and Cost Management API リファレンスの[GetAttributeValues](#)「」および[AWS SDKs](#)」を参照してください。

ステップ 3: 属性からの製品の検索

このステップでは、[ステップ 1](#) と [ステップ 2](#) の情報を使用して製品とその条件を検索します。製品に関する情報を取得するには、GetProducts API オペレーションを使用します。フィルタのリストを指定して、必要な製品を返すことができます。

Note

Price List Query API がサポートしているのは "AND" 一致のみです。コマンドのレスポンスには、指定したすべてのフィルタに一致する製品のみが含まれます。

例: 属性からの製品の検索

次の AWS Command Line Interface (AWS CLI) コマンドは、属性を使用して製品を検索する方法を示しています。

Example例: フィルタを指定した製品の検索

次のコマンドは、Amazon Relational Database Service (Amazon RDS) のフィルタを指定する方法を示しています。

```
aws pricing get-products --service-code AmazonRDS --region us-east-1 --filters
Type=TERM_MATCH,Field=operation,Value="CreateDBInstance:0002"
```

レスポンス

```
{
  "FormatVersion": "aws_v1",
  "PriceList": [{"
    \product\":{
      \productFamily\": \"Database Instance\",
      \attributes\":{
        \engineCode\": \"2\",
        \enhancedNetworkingSupported\": \"Yes\",
        \memory\": \"64 GiB\",
        \dedicatedEbsThroughput\": \"2000 Mbps\",
        \vcpu\": \"16\",
        \locationType\": \"AWS Region\",
        \storage\": \"EBS Only\",
        \instanceFamily\": \"General purpose\",
        \regionCode\": \"us-east-1\",
        \operation\": \"CreateDBInstance:0002\",
        ...
      },
      \sku\": \"22ANV4NNQP3UUCWY\",
      \serviceCode\": \"AmazonRDS\",
      \terms\": {...}
    },
  ],
  "NextToken": "abcd1234"
}
```

Example例: filters.json ファイルを使用したフィルタの指定

次のコマンドは、すべてのフィルタを記載した JSON ファイルを指定する方法を示しています。

```
aws pricing get-products --service-code AmazonRDS --region us-east-1 --filters file://filters.json
```

例えば、filters.json ファイルには以下のフィルタが含まれる場合があります。

```
[
  {
    "Type": "TERM_MATCH",
    "Field": "operation",
    "Value": "CreateDBInstance:0002"
  }
]
```

次の例は、複数のフィルタを指定する方法を示しています。

```
[
  {
    "Type": "TERM_MATCH",
    "Field": "AttributeName1",
    "Value": "AttributeValue1"
  },
  {
    "Type": "TERM_MATCH",
    "Field": "AttributeName2",
    "Value": "AttributeValue2"
  },
  ...
]
```

レスポンス

```
{
  "FormatVersion": "aws_v1",
  "PriceList": [{"
    \product\":{
      \productFamily\": \"Database Instance\",
      \attributes\":{
        \engineCode\": \"2\",
        \enhancedNetworkingSupported\": \"Yes\",
        \memory\": \"64 GiB\",
        \dedicatedEbsThroughput\": \"2000 Mbps\",
```

```
        \"vcpu\": \"16\",
        \"locationType\": \"AWS Region\",
        \"storage\": \"EBS Only\",
        \"instanceFamily\": \"General purpose\",
        \"regionCode\": \"us-east-1\",
        \"operation\": \"CreateDBInstance:0002\",
        ...
    },
    \"sku\": \"22ANV4NNQP3UUCWY\",
    \"serviceCode\": \"AmazonRDS\",
    \"terms\": {...}
],
\"NextToken\": \"abcd1234\"
}
```

詳細については、以下の各トピックを参照してください。

- [GetProducts](#) AWS Billing and Cost Management API [リファレンスの および言語固有の AWS SDKs](#)
- [サービス料金表ファイルの読み取り](#)
- [サービス料金表ファイルでの料金の確認](#)

Price List Bulk API を使用した AWS 料金表ファイルの取得

に関するフィードバックを提供するには AWS の料金表、この[簡単なアンケート](#)に回答してください。回答者は匿名になります。注: このアンケートは英語にのみ対応しています。

以下のタスクを実行する場合は、Price List Bulk API を使用することをお勧めします。

- AWS のサービスの製品情報や料金情報を大量に処理する。
- 一括処理など、AWS のサービスで高スループットで製品および料金情報を処理する。

また、Price List Query API ではユースケースに十分なスループットとクォータが得られない場合も、Price List Bulk API を使用します。

AWS Price List Bulk API を使用して、プログラムで料金表ファイルを検索およびダウンロードすることをお勧めします。料金表ファイルの URL を取得するには、次の手順を参照してください。

AWS Price List Bulk API を使用しない場合は、料金表ファイルを手動でダウンロードできます。詳細については、「[料金表ファイルの手動取得](#)」を参照してください。

ステップ 1: 利用可能な検出結果 AWS のサービス

DescribeServices API オペレーションを使用して、Price List Bulk API がサポートする利用可能な AWS のサービスをすべて検索します。この API オペレーションは、サービスのリストから ServiceCode 値を返します。後でこの値を使用して、関連する料金表ファイルを検索します。

Example例: 利用可能なサービスの検索

次のコマンドは、利用可能な AWS のサービスの検索方法を示しています。

```
aws pricing describe-services --region us-east-1
```

AWS リージョン は Price List Bulk API の API エンドポイントです。エンドポイントは製品やサービスの属性とは関係ありません。

レスポンス

```
{
  "FormatVersion": "aws_v1",
  "NextToken": "abcdefg123",
  "Services": [
    {
      "AttributeNames": [
        "volumeType",
        "maxIopsvolume",
        "instanceCapacity10xlarge",
        "locationType",
        "operation"
      ],
      "ServiceCode": "AmazonEC2"
    },
    {
      "AttributeNames": [
        "productFamily",
        "volumeType",
        "engineCode",
        "memory"
      ],
      "ServiceCode": "AmazonRDS"
    }
  ],
}
```

```
    {...}  
  ]  
}
```

この API オペレーションの詳細については、API AWS Billing and Cost Management リファレンスの [DescribeServices](#)「」および「[言語固有の AWS SDKs](#)」を参照してください。

Note

API は現在 Savings Plans serviceCodesに戻りませんが、後続の DescribeServices API コールで Savings Plans serviceCodes を使用するには以下が必要です。

ServiceCode	SavingsPlanCode
ComputeSavingsPlans	AWSComputeSavingsPlan
MachineLearningSavingsPlans	AWSMachineLearningSavingsPlans
DatabaseSavingsPlans	AWSDatabaseSavingsPlans

ListPriceLists および GetPriceListFileUrl API オペレーションを使用する場合は、ServiceCode値を使用します。SavingsPlanCode は、APIs を使用する代わりに料金表ファイルを手動でダウンロードする場合にのみ必要です。

ステップ 2: 利用可能な の料金表ファイルを検索する AWS のサービス

ListPriceLists API オペレーションを使用して、表示権限のある料金表参照リストを取得します。結果を絞り込む場合は、ServiceCode、CurrencyCode、および EffectiveDate パラメータを指定します。

AWS リージョン は Price List Bulk API の API エンドポイントです。エンドポイントは製品やサービスの属性とは関係ありません。

料金表ファイルの検索例

Example例: すべての の料金表ファイルを検索する AWS リージョン

--region-code パラメータを指定しない場合、API オペレーションは利用可能なすべての AWS リージョンから料金表ファイル参照を返します。


```
aws pricing list-price-lists --service-code AmazonRDS --currency-code USD --effective-date "2023-04-03 00:00"
```

レスポンス

```
{
  "NextToken": "abcd1234",
  "PriceLists": [
    {
      "CurrencyCode": "USD",
      "FileFormats": [ "json", "csv" ],
      "PriceListArn": "arn:aws:pricing::price-list/aws/AmazonRDS/USD/20230328234721/us-east-1",
      "RegionCode": "us-east-1"
    },
    {
      "CurrencyCode": "USD",
      "FileFormats": [ "json", "csv" ],
      "PriceListArn": "arn:aws:pricing::price-list/aws/AmazonRDS/USD/20230328234721/us-west-2",
      "RegionCode": "us-west-2"
    },
    ...
  ]
}
```

Example例: 特定リージョンの料金表ファイルを検索する

RegionCode パラメータを指定すると、API オペレーションは、そのリージョンのみの料金表ファイル参照を返します。過去の料金表ファイルを検索するには、EffectiveDate パラメータを使用します。例えば、過去の日付を指定して特定の料金表ファイルを検索できます。

レスポンスから得た PriceListArn 値を [GetPriceListFileUrl](#) API オペレーションで使用して、目的の料金表ファイルを取得できます。

```
aws pricing list-price-lists --service-code AmazonRDS --currency-code USD --region-code us-west-2 --effective-date "2023-04-03 00:00"
```

レスポンス

```
{
```

```
"PriceLists": [
  {
    "CurrencyCode": "USD",
    "FileFormats": [ "json", "csv" ],
    "PriceListArn": "arn:aws:pricing::price-list/aws/AmazonRDS/
USD/20230328234721/us-west-2",
    "RegionCode": "us-west-2"
  }
]
```

この API オペレーションの詳細については、API AWS Billing and Cost Management リファレンスの [ListPriceLists](#)「」および「[言語固有の AWS SDKs](#)」を参照してください。

ステップ 3: 特定の料金表ファイルの取得

GetPriceListFileUrl API オペレーションを使用して、料金表ファイルの URL を取得します。この URL は、[ステップ 1](#) と [ステップ 2](#) の ListPriceLists レスポンスから取得した PriceListArn と FileFormats の値に基づいています。

Example例: 特定の料金表ファイルを取得する

次のコマンドは、Amazon RDS の特定の料金表ファイルの URL を取得します。

```
aws pricing get-price-list-file-url --price-list-arn arn:aws:pricing::price-list/aws/
AmazonRDS/USD/20230328234721/us-east-1 --file-format json --region us-east-1
```

レスポンス

```
{
  "Url": "https://pricing.us-east-1.amazonaws.com/offers/v1.0/aws/
AmazonRDS/20230328234721/us-east-1/index.json"
}
```

レスポンスから取得した URL を使用して料金表ファイルをダウンロードできます。

この API オペレーションの詳細については、次のトピックを参照してください。

- [GetPriceListFileUrl](#) AWS Billing and Cost Management API [リファレンスの および言語固有の AWS SDKs](#)
- [料金表ファイルの読み取り](#)

料金表ファイルの手動取得

に関するフィードバックを提供するには AWS の料金表、この[簡単なアンケート](#)に回答してください。回答者は匿名になります。注: このアンケートは英語にのみ対応しています。

AWS Price List Bulk API を使用して、プログラムで料金表ファイルを検索およびダウンロードすることをお勧めします。詳細については、「[ステップ 1: 利用可能な検出結果 AWS のサービス](#)」を参照してください。

AWS Price List Bulk API を使用しない場合は、料金表ファイルを手動でダウンロードできます。必要な情報を入手済みの場合は、関連するトピックにスキップできます。

ステップ 1: 利用可能な検出結果 AWS のサービス

に関するフィードバックを提供するには AWS の料金表、この[簡単なアンケート](#)に回答してください。回答者は匿名になります。注: このアンケートは英語にのみ対応しています。

サービスインデックスファイルを使用して、AWS Price List Bulk API によって提供される利用可能な AWS のサービスと Savings Plans を検索できます。

サービスインデックスファイルをダウンロードするには、次の URL にアクセスしてください。

```
https://pricing.us-east-1.amazonaws.com/offers/v1.0/aws/index.json
```

サービスインデックスファイルでは、サービスの料金を検索できます。各サービスの料金表ファイルをダウンロードするには、offerCode または serviceCode を使用します。

詳細については、以下の各トピックを参照してください。

- [サービスインデックスファイルの読み取り](#)
- [ステップ 1: 利用可能な検出結果 AWS のサービス](#)

ステップ 2: で使用可能なバージョンを検索する AWS のサービス

に関するフィードバックを提供するには AWS の料金表、この[簡単なアンケート](#)に回答してください。回答者は匿名になります。注: このアンケートは英語にのみ対応しています。

[ステップ 1](#) で取得した AWS のサービス または Savings Plan s の場合、[サービスバージョンインデックスファイル](#)を使用して料金表のすべての履歴バージョンを見つけることができます。

サービスバージョンインデックスファイルをダウンロードするには、serviceCode または savingsPlanCode を使用します。serviceCode および savingsPlanCode の値を確認する場合は、「[ステップ 1: 利用可能な検出結果 AWS のサービス](#)」を参照してください。

のサービスバージョンインデックスファイルをダウンロードするには AWS のサービス、次の URL に移動します。<serviceCode> を、自分の情報に置き換えます。

```
https://pricing.us-east-1.amazonaws.com/offers/v1.0/aws/<serviceCode>/index.json
```

例えば、Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) の場合は、次のような URL になります。

```
https://pricing.us-east-1.amazonaws.com/offers/v1.0/aws/AmazonEC2/index.json
```

Note

サービスバージョンインデックスファイルのバージョンに加えて、current という名前の別のバージョンがあります。current バージョンは、特定の の料金表ファイルの最新バージョンを指します AWS のサービス。

Savings Plans の最新サービスバージョンインデックスファイルをダウンロードするには、URL で savingsPlanCode と current を指定します。<savingsPlanCode> を自分の情報に置き換えます。

```
https://pricing.us-east-1.amazonaws.com/savingsPlan/v1.0/aws/<savingsPlanCode>/current/index.json
```

たとえば、 の現在のバージョンAWSComputeSavingsPlanは次の URL のようになります。

```
https://pricing.us-east-1.amazonaws.com/savingsPlan/v1.0/aws/AWSComputeSavingsPlan/current/index.json
```

詳細については、「[サービスバージョンインデックスファイルの読み取り](#)」を参照してください。

ステップ 3: のバージョンの AWS リージョン で利用可能な検出結果 AWS のサービス

に関するフィードバックを提供するには AWS の料金表、この[簡単なアンケート](#)に回答してください。回答者は匿名になります。注: このアンケートは英語にのみ対応しています。

[前のステップ](#)の AWS のサービス または Savings Plan sのバージョンについては、AWS のサービスが購入する製品を提供するすべての AWS リージョン およびエッジロケーションを見つけることができます。

のサービスリージョンインデックスファイルをダウンロードするには AWS のサービス、次の URL に移動します。<serviceCode> と <version> を自分の情報に置き換えてください。

```
https://pricing.us-east-1.amazonaws.com/offers/v1.0/aws/<serviceCode>/<version>/region_index.json
```

例えば、サービスコードが AmazonRDS、バージョンが current の場合、URL は次のようになります。

```
https://pricing.us-east-1.amazonaws.com/offers/v1.0/aws/AmazonRDS/current/region_index.json
```

Savings Plans のサービスリージョンインデックスファイルをダウンロードするには、次の URL にアクセスします。<savingsPlanCode> を自分の情報に置き換えます。

```
https://pricing.us-east-1.amazonaws.com/savingsPlan/v1.0/aws/<savingsPlanCode>/current/region_index.json
```

例えば、Savings Plans が AWSComputeSavingsPlan、バージョンが current の場合、URL は次のようになります。

```
https://pricing.us-east-1.amazonaws.com/savingsPlan/v1.0/aws/AWSComputeSavingsPlan/current/region_index.json
```

詳細については、「[サービスリージョンインデックスファイルの読み取り](#)」を参照してください。

ステップ 4: AWS リージョン およびバージョンの で利用可能な料金表を検索する AWS のサービス

に関するフィードバックを提供するには AWS の料金表、この[簡単なアンケート](#)に回答してください。回答者は匿名になります。注: このアンケートは英語にのみ対応しています。

前のステップでは、AWS のサービスに関する以下の情報を取得しました。

- サービスコード
- Savings Plans コード
- バージョン
- AWS リージョン

次に、この情報を使用して、サービス料金表ファイル内の料金を検索できます。これらのファイルは JSON 形式と CSV 形式で入手できます。

目次

- [サービス料金表ファイルの検索](#)
- [Savings Plans のサービス料金表ファイルの検索](#)

サービス料金表ファイルの検索

サービス料金表ファイルには、次のようなサービス関連の詳細情報が記載されています。

- そのファイル内の料金の発効日
- サービス料金表のバージョン
- 提供されている製品とその詳細のリストおよび料金 (JSON および CSV 形式)

次の URL では、URL を変更して必要な形式 (JSON または CSV) を指定できます。

サービス料金表ファイルをダウンロードするには、次の URL にアクセスします。各#####
##を独自の情報に置き換えます。

```
https://pricing.us-east-1.amazonaws.com/offers/  
v1.0/aws/<serviceCode>/<version>/<regionCode>/index.<format>
```

次に Amazon Relational Database Service (Amazon RDS) の例を示します。このサービスは URL に AmazonRDS を指定します。

Example例: Amazon RDS の料金表ファイルの最新バージョン

米国東部 (オハイオ) リージョンの Amazon RDS の料金表ファイルの最新バージョンは、次の URL から取得できます。

CSV 形式

```
https://pricing.us-east-1.amazonaws.com/offers/v1.0/aws/AmazonRDS/current/us-east-2/index.csv
```

JSON 形式

```
https://pricing.us-east-1.amazonaws.com/offers/v1.0/aws/AmazonRDS/current/us-east-2/index.json
```

Example例: Amazon RDS の特定のバージョンの料金表ファイル

米国東部 (オハイオ) リージョンの Amazon RDS の料金表ファイルの特定バージョンは、次の URL から取得できます。

CSV 形式

```
https://pricing.us-east-1.amazonaws.com/offers/v1.0/aws/AmazonRDS/20230328234721/us-east-2/index.csv
```

JSON 形式

```
https://pricing.us-east-1.amazonaws.com/offers/v1.0/aws/AmazonRDS/20230328234721/us-east-2/index.json
```

Savings Plans のサービス料金表ファイルの検索

Savings Plans のサービス料金表ファイルには、次のような Savings Plans 関連の詳細情報が記載されています。

- そのファイル内の料金の発効日

- サービス料金表のバージョン
- 提供されている製品とその詳細のリストおよび料金 (JSON および CSV 形式)

次の URL では、URL を変更して必要な形式 (JSON または CSV) を指定できます。

Savings Plans のサービス料金表ファイルをダウンロードするには、次の URL を使用します。各 **##** **#####** を独自の情報に置き換えます。

```
https://pricing.us-east-1.amazonaws.com/savingsPlan/  
v1.0/aws/<savingsPlanCode>/<version>/<regionCode>/index.json
```

Example例: Amazon SageMaker AI のサービス料金表ファイル

米国東部 (オハイオ) リージョンにある SageMaker AI (AWSComputeSavingsPlan) 向け料金表ファイルの特定バージョン (20230509202901) を取得するには、次の URL を使用します。

CSV 形式

```
https://pricing.us-east-1.amazonaws.com/savingsPlan/v1.0/aws/  
AWSComputeSavingsPlan/20230509202901/us-east-2/index.csv
```

JSON 形式

```
https://pricing.us-east-1.amazonaws.com/savingsPlan/v1.0/aws/  
AWSComputeSavingsPlan/20230509202901/us-east-2/index.json
```

詳細については、「[サービス料金表ファイルの読み取り](#)」を参照してください。

料金表ファイルの読み取り

に関するフィードバックを提供するには AWS の料金表、この[簡単なアンケート](#)に回答してください。回答者は匿名になります。注: このアンケートは英語にのみ対応しています。

このセクションを使用して、料金表ファイルを読み取る方法を理解します。これには、サービスインデックスファイル、サービスバージョンインデックスファイル、リージョンインデックスファイル、および AWS のサービス と Savings Plans の両方のユースケースの料金表ファイルが含まれます。

サービスインデックスファイルの読み取り

に関するフィードバックを提供するには AWS の料金表、この[簡単なアンケート](#)に回答してください。回答者は匿名になります。注: このアンケートは英語にのみ対応しています。

サービスインデックスファイルを手に入れたら、それを使用してサービス料金表ファイルを検索できます。

サービスインデックスファイルは、JSON ファイルとして入手できます。ファイルを読み取るには、テキストアプリケーションまたは JSON を解析するプログラムを使用できます。

サービスインデックスファイルには主に以下の 2 つのセクションがあります。

- サービスインデックスファイルに関するメタデータ
- AWS が提供するサービスのリスト、または AWS Marketplace を介したサービスのリスト。

サービスインデックスファイルに関する情報には、料金をダウンロードできる URL と、そのサービスのサービスリージョンインデックスファイルの URL が含まれています。

例: サービスインデックスファイル

サービスインデックスファイルは次のようになります。

```
{
  "formatVersion": "The version number for the offer index format",
  "disclaimer": "The disclaimers for this offer index",
  "publicationDate": "The publication date of this offer index",
  "offers": {
    "firstService": {
      "offerCode": "The service that this price list is for",
      "currentVersionUrl": "The URL for this offer file",
      "currentRegionIndexUrl": "The URL for the regional offer index file",
      "savingsPlanVersionIndexUrl": "The URL for the Savings Plan index file (if applicable)"
    },
    "secondService": {
      "offerCode": ...,
      "currentVersionUrl": ...,
      "currentRegionIndexUrl": ...,

```

```
        "savingsPlanVersionIndexUrl":...
    },
    ...
},
}
```

サービスインデックスファイルの定義

以下は、サービスインデックスファイルで使用する条件の定義です。

FormatVersion

サービスバージョンインデックスファイルがどの形式バージョンにあるかを追跡する属性。ファイルの `formatVersion` は、構造が変更されたときに更新されます。例えば、バージョンが `v1` から `v2` に変更されるとき。

Disclaimer

サービスバージョンインデックスファイルに適用される免責事項。

PublicationDate

サービスバージョンインデックスファイルが公開された UTC 形式の日付と時刻。例えば、`2015-04-09T02:22:05Z` や `2015-09-10T18:21:05Z` などです。

Offers

利用可能なサービス料金表ファイルのリスト。

Offers:OfferCode

AWS サービスの製品の一意のコード。例えば、AmazonEC2 や AmazonS3 などです。OfferCode は、インデックスのルックアップキーとして使用されます。

Offers:CurrentVersionUrl

最新のサービス料金表ファイルをダウンロードできる URL。

Offers:currentRegionIndexUrl

利用可能なサービス料金表ファイルのリージョン別のリスト。

Offers:savingsPlanVersionIndexUrl

適用可能な Savings Plans オファ어의リスト。

サービスバージョンインデックスファイルの読み取り

に関するフィードバックを提供するには AWS の料金表、この[簡単なアンケート](#)に回答してください。回答者は匿名になります。注: このアンケートは英語にのみ対応しています。

サービスバージョンインデックスファイルは JSON 形式で入手できます。ファイルを読み取るには、テキストプログラムまたは JSON を解析するアプリケーションを使用できます。

サービスバージョンインデックスファイルは以下の 2 つの主要セクションで構成されています。

- サービスバージョンインデックスファイルに関するメタデータ
- AWS のサービスで利用可能な料金表ファイルの全バージョンのリスト

サービスバージョンに関する情報には、指定期間におけるそのサービスの料金をダウンロードするための URL が含まれます。

トピック

- [のサービスバージョンインデックスファイル AWS のサービス](#)
- [Savings Plans のサービスバージョンインデックスファイル](#)

のサービスバージョンインデックスファイル AWS のサービス

に関するフィードバックを提供するには AWS の料金表、この[簡単なアンケート](#)に回答してください。回答者は匿名になります。注: このアンケートは英語にのみ対応しています。

サービスバージョンインデックスファイルについては、以下の参考資料を参照してください。

トピック

- [例: サービスのサービスバージョンインデックスファイル](#)
- [サービスバージョンインデックスファイルの定義](#)

例: サービスのサービスバージョンインデックスファイル

サービスバージョンインデックスファイルは次のようになります。

```
{
  "formatVersion": "The version number for the service version index format",
  "disclaimer": "The disclaimers for this service version index",
  "publicationDate": "The publication date of this service version index",
  "offerCode": "The service code/Savings Plan code",
  "currentVersion": "The latest version of the service"
  "versions": {
    "firstVersion": {
      "versionEffectiveBeginDate": "The date starting which this version is effective",
      "versionEffectiveEndDate": "The date until which this version is effective",
      "offerVersionUrl": "The relative URL for the service price list file of this version"
    },
    "secondVersion": {
      "versionEffectiveBeginDate": ...,
      "versionEffectiveEndDate": ...,
      "offerVersionUrl": ...
    },
    ...
  },
}
```

サービスバージョンインデックスファイルの定義

以下は、サービスバージョンインデックスファイルの条件の定義です。

formatVersion

サービスバージョンインデックスファイルがどの形式バージョンにあるかを追跡する属性。ファイルの formatVersion は、構造が変更されたときに更新されます。例えば、バージョンが v1 から v2 に変更されるとき。

disclaimer

サービスバージョンインデックスファイルに適用される免責事項。

publicationDate

サービスバージョンインデックスファイルが公開された UTC 形式の日付と時刻。例えば、2023-03-28T23:47:21Z。

offerCode

の製品の一意のコード AWS のサービス。例えば、AmazonRDS、AmazonS3 です。

CurrentVersion

AWS のサービスの最新バージョン番号。例えば、20230328234721。

versions

この AWS のサービスで利用可能なバージョンのリスト。

versions:version

AWS のサービスの料金表のバージョンを表す固有のコード。これはバージョンリストのルックアップキーとして使用されます。例えば、20230328234721 です。

versions:version:versionEffectiveBeginDate

このバージョンの有効期間の開始日時 (UTC 形式) 例えば、2023-03-28T23:47:21Z。

versions:version:versionEffectiveEndDate

このバージョンの有効期間の終了日時 (UTC 形式) 例えば、2023-03-28T23:47:21Z。このプロパティが設定されていない場合は、このバージョンが現在アクティブなバージョンであることを意味します。

versions:version:offerVersionUrl

このバージョンのサービス料金表ファイルの相対 URL。例えば、/offers/v1.0/aws/AmazonRDS/20230328234721/index.json。

Savings Plans のサービスバージョンインデックスファイル

に関するフィードバックを提供するには AWS の料金表、この[簡単なアンケート](#)に回答してください。回答者は匿名になります。注: このアンケートは英語にのみ対応しています。

Savings Plans のサービスバージョンインデックスファイルを理解するには、次の参考資料を参照してください。

目次

- [例: Savings Plans のサービスバージョンインデックスファイル](#)
- [サービスバージョンインデックスの定義](#)

例: Savings Plans のサービスバージョンインデックスファイル

Savings Plans のサービスバージョンインデックスファイルは次のようになります。

```
{
  "disclaimer": "The disclaimers for this service version index",
  "publicationDate": "The publication date of this service version index",
  "currentOfferVersionUrl": "The relative URL of region index file for latest version
number of the service"
  "versions": [
    {
      "publicationDate": "The publication date of this version of service from which
this version was effective",
      "offerVersionUrl": "The relative URL for the service region index file of this
version"
    },
    {
      "publicationDate": ...,
      "offerVersionUrl": ...
    },
    ...
  ],
}
```

サービスバージョンインデックスの定義

以下は、サービスバージョンインデックスファイルの条件の定義です。

disclaimer

サービスバージョンインデックスファイルに適用される免責事項。

publicationDate

サービスバージョンインデックスファイルが公開された UTC 形式の日付と時刻。例えば、2023-03-28T23:47:21Z。

currentOfferVersionUrl

サービスの最新バージョン番号のリージョンインデックスファイルの相対 URL。例えば、/savingsPlan/v1.0/aws/AWSComputeSavingsPlan/current/region_index.json。

versions

こので使用可能なバージョンのリスト AWS のサービス。

versions:version:publicationDate

サービスバージョンインデックスファイルが公開された UTC 形式の日付と時刻。例:
2023-04-07T14:57:05Z

versions:version:offerVersionUrl

このバージョンのサービスリージョンインデックスファイルの相対 URL。例えば、/savingsPlan/v1.0/aws/AWSComputeSavingsPlan/20230407145705/region_index.json。

サービスリージョンインデックスファイルの読み取り

に関するフィードバックを提供するには AWS の料金表、この[簡単なアンケート](#)に回答してください。回答者は匿名になります。注: このアンケートは英語にのみ対応しています。

サービスリージョンインデックスファイルは JSON 形式で入手できます。ファイルを読み取るには、テキストプログラムまたは JSON を解析するアプリケーションを使用できます。

サービスリージョンインデックスファイルは以下の 2 つの主要セクションで構成されています。

- サービスリージョンインデックスファイルに関するメタデータ
- Savings Plan AWS リージョン AWS のサービスまたは限定 AWS Marketplace サービスを表すサービスが利用可能なすべての のリスト。

サービスリージョンに関する情報には、指定期間およびリージョンにおけるそのサービスの料金をダウンロードするための URL が含まれます。

トピック

- [のサービスリージョンインデックスファイル AWS のサービス](#)
- [Savings Plans のサービスリージョンインデックスファイル](#)

のサービスリージョンインデックスファイル AWS のサービス

に関するフィードバックを提供するには AWS の料金表、この[簡単なアンケート](#)に回答してください。回答者は匿名になります。注: このアンケートは英語にのみ対応しています。

のサービスバージョンインデックスファイルを理解するには AWS のサービス、以下のリファレンスを参照してください。

目次

- [例: のサービスリージョンインデックスファイル AWS のサービス](#)
- [サービスリージョンインデックスの定義](#)

例: のサービスリージョンインデックスファイル AWS のサービス

のサービスリージョンインデックスファイルは、次の AWS のサービス ようになります。

```
{
  "formatVersion": "The version number for the service region index format",
  "disclaimer": "The disclaimers for this service region index",
  "publicationDate": "The publication date of this service region index",
  "regions": {
    "firstRegion": {
      "regionCode": "A unique identifier that identifies this region",
      "currentVersionUrl": "The relative URL for the service regional price list file of this version"
    },
    "secondRegion": {
      "regionCode": "...",
      "currentVersionUrl": ...
    },
    ...
  }
}
```

サービスリージョンインデックスの定義

以下は、サービスリージョンインデックスファイルの条件の定義です。

formatVersion

サービスリージョンインデックスファイルがどの形式バージョンにあるかを追跡する属性。ファイルの formatVersion は、構造が変更されたときに更新されます。例えば、バージョンが v1 から v2 に変更されるとき。

disclaimer

サービスリージョンインデックスファイルに適用される免責事項。

publicationDate

サービスリージョンインデックスファイルが公開された UTC 形式の日付と時刻。例えば、2023-03-28T23:47:21Z。

regions

AWS リージョン で使用できる のリスト AWS のサービス。

regions:regionCode

これが AWS のサービス 提供されているリージョンの一意のコード。これはリージョンリストの ルックアップキーとして使用されます。例えば、米国東部 (オハイオ) リージョンの場合は、us-east-2 を使用します。

regions:regionCode:currentVersionUrl

このバージョンのサービスリージョンインデックスファイルの相対 URL。例えば、/offers/v1.0/aws/AmazonRDS/20230328234721/us-east-2/index.json。

Savings Plans のサービスリージョンインデックスファイル

に関するフィードバックを提供するには AWS の料金表、この[簡単なアンケート](#)に回答してください。回答者は匿名になります。注: このアンケートは英語にのみ対応しています。

Savings Plans のサービスリージョンインデックスファイルについては、以下の参考資料を参照してください。

トピック

- [例: Savings Plans のサービスリージョンインデックスファイル](#)
- [サービスリージョンインデックスの定義](#)

例: Savings Plans のサービスリージョンインデックスファイル

Savings Plans のサービスリージョンインデックスファイルは次のようになります。

```
{
  "disclaimer": "The disclaimers for this service version index",
```

```
{
  "publicationDate": "The publication date of this service region index",
  "regions": [
    {
      "regionCode": "A unique identifier that identifies this region",
      "versionUrl": "The relative URL for the service regional price list file of
this version"
    },
    {
      "regionCode": ...,
      "versionUrl": ...
    },
    ...
  ]
}
```

サービスリージョンインデックスの定義

以下は、サービスリージョンインデックスファイルの条件の定義です。

disclaimer

サービスリージョンインデックスファイルに適用される免責事項。

publicationDate

サービスリージョンインデックスファイルが公開された UTC 形式の日付と時刻。例えば、2023-03-28T23:47:21Z。

regions

AWS リージョン で使用できる のリスト AWS のサービス。

regions:regionCode

これが AWS のサービス 提供されているリージョンの一意のコード。これはリージョンリストのルックアップキーとして使用されます。例えば、米国東部 (オハイオ) リージョンの場合は、us-east-2 を使用します。

regions:versionUrl

このバージョンのサービスリージョンインデックスファイルの相対 URL。例えば、/savingsPlan/v1.0/aws/AWSComputeSavingsPlan/20230407145705/us-east-2/index.json。

サービス料金表ファイルの読み取り

に関するフィードバックを提供するには AWS の料金表、この[簡単なアンケート](#)に回答してください。回答者は匿名になります。注: このアンケートは英語にのみ対応しています。

サービス料金表ファイルには、1 つの AWS のサービス または Savings Plan sの製品と料金が、すべて AWS リージョン、または特定のリージョンの 1 つの AWS のサービス または Savings Plan sに一覧表示されます。

サービス料金表ファイルは、CSV か JSON 形式で入手できます。

ファイルを読み取るには、スプレッドシートプログラムを使用して CSV ファイルを読み取り、ソートするか、JSON ファイルを解析するアプリケーションを使用できます。

Note

CSV ファイルでは、製品詳細と料金詳細は 1 つのセクションにまとめられます。JSON ファイルでは、製品詳細と料金詳細がそれぞれのセクションに表示されます。

トピック

- [のサービス料金表ファイルの読み取り AWS のサービス](#)
- [Savings Plans のサービス料金表ファイルの読み取り](#)

のサービス料金表ファイルの読み取り AWS のサービス

に関するフィードバックを提供するには AWS の料金表、この[簡単なアンケート](#)に回答してください。回答者は匿名になります。注: このアンケートは英語にのみ対応しています。

のサービス料金表ファイル AWS のサービス には、次のタイプの情報が含まれています。

- サービス料金表ファイルの詳細 — 形式バージョン、公開日など、サービス料金表ファイルに関するメタデータ
- 製品詳細 — 製品と製品情報が記載されているサービス料金表ファイルの製品メタデータ

- 料金詳細 (terms) — このサービス料金表ファイルに含まれるすべての製品の料金

目次

- [CSV ファイル](#)
- [JSON ファイル](#)
- [用語の定義](#)
 - [OnDemandおよびリザーブドターム定義](#)
 - [FlatRate 用語](#)
- [サービス料金表の定義](#)
- [製品詳細 \(products\) の定義](#)
- [製品詳細 \(terms\) の定義](#)
- [OnDemand定義とリザーブド定義](#)
- [FlatRate 定義](#)

CSV ファイル

CSV ファイルの最初の 5 行には、料金表ファイルのメタデータが含まれています。6 行目には、製品とその属性 (SKU、OfferTermCode、RateCode、TermType など) の列名が表示されます。

列数は、サービスによって異なります。最初のいくつかの列には料金詳細が表示され、残りの列にはサービスの製品詳細が表示されます。

JSON ファイル

製品詳細と料金詳細がそれぞれのセクションに表示されます。同じ製品が複数の条件で提供されたり、同じ条件が複数の製品に適用されたりする場合があります。例えば、Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) インスタンスは、Hourly または Reserved の条件で利用できます。製品に適用される条件を確認する場合は、製品の SKU を使用できます。

Example例: 一般的な JSON 構造

```
{
  "formatVersion": "The version of the file format",
  "disclaimer": "The disclaimers for the price list file",
  "offerCode": "The code for the service",
```

```
"version": "The version of the price list file",
"publicationDate": "The publication date of the price list file",
"products": {
  "sku": {
    "sku": "The SKU of the product",
    "productFamily": "The product family of the product",
    "attributes": {
      "attributeName": "attributeValue"
    }
  }
},
"terms": TermDefinitions
}
```

用語の定義

用語タイプによって、用語オブジェクト内の構造が異なります。

OnDemandおよびリザーブドターム定義

```
{
  "OnDemand|Reserved": {
    "sku": {
      "sku.offerTermCode": {
        "offerTermCode": "The term code of the product",
        "sku": "The SKU of the product",
        "effectiveDate": "The effective date of the pricing details",
        "termAttributesType": "The attribute type of the terms",
        "termAttributes": {
          "attributeName": "attributeValue"
        }
      },
      "priceDimensions": {
        "rateCode": {
          "rateCode": "The rate code of the price",
          "description": "The description of the term",
          "unit": "The usage measurement unit for the price",
          "startingRange": "The start range for the term",
          "endingRange": "The end range for the term",
          "pricePerUnit": {
            "currencyCode": "currencyRate"
          }
        }
      }
    }
  }
}
```

```
    }  
  }  
}
```

FlatRate 用語

```
{  
  "FlatRate": {  
    "plans": [{  
      "planCode": "Plan identifier (for example, Free, Pro, Business)",  
      "sku": "The SKU associated with this plan",  
      "features": [{  
        "featureCode": "Unique feature identifier",  
        "featureName": "Human-readable feature name",  
        "usageQuota": {  
          "value": "Usage limit (for quantitative features)",  
          "unit": "Unit of measurement (for example, requests, GB)"  
        }  
      }],  
      "subscriptionPrice": {  
        "rateCode": "The rate code of the price",  
        "description": "The description of the term",  
        "pricePerUnit": {  
          "currencyCode": "currencyRate"  
        }  
      }  
    }]  
  }  
}
```

サービス料金表の定義

以下は、サービス料金表ファイルの条件の定義です。

formatVersion

サービス料金表ファイルがどの形式バージョンにあるかを追跡する属性。ファイルの `formatVersion` は、構造が変更されたときに更新されます。例えば、バージョンが `v1` から `v2` に変更されるとき。

disclaimer

サービス料金表ファイルに適用されるすべての免責事項。

offerCode

の製品の一意のコード AWS のサービス。例えば、Amazon EC2 では AmazonEC2 または Amazon S3 では AmazonS3 です。

バージョン

サービス料金表ファイルのバージョンを追跡する属性。新しいファイルが公開されるたびに、新しいバージョン番号が含まれます。例えば、20150409022205 と 20150910182105 です。

publicationDate

サービス料金表ファイルが公開された UTC 形式の日付と時刻。例えば、2015-04-09T02:22:05Z と 2015-09-10T18:21:05Z です。

製品詳細 (products) の定義

このセクションには、AWS のサービスのサービス料金表ファイルに含まれる製品の情報が表示されます。製品は SKU によってインデックスが作成されます。

products:sku

製品の一意のコード。SKU コードを使用して、製品の詳細と料金を関連付けます。

例えば、SKU が HCNSHWWAJSGVAHMH の製品は、HCNSHWWAJSGVAHMH が SKU として表示されている料金のみで利用可能です。

products:sku:productFamily

製品タイプのカテゴリ。例えば、Amazon EC2 では compute または Amazon S3 では storage です。

products:sku:attributes

すべての製品属性のリスト。

products:sku:attributes:Attribute Name

製品属性の名前。例えば、Instance Type、Processor、または OS です。

products:sku:attributes:Attribute Value

製品属性の値。例えば、m1.small (インスタンスタイプ)、xen (プロセッサのタイプ)、Linux (OS のタイプ) などです。

製品詳細 (terms) の定義

このセクションには、AWS のサービスのサービス料金表ファイルに含まれる製品の料金情報が表示されます。料金は条件によってインデックス化されます。

terms:termType

条件の定義が表す特定の条件のタイプ。有効な用語タイプは、Reserved、OnDemand、および FlatRate。

OnDemand定義とリザーブド定義

このセクションでは、は OnDemandまたは termTypeを参照しますReserved。

terms:termType:SKU

製品の一意のコード。SKU コードを使用して、製品の詳細と料金を関連付けます。

例えば、SKU が HCNShwwAJSGVAHMH の製品は、HCNShwwAJSGVAHMH が SKU として表示されている料金のみで利用可能です。

terms:termType:sku:Offer Term Code

特定のタイプの条件の一意のコード。例えば、KCAKZHGhg。

製品と料金の組み合わせは、ピリオドで区切った SKU コードと条件コードで参照されます。例えば、U7ADXS4BEK5XXHRU.KCAKZHGhg。

terms:termType:sku:Effective Date

サービス料金表ファイルが有効になる日付。例えば、条件 EffectiveDate が 2017 年 11 月 1 日の場合、この日付より前では、この料金は有効ではありません。

terms:termType:sku:Term Attributes Type

条件が適用される製品および製品オファアを識別するための固有のコード。例えば、EC2-Reserved 属性タイプは、Amazon EC2 リザーブドホストに対して条件が使用可能であることを意味します。

terms:termType:sku:Term Attributes

条件タイプに適用可能なすべての属性のリスト。この形式は attribute-name: attribute-value になります。例えば、条件の期間、条件の適用対象になる購入のタイプなどです。

terms:termType:sku:Term Attributes:Attribute Name

TermAttribute の名前。これを使用して、特定の属性を検索できます。例えば、length または PurchaseOption で条件を検索できます。

terms:termType:sku:Term Attributes:Attribute Value

TermAttribute の値。例えば、条件の期間を 1 年に、購入オプションを All Upfront に設定できます。

terms:termType:sku:Price Dimensions

使用量の測定方法、支払いに使用できる通貨、料金枠の制限など、料金表ファイルの料金詳細。

terms:termType:sku:Price Dimensions:Rate Code

製品、オファー、および料金枠の組み合わせの一意のコード。製品および条件の組み合わせには、無料利用枠、低使用利用枠、高使用利用枠など、複数の料金ディメンションがあります。

terms:termType:sku:Price Dimensions:Rate Code:Description

料金またはレートの説明。

terms:termType:sku:Price Dimensions:Rate Code:Unit

各サービスが請求の使用量を測定するために使用する単位のタイプ。例えば、Amazon EC2 では時間単位、Amazon S3 では GB 単位などです。

terms:termType:sku:Price Dimensions:Rate Code:Starting Range

この料金でカバーされる料金枠の下限です。例えば、0 GB や 1,001 回の API オペレーションコールなどです。

terms:termType:sku:Price Dimensions:Rate Code:Ending Range

この料金でカバーされる料金枠の上限です。例えば、1,000 GB や 10,000 回の API オペレーションコールなどです。

terms:termType:sku:Price Dimensions:Rate Code:Price Per Unit

1 つの測定単位でのサービスコストの計算。

terms:termType:sku:Price Dimensions:Rate Code:Price Per Unit:Currency Code

特定の製品の料金の通貨を示すコード。

terms:termType:sku:Price Dimensions:Rate Code:Price Per Unit:Currency Rate

サポートされているさまざまな通貨での製品のレート。例えば、単位あたり 1.2536 USD です。

FlatRate 定義

このセクションでは、termTypeは を参照しますFlatRate。

terms:termType:plans

利用可能な定額料金プランの配列。各プランは、バンドルされた機能と固定サブスクリプションコストを含む完全な料金階層を表します。

terms:termType:plans:planCode

定額プランの一意の識別子 (試験、「Free」、「Pro」の場合)。

terms:termType:plans:sku

この特定のプランに関連付けられている SKU。製品セクションの対応する製品にプランをリンクします。

terms:termType:plans:features

定額プランに含まれる機能の配列。

terms:termType:plans:features:featureCode

機能の一意の識別子 (「Requests」、「DataTransfer」、「S3Storage」など)。

terms:termType:plans:features:featureName

人間が読める機能の名前 (「リクエスト」、「データ転送」など)。

terms:termType:plans:features:usageQuota

量的特徴の使用制限。このオブジェクトはオプションであり、測定可能な制限がある機能にのみ存在します。

terms:termType:plans:features:usageQuota:value

機能の数値制限 (100 万リクエストの場合は「1000000」、100 GB の場合は「100」など)。

terms:termType:plans:features:usageQuota:unit

使用制限の測定単位 (「リクエスト」、「GB」など)。

terms:termType:plans:subscriptionPrice

定額プランのサブスクリプション料金の詳細。

terms:termType:plans:subscriptionPrice:rateCode

製品、オファー、および料金枠の組み合わせの一意のコード。

terms:termType:plans:subscriptionPrice:Description

料金またはレートの説明。

terms:termType:plans:subscriptionPrice:Price/ユニット

1 つの測定単位でのサービスコストの計算。

terms:termType:plans:subscriptionPrice:Price per Unit:Currency Code

特定の製品の料金の通貨を示すコード。

terms:termType:plans:subscriptionPrice:Price per Unit:Currency Rate

サポートされているさまざまな通貨での製品のレート (単位あたり 1.2536 USD など)。

Savings Plans のサービス料金表ファイルの読み取り

に関するフィードバックを提供するには AWS の料金表、この[簡単なアンケート](#)に回答してください。回答者は匿名になります。注: このアンケートは英語にのみ対応しています。

のサービス料金表ファイル AWS のサービス には、次のタイプの情報が含まれています。

- サービス料金表ファイルの詳細 — バージョン、発行日など AWS リージョン、サービス料金表ファイルに関するメタデータ
- 製品詳細 — 製品と製品情報が記載されているサービス料金表ファイルの製品メタデータ
- 料金詳細 (terms) — サービス料金表ファイルに含まれるすべての製品の料金

目次

- [CSV ファイル](#)
- [JSON ファイル](#)

- [サービス料金表の定義](#)
- [製品詳細 \(products\) の定義](#)
- [料金詳細 \(terms\) の定義](#)

CSV ファイル

CSV ファイルの最初の 5 行は、料金表ファイルのメタデータです。6 行目には、製品とその属性 (SKU、RateCode など) の列名が表示されます。

列数は Savings Plans によって異なります。最初のいくつかの列には料金詳細が表示され、残りの列には Savings Plans の製品詳細が表示されます。

JSON ファイル

製品詳細と料金詳細がそれぞれのセクションに表示されます。JSON サービス料金表ファイルは次の例のようになります。

```
{
  "version" : "The version of the price list file",
  "publicationDate" : "The publication date of the price list file",
  "regionCode" : "Region for which price list file is valid for",
  "products" : [
    {
      "sku" : "The SKU of the product",
      "productFamily" : "The product family of the product",
      "serviceCode" : "Savings plan code",
      "attributes" : {
        "attributeName": "attributeValue",
      }
    },
    ...
  ],
  "terms" : {
    "savingsPlan" : [
      {
        "sku" : "The SKU of the product",
        "description" : "Description of the product",
        "effectiveDate" : "The effective date of the pricing details",
        "leaseContractLength" : {
          "duration" : "Length of the lease contract - it is a number",
          "unit" : "Unit of the duration"
        }
      },
    ],
  },
}
```

```
    "rates" : [
      {
        "discountedSku" : "The SKU of the discounted on demand product",
        "discountedUsageType" : "Usage type of the discounted product",
        "discountedOperation" : "Operation of the discounted product",
        "discountedServiceCode" : "Service code of the discounted product",
        "rateCode" : "The rate code of this price detail",
        "unit" : "Unit used to measure usage of the product",
        "discountedRate" : {
          "price" : "Price of the product",
          "currency" : "Currency of the price"
        }
      },
      ...
    ]
  },
  ...
]
}
```

サービス料金表の定義

以下は、サービス料金表ファイルの条件の定義です。

regionCode

料金表が有効なリージョンのリージョンコード。

version

料金表ファイルのバージョンを追跡する属性。新しいファイルが公開されるたびに、新しいバージョン番号が含まれます。例えば、20150409022205 と 20150910182105 です。

publicationDate

サービス料金表ファイルが公開された UTC 形式の日付と時刻。例えば、2015-04-09T02:22:05Z と 2015-09-10T18:21:05Z です。

製品詳細 (products) の定義

このセクションには、Savings Plans の料金表ファイルに含まれる製品の情報が表示されます。製品は SKU によってインデックスが作成されます。

products:product:sku

製品の一意のコード。SKU コードを使用して、製品の詳細と料金を関連付けます。

例えば、SKU が HCNSHWWAJSGVAHMH の製品は、HCNSHWWAJSGVAHMH が SKU として表示されている料金のみで利用可能です。

products:product:productFamily

製品タイプのカテゴリ。例えば、Compute Savings Plans の場合は EC2InstanceSavingsPlans です。

products:product:serviceCode

Savings Plans のサービスコード。例えば、ComputeSavingsPlans。

products:product:attributes

すべての製品属性のリスト。

products:product:attributes:attributeName

製品属性の名前。例えば、Instance Type、Location Type、または Purchase Option です。

products:product:attributes:attributeValue

製品属性の値。例えば、m1.small (インスタンスタイプ)、AWS Local Zone (ロケーションのタイプ)、No Upfront (購入オプションのタイプ) などです。

料金詳細 (terms) の定義

このセクションには、Savings Plans の料金表ファイルに含まれる料金の情報が表示されます。

料金は、まず条件 (savingsPlan) によってインデックスが作成されます。

terms:termType

条件の定義が表す特定の条件のタイプ。有効な条件タイプは savingsPlan です。

terms:termType:sku

製品の一意のコード。SKU コードを使用して、製品の詳細と料金を関連付けます。

例えば、SKU が T496KPM8YQ8RZNC の製品は、496KPM8YQ8RZNC が SKU として表示されている料金のみで利用可能です。

terms:termType:sku:description

製品の説明。

terms:termType:sku:effectiveDate

サービス料金表ファイルが有効になる日付。例えば、条件 EffectiveDate が 2017 年 11 月 1 日の場合、この日付より前では、この料金は有効ではありません。

terms:termType:sku:leaseContractLength:duration

リース契約の期間。この値は数値です。例えば、1 や 3 と指定します。

terms:termType:sku:rates

Savings Plans 製品に適用されるすべての割引料金のリスト。Savings Plans 製品は、他のサービスの複数の製品を組み合わせたもので、その組み合わせに適用される複数の料金が含まれています。

terms:termType:sku:rates:discountedSku

割引対象オンデマンド製品の SKU。

terms:termType:sku:rates:discountedUsageType

割引対象オンデマンド製品の使用タイプ。

terms:termType:sku:rates:discountedOperation

割引対象オンデマンド製品のオペレーション。

terms:termType:sku:rates:discountedServiceCode

割引対象オンデマンド製品のサービスコード。

terms:termType:sku:rates:rateCode

Savings Plans 製品で提供される料金の料金コード。例えば、T496KPMDD8YQ8RZNC.26PW7ZDSYZZ6YBTZ などです。

terms:termType:sku:rates:unit

製品の使用量を測定するために使用される単位。例えば、Amazon EC2 インスタンスの場合は Hrs です。

terms:termType:sku:rates:discountedRate:price

Savings Plans 製品で提供される割引対象製品の料金。例えば、3.434。

terms:termType:sku:rates:discountedRate:currency

Savings Plans 製品で提供される割引対象製品の料金の通貨。例えば、USD。

サービス料金表ファイルでの料金の確認

に関するフィードバックを提供するには AWS の料金表、この[簡単なアンケート](#)に回答してください。回答者は匿名になります。注: このアンケートは英語にのみ対応しています。

AWS Price List Bulk API は、オンデマンドおよびリザーブドインスタンスの料金など、情報目的ですべての AWS 製品の料金を提供します。

特定の製品の料金と条件を確認するには、オファーフایلを使用します。例えば、Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) インスタンスの料金のリストを確認できます。

Note

AWS Price List Bulk API は、AWS 無料利用枠 料金表などの期間限定オファ어의包括的なソースではありません。無料利用枠の料金については、「[AWS 無料利用枠](#)」を参照してください。

関心がある製品の料金を確認するには

目次

- [サービスのオンデマンド料金の確認](#)
- [サービスの階層化された料金を確認する](#)
- [無料利用枠があるサービスの階層化された料金を確認する](#)
 - [例](#)
- [リザーブドインスタンスがあるサービスの料金を確認する](#)

サービスのオンデマンド料金の確認

次の手順は、Amazon EC2 AWS のサービスなどの のオンデマンド料金を検索する方法を示しています。

CSV ファイルを使用してオンデマンド料金を確認するには

1. サービスの CSV ファイルをダウンロードします。
2. CSV ファイルを任意のアプリケーションで開きます。
3. [TermType] 列をフィルタリングして [OnDemand] を表示します。
4. 目的の使用タイプとオペレーションを検索します。
5. [PricePerUnit] 列で、対応する料金を確認します。

JSON ファイルを使用してオンデマンド料金を確認するには

1. サービスの JSON ファイルをダウンロードします。
2. 任意のアプリケーションで JSON ファイルを開きます。
3. [terms] と [On-Demand] で、目的の SKU を見つけます。

SKU がわからない場合は、[products (製品)] で [usage type (使用タイプ)] と [operation (オペレーション)] を検索します。

4. [pricePerUnit] を参照して、SKU の対応するオンデマンド料金を確認します。

サービスの階層化された料金を確認する

次の手順では、サービス (Amazon Simple Storage Service (Amazon S3) など) の階層化された料金を確認する方法を示します。

CSV ファイルを使用してサービスの階層化された料金を確認するには

1. サービスの CSV ファイルをダウンロードします。
2. 任意のアプリケーションで CSV ファイルを開きます。
3. [TermType] 列をフィルタリングして [OnDemand] を表示します。
4. 目的の使用タイプとオペレーションを検索します。
5. [PricePerUnit] 列で、[StartingRange] と [EndingRange] それぞれの対応する料金を確認します。

JSON ファイルを使用してサービスの階層化された料金を確認するには

1. JSON ファイルをダウンロードします。
2. 任意のアプリケーションで JSON ファイルを開きます。

3. [terms] と [On-Demand] で、目的の SKU を見つけます。

SKU がわからない場合は、[products (製品)] で [usage type (使用タイプ)] と [operation (オペレーション)] を検索します。

4. [beginRange] と [endRange] で、[pricePerUnit] を参照して対応する階層化された料金を確認します。

無料利用枠があるサービスの階層化された料金を確認する

次の手順は、AWS のサービスが AWS Price List Bulk API で無料利用枠価格を発行する方法を示しています AWS Lambda。

すべての無料利用枠の料金には、「[AWS 無料利用枠](#)」に記載されている条件が適用されます。

CSV ファイルを使用して無料利用枠があるサービスの料金を確認するには

1. サービスの CSV ファイルをダウンロードします。
2. CSV ファイルを任意のアプリケーションで開きます。
3. [TermType] 列をフィルタリングして [OnDemand] を表示します。
4. [Location] 列をフィルタリングして [Any] を表示します。

は、このシナリオ AWS リージョン のすべての を表すわけではありません。これは、CSV ファイル内の他の行項目によって定義されたリージョンのサブセットであり、[RelatedTo] 列はロケーションの [Any] エントリの SKU と一致します。

5. 特定の無料利用枠 SKU の対象となる、すべてのロケーションと製品のリストを検索するには、[RelatedTo] 列で無料利用枠 SKU を見つけます。
6. 対象となるすべての場所で、無料利用枠でカバーされる使用状況を確認するには、[任意] の場所について「StartingRange」および「EndingRange」を参照してください

例

この例では、料金ファイルに [RelatedTo] が SKU ABCD と等しいエントリがないことを前提としています。

次の表に示すように、SKU が ABCD の無料利用枠オファーは、Asia Pacific (Singapore) および US East (Ohio) リージョンでは有効ですが、AWS GovCloud (US) では有効ではありません。無料利用枠によってカバーされる使用量は合計 400,000 秒で、両方の対象リージョンで使用されます。

[SKU]	StartingRange	EndingRange	Unit	RelatedTo	ロケーション
ABCD	0	400000	seconds		Any
QWER	0	Inf	seconds	ABCD	Asia Pacific (Singapore)
WERT	0	Inf	seconds	ABCD	US East (Ohio)
ERTY	0	Inf	seconds		AWS GovCloud (US)

JSON ファイルを使用して無料利用枠があるサービスの階層化された料金を確認するには

1. サービスの JSON ファイルをダウンロードします。
2. 任意のアプリケーションで JSON ファイルを開きます。
3. [製品] の下で、リージョンの接頭辞 [Global] がある [usagetype] を見つけます。
4. その SKU を書き留めて、同じ SKU を [terms] と [OnDemand] で探します。
5. 無料利用枠の使用量については、[BeginRange] と [EndRange] を確認します。

無料利用枠の対象となる製品とリージョンのリストについては、[appliesTo] を確認します。

リザーブドインスタンスがあるサービスの料金を確認する

次の手順では、リザーブドインスタンスがあるサービス (Amazon Relational Database Service (Amazon RDS) など) の料金を確認する方法を示します。

CSV ファイルを使用してリザーブドインスタンスの料金を確認するには

1. Amazon EC2 CSV ファイルをダウンロードします。
2. CSV ファイルを任意のアプリケーションで開きます。
3. [TermType] 列をフィルタリングして [reserved] を表示します。

4. 目的の使用タイプとオペレーションを検索します。
5. [LeaseContractLength]、[PurchaseOption]、[OfferingClass] のそれぞれについて、[PricePerUnit] 列で対応する料金を確認します。

JSON ファイルを使用してリザーブドインスタンスの料金を確認するには

1. サービスの JSON ファイルをダウンロードします。
2. 任意のアプリケーションで JSON ファイルを開きます。
3. [terms] と [Reserved] で、目的の SKU を見つけます。

SKU がわからない場合は、[products (製品)] で [usage type (使用タイプ)] と [operation (オペレーション)] を検索します。

同じ製品の [LeaseContractLength]、[PurchaseOption]、および [OfferingClass] で料金を確認できます。

料金更新通知の設定

に関するフィードバックを提供するには AWS の料金表、この[簡単なアンケート](#)に回答してください。回答者は匿名になります。注: このアンケートは英語にのみ対応しています。

料金表ファイルは随時変更されます。料金表ファイルが更新されると、Amazon Simple Notification Service (Amazon SNS) 通知が送信されます。が料金 AWS を下げるときや、新しい製品やサービスが起動されたときなど、料金に変更されたときに通知を受け取るようにを設定できます。

料金が変わるたびに通知を受け取るか、1 日 1 回通知を受け取ることができます。1 日 1 回の通知を受け取るように選択した場合、通知には前日に適用されたすべての料金変更が含まれます。通知を設定して、変更が発生したときに最新のファイルを入手することをお勧めします。

目次

- [Amazon SNS 通知の設定](#)
- [の通知構造 AWS のサービス](#)
- [Savings Plans の通知の構造](#)

Amazon SNS 通知の設定

を使用して Amazon SNS 通知に AWS マネジメントコンソール サインアップできます。

料金表ファイルの更新に関する Amazon SNS 通知を設定するには

1. にサインイン AWS マネジメントコンソール し、<https://console.aws.amazon.com/sns/v3/home> で Amazon SNS コンソールを開きます。
2. Amazon SNS を初めて使用する場合、[今すぐ始める] を選択します。
3. 必要に応じて、ナビゲーションバー AWS リージョン の を米国東部 (バージニア北部) に変更します。
4. ナビゲーションペインで [サブスクリプション] を選択します。
5. [Create subscription] を選択してください。
6. [トピック ARN] には、必要に応じて以下を入力します。
 - サービス料金の場合
 - 料金に変更されるたびに通知を受けるには、`arn:aws:sns:us-east-1:278350005181:price-list-api` と入力します。
 - 料金変更の通知を 1 日に 1 回受け取るには、`arn:aws:sns:us-east-1:278350005181:daily-aggregated-price-list-api` と入力します。
 - Savings Plans 料金の場合は、`arn:aws:sns:us-east-1:626627529009:SavingsPlanPublishNotifications` と入力します。
7. [Protocol (プロトコル)] では、デフォルトの HTTP 設定を使用します。
8. Endpoint には、Amazon Simple Queue Service (Amazon SQS)、または E メールなど AWS Lambda、通知を受信する形式を指定します。
9. [Create subscription] を選択してください。

料金に変更されると、ステップ 8 で指定した形式で通知が届きます。

Important

次のエラーメッセージが表示された場合: サブスクリプションを作成できませんでした。エラーコード: InvalidParameter - エラーメッセージ: 無効なパラメータ: TopicArn、米国東部 (バージニア北部) リージョンを使用していない可能性があります。請求メトリクスデータ

は、リソースが他のリージョンにある場合でも、このリージョンに保存されます。ステップ 3 に戻り、以降の手順を完了します。

の通知構造 AWS のサービス

料金更新通知の件名は次の形式です。

```
[Pricing Update] New <serviceCode> offer file available.
```

Example例: 件名

Amazon Relational Database Service (Amazon RDS) の料金更新通知は次のようになります。

```
[Pricing Update] New AmazonRDS offer file available.
```

Example例: 通知メッセージ

Amazon SQS、Lambda、またはその他のサービス AWS のサービス などの にサブスクライブしている場合、料金更新通知メッセージ本文の構造は次のようになります。

```
{
  "formatVersion": "v1.0",
  "offerCode": "<serviceCode>",
  "version": "<Version number of this new price list>",
  "timeStamp": "<Publish date of this new price list>",
  "url": {
    "JSON": "<JSON URL of the current version price list>",
    "CSV": "<CSV URL of the current version price list>"
  },
  "regionIndex": "<Region index url of the current version price list>",
  "operation": "Publish"
}
```

例えば、Amazon RDS の通知メッセージは次のようになります。

```
{
  "formatVersion": "v1.0",
  "offerCode": "AmazonRDS",
  "version": "20230328234721",
```

```
"timestamp": "2023-03-28T23:47:21Z",
"url": {
  "JSON": "https://pricing.us-east-1.amazonaws.com/offers/v1.0/aws/AmazonRDS/
current/index.json",
  "CSV": "https://pricing.us-east-1.amazonaws.com/offers/v1.0/aws/AmazonRDS/
current/index.csv"
},
"regionIndex": "https://pricing.us-east-1.amazonaws.com/offers/v1.0/aws/AmazonRDS/
current/region_index.json",
"operation": "Publish"
}
```

Example例: E メール通知

E メールに登録した場合、料金更新 E メールメッセージ本文の構造は次のようになります。

Hello,
You've received this notification because you subscribed to receiving updates from SNS topic `arn:aws:sns:us-east-1:278350005181:price-list-api`.

We've published a new version of the offer file for Service `<serviceCode>`. To download the offer file, use the following URLs:

- JSON format : *<JSON URL of the current version price list>*
- CSV format : *<CSV URL url of the current version price list>*

To download the index for the region-specific offer files, use the following URL:

- RegionIndexUrl : *<Region index URL of the current version price list>*

To get a daily email that shows all price changes made the previous day, subscribe to the following SNS topic: `arn:aws:sns:us-east-1:278350005181:daily-aggregated-price-list-api`.

To learn more about offer files and index files, see <http://docs.aws.amazon.com/awsaccountbilling/latest/aboutv2/price-changes.html>.

Thank You,
Amazon Web Services Team

Amazon RDS の E メールメッセージの例は次のようになります。

Hello,
You've received this notification because you subscribed to receiving updates from SNS topic `arn:aws:sns:us-east-1:278350005181:price-list-api`.

We've published a new version of the offer file for Service AmazonRDS. To download the offer file, use the following URLs:

- JSON format : <https://pricing.us-east-1.amazonaws.com/offers/v1.0/aws/AmazonRDS/current/index.json>
- CSV format : <https://pricing.us-east-1.amazonaws.com/offers/v1.0/aws/AmazonRDS/current/index.csv>

To download the index for the region-specific offer files, use the following URL:

- RegionIndexUrl : https://pricing.us-east-1.amazonaws.com/offers/v1.0/aws/AmazonRDS/current/region_index.json

To get a daily email that shows all price changes made the previous day, subscribe to the following SNS topic: `arn:aws:sns:us-east-1:278350005181:daily-aggregated-price-list-api`.

To learn more about offer files and index files, see <http://docs.aws.amazon.com/awsaccountbilling/latest/aboutv2/price-changes.html>.

Thank You,
Amazon Web Services Team

Savings Plans の通知の構造

料金更新通知の件名は次の形式です。

```
[Pricing Update] New <Savings Plan name> is available.
```

Example例: Savings Plans の件名

Savings Plans の件名は次のようになります。

```
[Pricing Update] New AWS Compute Savings Plan is available.
```

Example例: 通知メッセージ

Amazon SQS、Lambda、またはその他のサービス AWS のサービス などの にサブスクライブしている場合、料金更新通知メッセージ本文の構造は次のようになります。

```
{  
  "version": "<Version number of this new price list>",
```



```
"offerCode": "<savingsPlanCode which can be used as input to API calls>",
"savingsPlanCode": "<savingsPlan Name>",
"topicArn": "arn:aws:sns:us-east-1:626627529009:SavingsPlanPublishNotifications",
"versionIndex": "<version index url of the version price list>",
"regionIndex": "<Region index URL of the version price list>"
}
```

例えば、ComputeSavingsPlans の通知は次のようになります。

```
{
  "version": "20230509202901",
  "offerCode": "AWSComputeSavingsPlan",
  "savingsPlanCode": "ComputeSavingsPlans",
  "topicArn": "arn:aws:sns:us-east-1:626627529009:SavingsPlanPublishNotifications",
  "versionIndex": "https://pricing.us-east-1.amazonaws.com/savingsPlan/v1.0/aws/AWSComputeSavingsPlan/20230509202901/index.json",
  "regionIndex": "https://pricing.us-east-1.amazonaws.com/savingsPlan/v1.0/aws/AWSComputeSavingsPlan/20230509202901/region_index.json"
}
```

Example例: E メール通知

E メールに登録した場合、料金更新 E メール本文の構造は次のようになります。

```
Hello,
```

You've received this notification because you subscribed to receiving updates from SNS topic arn:aws:sns:us-east-1:626627529009:SavingsPlanPublishNotifications.

We've published a new version of *<Savings Plan name>*.

To download the index of current region specific savings plans, use the following URL:

- *<Region index URL of the version price list>*

To download the index of previous versions of savings plans, use the following URL:

- *<version index URL of the version price list>*

To learn more about Savings Plans, see <http://docs.aws.amazon.com/awsaccountbilling/latest/aboutv2/price-changes.html>.

To learn about finding Savings Plan prices in an offer file, see <https://docs.aws.amazon.com/awsaccountbilling/latest/aboutv2/sp-offer-file.html>

Thank You,

Amazon Web Services Team

例えば、Savings Plans の E メール本文は次のようになります。

Hello,

You've received this notification because you subscribed to receiving updates from SNS topic `arn:aws:sns:us-east-1:626627529009:SavingsPlanPublishNotifications`.

We've published a new version of Compute Savings Plans.

To download the index of current region specific savings plans, use the following URL:

- `https://pricing.us-east-1.amazonaws.com/savingsPlan/v1.0/aws/AWSComputeSavingsPlan/20230509202901/region_index.json`

To download the index of previous versions of savings plans, use the following URL:

- `https://pricing.us-east-1.amazonaws.com/savingsPlan/v1.0/aws/AWSComputeSavingsPlan/20230509202901/index.json`

To learn more about savings plans, see `http://docs.aws.amazon.com/awsaccountbilling/latest/aboutv2/price-changes.html`.

To learn about finding Savings Plan prices in an offer file, see `https://docs.aws.amazon.com/awsaccountbilling/latest/aboutv2/sp-offer-file.html`

Thank You,

Amazon Web Services Team

請求管理を外部アカウントに転送する

請求転送により、管理アカウントは組織外のアカウントを指定して、一括請求を管理および支払うことができます。請求転送を設定するには、外部アカウント (請求転送アカウント) が管理アカウント (請求ソースアカウント) に請求転送の招待を送信します。承諾された場合、外部アカウントは請求書転送アカウントになり、招待で指定された日付から、請求書ソースアカウントの一括請求を管理および支払います。

トピック

- [用語と概念](#)
- [考慮事項](#)
- [重要な影響](#)
- [請求転送の仕組み](#)
- [招待の送信](#)
- [招待の表示](#)
- [招待のキャンセル](#)
- [招待への応答](#)
- [転送の表示](#)
- [転送の更新](#)
- [転送の取り消し](#)
- [請求情報とコスト管理データを請求転送アカウントとして表示する](#)
- [クォータ](#)
- [ベストプラクティス](#)

用語と概念

管理アカウント

管理アカウントは、組織を作成して所有するアカウントです。詳しくは、[\[AWS Organizations terminology and concepts\]](#) (用語と概念) をご覧ください。

支払者アカウント

支払者アカウントは、一括請求の生成、管理、支払いを行うアカウントです。

請求書転送アカウント

請求書転送アカウントは、別の管理アカウントの一括請求を管理および支払うために指定された管理アカウントです。

請求元アカウント

請求元アカウントは、一括請求を生成するアカウントです。

請求転送の招待

請求転送の招待は、受信者が送信者のアカウントを請求転送アカウントとして指定するリクエストです。

請求転送

請求転送は、1つの管理アカウントが他の管理アカウントの一括請求を管理および支払う2つの管理アカウントと、その下のメンバーアカウントの間の協定です。

考慮事項

管理アカウントのみが招待を送信できます

招待は管理アカウント間でのみ送信できます。

招待は一方方向です

一括請求を管理および支払うアカウント (請求書転送アカウント) のみが招待を送信できます。請求元アカウントは、他のアカウントに一括請求の管理と支払いを求める招待を送信できません。

招待は、請求転送の発効日より前に承諾する必要があります

招待は、UTC 時間で請求転送開始日の 24 時間前に承諾する必要があります。開始日は、招待で指定された月の最初の日です。たとえば、開始日が 2 月 1 日の招待は、1 月 30 日 7PM 時 EST までに承諾する必要があります。

引き出しは、移管内のいずれかの管理アカウントによって実行できます。

移管に関係するいずれの管理アカウントも、移管をいつでも取り消すことができます。

移管開始日と終了日が暦月と一致している

招待が承諾された場合、開始日は招待で指定された月の最初の日の午前 00:00:00 UTC です (東部標準時の場合、月の最初の日の前の夜の午後 8:00 です)。

移管が取り消された場合、終了日は当月または翌月の最終日の 23:59:59 UTC です (東部標準時の場合、月の最終日の前夜の午後 7:59 です)。

コンソールを使用して Billing Transfer をセットアップするには、AWS Billing Conductor を使用する必要があります

AWS Billing Conductor を使用すると、請求ソースアカウントは、アカウント (請求転送アカウント) によって設定された見積りコストデータを表示できます。AWS Billing Conductor の使用に対して料金が発生します。AWS Billing Conductor を使用しない場合は、API を使用して Billing Transfer を設定できます。Billing AWS Conductor を設定して、請求ソースアカウントが見積りコストデータにアクセスできるようにすることをお勧めします。詳細については、[AWS「Billing Conductor の料金」](#)を参照してください。

重要な影響

Billing Transfer にオプトインする前に、以下の考慮事項と請求元アカウントへの影響を確認してください。

履歴データアクセスの喪失

移行後、履歴コストデータは AWS Cost Explorer、AWS Budgets および AWS Cost Anomaly Detection で使用できなくなります。コストと予算の予測ツールでは、正確な予測を行うために 36 ~ 60 日間の新しいデータが必要です。AWS Cost and Usage Report (CUR) ファイルは使用できなくなります。

推奨されるアクション:

- 移行前に過去のコストデータと CUR ファイルをダウンロードする
- 履歴データを視覚化するように CUDOS ダッシュボードを設定する

CUR の再設定要件

転送後、既存の AWS Cost and Usage Report (CUR) 設定は非アクティブになり、として表示されます Unhealthy。

推奨されるアクション:

- 転送後に CUR 設定を再設定する

Billing Transfer に固有の見積り請求の制限

見積り請求データは、一部の料金要素がまだサポートされていないため、請求エンティティからの最終請求書と一致しない場合があります。サポート プラン料金、AWS クレジット、AWS 無料利用枠の使用 (クレジットベースの無料利用枠のみ) という項目は、見積り請求データに表示されません。

請求書レシーバーは、AWS Billing Conductor を使用して、見積り請求アーティファクトに表示されるようにこれらの項目を設定できます。詳細については、「[Billing Conductor](#)」を参照してください。

クレジット追跡の制限

請求ソースアカウントは、請求情報とコスト管理コンソールのクレジットページでクレジット残高を追跡できません。これはend-of-monthの純支出を予測する能力に影響します。

請求書ソースアカウントは、見積りアーティファクト (AWS CUR、Cost Explorer、請求書ページ) bu default で AWS クレジットを表示できません。

請求元アカウントは、クレジットページ (MAP など) で契約クレジットを表示できません。推奨事項: 請求転送アカウントは、AWS Billing Conductor 機能を使用して、見積り請求アーティファクトのクレジットを明示的にモデル化できます。詳細については、「[Billing Conductor](#)」を参照してください。

Note

契約クレジットはクレジットページには引き続き表示されませんが、見積りアーティファクトには表示されます。

リザーブドインスタンスと Savings Plans の推奨事項

Savings のレコメンデーションは、パブリック料金に基づいています。推奨される購入金額は正確ですが、予想される削減額は実際の削減額よりも高い可能性があります。

適切なサイジングに関する推奨事項

請求元アカウントは、割引前のレコメンデーションにのみアクセスできます。請求転送ユーザーは、割引後のレコメンデーションを使用できません。

推奨されるアクション: 既存のリザーブドインスタンスと Savings Plans インベントリに対して適切なサイズ設定の推奨事項を検証します。

コスト分析の制限

請求元アカウントで Cost Explorer を使用すると、日単位または月単位で見積りデータを表示できます。Cost Explorer では、プロフォーマデータの時間単位の詳細度は使用できません。時間単位の詳細度でコストを分析するには、AWS Cost and Usage Report (CUR) を使用できます。

コストカテゴリとタグ

請求ソースアカウントによって設定されたコストカテゴリとコスト配分タグは、請求受信者が設定した AWS Cost and Usage Report (CUR) に表示されます。

請求転送の仕組み

請求転送は招待で始まります。外部アカウント (請求転送アカウント) は、請求転送の招待を別の組織の管理アカウント (請求元アカウント) に送信します。招待には、請求書転送アカウントが請求書ソースアカウントの一括請求の管理と支払いを開始する日付が含まれます。招待を送信する場合、請求書転送アカウントは、チャージバックまたはショーバックの目的で、請求元アカウントに割り当てられたクラウドコストを計算する料金設定を選択する必要があります。請求書転送アカウントは、Billing Conductor の基本料金と既存のカスタム料金の 2 つの Billing Conductor 料金設定から選択できます。

料金設定の詳細については、「」を参照してください[AWS Billing Conductor](#)。

請求元アカウントは E メール通知を受け取ります。招待が承諾されると、請求書転送アカウントは、招待で指定された開始日から、請求書ソースアカウントの一括請求を管理および支払うように指定されます。

移管が開始されると、請求書移管アカウントは次のようになります。

- 移管が有効になった後に、AWS 請求書ソースアカウントから個別の請求書 (個別の一括請求書など) を受け取ります。これらは、請求書転送アカウントにのみ表示されます。詳細については、「[とは AWS Billing and Cost Management](#)」を参照してください。
- Billing Conductor を使用して、Billing and Cost Management コンソールで請求ソースアカウントに表示されるコストデータを制御します。
- 請求ソースアカウントごとに 2 つの請求転送ビューにアクセスできます。
 - マイビュー: 請求書転送アカウントが財務的責任を負う請求データを表示します。
 - ショーバック/チャージバックビュー: Billing Conductor を使用して、ショーバックまたはチャージバックの目的で Billing Conductor を介して設定された請求データを表示します。

請求書転送アカウントは、Cost Explorer、Budgets AWS Cost and Usage Report、Bills ページでこれらの請求ビューにアクセスできます。

Note

AWS パートナーとして、新しいアカウントが請求書を請求書転送アカウントに転送するとき、AWS Cost and Usage Report 請求転送の開始後 (招待で指定)、および顧客のチャージバック AWS Cost and Usage Report にを使用する場合は請求サイクルの終了前にを設定する必要があります。

詳細については、[AWS「コスト管理ユーザーガイド」](#)を参照してください。

移管が開始されると、請求元アカウントは次のようになります。

- ・ は、移管開始日より前の使用料を支払う責任があります。
- ・ は AWS、請求書の移管アカウントに送られるため、移管開始日以降に使用された請求書を受信しなくなりました。
- ・ は、請求されたコストデータ (の料金) にアクセスできなくなりました AWS。
- ・ 請求ソースアカウントとそのメンバーアカウントは請求グループに追加され、Billing Conductor を通じて請求転送アカウントによって料金設定されているコスト (非パブリック割引料金またはカスタム料金の合計) のみを表示できます。請求書転送アカウントは、Cost Explorer および で請求書ソースアカウントの消費と請求のメタデータ (コストカテゴリやコスト配分タグなど) を表示できます AWS Cost and Usage Report。

請求ソースアカウントで利用できる請求およびコスト管理サービスの詳細については、[AWS 請求グループのアカウントのサービス](#)を参照してください。請求グループの詳細については、「[請求グループ](#)」を参照してください。

どちらのアカウント (請求元アカウントまたは請求転送アカウント) でも、請求転送はいつでも取り消すことができます。

転送フェーズ	一括請求の管理と支払い用に指定されたアカウント
転送が開始されたとき	・ 開始日より前に発生した料金の一括請求は、組織独自の管理アカウント (請求元アカウント) によって管理され、支払われます。

転送フェーズ	一括請求の管理と支払い用に指定されたアカウント
	開始日以降に発生した料金の一括請求は、請求転送アカウントによって管理され、支払われます。
転送が終了したとき	- 開始日と終了日の間に発生した料金の一括請求は、請求書転送アカウントによって管理され、支払われます。 - 終了日以降に発生した料金の一括請求は、組織独自の管理アカウント (請求元アカウント) によって管理され、支払われます。

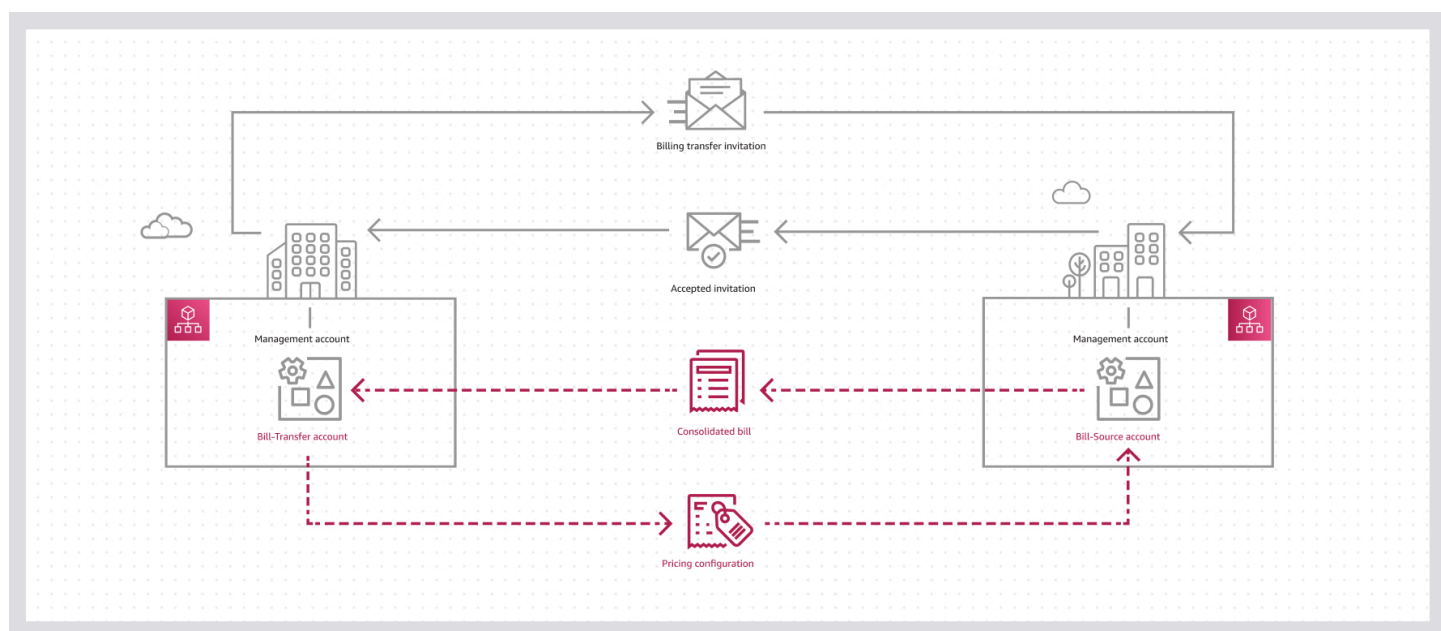


図 1: 2 つの組織間の請求転送の仕組みを示す図。

請求転送は、それ AWS Organizations を使用する各 の計算境界には影響しません。ボリューム割引階層、リザーブドインスタンス、Savings Plans は引き続き計算され、個々の AWS Organizations レベルで適用されます。請求転送ユーザーのリザーブドインスタンスと Savings Plans の詳細については、[リザーブドインスタンス](#)「」および「」を参照してください [Savings Plans によるコストの計算](#)。

2 レベルの請求転送

請求転送は、選択したアカウントの 2 レベルの転送をサポートします。請求書移管アカウントは、独自の請求書とすべての請求書ソースアカウント請求書を外部管理アカウント (請求書移管レシー

バー) に移管できます。この受信アカウントは、元の請求書ソースアカウントと中間請求書転送アカウントの両方から請求書を支払う責任があります。このアカウントは、請求書の転送時に請求書ソースアカウントになります。2 レベル転送の詳細については、「」を参照してください[クォータ](#)。

表 1: 1 レベル転送でのロールの説明

アカウントロール	ロールの説明
請求ソース	一括請求書を生成し、その請求書を外部管理アカウントに移管することに同意するアカウント
請求書の転送	請求元アカウントの一括請求書と独自のアカウントの一括請求書を受け取り、支払うアカウント。このアカウントは、AWS Billing Conductor を使用して、Bill Source アカウントに表示されるクラウドコストデータの料金も管理します。

表 2: 2 レベル転送でのロールの説明

アカウントロール	ロールの説明
請求ソース	一括請求書を生成し、その請求書を外部管理アカウントに移管することに同意するアカウント
請求書の転送	このアカウントはさらに、請求書と請求書ソースアカウントの請求書を別の請求書転送アカウント (請求書受取人) に転送します。その結果、このアカウントは、請求元アカウントに対する請求書転送アカウントであり、請求元アカウント (請求受取人) に対する請求書転送アカウントです。このアカウントは、AWS Billing Conductor を使用して、Bill Source アカウントに表示されるクラウドコストの料金も管理します。
請求書転送 (請求書レシーバー)	請求書ソースアカウントの一括請求書 (請求書転送アカウントを含む) と、自分のアカウントの一括請求書を受け取って支払うアカウント。このアカウントは、AWS Billing Conductor を使用して、すべての Bill Source アカウント (Bill Transfer アカウントを含む) のクラウドコストの料金も管理します。Bill Transfer アカウントは、Bill Transfer (Bill Receiver) アカウントによって価格設定された Bill Source アカウントのコストのみを表示します。

アカウントロール	ロールの説明
	Bill Source アカウントは、Bill Transfer アカウントによって価格設定されたコストのみを表示するためです。

Note

- 請求書転送 (請求レシーバー) アカウントは、請求元アカウントに招待を送信しません。請求書の転送によって招待が送信されます。請求書ソースアカウントが承諾すると、請求書レシーバーは CloudTrail 通知を受け取り、請求書ソースアカウントの請求を自動的に引き受けます。
- 2 レベルの転送設定では、請求レシーバーは Billing Conductor を使用して請求ソースアカウントの組織内の AWS 請求グループを設定する必要があります。この設定により、請求レシーバーは請求ソースアカウントから割り当てられたコストを表示できます。AWS Partner Network (APN) ディストリビューションプログラム参加者の場合、これによりダウンストリーム販売者は、エンドユーザーの使用についてディストリビューターに支払うべき金額を追跡できます。この設定の自動化については、[お問い合わせ](#) してください サポート。

Important

AWS パートナーとして、新しいアカウントが単一レベルまたは 2 レベルの転送を介して請求書を請求書転送アカウントに転送する場合、AWS Cost and Usage Report 請求転送の開始後 (招待で指定)、および顧客のチャージバック AWS Cost and Usage Report に を使用する場合は請求サイクルの終了前に を設定する必要があります。

詳細については、「[Billing Conductor](#)」を参照してください。

関連サービス

AWS Billing and Cost Management

AWS Billing and Cost Management は、請求の設定、請求書の取得と支払い、コストの分析、整理、計画、最適化に役立ちます。開始するには、請求設定をセットアップします。個人または小

規模な組織の場合、AWS はクレジットカードに自動的に請求します。大規模な組織では、AWS Organizations を使用して複数の AWS アカウント間で料金を統合できます。その後、組織の調達プロセスに合わせて請求、税金、発注書、支払い方法を設定できます。

チーム、アプリケーション、または環境にコストを割り当てるには、コストカテゴリまたはコスト配分タグを使用するか、Cost Explorer を使用します。また、お好みのデータウェアハウスやビジネスインテリジェンスツールにデータをエクスポートすることもできます。詳細については、「[とは AWS Billing and Cost Management](#)」を参照してください。

Billing Conductor

Billing Conductor は、AWS サービスとソリューションを再販する AWS パートナー、およびクラウドサービスを直接購入する AWS 顧客向けのショーバックとチャージバックのワークフローをサポートするカスタム請求サービスです。毎月の請求データのカスタマイズされたバージョンを作成できます。このサービスは、お客様とその顧客またはビジネスユニット間の請求関係をモデル化します。Billing Conductor は、が毎月 AWS 請求する方法を変更しません。代わりに、特定の請求期間における特定の顧客のレートを設定、生成、表示できます。グループ化に適用するレートと、それらのアカウントの実際の AWS レートの差を分析することもできます。Billing Conductor の設定では、管理アカウントは AWS Billing and Cost Management コンソールの請求詳細ページに適用されるカスタムレートを確認できます。管理アカウントは、請求グループ AWS Cost and Usage Report ごとに設定することもできます。

請求書転送アカウントユーザーがサインインすると、Billing Conductor は、請求書 AWS Organizations 転送の管理アカウント (請求書ソースアカウント) に、請求書転送アカウントからの料金で設定された使用量のみを表示することを許可します。

詳細については、「[Billing Conductor](#)」を参照してください。

請求ビュー

請求ビューは、AWS 環境内のコスト管理データへのアクセスを管理および制御するのに役立つ機能です。請求ビューは、コスト管理データを AWS リソースとして表します。リソースベースのポリシーを使用すると、AWS Billing and Cost Management ツールを使用する際にアクセス可能なデータを設定できます。各請求ビューには一意の Amazon リソースネーム (ARN) があり、アイデンティティベースのポリシーで参照して、その請求ビューのコスト管理データに対して特定の IAM アクションを実行できます。

詳細については、「[Billing View によるコスト管理データアクセスの制御](#)」を参照してください。

主な利点

請求転送を使用する主な利点は次のとおりです。

- 個別の請求と管理: 招待を承諾した管理アカウントは組織を完全に管理し、一括請求は請求書転送アカウントによって管理され、支払いが行われます。
- 料金のプライバシー: 転送が開始されると、請求転送アカウントは [AWS Billing Conductor](#) を使用して請求元アカウントに表示される料金を管理します。
- 一元的な請求管理: 複数の組織の一括請求を 1 つの請求書転送アカウントから管理して支払うことができます。

招待の送信

組織の管理アカウントにサインインすると、別の組織の管理アカウントを招待して、一括請求を管理および支払うアカウントを指定できます。

考慮事項

管理アカウントのみが招待を送信できます

招待は管理アカウント間でのみ送信できます。

招待は一方向です

一括請求を管理および支払うアカウント (請求書転送アカウント) のみが招待を送信できます。請求元アカウントは、他のアカウントに一括請求の管理と支払いを求める招待を送信できません。

招待は開始日より前に承諾する必要があります

招待は、請求転送開始日の 24 時間前に承諾する必要があります。たとえば、開始日が 5 月 1 日の招待は、開始日の 2 日前である 4 月 29 日午後 6 時 59 分 59 秒東部標準時 (UTC 午後 11 時 59 分 59 秒) までに承諾する必要があります。

転送は月初に開始されます

招待が承諾された場合、開始日は招待で指定された月の最初の日 (UTC) です (東部標準時の場合、月の最初の日の前夜の午後 7:00 です)。

この新規ユーザーに招待を送信しますか。

請求転送の招待を送信するには、次の手順を実行します。

用語と概念

以下は、AWS Billing and Cost Management コンソールで使用される用語と概念です。

- インバウンド請求: 別の組織の一括請求を管理して支払うことができる請求転送。
- アウトバウンド請求: 組織外のアカун트가一括請求を管理および支払うことを許可する請求転送。

最小アクセス許可

招待を送信するには、次のアクセス許可が必要です。

- `organizations:InviteOrganizationToTransferResponsibility`
- `billingconductor:CreateBillingGroup`
- `billingconductor:ListPricingPlans`

招待を送信するには

1. にサインイン AWS マネジメントコンソール し、<https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. 設定と設定の左側のナビゲーションで、請求転送を選択します。
3. 請求転送ページで、インバウンド請求タブを選択します。
4. インバウンド請求ページで、招待の送信を選択します。
5. 請求転送の招待の送信ページで、次の情報を入力します。
 - 名前: 転送に割り当てる名前。

Note

請求書レシーバーアカウントとして 2 レベルの請求転送を使用する場合、直接転送の名前のみを制御できます。請求書転送アカウントは、請求書ソースアカウントの転送名を制御します。ディストリビューションパートナーの場合、請求転送ごとにダウンストリーム販売者の名前を一貫して使用することをお勧めします。これに

より、特定のダウンストリーム販売者に関連付けられているすべての請求転送を検索できます。

- AWS 管理アカウントの E メールアドレスまたはアカウント ID: 招待するアカウント。これは組織の管理アカウントである必要があります。
- 月別請求期間開始日: アカウントが一括請求の管理と支払いを開始する開始日。翌月の初日または 2 か月後のいずれかになります。

 Note

開始日は、選択した月の最初の日です。転送は、招待が承諾された日付に関係なく、開始日に開始されます。招待は、開始日の 2 日前の東部標準時の午後 8 時に期限切れになります。

- 料金設定: 転送が開始されると、請求元アカウントに表示される料金。
- (オプション) リクエストに含めるメッセージ: 管理アカウントに送信される E メールに含まれるテキスト。たとえば、「Hello account owner, I'd to pay your organization's consolidated bill」と入力します。
- (オプション) 新しいタグを追加する: インバウンド転送に自動的に適用される 1 つ以上のタグを指定します。これを行うには、[Add tag] (タグの追加) を選択してから、キーとオプションの値を入力します。値を空白のままにすると、空の文字列が設定され、null にはなりません。インバウンド転送には最大 50 個のタグをアタッチできます。

6. 請求転送の招待の送信ページで、招待の送信を選択します。

招待を送信するには

以下のいずれかのオペレーションを使用することもできます。

- AWS CLI: [invite-organization-to-transfer-responsibility](#)

```
$ C:\> organizations invite-organization-to-transfer-responsibility \
--type BILLING \
--target '[{"Id":"123456789012","Type":"ACCOUNT"}]' \
--start-timestamp yyyy-MM-dd HH:mm:ss.SSS \
--sourceName "My billing transfer" \
--notes "Optional notes for the invitation"
--tags '[{"Key":"exampleKey","Value":"exampleValue"}]'
```


- **type** (必須): BILLING。
- **target** (必須): HandshakeParty オブジェクト。招待するアカウントの詳細が含まれます。
 - Id: 招待するアカウントの E メールアドレスまたはアカウント ID。例:
`{"Id":"alejandro_rosalez@example.com","Type":"EMAIL"}`
 - Type: 参加者の ID のタイプ: ACCOUNTまたは EMAIL。
- **start-timestamp** (必須): アカウントが一括請求の管理と支払いを開始する開始日。翌月の初日または 2 か月後のいずれかになります。1 日の先頭 (00:00:00.000) である必要があります。

 Note

開始日は、選択した月の最初の日です。転送は、招待が承諾された日付に関係なく、開始日に開始されます。招待は、開始日の 2 日前の東部標準時の午後 8 時に期限切れになります。

- **sourceName** (オプション): 転送に割り当てる名前。
- **notes** (オプション): 管理アカウントに送信される E メールに含まれるテキスト。たとえば、「Hello account owner, I'd to pay your organization's consolidated bill」と入力します。
- **tags (Optional)**: インバウンド転送に自動的に適用される 1 つ以上のタグを指定します。インバウンド転送には最大 50 個のタグをアタッチできます。
- AWS SDKs: [InviteOrganizationToTransferResponsibility](#)

次のステップ

招待に対する応答を受け取ると、E メール通知が送信されます。招待を送信したら、AWS Billing and Cost Management コンソールまたは を使用してステータスをモニタリングできます。詳細については、「[招待の表示](#)」を参照してください。

招待の表示

組織の管理アカウントにサインインすると、送信または受信した最近の招待を表示できます。

ステータス

招待のステータスは次のとおりです。

- 応答待ち (REQUESTED): 受信者からの応答待ちの招待。
- 招待が拒否されました (DECLINED): 受信者によって招待が拒否されました。
- 招待がキャンセルされました (CANCELED): 送信者によって招待がキャンセルされました。
- 招待の有効期限が切れました (EXPIRED): 招待の有効期限が切れています。

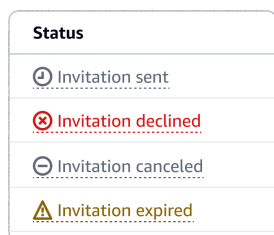


図 1: AWS Billing and Cost Management コンソールに表示される招待の像。

招待を表示する

用語と概念

以下は、AWS Billing and Cost Management コンソールで使用される用語と概念です。

- インバウンド請求: 別の組織の一括請求を管理して支払うことができる請求転送。
- アウトバウンド請求: 組織外のアカウントが一括請求を管理および支払うことを許可する請求転送。

最小アクセス許可

招待を表示するには、次のアクセス許可が必要です。

- `organizations:ListHandshakesForOrganization`
- `organizations:ListHandshakesForAccount`
- `organizations:DescribeHandshake`

招待を表示するには、次の手順を実行します。

招待を表示するには

1. にサインイン AWS マネジメントコンソール し、<https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. 設定と設定の左側のナビゲーションで、請求転送を選択します。
3. インバウンド請求の場合:
 - a. 請求転送ページで、インバウンド請求タブを選択します。
 - b. インバウンド請求タブで、詳細を表示する招待を選択します。
 - c. アクションドロップダウンメニューを選択し、詳細の表示を選択します。
4. アウトバウンド請求の場合:
 - a. 請求転送ページで、アウトバウンド請求タブを選択します。
 - b. アウトバウンド請求タブで、招待の詳細を表示できます。

 招待は 30 日後に削除されます

招待は、削除されるまで 30 日間表示できます。招待を受け入れても、その転送の詳細は削除されません。

招待を表示するには

以下のいずれかのオペレーションを使用することもできます。

- AWS CLI: [list-handshakes-for-organization](#)、[list-handshakes-for-account](#)、および [describe-handshake](#)

1. 送信した招待の場合:

次のコマンドを実行して、[ハンドシェイク](#) ID を見つけます。

```
$ C:\> aws organizations list-handshakes-for-organization
```

招待を受け取った場合:

次のコマンドを実行して、[ハンドシェイク](#) ID を見つけます。

```
$ C:\> aws organizations list-handshakes-for-account
```

- レスポンスから、詳細を表示する招待のハンドシェイク ID を書き留めます。
- 次のコマンドを実行して、招待の詳細を表示します。

```
$ C:\> aws organizations describe-handshake \  
--id examplehandshakeid
```

- AWS SDKs: [list-handshakes-for-organization](#)、[list-handshakes-for-account](#)、および [describe-handshake](#)

招待は 30 日後に削除されます

招待は、削除されるまで 30 日間表示できます。招待を受け入れても、その転送の詳細は削除されません。

招待のキャンセル

組織の管理アカウントにサインインすると、送信したがまだ応答していない招待をキャンセルできます。

招待をキャンセルする

用語と概念

以下は、AWS Billing and Cost Management コンソールで使用される用語と概念です。

- インバウンド請求: 別の組織の一括請求を管理して支払うことができる請求転送。
- アウトバウンド請求: 組織外のアカウントが一括請求を管理および支払うことを許可する請求転送。

最小アクセス許可

招待をキャンセルするには、次のアクセス許可が必要です。

- `organizations:ListHandshakesForOrganization`
- `organizations:CancelHandshake`

招待をキャンセルするには、次の手順を実行します。

招待をキャンセルするには

1. にサインイン AWS マネジメントコンソール し、<https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. 設定と設定の左側のナビゲーションで、請求転送を選択します。
3. インバウンド請求タブで、キャンセルする招待を選択します。
4. Actions ドロップダウンメニューを選択し、Cancel を選択します。

招待をキャンセルするには

以下のいずれかのオペレーションを使用することもできます。

- AWS CLI: [list-handshakes-for-organization](#) および [cancel-handshake](#)

1. 次のコマンドを実行して、[ハンドシェイク](#) ID を見つけます。

```
$ C:\> aws organizations list-handshakes-for-organization
```

2. レスポンスから、キャンセルする招待のハンドシェイク ID を書き留めます。
3. 次のコマンドを実行して、招待をキャンセルします。

```
$ C:\> aws organizations cancel-handshake \  
--id examplehandshakeid
```

- AWS SDKs: [list-handshakes-for-organization](#)、[cancel-handshake](#)

次のステップ

招待をキャンセルすると、AWS Billing and Cost Management コンソールまたは を使用して、いつでも別の招待を送信できます。詳細については、「[招待の送信](#)」を参照してください。

招待への応答

組織の管理アカウントにサインインすると、受信した招待に応答できます。

考慮事項

転送は継承されます

別の組織の請求転送アカウントで、別のアカウントからの請求転送の招待を受け入れると、そのアカウントは請求転送アカウントになり、管理および支払いを行う一括請求を管理および支払います。

転送は月初に開始されます

招待が承諾された場合、開始日は招待で指定された月の最初の日の 00:00:00 UTC です (東部標準時の場合、月の最初の日の前の夜の午後 7:00 です)。

招待は開始日より前に承諾する必要があります

招待は、請求転送開始日の 24 時間前に承諾する必要があります。たとえば、開始日が 5 月 1 日の招待は、開始日の 2 日前である 4 月 29 日午後 6 時 59 分 59 秒東部標準時 (UTC 午後 11 時 59 分 59 秒) までに承諾する必要があります。

招待に応答する

用語と概念

以下は、AWS Billing and Cost Management コンソールで使用される用語と概念です。

- インバウンド請求: 別の組織の一括請求を管理して支払うことができる請求転送。
- アウトバウンド請求: 組織外のアカウントが一括請求を管理および支払うことを許可する請求転送。

最小アクセス許可

招待に応答するには、次のアクセス許可アクションが必要です。

- `organizations:ListHandshakesAccount`
- `organizations:AcceptHandshake`

- `organizations:DeclineHandshake`

招待に応答するには、次の手順を実行します。

招待に応答するには

1. にサインイン AWS マネジメントコンソール し、<https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. 設定と設定の左側のナビゲーションで、請求転送を選択します。
3. 請求転送ページで、アウトバウンド請求タブを選択します。
4. アウトバウンド請求タブで、アラートボックスの詳細を表示を選択します。
5. 招待の詳細ページで、拒否または承諾を選択します。

招待に応答するには

以下のいずれかのオペレーションを使用することもできます。

- AWS CLI: [list-handshakes-for-account](#)、[Accept-handshake](#)、および [decline-handshake](#)

1. 次のコマンドを実行して、[ハンドシェイク](#) ID を見つけます。

```
$ C:\> aws organizations list-handshakes-for-account \
--filter HandshakeType=TRANSFER_RESPONSIBILITY
```

2. レスポンスから、応答する招待のハンドシェイク ID を書き留めます。
3. リクエストを受け入れるには:

次のコマンドを実行して招待を受け入れます。

```
$ C:\> aws organizations accept-handshake \
--handshake-id examplehandshakeid
```

リクエストを拒否するには:

次のコマンドを実行して、招待を拒否します。

```
$ C:\> aws organizations decline-handshake \
--handshake-id examplehandshakeid
```

- AWS SDKs: [ListHandshakesForAccount](#)、[AcceptHandshake](#)、[DeclineHandshake](#)

次のステップ

招待を承諾したら、コンソールまたは を使用してステータス AWS Billing and Cost Management をモニタリングできます。詳細については、「[転送の表示](#)」を参照してください。招待を拒否した場合、または招待の有効期限が切れた場合、転送を開始するには、招待を送信したアカウントが別のアカウントを送信する必要があります。

転送の表示

組織の管理アカウントにサインインすると、転送を表示できます。

ステータス

転送のステータスは次のとおりです。

- Transfer accepted (ACCEPTED): 招待が受信者によって承諾されました。転送は開始日に開始されます。
- 転送が取り消されました (WITHDRAWN): 転送が取り消されました。転送は終了日に終了します。

Status
 Transfer accepted
 Transfer withdrawn

図 1: AWS Billing and Cost Management コンソールに表示される転送ステータス。

転送を表示する

用語と概念

以下は、AWS Billing and Cost Management コンソールで使用する用語と概念です。

- インバウンド請求: 別の組織の一括請求を管理して支払うことができる請求転送。
- アウトバウンド請求: 組織外のアカウントが一括請求を管理および支払うことを許可する請求転送。

最小アクセス許可

転送を表示するには、次のアクセス許可が必要です。

- `organizations:ListInboundResponsibilityTransfers`
- `organizations:ListOutboundResponsibilityTransfers`
- `organizations:DescribeResponsibilityTransfer`

転送を表示するには、次の手順を実行します。

転送を表示するには

1. にサインイン AWS マネジメントコンソール し、<https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. 設定と設定の左側のナビゲーションで、請求転送を選択します。
3. インバウンド請求の場合:
 - a. 請求転送ページで、インバウンド請求タブを選択します。
 - b. インバウンド請求タブで、詳細を表示する転送を選択します。
 - c. アクションドロップダウンメニューを選択し、詳細の表示を選択します。
4. アウトバウンド請求の場合:
 - a. 請求転送ページで、アウトバウンド請求タブを選択します。
 - b. アウトバウンド請求タブで、転送の詳細を表示できます。

転送を表示するには

以下のいずれかのオペレーションを使用することもできます。

- AWS CLI: [list-inbound-responsibility-transfers](#)、[list-outbound-responsibility-transfers](#)、および [describe-responsibility-transfer](#)

1. インバウンド請求の場合:

次のコマンドを実行して、インバウンド請求の請求転送 ID を検索します。

```
$ C:\> aws organizations list-inbound-responsibility-transfers \
--type BILLING
```

アウトバウンド請求の場合:

次のコマンドを実行して、アウトバウンド請求の請求転送 ID を検索します。

```
$ C:\> aws organizations list-outbound-responsibility-transfers \
--type BILLING
```

2. レスポンスから、詳細を表示する転送の請求転送 ID を書き留めます。
3. 次のコマンドを実行して、転送の詳細を表示します。

```
$ C:\> aws organizations describe-responsibility-transfer \
--id exampleid
```

- AWS SDKs: [list-inbound-responsibility-transfers](#)、[list-outbound-responsibility-transfers](#)、および [describe-responsibility-transfer](#)

転送の更新

組織の管理アカウントにサインインすると、転送に割り当てられた名前を更新して、別の組織の一括請求を管理して支払うことができます。これにより、転送を特定して整理できます。

名前は、ユーザーと移管を継承するアカウントにのみ表示されます。

転送を更新する

用語と概念

以下は、AWS Billing and Cost Management コンソールで使用される用語と概念です。

- インバウンド請求: 別の組織の一括請求を管理して支払うことができる請求転送。

- アウトバウンド請求: 組織外のアカウントが一括請求を管理および支払うことを許可する請求転送。

最小アクセス許可

転送を更新するには、に次のアクセス許可が必要です。

- `organizations:ListInboundResponsibilityTransfers`
- `organizations:ListOutboundResponsibilityTransfers`
- `organizations:UpdateResponsibilityTransfer`

転送を更新するには、次の手順を実行します。

転送を更新するには

1. にサインイン AWS マネジメントコンソール し、<https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. 設定と設定の左側のナビゲーションで、請求転送を選択します。
3. インバウンド請求タブで、更新する転送を選択します。
4. Actions ドロップダウンメニューを選択し、Edit name を選択します。
5. 転送名の編集ダイアログボックスで、新しい名前を入力し、名前の更新を選択します。

転送を更新するには

以下のいずれかのオペレーションを使用することもできます。

- AWS CLI: [list-inbound-responsibility-transfers](#)、[list-outbound-responsibility-transfers](#)、[update-responsibility-transfer](#)

1. 次のコマンドを実行して、インバウンド請求の請求転送 ID を検索します。

```
$ C:\> aws organizations list-inbound-responsibility-transfers \
--type BILLING
```

2. レスポンスから、更新する転送の請求転送 ID を書き留めます。

3. 次のコマンドを実行して転送を更新します。

```
$ C:\> aws organizations update-responsibility-transfer \  
    --id exampleid \  
    --name "Updated name for billing transfer"
```

- AWS SDKs: [list-inbound-responsibility-transfers](#)、[list-outbound-responsibility-transfers](#)、[update-responsibility-transfer](#)

転送の取り消し

組織の管理アカウントにサインインすると、いつでも移管を取り消すことができます。転送は終了日まで続行されます。

終了日より前に発生した料金の一括請求は、請求転送アカウントによって管理され、支払われます。移管が終了すると、その後に発生した料金の一括請求はすべて、組織独自の管理アカウント (請求元アカウント) によって管理され、支払われます。

考慮事項

引き出しは、移管のいずれかのアカウントで行うことができます。

移管に関係するいずれのアカウントも、移管をいつでも取り消すことができます。

取り消しを元に戻すことはできません

移管が取り下げられた場合、別の組織の一括請求を管理および支払っていたアカウントは、その組織に新しい招待を送信して再開する必要があります。

転送は月末に終了します

移管が取り下げられた場合、終了日は取り下げで指定された月の最終日の 23:59:59 UTC です。これは、月末日の前日の午後 6:59 東部標準時です。

転送の取り消し

用語と概念

以下は、AWS Billing and Cost Management コンソールで使用される用語と概念です。

- インバウンド請求: 別の組織の一括請求を管理して支払うことができる請求転送。

- アウトバウンド請求: 組織外のアカウントが一括請求を管理および支払うことを許可する請求転送。

最小アクセス許可

移管を取り消すには、次のアクセス許可が必要です。

- `organizations:ListInboundResponsibilityTransfers`
- `organizations:ListOutboundResponsibilityTransfers`
- `organizations:TerminateResponsibilityTransfer`

移管を取り消すには、次の手順を実行します。

転送を取り消すには

1. にサインイン AWS マネジメントコンソール し、<https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. 設定と設定の左側のナビゲーションで、請求転送を選択します。
3. インバウンド請求の場合:
 - a. 請求転送ページで、インバウンド請求タブを選択します。
 - b. インバウンド請求タブで、取り消す転送を選択します。
 - c. アクションドロップダウンメニューを選択し、転送の取り消しを選択します。
 - d. 確認ダイアログボックスで、転送を終了する月を選択し、転送の取り消しを選択します。
4. アウトバウンド請求の場合:
 - a. 請求転送ページで、アウトバウンド請求タブを選択します。
 - b. アウトバウンド請求タブで、転送の取り消しを選択します。
 - c. 確認ダイアログボックスで、転送を終了する月を選択し、転送の取り消しを選択します。

転送を取り消すには

以下のいずれかのオペレーションを使用することもできます。

- AWS CLI: [list-inbound-responsibility-transfers](#)、[list-outbound-responsibility-transfers](#)、および [terminate-responsibility-transfer](#)

1. インバウンド請求の場合:

次のコマンドを実行して、インバウンド請求の請求転送 ID を検索します。

```
$ C:\> aws organizations list-inbound-responsibility-transfers \
--type BILLING
```

アウトバウンド請求の場合:

次のコマンドを実行して、アウトバウンド請求の請求転送 ID を検索します。

```
$ C:\> aws organizations list-outbound-responsibility-transfers \
--type BILLING
```

2. レスポンスから、取り消す転送の請求転送 ID を書き留めます。
3. 次のコマンドを実行して、転送を取り消します。

```
$ C:\> aws organizations terminate-responsibility-transfer \
--responsibility-id exampleid \
--end-timestamp exampletimestamp
```

- AWS SDKs: [list-inbound-responsibility-transfers](#)、[list-outbound-responsibility-transfers](#)、および [terminate-responsibility-transfer](#)

 Note

移管が取り消されると、請求書移管アカウントは、取り消された移管に関連する請求移管ビューに引き続きアクセスします。これにより、過去のコストと使用状況データの監査が可能になります。

請求書のソースアカウントとして請求の移管を取り消した場合、取り消し後に発生した料金の AWS 請求書を受け取ります。請求書転送アカウントによって設定されたレートではなく、標準の請求対象ドメイン AWS から によって計算されたコストと使用状況データを表示します。この移行中、Cost Explorer の履歴データにアクセスできなくなります (データは残りますが、アクセスできなくなります)。この移行では、AWS Cost and Usage Report 設

定も としてマークされますunhealthy。請求対象のコストと使用状況データを正しく表示するには、ファイル AWS Cost and Usage Report の設定を再設定する必要があります。詳細については、「[Billing View によるコスト管理データアクセスの制御](#)」および「[AWS Cost and Usage Report](#)」を参照してください。

請求情報とコスト管理データを請求転送アカウントとして表示する

移管が開始されると、請求書移管アカウントは次のようになります。

- 移管が有効になった後に、AWS 請求書ソースアカウントから個別の請求書 (個別の一括請求書など) を受け取ります。これらは、請求書転送アカウントにのみ表示されます。詳細については、「[とは AWS Billing and Cost Management](#)」を参照してください。
- Billing Conductor を使用して、Billing and Cost Management コンソールで請求ソースアカウントに表示されるコストデータを制御します。
- 請求ソースアカウントごとに 2 つの請求転送ビューにアクセスできます。
 - マイビュー: 請求書転送アカウントが財務的責任を負う請求データを表示します。
 - ショーバック/チャージバックビュー: Billing Conductor を使用して、ショールバックまたはチャージバックの目的で Billing Conductor を介して設定された請求データを表示します。

請求書転送アカウントは、Cost Explorer、Budgets AWS Cost and Usage Report、Bills ページでこれらの請求ビューにアクセスできます。

請求書ソースアカウントの使用を反映した転送された請求書を表示するには

1. 請求書転送アカウントにログインし、請求とコスト管理に移動します。
2. サイドナビゲーションメニューから請求ページを選択する
3. 下にスクロールして請求書タブを選択します。
4. 請求書タブの請求書ソースアカウント ID 列で転送された請求書を特定する

Note

これは、今日請求書を表示するのと同じです。請求書は引き続き請求書タブに保管されます。請求書タブの請求書ソースアカウント ID 列を見て、独自の管理アカウント ID を検索することで、請求書を識別できます。

請求書転送アカウントの支払いを表示するには

1. 請求書転送アカウントにログインし、請求とコスト管理に移動します。
2. サイドナビゲーションメニューから支払いページを選択する
3. 各タブには、請求書のソースアカウントの請求書の支払いが表示されます。

Note

請求書と支払いの両方について、請求表示モードを有効にする必要はありません。支払いと請求書は請求ビューに依存しないリソースです。つまり、請求ビュー (プライマリレビュー、請求転送 - マイレビュー、請求転送ショーバック/チャージバックレビューのいずれか) ではなく、アカウントに関連付けられます。

請求書転送アカウントのコスト管理データを表示するには

1. Billing and Cost Management Console のホームページで、サイドナビゲーションメニューの上部にあるトグルを使用して Billing Views を有効にします。
2. 請求ビューモードを有効にすると、ドロップダウンメニューから目的の請求ビューを選択できます。請求ビューが 10 を超える場合は、ドロップダウンの下部に All views オプションが表示されます。このオプションを選択してモーダルを開き、すべての請求ビューをナビゲートします。
3. 請求ビューモードを有効にすると、請求ビューのみをサポートするツールが表示されます。

請求ページ

Cost Explorer

Cost Explorer の予測

Cost Explorer に保存されたレポート

データエクスポート

予算

4. 請求ソースアカウントのコストを反映して、目的の「請求転送ビュー」を選択します。「My view」と「Showback/Chargeback view」から選択できます。

- リソース (Cost Explorer の保存済みレポート、コストと使用状況レポート、予算など) を設定するには、作成するリソースのスコープ内の特定の請求ビューを選択する必要があります。詳細については、「[とは AWS Billing and Cost Management](#)」を参照してください。

クォータ

請求転送クォータは、AWS Service Quotas を使用して管理されます。[Service Quotas コンソール](#)にアクセスして、現在のクォータ値を表示し、これらの値の一部の引き上げをリクエストできます。以下は、請求転送エンティティのデフォルトの最大値です。

以下は、請求転送エンティティのデフォルトの最大値です。

最大値

用語と概念

以下は、請求転送に関する用語と概念です。

- インバウンド請求: 別の組織の一括請求を管理して支払うことができる請求転送。
- アウトバウンド請求: 組織外のアカウントが一括請求を管理および支払うことを許可する請求転送。
- 請求書転送チェーン: 相互接続された請求転送のコレクション (例えば、組織 A は組織 B に、組織 B は組織 C に移管)。

Note

- これらのクォータは、AWS Organizations 管理アカウントから実行されるアクションにのみ適用されます。
- AWS Organizations は、米国東部 (バージニア北部) リージョン () で物理的にホストされるグローバルサービスです `us-east-1`。したがって、Service Quotas コンソール、CLI、または AWS SDK を使用する場合は、AWS `us-east-1` を使用してこれらのクォータにアクセスする必要があります。

説明	制限
インバウンド請求転送	0 - いつでも管理および支払ができる外部組織の最大数。このクォータは調整可能で、Service Quotas コンソールを使用して増やすことができます。 注: このクォータ引き上げリクエストを送信できるのは、組織の管理アカウントのみです。制限の引き上げは、顧客の資格と要件に基づいて最大 1,000 個まで付与できます。 送信する各請求転送の招待は、このクォータに対してカウントされます。招待が拒否、キャンセル、または期限切れになると、カウントが返されます。
アウトバウンド請求転送	1 - いつでも一括請求を管理および支払うことができる外部組織の最大数。これは調整可能なクォータではありません。 承諾する各請求転送の招待は、このクォータに対してカウントされます。請求転送が取り消されると、カウントが返されます。
請求書転送チェーンの長さ	1 - 各請求転送がいつでも持つことができる相互接続の最大数。例: 組織 A は組織 B (長さ 1) に転送されます。このクォータは調整可能で、Service Quotas コンソールを使用して増やすことができます。 注: このクォータ引き上げリクエストを送信できるのは、組織の管理アカウントのみです。制限の引き上げは、顧客の資格と要件に基づいて最大 2 つまで付与できます。たとえば、組織 A は組織 B (長さ 1) に転送され、組織 B は組織 C (長さ 2) に転送されます。
インバウンド転送を集約する	1,000 - すべての請求書転送チェーンで許可されるインバウンド転送の最大合計数。これは調整可能なクォータではありません。

ベストプラクティス

このページでは、請求転送の使用を開始する前、使用中、および使用を停止する (該当する場合) 前の のベストプラクティスについて説明します。

⚠ Important

請求転送を確立する前に、請求ソースアカウント (請求管理を移管するアカウント) のすべての請求アーティファクト (請求書、クレジットメモ、CUR ファイル、必要に応じて Cost Explorer およびその他の請求およびコスト管理ページからの CSV ファイル) をダウンロードしてバックアップすることを強くお勧めします。

請求転送前に請求データをバックアップする

請求書ソースアカウントからの転送請求に進む前に、次の請求アーティファクトをダウンロードしてバックアップすることを強くお勧めします。

- 請求書
- クレジットメモ
- AWS Cost and Usage Report ファイル
- Cost Explorer からエクスポートされた CSV ファイル
- 他の AWS Billing and Cost Management コンソールページからエクスポートされた CSV ファイル

⚠ Important

これらの請求アーティファクトをダウンロードすると、請求の転送が完了した後も、過去の請求データへのアクセスを維持できます。

前提条件

請求転送の使用を開始するには、次の 3 つのオプションがあります。

- オプション 1: 外部所有組織の請求転送を設定する
- オプション 2: 請求転送を設定する前に AWS 組織を作成する
- オプション 3: 請求転送を設定する前に AWS 組織の所有権を移管する

オプション 1: 外部所有組織の請求転送を設定する

このオプションでは、AWS Organizations 外部当事者 (エンドユーザー、関連会社、子会社など) が所有する からの請求転送を通じて請求責任を引き受けます。既存の組織から請求転送の招待を送信するか、請求と財務管理専用の新しい組織を作成して招待を送信できます。

前提条件

請求転送を設定するには、次の要件を満たす必要があります。

- 招待を送受信する組織は、すべての機能モードになっています。

チャネルパートナーの場合、チャネルプログラムの条件に準拠するには、以下のベストプラクティスに従う必要があります。

- 招待を受け入れる組織の管理者は、ルートアカウントを管理できます。
- 請求を移管する組織は、ある顧客のワークロードを処理します。

このオプションは、以下に適しています。

- 新規エンドユーザーを既存の AWS アカウントでオンボーディングするチャネルパートナー
- 新規企業 (プライベート株式会社や子会社や関連会社にまたがる企業など) を買収 AWS する顧客から直接サービスを購入する

請求転送を設定する

AWS Billing and Cost Management コンソールで、設定と設定を選択し、次に請求転送を選択します。請求書転送アカウントから、請求書ソースアカウントになる既存の管理アカウントへの転送を作成します。チャネルパートナーの場合は、移管を完了する前に、請求書移管アカウントを新しいパートナー管理アカウントとして Partner Central に登録します。

Important

請求の移管に進む前に:

請求転送がアクティブになると履歴データの可視性が失われるため、請求ソースアカウントから Cost Explorer データをバックアップします。

既存の設定が異常になり、データの受信を停止したため、請求転送がアクティブになった後に新しい設定を作成します。設定の作成時に分割コスト配分データ機能を無効にします。

オプション 2: 請求転送を設定する前に AWS 組織を作成する

このプロセスには、新しい の作成 AWS Organizations、請求転送の設定、メンバーアカウントの移行が含まれます。このプロセスは、単一の AWS 組織をサポートし、複数の AWS 組織に分割する場合に適しています。たとえば、複数のエンドユーザーを 1 つの AWS 組織 (マルチテナント組織) に統合し、専用の AWS 組織を提供する必要があるチャネルパートナー、または複数のビジネスユニット、関連会社、または子会社を 1 つの AWS 組織に統合する顧客です。

組織移行の利点

- 移行中の請求のプライバシーを維持します
- 柔軟な移行スケジューリングを提供
- シングルテナントとマルチテナントの両方をサポート AWS Organizations

移行する前に、次の要件を考慮してください。

- 組織レベルの設定を再構築する必要があります
- 組織レベルの依存関係を特定して再作成する必要があります
- 移行に組織全体の移管よりも時間がかかる

以下の手順に従って、それぞれの考慮事項を確認してください。

ステップ 1: ビジネスユニットまたは顧客 AWS Organizations ごとに を作成する

新しい AWS アカウントを作成するか、既存のアカウントを既存のアカウントから移行する予定の各ビジネスユニットまたは顧客の管理アカウントとして指定します AWS Organizations。

Note

チャネルパートナーの場合は、エンドユーザーが作成できるように支援する必要がある場合があります AWS Organizations。エンドユーザーは独自の支払い方法を提供する必要があります。

の管理アカウントの作成方法の詳細については AWS Organizations、[「チュートリアル: 組織の作成と設定」](#)を参照してください。

ステップ 2: 新しい管理アカウントの請求転送を設定する

既存の管理アカウントと新しく作成された管理アカウント間の請求転送を設定します。新しい AWS Organizations は請求書を既存の組織に移管します。

 Important

新しいの所有者は、AWS Billing and Cost Management コンソールで請求転送の招待を受け入れる AWS Organizations 必要があります。アカウント移行に進む前に、招待で指定された日付に請求転送が有効になるまで待ちます。

ステップ 3: メンバーアカウントの移行を準備する

移行するメンバーアカウントの組織レベルの依存関係を確認します。新しい組織で再構築する必要がある以下の項目をドキュメント化または削除します。

- サービスコントロールポリシー
- リソース共有設定
- 委任管理者設定

エンドユーザーまたはビジネスユニットの組織でこれらの設定を再構築する計画を作成します。

ステップ 4: メンバーアカウントを移動する

請求転送がアクティブになったら、アカウントの移行を開始します。

新しい組織から、追加する各メンバーアカウントに招待を送信します。各メンバーアカウントにサインインして、これらの招待を受け入れます。その後、メンバーアカウントは現在の組織を離れ、新しい組織に参加します。新しい AWS Organizations 所有者と協力して、新しい環境で組織設定を再構築します。

step-by-stepの手順については、AWS Organizations 「ユーザーガイド」の [「を使用してアカウントを別の組織に移行する AWS Organizations」](#) を参照してください。

 Important

元の組織から AWS Organizations 新しい組織に移行するメンバーアカウントは、過去の請求データにアクセスできなくなります。移行に進む前に、すべての請求レポートをバックアップします。

メンバーアカウント移管を開始する前に、請求移管がアクティブであることを確認し、移行プロセス全体で適切な請求責任を維持します。

ステップ 5: 新しい組織の所有者にルートユーザーアクセスを割り当てる

組織のルートアカウントにサインインし、AWS マネジメントコンソールでマイアカウントに移動します。ルートユーザーの E メールアドレスを新しい組織の所有者の E メールアドレスに更新し、E メール検証プロセスを完了します。新しい組織の所有者は、ルートアカウントアクセスをアクティブ化するための E メールを受信します。次に、以下を行う必要があります。

- 新しい認証情報を作成する
- MFA のセットアップ
- アカウントの所有権を受け入れる

このプロセス中に、パートナー MFA デバイスとパートナー固有のセキュリティ設定をすべて削除します。

Note

このステップは、チャネルパートナーとその再販エンドユーザーにのみ必要です。サービスを直接購入するお客様はオプションです AWS。

オプション 3: 請求転送を設定する前に AWS 組織の所有権を移管する

このオプションでは、既存の のルート認証情報コントロール AWS Organizations を新しい所有者に提供し、請求移管を通じて請求責任を移管することで、アカウントの所有権を引き継ぎます。

既存の組織から請求転送の招待を送信するか、請求と財務管理専用の新しい組織を作成して招待を送信できます。

前提条件

組織は次の要件を満たしている必要があります。

- 組織は全機能モードです
- 顧客がルートアカウントの所有権の E メールアドレスを持っている
- 組織が 1 人の顧客のワークロードを処理する

利点

このアプローチにより、以下が提供されます。

- リンクされたアカウントの移行が不要なため、運用の労力が減る
- ポリシーの互換性がないためにワークロードが中断されるリスクを軽減

Important

以前のルート所有者からの履歴請求データは、新しいルート所有者が引き続き使用できません。

ルートアクセスは、前の請求サイクルの支払いが決済された後に引き渡す必要があります。例えば、次のようになります。

- 請求転送の発効日: 10 月 1 日
- 以前の請求サイクルの終了: 10 月 3 日 (9 月請求書の配信)
- 支払いが決済される: 10 月 4 日
- ルートアクセスの引き継ぎ: 10 月 5 日

クレジットメモ (返金など) を受け取る予定があり、アカウントでクレジットメモを取得できないことが予想される場合は、請求転送オンボーディングから 30 ~ 60 日後にルートに移管することをお勧めします。

このオプションは、以下に適しています。

- エンドユーザー AWS Organizations AWS の支払い義務に対するルートアクセスを現在所有しており、ルート所有権をエンドユーザーに返したいチャネルパートナー
- ガバナンスとセキュリティを一元管理し、交渉された割引条件を権限のない当事者 (チーム、ビジネスユニット、関連会社、子会社など) から保護するサービスを直接購入 AWS する顧客

ステップ 1: 請求管理組織を作成する (オプション)

請求書転送アカウントとして使用する管理アカウントがない場合は、「チュートリアル: 組織の作成と設定」の説明 AWS Organizations に従って、新しいアカウントを作成し、を設定します。 https://docs.aws.amazon.com/organizations/latest/userguide/orgs_tutorials_basic.html

Note

ベストプラクティスとして、このアカウントは請求と財務管理にのみ使用してください。

ステップ 2: 請求転送を設定する

既存の を使用して請求転送を確立します AWS Organizations。

AWS Billing and Cost Management コンソールで、設定と設定を選択し、次に請求転送を選択します。請求書転送アカウントから、請求書ソースアカウントになる既存の管理アカウントへの転送を作成します。チャネルパートナーの場合は、移管を完了する前に、請求書移管アカウントを新しいパートナー管理アカウントとして Partner Central に登録します。

⚠ Important

先に進む前に:

翌月の初日に請求転送がアクティブになるまで待ちます。

請求転送がアクティブになると履歴データの可視性が失われるため、請求ソースアカウントから Cost Explorer データをバックアップします。

既存の設定が異常になり、データの受信を停止したため、請求転送がアクティブになった後に新しい設定を作成します。設定の作成時に分割コスト配分データ機能を無効にします。

ステップ 3: ルートアクセス転送を準備する

請求転送がアクティブになったら、請求元アカウントの所有権を移管する準備をします。

AWS Billing and Cost Management コンソールで、組織の請求情報を新しい所有者の詳細で更新します。支払い方法を削除し、請求先住所を更新します。

Note

AWS は、請求転送が有効な間、請求転送アカウントの請求情報を請求書生成に使用します。ただし、請求転送が取り消された場合に料金が発生しないように、請求元アカウントの請求情報を更新する必要があります。

ステップ 4: ルートアクセスを転送する

組織のルートアカウントにサインインし、AWS マネジメントコンソールでマイアカウントに移動します。ルートユーザーの E メールアドレスを新しい所有者の E メールドメインに更新し、E メール検証を完了します。新しい所有者は、ルートアカウントアクセスをアクティブ化するための E メールを受信します。新しい認証情報を作成し、MFA を設定し、アカウントの所有権を受け入れる必要があります。

Important

ルート所有権を移管する前に:

既存の MFA デバイスとセキュリティ設定をすべて削除します。

請求書、Cost Explorer レポートなど、必要な請求情報をバックアップします。

新しい所有者は、過去の請求データにアクセスできることに注意してください。履歴データの可視性に関する質問については、AWS サポートにお問い合わせください。

新しい所有者が過去の請求データにアクセスできないようにするには、代わりにオプション A を使用します。

ステップ 5: 転送を検証する

新しい所有者が所有権を承諾したら、請求転送がアクティブのままであり、組織が請求書の受信を継続していることを確認します。新しい所有者は、組織を管理するための完全なルートアクセス権を持つようになりましたが、請求責任は請求転送を通じて組織に残ります。

請求転送の取り消し

どのアカウントでも、請求の移管を取り消すことができます。詳細については、[「転送の取り消し」](#)を参照してください。

Important

請求の移管を取り消す前に:

Cost Explorer から履歴データをバックアップします。これは、請求書のソースアカウントが取り消し後に見積り履歴データにアクセスできなくなるためです。

既存のレポートが異常とマークされ、中止後にデータの受信が停止されるため、新しい設定を作成する準備をします。

 Note

請求書転送アカウントは、引き出し後に請求書ソースアカウントの履歴データへのアクセスを維持します。

の請求の統合 AWS Organizations

の一括請求機能を使用して AWS Organizations、複数の の請求と支払いを統合することができます AWS アカウント。のすべての組織には、すべてのメンバーアカウントの料金を支払う管理アカウント AWS Organizations があります。組織の詳細については、「[AWS Organizations ユーザーガイド](#)」を参照してください。

一括請求には次の利点があります。

- 1 つの請求書 – 同じ SOR の複数のアカウントに対して 1 つの請求書を受け取ります。組織に複数の SOR からのアカウントがある場合は、SOR ごとに 1 つの請求書を受け取ります。
- 簡単な追跡 – 複数のアカウントでの料金を追跡し、コストと使用状況の統合データをダウンロードできます。
- 使用量の合算 – 組織内のすべてのアカウントで使用量を合算できます。これにより、ボリューム料金割引、リザーブドインスタンス割引、Savings Plans が共有されます。その結果、会社、部門、またはプロジェクトでの料金が個々のスタンドアロンアカウントと比較して低くなります。詳細については、「[従量制割引](#)」を参照してください。
- 追加料金なし – 一括請求は追加コストなしで提供されます。

Note

メンバーアカウント請求書は情報の提供のみに使用されます。管理アカウントは、各アカウントで利用できる追加のボリューム割引、リザーブドインスタンスの割引、または Savings Plans を再割り当てする場合があります。

管理アカウントへのアクセス権がある場合は、メンバーアカウントで発生した AWS 料金をまとめて確認できます。また、各メンバーアカウントのコストレポートも取得できます。

Important

メンバーアカウントが組織を離れた場合、そのメンバーアカウントは、組織にいたときに生成された Cost Explorer データにアクセスできなくなります。このデータは削除されず、組織の管理アカウントは引き続きデータにアクセスできます。再度組織に加わったメンバーアカウントは再びデータにアクセスできます。

請求転送を使用すると、複数の からコスト管理データと個々の一括請求に一元的にアクセスできます AWS Organizations。詳細については、「[請求管理を外部アカウントに転送する](#)」を参照してください。

トピック

- [一括請求 \(コンソリデेटッドビルディング\) の処理](#)
- [EMEA AWS での一括請求](#)
- [India での一括請求 \(コンソリデेटッドビルディング\)](#)
- [請求発効日、アカウントアクティビティ、数量割引](#)
- [リザーブドインスタンス](#)
- [一括請求について](#)
- [短いバージョンの PDF 請求書のリクエスト](#)
- [サポート のアカウントの料金 AWS Organizations](#)

一括請求 (コンソリデेटッドビルディング) の処理

AWS Organizations は一括請求を提供するため、組織内のすべてのメンバーアカウントの合計コストを追跡できます。次のステップは、組織を作成し、一括請求を確認するプロセスの概要を説明します。

1. [AWS Organizations コンソール](#)または [AWS Billing and Cost Management コンソール](#)を開きます。AWS Billing and Cost Management コンソールを開いている場合は、[Consolidated Billing (一括請求)]、[Get started (今すぐ始める)] の順に選択します。AWS Organizations コンソールにリダイレクトされます。
2. コンソールで、[Create organization AWS Organizations] を選択します。
3. 新しい組織の管理アカウントになるアカウントから、組織を作成します。詳細については、[組織の作成](#)を参照してください。管理アカウントは、すべてのメンバーアカウントの料金の支払い責任を負います。
4. (オプション) 組織のメンバーのアカウントを自動で作成します。詳細については、「[組織 AWS アカウントでの の作成](#)」を参照してください。
5. (オプション) 既存のアカウントを招待して組織に統合します。詳細については、「[組織への AWS アカウントの招待](#)」を参照してください。
6. 毎月、一括請求のすべてのメンバーアカウントに対して管理アカウントに AWS 課金されます。

メンバーアカウントのすべての料金が管理アカウントに請求されます。しかし、組織内で (一括請求のみではなく) 機能をすべてサポートするように組織が変更されない限り、また、ポリシーによりメンバーアカウントが明示的に制限されない限り、各メンバーアカウントは他のメンバーアカウントから独立しています。たとえば、メンバーアカウントの所有者は、管理アカウントがそれらのアクションを制限しない限り、AWS サービスにサインアップし、リソースにアクセスし、AWS プレミアムサポートを使用できます。各アカウントの所有者は引き続き、自分のサインイン認証情報を使用し、組織内の他のアカウントとは独立して割り当てられたアカウント許可を持ちます。

一括請求管理アカウントのセキュリティを確保する

組織内の管理アカウントの所有者は、[AWS Multi-Factor Authentication \(多要素認証\)](#) と強力なパスワードを使用してアカウントを安全に保ってください。パスワードには 8 文字以上で、大文字と小文字の両方、1 つ以上の数字、1 つ以上の特殊文字を含めてください。パスワードの変更は、[AWS セキュリティ認証情報](#)のページで行います。

Note

請求転送を使用して、以外の別の管理アカウントに請求を転送しながら、管理アカウントへのルートアクセスを維持できます AWS Organizations。詳細については、「[請求管理を外部アカウントに転送する](#)」を参照してください。

EMEA AWS での一括請求

一括日次請求書機能で請求額を合算すると、1 日に受け取る請求書の数減らすことができます。次の要件が満たされている場合、この機能は自動的にオプトインされます。

- AWS アカウント は、Amazon Web Services EMEA SARL (AWS 欧州) エンティティを通じて請求されます。詳細については、「[AWS 欧州での支払いの管理](#)」を参照してください。
- 請求書による支払いの支払い方法を使用している。この機能は、クレジットカードまたは自動引き落としによる支払い方法では利用できません。

この機能では以下の項目が統合されます。

- 日々のサブスクリプションとサイクル外の請求書が 1 つの請求書に統合されます。
- 複数のクレジットメモが 1 つの請求書に統合されます。

例えば、今日、リザーブドインスタンスを 3 つ購入し、2 つのクレジットメモを受け取った場合、その日の終わりに合計 2 つの請求書が届きます。1 つの請求書にはリザーブドインスタンスの購入が含まれ、もう 1 つにはクレジットメモが含まれます。

統合期間

AWS は、UTC の午前 23 時 59 分から午前 24 時の間にサブスクリプション請求書と返金を処理します。AWS その後、過去 24 時間の一括請求書とクレジットメモが生成されます。一括請求は数分以内に利用可能になります。

対象サービス

毎日の請求書には、AWS のサービス サブスクリプション、out-of-cycle購入、クレジットメモが含まれます。この機能には以下は含まれません。

- AWS Marketplace 購入
- AWS 毎月のサービスおよび年次請求書
- 複数の異なる元の請求書に対して発行されたクレジットメモ

例えば、元の請求書 ID 123 のクレジットメモ A を受け取り、元の請求書 ID 456 に対して別のクレジットメモ B を受け取ったとします。同じ日に発行されたものであっても 2 つの クレジットメモは統合されません。クレジットメモは、元の請求書 ID と同じものに対して発行された場合にのみ統合されます。

- AWS サポート サポート プランの変更などの の購入
- 一部の Amazon Route 53 サービス (ドメイン名の購入など) AWS Partner Network AWS Managed Services、re:Invent、re:Inforce などの AWS 会議に対する料金

通貨と外国為替レート

クレジットメモでは、元の請求書と同じ通貨と為替レートが使用されます。

サブスクリプション請求書の場合、 は過去 24 時間以内に処理されたすべての 1 回限りの料金に最新の通貨設定 AWS を適用します。例えば、午前中にリザーブドインスタンスを購入し、午後に希望通貨を変更すると、 は午前の購入通貨を新しい希望通貨 AWS に変換します。この更新は、その日に生成された一括請求書に表示されます。

への変更 AWS Cost and Usage Report

一括請求では、AWS が 1 回限りの料金を AWS コストと使用状況レポート (AWS CUR)、Cost Explorer、または AWS Budgets を使用して設定されたコスト予算アラートに表示するまで、最大 24 時間かかる場合があります。

償却された 1 回限りのリザーブドインスタンスの前払い料金は、引き続き AWS CUR、Cost Explorer、または Budgets で表示できます。

一括請求機能の無効化

既定では、この機能はお客様のアカウントに対して有効になります。この機能が不要な場合は、次に説明する手順に従います。

一括請求を無効にするには

1. [AWS Support Center Console](#) にサインインします。
2. アカウントと請求のサポートケースを作成します。
3. [サービス] で [請求] を選択します。
4. [カテゴリ] で、[一括請求] を選択します。
5. プロンプトに従ってケースを作成します。

Note

一括請求を後でもう一度有効にする場合は、この手順を繰り返します。

India での一括請求 (コンソリデーティッドビルング)

新しいアカウントにサインアップし、連絡先と請求先住所にインドを選択した場合、ユーザー契約はインドの現地 AWS 販売者である Amazon Web Services India Private Limited (AWS インド) と締結されます。AWS インドは請求を管理し、請求書の合計は米ドルではなくインドルピーにリストされ、ルピーでの支払いが期待されます。

India アカウントのマルチ SOR AWS 組織の有効化

AWS India 管理アカウントが別の SOR からアカウントを招待できない場合、または AWS India アカウントが AWS India AWS アカウント 以外の からの招待を受け入れることができない場合、アカウ

ントは、この機能が利用できないレガシーモデルで運用されている可能性があります。現在、AWS インドのアカウントをレガシーモデルから、この機能が利用可能な新しいモデルに移行しています。移行は 2025 年 12 月に完了する予定です。

リンクされた AWS India アカウントの SOR への影響を理解する

組織に参加する AWS India アカウントの SOR は、管理アカウントの SOR に応じて異なる場合があります。

- 管理アカウントが AWS インドにある場合、リンクされたすべてのアカウントの SOR は保持され、組織に加わっても変更されません。
- 管理アカウントが AWS インドにない場合は、組織に参加するように AWS India アカウントを招待できます。ただし、SORs AWS Inc. に解決されます。

請求発効日、アカウントアクティビティ、数量割引

お客様が組織に参加するリクエストを、アカウント所有者が受け入れると、メンバーアカウントの料金は即座にお客様の責任となります。メンバーアカウントが月の途中で参加した場合、管理アカウントはその月の後半分のみ請求されます。

たとえば、メンバーアカウントが 3 月 10 日に組織に加わった場合、は 3 月 10 日以降、メンバーアカウントの使用期間について管理アカウントに AWS 請求します。それが発生する前の月の部分はメンバーアカウントの元の所有者に請求されます。

請求およびアカウントアクティビティ

は毎月、メンバーアカウントの所有者ではなく、管理アカウントの所有者に AWS 課金します。組織内のすべてのアカウントの合計使用量を表示するには、管理アカウントの [Bills] ページを参照してください。AWS は日に複数回、ページを更新します。さらに、AWS はダウンロード可能なコストレポートを毎日提供します。

メンバーアカウントの所有者には課金されませんが、AWS 請求ページに移動することで使用量と料金を確認できます。メンバーアカウント所有者は、請求書にある管理アカウントや他のメンバーアカウントのデータを表示したり取得したりすることはできません。

従量制割引

請求の目的で、は組織内のすべてのアカウントを 1 つのアカウントであるかのように AWS 扱います。AWS Data Transfer や Amazon S3 などの一部のサービスには、特定の使用ディメンションにボ

リユーム料金階層があり、サービスを使用するほど料金が低くなります。一括請求では、はすべてのアカウントの使用量 AWS を組み合わせて、適用するポリリユーム料金階層を決定します。これにより、可能な限り全体的な料金が低くなります。AWS 次に、は各メンバーアカウントを、アカウントの使用量に基づいて全体的なポリリユーム割引の一部を割り当てます。

たとえば、ボブの一括請求には、ボブ自身のアカウントとスーザンのアカウントの両方が含まれているとします。ボブのアカウントは管理アカウントであるため、自分自身とスーザンの両方の料金を支払います。

月単位で、ボブは 8 TB、スーザンは 4 TB のデータを転送しています。

この例では、は転送された最初の 10 TB に対して GB あたり 0.17 USD、次の 40 TB に対して 0.13 USD を AWS 請求します。これは換算すると、最初の 10 TB に対して TB 当たり 174.08 USD ($= 0.17 \times 1024$)、次の 40 TB に対して TB 当たり 133.12 USD ($= 0.13 \times 1024$) になります。1 TB = 1024 GB です。

ボブとスーザンが使用した 12 TB は、ボブの管理アカウントに対して、次のように請求されます。
 $(174.08 \text{ USD} \times 10 \text{ TB}) + (133.12 \text{ USD} \times 2 \text{ TB}) = 1,740.80 \text{ USD} + 266.24 \text{ USD} = 2,007.04 \text{ USD}$

一括請求全体で階層化のメリットがなければ、はボブとスーザンに TB あたり 174.08 USD を請求し、合計 2,088.96 USD を請求する AWS ことになります。

料金の詳細については、「[AWS の料金](#)」を参照してください。

AWS の無料利用枠 AWS Organizations

無料利用枠をサポートする Amazon EC2 などのサービスの場合、は AWS 組織内のすべてのアカウントの合計使用量に無料利用枠 AWS を適用します。AWS は無料利用枠を各アカウントに個別に適用しません。

AWS には、無料利用枠の制限を超えたか、無料利用枠の制限を超えると予測されるかを追跡する予算が用意されています。組織の無料利用枠の予算はデフォルトでは有効になっていません。管理アカウントでは、請求情報とコスト管理コンソールを使用して無料利用枠使用状況アラートをオプトインすることができます。無料利用枠使用状況アラートは、個々のメンバーアカウントでは使用できません。

無料利用枠の詳細については、「[AWS 無料利用枠に関するよくある質問](#)」を参照してください。

リザーブドインスタンス

請求の目的で、の統合請求機能は、組織内のすべてのアカウントを 1 つのアカウントとして AWS Organizations 扱います。これは、組織内のすべてのアカウントは、他のアカウントで購入したりリザーブドインスタンスの時間単位のコスト利点を受けることができるということを意味しています。

請求情報とコスト管理コンソールの [設定] ページで、リザーブドインスタンスの共有の割引を無効化することができます。詳細については、「[the section called “リザーブドインスタンスと Savings Plans の割引共有”](#)」を参照してください。

Note

請求転送を使用する場合、リザーブドインスタンスと Savings Plans は、どのアカウントが請求を支払うかに関係なく、購入した AWS Organizations にのみ適用されます。リザーブドインスタンスと Savings Plans を複数ので購入または共有することはできません AWS Organizations。

トピック

- [特定のサービスの請求例](#)
- [リザーブドインスタンスと Savings Plans の割引共有](#)

特定のサービスの請求例

の特定の のサービスで一括請求がどのように機能するかについては、他にもいくつか知っておくべきことがあります AWS。

Amazon EC2 リザーブドインスタンス

たとえば、Amazon EC2 リザーブド DB インスタンスの例として、ボブとスーザンが組織内でそれぞれアカウントを持っているとします。スーザンは 5 つの同じタイプのリザーブドインスタンスを持っていて、ボブは何も持っていません。特定の 1 時間の間に、スーザンは 3 つのインスタンスを使用し、ボブは 6 つのインスタンスを使用します。組織の一括 bill. AWS bills では合計 9 つのインスタンスをリザーブドインスタンスとして、残りの 4 つのインスタンスを通常のインスタンスとして使用します。

スーザンがリザーブドインスタンスを購入したのと同じ利用可能ゾーンでボブがインスタンスを起動する場合にのみ、ボブはスーザンのリザーブドインスタンスのコスト利点を受けることができます。

たとえば、スーザンがリザーブドインスタンス購入の際に us-west-2a を指定した場合、ボブが組織の一括請求でコストメリットを得るためには、ボブは自分のインスタンス起動時に us-west-2a を指定する必要があります。しかし、Availability Zone の実際のロケーションは、アカウント間で独立しています。たとえば、ボブのアカウントの us-west-2a アベイラビリティゾーンは、スーザンのアカウントのロケーションとは異なるロケーションにある可能性があります。

Amazon RDS リザーブド DB インスタンス

たとえば、Amazon RDS リザーブド DB インスタンスの例として、ボブとスーザンが組織内でそれぞれアカウントを持っているとします。スーザンが 5 つのリザーブド DB インスタンスを持っていて、ボブは何も持っていないとします。特定の 1 時間の間、スーザンは 3 つの DB インスタンスを使用し、ボブは 6 つの DB インスタンスを使用し、統合された bill. AWS bills で合計 9 つの DB インスタンスをリザーブド DB インスタンスとして、残り 4 つはオンデマンド DB インスタンスとして使用します (Amazon RDS リザーブド DB インスタンスの料金については、[料金表ページ](#)を参照してください)。スーザンがリザーブド DB インスタンスを購入したのと同じリージョンでボブが DB インスタンスを起動する場合にのみ、ボブはスーザンのリザーブド DB インスタンスのコスト利点を受けることができます。

また、「[リザーブド DB インスタンス](#)」で説明されているように、Susan のリザーブド DB インスタンスのすべての関連属性が、Bob によって起動された DB インスタンスの属性と一致する必要があります。たとえば、スーザンが以下の属性で、us-west-2 でリザーブド DB インスタンスを購入したとします。

- DB エンジン: Oracle
- DB インスタンスのクラス: m1.xlarge
- デプロイのタイプ: Multi-AZ

これは、ボブが組織の一括請求においてコストメリットを得るためには、正確に同じ属性を持つ自身の DB インスタンスを us-west-2 で起動する必要があることを意味しています。

Amazon ElastiCache リザーブドノードインスタンス

たとえば、Amazon ElastiCache リザーブドノードの例として、ボブとスーザンが組織内でそれぞれアカウントを持っているとします。スーザンが 5 つのリザーブドノードを持っていて、ボブは何も持っていないとします。ある特定の 1 時間の内に、スーザンは 3 つのノードを使用し、ボブは 6 つ使用します。これにより、合計 9 個のノードが一括請求に使用されます。

AWS は 5 つをリザーブドノードとして請求します。残りの 4 つはオンデマンドノードとして AWS 請求します。(Amazon ElastiCache リザーブドノードの料金については、「[Amazon ElastiCache 料金表](#)」を参照してください。) スーザンがリザーブドノードを購入したのと同じリージョンでボブがオンデマンドノードを起動する場合にのみ、ボブはスーザンのリザーブドノードのコスト利点を受けることができます。

また、スーザンのリザーブドノードのコスト利点を受けるには、ボブのノードの全属性が、スーザンが起動したノードの属性と一致する必要があります。たとえば、スーザンが以下の属性で、us-west-2 でリザーブドノードを購入したとします。

- キャッシュエンジン: Redis
- ノードの種類: cache.r3.large

ボブは組織の一括請求においてコストメリットを得るためには、同じ属性を持つ自身の ElastiCache ノードを us-west-2 で起動する必要があります。

Amazon OpenSearch Service リザーブドインスタンス

たとえば、Amazon OpenSearch Service リザーブドノードの例として、ボブとスーザンが組織内でそれぞれアカウントを持っているとします。スーザンが 5 つのリザーブド インスタンスを持っていて、ボブは何も持っていないとします。ある特定の 1 時間の内に、スーザンは 3 つのインスタンスを使用し、ボブは 6 つ使用します。これにより、合計 9 個のインスタンスが一括請求に使用されます。

AWS は 5 つをリザーブドインスタンスとして請求します。残りの 4 つはオンデマンドインスタンスとして AWS 請求します。(Amazon OpenSearch Service リザーブドインスタンス料金については、「[Amazon OpenSearch Service 料金表](#)」を参照してください。) スーザンがリザーブドインスタンスを購入したのと同じ AWS リージョン でボブがオンデマンドインスタンスを起動する場合にのみ、ボブはスーザンのリザーブドインスタンスのコスト利点を受けることができます。

スーザンのリザーブドインスタンスのコスト利点を受けるには、スーザンが予約したものと同じインスタンスタイプをボブも使用する必要があります。たとえば、スーザンが us-west-2 で m4.large.elasticsearch インスタンスを購入したとします。ボブが組織の一括請求においてコスト利点を得るためには、同じインスタンスタイプを使用して us-west-2 で Amazon OpenSearch Service ドメインを起動する必要があります。

リザーブドインスタンスと Savings Plans の割引共有

組織の管理アカウントは、その組織内のすべてのアカウントのリザーブドインスタンス割引と Savings Plans 割引の共有を制御できます。AWS は、組織が AWS アカウント全体にコミットメント割引を適用する方法を定義できるようにすることで、共有機能を強化します。

共有オプションの概要

AWS には、リザーブドインスタンスと Savings Plans の割引を共有するための柔軟なオプションが用意されています。

- 組織全体の共有: 組織内のすべてのアカウント間での共有
- グループベースの共有: ターゲット割引共有の特定のアカウントグループを定義する
- アカウントレベルのコントロール: 個々のアカウントの共有を有効または無効にする
- Savings Plans 割引を共有するには、Savings Plans 所有者アカウントが RI と Savings Plans の割引共有設定でアクティブ化されている必要があります。そうすることで、組織内の対象連結アカウント全体で割引使用が有効になります。
- Billing Conductor を単独または請求転送で使用すると、リザーブドインスタンスと Savings Plans の共有設定の変更が標準 AWS 請求に影響します。
- Billing Conductor を請求転送で使用すると、それぞれが独自の共有設定 AWS Organizations を制御します。これらの設定を複数の間で共有することはできません AWS Organizations。

共有モード

組織全体の共有

- コミットメントはアカウント所有者に最初にメリットをもたらします
- アカウント所有者を満たした後、残りの利点を他の組織アカウントと共有できます。
- コミットメント全体の割引率を最大化する

優先順位付けされたグループ共有

- コミットメントは、まずアカウント所有者にメリットをもたらします。
- アカウント所有者を満たすと、コミットメントは定義されたグループ内のアカウントと共有されます。

- グループの使用量を満たした後、残りの利点を他の組織アカウントと共有できます。
- 特定のグループを優先しながら、コミットメント全体の使用率と割引率を最大化する

制限付きグループ共有

- コミットメントは、まずアカウント所有者にメリットをもたらします。
- コミットメントは、定義されたアカウントグループ内でのみ共有されます。
- 未使用の容量であっても、指定されたグループの外部で共有は行われません。

Note

アカウントのグループ化要件

グループ共有では AWS Cost Categories を使用してアカウントグループを定義します。

- 各アカウントは 1 つの共有グループにしか属せません
- 支払者アカウントを共有グループに含めることはできません
- Cost Categories は AWS 請求コンソールを使用して設定する必要があります
- 共有グループを作成または編集するときは、Accounts ディメンションのみを使用できます。
- Cost Category Uncategorized コストのデフォルト値は、共有グループ名と重複してはいけません
- 既存の Cost Categories は、リザーブドインスタンスと Savings Plan sグループ共有要件を満たしている場合、またはグループ共有専用に作成された新しい Cost Categories を再利用できます。

Note

以下の条件を満たす必要があります。

グループ共有では AWS Cost Categories を使用してアカウントグループを定義します。

- Savings Plans が最初に購入アカウントに適用されます
- Savings Plans 所有者アカウントは、共有設定でアクティブのままにする必要があります

- 割引を共有するには、購入アカウントと特典を受け取るアカウントの両方で共有が有効になっている必要があります
- 計算された削減額が最も大きいアカウントが優先されます
- 設定はいつでも変更できます。各請求見積りは、最後の設定のセットを使用して計算されます。月の最終請求額は、月の最終日の午後 11 時 59 分 59 秒 (UTC 時) に指定されている設定に基づいて計算されます。
- Savings Plans 所有者アカウントが組織を離れると、Savings Plans は一括請求に適用されなくなります。

共有リザーブドインスタンスと Savings Plans の割引の無効化

個々のメンバーアカウントの共有割引を無効にすることができます。

共有リザーブドインスタンスと Savings Plans の割引を無効にするには

1. にサインイン AWS マネジメントコンソール し、<https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、[請求設定] を選択します。
3. [リザーブドインスタンスと Savings Plans のアカウント別の割引共有設定] で、割引共有を無効にするアカウントを選択します。
4. [無効化] を選択します。
5. [リザーブドインスタンスと Savings Plans の共有の無効化] ダイアログボックスで [無効化] を選択します。

Tip

[アクション] を選択してから [すべて無効化] を選択して、すべてのアカウントのリザーブドインスタンスと Savings Plans の共有を無効にすることもできます。

共有リザーブドインスタンスと Savings Plans の割引の有効化

コンソールを使用して、アカウントのリザーブドインスタンス共有割引を有効にできます。

アカウントセットで Savings Plans を共有することができます。特典を他のアカウントと共有しないか、アカウントの統合された請求ファミリー全体のラインアイテムの利用資格をオープンするかを選択できます。

共有リザーブドインスタンスと Savings Plans の割引を有効にするには

1. にサインイン AWS マネジメントコンソール し、<https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。

 Note

AWS Organizationsの管理アカウントにログインしていることを確認します。

2. ナビゲーションペインで、[請求設定] を選択します。
3. [リザーブドインスタンスと Savings Plans のアカウント別の割引共有設定] で、割引共有を有効にするアカウントを選択します。
4. [アクティブ化] を選択します。
5. [リザーブドインスタンスと Savings Plans の共有の有効化] ダイアログボックスで、[有効化] を選択します。

 Tip

[アクション] を選択してから [すべて有効化] を選択して、すべてのアカウントのリザーブドインスタンスと Savings Plans の共有を有効にすることもできます。

共有モードの選択:

1. 請求コンソールで請求設定に移動する AWS
2. リザーブドインスタンスと Savings Plans の割引共有設定で、編集 を選択します。
3. 共有モード (優先モードまたは制限付きモード) を選択する
4. Cost Categories を使用してアカウントグループを定義する
5. 各グループの共有設定を構成する

 Note

重要な要件と制限事項

- リザーブドインスタンスと Savings Plans の割引共有を無効にすると、毎月の請求額が高くなる可能性があります
- Savings Plans 所有者アカウントは、割引を他のアカウントに適用するには、共有設定でアクティブな状態を維持する必要があります
- グループベースの共有は、制限付きモードで使用率の低いコミットメントが発生する可能性があります

一括請求について

で組織を管理する場合は AWS Organizations、一括請求を使用して、組織内のアカウントの集計使用コストを表示できます。一括請求 (コンソリデेटィッドビルリング) はコスト削減にも役立ちます。例えば、AWS 製品やサービスに対して利用可能な最低料金を支払うために、は、インスタンスを事前に購入するための低価格と割引料金 (予約またはリザーブドインスタンス) で、より高い使用量に見合う料金階層 AWS を提供します。一括請求 (コンソリデेटィッドビルリング) を使用して、複数のアカウントの使用量を 1 つの請求書にまとめて、より安価な階層により迅速に達することができます。また、あるアカウントの未使用の予約を別のアカウントのインスタンス使用量に適用することもできます。

 Note

請求転送を使用すると、複数の からコスト管理データと個々の一括請求に一元的にアクセスできます AWS Organizations。

外部管理アカウントに請求を移管しても、それぞれの計算境界 AWS Organizations は変更されません。料金と割引 (リザーブドインスタンスと Savings Plans を含む) は、個々の AWS Organizations レベルで計算されます。詳細については、「[請求管理を外部アカウントに転送する](#)」を参照してください。

トピック

- [一括請求の計算方法](#)
- [料金階層](#)

- [リザーブドインスタンス](#)
- [積立プラン](#)
- [ブレンドレートとコスト](#)

一括請求の計算方法

組織内では、管理アカウントがメンバーアカウントで発生したすべての料金を支払います。管理アカウントの管理者であり、適切な権限を持っている場合、すべてのメンバーアカウントのリザーブドインスタンス割引とボリューム階層の合計使用コストを表示できます。は、そのアカウントの使用状況に基づいてメンバーアカウントごとに個別の請求書 AWS を作成するため、個々のメンバーアカウントで発生する料金を表示することもできます。には、管理アカウントの請求書に各アカウントの請求書の概要 AWS も含まれます。各請求期間中、は推定請求額を 1 日に数回 AWS 計算し、組織で発生したコストを追跡できるようにします。請求書は翌月の月初までは確定されません。

Note

メンバーアカウントと同様に、管理アカウントにも利用料金が発生する可能性があります。ただし、ベストプラクティスとして、管理アカウントを使用して AWS サービスを実行しないでください。例外は、組織自体を管理するために必要なサービスおよびリソースの場合です。たとえば、一括請求の管理の一環として、管理アカウントに S3 バケットを作成して、AWS コストと使用状況レポートを保存できます。

料金階層

一部の AWS サービスは、定義された AWS 使用量の単位コストを指定する階層で料金が設定されます。使用量が増えてしきい値を超えると、1 か月の追加使用量についてさらに安い単価を指定する新しい料金階層に移行します。AWS 使用量は毎月測定されます。使用状況を測定するために、は組織内のすべてのアカウントを 1 つのアカウントとして AWS 扱います。メンバーアカウントが個別に階層の限度に達することはありません。代わりに、組織でのすべての使用量がサービスごとに集計され、より安い価格階層がより迅速に適用されます。毎月の初めに、サービスの使用量がゼロにリセットされます。

各 AWS サービスは、料金情報を個別に発行します。すべての個別の料金表ページには、[AWS 料金](#)のページからアクセスできます。

Amazon S3 Standard ストレージのコストの計算

次の表は、料金範囲の例を示しています (コストが異なる場合があります)。詳細については、「[Amazon S3 の料金](#)」を参照してください。

Amazon S3 の料金階層

階層の説明	GB あたりの料金	GB あたりの料金
最初の 1 TB/月	0.10 USD	100.00 USD
次の 49 TB/月	\$0.08	80.00 USD
次の 450 TB/月	0.06 USD	60 USD

次のテーブルでは、管理アカウントと 3 つのメンバーアカウントを含む、組織の Amazon S3 の使用状況を示しています。

S3 使用量のブレンドコストの例

アカウント	Tier	ストレージ 量 (GB)	ストレージ 量 (TB)	非ブレン ドレート (/ GB)	非ブレン ドレート (/ TB)	非ブレン ドコスト
管理	最初の 1 TB/月	1,000	1	0.10 USD	100	100.00 USD
	次の 49 TB/月	49,000	49	\$0.08	80	3,920.00 USD
	次の 450 TB/月	45,000	45	0.06 USD	60	2,700.00 USD
合計		95,000	95			6,720.00 USD

アカウント	Tier	ストレージ量 (GB)	ストレージ量 (TB)	非ブレンドレート (/GB)	非ブレンドレート (/TB)	非ブレンドコスト	ブレンドレート (/GB) (=6,720/5,000 USD)	ブレンドレート (/TB) (=6,720/5 USD)	ブレンドコスト (=ブレンドレート * ストレージ)
メンバー 1	最初の 1 TB/月	1,000	1	0.10 USD	100	100.00 USD	0.070737	70.737	70.37 USD
	次の 49 TB/月	14,000	14	\$0.08	80	1,120.00 USD	0.070737	70.737	990.318 USD
	次の 450 TB/月	15,000	15	0.06 USD	60	900.00 USD	0.070737	70.737	1,061.055 USD

アカウント	Tier	ストレージ量 (GB)	ストレージ量 (TB)	非ブレンドレート (/GB)	非ブレンドレート (/TB)	非ブレンドコスト	ブレンドレート (/GB) (=6,720/5,000 USD)	ブレンドレート (/TB) (=6,720/5 USD)	ブレンドコスト (=ブレンドレート * ストレージ)
メンバー 2	次の 49 TB/月	20,000	20	\$0.08	80	1,600.00 USD	0.070737	70.737	1,414.74 USD
	次の 450 TB/月	15,000	15	0.06 USD	60	900.00 USD	0.070737	70.737	1,061.55 USD

アカウント	Tier	ストレージ量 (GB)	ストレージ量 (TB)	非ブレンドレート (/GB)	非ブレンドレート (/TB)	非ブレンドコスト	ブレンドレート (/GB) (=6,720/5,000 USD)	ブレンドレート (/TB) (=6,720/5 USD)	ブレンドコスト (=ブレンドレート * ストレージ)
メンバー 3	次の 49 TB/月	15,000	15	\$0.08	80	1,200.00 USD	0.070737	70.737	1,061.55 USD

アカウント	Tier	ストレージ量 (GB)	ストレージ量 (TB)	非ブレンドレート (/GB)	非ブレンドレート (/TB)	非ブレンドコスト	ブレンドレート (/GB) (=6,720/5,000 USD)	ブレンドレート (/TB) (=6,720/5 USD)	ブレンドコスト (=ブレンドレート * ストレージ)
	次の 450 TB/月	15,000	15	0.06 USD	60	900.00 USD	0.070737	70.737	1,061.55 USD

上記の表の費用は次のように計算されます。

1. 組織の全使用量は合計 95 TB (95,000 GB) です。これは、管理アカウントの記録用に加算されます。管理アカウントそのものの使用量はありません。使用料は、メンバーアカウントにのみ発生します。メンバー 1 は、1 TB のストレージを使用しています。この場合、組織の最初の料金範囲を満たしています。2 番目の料金範囲は、3 つのメンバーアカウント (メンバー 1 の 14 TB + メンバー 2 の 20 TB + メンバー 3 の 15 TB = 49 TB) によって満たされています。3 番目の料金範囲は、49 TB を超える使用量に適用されます。この例では、3 番目の料金範囲は、合計使用量が 45 TB のメンバーアカウントに適用されます。
2. 合計コストは、最初の 1 TB のコスト (1,000 GB x 0.10 USD = 100.00 USD) を、次の 49 TB のコスト (49,000 GB x 0.08 USD = 3,920 USD) と残りの 45 TB のコスト (45,000 GB x 0.06 USD = 2,700 USD) に加算して算出します。その結果、合計コストは、6,720 USD (100.00 USD + 3920.00 USD + 2700.00 USD = 6720.00 USD) になります。

前の例は、一括請求を使用することで、ストレージの AWS Organizations 全体的な月額コストを削減する方法を示しています。各メンバーアカウントのコストを個別に計算した場合、合計コストは 6,720 USD ではなく、7,660 USD です。3 つのアカウントの使用量を合計することで、より安い料金階層に、より早く移行することができます。最も高価なストレージ (最初の 1 TB) が最大料金で請求されるのは 1 回のみです。3 回請求されることはありません。たとえば、3 TB のストレージを最大レートの 100 USD/TB で使用すると、300 USD になります。このストレージについて、最初の 1 TB (100 USD) と、80 USD の追加の 2 TB (160 USD) で請求すると、合計請求額は 260 USD です。

リザーブドインスタンス

AWS では、前払い料金と期間契約と引き換えに、時間単位の割引料金も提供しています。

ゾーン リザーブドインスタンス

リザーブドインスタンスは、前払いの料金および期間契約と引き換えに、時間料金を割引する予約です。Amazon Elastic Compute Cloud ([Amazon EC2](#)) や Amazon Relational Database Service ([Amazon RDS](#)) などのサービスでは、このアプローチを使用して、予約されたキャパシティーをリザーブドインスタンスとして販売しています。仮想マシンではありません。リザーブドインスタンスは、特定の Amazon EC2 または Amazon RDS インスタンスについて事前に料金を支払うという約束です。見返りとして、オンデマンドインスタンスの使用状況と比較して、割引レートが適用されます。リザーブドインスタンスとオンデマンドインスタンスに技術的な違いはありません。インスタンスを起動すると、はアクティブな予約に適用できる組織内のすべてのアカウントでの対象となる使用状況 AWS をチェックします。詳細については、「Amazon EC2 ユーザーガイド」の[リザーブドインスタンス](#)に関するページおよび「Amazon Relational Database Service デベロッパーガイド」の[リザーブド DB インスタンスの使用](#)に関するページを参照してください。

リザーブドインスタンスで容量を予約すると、時間単位の使用量は、同じアベイラビリティゾーン内の利用タイプが同じインスタンスに適用される割引レートで計算されます。

リージョン リザーブドインスタンス

リージョンリザーブドインスタンスは、キャパシティーを予約できません。その代わりに、アベイラビリティゾーンの柔軟性と、場合によってはインスタンスサイズの柔軟性が提供されます。アベイラビリティゾーンの柔軟性により、リザーブド AWS リージョンの任意のアベイラビリティゾーンで 1 つ以上のインスタンスを実行できます。リザーブドインスタンス割引は、すべてのアベイラビリティゾーンのすべての使用量に適用されます。インスタンスサイズの柔軟性により、インスタンスファミリー内のインスタンスの使用に対して、サイズを問わず、リザーブドインスタンス割引が適用されます。インスタンスサイズの柔軟性は、デフォルトのテナンシーを持つ Linux/Unix プラットフォーム上のリザーブドインスタンスにのみ適用されます。リージョンリザーブドインスタンスの詳細については、本ドキュメント内にある「Cost and Usage Reports Guide」の「[Reservation Details](#)」、および「[Linux インスタンス向け Amazon Elastic Compute Cloud ユーザーガイド](#)」の「[リザーブドインスタンスの適用](#)」を参照してください。

リザーブドインスタンスを使用した Amazon EC2 のコスト計算

AWS は、組織の特定の AWS リージョン内の特定のインスタンスタイプのすべての Amazon EC2 EC2 インスタンスの料金を計算します。

計算方法

AWS は、次のロジックを使用して Amazon EC2 インスタンスのブレンドレートを計算します。

1. AWS は、その月または月の一部について組織内のすべてのアカウントの使用量を集計し、オンデマンドインスタンスやリザーブドインスタンスのレートなどの非ブレンドレートに基づいてコストを計算します。これらの費用の明細項目は、管理アカウントに対して作成されます。この請求計算モデルは、各明細項目が条件を満たす最低の非ブレンドレートを適用することを目的としたものです。リザーブドインスタンス時間から始まり、無料利用枠の時間、残りの使用量に対するオンデマンドレートの順で適用されます。AWS コストと使用状況レポートでは、これらの集計コストの明細項目を確認できます。
2. AWS は、各 AWS リージョンの各 Amazon EC2 使用タイプを識別し、集約された管理アカウントから、同じリージョン内の同じ使用タイプに対応するメンバーアカウントの明細項目にコストを割り当てます。AWS コストと使用状況レポートでは、非ブレンドレート列に各明細項目に適用されるレートが表示されます。

Note

がリザーブドインスタンスの時間をメンバーアカウント AWS に割り当てる場合、常に予約を購入したアカウントから始まります。キャパシティ予約の残り時間がある場合、は同じアベイラビリティゾーンで同じ使用タイプを操作する他のアカウントに適用 AWS します。

AWS は、リージョン RI をインスタンスサイズで割り当てます。RI は、まずインスタンスファミリー内の最小のインスタンスに適用され、次に最小のインスタンスに適用されます。は、インスタンスの[正規化係数](#)に基づいて RI または RI の一部 AWS を適用します。が RIs AWS を適用する順序では、価格差は発生しません。

外部管理アカウントに請求を移管しても、それぞれの計算境界 AWS Organizations は変更されません。料金と割引 (リザーブドインスタンスと Savings Plans を含む) は、個々の AWS Organizations レベルで計算されます。詳細については、「[請求管理を外部アカウントに転送する](#)」を参照してください。

積立プラン

Savings Plans は、AWS 使用量の削減に役立つ柔軟な料金モデルです。Compute Savings Plans を使用すると、1 時間あたりの金額をコミットし、割引された Amazon EC2、Fargate、およびその使用量 AWS Lambda までを受け取ることができます。

Note

請求転送を使用する場合、Savings Plans は、どのアカウントが請求を支払うかに関係なく、購入した AWS Organizations にのみ適用されます。Savings Plans を複数の間で購入または共有することはできません AWS Organizations。

Savings Plans によるコストの計算

AWS は、Amazon EC2、Fargate、および の料金を計算し、リザーブドインスタンスでカバーされていないすべての使用量を AWS Lambda 集計し、最も割引率の高い Savings Plans 料金を適用します。

Savings Plans は、Savings Plans を所有するアカウントに適用されます。次に、AWS 組織内の他のアカウントと共有されます。詳細については、Savings Plans ユーザーガイドの「[Savings Plans の使用量への適用方法の理解](#)」を参照してください。

Note

外部管理アカウントに請求を移管しても、それぞれの計算境界 AWS Organizations は変更されません。料金と割引 (リザーブドインスタンスと Savings Plans を含む) は、個々の AWS Organizations レベルで計算されます。詳細については、「[請求管理を外部アカウントに転送する](#)」を参照してください。

ブレンドレートとコスト

ブレンドレートは、組織内のメンバーアカウントによって使用されるリザーブドインスタンスとオンデマンドインスタンスの平均レートです AWS Organizations。は、各サービスのブレンドレートにそのサービスのアカウント使用状況を乗算してブレンドコスト AWS を計算します。

Note

- AWS は、各メンバーアカウントに対して、料金を非ブレンドコストとして表示します。は、予約や階層型料金など、すべての一括請求特典を のすべてのメンバーアカウントに適用 AWS し続けます AWS Organizations。
- Amazon EC2 のブレンドレートは、時間単位で計算されます。

このセクションでは、が以下のサービスのブレンドレート AWS を計算する方法を示す例を示します。

- [Amazon S3 Standard ストレージのブレンドレートの計算](#)
- [Amazon EC2 のブレンドレートの計算](#)

Amazon S3 Standard ストレージのブレンドレートの計算

AWS は、ストレージの合計コストを 1 か月あたりに保存されているデータ量で割って、Amazon S3 標準ストレージのブレンドレートを計算します。

管理アカウントおよび 3 つのメンバーアカウントのコスト 6,720 USD を計算した「[一括請求の計算方法](#)」の例を使用して、次のロジックでこれらのアカウントのブレンドレートを計算します。

1. ブレンドレートを GB 単位で算出するには、合計コスト (6,720 USD) をストレージ容量 (95,000 GB) で除算します。その結果、ブレンドレートは、1 GB 当たり 0.070737 USD になります。ブレンドレートを TB 単位で算出するには、合計コスト (6,720 USD) をストレージ容量 (95 TB) で除算します。その結果、ブレンドレートは、1 TB 当たり 70.737 USD になります。
2. 各メンバーアカウントのブレンドコストを配分するには、ブレンドレート (GB または TB) に使用量を乗算します。その結果、ブレンドコスト列に表示されている金額になります。たとえば、メンバー 1 は、ブレンドレート 0.070737 USD で 14,000 GB のストレージ (または 70.737 USD で 14 TB) を使用しており、ブレンドコストは 990.318 USD になります。

Amazon EC2 のブレンドレートの計算

一括請求ロジックは、管理アカウントに Amazon EC2 コストを集計してから、それを使用比率に基づいてメンバーアカウントに配分します。

この例では、すべての使用量が同じ使用タイプであり、同じアベイラビリティーゾーンで発生し、リザーブドインスタンスの期間が同じです。この例の対象は、完全な前払いと部分的な前払いのリザーブドインスタンスです。

次の表に、Amazon EC2 の月間 720 時間 (30 日) の使用についての明細項目の計算を表す明細項目を示します。各インスタンスは、同じアベイラビリティーゾーンで実行される同じ使用タイプ (t2.small) です。組織は、3 つのリザーブドインスタンスを 1 年分購入しています。メンバーアカウント 1 には 3 つのリザーブドインスタンスがあります。メンバーアカウント 2 にはリザーブドインスタンスはありませんが、オンデマンドのインスタンスを使用しています。

明細 項目 アカウント	請求 タイプ	使用 タイプ	前払 い料 金	月額 コス ト	使用 可能 な使 用法	使用 量	非ブ レ ンド レー ト	非ブ レ ン ド コス ト	ブレ ンド レー ト	ブレ ンド コス ト
管理 アカ ウン ト	RI、 すべ て前 払い	t2.small	274.00 USD	0.00 USD	-	1440	-	-	-	-
	RI、 一部 前払 い	t2.small	70.00 USD	5.84 USD	-	720	-	-	-	-
メン バー アカ ウン ト 1	RI 適 用済 み	t2.small	-	-	1440	1440	0.00 USD	0.00 USD	0.00575 USD	8.28 USD
	RI 適 用済 み	t2.small	-	-	720	720	0.00 USD	0.00 USD	0.00575 USD	4.14 USD
メン バー アカ ウン ト 2	オン デマ ンド	t2.small	-	-	-	720	0.023 USD	16.56 USD	0.00575 USD	4.14 USD
合計					2160	2880		16.56 USD		16.56 USD

前記の表のデータは、次の情報を表しています。

- 組織は、1,440 時間のリザーブドインスタンスキャパシティーを完全な前払いレートで購入しました (2 つの EC2 インスタンス)。

- 組織は、720 時間のリザーブドインスタンスキャパシティーを一部前払いレートで購入しました (1 つの EC2 インスタンス)。
- メンバーアカウント 1 は、2 つの完全な前払いリザーブドインスタンスおよび 1 つの部分的な前払いリザーブドインスタンスを合計 2,160 時間使用しています。メンバーアカウント 2 は、オンデマンドインスタンスを 720 時間使用しています。組織の合計使用量は、合計 2,880 時間 ($2160 + 720 = 2,880$) です。
- 3 つのリザーブドインスタンスの非ブレンドレートは、0.00 USD です。RI の料金はブレンドレートの計算には使用しないため、非ブレンドレートは常に 0.00 USD になります。
- オンデマンドインスタンスの非ブレンドレートは、0.023 USD です。非ブレンドレートは、製品の現在の価格に関連付けられます。前の表の情報を使用してこれらを検証することはできません。
- ブレンドレートを算出するには、合計コスト (16.56 USD) を Amazon EC2 の合計使用時間 (2,880 時間) で除算します。これにより、1 時間あたり 0.005750000 USD が発生します。

短いバージョンの PDF 請求書のリクエスト

AWS PDF 請求書には、の一部である支払者アカウント (管理アカウント) および関連するメンバーアカウントの AWS のサービス 料金が含まれています AWS Organizations。

この AWS PDF 請求書には、次のセクションがあります。

1. 請求書全体の概要
2. AWS のサービス すべてのアカウントの概要
3. メンバーアカウントのアクティビティ概要
4. メンバーアカウントの詳細なアクティビティ

アカウントでこの機能をリクエストすると、PDF 形式の請求書からメンバーアカウントの詳細が省略されるため、受け取る請求書のページ数が少なくなります。

Note

この機能では、PDF 請求書からメンバーアカウントの詳細のみが省略されます。この情報は Billing and Cost Management コンソールと AWS Cost Explorerで引き続き表示できます。

次の PDF 請求書の概要オプションをリクエストできます。

請求書概要オプション 1

オプション 1 には、次のセクションが含まれています。

1. 請求書全体の概要
2. AWS のサービス すべてのアカウントの概要
3. メンバーアカウントのアクティビティ概要

オプション 1 では、メンバーアカウントの詳細なアクティビティが省略されます。

請求書概要オプション 2

オプション 2 には、次のセクションが含まれています。

1. 請求書全体の概要
2. AWS のサービス すべてのアカウントの概要

オプション2 では、メンバーアカウントの概要アクティビティと詳細アクティビティが省略されます。

いずれかのオプションをリクエストするには、次の手順に従ってください。

短いバージョンの PDF 請求書をリクエストするには

1. 支払者アカウントとして [AWS Support Center Console](#) にサインインします。
2. アカウントと請求のサポートケースを作成します。
3. [サービス] で [請求] を選択します。
4. [カテゴリ] で、[一括請求] を選択します。
5. プロンプトに従ってケースを作成します。
6. ケースの詳細で、アカウントに使用する PDF 形式の請求書概要をオプション 1 またはオプション 2 で指定します。

サポートエージェントがリクエストを完了すると、次回から請求書は、リクエストした請求書オプションで更新されます。この機能は、以前に生成された請求書には適用されません。

Note

同じ手順で、メンバーアカウントに対して請求書概要オプションを変更したり、従来の PDF 請求書概要をリクエストすることもできます。

サポート のアカウントの料金 AWS Organizations

AWS は、メンバーアカウントごとに サポート 料金を個別に計算します。通常、メンバーアカウントの サポート のサブスクリプションは組織全体に適用されません。アカウントごとに個別にサブスクライブします。エンタープライズサポートプランをご契約の場合は、毎月の請求に複数のアカウントをまとめて含めることができます。デベロッパー、ビジネス、エンタープライズサポートプランの月額料金は、毎月の AWS 使用量に基づきます。ただし、リザーブドインスタンスおよび Savings Plan の購入に関連する サポート 料金は、購入を行ったメンバーアカウントに適用されます。詳細については、「[サポート のプランの料金](#)」を参照してください。

Note

請求書ソースアカウントとしてサインインすると、サポートプランの料金は、見積り Cost Explorer AWS Cost and Usage Report、または請求書ページにデフォルトでは表示されません。請求書転送アカウントでは、Billing Conductor のカスタム明細項目を使用してこれらの料金をモデル化することで、サポートプランの料金を表示する必要があります。請求転送は、サポート料金の計算方法には影響しません。

のセキュリティ AWS Billing

のクラウドセキュリティが最優先事項 AWS です。お客様は AWS、最もセキュリティの影響を受けやすい組織の要件を満たすように構築されたデータセンターとネットワークアーキテクチャを活用できます。

セキュリティは、AWS とお客様の間の責任共有です。[責任共有モデル](#)ではこれをクラウドのセキュリティおよびクラウド内のセキュリティと説明しています。

- クラウドのセキュリティ – AWS クラウドで AWS サービスを実行するインフラストラクチャを保護する AWS 責任があります。AWS また、では、安全に使用できるサービスも提供しています。サードパーティーの監査者は、[AWS コンプライアンスプログラム](#)コンプライアンスプログラムの一環として、当社のセキュリティの有効性を定期的にテストおよび検証。が適用されるコンプライアンスプログラムの詳細については AWS Billing and Cost Management、「[コンプライアンスプログラムAWS による対象範囲内のサービスコンプライアンスプログラム](#)」を参照してください。
- クラウドのセキュリティ – お客様の責任は、使用する AWS サービスによって決まります。また、ユーザーは、データの機密性、会社の要件、適用される法律や規制など、その他の要因についても責任を負います。

このドキュメントは、請求情報とコスト管理を使用する際に共有責任モデルを適用する方法を理解するのに役立ちます 以下のトピックでは、セキュリティおよびコンプライアンスの目的を達成するために請求情報とコスト管理を設定する方法を示します。また、請求情報とコスト管理リソースのモニタリングと保護に役立つ他の AWS サービスの使用方法についても説明します。

トピック

- [でのデータ保護 AWS Billing and Cost Management](#)
- [AWS 請求用の Identity and Access Management](#)
- [のサービスにリンクされたロールの使用 AWS Billing](#)
- [でのログ記録とモニタリング AWS Billing and Cost Management](#)
- [のコンプライアンス検証 AWS Billing and Cost Management](#)
- [の耐障害性 AWS Billing and Cost Management](#)
- [のインフラストラクチャセキュリティ AWS Billing and Cost Management](#)

Note

請求転送を請求ソースアカウントとして使用すると、請求およびコスト管理データは外部管理アカウント (請求転送アカウント) に転送されます。請求書転送アカウントは、請求とコスト管理のエクスペリエンスを制御します。請求ソースアカウントは、IAM ポリシーを使用して請求転送効果を上書きすることはできません。請求とコスト管理データの制御を回復するには、請求の移管を中止する必要があります。詳細については、「[請求管理を外部アカウントに転送する](#)」を参照してください。

でのデータ保護 AWS Billing and Cost Management

責任 AWS [共有モデル](#)、でのデータ保護に適用されます AWS Billing and Cost Management。このモデルで説明されているように、AWS はすべての を実行するグローバルインフラストラクチャを保護する責任があります AWS クラウド。ユーザーは、このインフラストラクチャでホストされるコンテンツに対する管理を維持する責任があります。また、使用する「AWS のサービス」のセキュリティ設定と管理タスクもユーザーの責任となります。データプライバシーの詳細については、[データプライバシーに関するよくある質問](#)を参照してください。欧州でのデータ保護の詳細については、AWS セキュリティブログに投稿された「[AWS 責任共有モデルおよび GDPR](#)」のブログ記事を参照してください。

データ保護の目的で、認証情報を保護し AWS アカウント、AWS IAM アイデンティティセンターまたは AWS Identity and Access Management (IAM) を使用して個々のユーザーを設定することをお勧めします。この方法により、それぞれのジョブを遂行するために必要な権限のみが各ユーザーに付与されます。また、次の方法でデータを保護することもお勧めします:

- 各アカウントで多要素認証 (MFA) を使用します。
- SSL/TLS を使用して AWS リソースと通信します。TLS 1.2 は必須ですが、TLS 1.3 を推奨します。
- で API とユーザーアクティビティのログ記録を設定します AWS CloudTrail。CloudTrail 証跡を使用して AWS アクティビティをキャプチャする方法については、「AWS CloudTrail ユーザーガイド」の[CloudTrail 証跡の使用](#)」を参照してください。
- AWS 暗号化ソリューションと、その中のすべてのデフォルトのセキュリティコントロールを使用します AWS のサービス。
- Amazon Macie などの高度な管理されたセキュリティサービスを使用します。これらは、Amazon S3 に保存されている機密データの検出と保護を支援します。

- コマンドラインインターフェイスまたは API AWS を介して にアクセスするときに FIPS 140-3 検証済み暗号化モジュールが必要な場合は、FIPS エンドポイントを使用します。利用可能な FIPS エンドポイントの詳細については、「[連邦情報処理規格 \(FIPS\) 140-3](#)」を参照してください。

お客様の E メールアドレスなどの極秘または機密情報を、タグ、または [名前] フィールドなどの自由形式のテキストフィールドに含めないことを強くお勧めします。これは、コンソール、API、または SDK を使用して Billing and Cost Management AWS CLI または他の AWS のサービス を使用する場合も同様です。AWS SDKs タグ、または名前に使用される自由記述のテキストフィールドに入力したデータは、請求または診断ログに使用される場合があります。外部サーバーに URL を提供する場合、そのサーバーへのリクエストを検証できるように、認証情報を URL に含めないことを強くお勧めします。

AWS 請求用の Identity and Access Management

AWS Identity and Access Management (IAM) は、管理者が AWS リソースへのアクセスを安全に制御 AWS のサービス するのに役立つ です。IAM 管理者は、誰を認証 (サインイン) し、誰に課金リソースの使用を許可 (許可を持たせる) するかを制御します。IAM は、追加料金なしで使用できる AWS のサービス です。

Billing コンソールに対するアクセス権のアクティブ化を開始するには、「IAM ユーザーガイド」の「[IAM チュートリアル: Billing コンソールへのアクセス権の付与](#)」を参照してください。

ユーザータイプと請求に対するアクセス許可

この表は、請求で請求ユーザーの種類ごとに許可されるデフォルトのアクションをまとめたものです。

ユーザータイプと請求に対するアクセス許可

ユーザーのタイプ	説明	請求に対するアクセス許可
アカウント所有者	アカウント名として設定した名前を持つ人またはエンティティ。	• すべての請求情報とコスト管理リソースを完全に制御できます。 • AWS 料金の毎月の請求書を受け取ります。
ユーザー	アカウント所有者または管理ユーザーによって、アカウン	• ユーザー単位またはユーザーグループ単位で明示的

ユーザーのタイプ	説明	請求に対するアクセス許可
	トのユーザーとして定義された人物またはアプリケーション。アカウントには、複数のユーザーを含めることができます。	に付与された権限を有します。 - 請求情報とコスト管理コンソールページを表示する許可を付与されることができます。詳細については、アクセス許可の管理の概要を参照してください。 - アカウントを解約することはできません。
組織管理アカウント所有者	AWS Organizations 管理アカウントに関連付けられている個人またはエンティティ。管理アカウントは、組織のメンバーアカウントによって発生した AWS 使用量に対して支払います。	- 管理アカウントについての、すべての請求情報とコスト管理リソースを完全に制御できます。 - 管理アカウントとメンバーアカウントの AWS 料金の毎月の請求書を受け取ります。 - 管理アカウントの請求レポートで、メンバーアカウントのアクティビティを参照できます。

ユーザーのタイプ	説明	請求に対するアクセス許可
組織のメンバーアカウント所有者	AWS Organizations メンバーアカウントに関連付けられている個人またはエンティティ。管理アカウントは、組織のメンバーアカウントによって発生した AWS 使用量に対して支払います。	• 使用状況レポートまたはアクティビティは、当のアカウントに関するもののみ参照できます。組織内の他のメンバーアカウントまたは管理アカウントの使用状況レポートやアカウントアクティビティにはアクセスできません。 • 請求レポートを表示する権限はありません。 • 当のアカウントに関する情報のみ更新できます。他のメンバーアカウントまたは管理アカウントにはアクセスできません。

アクセス許可の管理の概要

請求の情報およびツールへのアクセス許可

デフォルトでは、IAM ユーザーには [AWS Billing and Cost Management コンソール](#) へのアクセス権がありません。

を作成するときは AWS アカウント、すべての AWS のサービス および リソースへの完全なアクセス権を持つ AWS アカウント root ユーザーと呼ばれる 1 つのサインインアイデンティティから始めます。日常的なタスクには、ルートユーザーを使用しないことを強くお勧めします。ルートユーザー認証情報を必要とするタスクについては、「IAM ユーザーガイド」の「[ルートユーザー認証情報が必要なタスク](#)」を参照してください。

管理者は、ユーザーが引き受けることができる AWS アカウントでロールを作成できます。ロールを作成したら、必要なアクセス権に基づいて IAM ポリシーをロールにアタッチできます。例えば、請求の情報とツールの一部にアクセスできる制限されたアクセス許可を一部のユーザーに与え、すべての情報とツールに対する完全なアクセス許可を他のユーザーに与えることができます。

IAM エンティティに Billing and Cost Management コンソールへのアクセス権を付与するには、以下を行ってください。

- [IAM アクセスをルートユーザーとしてアクティブ化](#)します。AWS アカウント アカウントでこのアクションを実行する必要があるのは 1 回だけです。
- ユーザー、グループ、ロールなどの IAM ID を作成します。
- AWS 管理ポリシーを使用するか、請求情報とコスト管理コンソールで特定のアクションにアクセス許可を付与するカスタマー管理ポリシーを作成します。詳細については、「[Billing のアイデンティティベースのポリシーの使用](#)」を参照してください。

詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「[IAM tutorial: Grant access to the Billing console](#)」を参照してください。

 Note

Cost Explorer の許可は、IAM ポリシーに関係なくすべてのアカウントとメンバーアカウントに適用されます。詳細については、[AWS Cost Explorer へのアクセスの制御](#)を参照してください。

請求情報とコスト管理コンソールへのアクセスをアクティベートする

の IAM ユーザーとロール AWS アカウント は、デフォルトで請求情報とコスト管理コンソールにアクセスできません。これは、IAM ユーザーまたはロールに、特定の請求機能へのアクセス権を付与する IAM ポリシーがある場合でも当てはまります。アクセスを付与するために、AWS アカウントルートユーザーは IAM アクセスのアクティブ化設定を使用できます。

を使用する場合は AWS Organizations、IAM ユーザーとロールに Billing and Cost Management コンソールへのアクセスを許可する各管理アカウントまたはメンバーアカウントで、この設定を有効にします。作成されたメンバーアカウントの場合、このオプションはデフォルトで有効になります。詳細については、「[AWS Billing and Cost Management コンソールへの IAM アクセスのアクティブ化](#)」を参照してください。

請求コンソールで、[IAM アクセスのアクティブ化] 設定により、以下のページへのアクセスを制御します。

- ホーム
- 予算

- Budgets レポート
- AWS コストと使用状況レポート
- コストカテゴリ
- コスト配分タグ
- 請求書
- 支払い
- Credits
- 発注書
- 請求設定
- 支払い方法
- 税金設定
- Cost Explorer
- レポート
- 適切なサイジングに関する推奨事項
- Savings Plans に関する推奨事項
- Savings Plans 使用率レポート
- Savings Plans カバレッジレポート
- 予約の概要
- 予約の推奨事項
- 予約使用率レポート
- 予約カバレッジレポート
- 詳細設定

 Important

IAM アクセスをアクティベートするだけでは、これらの請求情報と予算管理コンソールページに必要な許可は、IAM ロールに付与されません。IAM アクセスのアクティベートに加えて、必要な IAM ポリシーをこれらのロールにアタッチする必要があります。詳細については、「[Billing のアイデンティティベースのポリシーの使用](#)」を参照してください。

[IAM アクセスをアクティベートする] 設定では、次のページおよびリソースへのアクセスを制御しません。

- AWS コスト異常検出、Savings Plans の概要、Savings Plans インベントリ、Savings Plans の購入、Savings Plans カートのコンソールページ
- のコスト管理ビュー AWS Console Mobile Application
- Billing and Cost Management SDK APIs (AWS Cost Explorer、 AWS Budgets、 および AWS Cost and Usage Reports APIs)
- AWS Systems Manager Application Manager
- コンソール内 AWS 料金見積りツール
- Amazon Q のコスト分析機能
- AWS Activate Console 「 

オーディエンス

AWS Identity and Access Management (IAM) の使用方法は、ロールによって異なります。

- サービスユーザー - 機能にアクセスできない場合は、管理者にアクセス許可をリクエストします (「[AWS 請求 ID とアクセスのトラブルシューティング](#)」を参照)。
- サービス管理者 - ユーザーアクセスを決定し、アクセス許可リクエストを送信します (「[Billing と IAM の AWS 連携方法](#)」を参照)
- IAM 管理者 - アクセスを管理するためのポリシーを作成します (「[AWS Billing を使用したアイデンティティベースのポリシー](#)」を参照)

アイデンティティを使用した認証

認証とは、ID 認証情報 AWS を使用して にサインインする方法です。、IAM ユーザー AWS アカウントのルートユーザー、または IAM ロールを引き受けることで認証される必要があります。

AWS IAM アイデンティティセンター (IAM Identity Center)、シングルサインオン認証、Google/Facebook 認証情報などの ID ソースからの認証情報を使用して、フェデレーテッド ID としてサインインできます。サインインの詳細については、「AWS サインイン ユーザーガイド」の「[AWS アカウントにサインインする方法](#)」を参照してください。

プログラムによるアクセスの場合、は SDK と CLI AWS を提供してリクエストを暗号化して署名します。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「[API リクエストに対するAWS 署名バージョン 4](#)」を参照してください。

AWS アカウント ルートユーザー

を作成するときは AWS アカウント、すべての AWS のサービス および リソースへの完全なアクセス権を持つ AWS アカウント ルートユーザーと呼ばれる 1 つのサインインアイデンティティから始めます。日常的なタスクには、ルートユーザーを使用しないことを強くお勧めします。ルートユーザー認証情報を必要とするタスクについては、「IAM ユーザーガイド」の「[ルートユーザー認証情報が必要なタスク](#)」を参照してください。

フェデレーテッドアイデンティティ

ベストプラクティスとして、人間のユーザーが一時的な認証情報 AWS のサービス を使用して にアクセスするには、ID プロバイダーとのフェデレーションを使用する必要があります。

フェデレーテッド ID は、エンタープライズディレクトリ、ウェブ ID プロバイダー、または ID Directory Service ソースの認証情報 AWS のサービス を使用して にアクセスするユーザーです。フェデレーテッドアイデンティティは、一時的な認証情報を提供するロールを引き受けます。

アクセスを一元管理する場合は、AWS IAM アイデンティティセンターをお勧めします。詳細については、「AWS IAM アイデンティティセンター ユーザーガイド」の「[IAM アイデンティティセンターとは](#)」を参照してください。

IAM ユーザーとグループ

[IAM ユーザー](#)は、特定の個人やアプリケーションに対する特定のアクセス許可を持つアイデンティティです。長期認証情報を持つ IAM ユーザーの代わりに一時的な認証情報を使用することをお勧めします。詳細については、IAM ユーザーガイドの「[ID プロバイダーとのフェデレーションを使用して にアクセスする必要がある AWS](#)」を参照してください。

[IAM グループ](#)は、IAM ユーザーの集合を指定し、大量のユーザーに対するアクセス許可の管理を容易にします。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「[IAM ユーザーに関するユースケース](#)」を参照してください。

IAM ロール

[IAM ロール](#)は、特定のアクセス許可を持つアイデンティティであり、一時的な認証情報を提供します。ユーザーから [IAM ロール \(コンソール\)](#) に切り替えるか、または [API オペレーション](#)を呼び出すこ

とで、[ロール](#)を引き受けることができます。AWS CLI AWS 詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「[ロールを引き受けるための各種方法](#)」を参照してください。

IAM ロールは、フェデレーションユーザーアクセス、一時的な IAM ユーザーのアクセス許可、クロスアカウントアクセス、クロスサービスアクセス、および Amazon EC2 で実行するアプリケーションに役立ちます。詳細については、IAM ユーザーガイドの [IAM でのクロスアカウントリソースアクセス](#) を参照してください。

ポリシーを使用したアクセスの管理

でアクセスを制御する AWS には、ポリシーを作成し、ID AWS またはリソースにアタッチします。ポリシーは、アイデンティティまたはリソースに関連付けられたときにアクセス許可を定義します。は、プリンシパルがリクエストを行うときにこれらのポリシー AWS を評価します。ほとんどのポリシーは JSON ドキュメント AWS として保存されます。JSON ポリシードキュメントの詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「[JSON ポリシー概要](#)」を参照してください。

管理者は、ポリシーを使用して、どのプリンシパルがどのリソースに対して、どのような条件でアクションを実行できるかを定義することで、誰が何にアクセスできるかを指定します。

デフォルトでは、ユーザーやロールにアクセス許可はありません。IAM 管理者は IAM ポリシーを作成してロールに追加し、このロールをユーザーが引き受けられるようにします。IAM ポリシーは、オペレーションの実行方法を問わず、アクセス許可を定義します。

アイデンティティベースのポリシー

アイデンティティベースのポリシーは、アイデンティティ (ユーザー、グループ、またはロール) にアタッチできる JSON アクセス許可ポリシードキュメントです。これらのポリシーは、アイデンティティがどのリソースに対してどのような条件下でどのようなアクションを実行できるかを制御します。アイデンティティベースポリシーの作成方法については、IAM ユーザーガイドの [カスタマー管理ポリシーでカスタム IAM アクセス許可を定義する](#) を参照してください。

アイデンティティベースのポリシーは、インラインポリシー (単一の ID に直接埋め込む) または管理ポリシー (複数の ID にアタッチされたスタンドアロンポリシー) にすることができます。管理ポリシーとインラインポリシーのいずれかを選択する方法については、「IAM ユーザーガイド」の「[管理ポリシーとインラインポリシーのいずれかを選択する](#)」を参照してください。

リソースベースのポリシー

リソースベースのポリシーは、リソースに添付する JSON ポリシードキュメントです。例としては、IAM ロール信頼ポリシーや Amazon S3 バケットポリシーなどがあります。リソースベースのポ

リシーをサポートするサービスでは、サービス管理者はポリシーを使用して特定のリソースへのアクセスを制御できます。リソースベースのポリシーでは、[プリンシパルを指定する](#)必要があります。

リソースベースのポリシーは、そのサービス内にあるインラインポリシーです。リソースベースのポリシーでは、IAM の AWS マネージドポリシーを使用できません。

その他のポリシータイプ

AWS は、より一般的なポリシータイプによって付与されるアクセス許可の上限を設定できる追加のポリシータイプをサポートしています。

- アクセス許可の境界 – アイデンティティベースのポリシーで IAM エンティティに付与することのできるアクセス許可の数の上限を設定します。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「[IAM エンティティのアクセス許可境界](#)」を参照してください。
- サービスコントロールポリシー (SCP) - AWS Organizations内の組織または組織単位の最大のアクセス許可を指定します。詳細については、「AWS Organizations ユーザーガイド」の「[サービスコントロールポリシー](#)」を参照してください。
- リソースコントロールポリシー (RCP) – は、アカウント内のリソースで利用できる最大数のアクセス許可を定義します。詳細については、「AWS Organizations ユーザーガイド」の「[リソースコントロールポリシー \(RCP\)](#)」を参照してください。
- セッションポリシー – ロールまたはフェデレーションユーザーの一時セッションを作成する際にパラメータとして渡される高度なポリシーです。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「[セッションポリシー](#)」を参照してください。

複数のポリシータイプ

1 つのリクエストに複数のタイプのポリシーが適用されると、結果として作成されるアクセス許可を理解するのがさらに難しくなります。が複数のポリシータイプが関与する場合にリクエストを許可するかどうか AWS を決定する方法については、「IAM ユーザーガイド」の「[ポリシー評価ロジック](#)」を参照してください。

Billing と IAM の AWS 連携方法

請求は AWS Identity and Access Management (IAM) サービスと統合されるため、組織内の誰が[請求コンソール](#)の特定のページにアクセスできるかを制御できます。請求書、および料金、アカウントアクティビティ、予算、支払い方法、クレジットに関する詳細情報へのアクセスを制御できます。

Billing and Cost Management コンソールへのアクセスをアクティベートする方法の詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「[Tutorial: Delegate Access to the Billing Console](#)」を参照してください。

IAM を使用して Billing へのアクセスを管理するときは、事前に、Billing で使用できる IAM の機能について理解しておきます。

AWS Billing で使用できる IAM 機能

IAM 機能	Billing レポート
アイデンティティベースのポリシー	あり
リソースベースのポリシー	なし
ポリシーアクション	あり
ポリシーリソース	部分的
ポリシー条件キー	あり
ACL	なし
ABAC (ポリシー内のタグ)	部分的
一時認証情報	あり
転送アクセスセッション (FAS)	あり
サービスロール	あり
サービスリンクロール	いいえ

請求およびその他の AWS のサービスがほとんどの IAM 機能と連携する方法の概要については、IAM ユーザーガイドの[AWS 「IAM と連携する のサービス」](#)を参照してください。

Billing のアイデンティティベースのポリシー

アイデンティティベースのポリシーのサポート: あり

アイデンティティベースポリシーは、IAM ユーザー、ユーザーグループ、ロールなど、アイデンティティにアタッチできる JSON 許可ポリシードキュメントです。これらのポリシーは、ユーザーとロールが実行できるアクション、リソース、および条件をコントロールします。アイデンティティベースポリシーの作成方法については、「IAM ユーザーガイド」の「[カスタマー管理ポリシーでカスタム IAM アクセス許可を定義する](#)」を参照してください。

IAM アイデンティティベースのポリシーでは、許可または拒否するアクションとリソース、およびアクションを許可または拒否する条件を指定できます。JSON ポリシーで使用するすべての要素について学ぶには、「IAM ユーザーガイド」の「[IAM JSON ポリシーの要素のリファレンス](#)」を参照してください。

Billing のアイデンティティベースのポリシーの例

Billing のアイデンティティベースのポリシー例を確認するには、「[AWS Billing を使用したアイデンティティベースのポリシー](#)」を参照してください。

Billing 内のリソースベースのポリシー

リソースベースのポリシーのサポート: なし

リソースベースのポリシーは、リソースに添付する JSON ポリシードキュメントです。リソースベースのポリシーには例として、IAM ロールの信頼ポリシーや Amazon S3 バケットポリシーがあげられます。リソースベースのポリシーをサポートするサービスでは、サービス管理者はポリシーを使用して特定のリソースへのアクセスをコントロールできます。ポリシーがアタッチされているリソースの場合、指定されたプリンシパルがそのリソースに対して実行できるアクションと条件は、ポリシーによって定義されます。リソースベースのポリシーで、[プリンシパルを指定する](#)必要があります。プリンシパルには、アカウント、ユーザー、ロール、フェデレーティッドユーザー、またはを含めることができます AWS のサービス。

クロスアカウントアクセスを有効にするには、全体のアカウント、または別のアカウントの IAM エンティティを、リソースベースのポリシーのプリンシパルとして指定します。詳細については、IAM ユーザーガイドの[IAM でのクロスアカウントリソースアクセス](#)を参照してください。

Billing のポリシーアクション

ポリシーアクションのサポート: あり

管理者は JSON AWS ポリシーを使用して、誰が何にアクセスできるかを指定できます。つまり、どのプリンシパルがどのリソースに対してどのような条件下でアクションを実行できるかということです。

JSON ポリシーの Action 要素にはポリシー内のアクセスを許可または拒否するために使用できるアクションが記述されます。このアクションは関連付けられたオペレーションを実行するためのアクセス許可を付与するポリシーで使用されます。

請求アクションのリストを確認するには、「サービス認可リファレンス」の[AWS「請求で定義されるアクション」](#)を参照してください。

Billing のポリシーアクションは、アクションの前に次のプレフィックスを使用します。

```
billing
```

単一のステートメントで複数のアクションを指定するには、アクションをカンマで区切ります。

```
"Action": [  
    "billing:action1",  
    "billing:action2"  
]
```

Billing のアイデンティティベースのポリシー例を確認するには、「[AWS Billing を使用したアイデンティティベースのポリシー](#)」を参照してください。

Billing のポリシーリソース

ポリシーリソースのサポート: 一部

ポリシーリソースがサポートされるのは、モニター、サブスクリプション、およびコストカテゴリのみです。

管理者は JSON AWS ポリシーを使用して、誰が何にアクセスできるかを指定できます。つまり、どのプリンシパルがどのリソースに対してどのような条件下でアクションを実行できるかということです。

Resource JSON ポリシー要素はアクションが適用されるオブジェクトを指定します。ベストプラクティスとして、[Amazon リソースネーム \(ARN\)](#) を使用してリソースを指定します。リソースレベルのアクセス許可をサポートしないアクションの場合は、ステートメントがすべてのリソースに適用されることを示すために、ワイルドカード (*) を使用します。

```
"Resource": "*"
```

AWS Cost Explorer リソースタイプのリストを確認するには、「サービス認可リファレンス」の[AWS Cost Explorer のアクション、リソース、および条件キー](#)」を参照してください。

Billing のアイデンティティベースのポリシー例を確認するには、「[AWS Billing を使用したアイデンティティベースのポリシー](#)」を参照してください。

Billing のポリシー条件キー

サービス固有のポリシー条件キーのサポート: あり

管理者は JSON AWS ポリシーを使用して、誰が何にアクセスできるかを指定できます。つまり、どのプリンシパルがどのリソースに対してどのような条件下でアクションを実行できるかということです。

Condition 要素は、定義された基準に基づいてステートメントが実行される時期を指定します。イコールや未満などの[条件演算子](#)を使用して条件式を作成して、ポリシーの条件とリクエスト内の値を一致させることができます。すべての AWS グローバル条件キーを確認するには、「IAM ユーザーガイド」の[AWS 「グローバル条件コンテキストキー」](#)を参照してください。

請求条件キー、アクション、リソースのリストを確認するには、「サービス認可リファレンス」の[AWS 「請求の条件キー」](#)を参照してください。

Billing のアイデンティティベースのポリシー例を確認するには、「[AWS Billing を使用したアイデンティティベースのポリシー](#)」を参照してください。

Billing のアクセスコントロールリスト (ACL)

ACL のサポート: なし

アクセスコントロールリスト (ACL) は、どのプリンシパル (アカウントメンバー、ユーザー、またはロール) がリソースにアクセスするためのアクセス許可を持つかを制御します。ACL はリソースベースのポリシーに似ていますが、JSON ポリシードキュメント形式は使用しません。

Billing での属性ベースのアクセス制御 (ABAC)

ABAC (ポリシー内のタグ) のサポート: 一部

ABAC (ポリシー内のタグ) がサポートされるのは、モニター、サブスクリプション、およびコストカテゴリのみです。

属性ベースのアクセス制御 (ABAC) は、タグと呼ばれる属性に基づいてアクセス許可を定義する認可戦略です。IAM エンティティと AWS リソースにタグをアタッチし、プリンシパルのタグがリソースのタグと一致するときにオペレーションを許可するように ABAC ポリシーを設計できます。

タグに基づいてアクセスを管理するには、`aws:ResourceTag/key-name`、`aws:RequestTag/key-name`、または `aws:TagKeys` の条件キーを使用して、ポリシーの[条件要素](#)でタグ情報を提供します。

サービスがすべてのリソースタイプに対して 3 つの条件キーすべてをサポートする場合、そのサービスの値はありです。サービスが一部のリソースタイプに対してのみ 3 つの条件キーのすべてをサポートする場合、値は「部分的」になります。

ABAC の詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「[ABAC 認可でアクセス許可を定義する](#)」を参照してください。ABAC をセットアップする手順を説明するチュートリアルについては、「IAM ユーザーガイド」の「[属性ベースのアクセスコントロール \(ABAC\) を使用する](#)」を参照してください。

Billing での一時的な認証情報の使用

一時的な認証情報のサポート: あり

一時的な認証情報は、AWS リソースへの短期的なアクセスを提供し、フェデレーションまたは切り替えロールを使用する場合に自動的に作成されます。AWS では、長期的なアクセスキーを使用する代わりに、一時的な認証情報を動的に生成することをお勧めします。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「[IAM の一時的な認証情報](#)」および「[AWS のサービスと IAM との連携](#)」を参照してください。

Billing の転送アクセスセッション

転送アクセスセッション (FAS) のサポート: あり

転送アクセスセッション (FAS) は、を呼び出すプリンシパルのアクセス許可と AWS のサービス、ダウストリームサービス AWS のサービス へのリクエストをリクエストする を使用します。FAS リクエストを行う際のポリシーの詳細については、「[転送アクセスセッション](#)」を参照してください。

Billing のサービスロール

サービスロールのサポート: あり

サービスロールとは、サービスがユーザーに代わってアクションを実行するために引き受ける [IAM ロール](#)です。IAM 管理者は、IAM 内からサービスロールを作成、変更、削除できます。詳細については、IAM ユーザーガイドの [AWS のサービスに許可を委任するロールを作成する](#)を参照してください。

 Warning

サービスロールのアクセス許可を変更すると、Billing の機能が破損する可能性があります。Billing で指示される場合以外は、サービスロールを編集しないでください。

Billing のサービスにリンクされたロール

サービスにリンクされたロールのサポート: なし

サービスにリンクされたロールは、にリンクされたサービスロールの一種です AWS のサービス。サービスは、ユーザーに代わってアクションを実行するロールを引き受けることができます。サービスにリンクされたロールは に表示され AWS アカウント、サービスによって所有されます。IAM 管理者は、サービスにリンクされたロールのアクセス許可を表示できますが、編集することはできません。

サービスにリンクされたロールの作成または管理の詳細については、「[IAM と提携するAWS のサービス](#)」を参照してください。表の「サービスリンクロール」列に Yes と記載されたサービスを見つけます。サービスにリンクされたロールに関するドキュメントをサービスで表示するには、[はい] リンクを選択します。

AWS Billing を使用したアイデンティティベースのポリシー

デフォルトでは、ユーザーおよびロールには、Billing リソースを作成または変更するアクセス許可はありません。IAM 管理者は、リソースで必要なアクションを実行するための権限をユーザーに付与する IAM ポリシーを作成できます。

これらのサンプルの JSON ポリシードキュメントを使用して IAM アイデンティティベースのポリシーを作成する方法については、「IAM ユーザーガイド」の「[IAM ポリシーを作成する \(コンソール\)](#)」を参照してください。

各リソースタイプの ARNs [AWS 「請求のアクション、リソース、および条件キー」](#)を参照してください。

目次

- [ポリシーに関するベストプラクティス](#)
- [Billing コンソールの使用](#)
- [自分の権限の表示をユーザーに許可する](#)
- [Billing のアイデンティティベースのポリシーの使用](#)
 - [AWS 請求コンソールアクション](#)

ポリシーに関するベストプラクティス

アイデンティティベースのポリシーは、あるユーザーがアカウントの Billing リソースを作成、アクセス、削除できるかどうかを決定します。これらのアクションでは、AWS アカウントに費用が発生する場合があります。アイデンティティベースポリシーを作成したり編集したりする際には、以下のガイドラインと推奨事項に従ってください:

- AWS 管理ポリシーを開始し、最小特権のアクセス許可に移行する – ユーザーとワークロードにアクセス許可の付与を開始するには、多くの一般的なユースケースにアクセス許可を付与するAWS 管理ポリシーを使用します。これらはで使えます AWS アカウント。ユースケースに固有のAWS カスタマー管理ポリシーを定義することで、アクセス許可をさらに減らすことをお勧めします。詳細については、IAM ユーザーガイドの [AWS マネージドポリシー](#) または [ジョブ機能のAWS マネージドポリシー](#) を参照してください。
- 最小特権を適用する – IAM ポリシーでアクセス許可を設定する場合は、タスクの実行に必要な許可のみを付与します。これを行うには、特定の条件下で特定のリソースに対して実行できるアクションを定義します。これは、最小特権アクセス許可とも呼ばれています。IAM を使用して許可を適用する方法の詳細については、IAM ユーザーガイドの [IAM でのポリシーとアクセス許可](#) を参照してください。
- IAM ポリシーで条件を使用してアクセスをさらに制限する – ポリシーに条件を追加して、アクションやリソースへのアクセスを制限できます。たとえば、ポリシー条件を記述して、すべてのリクエストを SSL を使用して送信するように指定できます。条件を使用して、サービスアクションがなどの特定のを通じて使用されている場合に AWS のサービス、サービスアクションへのアクセスを許可することもできます CloudFormation。詳細については、IAM ユーザーガイドの [IAM JSON ポリシー要素:条件](#) を参照してください。
- IAM アクセスアナライザーを使用して IAM ポリシーを検証し、安全で機能的な権限を確保する – IAM アクセスアナライザーは、新規および既存のポリシーを検証して、ポリシーが IAM ポリシー言語 (JSON) および IAM のベストプラクティスに準拠するようにします。IAM アクセスアナライザーは 100 を超えるポリシーチェックと実用的な推奨事項を提供し、安全で機能的なポリシーの

作成をサポートします。詳細については、IAM ユーザーガイドの [IAM Access Analyzer でポリシーを検証する](#) を参照してください。

- 多要素認証 (MFA) を要求する – で IAM ユーザーまたはルートユーザーを必要とするシナリオがある場合は AWS アカウント、MFA をオンにしてセキュリティを強化します。API オペレーションが呼び出されるときに MFA を必須にするには、ポリシーに MFA 条件を追加します。詳細については、IAM ユーザーガイドの [MFA を使用した安全な API アクセス](#) を参照してください。

IAM でのベストプラクティスの詳細については、IAM ユーザーガイドの [IAM でのセキュリティのベストプラクティス](#) を参照してください。

Billing コンソールの使用

AWS 請求コンソールにアクセスするには、最小限のアクセス許可のセットが必要です。これらのアクセス許可により、の請求リソースの詳細を一覧表示および表示できます AWS アカウント。最小限必要な許可よりも制限が厳しいアイデンティティベースのポリシーを作成すると、そのポリシーを持つエンティティ (ユーザーまたはロール) に対してコンソールが意図したとおりに機能しません。

AWS CLI または AWS API のみを呼び出すユーザーには、最小限のコンソールアクセス許可を付与する必要はありません。代わりに、実行しようとしている API オペレーションに一致するアクションのみへのアクセスが許可されます。

AWS 請求コンソールの有効化に必要なアクセス許可、管理者アクセス、読み取り専用アクセスなどのアクセスの詳細については、[AWS マネージドポリシー](#) セクションを参照してください。

自分の権限の表示をユーザーに許可する

この例では、ユーザーアイデンティティにアタッチされたインラインおよびマネージドポリシーの表示を IAM ユーザーに許可するポリシーの作成方法を示します。このポリシーには、コンソールで、または AWS CLI または AWS API を使用してプログラムでこのアクションを実行するアクセス許可が含まれています。

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Sid": "ViewOwnUserInfo",
      "Effect": "Allow",
      "Action": [
        "iam:GetUserPolicy",
```

```
        "iam:ListGroupsWithUser",
        "iam:ListAttachedUserPolicies",
        "iam:ListUserPolicies",
        "iam:GetUser"
    ],
    "Resource": ["arn:aws:iam::*:user/${aws:username}"]
},
{
    "Sid": "NavigateInConsole",
    "Effect": "Allow",
    "Action": [
        "iam:GetGroupPolicy",
        "iam:GetPolicyVersion",
        "iam:GetPolicy",
        "iam:ListAttachedGroupPolicies",
        "iam:ListGroupPolicies",
        "iam:ListPolicyVersions",
        "iam:ListPolicies",
        "iam:ListUsers"
    ],
    "Resource": "*"
}
]
```

Billing のアイデンティティベースのポリシーの使用

Note

次の AWS Identity and Access Management (IAM) アクションは、2023 年 7 月に標準サポートが終了しました。

- *aws-portal* 名前空間
- *purchase-orders:ViewPurchaseOrders*
- *purchase-orders:ModifyPurchaseOrders*

を使用している場合は AWS Organizations、[一括ポリシー移行スクリプト](#)または一括ポリシー移行を使用して、支払者アカウントからポリシーを更新できます。また、[従来のアクションから詳細なアクションへのマッピングのリファレンス](#)を使用して、追加する必要のある IAM アクションを検証することもできます。

2023 年 3 月 6 日午前 11 時 (PDT) 以降に AWS Organizations 作成された がある場合、AWS アカウントまたは の一部である場合、きめ細かなアクションは組織で既に有効です。

Important

IAM ポリシーに加えて、[\[アカウント設定\]](#) コンソールページで請求情報とコスト管理コンソールへの IAM アクセスを付与する必要があります。
詳細については、以下の各トピックを参照してください。

- [請求情報とコスト管理コンソールへのアクセスをアクティベートする](#)
- 「IAM ユーザーガイド」の「[IAM チュートリアル: Billing コンソールへのアクセス権の付与](#)」

このセクションを使用して、アイデンティティベースのポリシーのアカウント管理者が、アクセス許可ポリシーを IAM アイデンティティ (ロールおよびグループ) にアタッチし、Billing リソースに対して操作を実行するアクセス許可を付与する方法を確認します。

AWS アカウント および ユーザーの詳細については、[IAM ユーザーガイドの「IAM とは」](#)を参照してください。

カスタマー管理ポリシーを更新する方法の詳細については「IAM ユーザーガイド」の「[カスタマー管理ポリシーの編集 \(コンソール\)](#)」を参照してください。

AWS 請求コンソールアクション

この表は、Billing コンソールの情報とツールへのアクセスを付与するアクセス許可をまとめたものです。これらのアクセス許可を使用するポリシーの例については、[AWS 請求ポリシーの例](#)を参照してください。

AWS コスト管理コンソールのアクションポリシーのリストについては、[AWS 「コスト管理ユーザーガイド」の「コスト管理アクションポリシー」](#)を参照してください。 AWS

アクセス許可名	説明
aws-portal:ViewBilling	Billing and Cost Management コンソールページを表示するアクセス許可を付与します。

アクセス許可名	説明
aws-portal:ModifyBilling	次の Billing and Cost Management コンソールページを変更するアクセス許可を付与します。 • 予算 • 一括請求 • 請求設定 • クレジット • 税金設定 • 支払い方法 • 発注書 • Cost Allocation Tags IAM ユーザーにこれらのコンソールページの変更を許可するには、ModifyBilling と ViewBilling の両方を許可する必要があります。ポリシーの例については「請求情報の変更を IAM ユーザーに許可する」を参照してください。
aws-portal:ViewAccount	[アカウント設定] を表示するアクセス許可を付与します。

アクセス許可名	説明
aws-portal:ModifyAccount	[アカウント設定] を変更するアクセス許可を付与します。 IAM ユーザーにアカウント設定の変更を許可するには、ModifyAccount と ViewAccount の両方を許可する必要があります。 [アカウント設定] コンソールページへのアクセスを IAM ユーザーに明示的に拒否するポリシーの例については、「アカウント設定へのアクセスは拒否するが、その他の請求および使用情報へのフルアクセスは許可する」を参照してください。
aws-portal:ViewPaymentMethods	[支払い方法] を表示するアクセス許可を付与します。
aws-portal:ModifyPaymentMethods	[支払い方法] を変更するアクセス許可を付与します。 ユーザーに支払い方法の変更を許可するには、ModifyPaymentMethods と ViewPaymentMethods の両方を許可する必要があります。

アクセス許可名	説明
billing:ListBillingViews	利用可能な請求ビューのリストを取得する許可を付与します。これには、カスタム請求ビューと、見積もり請求グループに対応する請求ビューが含まれます。 カスタム請求ビューの詳細については、「Controlling cost management data access with Billing View」を参照してください。 請求グループ詳細の表示に関する詳細については、「AWS Billing Conductor User Guide」の「Viewing your billing group details」を参照してください。
billing:CreateBillingView	カスタム請求ビューを作成する許可を付与します。 ポリシーの例については、「Allow users to create, manage, and share custom billing views」を参照してください。
billing:UpdateBillingView	カスタム請求ビューを更新する許可を付与します。 ポリシーの例については、「Allow users to create, manage, and share custom billing views」を参照してください。
billing>DeleteBillingView	カスタム請求ビューを削除する許可を付与します。 ポリシーの例については、「Allow users to create, manage, and share custom billing views」を参照してください。

アクセス許可名	説明
billing:GetBillingView	請求ビューの定義を取得する許可を付与します。 ポリシーの例については、「Allow users to create, manage, and share custom billing views」を参照してください。
sustainability:GetCarbonFootprintSummary	AWS Customer Carbon Footprint Tool とデータを表示するアクセス許可を付与します。これは、請求情報と AWS コスト管理コンソールのコストと使用状況レポートページからアクセスできます。 ポリシーの例については、「IAM ユーザーが請求情報とカーボンフットプリントレポートを表示できるようにする」を参照してください。
cur:DescribeReportDefinitions	AWS コストと使用状況レポートを表示するアクセス許可を付与します。 AWS コストと使用状況レポートのアクセス許可は、AWS コストと使用状況レポートサービス API と請求情報とコスト管理コンソールを使用して作成されたすべてのレポートに適用されます。請求情報とコスト管理コンソールを使用してレポートを作成する場合、IAM ユーザーの許可を更新することをお勧めします。許可を更新しないと、ユーザーがコンソールのレポートページでレポートの表示、編集、削除を行うアクセス権を失うことになります。 ポリシーの例については、「レポートコンソールページへのアクセスを IAM ユーザーに許可する」を参照してください。

アクセス許可名	説明
<code>cur:PutReportDefinition</code>	AWS コストと使用状況レポートを作成するアクセス許可を付与します。 AWS コストと使用状況レポートのアクセス許可は、AWS コストと使用状況レポートサービス API と請求情報とコスト管理コンソールを使用して作成されたすべてのレポートに適用されます。請求情報とコスト管理コンソールを使用してレポートを作成する場合、IAM ユーザーの許可を更新することをお勧めします。許可を更新しないと、ユーザーがコンソールのレポートページでレポートの表示、編集、削除を行うアクセス権を失うことになります。 ポリシーの例については、「レポートコンソールページへのアクセスを IAM ユーザーに許可する」を参照してください。
<code>cur>DeleteReportDefinition</code>	AWS コストと使用状況レポートを削除するアクセス許可を付与します。 AWS コストと使用状況レポートのアクセス許可は、AWS コストと使用状況レポートサービス API と請求情報とコスト管理コンソールを使用して作成されたすべてのレポートに適用されます。請求情報とコスト管理コンソールを使用してレポートを作成する場合、IAM ユーザーの許可を更新することをお勧めします。許可を更新しないと、ユーザーがコンソールのレポートページでレポートの表示、編集、削除を行うアクセス権を失うことになります。 ポリシーの例については、「AWS コストと使用状況レポートの作成、表示、編集、または削除」を参照してください。

アクセス許可名	説明
<code>cur:ModifyReportDefinition</code>	AWS コストと使用状況レポートを変更するアクセス許可を付与します。 AWS コストと使用状況レポートのアクセス許可は、AWS コストと使用状況レポートサービス API と請求情報とコスト管理コンソールを使用して作成されたすべてのレポートに適用されます。請求情報とコスト管理コンソールを使用してレポートを作成する場合、IAM ユーザーの許可を更新することをお勧めします。許可を更新しないと、ユーザーがコンソールのレポートページでレポートの表示、編集、削除を行うアクセス権を失うことになります。 ポリシーの例については、「AWS コストと使用状況レポートの作成、表示、編集、または削除」を参照してください。
<code>ce:CreateCostCategoryDefinition</code>	コストカテゴリを作成するアクセス許可を付与します。 ポリシーの例については「Cost Categories の表示と管理」を参照してください。
<code>ce>DeleteCostCategoryDefinition</code>	コストカテゴリを削除するアクセス許可を付与します。 ポリシーの例については「Cost Categories の表示と管理」を参照してください。
<code>ce:DescribeCostCategoryDefinition</code>	コストカテゴリを表示するアクセス許可を付与します。 ポリシーの例については「Cost Categories の表示と管理」を参照してください。

アクセス許可名	説明
<code>ce:ListCostCategoryDefinitions</code>	コストカテゴリを一覧表示するアクセス許可を付与します。 ポリシーの例については「Cost Categories の表示と管理」を参照してください。
<code>ce:UpdateCostCategoryDefinition</code>	コストカテゴリを更新するアクセス許可を付与します。 ポリシーの例については「Cost Categories の表示と管理」を参照してください。
<code>aws-portal:ViewUsage</code>	AWS 使用状況レポートを表示するアクセス許可を付与します。 使用状況レポートの表示を IAM ユーザーに許可するには、<code>ViewUsage</code> と <code>ViewBilling</code> の両方を許可する必要があります。 ポリシーの例については「レポートコンソールページへのアクセスを IAM ユーザーに許可する」を参照してください。
<code>payments:AcceptFinancingApplicationTerms</code>	IAM ユーザーが融資者から提示される諸条件に同意できるようにします。ユーザーは、返済のための銀行口座の詳細情報を提供し、融資者から提示された法的文書に署名する必要があります。
<code>payments:CreateFinancingApplication</code>	IAM ユーザーが新しいファイナンスローンを申請し、選択した融資オプションを参照できるようにします。
<code>payments:GetFinancingApplication</code>	IAM ユーザーが融資申請の詳細を取得できるようにします。例えば、ステータス、制限、条件、融資者情報などです。

アクセス許可名	説明
<code>payments:GetFinancingLine</code>	IAM ユーザーがファイナンスローンの詳細を取得できるようにします。例えば、ステータスや残高などです。
<code>payments:GetFinancingLineWithdrawal</code>	IAM ユーザーが引出しの詳細を取得できるようにします。例えば、残高や返済などです。
<code>payments:GetFinancingOption</code>	IAM ユーザーが特定の融資オプションの詳細を取得できるようにします。
<code>payments:ListFinancingApplications</code>	IAM ユーザーがすべての融資者全体ですべての申請の識別子を取得できるようにします。
<code>payments:ListFinancingLines</code>	IAM ユーザーがすべての融資者全体ですべてのファイナンスローンの識別子を取得できるようにします。
<code>payments:ListFinancingLineWithdrawals</code>	IAM ユーザーが所定のローンに関する既存の引出しのすべてを取得できるようにします。
<code>payments:ListTagsForResource</code>	支払い方法のタグを表示するアクセス許可を IAM ユーザーに付与するか拒否します。
<code>payments:TagResource</code>	支払い方法のタグを追加するアクセス許可を IAM ユーザーに許可または拒否します。
<code>payments:UntagResource</code>	支払い方法からタグを削除するアクセス許可を IAM ユーザーに許可または拒否します。
<code>payments:UpdateFinancingApplication</code>	IAM ユーザーが融資申請を変更し、融資者から要求された追加情報を送信できるようにします。
<code>payments:ListPaymentInstruments</code>	登録済みの支払い方法を一覧表示するアクセス許可を IAM ユーザーに許可または拒否します。

アクセス許可名	説明
payments:UpdatePaymentInstrument	支払い方法を更新するアクセス許可を IAM ユーザーに許可または拒否します。
pricing:DescribeServices	AWS Price List Service API を介して AWS サービス製品と料金を表示するアクセス許可を付与します。 IAM ユーザーが AWS Price List Service API を使用できるようにするには、DescribeServices、GetAttributeValues、および GetProducts を許可する必要があります。 ポリシーの例については「製品と価格の検索」を参照してください。
pricing:GetAttributeValues	AWS Price List Service API を介して AWS サービス製品と料金を表示するアクセス許可を付与します。 IAM ユーザーが AWS Price List Service API を使用できるようにするには、DescribeServices、GetAttributeValues、および GetProducts を許可する必要があります。 ポリシーの例については「製品と価格の検索」を参照してください。

アクセス許可名	説明
pricing:GetProducts	AWS Price List Service API を介して AWS サービス製品と料金を表示するアクセス許可を付与します。 IAM ユーザーが AWS Price List Service API を使用できるようにするには、DescribeServices、GetAttributeValues、および GetProducts を許可する必要があります。 ポリシーの例については「製品と価格の検索」を参照してください。
purchase-orders:ViewPurchaseOrders	[発注書] を表示するアクセス許可を付与します。 ポリシーの例については「発注書の表示と管理」を参照してください。
purchase-orders:ModifyPurchaseOrders	[発注書] を変更するアクセス許可を付与します。 ポリシーの例については「発注書の表示と管理」を参照してください。
tax:GetExemptions	税金コンソールごとに免除と免除タイプを表示するための読み取り専用アクセス許可を付与します。 ポリシーの例については「IAM ユーザーに米国の免税の表示と サポート ケースの作成を許可する」を参照してください。

アクセス許可名	説明
tax:UpdateExemptions	米国の免税コンソールに免税申請をアップロードするアクセス許可を付与します。 ポリシーの例については「IAM ユーザーに米国の免税の表示と サポート ケースの作成を許可する」を参照してください。
support:CreateCase	免税コンソールから免税申請をアップロードするために必要な、サポートケースを提出するアクセス許可を付与します。 ポリシーの例については「IAM ユーザーに米国の免税の表示と サポート ケースの作成を許可する」を参照してください。
support:AddAttachmentsToSet	免税コンソールに免税証明書をアップロードするために必要なサポートケースにドキュメントをアタッチするアクセス許可を付与します。 ポリシーの例については「IAM ユーザーに米国の免税の表示と サポート ケースの作成を許可する」を参照してください。
customer-verification:GetCustomerVerificationEligibility	(請求先住所または連絡先住所がインドのお客様のみ) 顧客検証資格を取得するアクセス許可を付与します。
customer-verification:GetCustomerVerificationDetails	(請求先住所または連絡先住所がインドのお客様のみ) 顧客検証データを取得するアクセス許可を付与します。

アクセス許可名	説明
<code>customer-verification:CreateCustomerVerificationDetails</code>	(請求先住所または連絡先住所がインドのお客様のみ) 顧客検証データを作成するアクセス許可を付与します。
<code>customer-verification:UpdateCustomerVerificationDetails</code>	(請求先住所または連絡先住所がインドのお客様のみ) 顧客検証データを更新するアクセス許可を付与します。
<code>mapcredit:ListAssociatedPrograms</code>	支払者アカウントの関連する Migration Acceleration Program 契約とダッシュボードを表示するアクセス許可を付与します。
<code>mapcredit:ListQuarterSpend</code>	支払者アカウントの Migration Acceleration Program の対象となる支出を表示するアクセス許可を付与します。
<code>mapcredit:ListQuarterCredits</code>	支払者アカウントの Migration Acceleration Program クレジットを表示するアクセス許可を付与します。
<code>invoicing:BatchGetInvoiceProfile</code>	請求書設定の AWS 請求書プロファイルを表示する読み取り専用アクセス許可を付与します。
<code>invoicing:CreateInvoiceUnit</code>	請求書設定の AWS 請求書単位を作成するアクセス許可を付与します。
<code>invoicing>DeleteInvoiceUnit</code>	請求書設定の AWS 請求書単位を削除するアクセス許可を付与します。
<code>invoicing:GetInvoiceUnit</code>	請求書 AWS 設定の請求書単位を表示する読み取り専用アクセス許可を付与します。

アクセス許可名	説明
<code>invoicing:ListInvoiceUnits</code>	請求書設定のすべての AWS 請求書単位を一覧表示するアクセス許可を付与します。
<code>invoicing:ListTagsForResource</code>	請求書設定の請求書単位のタグを表示するアクセス許可を IAM ユーザーに付与または拒否 AWS します。
<code>invoicing:TagResource</code>	請求書設定の請求書ユニットのタグを追加するアクセス許可を IAM ユーザーに付与または拒否 AWS します。
<code>invoicing:UntagResource</code>	請求書設定のために請求書ユニットからタグを削除するアクセス許可を IAM ユーザーに付与または拒否 AWS します。
<code>invoicing:UpdateInvoiceUnit</code>	請求書設定の AWS 請求書単位を更新する編集アクセス許可を付与します。

AWS 請求ポリシーの例

Note

次の AWS Identity and Access Management (IAM) アクションは、2023 年 7 月に標準サポートが終了しました。

- `aws-portal` 名前空間
- `purchase-orders:ViewPurchaseOrders`
- `purchase-orders:ModifyPurchaseOrders`

を使用している場合は AWS Organizations、[一括ポリシー移行スクリプト](#)または一括ポリシー移行スクリプトを使用して、支払者アカウントからポリシーを更新できます。また、[従来のアクションから詳細なアクションへのマッピングのリファレンス](#)を使用して、追加する必要がある IAM アクションを検証することもできます。

2023 年 3 月 6 日午前 11 時 (PDT) 以降に AWS Organizations 作成された がある場合、AWS アカウントまたは の一部である場合、きめ細かなアクションは組織で既に有効です。

Important

- これらのポリシーを使用するには、コンソールの [\[Account Settings \(アカウント設定\)\]](#) ページで請求情報とコスト管理コンソールへの IAM アクセスをアクティベートする必要があります。詳細については、「[請求情報とコスト管理コンソールへのアクセスをアクティベートする](#)」を参照してください。
- AWS 管理ポリシーを使用するには、「」を参照してください[AWS マネージドポリシー](#)。

このトピックには、アカウントの請求の情報とツールへのアクセスを制御するために IAM ユーザーまたはグループに適用できるポリシーの例が含まれています。以下の基本ルールは、請求情報とコスト管理の IAM ポリシーに適用されます。

- Version は常に 2012-10-17 です。
- Effect は常に Allow または Deny です。
- Action はアクションまたはワイルドカード (*) の名前です。

アクションプレフィックスは、AWS 予算budgets、cur AWS コストと使用状況レポート、aws-portal AWS 請求、または Cost Explorer ce用です。

- Resource は常に AWS 請求*用です。

budget リソースで実行されるアクションの場合、予算の Amazon リソースネーム (ARN) を指定します。

- 1 つのポリシーで複数のステートメントを使用できます。

AWS コスト管理コンソールのアクションポリシーのリストについては、[AWS 「コスト管理ユーザーガイド」の「コスト管理ポリシーの例」](#)を参照してください。AWS

トピック

- [請求情報の表示を IAM ユーザーに許可する](#)
- [IAM ユーザーが請求情報とカーボンフットプリントレポートを表示できるようにする](#)

- [レポートコンソールページへのアクセスを IAM ユーザーに許可する](#)
- [請求とコスト管理コンソールへの IAM ユーザーアクセスを拒否する](#)
- [メンバーアカウントの AWS コンソールのコストと使用状況ウィジェットへのアクセスを拒否する](#)
- [特定の IAM ユーザーとロールに対する AWS コンソールのコストと使用状況ウィジェットへのアクセスを拒否する](#)
- [IAM ユーザーが請求情報を表示することを許可するが、カーボンフットプリントレポートへのアクセスは拒否する](#)
- [IAM ユーザーがカーボンフットプリントレポートにアクセスすることを許可するが、請求情報へのアクセスは拒否する](#)
- [AWS サービスへのフルアクセスを許可するが、請求情報とコスト管理コンソールへの IAM ユーザーアクセスを拒否する](#)
- [アカウント設定を除き、請求とコスト管理コンソールの表示を IAM ユーザーに許可する](#)
- [請求情報の変更を IAM ユーザーに許可する](#)
- [アカウント設定へのアクセスは拒否するが、その他の請求および使用情報へのフルアクセスは許可する](#)
- [レポートを Amazon S3 バケットにデポジットする](#)
- [製品と価格の検索](#)
- [コストと使用状況の表示](#)
- [AWS リージョンの有効化と無効化](#)
- [Cost Categories の表示と管理](#)
- [AWS コストと使用状況レポートの作成、表示、編集、または削除](#)
- [発注書の表示と管理](#)
- [Cost Explorer 設定ページの表示と更新](#)
- [Cost Explorer レポートページを使用した表示、作成、更新、および削除](#)
- [予約およびSavings Plans アラートの表示、作成、更新、および削除](#)
- [AWS コスト異常検出への読み取り専用アクセスを許可する](#)
- [AWS Budgets に IAM ポリシーと SCPs の適用を許可する](#)
- [AWS Budgets が IAM ポリシーと SCPs し、ターゲット EC2 インスタンスと RDS インスタンスを適用できるようにする](#)
- [IAM ユーザーに米国の免税の表示と サポート ケースの作成を許可する](#)

- [\(請求先住所または連絡先住所がインドにあるお客様向け\) 顧客確認情報への読み取り専用アクセスを許可する](#)
- [\(請求先住所または連絡先住所がインドにあるお客様向け\) 顧客確認情報の表示、作成、更新を許可する](#)
- [Billing コンソールで AWS Migration Acceleration Program 情報を表示する](#)
- [請求コンソールで AWS 請求書設定へのアクセスを許可する](#)

請求情報の表示を IAM ユーザーに許可する

アカウントの機密扱い情報に対する IAM ユーザーアクセスを与えずに IAM ユーザーが請求情報を表示できるようにするには、次のサンプルポリシーのようなポリシーを使用します。このようなポリシーにより、ユーザーはパスワードおよびアカウントアクティビティレポートにアクセスできなくなります。このポリシーでは、次の請求情報とコスト管理コンソールページを表示する許可を IAM ユーザーに与えますが、アカウント設定コンソールページとレポートコンソールページに対するアクセス権は与えません。

- ダッシュボード
- Cost Explorer
- 請求書
- 注文と請求書
- 一括請求
- 詳細設定
- クレジット
- 前払い

JSON

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Effect": "Allow",
      "Action": "aws-portal:ViewBilling",
      "Resource": "*"
    }
  ]
}
```

```
]
}
```

IAM ユーザーが請求情報とカーボンフットプリントレポートを表示できるようにする

IAM ユーザーが請求情報とカーボンフットプリントレポートを表示することを許可するには、次の例のようなポリシーを使用します。このポリシーにより、ユーザーはパスワードおよびアカウントアクティビティレポートにアクセスできなくなります。このポリシーでは、次の請求情報とコスト管理コンソールページを表示する許可を IAM ユーザーに与えますが、アカウント設定コンソールページとレポートコンソールページに対するアクセス権は与えません。

- ダッシュボード
- Cost Explorer
- 請求書
- 注文と請求書
- 一括請求
- 詳細設定
- クレジット
- 前払い
- AWS コストと使用状況レポートページの AWS Customer Carbon Footprint Tool セクション

JSON

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Effect": "Allow",
      "Action": "aws-portal:ViewBilling",
      "Resource": "*"
    },
    {
      "Effect": "Allow",
      "Action": "sustainability:GetCarbonFootprintSummary",
      "Resource": "*"
    }
  ]
}
```

レポートコンソールページへのアクセスを IAM ユーザーに許可する

コンソールの [Reports (レポート)] ページにアクセスして、アカウントアクティビティ情報が含まれている使用状況レポートを表示することを IAM ユーザーに許可するには、次の例のようなポリシーを使用します。

各アクションの定義については、「[AWS 請求コンソールアクション](#)」を参照してください。

JSON

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Effect": "Allow",
      "Action": [
        "aws-portal:ViewUsage",
        "aws-portal:ViewBilling",
        "cur:DescribeReportDefinitions",
        "cur:PutReportDefinition",
        "cur>DeleteReportDefinition",
        "cur:ModifyReportDefinition"
      ],
      "Resource": "*"
    }
  ]
}
```

請求とコスト管理コンソールへの IAM ユーザーアクセスを拒否する

すべての請求情報とコスト管理コンソールページへの IAM ユーザーアクセスを明示的に拒否するには、次の例のようなポリシーを使用します。

JSON

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Effect": "Deny",
```

```
        "Action": "aws-portal:*",
        "Resource": "*"
      }
    ]
  }
}
```

メンバーアカウントの AWS コンソールのコストと使用状況ウィジェットへのアクセスを拒否する

コストと使用状況のデータへのメンバーアカウント (連結アカウント) のアクセスを制限するには、管理アカウント (支払いアカウント) を使用して Cost Explorer の設定タブにアクセスし、[連結アカウントのアクセス] のチェックを外します。これにより、メンバーアカウントの IAM ユーザーまたはロールが持つ IAM アクションに関係なく、Cost Explorer (AWS Cost Management) コンソール、Cost Explorer API、およびコンソールホームページのコストと AWS 使用状況ウィジェットからのコストと使用状況データへのアクセスが拒否されます。

特定の IAM ユーザーとロールに対する AWS コンソールのコストと使用状況ウィジェットへのアクセスを拒否する

特定の IAM ユーザーとロールの AWS コンソールのコストと使用状況ウィジェットへのアクセスを拒否するには、以下のアクセス許可ポリシーを使用します。

Note

このポリシーを IAM ユーザーまたはロールに追加すると、Cost Explorer (AWS コスト管理) コンソールと Cost Explorer APIs も拒否されます。

JSON

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Effect": "Deny",
      "Action": "ce:*",
      "Resource": "*"
    }
  ]
}
```

```
}
```

IAM ユーザーが請求情報を表示することを許可するが、カーボンフットプリントレポートへのアクセスは拒否する

Billing and Cost Management コンソールで請求情報の両方を IAM ユーザーに許可しますが、AWS Customer Carbon Footprint Tool へのアクセスは許可しません。このツールは、AWS コストと使用状況レポートページにあります。

JSON

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Effect": "Allow",
      "Action": "aws-portal:ViewBilling",
      "Resource": "*"
    },
    {
      "Effect": "Deny",
      "Action": "sustainability:GetCarbonFootprintSummary",
      "Resource": "*"
    }
  ]
}
```

IAM ユーザーがカーボンフットプリントレポートにアクセスすることを許可するが、請求情報へのアクセスは拒否する

IAM ユーザーが AWS コストと使用状況レポートページの AWS Customer Carbon Footprint Tool にアクセスできるようにするには、は請求情報とコスト管理コンソールで請求情報を表示するためのアクセスを拒否します。

JSON

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Effect": "Deny",
```

```
        "Action": "aws-portal:ViewBilling",
        "Resource": "*"
    },
    {"Effect": "Allow",
     "Action": "sustainability:GetCarbonFootprintSummary",
     "Resource": "*"
    }
]
}
```

AWS サービスへのフルアクセスを許可するが、請求情報とコスト管理コンソールへの IAM ユーザーアクセスを拒否する

コンソールのすべてへの IAM ユーザーアクセスを拒否するには、次のポリシーを使用します。AWS Identity and Access Management (IAM) へのユーザーアクセスを拒否して、請求情報とツールへのアクセスを制御するポリシーへのアクセスを防止します。

 Important

このポリシーは、一切のアクションを許可しません。特定のアクションを許可する他のポリシーと組み合わせてこのポリシーを使用します。

JSON

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Effect": "Deny",
      "Action": [
        "aws-portal:*",
        "iam:*"
      ],
      "Resource": "*"
    }
  ]
}
```


アカウント設定を除き、請求とコスト管理コンソールの表示を IAM ユーザーに許可する

このポリシーでは、すべての請求情報とコスト管理コンソールへの読み取り専用アクセスを許可します。これには、支払い方法およびレポートコンソールページが含まれます。ただし、このポリシーは、アカウント設定ページへのアクセスを拒否します。これは、このポリシーがアカウントのパスワード、連絡先情報、およびセキュリティの質問を保護することを意味します。

JSON

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Effect": "Allow",
      "Action": "aws-portal:View*",
      "Resource": "*"
    },
    {
      "Effect": "Deny",
      "Action": "aws-portal:*Account",
      "Resource": "*"
    }
  ]
}
```

請求情報の変更を IAM ユーザーに許可する

請求情報とコスト管理コンソールのアカウント請求情報の変更を IAM ユーザーに許可するには、請求情報を表示する許可も IAM ユーザーに与える必要があります。次のポリシー例では、一括請求、設定、およびクレジットコンソールページの変更を IAM ユーザーに許可します。さらに、次の請求情報とコスト管理コンソールページを表示する許可も IAM ユーザーに与えます。

- ダッシュボード
- Cost Explorer
- 請求書
- 注文と請求書

- 前払い

JSON

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Effect": "Allow",
      "Action": "aws-portal:*Billing",
      "Resource": "*"
    }
  ]
}
```

アカウント設定へのアクセスは拒否するが、その他の請求および使用情報へのフルアクセスは許可する

アカウントのパスワード、連絡先情報、セキュリティの質問を保護するには、アカウント設定への IAM ユーザーのアクセスを拒否しますが、&AB; コンソールのその他の機能に対するフルアクセスは引き続き有効にできます。以下は、ポリシーの例です。

JSON

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Effect": "Allow",
      "Action": [
        "aws-portal:*Billing",
        "aws-portal:*Usage",
        "aws-portal:*PaymentMethods"
      ],
      "Resource": "*"
    },
    {
      "Effect": "Deny",
```

```
        "Action": "aws-portal:*Account",
        "Resource": "*"
      }
    ]
  }
}
```

レポートを Amazon S3 バケットにデポジットする

次のポリシーでは、AWS アカウントと Amazon S3 バケットの両方を所有している場合、Billing and Cost Management が詳細な AWS 請求書を Amazon S3 バケットに保存することを許可します。このポリシーは、IAM ユーザーではなく Amazon S3 バケットに適用する必要があります。つまり、これはリソースベースのポリシーであり、ユーザーベースのポリシーではないからです。請求書にアクセスする必要がない IAM ユーザーに対しては、バケットへの IAM ユーザーアクセスを拒否することをお勧めします。

amzn-s3-demo-bucket1 をバケットの名前に置き換えます。

詳細については、Amazon Simple Storage Service ユーザーガイドの「[バケットポリシーとユーザーポリシーの使用](#)」を参照してください。

JSON

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Effect": "Allow",
      "Principal": {
        "Service": "billingreports.amazonaws.com"
      },
      "Action": [
        "s3:GetBucketAcl",
        "s3:GetBucketPolicy"
      ],
      "Resource": "arn:aws:s3:::amzn-s3-demo-bucket1"
    },
    {
      "Effect": "Allow",
      "Principal": {
        "Service": "billingreports.amazonaws.com"
      },
      "Action": [
        "s3:PutObject"
      ],
      "Resource": "arn:aws:s3:::amzn-s3-demo-bucket1/*"
    }
  ]
}
```

```
    },  
    "Action": "s3:PutObject",  
    "Resource": "arn:aws:s3:::amzn-s3-demo-bucket1/*"  
  }  
]  
}
```

製品と価格の検索

IAM ユーザーが AWS Price List Service API を使用できるようにするには、次のポリシーを使用してアクセスを許可します。

このポリシーは、AWS 両方の Price List Bulk API AWS Price List Query API を使用するアクセス許可を付与します。

JSON

```
{  
  "Version": "2012-10-17",  
  "Statement": [  
    {  
      "Effect": "Allow",  
      "Action": [  
        "pricing:DescribeServices",  
        "pricing:GetAttributeValues",  
        "pricing:GetProducts",  
        "pricing:GetPriceListFileUrl",  
        "pricing:ListPriceLists"  
      ],  
      "Resource": [  
        "*"   
      ]  
    }  
  ]  
}
```

コストと使用状況の表示

IAM ユーザーが AWS Cost Explorer API を使用できるようにするには、次のポリシーを使用してアクセスを許可します。

JSON

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Effect": "Allow",
      "Action": [
        "ce:*"
      ],
      "Resource": [
        "*"
      ]
    }
  ]
}
```

AWS リージョンの有効化と無効化

リージョンの有効化と無効化をユーザーに許可する IAM ポリシーの例については、IAM ユーザーガイドの[AWS 「: AWS リージョンの有効化と無効化の許可」](#)を参照してください。

Cost Categories の表示と管理

Cost Categories の使用、表示、および管理を IAM ユーザーに許可するには、次のポリシーを使用してアクセス権を付与します。

JSON

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Sid": "VisualEditor0",
      "Effect": "Allow",
      "Action": [
        "aws-portal:ViewBilling",
        "ce:GetCostAndUsage",
        "ce:DescribeCostCategoryDefinition",
        "ce:UpdateCostCategoryDefinition",

```

```
        "ce:CreateCostCategoryDefinition",
        "ce:DeleteCostCategoryDefinition",
        "ce:ListCostCategoryDefinitions",
        "ce:TagResource",
        "ce:UntagResource",
        "ce:ListTagsForResource",
        "pricing:DescribeServices"
    ],
    "Resource": "*"
}
]
```

AWS コストと使用状況レポートの作成、表示、編集、または削除

このポリシーでは、API を使用した sample-report の作成、表示、編集、または削除を IAM ユーザーに許可します。

JSON

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Sid": "ManageSampleReport",
      "Effect": "Allow",
      "Action": [
        "cur:PutReportDefinition",
        "cur:DeleteReportDefinition",
        "cur:ModifyReportDefinition"
      ],
      "Resource": "arn:aws:cur:*:123456789012:definition/sample-report"
    },
    {
      "Sid": "DescribeReportDefs",
      "Effect": "Allow",
      "Action": "cur:DescribeReportDefinitions",
      "Resource": "*"
    }
  ]
}
```

発注書の表示と管理

このポリシーでは、発注書の表示と管理を IAM ユーザーに許可し、以下のポリシーを使用してアクセス権を付与します。

JSON

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Sid": "VisualEditor0",
      "Effect": "Allow",
      "Action": [
        "aws-portal:ViewBilling",
        "purchase-orders:*"
      ],
      "Resource": "*"
    }
  ]
}
```

Cost Explorer 設定ページの表示と更新

このポリシーでは、Cost Explorer 設定ページの表示と更新を IAM ユーザーに許可します。

JSON

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Sid": "VisualEditor0",
      "Effect": "Allow",
      "Action": [
        "aws-portal:ViewBilling",
        "ce:UpdatePreferences"
      ],
      "Resource": "*"
    }
  ]
}
```

```
]
}
```

次のポリシーでは、Cost Explorer の表示を IAM ユーザーに許可しますが、設定ページを表示または編集する許可は拒否します。

JSON

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Sid": "VisualEditor0",
      "Effect": "Allow",
      "Action": [
        "aws-portal:ViewBilling"
      ],
      "Resource": "*"
    },
    {
      "Sid": "VisualEditor1",
      "Effect": "Deny",
      "Action": [
        "ce:GetPreferences",
        "ce:UpdatePreferences"
      ],
      "Resource": "*"
    }
  ]
}
```

次のポリシーでは、Cost Explorer の表示を IAM ユーザーに許可しますが、設定ページを編集する許可は拒否します。

JSON

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
```



```
{
  "Sid": "VisualEditor0",
  "Effect": "Allow",
  "Action": [
    "aws-portal:ViewBilling"
  ],
  "Resource": "*"
},
{
  "Sid": "VisualEditor1",
  "Effect": "Deny",
  "Action": [
    "ce:UpdatePreferences"
  ],
  "Resource": "*"
}
]
```

Cost Explorer レポートページを使用した表示、作成、更新、および削除

このポリシーでは、Cost Explorer レポートページを使用した表示、作成、更新、および削除を IAM ユーザーに許可します。

JSON

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Sid": "VisualEditor0",
      "Effect": "Allow",
      "Action": [
        "aws-portal:ViewBilling",
        "ce:CreateReport",
        "ce:UpdateReport",
        "ce>DeleteReport"
      ],
      "Resource": "*"
    }
  ]
}
```

```
}
```

次のポリシーでは、Cost Explorer の表示を IAM ユーザーに許可しますが、レポートページを表示または編集する許可は拒否します。

JSON

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Sid": "VisualEditor0",
      "Effect": "Allow",
      "Action": [
        "aws-portal:ViewBilling"
      ],
      "Resource": "*"
    },
    {
      "Sid": "VisualEditor1",
      "Effect": "Deny",
      "Action": [
        "ce:DescribeReport",
        "ce:CreateReport",
        "ce:UpdateReport",
        "ce>DeleteReport"
      ],
      "Resource": "*"
    }
  ]
}
```

次のポリシーでは、Cost Explorer の表示を IAM ユーザーに許可しますが、レポートページを編集する許可は拒否します。

JSON

```
{
  "Version": "2012-10-17",
```

```
"Statement": [  
  {  
    "Sid": "VisualEditor0",  
    "Effect": "Allow",  
    "Action": [  
      "aws-portal:ViewBilling"  
    ],  
    "Resource": "*"   
  },  
  {  
    "Sid": "VisualEditor1",  
    "Effect": "Deny",  
    "Action": [  
      "ce:CreateReport",  
      "ce:UpdateReport",  
      "ce>DeleteReport"  
    ],  
    "Resource": "*"   
  }  
]
```

予約およびSavings Plans アラートの表示、作成、更新、および削除

このポリシーでは、[予約の失効アラート](#)および[Savings Plansアラート](#)の表示、作成、更新、および削除を IAM ユーザーに許可します。予約の失効アラートまたは Savings Plans アラートを編集するには、次の 3 つのきめ細かなアクションすべてが必要です:

ce:CreateNotificationSubscription、ce:UpdateNotificationSubscription、および ce>DeleteNotificationSubscription。

JSON

```
{  
  "Version": "2012-10-17",  
  "Statement": [  
    {  
      "Sid": "VisualEditor0",  
      "Effect": "Allow",  
      "Action": [  
        "aws-portal:ViewBilling",  
        "ce:CreateNotificationSubscription",  
        "ce:UpdateNotificationSubscription",  
        "ce>DeleteNotificationSubscription"  
      ]  
    }  
  ]  
}
```

```
        "ce:UpdateNotificationSubscription",
        "ce:DeleteNotificationSubscription"
    ],
    "Resource": "*"
}
]
```

次のポリシーでは、Cost Explorer の表示を IAM ユーザーに許可しますが、予約の失効アラートおよび Savings Plans ページを表示または編集する許可は拒否します。

JSON

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Sid": "VisualEditor0",
      "Effect": "Allow",
      "Action": [
        "aws-portal:ViewBilling"
      ],
      "Resource": "*"
    },
    {
      "Sid": "VisualEditor1",
      "Effect": "Deny",
      "Action": [
        "ce:DescribeNotificationSubscription",
        "ce:CreateNotificationSubscription",
        "ce:UpdateNotificationSubscription",
        "ce:DeleteNotificationSubscription"
      ],
      "Resource": "*"
    }
  ]
}
```

次のポリシーでは、Cost Explorer の表示を IAM ユーザーに許可しますが、予約の失効アラートおよび Savings Plans ページを編集する許可は拒否します。

JSON

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Sid": "VisualEditor0",
      "Effect": "Allow",
      "Action": [
        "aws-portal:ViewBilling"
      ],
      "Resource": "*"
    },
    {
      "Sid": "VisualEditor1",
      "Effect": "Deny",
      "Action": [
        "ce:CreateNotificationSubscription",
        "ce:UpdateNotificationSubscription",
        "ce>DeleteNotificationSubscription"
      ],
      "Resource": "*"
    }
  ]
}
```

AWS コスト異常検出への読み取り専用アクセスを許可する

IAM ユーザーに AWS コスト異常検出への読み取り専用アクセスを許可するには、次のポリシーを使用してアクセスを許可します。ce:ProvideAnomalyFeedbackは読み取り専用アクセスの一部としてオプションです。

JSON

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Action": [
        "ce:Get*"
      ]
    }
  ]
}
```

```
    ],  
    "Effect": "Allow",  
    "Resource": "*"    
  }  
]  
}
```

AWS Budgets に IAM ポリシーと SCPs の適用を許可する

このポリシーにより、AWS Budgets はユーザーに代わって IAM ポリシーとサービスコントロールポリシー (SCPs) を適用できます。

JSON

```
{  
  "Version": "2012-10-17",  
  "Statement": [  
    {  
      "Effect": "Allow",  
      "Action": [  
        "iam:AttachGroupPolicy",  
        "iam:AttachRolePolicy",  
        "iam:AttachUserPolicy",  
        "iam:DetachGroupPolicy",  
        "iam:DetachRolePolicy",  
        "iam:DetachUserPolicy",  
        "organizations:AttachPolicy",  
        "organizations:DetachPolicy"  
      ],  
      "Resource": "*"    
    }  
  ]  
}
```

AWS Budgets が IAM ポリシーと SCPs し、ターゲット EC2 インスタンスと RDS インスタンスを適用できるようにする

このポリシーにより、AWS Budgets は IAM ポリシーとサービスコントロールポリシー (SCPs) を適用し、ユーザーに代わって Amazon EC2 および Amazon RDS インスタンスをターゲットにすることができます。

信頼ポリシー

JSON

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Effect": "Allow",
      "Principal": {
        "Service": "budgets.amazonaws.com"
      },
      "Action": "sts:AssumeRole"
    }
  ]
}
```

アクセス権限ポリシー

JSON

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Effect": "Allow",
      "Action": [
        "ec2:DescribeInstanceStatus",
        "ec2:StartInstances",
        "ec2:StopInstances",
        "iam:AttachGroupPolicy",
        "iam:AttachRolePolicy",
        "iam:AttachUserPolicy",

```

```
        "iam:DetachGroupPolicy",
        "iam:DetachRolePolicy",
        "iam:DetachUserPolicy",
        "organizations:AttachPolicy",
        "organizations:DetachPolicy",
        "rds:DescribeDBInstances",
        "rds:StartDBInstance",
        "rds:StopDBInstance",
        "ssm:StartAutomationExecution"
    ],
    "Resource": "*"
}
]
```

IAM ユーザーに米国の免税の表示と サポート ケースの作成を許可する

このポリシーにより、IAM ユーザーは米国の免税を表示し、免税コンソールで免税証明書をアップロードする サポート ケースを作成できます。

JSON

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Action": [
        "aws-portal:*",
        "tax:GetExemptions",
        "tax:UpdateExemptions",
        "support:CreateCase",
        "support:AddAttachmentsToSet"
      ],
      "Resource": [
        "*"
      ],
      "Effect": "Allow"
    }
  ]
}
```


(請求先住所または連絡先住所がインドにあるお客様向け) 顧客確認情報への読み取り専用アクセスを許可する

このポリシーでは、IAM ユーザーに顧客検証情報への読み取り専用アクセスを許可します。

各アクションの定義については、「[AWS 請求コンソールアクション](#)」を参照してください。

JSON

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [{
    "Effect": "Allow",
    "Action": [
      "customer-verification:GetCustomerVerificationEligibility",
      "customer-verification:GetCustomerVerificationDetails"
    ],
    "Resource": "*"
  }]
}
```

(請求先住所または連絡先住所がインドにあるお客様向け) 顧客確認情報の表示、作成、更新を許可する

このポリシーでは、IAM ユーザーに顧客検証情報の管理を許可します。

各アクションの定義については、「[AWS 請求コンソールアクション](#)」を参照してください。

JSON

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [{
    "Effect": "Allow",
    "Action": [
      "customer-verification:CreateCustomerVerificationDetails",
      "customer-verification:UpdateCustomerVerificationDetails",
      "customer-verification:GetCustomerVerificationEligibility",
      "customer-verification:GetCustomerVerificationDetails"
    ]
  }]
}
```

```
    ],  
    "Resource": "*"    
  }]  
}
```

Billing コンソールで AWS Migration Acceleration Program 情報を表示する

このポリシーにより、IAM ユーザーは Billing コンソールで支払者アカウントの Migration Acceleration Program 契約、クレジット、および対象となる支出を表示できます。

各アクションの定義については、「[AWS 請求コンソールアクション](#)」を参照してください。

JSON

```
{  
  "Version": "2012-10-17",  
  "Statement": [  
    {  
      "Effect": "Allow",  
      "Action": [  
        "mapcredits:ListQuarterSpend",  
        "mapcredits:ListQuarterCredits",  
        "mapcredits:ListAssociatedPrograms"  
      ],  
      "Resource": "*"    
    }  
  ]  
}
```

請求コンソールで AWS 請求書設定へのアクセスを許可する

このポリシーは、請求コンソールで IAM ユーザーに AWS 請求設定へのアクセスを許可します。

各アクションの定義については、「[AWS 請求コンソールアクション](#)」を参照してください。

JSON

```
{  
  "Version": "2012-10-17",  
  "Statement": [  
    {  
      "Effect": "Allow",  
      "Action": [  
        "aws-requests:ListBillingAccounts"  
      ],  
      "Resource": "*"    
    }  
  ]  
}
```

```
        "Effect": "Allow",
        "Action": [
            "invoicing:ListInvoiceUnits",
            "invoicing:GetInvoiceUnit",
            "invoicing>CreateInvoiceUnit",
            "invoicing:UpdateInvoiceUnit",
            "invoicing>DeleteInvoiceUnit",
            "invoicing:BatchGetInvoiceProfile"
        ],
        "Resource": [
            "*"
        ]
    }
}
```

のアクセスコントロールの移行 AWS Billing

Note

次の AWS Identity and Access Management (IAM) アクションは、2023 年 7 月に標準サポートが終了しました。

- *aws-portal* 名前空間
- *purchase-orders:ViewPurchaseOrders*
- *purchase-orders:ModifyPurchaseOrders*

を使用している場合は AWS Organizations、[一括ポリシー移行スクリプト](#)または一括ポリシー移行スクリプトを使用して、支払者アカウントからポリシーを更新できます。また、[従来のアクションから詳細なアクションへのマッピングのリファレンス](#)を使用して、追加する必要がある IAM アクションを検証することもできます。

2023 年 3 月 6 日午前 11 時 (PDT) 以降に AWS Organizations 作成された がある場合、AWS アカウントまたは の一部である場合、きめ細かなアクションは組織で既に有効です。

きめ細かなアクセスコントロールを使用して、組織内の個人に AWS Billing and Cost Management サービスへのアクセスを提供できます。例えば、Billing and Cost Management コンソールへのアクセスを提供せずに Cost Explorer へのアクセスを提供できます。

きめ細かなアクセス制御を使用するには、ポリシーを `aws-portal` から新しい IAM アクションに移行する必要があります。

アクセス許可ポリシーまたはサービスコントロールポリシー (SCP) の次の IAM アクションは、この移行で更新する必要があります。

- `aws-portal:ViewAccount`
- `aws-portal:ViewBilling`
- `aws-portal:ViewPaymentMethods`
- `aws-portal:ViewUsage`
- `aws-portal:ModifyAccount`
- `aws-portal:ModifyBilling`
- `aws-portal:ModifyPaymentMethods`
- `purchase-orders:ViewPurchaseOrders`
- `purchase-orders:ModifyPurchaseOrders`

[影響を受けたポリシー] ツールを使用して影響を受ける IAM ポリシーを特定する方法については、「[影響を受けたポリシーツールの使用方法](#)」を参照してください。

Note

API アクセス AWS Cost Explorer、AWS コストと使用状況レポート、および AWS Budgets は影響を受けません。

[請求情報とコスト管理コンソールへのアクセスをアクティベートする](#) は変更しないでください。

トピック

- [アクセス許可の管理](#)
- [コンソールを使用してポリシーを一括移行する](#)
- [影響を受けたポリシーツールの使用方法](#)
- [スクリプトを使用して詳細な IAM の アクションを使用するポリシーを一括移行する](#)
- [詳細な IAM アクションのリファレンスのマッピング](#)

アクセス許可の管理

AWS Billing は AWS Identity and Access Management (IAM) サービスと統合されるため、組織内の誰が[請求情報とコスト管理コンソール](#)の特定のページにアクセスできるかを制御できます。この対象としては、支払い、請求、クレジット、無料利用枠、支払いの詳細設定、一括請求、税金設定、アカウントページなど各機能のページが含まれます。

Billing and Cost Management コンソールをきめ細かく制御するには、以下の IAM アクセス許可を使用してください。

アクセス許可を詳細に設定するには、aws-portal ポリシーを account、billing、payments、freetier、invoicing、tax、consolidatedbilling に置き換えて使用します。

加えて、purchase-orders:ViewPurchaseOrders および purchase-orders:ModifyPurchaseOrders は、purchase-orders、account、および payments での、きめ細かなアクションで置き換えます。

きめ細かな AWS Billing アクションの使用

次の表では、請求の情報へのアクセスを、IAM ユーザーおよびロールに対し付与する (あるいは拒否する) ための許可をまとめています。これらのアクセス許可を使用するポリシーの例については、[AWS 請求ポリシーの例](#) を参照してください。

AWS Cost Management コンソールのアクションのリストについては、AWS Cost Management 「ユーザーガイド」の[AWS Cost Management 「アクションポリシー」](#)を参照してください。

Billing and Cost Management コンソールの機能名	IAM アクション	説明
請求ホーム	account:GetAccount Information billing:Get* payments:List* tax:List*	[ホーム] ページを閲覧するアクセス許可を付与します。これらは読み取り専用のアクセス許可です。  Note これらはコンソール専用のアクセス許可です。これらのアクセス

Billing and Cost Management コンソールの機能名	IAM アクション	説明
		許可に対しては、API によりアクセスするこ とはできません。
請求書	account:GetAccount Information billing:Get* consolidatedbillin g:Get* consolidatedbillin g:List* invoicing:List* payments:List*	[請求] ページを閲覧するア クセス許可を付与します。これ らは読み取り専用のアクセス 許可です。  Note これらはコンソール 専用のアクセス許可で す。これらのアクセス 許可に対しては、API によりアクセスするこ とはできません。
	invoicing:Get*	[請求] ページから請求書をダ ウンロードするアクセス許可 を付与します。  Note これはコンソール専用 のアクセス許可です。 このアクセス許可に対 しては、API によりア クセスすることはでき ません。

Billing and Cost Management コンソールの機能名	IAM アクション	説明
	cur:Get*	[請求] ページから CSV レポートをダウンロードするアクセス許可を付与します。  Note これはコンソール専用のアクセス許可です。このアクセス許可に対しては、API によりアクセスすることはできません。
	billing:ListBillingViews	作成された各 AWS Billing Conductor 請求グループの説明ARNと を表示するアクセス許可を付与します。これは、特定のグループ向けのレポート設定を作成する際に必要です。  Note これはコンソール専用のアクセス許可です。このアクセス許可に対しては、API によりアクセスすることはできません。

Billing and Cost Management コンソールの機能名	IAM アクション	説明
支払い	<code>account:GetAccountInformation</code> <code>billing:Get*</code> <code>payments:Get*</code> <code>payments:List*</code>	[支払い] ページを閲覧するアクセス許可を付与します。これらは、[お支払い期限]、[未適用資金]、[取引]、および [前払い] タブに対する読み取り専用許可です。  Note これらはコンソール専用のアクセス許可です。これらのアクセス許可に対しては、API によりアクセスすることはできません。
	<code>invoicing:Get*</code>	[トランザクション] タブから請求書をダウンロードするアクセス許可 を付与します。  Note これはコンソール専用のアクセス許可です。このアクセス許可に対しては、API によりアクセスすることはできません。
	<code>payments:Update*</code>	前払いの使用、および支払いの詳細設定を行うアクションに必要なアクセス許可を付与します。

Billing and Cost Management コンソールの機能名	IAM アクション	説明
	payments:Make* invoicing:Get*	前払いでの資金請求書類の作成、および支払いを行うためのアクセス許可を付与します。
クレジット	billing:Get* account:GetAccountInformation	[クレジット] ページを閲覧するアクセス許可を付与します。
	billing:RedeemCredits	クレジットを引き換えるアクセス許可を付与します。
発注書	account:GetAccountInformation account:GetContactInformation payments:Get* payments:List* purchase-orders:ListPurchaseOrders purchase-orders:ListPurchaseOrderInvoices tax:ListTaxRegistrations consolidatedbilling:GetAccountBillingRole	[発注書] ページを閲覧するアクセス許可を付与します。

Billing and Cost Management コンソールの機能名	IAM アクション	説明
	<code>purchase-orders:GetPurchaseOrder</code>	発注書の詳細を閲覧するアクセス許可を付与します。
	<code>purchase-orders:AddPurchaseOrder</code>	発注書を追加するアクセス許可を付与します。
	<code>purchase-orders>DeletePurchaseOrder</code>	発注書を削除するアクセス許可を付与します。
	<code>purchase-orders:UpdatePurchaseOrder</code> <code>purchase-orders:UpdatePurchaseOrderStatus</code>	発注書と発注状況を更新するためのアクセス許可を付与します。
AWS コストと使用状況レポート	<code>cur:GetClassic*</code> <code>cur:DescribeReportDefinitions</code>	コストと使用状況レポートページで AWS CUR レポートのリストを表示するアクセス許可を付与します。AWS Note <code>cur:GetClassic*</code>はコンソール専用のアクセス許可です。このアクセス許可に対しては、API によりアクセスすることはできません。

Billing and Cost Management コンソールの機能名	IAM アクション	説明
	billing:ListBillingViews	AWS Billing Conductor で作成された各請求グループの ARN と説明を表示するアクセス許可を付与します。これは、特定のグループ向けのレポート設定を作成する際に必要です。  Note これはコンソール専用のアクセス許可です。このアクセス許可に対しては、API によりアクセスすることはできません。
	s3:ListAllMyBuckets s3:CreateBucket s3:PutBucketPolicy s3:GetBucketLocation cur:Validate* cur:PutReportDefinition	新しい CUR AWS レポートの作成に必要なアクセス許可アクションを付与します。  Note cur:Validate* はコンソール専用のアクセス許可です。これらのアクセス許可に対しては、API によりアクセスすることはできません。

Billing and Cost Management コンソールの機能名	IAM アクション	説明
	<code>cur:Validate*</code> <code>s3:CreateBucket</code> <code>s3:ListAllMyBuckets</code> <code>s3:PutBucketPolicy</code> <code>s3:GetBucketLocation</code> <code>cur:ModifyReportDefinition</code>	AWS CUR 定義を編集するアクセス許可を付与します。  Note <code>cur:Validate*</code> はコンソール専用のアクセス許可です。これらのアクセス許可に対しては、API によりアクセスすることはできません。
	<code>cur>DeleteReportDefinition</code>	CUR AWS レポートを削除するアクセス許可を付与します。
	<code>cur:GetUsage*</code>	使用状況レポートをダウンロードするアクセス許可を付与します。
	<code>sustainability:GetCarbonFootprintSummary</code>	AWS アカウントのサステナビリティデータを閲覧するアクセス許可を付与します。

Billing and Cost Management コンソールの機能名	IAM アクション	説明
コストカテゴリ	account:GetAccount Information ce:ListCostCategor yDefinitions ce:DescribeCostCat egoryDefinition ce:GetCostAndUsage ce:ListTagsForReso urce consolidatedbillin g:GetAccountBillin gRole	コストカテゴリを閲覧するア クセス許可を付与します。  Note account:G etAccount Information はコ ンソール専用のアクセ ス許可です。これらの アクセス許可に対して は、API によりアクセ スすることはできませ ん。

Billing and Cost Management コンソールの機能名	IAM アクション	説明
	billing:Get* ce:TagResource ce:ListCostAllocationTags consolidatedbilling:List* ce:CreateCostCategoryDefinition pricing:DescribeServices ce:GetDimensionValues ce:GetTags	コストカテゴリを作成するアクセス許可を付与します。  Note billing:Get* および consolidatedbilling:List* は、コンソール専用のアクセス許可です。これらのアクセス許可に対しては、API によりアクセスすることはできません。
	ce:UpdateCostCategoryDefinition ce:UntagResource	コストカテゴリを変更するアクセス許可を付与します。
	ce>DeleteCostCategoryDefinition	コストカテゴリを削除するアクセス許可を付与します。

Billing and Cost Management コンソールの機能名	IAM アクション	説明
コスト配分タグ	<code>account:GetAccountInformation</code> <code>ce:ListCostAllocationTags</code> <code>consolidatedbilling:GetAccountBillingRole</code>	コスト配分タグを表示するアクセス許可を付与します。
	<code>ce:UpdateCostAllocationTagsStatus</code>	コスト配分タグを有効または無効にするアクセス許可を付与します。
AWS Budgets	<code>budgets:ViewBudget</code> <code>budgets:DescribeBudgetActionsForBudget</code> <code>budgets:DescribeBudgetAction</code> <code>budgets:DescribeBudgetActionsForAccount</code> <code>budgets:DescribeBudgetActionHistories</code>	[予算] ページを閲覧するアクセス許可を付与します。

Billing and Cost Management コンソールの機能名	IAM アクション	説明
	budgets:CreateBudgetAction budgets:ExecuteBudgetAction budgets>DeleteBudgetAction budgets:UpdateBudgetAction budgets:ModifyBudget	予算および予算アクションを作成、削除、変更するアクセス許可を付与します。
無料利用枠	billing:Get* freetier:Get*	無料利用枠の使用制限と過去 1 か月の使用状況を閲覧するアクセス許可を付与します。
請求設定	account:GetAccountInformation billing:Get* consolidatedbilling:Get* consolidatedbilling>List* cur:GetClassic* cur:Validate* freetier:Get* invoicing:Get*	[請求の詳細設定] ページのすべてのセクションを表示するためのアクションに必要なアクセス許可を付与します。  Note これらはコンソール専用のアクセス許可です。これらのアクセス許可に対しては、API によりアクセスすることはできません。

Billing and Cost Management コンソールの機能名	IAM アクション	説明
	billing:Update* freetier:Put* cur:PutClassic* s3:ListAllMyBuckets s3:CreateBucket s3:PutBucketPolicy s3:GetBucketLocation invoicing:Put*	[請求の詳細設定] ページで次の変更を行うためのアクセス許可を付与します。 - RI または Savings Plans へのクレジット共有の有効化と無効化 [Free Tier Usage Alert] (無料利用枠の使用アラート) の設定 [detailed billing reports] (請求明細レポート) での配信および詳細の設定 [PDF invoice by email] (PDF 請求書のメール送信) の設定または更新  Note billing:Update*、freetier:Put*、cur:PutClassic* はコンソール専用のアクセス許可です。これらのアクセス許可に対しては、API によりアクセスすることはできません。

Billing and Cost Management コンソールの機能名	IAM アクション	説明
支払いの詳細設定	<code>account:GetAccountInformation</code> <code>billing:Get*</code> <code>payments:GetPaymentInstrument</code> <code>payments:List*</code> <code>payments:GetPaymentStatus</code>	[支払いの詳細設定] ページを表示するアクセス許可を付与します。  Note これらはコンソール専用のアクセス許可です。これらのアクセス許可に対しては、APIによりアクセスすることはできません。
	<code>payments:Update*</code> <code>payments:Make*</code> <code>payments>CreatePaymentInstrument</code> <code>payments>DeletePaymentInstrument</code>	支払い方法を作成または更新するアクセス許可を付与します。  Note <code>payments:Make*</code> は、支払い用のカードで多要素認証 (MFA) が要求される場合にのみ必要です。

Billing and Cost Management コンソールの機能名	IAM アクション	説明
	<code>tax:PutTaxRegistration</code> <code>tax>Delete*</code> <code>payments:UpdatePaymentPreferences</code> <code>payments:CreatePaymentInstrument</code>	税登録番号を更新または削除するアクセス許可を付与します。
	<code>payments:Update*</code>	支払いプロファイルを更新するアクセス許可を付与します  Note これはコンソール専用のアクセス許可です。このアクセス許可に対しては、API によりアクセスすることはできません。
税金設定	<code>tax:List*</code> <code>tax:Get*</code>	税金設定を表示するアクセス許可を付与します。
	<code>tax:BatchPut*</code>	税金設定を更新するアクションに必要なアクセス許可を付与します。
	<code>tax:Put*</code>	税継承を設定するアクセス許可を付与します。

Billing and Cost Management コンソールの機能名	IAM アクション	説明
	<code>tax:UpdateExemptions</code> <code>support:CreateCase</code> <code>support:AddAttachmentsToSet</code>	免税を更新するアクセス許可を付与します。
	<code>account:Get*</code> <code>account:List*</code> <code>billing:Get*</code> <code>payments:List*</code>	[アカウント設定] を表示するアクセス許可を付与します。  Note <code>billing:Get*</code> はコンソール専用のアクセス許可です。このアクセス許可に対しては、API によりアクセスすることはできません。
	<code>account:CloseAccount</code>	閉じるアクセス許可を付与します AWS アカウント。  Note これはコンソール専用のアクセス許可です。このアクセス許可に対しては、API によりアクセスすることはできません。

Billing and Cost Management コンソールの機能名	IAM アクション	説明
	account:DisableRegion	アカウントページで AWS リージョンをオフにするアクセス許可を付与します。
	account:EnableRegion	アカウントページで AWS リージョンを有効にするアクセス許可を付与します。
	account:PutAlternateContact	アカウントの代替連絡先を登録するアクセス許可を付与します。
	account:PutChallengeQuestions	アカウントの秘密の質問を設定するアクセス許可を付与します。  Note このアクセス許可はコンソール専用です。このアクセス許可に対しては、API によりアクセスすることはできません。
	account:PutContactInformation	アカウント用に、住所など主な連絡先情報を設定または登録するためのアクションに必要なアクセス許可を付与します。

Billing and Cost Management コンソールの機能名	IAM アクション	説明
	<code>billing:PutContractInformation</code>	アカウントが公共機関の顧客へのサービスに使用される場合に、アカウント契約情報を設定するためのアクセス許可を付与します。取得可能な情報としては、エンドユーザーの組織名、契約番号、発注書番号などがあります。  Note このアクセス許可はコンソール専用です。このアクセス許可に対しては、API によりアクセスすることはできません。
	<code>billing:Update*</code>	[アカウント] ページの [IAM アクセスのアクティブ化] 設定で、有効化または無効化を行うアクションに必要なアクセス許可を付与します。
	<code>payments:Update*</code>	前払い、通貨設定、請求先の詳細と住所、支払い条件を設定するためのアクセス許可を付与します。

コンソールを使用してポリシーを一括移行する

Note

次の AWS Identity and Access Management (IAM) アクションは、2023 年 7 月に標準サポートが終了しました。

- `aws-portal` 名前空間
- `purchase-orders:ViewPurchaseOrders`
- `purchase-orders:ModifyPurchaseOrders`

を使用している場合は AWS Organizations、[一括ポリシー移行スクリプト](#)または一括ポリシー移行スクリプトを使用して、支払者アカウントからポリシーを更新できます。また、[従来のアクションから詳細なアクションへのマッピングのリファレンス](#)を使用して、追加する必要のある IAM アクションを検証することもできます。

2023 年 3 月 6 日午前 11 時 (PDT) 以降に AWS Organizations 作成された がある場合、AWS アカウントまたは の一部である場合、きめ細かなアクションは組織で既に有効です。

このセクションでは、[AWS Billing and Cost Management コンソール](#)を使用してレガシーポリシーを Organizations アカウントまたは標準アカウントから詳細なアクションに一括で移行する方法について説明します。コンソールを使用してレガシーポリシーの移行を完了するには、次の 2 つの方法があります。

AWS が推奨する移行プロセスの使用

これは、AWSによってマッピングされた詳細なアクションにレガシーアクションを移行する、合理化された単一アクションプロセスです。詳細については、「[推奨されるアクションを使用してレガシーポリシーを一括移行する](#)」を参照してください。

カスタマイズされた移行プロセスの使用

このプロセスにより、一括移行 AWS 前に が推奨するアクションを確認および変更したり、組織内のどのアカウントを移行するかをカスタマイズしたりできます。詳細については、「[レガシーポリシーを一括移行するためのアクションのカスタマイズ](#)」を参照してください。

コンソールを使用した一括移行の前提条件

どちらの移行オプションでも、が割り当てたレガシー IAM アクションにきめ細かなアクション AWS を推奨できるように、コンソールで同意する必要があります。これを行うには、ポリシーの更新を続行するには、次の [IAM アクションを使用して IAM プリンシパル](#)として AWS アカウントにログインする必要があります。

Management account

```
// Required to view page
"ce:GetConsoleActionSetEnforced",
"aws-portal:GetConsoleActionSetEnforced",
"purchase-orders:GetConsoleActionSetEnforced",
"ce:UpdateConsoleActionSetEnforced",
"aws-portal:UpdateConsoleActionSetEnforced",
"purchase-orders:UpdateConsoleActionSetEnforced",
"iam:GetAccountAuthorizationDetails",
"s3:CreateBucket",
"s3:DeleteObject",
"s3:ListAllMyBuckets",
"s3:GetObject",
"s3:PutObject",
"s3:ListBucket",
"s3:PutBucketAcl",
"s3:PutEncryptionConfiguration",
"s3:PutBucketVersioning",
"s3:PutBucketPublicAccessBlock",
"lambda:GetFunction",
"lambda:DeleteFunction",
"lambda:CreateFunction",
"lambda:InvokeFunction",
"lambda:RemovePermission",
"scheduler:GetSchedule",
"scheduler:DeleteSchedule",
"scheduler:CreateSchedule",
"cloudformation:ActivateOrganizationsAccess",
"cloudformation:CreateStackSet",
"cloudformation:CreateStackInstances",
"cloudformation:DescribeStackSet",
"cloudformation:DescribeStackSetOperation",
"cloudformation:ListStackSets",
"cloudformation:DeleteStackSet",
"cloudformation:DeleteStackInstances",
```



```
"cloudformation:ListStacks",
"cloudformation:ListStackInstances",
"cloudformation:ListStackSetOperations",
"cloudformation:CreateStack",
"cloudformation:UpdateStackInstances",
"cloudformation:UpdateStackSet",
"cloudformation:DescribeStacks",
"ec2:DescribeRegions",
"iam:GetPolicy",
"iam:GetPolicyVersion",
"iam:GetUserPolicy",
"iam:GetGroupPolicy",
"iam:GetRole",
"iam:GetRolePolicy",
"iam:CreatePolicyVersion",
"iam:DeletePolicyVersion",
"iam:ListAttachedRolePolicies",
"iam:ListPolicyVersions",
"iam:PutUserPolicy",
"iam:PutGroupPolicy",
"iam:PutRolePolicy",
"iam:SetDefaultPolicyVersion",
"iam:GenerateServiceLastAccessedDetails",
"iam:GetServiceLastAccessedDetails",
"iam:GenerateOrganizationsAccessReport",
"iam:GetOrganizationsAccessReport",
"organizations:ListAccounts",
"organizations:ListPolicies",
"organizations:DescribePolicy",
"organizations:UpdatePolicy",
"organizations:DescribeOrganization",
"organizations:ListAccountsForParent",
"organizations:ListRoots",
"sts:AssumeRole",
"sso:ListInstances",
"sso:ListPermissionSets",
"sso:GetInlinePolicyForPermissionSet",
"sso:DescribePermissionSet",
"sso:PutInlinePolicyToPermissionSet",
"sso:ProvisionPermissionSet",
"sso:DescribePermissionSetProvisioningStatus",
"notifications:ListNotificationHubs" // Added to ensure Notifications API does not
return 403
```

Member account or standard account

```
// Required to view page
"ce:GetConsoleActionSetEnforced",
"aws-portal:GetConsoleActionSetEnforced",
"purchase-orders:GetConsoleActionSetEnforced",
"ce:UpdateConsoleActionSetEnforced", // Not needed for member account
"aws-portal:UpdateConsoleActionSetEnforced", // Not needed for member account
"purchase-orders:UpdateConsoleActionSetEnforced", // Not needed for member account
"iam:GetAccountAuthorizationDetails",
"ec2:DescribeRegions",
"s3:CreateBucket",
"s3:DeleteObject",
"s3:ListAllMyBuckets",
"s3:GetObject",
"s3:PutObject",
"s3:ListBucket",
"s3:PutBucketAcl",
"s3:PutEncryptionConfiguration",
"s3:PutBucketVersioning",
"s3:PutBucketPublicAccessBlock",
"iam:GetPolicy",
"iam:GetPolicyVersion",
"iam:GetUserPolicy",
"iam:GetGroupPolicy",
"iam:GetRolePolicy",
"iam:GetRole",
"iam:CreatePolicyVersion",
"iam:DeletePolicyVersion",
"iam:ListAttachedRolePolicies",
"iam:ListPolicyVersions",
"iam:PutUserPolicy",
"iam:PutGroupPolicy",
"iam:PutRolePolicy",
"iam:SetDefaultPolicyVersion",
"iam:GenerateServiceLastAccessedDetails",
"iam:GetServiceLastAccessedDetails",
"notifications:ListNotificationHubs" // Added to ensure Notifications API does not
return 403
```

トピック

- [推奨されるアクションを使用してレガシーポリシーを一括移行する](#)

- [レガシーポリシーを一括移行するためのアクションのカスタマイズ](#)
- [一括移行ポリシーの変更をロールバックする](#)
- [移行の確認](#)

推奨されるアクションを使用してレガシーポリシーを一括移行する

AWSによってマッピングされた詳細なアクションを使用して、すべてのレガシーポリシーを移行できます。の場合 AWS Organizations、これはすべてのアカウントのすべてのレガシーポリシーに適用されます。移行プロセスを完了すると、詳細なアクションが有効になります。組織全体をコミットする前に、テストアカウントを使用して一括移行プロセスをテストすることもできます。詳細については、以下のセクションを参照してください。

によってマッピングされたきめ細かなアクションを使用してすべてのポリシーを移行するには AWS

1. [AWS マネジメントコンソール](#) にサインインします。
2. ページ上部の検索バーに「**Bulk Policy Migrator**」と入力します。
3. [新しい IAM アクションの管理] ページで、[確認と移行] を選択します。
4. 移行が完了するまで、[移行中] ページを表示したままにします。進行状況については、ステータスバーを参照してください。
5. [移行中] セクションが [移行成功] に更新されると、[新しい IAM アクションの管理] ページにリダイレクトされます。

一括移行のテスト

組織全体の移行をコミットする前に、テストアカウントを使用して、レガシーポリシーから AWS 推奨されるきめ細かなアクションへの一括移行をテストできます。テストアカウントで移行プロセスを完了すると、詳細なアクションがテストアカウントに適用されます。

テストアカウントを一括移行に使用するには

1. [AWS マネジメントコンソール](#) にサインインします。
2. ページ上部の検索バーに「**Bulk Policy Migrator**」と入力します。
3. [新しい IAM アクションの管理] ページで、[カスタマイズ] を選択します。
4. アカウントとポリシーが移行アカウントテーブルにロードされたら、アカウントのリストから 1 つ以上のテスト AWS アカウントを選択します。

5. (オプション) レガシーポリシーと AWS 推奨されるきめ細かなアクション間のマッピングを変更するには、「デフォルトのマッピングを表示する」を選択します。マッピングを変更し、[保存]を選択します。
6. [確認と移行] を選択します。
7. 移行が完了するまでコンソールページを表示したままにします。

レガシーポリシーを一括移行するためのアクションのカスタマイズ

すべてのアカウントに AWS 推奨されるアクションを使用する代わりに、さまざまな方法で一括移行をカスタマイズできます。移行前にレガシーポリシーに必要な変更を確認し、一度に移行する Organizations 内の特定のアカウントを選択し、マッピングされた詳細なアクションを更新してアクセス範囲を変更するオプションがあります。

一括移行前に影響を受けるポリシーを確認するには

1. [AWS マネジメントコンソール](#) にサインインします。
2. ページ上部の検索バーに「**Bulk Policy Migrator**」と入力します。
3. [新しい IAM アクションの管理] ページで、[カスタマイズ] を選択します。
4. アカウントとポリシーが [アカウントの移行] テーブルにロードされたら、[影響を受ける IAM ポリシーの数] 列の番号を選択して、影響を受けるポリシーを確認します。また、そのポリシーが Billing and Cost Management コンソールへのアクセスに最後に使用された日時も表示されます。
5. ポリシー名を選択して IAM コンソールで開き、定義を表示してポリシーを手動で更新します。

注意事項

- この操作を行うと、ポリシーが別のメンバーアカウントからのものである場合、現在のアカウントからログアウトされる可能性があります。
- 現在のアカウントに一括移行が進行中の場合、対応する IAM ページにリダイレクトされません。

6. (オプション) [デフォルトのマッピングを表示する] を選択すると、レガシーポリシーが表示され、AWSによってマッピングされた詳細なポリシーを理解できます。

選択したアカウントのグループを組織から移行するには

1. [AWS マネジメントコンソール](#) にサインインします。
2. ページ上部の検索バーに「**Bulk Policy Migrator**」と入力します。
3. [新しい IAM アクションの管理] ページで、[カスタマイズ] を選択します。
4. アカウントとポリシーが [アカウントの移行] テーブルにロードされたら、移行する 1 つ以上のアカウントを選択します。
5. [確認と移行] を選択します。
6. 移行が完了するまでコンソールページを表示したままにします。

マッピングされた詳細なアクションを更新してアクセス範囲を変更するには

1. [AWS マネジメントコンソール](#) にサインインします。
2. ページ上部の検索バーに「**Bulk Policy Migrator**」と入力します。
3. [新しい IAM アクションの管理] ページで、[カスタマイズ] を選択します。
4. [デフォルトのマッピングを表示する] を選択します。
5. [編集] を選択します。
6. アクセスを制御する Billing and Cost Management サービスの IAM アクションを追加または削除します。詳細なアクションとそのアクションが制御するアクセスの詳細については、「[詳細な IAM アクションのリファレンスのマッピング](#)」を参照してください。
7. [Save changes] (変更の保存) をクリックします。

更新されたマッピングは、ログインしているアカウントからの今後すべての移行に使用されます。これはいつでも変更できます。

一括移行ポリシーの変更をロールバックする

一括移行ツールで提供されているステップを使用して、一括移行プロセス中に行ったすべてのポリシー変更を安全にロールバックできます。ロールバック機能はアカウントレベルで機能します。すべてのアカウント、または移行されたアカウントの特定のグループのポリシー更新をロールバックできます。ただし、アカウント内の特定のポリシーの変更をロールバックすることはできません。

一括移行の変更をロールバックするには

1. [AWS マネジメントコンソール](#) にサインインします。

2. ページ上部の検索バーに「**Bulk Policy Migrator**」と入力します。
3. [新しい IAM アクションの管理] ページで、[変更のロールバック] タブを選択します。
4. ロールバックするアカウントを選択します。アカウントの [ロールバックステータス] 列には Migrated と表示されている必要があります。
5. [変更のロールバック] ボタンを選択します。
6. ロールバックが完了するまでコンソールページを表示したままにします。

移行の確認

移行ツールを使用して、まだ移行する必要がある AWS Organizations アカウントがあるかどうかを確認できます。

すべてのアカウントが移行されたかどうかを確認するには

1. [AWS マネジメントコンソール](#) にサインインします。
2. ページ上部の検索バーに「**Bulk Policy Migrator**」と入力します。
3. [新しい IAM アクションの管理] ページで、[アカウントの移行] タブを選択します。

テーブルに移行されていないアカウントが表示されない場合、すべてのアカウントが正常に移行されました。

影響を受けたポリシーツールの使用方法

Note

次の AWS Identity and Access Management (IAM) アクションは、2023 年 7 月に標準サポートが終了しました。

- `aws-portal` 名前空間
- `purchase-orders:ViewPurchaseOrders`
- `purchase-orders:ModifyPurchaseOrders`

を使用している場合は AWS Organizations、[一括ポリシー移行スクリプト](#)または一括ポリシー移行スクリプトを使用して、支払者アカウントからポリシーを更新できます。また、[従来のアクションから詳細なアクションへのマッピングのリファレンス](#)を使用して、追加する必要がある IAM アクションを検証することもできます。

2023 年 3 月 6 日午前 11 時 (PDT) 以降に AWS Organizations 作成された がある場合、AWS アカウントまたは の一部である場合、きめ細かなアクションは組織で既に有効です。

請求コンソールの [影響を受けたポリシー] ツールを使用して IAM ポリシー (SCP を除く) を特定し、この移行によって影響を受ける IAM アクションを参照します。[影響を受けたポリシー] ツールを使用して、以下のタスクを実行します。

- IAM ポリシーを特定し、この移行によって影響を受ける IAM アクションを参照します。
- 更新したポリシーをクリップボードにコピーします。
- 影響を受けたポリシーを IAM ポリシーエディターで開きます。
- アカウントの更新したポリシーを保存します。
- 詳細な権限を有効にして、古いアクションを無効にします。

このツールは、サインインしている AWS アカウントの境界内で動作し、他の AWS Organizations アカウントに関する情報は公開されません。

[影響を受けたポリシー] ツールを使用するには

1. にサインイン AWS マネジメントコンソール し、<https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. [影響を受けたポリシー] ツールにアクセスするには、URL (<https://console.aws.amazon.com/poliden/home?region=us-east-1#/>) をブラウザに貼り付けます。

 Note

iam:GetAccountAuthorizationDetails アクセス許可は、このページを表示するために必要です。

3. 影響を受ける IAM ポリシーが記載されている表を確認します。ポリシーで参照されている特定の IAM アクションを確認するには、[非推奨の IAM アクション] 列を使用してください。
4. [更新したポリシーをコピー] 列で [コピー] を選択し、更新したポリシーをクリップボードにコピーします。更新したポリシーには、既存のポリシーと、それに追加された詳細な推奨アクションが個別の Sid ブロックとして含まれます。このブロックには、ポリシーの末尾にプレフィックス AffectedPoliciesMigrator が付きます。

5. [IAM コンソールでポリシーを編集] 列で、[編集] を選択して IAM ポリシーエディターに移動します。既存のポリシーの JSON が表示されます。
6. 既存のポリシー全体を、ステップ 4 でコピーした更新済みのポリシーに置き換えます。必要に応じて他の変更を加えることができます。
7. [次へ]、[変更を保存] の順に選択します。
8. 影響を受けるすべてのポリシーについて、ステップ 3 ~ 7 を繰り返します。
9. ポリシーを更新したら、[影響を受けたポリシー] ツールを更新して、影響を受けたポリシーがリストにないことを確認します。すべてのポリシーの [新しい IAM アクションが見つかりました] 列に [はい] が表示され、[コピー] ボタンと [編集] ボタンは無効になります。影響を受けたポリシーが更新されます。

アカウントで詳細なアクションを有効にするには

ポリシーを更新したら、次の手順に従ってアカウントで詳細なアクションを有効にします。

[新しい IAM アクションを管理] セクションを使用できるのは、組織の管理アカウント (支給人) または個人アカウントだけです。個人アカウントは、新しいアクションを自分で有効にできます。管理アカウントは、組織全体または一部のメンバーアカウントに対して新しいアクションを有効にできます。管理アカウントの場合は、すべてのメンバーアカウントの影響を受けたポリシーを更新し、組織で新しいアクションを有効にします。詳細については、AWS ブログ記事の「[How to toggle accounts between new fine-grained actions or existing IAM actions?](#)」セクションを参照してください。

 Note

これを実行するには、次のアクセス許可が必要です。

- `aws-portal:GetConsoleActionSetEnforced`
- `aws-portal:UpdateConsoleActionSetEnforced`
- `ce:GetConsoleActionSetEnforced`
- `ce:UpdateConsoleActionSetEnforced`
- `purchase-orders:GetConsoleActionSetEnforced`
- `purchase-orders:UpdateConsoleActionSetEnforced`

[新しい IAM アクションを管理] セクションが表示されない場合は、アカウントで詳細な IAM アクションがすでに有効になっていることを意味します。

1. [新しい IAM アクションを管理] では、[強制される現在のアクションセット] 設定は [既存] ステータスになります。

[新しいアクションを有効にする (詳細)] を選択し、[変更を適用] を選択します。

2. ダイアログボックスで、[はい] を選択します。「強制される現在のアクションセット」ステータスが [詳細] に変わります。つまり、新しいアクションがユーザーの AWS アカウント または組織に強制されます。
3. (オプション) その後、既存のポリシーを更新して、古いアクションをすべて削除できます。

Example例: IAM ポリシーの前と後

次の IAM ポリシーには古い `aws-portal:ViewPaymentMethods` アクションが含まれています。

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Effect": "Allow",
      "Action": [
        "aws-portal:ViewPaymentMethods"
      ],
      "Resource": "*"
    }
  ]
}
```

更新したポリシーをコピーすると、次の例では詳細なアクションを含む新しい Sid ブロックが作成されます。

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Effect": "Allow",
      "Action": [
        "aws-portal:ViewPaymentMethods"
      ],
      "Resource": "*"
    }
  ]
}
```

```
    },  
    {  
      "Sid": "AffectedPoliciesMigrator0",  
      "Effect": "Allow",  
      "Action": [  
        "account:GetAccountInformation",  
        "invoicing:GetInvoicePDF",  
        "payments:GetPaymentInstrument",  
        "payments:GetPaymentStatus",  
        "payments:ListPaymentPreferences"  
      ],  
      "Resource": "*"   
    }  
  ]  
}
```

関連リソース

詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「[Sid](#)」を参照してください。

新しい詳細アクションの詳細については、「[詳細な IAM アクションのリファレンスのマッピング](#)」と「[きめ細かな請求アクションの使用](#)」を参照してください。

スクリプトを使用して詳細な IAM の アクションを使用するポリシーを一括移行する

Note

次の AWS Identity and Access Management (IAM) アクションは、2023 年 7 月に標準サポートが終了しました。

- *aws-portal* 名前空間
- *purchase-orders:ViewPurchaseOrders*
- *purchase-orders:ModifyPurchaseOrders*

を使用している場合は AWS Organizations、[一括ポリシー移行スクリプト](#)または一括ポリシー移行スクリプトを使用して、支払者アカウントからポリシーを更新できます。また、[従来のアクションから詳細なアクションへのマッピングのリファレンス](#)を使用して、追加する必要のある IAM アクションを検証することもできます。

2023 年 3 月 6 日午前 11 時 (PDT) 以降に AWS Organizations 作成された がある場合、AWS アカウントまたは の一部である場合、きめ細かなアクションは組織で既に有効です。

IAM ポリシーを移行して詳細なアクションとして知られる新しいアクションを使用するために、[AWS サンプル](#)のウェブサイトのスクリプトを使用できます。

これらのスクリプトを組織の支払いアカウントから実行して、組織内で古い IAM アクションを使用し、影響を受ける以下のポリシーを特定します。

- カスタマーマネージド IAM ポリシー
- ロール、グループ、ユーザーの IAM インラインポリシー
- サービスコントロールポリシー (支払人のアカウントのみに適用)
- 権限セット

スクリプトは、ポリシーで使用されている既存のアクションに対応する の新しいアクションの提案を生成します。提案を確認し、スクリプトを使用して組織内の影響を受けるすべてのポリシーに新しいアクションを追加します。管理ポリシーや AWS 管理 SCPs (AWS Control Tower や AWS Organizations SCPs など) を更新 AWS する必要はありません。

これらのスクリプトは以下の目的で使用します。

- ポリシーの更新が効率化され、影響を受けるポリシーを支払いアカウントから簡単に管理できます。
- ポリシーの更新に必要な時間が短縮されます。各メンバーアカウントにサインインしてポリシーを手動で更新する必要はありません。
- 複数の異なるメンバーアカウントの同一のポリシーをグループにまとめることができます。その場合、1 つずつ確認しなくても、すべての同じポリシーで同じ更新を確認することや適用することができます。
- が 2023 年 7 月 AWS 6 日に古い IAM アクションを廃止した後も、ユーザーアクセスが影響を受けないようにしてください。

ポリシーとサービスコントロールポリシーの詳細については、以下のトピックを参照してください。

- 「IAM ユーザーガイド」の「[IAM ポリシーを管理する](#)」
- 「AWS Organizations User Guide」の「[Service control policies \(SCPs\)](#)」
- 「IAM Identity Center User Guide」の「[Custom permissions](#)」

概要:

このトピックに従って、次のステップを完了します。

トピック

- [前提条件](#)
- [ステップ1: 環境の構築](#)
- [ステップ 2: CloudFormation スタックセットを作成する](#)
- [ステップ 3: 影響を受けるポリシーを特定する](#)
- [ステップ 4: 推奨された変更を確認する](#)
- [ステップ 5: 影響を受けるポリシーを更新する](#)
- [ステップ 6: 変更を元に戻す \(オプション\)](#)
- [IAM ポリシーの例](#)

前提条件

開始するには、以下を実行する必要があります。

- [Python 3](#) をダウンロードしてインストールします。
- 支払いアカウントへのサインイン、および次の IAM 権限を持つ IAM プリンシパルがあることを確認します。

```
"iam:GetAccountAuthorizationDetails",
"iam:GetPolicy",
"iam:GetPolicyVersion",
"iam:GetUserPolicy",
"iam:GetGroupPolicy",
"iam:GetRole",
"iam:GetRolePolicy",
"iam:CreatePolicyVersion",
"iam:DeletePolicyVersion",
"iam:ListAttachedRolePolicies",
"iam:ListPolicyVersions",
"iam:PutUserPolicy",
"iam:PutGroupPolicy",
"iam:PutRolePolicy",
"iam:SetDefaultPolicyVersion",
"organizations:ListAccounts",
"organizations:ListPolicies",
```

```
"organizations:DescribePolicy",
"organizations:UpdatePolicy",
"organizations:DescribeOrganization",
"sso:DescribePermissionSet",
"sso:DescribePermissionSetProvisioningStatus",
"sso:GetInlinePolicyForPermissionSet",
"sso:ListInstances",
"sso:ListPermissionSets",
"sso:ProvisionPermissionSet",
"sso:PutInlinePolicyToPermissionSet",
"sts:AssumeRole"
```

Tip

最初に、テストアカウントなどのアカウントのサブセットを使用して、提案された変更が予期された通りに行われることを確認することをお勧めします。
その後、組織内の残りのアカウントに対してスクリプトを再度実行できます。

ステップ1: 環境の構築

開始するには、[AWS Samples](#) Web サイトから必要なファイルをダウンロードします。次に、コマンドを実行して環境をセットアップします。

使用する環境をセットアップするには

1. [AWS Samples](#) ウェブサイトからリポジトリを複製します。コマンドラインウィンドウで、次のコマンドを実行できます。

```
git clone https://github.com/aws-samples/bulk-policy-migrator-scripts-for-account-cost-billing-consoles.git
```

2. ファイルをダウンロードしたディレクトリに移動します。以下のコマンドを使用できます。

```
cd bulk-policy-migrator-scripts-for-account-cost-billing-consoles
```

リポジトリには、以下のスクリプトとリソースがあります。

- `billing_console_policy_migrator_role.json` – BillingConsolePolicyMigratorRole IAM ロールを組織のメンバーアカウントに作成す

る CloudFormation テンプレート。スクリプトはこのロールを継承し、影響を受けるポリシーを読み取って更新することができます。

- `action_mapping_config.json` — 古いアクションと新しいアクションの 1 対多のマッピングが含まれます。スクリプトはこのファイルを使用して、古いアクションを含み、影響を受ける各ポリシーの新しいアクションを提案します。

それぞれの古いアクションは、複数の詳細なアクションに対応しています。ファイルで提案された新しいアクションにより、ユーザーは移行 AWS のサービス 前に同じ にアクセスできます。

- `identify_affected_policies.py` – 組織内の影響を受けるポリシーをスキャンして特定します。このスクリプトは、影響を受けるポリシーと提案された新しいアクションをリストする `affected_policies_and_suggestions.json` ファイルを生成します。

古いアクションの同じセットを使用し、影響を受けるポリシーは JSON ファイルにグループ化されるため、提案された新しいアクションを確認または更新できます。

- `update_affected_policies.py` – 組織内の影響を受けるポリシーを更新します。スクリプトは `affected_policies_and_suggestions.json` ファイルを入力し、提案された新しいアクションをポリシーに追加します。
 - `rollback_affected_policies.py` – (オプション) 影響を受けるポリシーに加えられた変更を元に戻します。このスクリプトは、影響を受けるポリシーから新しい詳細アクションを削除します。
3. 仮想環境をセットアップして有効化するには、次のコマンドを実行します。

```
python3 -m venv venv
```

```
source venv/bin/activate
```

4. AWS SDK for Python (Boto3) 依存関係をインストールするには、次のコマンドを実行します。

```
pip install -r requirements.txt
```

Note

AWS Command Line Interface () を使用するように AWS 認証情報を設定する必要があります AWS CLI。詳細については、「[AWS SDK for Python \(Boto3\)](#)」を参照してください。

詳細については、[README.md](#) ファイルを参照してください。

ステップ 2: CloudFormation スタックセットを作成する

次の手順に従って CloudFormation スタックセットを作成します。このスタックセットは、組織内のすべてのメンバーアカウントの BillingConsolePolicyMigratorRole IAM ロールを作成します。

Note

このステップを完了する必要があるのは、管理アカウント (支払いアカウント) から 1 回だけです。

CloudFormation スタックセットを作成するには

1. テキストエディタで `billing_console_policy_migrator_role.json` ファイルを開き、`<management_account>` の各インスタンスを支払いアカウントのアカウント ID (`123456789012` など) に置き換えます。
2. ファイルを保存します。
3. 支払者アカウント AWS マネジメントコンソール として にサインインします。
4. CloudFormation コンソールで、更新した `billing_console_policy_migrator_role.json` ファイルでスタックセットを作成します。

詳細については、「[AWS CloudFormation ユーザーガイド](#)」の「[AWS CloudFormation コンソールでのスタックセットの作成](#)」を参照してください。

CloudFormation がスタックセットを作成した後、組織内の各メンバーアカウントに BillingConsolePolicyMigratorRole IAM ロールが割り当てられます。

IAM ロールには以下のアクセス許可が含まれます。

```
"iam:GetAccountAuthorizationDetails",  
"iam:GetPolicy",  
"iam:GetPolicyVersion",  
"iam:GetUserPolicy",  
"iam:GetGroupPolicy",  
"iam:GetRolePolicy",
```

```
"iam:CreatePolicyVersion",  
"iam:DeletePolicyVersion",  
"iam:ListPolicyVersions",  
"iam:PutUserPolicy",  
"iam:PutGroupPolicy",  
"iam:PutRolePolicy",  
"iam:SetDefaultPolicyVersion"
```

注意事項

- 各メンバーアカウントに対して、スクリプトは [AssumeRole](#) API オペレーションを呼び出して、BillingConsolePolicyMigratorRole IAM ロールを継承するための一時的な認証情報を取得します。
- スクリプトは [ListAccounts](#) API オペレーションを呼び出して、すべてのメンバーアカウントを取得します。
- また、スクリプトは IAM API オペレーションを呼び出して、ポリシーへの読み取りアクセス許可と書き込みアクセス許可を実行します。

ステップ 3: 影響を受けるポリシーを特定する

スタックセットを作成してファイルをダウンロードした

ら、identify_affected_policies.py スクリプトを実行します。このスクリプトは、各メンバーアカウントの BillingConsolePolicyMigratorRole IAM ロールを継承し、影響を受けるポリシーを特定します。

影響を受けるポリシーを特定するには

1. スクリプトをダウンロードしたディレクトリに移動します。

```
cd policy_migration_scripts/scripts
```

2. identify_affected_policies.py スクリプトを実行します。

次の入力パラメータを使用できます。

- AWS アカウント スクリプトでスキャンする。アカウントを指定するには、次の入力パラメータを使用します。

- `--all` – 組織内のすべてのメンバーアカウントをスキャンします。

```
python3 identify_affected_policies.py --all
```

- `--accounts` – 組織内のメンバーアカウントのサブセットをスキャンします。

```
python3 identify_affected_policies.py --accounts 111122223333, 444455556666,  
777788889999
```

- `--exclude-accounts` – 組織内の特定のメンバーアカウントを除外します。

```
python3 identify_affected_policies.py --all --exclude-accounts 111111111111,  
222222222222, 333333333333
```

- `--action-mapping-config-file` – (オプション) `action_mapping_config.json` ファイルへのパスを指定します。スクリプトは、このファイルを使用して影響を受けるポリシーの推奨される更新を生成します。パスを指定しない場合、スクリプトはフォルダー内の `action_mapping_config.json` ファイルを使用します。

```
python3 identify_affected_policies.py --action-mapping-config-file c:\Users\username  
\Desktop\Scripts\action_mapping_config.json --all
```

Note

このスクリプトで組織単位 (OU) を指定することはできません。

スクリプトを実行すると、`Affected_Policies_<Timestamp>` フォルダーに 2 つの JSON ファイルが作成されます。

- `affected_policies_and_suggestions.json`
- `detailed_affected_policies.json`

affected_policies_and_suggestions.json

影響を受けるポリシーと推奨される新しいアクションを一覧表示します。古いアクションの同じセットを使用し、影響を受けるポリシーは、ファイルにグループ化されます。

このファイルには次のセクションが含まれます。

- スクリプトで指定したアカウントの概要を提供するメタデータ。これには以下が含まれます。
 - スキャンされたアカウントと `identify_affected_policies.py` スクリプトで使用された入力パラメータ
 - 影響を受けるアカウントの数
 - 影響を受けるポリシーの数
 - 類似ポリシーグループの数
- 類似ポリシーグループ — アカウントのリストとポリシーの詳細 (次のセクションを含む) が含まれます。
 - `ImpactedPolicies` – 影響を受けるポリシーとグループに含めるポリシーを指定します
 - `ImpactedPolicyStatements` – 影響を受けるポリシー内で古いアクションを現在使用している `Sid` ブロックに関する情報を提供します。このセクションには古いアクションと IAM 要素 (`Effect`、`Principal`、`NotPrincipal`、`NotAction`、`Condition` など) が含まれます。
 - `SuggestedPolicyStatementsToAppend` – 新しい `SID` ブロックとして追加される新しい推奨アクションを提供します。

ポリシーを更新すると、このブロックがポリシーの最後に追加されます。

Example `affected_policies_and_suggestions.json` ファイルの例

このファイルには、以下の基準に基づいて類似するポリシーがグループ化されています。

- 同じ古いアクションが使用されている — すべての `SID` ブロックに同じ古いアクションがあるポリシー。
- マッチングの詳細 — 影響を受けるアクションに加えて、ポリシーには次のような同一の IAM 要素があります。
 - `Effect` (`Allow/Deny`)
 - `Principal` (アクセスを許可または拒否されるユーザー)
 - `NotAction` (許可されていないアクション)
 - `NotPrincipal` (アクセスが明示的に拒否されるユーザー)
 - `Resource` (ポリシーが適用される AWS リソース)
 - `Condition` (ポリシーが適用される特定の条件)

Note

詳細については、「[IAM ポリシーの例](#)」を参照してください。

Example `affected_policies_and_suggestions.json` の例

```
[{
  "AccountsScanned": [
    "111111111111",
    "222222222222"
  ],
  "TotalAffectedAccounts": 2,
  "TotalAffectedPolicies": 2,
  "TotalSimilarPolicyGroups": 2
},
{
  "GroupName": "Group1",
  "ImpactedPolicies": [{
    "Account": "111111111111",
    "PolicyType": "UserInlinePolicy",
    "PolicyName": "Inline-Test-Policy-Allow",
    "PolicyIdentifier": "1111111_1-user:Inline-Test-Policy-Allow"
  },
  {
    "Account": "222222222222",
    "PolicyType": "UserInlinePolicy",
    "PolicyName": "Inline-Test-Policy-Allow",
    "PolicyIdentifier": "222222_1-group:Inline-Test-Policy-Allow"
  }
],
  "ImpactedPolicyStatements": [
    [{
      "Sid": "VisualEditor0",
      "Effect": "Allow",
      "Action": [
        "aws-portal:ViewAccounts"
      ],
      "Resource": "*"
    }
  ]
},
  "SuggestedPolicyStatementsToAppend": [{
    "Sid": "BillingConsolePolicyMigrator0",
```

```

        "Effect": "Allow",
        "Action": [
            "account:GetAccountInformation",
            "account:GetAlternateContact",
            "account:GetChallengeQuestions",
            "account:GetContactInformation",
            "billing:GetContractInformation",
            "billing:GetIAMAccessPreference",
            "billing:GetSellerOfRecord",
            "payments:ListPaymentPreferences"
        ],
        "Resource": "*"
    }
  ],
  {
    "GroupName": "Group2",
    "ImpactedPolicies": [{
      "Account": "111111111111",
      "PolicyType": "UserInlinePolicy",
      "PolicyName": "Inline-Test-Policy-deny",
      "PolicyIdentifier": "1111111_2-user:Inline-Test-Policy-deny"
    },
    {
      "Account": "222222222222",
      "PolicyType": "UserInlinePolicy",
      "PolicyName": "Inline-Test-Policy-deny",
      "PolicyIdentifier": "222222_2-group:Inline-Test-Policy-deny"
    }
  ],
  "ImpactedPolicyStatements": [
    [{
      "Sid": "VisualEditor0",
      "Effect": "deny",
      "Action": [
        "aws-portal:ModifyAccount"
      ],
      "Resource": "*"
    }
  ],
  "SuggestedPolicyStatementsToAppend": [{
    "Sid": "BillingConsolePolicyMigrator1",
    "Effect": "Deny",
    "Action": [
      "account:CloseAccount",

```

```
        "account:DeleteAlternateContact",
        "account:PutAlternateContact",
        "account:PutChallengeQuestions",
        "account:PutContactInformation",
        "billing:PutContractInformation",
        "billing:UpdateIAMAccessPreference",
        "payments:UpdatePaymentPreferences"
    ],
    "Resource": "*"
  }
}
```

detailed_affected_policies.json

メンバーアカウントに対して `identify_affected_policies.py` スクリプトが識別した影響を受けるすべてのアカウントの定義が含まれます。

ファイルには類似するポリシーがグループ化されています。このファイルを参照として使用すると、各メンバーアカウントにサインインして各ポリシーとアカウントの更新をここに確認する必要なく、ポリシーの変更を確認および管理できます。

ファイルでポリシー名 (***YourCustomerManagedReadOnlyAccessBillingUser*** など) を検索して、影響を受けるポリシー定義を確認できます。

Example例: `detailed_affected_policies.json`

ステップ 4: 推奨された変更を確認する

スクリプトによって作成された `affected_policies_and_suggestions.json` ファイルを確認して変更を加えます。

影響を受けるポリシーを確認するには

1. テキストエディタで、`affected_policies_and_suggestions.json` ファイルを開きます。
2. `AccountsScanned` セクションで、スキャンされたアカウント全体で識別された類似グループの数が予期されることを確認します。
3. 影響を受けるポリシーに追加される推奨詳細アクションを確認します。
4. 必要に応じてファイルを更新して保存します。

例 1: `action_mapping_config.json` ファイルを更新する

`action_mapping_config.json` の推奨マッピングは更新できます。ファイルを更新した後、`identify_affected_policies.py` スクリプトを再実行します。このスクリプトは、絵協を受けるポリシーの更新された候補を生成します。

`action_mapping_config.json` ファイルの複数のバージョンを作成して、さまざまなアクセス許可を持つさまざまなアカウントのポリシーを変更できます。例えば、テストアカウントのアクセス許可を移行する `action_mapping_config_testing.json` という名前のファイルを作成し、本番稼働用アカウント用の `action_mapping_config_production.json` を作成します。

例 2: `affected_policies_and_suggestions.json` ファイルを更新する

`affected_policies_and_suggestions.json` ファイル内の推奨される変更セクションを直接編集して、影響を受ける特定のポリシーグループの推奨される変更を変更できます。

このセクションで行った変更は、影響を受ける特定のポリシーグループ内のすべてのポリシーに適用されます。

例 3: 特定のポリシーをカスタマイズする

影響を受けるポリシーグループ内のポリシーで、推奨される更新とは異なる変更が必要であることがわかった場合は、次のことを行うことができます。

- `identify_affected_policies.py` スクリプトから特定のアカウントを除外します。その後、除外されたアカウントを個別に確認できます。
- 別のアクセス許可が必要な影響を受けるポリシーとアカウントを削除することによって、影響を受ける Sid ブロックを更新します。特定のアカウントのみを含む JSON ブロック、または現在の更新の影響を受けるポリシー実行から除外する JSON ブロックを作成します。

`identify_affected_policies.py` スクリプトを再実行すると、更新されたブロックに関連アカウントのみが表示されます。その後、その特定の Sid ブロックに推奨される変更を絞り込むことができます。

ステップ 5: 影響を受けるポリシーを更新する

推奨される変更を確認して修正した後、`update_affected_policies.py` スクリプトを実行します。スクリプトは入力として `affected_policies_and_suggestions.json` ファイルを取ります。このスクリプトは、`affected_policies_and_suggestions.json` ファイルにリストされ

ている影響を受けるポリシーを更新する BillingConsolePolicyMigratorRole IAM ロールを継承します。

影響を受けるポリシーを更新するには

1. まだ開いていない場合は、AWS CLI のコマンドラインウィンドウを開きます。
2. 次のコマンドを入力して update_affected_policies.py スクリプトを実行します。次の入力パラメータを入力できます。

- 更新対象となる影響を受けるポリシーのリストを含む affected_policies_and_suggestions.json ファイルのディレクトリパス。このファイルは前のステップの出力です。

```
python3 update_affected_policies.py --affected-policies-directory  
Affected_Policies_<Timestamp>
```

update_affected_policies.py スクリプト

は、affected_policies_and_suggestions.json ファイル内の影響を受けるポリシーを推奨される新しいアクションで更新します。スクリプトは BillingConsolePolicyMigrator# として識別されるポリシーに Sid ブロックを追加します。ここで、# は増分カウンタ (1、2、3 など) に対応します。

例えば、古いアクションを使用し、影響を受けるポリシー内に複数の Sid ブロックがある場合、スクリプトは、各 Sid ブロックに対応する複数の Sid ブロック (BillingConsolePolicyMigrator# として表示) を追加します。

Important

- このスクリプトは、ポリシーから古い IAM アクションを削除することや、ポリシー内の既存の Sid ブロックを変更することはありません。代わりに、Sid ブロックを作成してポリシーの最後に追加します。これらの新しい Sid ブロックには、JSON ファイルの推奨される新しいアクションが含まれています。元のポリシーのアクセス許可は変更されません。
- 変更を元に戻す必要がある場合に備えて、BillingConsolePolicyMigrator# Sid ブロックの名前を変更しないことを推奨します。

Example例: Sid ブロックが追加されたポリシー

BillingConsolePolicyMigrator1 ブロックと BillingConsolePolicyMigrator2 ブロックに追加された Sid ブロックを確認します。

スクリプトは、失敗したオペレーションを含むステータスレポートを生成し、JSON ファイルをローカルに出力します。

Example例: ステータスレポート

```
[{
  "Account": "111111111111",
  "PolicyType": "Customer Managed Policy"
  "PolicyName": "AwsPortalViewPaymentMethods",
  "PolicyIdentifier": "identifier",
  "Status": "FAILURE", // FAILURE or SKIPPED
  "ErrorMessage": "Error message details"
}]
```

Important

- `identify_affected_policies.py` スクリプト
と `update_affected_policies.py` スクリプトを再実行する
と、BillingConsolePolicyMigratorRole#Sid ブロックを含むすべてのポリシーが
スキップされます。スクリプトでは、これらのポリシーが以前にスキャンおよび更新され
ていること、および追加の更新は必要ないことが想定されています。これにより、スクリ
プトがポリシー内の同じアクションを複製することが防止されます。
- 影響を受けるポリシーを更新した後、影響を受けるポリシーツールを使用して新しい IAM
を使用できます。問題が見つかった場合は、ツールを使用して前のアクションに戻すこと
ができます。スクリプトを使用してポリシーの更新を元に戻すこともできます。

詳細については、[影響を受けたポリシーツールの使用方法「」](#)および[AWS「請求、コスト管理、アカウントコンソールのアクセス許可の変更」](#) ブログ記事を参照してください。

- 更新を管理するには、次の方法があります。
 - 各アカウントにスクリプトを個別に実行します。
 - 類似アカウント (テストアカウント、QA アカウント、本番稼働用アカウントなど) にスクリプトをバッチで実行します。
 - すべてのアカウントにスクリプトを実行します。

- 一部のアカウントをバッチで更新し、その他のアカウントを個々に更新します。

ステップ 6: 変更を元に戻す (オプション)

`rollback_affected_policies.py` スクリプトは、指定されたアカウントに関して影響を受ける各ポリシーに適用された変更を元に戻します。スクリプトは、`update_affected_policies.py` スクリプトが追加したすべての Sid ブロックを削除します。これらの Sid ブロックは `BillingConsolePolicyMigratorRole#` の形式です。

変更を元に戻すには

1. まだ開いていない場合は、AWS CLI のコマンドラインウィンドウを開きます。
2. 次のコマンドを入力して `rollback_affected_policies.py` スクリプトを実行します。次の入力パラメータを入力できます。

- `--accounts`

- ロールバックに含める AWS アカウント IDs のカンマ区切りリストを指定します。
- 次の例では、指定されたのポリシーをスキャンし AWS アカウント、`BillingConsolePolicyMigrator#` Sid ブロックを含むステートメントを削除します。

```
python3 rollback_affected_policies.py --accounts 111122223333, 555555555555, 666666666666
```

- `--all`

- 組織内の AWS アカウント IDs が含まれます。
- 次の例では、組織内のすべてのポリシーがスキャンされ、`BillingConsolePolicyMigratorRole#` Sid ブロックを含むすべてのステートメントが削除されます。

```
python3 rollback_affected_policies.py --all
```

- `--exclude-accounts`

- ロールバックから除外する AWS アカウント IDs のカンマ区切りリストを指定します。

このパラメータは、`--all` パラメータも指定する場合にのみ使用できます。

- 次の の例では、指定されたアカウントを除き、組織 AWS アカウント 内のすべての のポリシーをスキャンします。

```
python3 rollback_affected_policies.py --all --exclude-accounts 777777777777,
888888888888, 999999999999
```

IAM ポリシーの例

ポリシーは、以下が同一の場合に類似しているとみなされます。

- すべての Sid ブロックで影響を受けるアクション。
- 以下の IAM 要素の詳細:
 - Effect (Allow/Deny)
 - Principal (アクセスを許可または拒否されるユーザー)
 - NotAction (許可されていないアクション)
 - NotPrincipal (アクセスが明示的に拒否されるユーザー)
 - Resource (ポリシーが適用される AWS リソース)
 - Condition (ポリシーが適用される特定の条件)

以下の例は、IAM が相違点に基づいて類似していると思なす可能性があるポリシー、またはそうでないポリシーを示しています。

Example例 1: ポリシーが類似していると思なされる場合

各ポリシータイプは異なりますが、どちらのポリシーにも影響を受ける同じAction を含む 1 つの Sid ブロックがあります。

Policy 1: Group inline IAM policy

JSON

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [{
    "Sid": "VisualEditor0",
    "Effect": "Allow",
    "Action": [
```

```
        "aws-portal:ViewAccount",
        "aws-portal:*Billing"
    ],
    "Resource": "*"
  }]
}
```

Policy 2: Customer managed IAM policy

JSON

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [{
    "Sid": "VisualEditor0",
    "Effect": "Allow",
    "Action": [
      "aws-portal:ViewAccount",
      "aws-portal:*Billing"
    ],
    "Resource": "*"
  }]
}
```

Example例 2: ポリシーが類似していると見なされる場合

どちらのポリシーにも、影響を受ける同じ Action を含む 1 つの Sid ブロックが含まれます。ポリシー 2 には追加のアクションが含まれていますが、これらのアクションは影響を受けません。

Policy 1

JSON

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [{
    "Sid": "VisualEditor0",
    "Effect": "Allow",
    "Action": [
```

```
        "aws-portal:ViewAccount",
        "aws-portal:*Billing"
    ],
    "Resource": "*"
  }]
}
```

Policy 2

JSON

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [{
    "Sid": "VisualEditor0",
    "Effect": "Allow",
    "Action": [
      "aws-portal:ViewAccount",
      "aws-portal:*Billing",
      "athena:*"
    ],
    "Resource": "*"
  }]
}
```

Example例 3: ポリシーが類似していると見なされない場合

どちらのポリシーにも、影響を受ける同じ Action を含む 1 つの Sid ブロックが含まれます。ただし、Policy 2 には Policy 1 に存在しない Condition 要素が含まれています。

Policy 1

JSON

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [{
    "Sid": "VisualEditor0",
    "Effect": "Allow",
```

```
    "Action": [
      "aws-portal:ViewAccount",
      "aws-portal:*Billing"
    ],
    "Resource": "*"
  }
}
```

Policy 2

JSON

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [{
    "Sid": "VisualEditor0",
    "Effect": "Allow",
    "Action": [
      "aws-portal:ViewAccount",
      "aws-portal:*Billing",
      "athena:*"
    ],
    "Resource": "*",
    "Condition": {
      "BoolIfExists": {
        "aws:MultiFactorAuthPresent": "true"
      }
    }
  }]
}
```

Example 4: ポリシーが類似していると見なされる場合

Policy 1 には、影響を受ける Sid を含む 1 つの Action ブロックがあります。Policy 2 には複数の Sid ブロックがありますが、影響を受ける Action は 1 つのブロックにしかありません。

Policy 1

JSON

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [{
    "Sid": "VisualEditor0",
    "Effect": "Allow",
    "Action": [
      "aws-portal:View*"
    ],
    "Resource": "*"
  }]
}
```

Policy 2

JSON

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [{
    "Sid": "VisualEditor0",
    "Effect": "Allow",
    "Action": [
      "aws-portal:View*"
    ],
    "Resource": "*"
  },
  {
    "Sid": "VisualEditor1",
    "Effect": "Allow",
    "Action": [
      "cloudtrail:Get*"
    ],
    "Resource": "*"
  }
]
}
```

Example例 5: ポリシーが類似していると見なされない場合

Policy 1 には、影響を受ける Sid を含む 1 つの Action ブロックがあります。Policy 2 には複数の Sid ブロックがあり、影響を受ける Action は複数のブロックにあります。

Policy 1

JSON

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [{
    "Sid": "VisualEditor0",
    "Effect": "Allow",
    "Action": [
      "aws-portal:View*"
    ],
    "Resource": "*"
  }]
}
```

Policy 2

JSON

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [{
    "Sid": "VisualEditor0",
    "Effect": "Allow",
    "Action": [
      "aws-portal:View*"
    ],
    "Resource": "*"
  },
  {
    "Sid": "VisualEditor1",
    "Effect": "Deny",
    "Action": [
      "aws-portal:Modify*"
    ]
  }
]
```

```
    ],  
    "Resource": "*"    
  }  
]  
}
```

Example例 6: ポリシーが類似していると見なされる場合

どちらのポリシーにも複数の Sid ブロックがあり、各 Sid ブロックに影響を受ける同じ Action があります。

Policy 1

JSON

```
{  
  "Version": "2012-10-17",  
  "Statement": [  
    {  
      "Sid": "VisualEditor0",  
      "Effect": "Allow",  
      "Action": [  
        "aws-portal:*Account",  
        "iam:Get*"  
      ],  
      "Resource": "*"    
    },  
    {  
      "Sid": "VisualEditor1",  
      "Effect": "Deny",  
      "Action": [  
        "aws-portal:Modify*",  
        "iam:Update*"    
      ],  
      "Resource": "*"    
    }  
  ]  
}
```


Policy 2

JSON

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Sid": "VisualEditor0",
      "Effect": "Allow",
      "Action": [
        "aws-portal:*Account",
        "athena:Get*"
      ],
      "Resource": "*"
    },
    {
      "Sid": "VisualEditor1",
      "Effect": "Deny",
      "Action": [
        "aws-portal:Modify*",
        "athena:Update*"
      ],
      "Resource": "*"
    }
  ]
}
```

Example例 7

次の 2 つのポリシーは、類似していると思われません。

Policy 1 には、影響を受ける Sid を含む 1 つの Action ブロックがあります。Policy 2 には、影響を受ける同じ Action を含む 1 つの Sid ブロックがあります。ただし、Policy 2 にはアクションが異なる別の Sid ブロックも含まれます。

Policy 1

JSON

```
{
```

```
"Version": "2012-10-17",
"Statement": [{
  "Sid": "VisualEditor0",
  "Effect": "Allow",
  "Action": [
    "aws-portal:*Account",
    "iam:Get*"
  ],
  "Resource": "*"
},
{
  "Sid": "VisualEditor1",
  "Effect": "Deny",
  "Action": [
    "aws-portal:Modify*",
    "iam:Update*"
  ],
  "Resource": "*"
}
]
```

Policy 2

JSON

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [{
    "Sid": "VisualEditor0",
    "Effect": "Allow",
    "Action": [
      "aws-portal:*Account",
      "athena:Get*"
    ],
    "Resource": "*"
  },
  {
    "Sid": "VisualEditor1",
    "Effect": "Deny",
    "Action": [
      "aws-portal:*Billing",
```

```
        "athena:Update*",
      ],
      "Resource": "*"
    }
  ]
}
```

詳細な IAM アクションのリファレンスのマッピング

Note

次の AWS Identity and Access Management (IAM) アクションは、2023 年 7 月に標準サポートが終了しました。

- *aws-portal* 名前空間
- *purchase-orders:ViewPurchaseOrders*
- *purchase-orders:ModifyPurchaseOrders*

を使用している場合は AWS Organizations、[一括ポリシー移行スクリプト](#)または一括ポリシー移行スクリプトを使用して、支払者アカウントからポリシーを更新できます。また、[従来のアクションから詳細なアクションへのマッピングのリファレンス](#)を使用して、追加する必要がある IAM アクションを検証することもできます。

2023 年 3 月 6 日午前 11 時 (PDT) 以降に AWS Organizations 作成された がある場合、AWS アカウントまたは の一部である場合、きめ細かなアクションは組織で既に有効です。

アクセス許可ポリシーまたはサービスコントロールポリシー (SCP) で次の IAM アクションを移行する必要があります。

- *aws-portal:ViewAccount*
- *aws-portal:ViewBilling*
- *aws-portal:ViewPaymentMethods*
- *aws-portal:ViewUsage*
- *aws-portal:ModifyAccount*
- *aws-portal:ModifyBilling*
- *aws-portal:ModifyPaymentMethods*

- `purchase-orders:ViewPurchaseOrders`
- `purchase-orders:ModifyPurchaseOrders`

このトピックを使用して、廃止される各 IAM アクションの古いアクションと新しいアクションのマッピングを詳細に表示できます。

概要:

1. 該当する IAM ポリシーを AWS アカウントで確認してください。そのためには、影響を受ける IAM ポリシーを特定する [影響を受けるポリシー] ツールの手順に従ってください。「[影響を受けたポリシーツールの使用方法](#)」を参照してください。
2. IAM コンソールを使用して、新しい詳細なアクセス許可をポリシーに追加します。例えば、ポリシーで `purchase-orders:ModifyPurchaseOrders` アクセス許可が付与されている場合は、[purchase-orders:ModifyPurchaseOrders のマッピング](#) テーブルに各アクションを追加する必要があります。

古いポリシー

以下のポリシーでは、ユーザーはアカウント内の発注書を追加、削除、または変更できます。

JSON

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Sid": "VisualEditor0",
      "Effect": "Allow",
      "Action": "purchase-orders:ModifyPurchaseOrders",
      "Resource": "arn:aws:purchase-orders::123456789012:purchase-order/*"
    }
  ]
}
```

新しいポリシー

以下のポリシーでも、ユーザーはアカウント内の発注書を追加、削除、または変更できます。詳細なアクセス許可はそれぞれ、古い `purchase-orders:ModifyPurchaseOrders` アクセス許可の後に表示されます。これらのアクセス許可により、許可または拒否するアクションをより細かく制御できます。

 Tip

移行が完了するまではアクセス許可を失わないように、古いアクセス許可をそのままにしておくことをお勧めします。

JSON

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Sid": "VisualEditor0",
      "Effect": "Allow",
      "Action": [
        "purchase-orders:ModifyPurchaseOrders",
        "purchase-orders:AddPurchaseOrder",
        "purchase-orders>DeletePurchaseOrder",
        "purchase-orders:UpdatePurchaseOrder",
        "purchase-orders:UpdatePurchaseOrderStatus"
      ],
      "Resource": "arn:aws:purchase-orders::123456789012:purchase-order/*"
    }
  ]
}
```

3. 変更内容を保存します。

 注意事項

- IAM コンソールでポリシーを手動で編集するには、「IAM ユーザーガイド」の「[カスタマー管理ポリシーを編集する \(コンソール\)](#)」を参照してください。

- 詳細なアクション (新しいアクション) を使用するように IAM ポリシーを一括移行する場合は、「[スクリプトを使用して詳細な IAM の アクションを使用するポリシーを一括移行する](#)」を参照してください。

目次

- [aws-portal:ViewAccount のマッピング](#)
- [aws-portal:ViewBilling のマッピング](#)
- [aws-portal:ViewPaymentMethods のマッピング](#)
- [aws-portal:ViewUsage のマッピング](#)
- [aws-portal:ModifyAccount のマッピング](#)
- [aws-portal:ModifyBilling のマッピング](#)
- [aws-portal:ModifyPaymentMethods のマッピング](#)
- [purchase-orders:ViewPurchaseOrders のマッピング](#)
- [purchase-orders:ModifyPurchaseOrders のマッピング](#)

aws-portal:ViewAccount のマッピング

新しい アクション	説明	アクセスレベル
account:GetAccountInformation	アカウントのアカウント情報を取得するアクセス許可を付与	読み取り
account:GetAlternateContact	アカウントの代替連絡先を取得するためのアクセス許可を付与する	読み取り
account:GetContactInformation	アカウントの主な連絡先情報を取得する許可を付与	読み取り
billing:GetContractInformation	契約番号、エンドユーザーの組織名、発注書番号、アカウントが公共機関の顧客へのサービスに使用されているか	読み取り

新しい アクション	説明	アクセスレベル
	どうかなど、アカウントの契約情報を表示するアクセス許可を付与する	
billing:GetIAMAccessPreference	請求設定の [IAM アクセス許可を付与する] 状態を取得するアクセス許可を付与する	読み取り
billing:GetSellerOfferRecord	アカウントのデフォルトの登録販売者を取得するアクセス許可を付与する	読み取り
payments:ListPaymentPreferences	支払い設定 (優先支払い通貨、優先支払い方法など) を取得するアクセス許可を付与する	読み取り

aws-portal:ViewBilling のマッピング

新しい アクション	説明	アクセスレベル
account:GetAccountInformation	アカウントのアカウント情報を取得するアクセス許可を付与	読み取り
billing:GetBillingData	請求情報に関するクエリを実行するアクセス許可を付与	読み取り
billing:GetBillingDetails	詳細な項目の請求情報を表示するアクセス許可を付与	読み取り
billing:GetBillingNotifications	アカウントの請求情報 AWS に関連して によって送信された通知を表示するアクセス許可を付与します	読み取り

新しい アクション	説明	アクセスレベル
billing:GetBillingPreferences	リザーブドインスタンス、Savings Plans、クレジット共有などの請求設定を表示するアクセス許可を付与する	読み取り
billing:GetContractInformation	契約番号、エンドユーザーの組織名、発注書番号、アカウントが公共機関の顧客へのサービスに使用されているかどうかなど、アカウントの契約情報を表示するアクセス許可を付与する	読み取り
billing:GetCredits	引き換えられたクレジットを表示するアクセス許可を付与	読み取り
billing:GetIAMAccessPreference	請求設定の [IAM アクセス許可を付与する] 状態を取得するアクセス許可を付与する	読み取り
billing:GetSellerOfferRecord	アカウントのデフォルトの登録販売者を取得するアクセス許可を付与する	読み取り
billing:ListBillingViews	プロフォーマ請求グループの請求情報を取得するアクセス許可を付与	リスト
ce:DescribeNotificationSubscription	予約の有効期限アラートを表示する許可を付与する	読み取り
ce:DescribeReport	Cost Explorer の [レポート] ページを表示する許可を付与する	読み取り
ce:GetAnomalies	異常を取得する許可を付与	読み取り

新しい アクション	説明	アクセスレベル
ce:GetAnomalyMonitors	異常モニターをクエリする許可を付与する	読み取り
ce:GetAnomalySubscriptions	異常サブスクリプションをクエリする許可を付与する	読み取り
ce:GetCostAndUsage	アカウントのコストと利用状況のメトリクスを取得する許可を付与	読み取り
ce:GetCostAndUsageWithResources	アカウントのリソースを使用してコストと利用状況のメトリクスを取得する許可を付与	読み取り
ce:GetCostCategories	指定した期間のコストカテゴリーの名前と値をクエリする許可を付与する	読み取り
ce:GetCostForecast	予測期間のコスト予測を取得する許可を付与	読み取り
ce:GetDimensionValues	一定期間にわたってフィルタに使用可能なすべてのフィルタの値を取得する許可を付与	読み取り
ce:GetPreferences	Cost Explorer の設定ページを表示する許可を付与する	読み取り
ce:GetReservationCoverage	アカウントの予約のカバレッジを取得する許可を付与	読み取り
ce:GetReservationPurchaseRecommendation	アカウントの予約の推奨事項を取得する許可を付与	読み取り
ce:GetReservationUtilization	アカウントの予約率を取得する許可を付与	読み取り

新しい アクション	説明	アクセスレベル
ce:GetRightsizingRecommendation	アカウントの適切なサイズ設定に関する推奨事項を取得する許可を付与	読み取り
ce:GetSavingsPlansCoverage	アカウントの Savings Plans のカバレッジを取得する許可を付与	読み取り
ce:GetSavingsPlansPurchaseRecommendation	アカウントの Savings Plans に関する推奨事項を取得する許可を付与	読み取り
ce:GetSavingsPlansUtilization	アカウントの Savings Plans 使用率を取得する許可を付与	読み取り
ce:GetSavingsPlansUtilizationDetails	アカウントの Savings Plans 使用率の詳細を取得する許可を付与	読み取り
ce:GetTags	指定された期間のタグを照会する許可を付与	読み取り
ce:GetUsageForecast	予測期間の使用状況予測を取得する許可を付与	読み取り
ce:ListCostAllocationTags	コスト配分タグを一覧表示する許可を付与する	リスト
ce:ListSavingsPlansPurchaseRecommendationGeneration	過去のレコメンデーション生成のリストを取得する許可を付与	読み取り
consolidatedbilling:GetAccountBillingRole	アカウントロール (支払人、リンク付け、レギュラー) を取得するアクセス許可を付与する	読み取り

新しい アクション	説明	アクセスレベル
<code>consolidatedbilling:ListLinkedAccounts</code>	メンバーおよび連結アカウントのリストを取得するアクセス許可を付与する	リスト
<code>cur:GetClassicReport</code>	請求書の CSV レポートを取得するアクセス許可を付与する	読み取り
<code>cur:GetClassicReportPreferences</code>	使用状況レポートのクラシックレポート有効化ステータスを取得するアクセス許可を付与する	読み取り
<code>cur:ValidateReportDestination</code>	CUR 配信の適切なアクセス許可を持つ Amazon S3 AWS バケットが存在するかどうかを検証するアクセス許可を付与します	読み取り
<code>freetier:GetFreeTierAlertPreference</code>	(E メールアドレスで) AWS 無料利用枠 アラート設定を取得するアクセス許可を付与します	読み取り
<code>freetier:GetFreeTierUsage</code>	AWS 無料利用枠 使用制限と month-to-date (MTD) 使用状況を取得するアクセス許可を付与します	読み取り
<code>invoicing:GetInvoiceEmailDeliveryPreferences</code>	請求書の E メール配信設定を取得するアクセス許可を付与する	読み取り
<code>invoicing:GetInvoicePDF</code>	請求書 PDF を取得するアクセス許可を付与する	読み取り

新しい アクション	説明	アクセスレベル
<code>invoicing:ListInvoiceSummaries</code>	アカウントまたは連結アカウントの請求書概要情報を取得するアクセス許可を付与する	リスト
<code>payments:GetPaymentInstrument</code>	支払い方法に関する情報を取得するアクセス許可を付与	読み取り
<code>payments:GetPaymentStatus</code>	請求書の支払い状況を取得するアクセス許可を付与	読み取り
<code>payments:ListPaymentPreferences</code>	支払い設定 (優先支払い通貨、優先支払い方法など) を取得するアクセス許可を付与する	読み取り
<code>tax:GetTaxInheritance</code>	税継承ステータスを表示するアクセス許可を付与	読み取り
<code>tax:GetTaxRegistrationDocument</code>	税登録ドキュメントをダウンロードするアクセス許可を付与	読み取り
<code>tax:ListTaxRegistrations</code>	納税登録を表示するアクセス許可を付与する	読み取り

aws-portal:ViewPaymentMethods のマッピング

新しい アクション	説明	アクセスレベル
<code>account:GetAccountInformation</code>	アカウントのアカウント情報を取得するアクセス許可を付与	読み取り
<code>invoicing:GetInvoicePDF</code>	請求書 PDF を取得するアクセス許可を付与する	読み取り

新しい アクション	説明	アクセスレベル
payments:GetPaymentInstrument	支払い方法に関する情報を取得するアクセス許可を付与	読み取り
payments:GetPaymentStatus	請求書の支払い状況を取得するアクセス許可を付与	読み取り
payments:ListPaymentPreferences	支払い設定 (優先支払い通貨、優先支払い方法など) を取得するアクセス許可を付与する	リスト

aws-portal:ViewUsage のマッピング

新しい アクション	説明	アクセスレベル
cur:GetUsageReport	使用状況レポートワークフローのリスト AWS のサービス、使用タイプ、およびオペレーションを取得し、使用状況レポートをダウンロードするアクセス許可を付与します	読み取り

aws-portal:ModifyAccount のマッピング

新しい アクション	説明	アクセスレベル
account:CloseAccount	アカウント情報を閉じるアクセス許可を付与	書き込み
account>DeleteAlternateContact	アカウントの代替連絡先を削除するためのアクセス許可を付与する	書き込み

新しい アクション	説明	アクセスレベル
<code>account:PutAlternateContact</code>	アカウントの代替連絡先を変更するためのアクセス許可を付与する	書き込み
<code>account:PutChallengeQuestions</code>	アカウントのチャレンジ質問を取変更するアクセス許可を付与	書き込み
<code>account:PutContactInformation</code>	アカウントの主な連絡先情報を更新する許可を付与	書き込み
<code>billing:PutContractInformation</code>	アカウントの契約情報、エンドユーザーの組織名、およびアカウントが公共部門の顧客にサービスを提供するために使用されるかどうかを設定するアクセス許可を付与	書き込み
<code>billing:UpdateIAMAccessPreference</code>	請求設定の [IAM アクセス許可を付与する] 状態を更新するアクセス許可を付与する	書き込み
<code>payments:UpdatePaymentPreferences</code>	支払い設定 (優先支払い通貨、優先支払い方法など) を取得するアクセス許可を付与	書き込み

aws-portal:ModifyBilling のマッピング

新しい アクション	説明	アクセスレベル
<code>billing:PutContractInformation</code>	アカウントの契約情報、エンドユーザーの組織名、およびアカウントが公共部門の顧客にサービスを提供するために	書き込み

新しい アクション	説明	アクセスレベル
	使用されるかどうかを設定するアクセス許可を付与	
billing:RedeemCredits	AWS クレジットを引き換える許可を付与	書き込み
billing:UpdateBillingPreferences	リザーブドインスタンス、Savings Plans、クレジット共有などの請求設定を更新するアクセス許可を付与する	書き込み
ce:CreateAnomalyMonitor	新しい異常モニターを作成する許可を付与する	書き込み
ce:CreateAnomalySubscription	新しい異常サブスクリプションを作成する許可を付与する	書き込み
ce:CreateNotificationSubscription	予約期限切れのアラートを作成する許可を付与する	書き込み
ce:CreateReport	Cost Explorer レポートを作成する許可を付与する	書き込み
ce>DeleteAnomalyMonitor	異常モニターを削除する許可を付与する	書き込み
ce>DeleteAnomalySubscription	異常サブスクリプションを削除する許可を付与する	書き込み
ce>DeleteNotificationSubscription	予約の有効期限アラートを削除する許可を付与する	書き込み
ce>DeleteReport	Cost Explorer レポートを削除する許可を付与する	書き込み
ce:ProvideAnomalyFeedback	検出された異常に関するフィードバックを提供する許可を付与	書き込み

新しい アクション	説明	アクセスレベル
<code>ce:StartSavingsPlansPurchaseRecommendationGeneration</code>	Savings Plans のレコメンデーション生成をリクエストする許可を付与	書き込み
<code>ce:UpdateAnomalyMonitor</code>	既存の異常モニターを更新する許可を付与する	書き込み
<code>ce:UpdateAnomalySubscription</code>	既存の異常サブスクリプションを更新する許可を付与する	書き込み
<code>ce:UpdateCostAllocationTagsStatus</code>	既存のコスト配分タグのステータスを更新する許可を付与する	書き込み
<code>ce:UpdateNotificationSubscription</code>	予約の有効期限アラートを更新する許可を付与する	書き込み
<code>ce:UpdatePreferences</code>	Cost Explorer の設定ページを編集する許可を付与する	書き込み
<code>cur:PutClassicReportPreferences</code>	クラシックレポートを有効にするアクセス許可を付与	書き込み
<code>freetier:PutFreeTierAlertPreference</code>	(E メールアドレスで) AWS 無料利用枠 アラート設定を設定するアクセス許可を付与します	書き込み
<code>invoicing:PutInvoiceEmailDeliveryPreferences</code>	請求書の E メール配信設定を取得するアクセス許可を付与する	書き込み
<code>payments:CreatePaymentInstrument</code>	支払い方法を作成するアクセス許可を付与	書き込み
<code>payments>DeletePaymentInstrument</code>	支払い方法を削除するアクセス許可を付与	書き込み

新しい アクション	説明	アクセスレベル
payments:MakePayment	支払い、支払いの認証、支払い方法の検証、および Advance Pay の資金請求書類の作成を行うアクセス許可を付与	書き込み
payments:UpdatePaymentPreferences	支払い設定 (優先支払い通貨、優先支払い方法など) を取得するアクセス許可を付与	書き込み
tax:BatchPutTaxRegistration	税登録をバッチ更新するアクセス許可を付与	書き込み
tax>DeleteTaxRegistration	税登録データを削除するアクセス許可を付与	書き込み
tax:PutTaxInheritance	税継承を設定するアクセス許可を付与	書き込み

aws-portal:ModifyPaymentMethods のマッピング

新しい アクション	説明	アクセスレベル
account:GetAccountInformation	アカウントのアカウント情報を取得するアクセス許可を付与	読み取り
payments>DeletePaymentInstrument	支払い方法を削除するアクセス許可を付与	書き込み
payments>CreatePaymentInstrument	支払い方法を作成するアクセス許可を付与	書き込み
payments:MakePayment	支払い、支払いの認証、支払い方法の検証、および Advance Pay の資金請求書類の作成を行うアクセス許可を付与	書き込み

新しい アクション	説明	アクセスレベル
	類の作成を行うアクセス許可を付与	
<code>payments:UpdatePaymentPreferences</code>	支払い設定 (優先支払い通貨、優先支払い方法など) を取得するアクセス許可を付与	書き込み

`purchase-orders:ViewPurchaseOrders` のマッピング

新しい アクション	説明	アクセスレベル
<code>invoicing:GetInvoicePDF</code>	請求書 PDF を取得するアクセス許可を付与する	Get
<code>payments:ListPaymentPreferences</code>	支払い設定 (優先支払い通貨、優先支払い方法など) を取得するアクセス許可を付与する	リスト
<code>purchase-orders:GetPurchaseOrder</code>	発注書を取得する許可を付与	読み取り
<code>purchase-orders:ListPurchaseOrderInvoices</code>	発詳細および詳細を表示するアクセス許可を付与	リスト
<code>purchase-orders:ListPurchaseOrders</code>	すべての使用可能な発注書を取得する許可を付与	リスト

`purchase-orders:ModifyPurchaseOrders` のマッピング

新しい アクション	説明	アクセスレベル
<code>purchase-orders:AddPurchaseOrder</code>	発注書を追加する許可を付与する	書き込み

新しい アクション	説明	アクセスレベル
<code>purchase-orders:DeletePurchaseOrder</code>	発注書を削除する許可を付与する	書き込み
<code>purchase-orders:UpdatePurchaseOrder</code>	既存の発注書を更新する許可を付与	書き込み
<code>purchase-orders:UpdatePurchaseOrderStatus</code>	発注書のステータスを設定する許可を付与	書き込み

AWS マネージドポリシー

管理ポリシーは、AWS アカウントの複数のユーザー、グループ、ロールにアタッチできるスタンドアロンのアイデンティティベースのポリシーです。AWS マネージドポリシーを使用して、請求でのアクセスを制御できます。

AWS 管理ポリシーは、によって作成および管理されるスタンドアロンポリシーです AWS。AWS 管理ポリシーは、多くの一般的なユースケースにアクセス許可を付与するように設計されています。AWS 管理ポリシーを使用すると、ポリシーを自分で記述する必要があったよりも、ユーザー、グループ、ロールに適切なアクセス許可を簡単に割り当てることができます。

AWS 管理ポリシーで定義されているアクセス許可を変更することはできません。AWS は、AWS 管理ポリシーで定義されているアクセス許可を更新することがあります。行われた更新は、ポリシーがアタッチされているすべてのプリンシパルエンティティ (ユーザー、グループ、ロール) に影響します。

請求では、一般的なユースケース向けに複数の AWS 管理ポリシーが用意されています。

トピック

- [AWSPurchaseOrdersServiceRolePolicy](#)
- [AWSBillingReadOnlyAccess](#)
- [Billing](#)
- [AWSAccountActivityAccess](#)
- [AWSPriceListServiceFullAccess](#)
- [Billing の AWS マネージドポリシーの更新 AWS](#)

AWSPurchaseOrdersServiceRolePolicy

このマネージドポリシーは、Billing and Cost Management コンソールと発注書コンソールへのフルアクセスを許可します。このポリシーにより、ユーザーはアカウントの発注書を表示、作成、更新、削除できます。

このポリシーの許可を確認するには、「AWS Managed Policy Reference」の「[AWSPurchaseOrdersServiceRolePolicy](#)」を参照してください。

AWSBillingReadOnlyAccess

このマネージドポリシーは、AWS Billing and Cost Management コンソールの機能に対する読み取り専用アクセスをユーザーに付与します。

アクセス許可の詳細

このポリシーには、以下のアクセス許可が含まれています。

- `account` – AWS アカウントに関する情報を取得します。
- `aws-portal` – Billing and Cost Management コンソールページに対する全体的な閲覧許可をユーザーに付与します。
- `billing` – AWS 請求設定、アクティブな契約、適用されるクレジットまたは割引、IAM 設定、登録販売者、請求レポートのリストなど、請求情報への包括的なアクセスを取得します。
- `budgets` – AWS Budgets 機能に設定されたアクションに関する情報を取得します。
- `ce` – コストと使用状況の情報、タグ、ディメンション値を取得して AWS Cost Explorer 機能を表示します。
- `consolidatedbilling` – 一括請求 (コンソリデーティッドビルリング) 機能を使用して設定された AWS アカウントに関するロールと詳細情報を取得します。
- `cur` – AWS Cost and Usage Report データに関する情報を取得します。
- `freetier` – AWS 無料利用枠 アラートと使用状況の設定に関する情報を取得します。
- `invoicing` – 請求書設定に関する情報を取得します。
- `mapcredits` – Migration Acceleration Program (MAP) 2.0 契約に関連する支出とクレジットを取得します。
- `payments` – 融資、支払いステータス、支払い方法情報を取得します。
- `purchase-orders` – 発注書に関連付けられた請求書に関する情報を取得します。
- `sustainability` – AWS 使用状況に基づいてカーボンフットプリント情報を取得します。
- `tax` – 税金設定から登録済みの税金情報を取得します。

このポリシーの許可を確認するには、「AWS Managed Policy Reference」の「[AWSBillingReadOnlyAccess](#)」を参照してください。

Billing

この管理ポリシーは、AWS Billing and Cost Management コンソールを表示および編集するアクセス許可をユーザーに付与します。これには、アカウントの使用状況の閲覧、予算および支払い方法の修正が含まれます。

このポリシーの許可を確認するには、「AWS Managed Policy Reference」の「[Billing](#)」を参照してください。

AWSAccountActivityAccess

このマネージドポリシーは、[アカウントアクティビティ] を閲覧するアクセス許可をユーザーに付与します。

このポリシーの許可を確認するには、「AWS Managed Policy Reference」の「[AWSAccountActivityAccess](#)」を参照してください。

AWSPriceListServiceFullAccess

この管理ポリシーは、ユーザーに AWS Price List Service へのフルアクセスを付与します。

このポリシーの許可を確認するには、「AWS Managed Policy Reference」の「[AWSPriceListServiceFullAccess](#)」を参照してください。

Billing の AWS マネージドポリシーの更新 AWS

このサービスがこれらの変更の追跡を開始してからの AWS Billing の AWS マネージドポリシーの更新に関する詳細を表示します。このページの変更に関する自動アラートについては、AWS 請求ドキュメント履歴ページの RSS フィードにサブスクライブしてください。

変更	説明	日付
Billing および AWSBillingReadOnlyAccess – 既存ポリシーの更新	次の請求許可を Billing に追加しました。 invoicing:CreateProcurementPortalPreference	2025 年 11 月 19 日

変更	説明	日付
	• <code>invoicing:GetProcurementPortalPreference</code> • <code>invoicing:PutProcurementPortalPreference</code> • <code>invoicing:UpdateProcurementPortalPreferenceStatus</code> • <code>invoicing:ListProcurementPortalPreferences</code> • <code>invoicing>DeleteProcurementPortalPreference</code> 次の請求許可を <code>AWSBillingReadOnlyAccess</code> に追加しました。 • <code>invoicing:GetProcurementPortalPreference</code> • <code>invoicing:ListProcurementPortalPreferences</code>	

変更	説明	日付
Billing および AWSBillingReadOnlyAccess – 既存ポリシーの更新	次の請求許可を Billing に追加しました。 • <code>invoicing:StartInvoiceCorrection</code> • <code>invoicing:GetInvoiceCorrection</code> • <code>invoicing:ListInvoiceCorrections</code> 次の請求許可を AWSBillingReadOnlyAccess に追加しました。 • <code>invoicing:GetInvoiceCorrection</code> • <code>invoicing:ListInvoiceCorrections</code>	2025 年 10 月 1 日
AWSBillingReadOnlyAccess – 既存ポリシーの更新	次のアクセス許可を AWSBillingReadOnlyAccess に追加しました。 • <code>ce:GetCostAndUsageComparisons</code> • <code>ce:GetCostComparisonDrivers</code>	2025 年 8 月 21 日

変更	説明	日付
AWSBillingReadOnlyAccess – 既存ポリシーの更新	に次の AWS 無料利用枠 アクセス許可を追加しましたAWSBillingReadOnlyAccess。 - freetier:GetAccountPlanState - freetier:GetAccountActivity - freetier:ListAccountActivities	2025 年 7 月 9 日
Billing および AWSBillingReadOnlyAccess – 既存ポリシーの更新	次のMAP 2.0 許可を Billing と AWSBillingReadOnlyAccess に追加しました。 - mapcredits:ListAssociatedPrograms - mapcredits:ListQuarterCredits - mapcredits:ListQuarterSpend - mapcredits:GetUniqueQuarterSpendSum	2025 年 3 月 27 日

変更	説明	日付
Billing - 既存ポリシーの更新	次の請求許可を Billing に追加しました。 • billing:CreateBillingView • billing>DeleteBillingView • billing:GetBillingView • billing:GetResourcePolicy • billing:ListSourceViewsForBillingView • billing:ListTagsForResource • billing:TagResource • billing:UntagResource • billing:UpdateBillingView	2025 年 1 月 17 日

変更	説明	日付
AWSPurchaseOrdersServiceRolePolicy 、 Billing 、 AWSBillingReadOnlyAccess – 既存のポリシーの更新	次の請求許可を <code>AWSPurchaseOrdersServiceRolePolicy</code> に追加しました。 <code>invoicing:ListInvoiceUnits</code> 次の請求許可を <code>AWSBillingReadOnlyAccess</code> に追加しました。 <code>invoicing:BatchGetInvoiceProfile</code> <code>invoicing:GetInvoiceUnit</code> <code>invoicing:ListInvoiceUnits</code> <code>invoicing:ListTagsForResource</code> 次の請求許可を <code>Billing</code> に追加しました。 <code>invoicing:BatchGetInvoiceProfile</code> <code>invoicing>CreateInvoiceUnit</code> <code>invoicing>DeleteInvoiceUnit</code> <code>invoicing:GetInvoiceUnit</code> <code>invoicing:ListInvoiceUnits</code>	2024 年 12 月 1 日

変更	説明	日付
	• <code>invoicing:ListTagsForResource</code> • <code>invoicing:TagResource</code> • <code>invoicing:UntagResource</code> • <code>invoicing:UpdateInvoiceUnit</code>	

変更	説明	日付
Billing および AWSBillingReadOnlyAccess – 既存ポリシーの更新	次の支払い許可を Billing に追加しました。 • payments:GetFinancingOption • payments>CreateFinancingApplication • payments:UpdateFinancingApplication • payments:GetFinancingApplication • payments:ListFinancingApplications • payments:ListFinancingLines • payments:GetFinancingLine • payments:ListFinancingLines • payments:GetFinancingLineWithdrawal • payments:ListFinancingLineWithdrawals • payments:ListPaymentProgramStatus • payments:ListPaymentProgramOptions 次の支払い許可を AWSBillingReadOnlyAccess に追加しました。	2024 年 11 月 12 日

変更	説明	日付
	• payments:GetFinancingOption • payments:GetFinancingApplication • payments:ListFinancingApplications • payments:GetFinancingLine • payments:ListFinancingLines • payments:GetFinancingLineWithdrawal • payments:ListFinancingLineWithdrawals • payments:ListPaymentProgramStatus • payments:ListPaymentProgramOptions	
AWSPriceListServiceFullAccess – ポリシーの更新	AWS Price List Service の AWSPriceListServiceFullAccess ポリシーに関するドキュメントを追加しました。このポリシーは、2017 年に初めて導入されました。既存のポリシーに対して Sid: "AWSPriceListServiceFullAccess" を更新しました。	2024 年 7 月 2 日

変更	説明	日付
Billing および AWSBillingReadOnlyAccess – 既存ポリシーの更新	次のコスト配分タグ関連の権限を Billing に追加しました。 - payments:ListTagsForResource - payments:TagResource - payments:UntagResource - payments:ListPaymentInstruments - payments:UpdatePaymentInstrument 次のタグ関連の権限を AWSBillingReadOnlyAccess に追加しました。 - payments:ListTagsForResource - payments:ListPaymentInstruments	2024 年 5 月 31 日

変更	説明	日付
Billing および AWSBillingReadOnlyAccess – 既存ポリシーの更新	次のコスト配分タグ関連の権限を Billing に追加しました。 • ce:ListCostAllocationTagBackfillHistory • ce:StartCostAllocationTagBackfill • ce:GetTags • ce:GetDimensionValues 次のコスト配分タグ関連の権限 AWSBillingReadOnlyAccess に追加しました。 • ce:ListCostAllocationTagBackfillHistory • ce:GetTags • ce:GetDimensionValues	2024 年 3 月 25 日

変更	説明	日付
Billing および AWSBillingReadOnlyAccess – 既存ポリシーの更新	次のコスト配分タグ関連の権限を Billing に追加しました。 • <code>ce:ListCostAllocationTags</code> • <code>ce:UpdateCostAllocationTagsStatus</code> 次のコスト配分タグ関連の権限 <code>AWSBillingReadOnlyAccess</code> に追加しました。 • <code>ce:ListCostAllocationTags</code>	2023 年 7 月 26 日
AWSPurchaseOrdersServiceRolePolicy 、 Billing 、 AWSBillingReadOnlyAccess – 既存のポリシーの更新	次の発注書タグ関連の権限を Billing および <code>AWSPurchaseOrdersServiceRolePolicy</code> に追加しました。 • <code>purchase-orders:ListTagsForResource</code> • <code>purchase-orders:TagResource</code> • <code>purchase-orders:UntagResource</code> 次のタグ関連の権限を <code>AWSBillingReadOnlyAccess</code> に追加しました。 • <code>purchase-orders:ListTagsForResource</code>	2023 年 7 月 17 日

変更	説明	日付
AWSPurchaseOrdersServiceRolePolicy 、 Billing 、 AWSBillingReadOnlyAccess – 既存のポリシーの更新 AWSAccountActivityAccess – AWS Billing 用に文書化された新しい AWS 管理ポリシー	更新済みのアクションセットをすべてのポリシーに追加	2023 年 3 月 6 日
AWSPurchaseOrdersServiceRolePolicy - 既存のポリシーの更新	AWS 請求で不要なアクセス許可が削除されました。	2021 年 11 月 18 日
AWS 請求が変更の追跡を開始しました	AWS 請求は、AWS 管理ポリシーの変更の追跡を開始しました。	2021 年 11 月 18 日

AWS 請求 ID とアクセスのトラブルシューティング

次の情報は、Billing と IAM の使用に伴って発生する可能性がある一般的な問題の診断や修復に役立ちます。

トピック

- [Billing でアクションを実行する権限がない](#)
- [iam:PassRole を実行する権限がない](#)
- [アクセスキーを表示したい](#)
- [管理者として Billing へのアクセスを他のユーザーに許可する](#)
- [自分の 以外のユーザーに請求リソース AWS アカウント へのアクセスを許可したい](#)

Billing でアクションを実行する権限がない

にアクションを実行する権限がないと AWS マネジメントコンソール 通知された場合は、管理者に連絡してサポートを依頼する必要があります。サインイン資格情報を提供した担当者が管理者です。

以下のエラー例は、mateojackson ユーザーがコンソールを使用して架空の *my-example-widget* リソースに関する詳細情報を表示しようとしているが、架空の billing:*GetWidget* 許可がないという場合に発生します。

```
User: arn:aws:iam::123456789012:user/mateojackson is not authorized to perform:
billing:GetWidget on resource: my-example-widget
```

この場合、Mateo は、billing:*GetWidget* アクションを使用して *my-example-widget* リソースにアクセスできるように、管理者にポリシーの更新を依頼します。

iam:PassRole を実行する権限がない

iam:PassRole アクションを実行する権限がないというエラーが表示された場合は、ポリシーを更新して Billing にロールを渡すことができるようにする必要があります。

一部の AWS のサービスでは、新しいサービスロールまたはサービスにリンクされたロールを作成する代わりに、そのサービスに既存のロールを渡すことができます。そのためには、サービスにロールを渡すアクセス許可が必要です。

以下の例のエラーは、marymajor という IAM ユーザーがコンソールを使用して Billing でアクションを実行しようする場合に発生します。ただし、このアクションをサービスが実行するには、サービスロールから付与されたアクセス許可が必要です。Mary には、ロールをサービスに渡すアクセス許可がありません。

```
User: arn:aws:iam::123456789012:user/marymajor is not authorized to perform:
iam:PassRole
```

この場合、Mary のポリシーを更新してメアリーに iam:PassRole アクションの実行を許可する必要があります。

サポートが必要な場合は、AWS 管理者にお問い合わせください。サインイン資格情報を提供した担当者が管理者です。

アクセスキーを表示したい

IAM ユーザーアクセスキーを作成した後は、いつでもアクセスキー ID を表示できます。ただし、シークレットアクセスキーを再表示することはできません。シークレットアクセスキーを紛失した場合は、新しいアクセスキーペアを作成する必要があります。

アクセスキーは、アクセスキー ID (例: AKIAIOSFODNN7EXAMPLE) とシークレットアクセスキー (例: wJalrXUtnFEMI/K7MDENG/bPxRfiCYEXAMPLEKEY) の 2 つで構成されています。ユーザー名とパ

スワードと同様に、リクエストを認証するために、アクセスキー ID とシークレットアクセスキーの両方を使用する必要があります。ユーザー名とパスワードと同様に、アクセスキーは安全に管理してください。

 Important

[正規のユーザー ID を確認する](#)ためであっても、アクセスキーを第三者に提供しないでください。これにより、への永続的なアクセス権をユーザーに付与できます AWS アカウント。

アクセスキーペアを作成する場合、アクセスキー ID とシークレットアクセスキーを安全な場所に保存するように求めるプロンプトが表示されます。このシークレットアクセスキーは、作成時にのみ使用できます。シークレットアクセスキーを紛失した場合、IAM ユーザーに新規アクセスキーを追加する必要があります。アクセスキーは最大 2 つまで持つことができます。既に 2 つある場合は、新規キーペアを作成する前に、いずれかを削除する必要があります。手順を表示するには、IAM ユーザーガイドの「[アクセスキーの管理](#)」を参照してください。

管理者として Billing へのアクセスを他のユーザーに許可する

Billing へのアクセスを他のユーザーに許可するには、アクセスが必要なユーザーまたはアプリケーションにアクセス許可を付与する必要があります。AWS IAM アイデンティティセンターを使用してユーザーとアプリケーションの管理を行う場合は、アクセスレベルを定義するアクセス許可セットをユーザーまたはグループに割り当てます。アクセス許可セットは、ユーザーまたはアプリケーションに関連付けられている IAM ロールに自動的に IAM ポリシーを作成して割り当てます。詳細については、「AWS IAM アイデンティティセンター ユーザーガイド」の「[アクセス許可セット](#)」を参照してください。

IAM Identity Center を使用していない場合は、アクセスを必要としているユーザーまたはアプリケーションの IAM エンティティ (ユーザーまたはロール) を作成する必要があります。次に、そのエンティティに Billing での適切なアクセス許可を付与するポリシーをアタッチする必要があります。アクセス許可が付与されたら、ユーザーまたはアプリケーション開発者に認証情報を提供します。これらの認証情報を使用して AWS にアクセスします。IAM ユーザー、グループ、ポリシー、アクセス許可の作成の詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「[IAM アイデンティティ](#)」と「[IAM のポリシーとアクセス許可](#)」を参照してください。

自分の 以外のユーザーに請求リソース AWS アカウント へのアクセスを許可したい

他のアカウントのユーザーや組織外の人が、リソースにアクセスするために使用できるロールを作成できます。ロールの引き受けを委託するユーザーを指定できます。リソースベースのポリシーまた

はアクセスコントロールリスト (ACL) をサポートするサービスの場合、それらのポリシーを使用して、リソースへのアクセスを付与できます。

詳細については、以下を参照してください:

- Billing がこれらの機能をサポートするかどうかについては、「[Billing と IAM の AWS 連携方法](#)」を参照してください。
- 所有 AWS アカウント している のリソースへのアクセスを提供する方法については、IAM ユーザーガイドの「[所有 AWS アカウント している別の の IAM ユーザーへのアクセスを提供する](#)」を参照してください。
- リソースへのアクセスをサードパーティーに提供する方法については AWS アカウント、IAM ユーザーガイドの「[サードパーティーが所有する へのアクセスを提供する AWS アカウント](#)」を参照してください。
- ID フェデレーションを介してアクセスを提供する方法については、IAM ユーザーガイドの [外部で認証されたユーザー \(ID フェデレーション\) へのアクセスの許可](#) を参照してください。
- クロスアカウントアクセスにおけるロールとリソースベースのポリシーの使用法の違いについては、IAM ユーザーガイドの [IAM でのクロスアカウントのリソースへのアクセス](#) を参照してください。

のサービスにリンクされたロールの使用 AWS Billing

AWS Billing は AWS Identity and Access Management (IAM) [サービスにリンクされたロール](#)を使用します。サービスにリンクされたロールは、直接リンクされた一意のタイプの IAM ロールです AWS Billing。サービスにリンクされたロールは によって事前定義 AWS Billing されており、サービスがユーザーに代わって他の AWS サービスを呼び出すために必要なすべてのアクセス許可が含まれています。

サービスにリンクされたロールを使用すると、必要なアクセス許可を手動で追加する必要がなくなるため、 の設定 AWS Billing が簡単になります。 は、サービスにリンクされたロールのアクセス許可 AWS Billing を定義し、特に定義されている場合を除き、 のみがそのロールを引き受け AWS Billing することができます。定義される許可は信頼ポリシーと許可ポリシーに含まれており、その許可ポリシーを他の IAM エンティティにアタッチすることはできません。

サービスリンクロールを削除するには、最初に関連リソースを削除する必要があります。これにより、AWS Billing リソースへのアクセス許可が誤って削除されないため、リソースが保護されます。

サービスにリンクされたロールをサポートする他のサービスの詳細については、[AWS 「IAM と連携するサービス」](#)を参照し、「サービスにリンクされたロール」列で「はい」があるサービスを探して

ください。サービスリンクロールに関するドキュメントをサービスで表示するには、リンクで [はい] を選択します。

のサービスにリンクされたロールのアクセス許可 AWS Billing

AWS Billing は Billing という名前のサービスにリンクされたロールを使用します – 請求サービスが、派生した請求ビューの請求ビューデータへのアクセスを検証できるようにします。

Billing サービスリンクロールは、以下のサービスを信頼してロールを引き受けます。

- `billing.amazonaws.com`

AWSBillingServiceRolePolicy という名前のロールアクセス許可ポリシーにより AWS Billing、は指定されたリソースに対して次のアクションを実行できます。

- アクション: `billing:GetBillingViewData`。対象リソース: `arn: ${Partition}:billing::billingview/*`

ユーザー、グループ、またはロールにサービスリンクロールの作成、編集、または削除を許可するには、アクセス許可を設定する必要があります。詳細についてはIAM ユーザーガイドの「[サービスにリンクされた役割のアクセス許可](#)」を参照してください。

のサービスにリンクされたロールの作成 AWS Billing

サービスリンクロールを手動で作成する必要はありません。、または AWS API の別のアカウントの請求ビューを使用して請求ビューを作成 AWS マネジメントコンソール AWS CLIまたは関連付けると、によってサービスにリンクされたロール AWS Billing が作成されます。

Important

このサービスリンクロールはこのロールでサポートされている機能を使用する別のサービスでアクションが完了した場合にアカウントに表示されます。また、AWS Billing サービスにリンクされたロールのサポートを開始した 2017 年 1 月 1 日より前にサービスを使用していた場合、はアカウントに請求ロール AWS Billing を作成しました。詳細については、「[新しいロールが AWS アカウント](#)」を参照してください。

のサービスにリンクされたロールの編集 AWS Billing

AWS Billing では、請求サービスにリンクされたロールを編集することはできません。サービスリンクロールの作成後は、さまざまなエンティティがロールを参照する可能性があるため、ロール名を変更することはできません。ただし、IAM を使用してロールの説明を編集することはできます。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「[サービスリンクロールの編集](#)」を参照してください。

のサービスにリンクされたロールの削除 AWS Billing

サービスリンクロールを必要とする機能やサービスが不要になった場合は、ロールを削除することをお勧めします。そうすることで、モニタリングや保守が積極的に行われていない未使用のエンティティを排除できます。ただし、手動で削除する前に、サービスリンク役割をクリーンアップする必要があります。

サービスリンク役割の手動による削除

IAM コンソール、AWS CLI、または AWS API を使用して、請求サービスにリンクされたロールを削除します。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「[サービスにリンクされたロールの削除](#)」を参照してください。

AWS Billing サービスにリンクされたロールでサポートされているリージョン

AWS Billing は、サービスが利用可能なすべてのリージョンでサービスにリンクされたロールの使用をサポートします。詳細については、「[AWS リージョンとエンドポイント](#)」を参照してください。

でのログ記録とモニタリング AWS Billing and Cost Management

モニタリングは、AWS アカountの信頼性、可用性、パフォーマンスを維持する上で重要な部分です。請求情報とコスト管理の使用状況をモニタリングするためのツールがいくつかあります。

AWS コストと使用状況レポート

AWS コストと使用状況レポートは AWS 、使用状況を追跡し、アカウントに関連する推定請求額を提供します。各レポートには、AWS アカountで使用する AWS 製品、使用タイプ、オペレーションの一意の組み合わせごとに明細項目が含まれます。AWS コストと使用状況レポートをカスタマイズして、時間単位または日単位で情報を集計できます。

AWS コストと使用状況レポートの詳細については、[「コストと使用状況レポートガイド」](#)を参照してください。

AWS CloudTrail

Billing and Cost Management は AWS CloudTrail、Billing and Cost Management のユーザー、ロール、または のサービスによって実行されたアクションを記録する AWS サービスであると統合されています。CloudTrail は、請求情報とコスト管理コンソールからの呼び出し、および請求情報とコスト管理 API へのコード呼び出しを含む、請求情報とコスト管理のすべての書き込みおよび変更の API 呼び出しをイベントとしてキャプチャします。

詳細については AWS CloudTrail、[「を使用した Billing and Cost Management API コールのログ記録 AWS CloudTrail」](#)を参照してください。

を使用した Billing and Cost Management API コールのログ記録 AWS CloudTrail

Billing and Cost Management は AWS CloudTrail、Billing and Cost Management のユーザー、ロール、または のサービスによって実行されたアクションを記録する AWS サービスであると統合されています。CloudTrail は、請求情報とコスト管理の API コールをイベントとしてキャプチャします。これには、請求情報とコスト管理コンソールからの呼び出しと請求情報とコスト管理 API からの呼び出しも含まれます。請求に関連する CloudTrail イベントの完全なリストについては、[「AWS Billing CloudTrail イベント」](#)を参照してください。

証跡を作成する場合は、請求情報とコスト管理のイベントなど、Amazon S3 バケットへの CloudTrail イベントの継続的な配信を有効にすることができます 証跡を設定しない場合でも、CloudTrail コンソールの [イベント履歴] で最新のイベントを表示できます。CloudTrail で収集された情報を使用して、請求情報とコスト管理に対するリクエスト、リクエスト元の IP アドレス、リクエスト者、リクエスト日時などの詳細を確認できます。

設定や有効化の方法など、CloudTrail の詳細については、[「AWS CloudTrail ユーザーガイド」](#)を参照してください。

AWS Billing CloudTrail イベント

このセクションでは、請求情報とコスト管理に関連する CloudTrail イベントの完全なリストを示しています。

イベント名	定義	イベントソース
AddPurchaseOrder	発注書の作成をログに記録します。	purchase-orders.amazonaws.com
AcceptFxPaymentCurrencyTermsAndConditions	USD 以外の通貨での支払いに関する利用規約の承諾をログに記録します。	billingconsole.amazonaws.com
CloseAccount	アカウントの閉鎖をログに記録します。	billingconsole.amazonaws.com
CreateCustomerVerificationDetails	(請求先住所または連絡先住所がインドのお客様のみ) アカウントの顧客確認詳細の作成を記録します。	customer-verification.amazonaws.com
CreateOrigamiReportPreference	コストと使用状況レポートの作成をログに記録します (管理アカウントのみ)。	billingconsole.amazonaws.com
DeletePurchaseOrder	発注書の削除をログに記録します。	purchase-orders.amazonaws.com
DeleteOrigamiReportPreferences	コストと使用状況レポートの削除をログに記録します (管理アカウントのみ)。	billingconsole.amazonaws.com
DownloadCommercialInvoice	商業インボイスのダウンロードをログに記録します。	billingconsole.amazonaws.com

イベント名	定義	イベントソース
DownloadECSVForBillingPeriod	特定の請求期間の eCSV ファイル (月次使用状況レポート) のダウンロードのログを作成します。	billingconsole.amazonaws.com
DownloadRegistrationDocument	税金登録文書のダウンロードをログに記録します。	billingconsole.amazonaws.com
EnableBillingAlerts	予想請求額の CloudWatch 請求アラートの受信のオプションをログに記録します。	billingconsole.amazonaws.com
FindECSVForBillingPeriod	特定の請求期間における eCSV ファイルの取得をログに記録します。	billingconsole.amazonaws.com
GetAccountEDPStatus	アカウントの EDP ステータスの取得をログに記録します。	billingconsole.amazonaws.com
GetAddresses	アカウントの納税先住所、請求先住所、連絡先住所へのアクセスを記録します。	billingconsole.amazonaws.com
GetAllAccounts	管理アカウントのすべてのメンバーアカウント番号へのアクセスを記録します。	billingconsole.amazonaws.com
GetBillsForBillingPeriod	特定の請求期間におけるアカウントの使用状況および料金のアクセスをログに記録します。	billingconsole.amazonaws.com
GetBillsForLinkedAccount	特定の請求期間における一括請求 (コンソリデेटッドビルリング) ファミリー内のメンバーアカウントの 1 つの使用状況および料金を取得する管理アカウントのアクセスをログに記録します。	billingconsole.amazonaws.com

イベント名	定義	イベントソース
GetCommercialInvoicesForBillingPeriod	特定の請求期間におけるアカウントのコマーシャルインボイスのメタデータへのアクセスをログに記録します。	billingconsole.amazonaws.com
GetConsolidatedBillingFamilySummary	一括請求 (コンソリデेटィッドビリング) ファミリー全体の概要を取得する管理アカウントのアクセスをログに記録します。	billingconsole.amazonaws.com
GetCustomerVerificationEligibility	(請求先住所または連絡先住所がインドのお客様のみ) アカウントの顧客検証資格取得をログに記録します。	customer-verification.amazonaws.com
GetCustomerVerificationDetails	(請求先住所または連絡先住所がインドのお客様のみ) アカウントの顧客確認詳細の取得を記録します。	customer-verification.amazonaws.com
GetLinkedAccountNames	特定の請求期間における一括請求ファミリーに属するメンバーアカウント名の管理アカウントからの取得をログに記録します。	billingconsole.amazonaws.com
GetPurchaseOrder	発注書の取得をログに記録します。	purchase-orders.amazonaws.com
GetSupportedCountryCodes	税金コンソールでサポートされているすべての国コードへのアクセスを記録します。	billingconsole.amazonaws.com
GetTotal	アカウントの合計請求額の取得をログに記録します。	billingconsole.amazonaws.com

イベント名	定義	イベントソース
GetTotalAmountForForecast	特定の請求期間における予測料金へのアクセスをログに記録します。	billingconsole.amazonaws.com
ListCostAllocationTags	コスト配分タグの取得とリストを記録します。	ce.amazonaws.com
ListCostAllocationTagBackfillHistory	コスト配分タグのバックフィルリクエスト履歴の取得と一覧表示をログに記録します。	ce.amazonaws.com
ListPurchaseOrders	発注書の取得と一覧をログに記録します。	purchase-orders.amazonaws.com
ListPurchaseOrderInvoices	発注書に関連する請求書の取得と一覧のログ。	purchase-orders.amazonaws.com
ListTagsForResource	リソースに関連付けられたタグを一覧表示します。payments の場合、このアクションは支払い方法を参照します。purchase-orders の場合、このアクションは発注書を参照します。	purchase-orders.amazonaws.com
RedeemPromoCode	アカウントのプロモーションクレジットの利用をログに記録します。	billingconsole.amazonaws.com
SetAccountContractMetadata	公共部門のお客様に必要な契約情報の作成、削除、または更新をログに記録します。	billingconsole.amazonaws.com

イベント名	定義	イベントソース
SetAccountPreferences	アカウント名、E メール、パスワードの更新をログに記録します。	billingconsole.amazonaws.com
SetAdditionalContacts	請求、オペレーション、セキュリティ通信用の代替連絡先の作成、削除、または更新をログに記録します。	billingconsole.amazonaws.com
SetContactAddress	住所や電話番号を含む、アカウント所有者の連絡先情報の作成、削除、または更新をログに記録します。	billingconsole.amazonaws.com
SetCreatedByOptIn	awscreatedby コスト配分タグ設定のオプトインをログに記録します。	billingconsole.amazonaws.com
SetCreditSharing	管理アカウントのクレジット共有設定の履歴をログに記録します。	billingconsole.amazonaws.com
SetFreeTierBudgetsPreference	無料利用枠のアラートの受信の設定 (オプトインまたはオプトアウト) をログに記録します。	billingconsole.amazonaws.com
SetFxPaymentCurrency	請求書の支払いに使用される優先通貨の作成、削除、または更新をログに記録します。	billingconsole.amazonaws.com
SetIAMAccessPreference	IAM ユーザーによる請求コンソールへのアクセスの許可の作成、削除、または更新をログに記録します。この設定は、root アクセスが許可されたお客様のみを対象としています。	billingconsole.amazonaws.com
SetPANInformation	India での PAN 情報の作成、削除、または更新をログに記録します AWS。	billingconsole.amazonaws.com

イベント名	定義	イベントソース
SetPayInf ormation	アカウントの支払い方法の履歴 (請求書またはクレジット/デビットカード) をログに記録します。	billingco nsole.ama zonaws.com
SetRISharing	管理アカウントの RI/Savings Plans 共有設定の履歴をログに記録します。	billingco nsole.ama zonaws.com
SetSecuri tyQuestions	セキュリティチャレンジの質問の作成、削除、または更新をログに記録し、アカウントの所有者として AWS 識別できるようにします。	billingco nsole.ama zonaws.com
StartCost Allocatio nTagBackf ill	すべてのコスト配分タグのアクティベーションステータスのバックフィルリクエストの作成をログに記録します。	ce.amazon aws.com
TagResource	リソースのタグ付けをログに記録します。payments の場合、このアクションは支払い方法を参照します。purchase-orders の場合、このアクションは発注書を参照します。	purchase- orders.am azonaws.com
UntagReso urce	リソースからのタグの削除をログに記録します。payments の場合、このアクションは支払い方法を参照します。purchase-orders の場合、このアクションは発注書を参照します。	purchase- orders.am azonaws.com
UpdateCos tAllocati onTagsSta tus	特定のコスト配分タグのアクティブまたは非アクティブ状態をログに記録します。	ce.amazon aws.com
UpdateCus tomerVeri ficationD etails	(請求先住所または連絡先住所がインドのお客様のみ) アカウントの顧客確認詳細の更新を記録します。	customer- verificat ion.amazo naws.com

イベント名	定義	イベントソース
UpdateOrigamiReportPreference	コストと使用状況レポートの更新をログに記録します (管理アカウントのみ)。	billingconsole.amazonaws.com
UpdatePurchaseOrder	発注書の更新をログに記録します。	purchase-orders.amazonaws.com
UpdatePurchaseOrderStatus	発注書の状態の更新をログに記録します。	purchase-orders.amazonaws.com
ValidateAddress	アカウントの納税住所の検証を記録します。	billingconsole.amazonaws.com

Payments CloudTrail イベント

このセクションでは、AWS Billing コンソールの Payments 機能の CloudTrail イベントの完全なリストを示します。これらの CloudTrail イベントは、`billingconsole.amazonaws.com` の代わりに `payments.amazonaws.com` を使用します。

イベント名	定義
Financing_AcceptFinancingApplicationTerms	融資申請の条件の承諾をログに記録します。
Financing_CreateFinancingApplication	融資申請の作成をログに記録します。

イベント名	定義
Financing _GetFinan cingApplication	融資申請のアクセスをログに記録します。
Financing _GetFinan cingAppli cationDocument	融資申請に関連付けられたドキュメントのアクセスをログに記録します。
Financing _GetFinan cingLine	融資枠のアクセスをログに記録します。
Financing _GetFinan cingLineW ithdrawal	融資枠からの引出しのアクセスをログに記録します。
Financing _GetFinan cingLineW ithdrawal Document	融資枠からの引出しに関連付けられたドキュメントのアクセスをログに記録します。
Financing _GetFinan cingLineW ithdrawal Statements	融資枠からの引出しに関連付けられた明細書のアクセスをログに記録します。
Financing _GetFinan cingOption	融資オプションのアクセスをログに記録します。

イベント名	定義
Financing_ListFinancingApplications	融資申請メタデータのリストをログに記録します。
Financing_ListFinancingLines	融資枠メタデータのリストをログに記録します。
Financing_ListFinancingLineWithdrawals	融資枠からの引出しメタデータのリストをログに記録します。
Financing_UpdateFinancingApplication	融資申請の更新をログに記録します。
Instruments_Authenticate	支払い手段の認証をログに記録します。
Instruments_Create	支払い手段の作成をログに記録します。
Instruments_Delete	支払い手段の削除をログに記録します。
Instruments_Get	支払い手段へのアクセスをログに記録します。
Instruments_List	支払い手段メタデータのリストをログに記録します。
Instruments_StartCreate	支払い手段の作成前にオペレーションをログに記録します。
Instruments_Update	支払い手段の更新をログに記録します。

イベント名	定義
ListTagsForResource	支払いリソースに関連付けられたタグのリストをログに記録します。
Policy_GetPaymentInstrumentEligibility	支払い手段の資格へのアクセスをログに記録します。
Preferences_BatchGetPaymentProfiles	支払いプロファイルへのアクセスをログに記録します。
Preferences_CreatePaymentProfile	支払いプロファイルの作成をログに記録します。
Preferences_DeletePaymentProfile	支払いプロファイルの削除をログに記録します。
Preferences_ListPaymentProfiles	支払いプロファイルメタデータのリストをログに記録します。
Preferences_UpdatePaymentProfile	支払いプロファイルの更新をログに記録します。
Programs_ListPaymentProgramOptions	支払いプログラムオプションのリストをログに記録します。
Programs_ListPaymentProgramStatus	支払いプログラムの適格性と登録ステータスのリストをログに記録します。

イベント名	定義
TagResource	支払いリソースのタグ付けをログに記録します。
TermsAndConditions_AcceptTermsAndConditionsForProgramByAccountId	承認された支払い条件をログに記録します。
TermsAndConditions_GetAcceptedTermsAndConditionsForProgramByAccountId	承認された利用規約へのアクセスをログに記録します。
TermsAndConditions_GetRecommendedTermsAndConditionsForProgram	推奨される利用規約へのアクセスをログに記録します。
UntagResource	支払いリソースからのタグの削除をログに記録します。

税金設定 CloudTrail イベント

このセクションでは、AWS Billing コンソールの税設定機能の CloudTrail イベントの完全なリストを示します。これらの CloudTrail イベントは、`billingconsole.amazonaws.com` の代わりに `taxconsole.amazonaws.com` または `tax.amazonaws.com` を使用します。

税金設定コンソールの CloudTrail イベント

イベント名	定義	イベントソース
BatchGetTaxExemptions	アカウントおよびリンクされたアカウントの米国免税へのアクセスをログに記録します。	taxconsole.amazonaws.com
CreateCustomerCase	カスタマーサポートケースの作成を記録して、アカウントの米国の免税を検証します。	taxconsole.amazonaws.com
DownloadTaxInvoice	タックスインボイスのダウンロードをログに記録します。	taxconsole.amazonaws.com
GetTaxExemptionTypes	税金コンソールで、サポートされているすべての米国免税タイプへのアクセスを記録します。	taxconsole.amazonaws.com
GetTaxInheritance	アカウントの税相続プリファレンス (有効化または無効化) へのアクセスを記録します。	taxconsole.amazonaws.com
GetTaxInvoicesMetadata	税金請求書のメタデータの取得をログに記録します。	taxconsole.amazonaws.com
GetTaxRegistration	アカウントの税務登録番号へのアクセスを記録します。	taxconsole.amazonaws.com
PreviewTaxRegistrationChange	確定前に税務登録の変更のプレビューを記録します。	taxconsole.amazonaws.com
SetTaxInheritance	相続税の設定 (オプトインまたはオプトアウト) を記録します。	taxconsole.amazonaws.com

税金設定 API の CloudTrail イベント

イベント名	定義	イベントソース
BatchDeleteTaxRegistration	複数アカウントの納税登録の一括削除をログに記録します。	tax.amazonaws.com
BatchGetTaxExemptions	1 つ、または複数のアカウントの免税へのアクセスをログに記録します。	tax.amazonaws.com
BatchPutTaxRegistration	複数アカウントの納税登録の設定をログに記録します。	tax.amazonaws.com
DeleteTaxRegistration	アカウントの税登録番号の削除をログに記録します。	tax.amazonaws.com
GetTaxExemptionTypes	税金コンソールでサポートされているすべての免税タイプへのアクセスをログに記録します。	tax.amazonaws.com
GetTaxInheritance	アカウントの税相続プリファレンス (有効化または無効化) へのアクセスを記録します。	tax.amazonaws.com
GetTaxRegistration	アカウントの税務登録へのアクセスをログに記録します。	tax.amazonaws.com
GetTaxRegistrationDocument	アカウントの税務登録ドキュメントの取得をログに記録します。	tax.amazonaws.com
ListTaxExemptions	AWS 組織アカウントの免税へのアクセスを記録します。	tax.amazonaws.com
ListTaxRegistrations	管理アカウントのすべてのメンバーアカウントの税金登録詳細を記録します。	tax.amazonaws.com

イベント名	定義	イベントソース
PutTaxExemption	1 つ、または複数アカウントの免税の設定をログに記録します。	tax.amazonaws.com
PutTaxInheritance	税金継承の設定 (オプトインまたはオプトアウト) をログに記録します。	tax.amazonaws.com
PutTaxRegistration	アカウントの納税登録の設定をログに記録します。	tax.amazonaws.com

請求 CloudTrail イベント

このセクションでは、AWS Billing コンソールの請求機能の CloudTrail イベントの完全なリストを示します。これらの CloudTrail イベントは、`invoicing.amazonaws.com` を使用します。

イベント名	定義
CreateInvoiceUnit	請求ユニットの作成をログに記録します。
DeleteInvoiceUnit	請求ユニットの削除をログに記録します。
GetInvoiceProfiles	アカウントの請求書プロフィールのアクセスをログに記録します。
GetInvoiceUnit	請求ユニットのアクセスをログに記録します。
ListInvoiceUnits	請求ユニットの取得と一覧表示をログに記録します。
UpdateInvoiceUnit	請求ユニットの更新をログに記録します。

CloudTrail の請求情報とコスト管理の情報

CloudTrail は、AWS アカウントの作成時にアカウントで有効になります。請求情報とコスト管理でサポートされているイベントアクティビティが発生すると、そのアクティビティは [Event history] (イベント履歴) で AWS のその他サービスのイベントと共に CloudTrail イベントに記録されます。AWS アカウントで最近のイベントを表示、検索、ダウンロードできます。詳細については、「AWS

CloudTrail ユーザーガイド」の「[CloudTrail イベント履歴でのイベントの表示](#)」を参照してください。

請求情報とコスト管理のイベントなど、AWS アカウント内のイベントの継続的な記録については、証跡を作成します。証跡により、CloudTrail はログファイルを Amazon S3 バケットに配信できます。デフォルトでは、コンソールで証跡を作成すると、証跡はすべての AWS リージョンに適用されます。証跡は、AWS パーティション内のすべてのリージョンからのイベントをログに記録し、指定した Amazon S3 バケットにログファイルを配信します。さらに、CloudTrail ログで収集されたイベントデータをさらに分析して処理するように他の AWS サービスを設定できます。

詳細については、次を参照してください:

- [証跡の作成のための概要](#)
- [CloudTrail がサポートするサービスと統合](#)
- [CloudTrail 用 Amazon SNS 通知の構成](#)
- [複数のリージョンから CloudTrail ログファイルを受け取る](#) および [複数のアカウントから CloudTrail ログファイルを受け取る](#)

各イベントまたはログエントリには、誰がリクエストを生成したかという情報が含まれます。同一性情報は次の判断に役立ちます。

- リクエストが、ルートと IAM ユーザー認証情報のどちらを使用して送信されたか。
- リクエストがロールまたはフェデレーションユーザーの一時的なセキュリティ認証情報を使用して行われたかどうか。
- リクエストが別の AWS サービスによって行われたかどうか。

詳細については、「AWS CloudTrail ユーザーガイド」の「[CloudTrail userIdentity Element](#)」を参照してください。

CloudTrail ログエントリの例

次の例は、特定の Billing and Cost Management CloudTrail ログエントリシナリオで提供されています。

トピック

- [請求およびコスト管理ログファイルエントリ](#)
- [税金コンソール](#)

- [支払い](#)

請求およびコスト管理ログファイルエントリ

「トレイル」は、指定した Simple Storage Service (Amazon S3) バケットにイベントをログファイルとして配信するように設定できます。CloudTrail のログファイルは、単一か複数のログエントリを含みます。イベントは、任意の出典からの単一のリクエストを表し、リクエストされたアクション、アクションの日時、リクエストパラメータなどに関する情報が含まれます。CloudTrail ログファイルは、公開 API コールの順序付けられたスタックトレースではないため、特定の順序では表示されません。

以下の例は、SetContactAddress アクションを示す CloudTrail ログエントリです。

```
{
  "eventVersion": "1.05",
  "userIdentity": {
    "accountId": "111122223333",
    "accessKeyId": "AIDACKCEVSQ6C2EXAMPLE"
  },
  "eventTime": "2018-05-30T16:44:04Z",
  "eventSource": "billingconsole.amazonaws.com",
  "eventName": "SetContactAddress",
  "awsRegion": "us-east-1",
  "sourceIPAddress": "100.100.10.10",
  "requestParameters": {
    "website": "https://amazon.com",
    "city": "Seattle",
    "postalCode": "98108",
    "fullName": "Jane Doe",
    "districtOrCounty": null,
    "phoneNumber": "206-555-0100",
    "countryCode": "US",
    "addressLine1": "Nowhere Estates",
    "addressLine2": "100 Main Street",
    "company": "AnyCompany",
    "state": "Washington",
    "addressLine3": "Anytown, USA",
    "secondaryPhone": "206-555-0101"
  },
  "responseElements": null,
  "eventID": "5923c499-063e-44ac-80fb-b40example9f",
  "readOnly": false,
```

```
"eventType": "AwsConsoleAction",
"recipientAccountId": "1111-2222-3333"
}
```

税金コンソール

次の例は、CreateCustomerCase アクションを使用する CloudTrail ログエントリです。

```
{
  "eventVersion": "1.05",
  "userIdentity": {
    "accountId": "111122223333",
    "accessKeyId": "AIDACKCEVSQ6C2EXAMPLE"
  },
  "eventTime": "2018-05-30T16:44:04Z",
  "eventSource": "taxconsole.amazonaws.com",
  "eventName": "CreateCustomerCase",
  "awsRegion": "us-east-1",
  "sourceIPAddress": "100.100.10.10",
  "requestParameters": {
    "state": "NJ",
    "exemptionType": "501C",
    "exemptionCertificateList": [
      {
        "documentName": "ExemptionCertificate.png"
      }
    ]
  },
  "responseElements": {
    "caseId": "case-111122223333-iris-2022-3cd52e8dbf262242"
  },
  "eventID": "5923c499-063e-44ac-80fb-b40example9f",
  "readOnly": false,
  "eventType": "AwsConsoleAction",
  "recipientAccountId": "1111-2222-3333"
}
```

支払い

次の例は、Instruments_Create アクションを使用する CloudTrail ログエントリです。

```
{
  "eventVersion": "1.08",
```



```
"userIdentity": {
  "type": "Root",
  "principalId": "111122223333",
  "arn": "arn:aws:iam::111122223333:<iam>",
  "accountId": "111122223333",
  "accessKeyId": "AIDACKCEVSQ6C2EXAMPLE",
  "sessionContext": {
    "sessionIssuer": {},
    "webIdFederationData": {},
    "attributes": {
      "creationDate": "2024-05-01T00:00:00Z",
      "mfaAuthenticated": "false"
    }
  }
},
"eventTime": "2024-05-01T00:00:00Z",
"eventSource": "payments.amazonaws.com",
"eventName": "Instruments_Create",
"awsRegion": "us-east-1",
"sourceIPAddress": "100.100.10.10",
"userAgent": "AWS",
"requestParameters": {
  "accountId": "111122223333",
  "paymentMethod": "CreditCard",
  "address": "HIDDEN_DUE_TO_SECURITY_REASONS",
  "accountHolderName": "HIDDEN_DUE_TO_SECURITY_REASONS",
  "cardNumber": "HIDDEN_DUE_TO_SECURITY_REASONS",
  "cvv2": "HIDDEN_DUE_TO_SECURITY_REASONS",
  "expirationMonth": "HIDDEN_DUE_TO_SECURITY_REASONS",
  "expirationYear": "HIDDEN_DUE_TO_SECURITY_REASONS",
  "tags": {
    "Department": "Finance"
  }
},
"responseElements": {
  "paymentInstrumentArn": "arn:aws:payments::111122223333:payment-
instrument:4251d66c-1b05-46ea-890c-6b4acf6b24ab",
  "paymentInstrumentId": "111122223333",
  "paymentMethod": "CreditCard",
  "consent": "NotProvided",
  "creationDate": "2024-05-01T00:00:00Z",
  "address": "HIDDEN_DUE_TO_SECURITY_REASONS",
  "accountHolderName": "HIDDEN_DUE_TO_SECURITY_REASONS",
  "expirationMonth": "HIDDEN_DUE_TO_SECURITY_REASONS",
```

```
    "expirationYear": "HIDDEN_DUE_TO_SECURITY_REASONS",
    "issuer": "Visa",
    "tail": "HIDDEN_DUE_TO_SECURITY_REASONS"
  },
  "requestID": "7c7df9c2-c381-4880-a879-2b9037ce0573",
  "eventID": "c251942f-6559-43d2-9dcd-2053d2a77de3",
  "readOnly": true,
  "eventType": "AwsApiCall",
  "managementEvent": true,
  "recipientAccountId": "111122223333",
  "eventCategory": "Management",
  "sessionCredentialFromConsole": "true"
}
```

のコンプライアンス検証 AWS Billing and Cost Management

サードパーティーの監査者は、複数のコンプライアンスプログラムの一環として、AWS サービスのセキュリティと AWS コンプライアンスを評価します。請求情報とコスト管理は、AWS コンプライアンスプログラムの対象ではありません。

特定のコンプライアンスプログラムの対象となる AWS サービスのリストについては、「[コンプライアンスAWS プログラムによる対象範囲内のサービスコンプライアンス](#)」を参照してください。一般的な情報については、[AWS 「 Compliance Programs Assurance」](#)を参照してください。

を使用して、サードパーティーの監査レポートをダウンロードできます AWS Artifact。詳細については、「[Downloading Reports in AWS Artifact](#)」を参照してください。

Billing and Cost Management を使用する際のお客様のコンプライアンス責任は、お客様のデータの機密性、貴社のコンプライアンス目的、適用される法律および規制によって決まります。は、コンプライアンスに役立つ以下のリソース AWS を提供します。

- 「[セキュリティ & コンプライアンス クイックリファレンス ガイド](#)」 – これらのデプロイガイドには、アーキテクチャ上の考慮事項の説明と、AWS でセキュリティとコンプライアンスに重点を置いたベースライン環境をデプロイするための手順が記載されています。
- [AWS コンプライアンス リソース](#) – このワークブックとガイドのコレクションは、お客様の業界や地域に適用される場合があります。
- 「[デベロッパーガイド](#)」の「[ルールによるリソースの評価](#)」 – この AWS Config サービスは、リソース設定が内部プラクティス、業界ガイドライン、および規制にどの程度準拠しているかを評価します。AWS Config

- [AWS Security Hub CSPM](#) – この AWS サービスは、内のセキュリティ状態を包括的に把握 AWS し、セキュリティ業界標準とベストプラクティスへの準拠を確認するのに役立ちます。

の耐障害性 AWS Billing and Cost Management

AWS グローバルインフラストラクチャは、AWS リージョンとアベイラビリティーゾーンを中心に構築されています。AWS リージョンは、低レイテンシー、高スループット、高度に冗長なネットワークで接続された複数の物理的に分離されたアベイラビリティーゾーンを提供します。アベイラビリティーゾーンでは、ゾーン間で中断することなく自動的にフェールオーバーするアプリケーションとデータベースを設計および運用することができます。アベイラビリティーゾーンは、従来の単一または複数のデータセンターインフラストラクチャよりも可用性、フォールトトレランス、および拡張性が優れています。

AWS リージョンとアベイラビリティーゾーンの詳細については、[AWS 「グローバルインフラストラクチャ」](#) を参照してください。

のインフラストラクチャセキュリティ AWS Billing and Cost Management

マネージドサービスである AWS Billing and Cost Management は、AWS グローバルネットワークセキュリティで保護されています。AWS セキュリティサービスと [AWS 「クラウドセキュリティ」](#) を参照してください。インフラストラクチャセキュリティのベストプラクティスを使用して環境を AWS 設計するには、「Security Pillar AWS Well-Architected Framework」の「[Infrastructure Protection](#)」を参照してください。

AWS 公開された API コールを使用して、ネットワーク経由で請求情報とコスト管理にアクセスします。クライアントは次をサポートする必要があります。

- Transport Layer Security (TLS)。TLS 1.2 が必須で、TLS 1.3 をお勧めします。
- DHE (楕円ディフィー・ヘルマン鍵共有) や ECDHE (楕円曲線ディフィー・ヘルマン鍵共有) などの完全前方秘匿性 (PFS) による暗号スイート。これらのモードは Java 7 以降など、ほとんどの最新システムでサポートされています。

インターフェイスエンドポイント (AWS PrivateLink) AWS Billing and Cost Management を使用した へのアクセス

を使用して AWS PrivateLink、VPC と の間にプライベート接続を作成できます AWS Billing and Cost Management。インターネットゲートウェイ、NAT デバイス、VPN 接続、または Direct Connect 接続を使用せずに、VPC 内にあるかのように Billing and Cost Management にアクセスできます。VPC 内のインスタンスには、Billing and Cost Management にアクセスするためのパブリック IP アドレスが必要ありません。

このプライベート接続を確立するには、AWS PrivateLinkを利用したインターフェイスエンドポイントを作成します。インターフェイスエンドポイントに対して有効にする各サブネットにエンドポイントネットワークインターフェイスを作成します。これらは、Billing and Cost Management 宛てのトラフィックのエントリポイントとして機能するリクエスト管理型ネットワークインターフェイスです。

詳細については、「AWS PrivateLink ガイド」の「[Access AWS のサービス through AWS PrivateLink](#)」を参照してください。

サービス名の完全なリストについては、[AWS と統合されている のサービス AWS PrivateLink](#)を参照してください。

Billing and Cost Management に関する考慮事項

Billing and Cost Management のインターフェイスエンドポイントを設定する前に、「AWS PrivateLink Guide」の「[Considerations](#)」を確認してください。

Billing and Cost Management は、インターフェイスエンドポイント経由でのすべての API アクションの呼び出しをサポートしています。

Billing and Cost Management では、VPC エンドポイントポリシーがサポートされていません。デフォルトで、インターフェイスエンドポイント経由での Billing and Cost Management への完全なアクセスが許可されています。または、セキュリティグループをエンドポイントネットワークインターフェイスに関連付けて、インターフェイスエンドポイント経由で Billing and Cost Management へのトラフィックを制御することもできます。

Billing and Cost Management 用のインターフェイスエンドポイントを作成する

Amazon VPC コンソールまたは AWS Command Line Interface () を使用して、請求情報とコスト管理用のインターフェイスエンドポイントを作成できますAWS CLI。詳細については、「AWS PrivateLink ガイド」の「[インターフェイスエンドポイントを作成](#)」を参照してください。

以下のサービス名を使用して、Billing and Cost Management 用のインターフェイスエンドポイントを作成します。

```
com.amazonaws.region.service-name
```

インターフェイスエンドポイントのプライベート DNS を有効にすると、デフォルトのリージョン DNS 名を使用して Billing and Cost Management への API リクエストを実行できます。例えば、`service-name.us-east-1.amazonaws.com`。

インターフェイスエンドポイントのエンドポイントポリシーを作成する

エンドポイントポリシーは、インターフェイスエンドポイントにアタッチできる IAM リソースです。デフォルトのエンドポイントポリシーは、インターフェイスエンドポイント経由での Billing and Cost Management への完全なアクセスを許可します。VPC から Billing and Cost Management への許可済みのアクセスを制御するには、インターフェイスエンドポイントにカスタムエンドポイントポリシーをアタッチします。

エンドポイントポリシーは以下の情報を指定します。

- アクションを実行できるプリンシパル (AWS アカウント、IAM ユーザー、IAM ロール)。
- 実行可能なアクション。
- このアクションを実行できるリソース。

詳細については、AWS PrivateLink ガイドの[Control access to services using endpoint policies \(エンドポイントポリシーを使用してサービスへのアクセスをコントロールする\)](#)を参照してください。

例: AWS Price List API の VPC エンドポイントポリシー

以下は、カスタムエンドポイントポリシーの例です。このポリシーをインターフェイスエンドポイントにアタッチすると、エンドポイントにアクセスできるすべてのユーザーが AWS Price List API にアクセスできます。

```
{
  "Statement": [
    {
      "Action": "pricing:*",
      "Effect": "Allow",
      "Principal": "*",
      "Resource": "*"
    }
  ]
}
```

```
}  
]  
}
```

を通じて Price List API の一括ファイルダウンロードを使用するには AWS PrivateLink、Amazon S3 アクセスも有効にする必要があります AWS PrivateLink。詳細については、「Amazon S3 ユーザーガイド」の「[AWS PrivateLink for Amazon S3](#)」を参照してください。

クォータと制限

次の表を使用して、AWS Billing and Cost Management コンソール内の現在のクォータ、制限、命名に関する制約を確認できます。

注意事項

- AWS コスト管理のクォータと制限の詳細については、AWS 「コスト管理ユーザーガイド」の「[クォータと制限](#)」を参照してください。
- その他の AWS のサービス クォータの詳細については、の[AWS 「サービスクォータ」](#)を参照してくださいAWS 全般のリファレンス。

トピック

- [コストカテゴリ](#)
- [発注書](#)
- [事前支払い](#)
- [コスト配分タグ](#)
- [AWS の料金表](#)
- [一括ポリシーマイグレーター](#)
- [支払い方法](#)
- [AWS 請求書設定](#)

コストカテゴリ

コストカテゴリについては、以下のクォータと制限を参照してください。

説明	クォータと制限
管理アカウントでのコストカテゴリの合計数	50
コストカテゴリ (API) でのコストカテゴリルールの数	500

説明	クォータと制限
コストカテゴリ (UI) でのコストカテゴリルールの数	100
コストカテゴリ名	• 名前は一意である必要があります。 • 大文字と小文字の区別
コストカテゴリ値名	名前は一意である必要はありません
コストカテゴリ名と値名で許可されている文字のタイプと数	• 数字: 0-9 • Unicode 文字 • Space (名前の先頭または末尾には使用不可) • 次の記号: アンダースコア (_) またはエンダッシュ (-)
コストカテゴリでの分割料金ルールの数	10

発注書

発注書については、以下のクォータと制限をご覧ください。

説明	クォータと制限
発注書 ID で許可されている文字のタイプ	• A-Z および a-z • Space • 次の記号: _ . : / = + - % @
発注書 ID で許可されている文字の数	100
発注書で許可されている連絡先の数	20
発注書で許可されているタグの数	50
発注書で許可されている明細項目の数	100

事前支払い

前払いについては、以下のクォータと制限をご覧ください。

説明	クォータと制限
ユーザーエンティティ	AWS Inc. または AWS 欧州
通貨	USD
資金が事前支払いに加算された後の資金の使用状況	• 資金は、対象となる AWS 料金の支払いにのみ使用できます。対象外の料金 (AWS Marketplace 請求書など) は、前払い登録時にデフォルトの支払い方法を使用して請求されます。 • AWS 欧州で追加された前払い資金は、AWS 欧州の請求書の支払いにのみ使用できます。 • 資金は、引き出し、払い戻し、または譲渡することはできません。 • 資金は、他の通貨に変換することはできません。
事前支払いに未使用の資金がある場合	• 登録されている販売者は変更できません。 • 希望する通貨は変更できません。 • デフォルトの支払い方法は変更できません。

コスト配分タグ

Service Quotas でアクティブなコスト配分タグキーの最大数を調整できます。詳細については、「Service Quotas ユーザーガイド」の「[クォータの引き上げのリクエスト](#)」を参照してください。

Note

自動的に有効化されたタグ (awsApplication タグなど) は、コスト配分タグのクォータにはカウントされません。

コスト配分タグについては、以下のクォータと制限を参照してください。

説明	クォータと制限
支払者アカウントあたりのアクティブなコスト配分タグキーの最大数	500
API またはコンソールを使用して、1 つのリクエストに対してアクティブ化または非アクティブ化ができるコスト配分タグの数	20

AWS の料金表

一部の Price List Query API および Price List Bulk API オペレーションは、サービスの可用性を維持するために、トークンバケットスキームを使用してスロットリングされます。これらのクォータは、リージョンごとに AWS アカウント ごとに設定されます。各 API オペレーションのクォータを以下の表に示します。

Price List Query API

API オペレーション:	トークンバケットサイズ	補充レート/秒
DescribeServices	10	5
GetAttributeValues	10	5
GetProducts	10	5

Price List Bulk API

API オペレーション:	トークンバケットサイズ	補充レート/秒
DescribeServices	10	5
GetPriceListFileUrl	10	5
ListPriceLists	10	5

一括ポリシーマイグレーター

一括ポリシーマイグレーターの次のクォータと制限を確認してください。

説明	クォータと制限
移行できる組織内の影響を受けるアカウントの最大数。	200
移行できる組織内の影響を受けるポリシーの最大数。	1,000

支払い方法

支払いについては、以下のクォータと制限をご覧ください。

説明	クォータと制限
支払い方法にタグ付けします。	この機能は、次の支払い方法をサポートしています。 • クレジットカード • 銀行口座 (ACH) この機能は、次の支払い方法をサポートしていません。 • 事前支払い • ネットバンキング • 中国銀行リダイレクト • PIX • United Payments Interface (UPI) • 請求書による支払い

AWS 請求書設定

請求書設定については、以下のクォータと制限を参照してください。

説明	クォータと制限
1 つの支払者アカウントに対する請求ユニットの数。	500
請求ユニット名に使用できる文字のタイプ。	• 名前は 1～50 文字にする必要があります。 • 文字: A-Z および a-z • 数字: 0-9 • Space • 次の記号: ハイフン (-)、アンダースコア (_)

ドキュメント履歴

以下の表は、今回リリースされた「AWS Billing ユーザーガイド」ドキュメントの説明です。

変更	説明	日付
AWS 管理ポリシーのドキュメントを更新しました	Billing および AWSBillingReadOnlyAccess – 既存の管理ポリシーを更新して、請求 ProcurementPortalP reference アクションを追加しました。	2025 年 11 月 19 日
AWS 管理ポリシーのドキュメントを更新しました	Billing および AWSBillingReadOnlyAccess – 既存のマネージドポリシーを更新して請求許可を追加しました。	2025 年 10 月 1 日
AWS 管理ポリシーのドキュメントを更新しました	AWSBillingReadOnlyAccess – 既存のマネージドポリシーを更新して ce:GetCostAndUsage Comparisons と ce:GetCostComparisonDrivers を追加しました。	2025 年 8 月 21 日
AWS 管理ポリシーのドキュメントを更新しました	AWSBillingReadOnlyAccess – 既存の管理ポリシーを更新して、新しい AWS 無料利用枠 ポリシーを追加しました。	2025 年 7 月 9 日
Customer Carbon Footprint Tool ドキュメントを更新し	手法ドキュメントとリリースノートを更新しました。	2025 年 6 月 24 日

[て、ロケーション基準手法 \(LBM\) の排出量計算を追加](#)

[Customer Carbon Footprint Tool モデル 2.0 に合わせてドキュメントを更新](#)

手法ドキュメントを更新し、システム境界、入力データ、配分アプローチに関する新しいセクションを作成しました。

2025 年 4 月 23 日

[AWS 管理ポリシーのドキュメントを更新しました](#)

Billing および AWSBillingReadOnlyAccess – 既存のマネージドポリシーを更新して、Migration Acceleration Program 2.0 クレジットコンソール許可を追加しました。

2025 年 3 月 27 日

[バックアップの支払い方法に関するドキュメントを追加](#)

バックアップの支払い方法機能に関する新しいドキュメントを追加しました。

2025 年 2 月 20 日

[AWS 管理ポリシーのドキュメントを更新しました](#)

Billing – 既存のマネージドポリシーを更新して Billing View 許可を追加しました。

2025 年 1 月 17 日

[AWS 請求書設定に関する新しいドキュメント](#)

AWS 請求書設定に関するドキュメントを追加しました。既存のマネージドポリシーである Billing、AWSPurchaseOrdersServiceRolePolicy、AWSBillingReadOnlyAccess を更新して、柔軟な請求を管理するための許可を追加しました。

2024 年 12 月 1 日

[の新しいドキュメント AWS PrivateLink](#)

のドキュメントを追加しました AWS PrivateLink。

2024 年 11 月 13 日

[AWS 金融に関するドキュメントを追加](#)

AWS 金融に関する新しいドキュメントを追加しました。既存の 管理ポリシー Billing と を更新しAWSBillingReadOnly Access 、 AWS Financing のアクセス許可を追加しました。

2024 年 11 月 12 日

[AWS 管理ポリシーのドキュメントを更新しました](#)

のドキュメントを追加
AWSPriceListServiceFullAccess – AWS Price List Service へのフルアクセスを提供するAWSPriceListServiceFullAccess ポリシーのドキュメントを追加しました。既存のポリシーに対する Sid": "AWSPriceListServiceFullAccess の更新。

2024 年 6 月 24 日

[タグを使用した支払いアクセスに関するドキュメントを追加](#)

タグを使用した支払いアクセスの管理に関する新しいページを追加。既存のマネージドポリシー Billing と AWSBillingReadOnly Access を更新し、タグを使用して支払いを管理するためのアクセス許可を追加。

2024 年 5 月 31 日

[AWS 管理ポリシーのドキュメントを更新しました](#)

Billing および AWSBillingReadOnlyAccess — 既存のポリシーを更新して、コスト配分タグのバックフィル機能のアクセス許可を追加。

2024 年 3 月 27 日

[更新版](#)

AWS India アカウントでは、Unified Payment Interface (UPI) 支払い方法を使用して AWS 請求書の支払いを行うことができます。

2024 年 3 月 14 日

[AWS 管理ポリシーのドキュメントを更新しました](#)

Billing および AWSBillingReadOnlyAccess — 既存のポリシーを更新して、AWS Migration Acceleration Program のアクセス許可を追加。

2024 年 1 月 18 日

[更新版](#)

cur、sustainability、ce、budgets、pricing、および support アクションを追加して、Billing および AWSBillingReadOnlyAccess マネージドポリシーを更新しました。

2024 年 1 月 17 日

[更新版](#)

Amazon Web Services India Private Limited AWS アカウントを使用して、のクレジットカードまたはデビットカードの詳細を保存できます。

2023 年 12 月 18 日

[更新版](#)

コストカテゴリは、さまざまなコストタイプを使用して表示することができます。

2023 年 12 月 14 日

更新版

AWS クラウド財務管理データの概要については、請求情報とコスト管理ホームページの AWS Billing and Cost Management ウィジェットを使用します。

2023 年 11 月 26 日

以下の更新を参照してください。

- [AWS Billing and Cost Management ホームページを使用する](#)
- [AWS 請求データと AWS Cost Explorer データの違いを理解する](#)

更新版

無料利用枠 API の詳細を説明します。

2023 年 11 月 26 日

以下の更新を参照してください。

- [AWS Billing and Cost Management API リファレンス](#)
- [無料利用枠 API を使用する](#)

更新版

影響を受ける IAM ポリシーツールの使用法に関して更新した情報

2023 年 11 月 14 日

[更新版](#)

AWS Service Catalog AppRegistryで作成したアプリケーションには、awsApplication �ーザー定義のコスト配分タグが自動的に追加され、有効化されます。

2023 年 11 月 14 日

以下の更新を参照してください。

- [ユーザー定義のコスト配分タグ](#)
- [ユーザー定義のコスト配分タグのアクティブ化](#)
- [クォータと制限](#)

[更新版](#)

AWS アカウントにサインアップして、登録販売者 (SOR) の詳細を確認してください。

2023 年 11 月 10 日

[支払いに関する更新版](#)

クレジットカードでの支払い方法の確認に関する情報が更新されました。

2023 年 11 月 8 日

[Updates for Amazon Web Services India Private Limited](#) [顧客確認の更新](#)

AWS インドのお客様は、にサインアップするときに ID 情報を確認できます AWS アカウント。

2023 年 10 月 27 日

[更新版](#)

[請求設定] ページを使用して、AWS Organizationsの会員アカウントのリザーブドインスタンスと Savings Plans のクレジット共有やディスクアカウント共有を有効または無効にできます。

2023 年 10 月 19 日

のドキュメントを更新しました AWS の料金表	Price List Bulk API と AWS Price AWS List Query API の AWS CLI コマンド例、定義、通知を含むドキュメントを更新しました。	2023 年 10 月 3 日
支払い方法の更新	AWS 欧州 AWS アカウント ではなく、請求コンソールで銀行口座をリンクして確認できます。	2023 年 9 月 15 日
更新版	発行された請求書の内容が正しいことを確認するときは、月次請求チェックリストのトピックを使用すれば請求情報を確認できます。	2023 年 9 月 1 日
コスト配分タグの更新	[最終更新日] と [最終使用月] のフィールドを使用して、コスト配分タグが最後に更新または使用された日時を確認できます。	2023 年 8 月 23 日
AWS Price List Query API の更新	欧州 (フランクフルト) リージョンのエンドポイントが追加されました。	2023 年 8 月 15 日
AWS 管理ポリシーの更新	Billing および AWSBillingReadOnlyAccess — 既存のポリシーを更新して、コスト配分タグの権限を追加しました。	2023 年 7 月 26 日
支払いドキュメントの更新	[支払い] ページのテーブルを使用して、一部適用されたクレジットメモを表示できます。	2023 年 7 月 25 日

[AWS 管理ポリシーのドキュメントを更新しました](#)

AWSPurchaseOrdersServiceRolePolicy、Billing、AWSBillingReadOnlyAccess — 既存のポリシーを更新して、発注書タグの権限を追加しました。

[IAM の詳細なアクションに関するリファレンスドキュメントを更新しました](#)

古い IAM アクションが新しい詳細な IAM アクションにどのようにマッピングされるかを確認できるようにドキュメントを追加しました。

[アカウントページ用のドキュメントを更新しました](#)

AWS 請求コンソールのドキュメントを更新しました。

[更新版](#)

発注書のタグサポートを追加しました

発注書にタグを追加できません。詳細については、以下の各トピックを参照してください。

- [発注書を追加する](#)
- [発注書を編集する](#)
- [タグを使用して発注書へのアクセスを管理する](#)
- [発注書クォータ](#)

[スクリプトを使用して IAM の詳細なアクションに一括移行する](#)

ポリシーを新しい IAM の詳細なアクションに一括移行できるようにドキュメントを追加しました。

支払い方法の更新	ブラジルの PIX 支払い方法を管理する新機能が追加されました。	2023 年 6 月 6 日
EMEA AWS の一括請求	Amazon Web Services EMEA SARL (AWS 欧州) エンティティを通じて請求されるアカウントの一括請求機能を追加しました。	2023 年 6 月 6 日
短いバージョンの PDF 請求書のサポートを追加	短いバージョンの PDF 請求書をリクエストする方法に関するドキュメントを追加しました。	2023 年 5 月 30 日
新しいコストカテゴリディメンションを追加しました	Billing の使用タイプディメンションを追加しました AWS。	2023 年 5 月 16 日
CSV ダウンロード	Customer Carbon Footprint Tool に CSV ダウンロードオプションを追加しました。	2023 年 4 月 19 日
新しいマネージドポリシーと更新されたマネージドポリシー	AWSPurchaseOrdersServiceRolePolicy、Billing、AWSBillingReadOnlyAccess — 既存のポリシーを更新しました。AWSAccountActivityAccess – AWS Billing 用に文書化された新しい AWS マネージドポリシー	2023 年 3 月 6 日
新しい Customer Carbon Footprint Tool	AWS 製品およびサービスに関連する炭素排出量の見積もりを表示する新しい Customer Carbon Footprint Tool 機能を追加しました。	2022 年 2 月 28 日

新しい支払いプロファイル	請求書に自動支払い方法を割り当てるための新しい支払いプロファイル機能が追加されました。	2022 年 2 月 17 日
AWSPurchaseOrdersServiceRolePolicy - 既存のポリシーの更新	AWS 請求で不要なアクセス許可が削除されました。	2021 年 11 月 18 日
AWS 請求が AWS マネージドポリシーの変更の追跡を開始しました	AWS 請求は、AWS 管理ポリシーの変更の追跡を開始しました。	2021 年 11 月 18 日
新しい AWS コスト管理ガイド	Billing and Cost Management ユーザーガイドを分割し、機能の詳細を Billing ガイドと AWS Cost Management ガイドに合わせ、コンソールに合わせます。	2021 年 10 月 20 日
新しい AWS コスト異常検出	機械学習を使用してコストと使用状況を継続的にモニタリングし、異常な支出を検出する新しい AWS コスト異常検出機能を追加しました。	2020 年 12 月 16 日
新しい発注書管理	購入が請求書に反映される方法を設定する新しい発注書機能が追加されました。	2020 年 10 月 15 日
新しい Budgets アクション	AWS 予算が特定のコストまたは使用量のしきい値を超えたときにユーザーに代わってアクションを実行する新しい Budgets アクション機能を追加しました。	2020 年 10 月 15 日

New	AWS コストを意味のあるカテゴリにマッピングする新機能を追加しました。	2020 年 4 月 20 日
新しい相続税機能	連結アカウントで税務登録情報を使用できるようにする新機能が追加されました。	2020 年 3 月 19 日
新しい中国銀行リダイレクト支払い方法	を使用して中国人民元のお客様に対して、中国銀行リダイレクトを使用した延滞 AWS 支払いを許可する新しい支払い方法を追加しました。	2020 年 2 月 20 日
セキュリティに関する新しい章	さまざまなセキュリティ制御に関する情報を提供する新しいセキュリティの章が追加されました。この章に、以前の「アクセス制御」章の内容を移行しました。	2020 年 2 月 6 日
新しい AWS コストと使用状況レポートのユーザーガイド	すべての AWS コストと使用状況レポートのコンテンツを別のユーザーガイドに移行して再編成しました。	2020 年 1 月 21 日
AWS Budgets を使用した新しいレポート方法	AWS Budgets レポートを使用した新しいレポート機能を追加しました。	2019 年 6 月 27 日
Cost Explorer に正規化された単位を追加	Cost Explorer レポートに、正規化された単位が追加されました。	2019 年 2 月 5 日
クレジットアプリケーションの変更	AWS はクレジットの適用方法を変更しました。	2019 年 1 月 17 日

新しい支払いの動作	AWS インドのお客様は、支払いの自動請求機能を有効にできるようになりました。	2018 年 12 月 20 日
新しい AWS Price List Service エンドポイント	AWS Price List Service の新しいエンドポイントを追加しました。	2018 年 12 月 17 日
Cost Explorer UI を更新	Cost Explorer UI が更新されました。	2018 年 11 月 15 日
Amazon Athena を AWS コストと使用状況レポートに統合	AWS コストと使用状況レポートから Athena にデータをアップロードする機能を追加しました。	2018 年 11 月 15 日
Budgets 履歴を追加	予算の履歴を表示する機能が追加されました。	2018 年 11 月 13 日
予算のサービスを拡張	RI 予算が Amazon OpenSearch Service に拡張されました。	2018 年 11 月 8 日
新しい支払い方法の追加	SEPA 銀行デビットの支払い方法が追加されました。	2018 年 10 月 25 日
オンデマンドキャパシティ予約を追加	キャパシティ予約に適用される AWS コストと使用状況レポートの明細項目に関するドキュメントを追加しました。	2018 年 10 月 25 日
Budgets AWS エクスペリエンスの再設計	AWS Budgets UI とワークフローを更新しました。	2018 年 10 月 23 日
リザーブドインスタンスの推奨事項に新しい列を追加	Cost Explorer RI のレコメンドに新しい列が追加されました。	2018 年 10 月 18 日
新しい AWS CloudTrail アクション	CloudTrail ログ記録にアクションが追加されました。	2018 年 10 月 18 日

リザーブドインスタンスの新しいレポートを追加	RI レポートが Amazon OpenSearch Service に拡張されました。	2018 年 10 月 10 日
新しい AWS コストと使用状況レポートの列	AWS コストと使用状況レポートに新しい列が追加されました。	2018 年 9 月 27 日
Cost Explorer チュートリアル	Cost Explorer に、よく使用される機能のチュートリアルが追加されました。	2018 年 9 月 24 日
CloudTrail イベントを追加	追加の CloudTrail イベントが追加されました。	2018 年 8 月 13 日
新しい支払い方法の追加	ACH 銀行デビット支払い方法を追加しました。	2018 年 7 月 24 日
AWS 無料利用枠ウィジェットを更新しました	AWS 無料利用枠ウィジェットを更新しました。	2018 年 7 月 19 日
その他のサービスの RI 購入の推奨事項を追加	Cost Explorer にその他のサービスの RI 購入のレコメンデーションが追加されました。	2018 年 7 月 11 日
連結アカウントの RI 購入の推奨事項の追加	Cost Explorer に連結アカウントの RI 購入のレコメンデーションが追加されました。	2018 年 6 月 27 日
AWS コストと使用状況レポートのデータ更新のサポートを追加	AWS AWS が返金、クレジット、またはサポート料金をアカウントに適用する場合、コストと使用状況レポートは確定後に更新できるようになりました。	2018 年 6 月 20 日
CloudTrail サポートを追加	CloudTrail イベントログ記録のサポートが追加されました。	2018 年 6 月 7 日

予算 AWS CloudFormation に追加	Budgets テンプレートを追加しました AWS CloudFormation。	2018 年 5 月 22 日
連結アカウントの RI 割り当て動作の更新	連結アカウントのサイズ柔軟 RI の割り当て動作を更新しました。	2018 年 5 月 9 日
RI カバレッジアラート	RI カバレッジアラートを追加しました。	2018 年 5 月 8 日
リンクされたアカウント請求書のブレンドを解除する	連結アカウント請求書に組織の混合料金が表示されなくなりました。	2018 年 5 月 7 日
AWS 税設定の更新	課税設定を一括編集する機能が追加されました。	2018 年 4 月 25 日
Cost Explorer に Amazon RDS の推奨事項を追加	Cost Explorer に Amazon RDS のレコメンデーションが追加されました。	2018 年 4 月 19 日
新しい Cost Explorer デイメンションと AWS コストと使用状況レポートの明細項目を追加	新しい Cost Explorer デイメンションと AWS コストと使用状況レポートの明細項目を追加しました。	2018 年 3 月 27 日
Cost Explorer API に購入に関する推奨事項を追加	Amazon EC2 リザーブドインスタンス (RI) の購入の推奨事項への Cost Explorer API を介したアクセスが追加されました。	2018 年 3 月 20 日
Amazon RDS、Amazon Redshift、および ElastiCache の RI カバレッジを追加	Amazon RDS、Amazon Redshift、および ElastiCache のリザーブドインスタンス (RI) カバレッジ。	2018 年 3 月 13 日

RI カバレッジを Cost Explorer API に追加	GetReservationCoverage が Cost Explorer API に追加されました。	2018 年 2 月 22 日
AWS 無料利用枠アラートを追加	AWS 無料利用枠の制限を下回ることができる無料利用枠アラートを追加しました。	2017 年 13 月 12 日
RI 推奨事項	以前の使用状況に基づく RI 推奨事項が追加されました。	2017 年 11 月 20 日
Cost Explorer API	アクティブ化された API アクセス Cost Explorer。	2017 年 11 月 20 日
その他のサービスの RI 使用率のアラート	その他のサービスに通知が追加されました。	2017 年 11 月 10 日
RI レポートの追加	RI レポートを Amazon RDS、Redshift、ElastiCache に拡張しました。	2017 年 11 月 10 日
共有設定の割引	AWS クレジットと RI 割引共有をオフにできるように設定を更新しました。	2017 年 11 月 6 日
新しい Amazon S3 コンソール	新しい Amazon S3 コンソール用に更新されました。	2017 年 9 月 15 日
RI 使用率アラート	RI 使用率がプリセットのパーセント値に基づくしきい値を下回った場合の通知を追加しました。	2017 年 8 月 21 日
Cost Explorer UI を更新	新しい Cost Explorer UI をリリースしました。	2017 年 8 月 16 日

AWS Marketplace データ統合	請求書ページ、Cost Explorer など、すべての請求アーティファクトに反映されたデータを表示 AWS Marketplace できるように 追加しました。	2017 年 8 月 10 日
組織の一括請求	一括請求を組織の動作にあわせて更新しました。	2017 年 6 月 20 日
AWS Budgets のリンクされたアカウントアクセスと使用タイプグループ	特定の使用タイプと使用タイプグループに基づいたコストと使用予算の作成、およびすべてのアカウントタイプの拡張予算の作成機能のサポートが追加されました。	2017 年 6 月 19 日
リージョン指定オフアーファイル	AWS Price List API は、各サービスのリージョンオフアーファイルを提供するようになりました。	2017 年 4 月 20 日
Cost Explorer 詳細オプションの追加	返金、クレジット、RI 前払い料金、RI 定期料金やサポート料金などの詳細オプションを追加することで、Cost Explorer レポートのフィルタができるようになりました。	2017 年 3 月 22 日
Cost Explorer レポートの追加	リザーブドインスタンス (RI) の日別範囲を Cost Explorer で追跡できるようになりました。	2017 年 3 月 20 日

Cost Explorer フィルターの追加	テナンシー、プラットフォーム、および Amazon EC2 スポットやスケジュールされたリザーブドインスタンス購入オプションによって、Cost Explorer レポートをフィルタリングできるようになりました。	2017 年 3 月 20 日
Cost Explorer と AWS インドの予算	AWS India ユーザーは Cost Explorer と Budgets を使用できるようになりました。	2017 年 3 月 6 日
Cost Explorer 使用タイプのグループ化の追加	Cost Explorer は、コストと使用状況データの両方のグループ化をサポートすることで、ユーザーがコストと使用状況グラフを相互参照してコスト要因を識別できるようにしています。	2017 年 2 月 24 日
Cost Explorer レポートの追加	Amazon EC2 リザーブドインスタンス (RI) の月別使用率を Cost Explorer で追跡できるようになりました。	2016 年 12 月 16 日
Cost Explorer レポートの追加	Amazon EC2 リザーブドインスタンス (RI) の日別使用率を Cost Explorer で追跡できるようになりました。	2016 年 12 月 15 日
AWS 生成されたコスト配分タグを追加	AWS 生成されたタグをアクティブ化createdBy して、AWS リソースを作成したユーザーを追跡できるようになりました。	2016 年 12 月 12 日

Cost Explorer 詳細オプションの追加	Cost Explorer レポートからタグ付けされたリソースを除外できるようになりました。	2016 年 11 月 18 日
AWS コストと使用状況レポートのクイック統合	AWS コストと使用状況レポートで、データを Quick にアップロードするためのカスタマイズされたクエリが提供されるようになりました。	2016 年 11 月 15 日
拡張された AWS Budgets 機能	AWS Budgets を使用して使用状況データを追跡できるようになりました。	2016 年 10 月 20 日
Cost Explorer の機能の拡張	Cost Explorer を使用して、使用タイプグループに基づいてコストを可視化できるようになりました。	2016 年 9 月 15 日
AWS コストと使用状況レポートの Amazon Redshift 統合を改善	AWS コストと使用状況レポートで、Amazon Redshift にデータをアップロードするためのカスタマイズされたクエリが提供されるようになりました。	2016 年 8 月 18 日
AWS コストと使用状況レポート	AWS コストと使用状況レポートを作成およびダウンロードできるようになりました。	2015 年 12 月 16 日
AWS 料金表 API	1 つの AWS サービスの製品、料金、制限を一覧表示するオフアーファイルをダウンロードできるようになりました。	2015 年 12 月 9 日
Cost Explorer レポートマネージャ	Cost Explorer クエリを保存できるようになりました。	2015 年 12 月 11 日

AWS 無料利用枠の追跡	無料利用枠の制限のうち使用した容量を追跡できるようになりました。	2015 年 8 月 12 日
予算と予測	AWS Budgets とコスト予測を使用して、AWS 使用量とコストを管理できるようになりました。	2015 年 6 月 29 日
Amazon Web Services India Private Limited	Amazon Web Services India Private Limited (AWS インド) アカウントのアカウント設定と支払い方法を管理できるようになりました。	2015 年 6 月 1– 日
Cost Explorer の機能の拡張	Cost Explorer を使用して、コストをアベイラビリティーゾーン、API オペレーション、購入オプション別に、または複数のコスト配分タグ別に可視化できるようになりました。	2015 年 2 月 19 日
優先する支払い通貨	クレジットカードに関連付けられた支払い通貨を変更できるようになりました。	2015 年 2 月 16 日
Cost Explorer の機能の拡張	Cost Explorer を使用して、Amazon EC2 のインスタンスタイプまたはリージョン別にコストを可視化できるようになりました。	2015 年 1 月 5 日
予想外の料金の回避	「予想外の料金の回避」と「無料利用枠の使用」を改訂および拡張しました。	2014 年 8 月 19 日

[IAM ユーザー許可](#)

AWS Identity and Access Management (IAM) ユーザーとフェデレーティッドユーザーがアカウント設定へのアクセスと管理、請求書の表示、コスト管理を実行できるようになりました。たとえば、財務部門のユーザーに、本番環境へのアクセスを許可することなく、AWS アカウントの財務セットアップと管理へのフルアクセスを許可できます AWS。

2014 年 7 月 7 日

[Cost Explorer の起動](#)

Cost Explorer は、AWS コストを可視化し、複数の方法でコストを分析できるようにします。

2014 年 4 月 8 日

[バージョン 2.0 発行](#)

AWS Billing and Cost Management ユーザーガイドは、新しい請求情報とコスト管理コンソールに合わせて再編集され、記述内容が改められています。

2013 年 10 月 25 日

翻訳は機械翻訳により提供されています。提供された翻訳内容と英語版の間で齟齬、不一致または矛盾がある場合、英語版が優先します。